正課科目

シラバスは**2017年2月6日時点**の情報です。
最新情報は、エクステンション・センターＨＰ
にて随時更新いたします。

講　義　名　称	曜　時
Japanese Literature－村上春樹を読む　＜通期＞	木5

【教員名称】
中井　紀明

【講義概要】
村上春樹は異色の小説家でたぶん世界で最も読まれている現役作家である。日本でよりも海外のほうが著名で50以上の言語に翻訳されている。この人こそ「英語で読む日本文学」で取り上げるべき日本人作家である。国内でもいろいろな人が酷評から称賛までの幅広い反応を見せてきた。我々もこの小説家の評価に参画しようではないか。村上の「平易な文章と難解な物語」の中に実際に潜り込んでいこう。取り上げるのは1318頁の1Q84（2009-10）。もちろん日本語版もあるので読み進んでいくのにあまり苦労はないと思うが、難解さとは協力して格闘する必要がある。いろいろ調べる必要が予想されるが、「敷居の低さで」「心に訴えかける」文章を一年間の長きにわたって読んでいき、何よりも作品自体の中に沈潜していこう。

【学習目標】
春学期はこの小説の英語表現を文単位でパタン化し集中的に学習する。
秋学期は小説を文学作品として楽しむ。

【講義計画】
第１回：はじめに一村上春樹について、授業の進め方など一
-ing の多様な表現（現在（過去）分詞前置、現在（過去）分詞句後置、分詞構文、SVCとSVOC他）（1）
第２回：-ing の多様な表現（現在（過去）分詞前置、現在（過去）分詞句後置、分詞構文、SVCとSVOC他）（2）
第３回：-ing の多様な表現（現在（過去）分詞前置、現在（過去）分詞句後置、分詞構文、SVCとSVOC他）（3）
第４回：-ing の多様な表現（現在（過去）分詞前置、現在（過去）分詞句後置、分詞構文、SVCとSVOC他）（4）
第５回：不定詞の多様な表現（1）
第６回：不定詞の多様な表現（2）
第７回：不定詞の多様な表現（3）
第８回：動名詞の多様な表現
第９回：助動詞の多様な表現
第10回：主要動詞500の多様な表現（1）
第11回：主要動詞500の多様な表現（2）
第12回：主要動詞500の多様な表現（3）
第13回：前置詞の多様な表現（1）
第14回：前置詞の多様な表現（2）
第15回：冠詞、無冠詞の問題
第16回：1Q84Book1をすらすら楽しむ（1）
第17回：1Q84Book1をすらすら楽しむ（2）
第18回：1Q84Book1をすらすら楽しむ（3）
第19回：1Q84Book1をすらすら楽しむ（4）
第20回：1Q84Book1をすらすら楽しむ（5）
第21回：1Q84Book1をすらすら楽しむ（6）
第22回：1Q84Book2をすらすら楽しむ（1）
第23回：1Q84Book2をすらすら楽しむ（2）
第24回：1Q84Book2をすらすら楽しむ（3）
第25回：1Q84Book2をすらすら楽しむ（4）
第26回：1Q84Book2をすらすら楽しむ（5）
第27回：1Q84Book3をすらすら楽しむ（1）
第28回：1Q84Book3をすらすら楽しむ（2）
第29回：1Q84Book3をすらすら楽しむ（3）
第30回：終わりに
村上春樹はノーベル文学賞に値する作家なのか。大作を読み終えて考える。

【事前および事後学習の指示】
英語は翻訳ですから英語を母語とする表現に凝る作家に比べて、平易で読みやすいですが、英語を苦手とする人にはやはり手強いです。この作品の英語を利用して英語表現力を身につけるための教材を作りましたから、それで「訓練」していきます。

【テキスト】
1Q84,THE COMPLETE TRILOGY Haruki Murakami. 9780099578079 Vintage

【参考文献】
教室で指示します。

【コメント】
春学期は多様な表現を宿題とか小テストで学習していく。

講　義　名　称	曜　時
Japanese Studies－ヒト脳研究としての言語研究［2］＜秋＞	金3

【教員名称】　　英語による
有川　康二

【講義概要】
インドネシアと日本は地域も民族も文化も異なるが、東南アジアもしくは東アジアの域内における位置関係、さらにインドもしくは中国という古代の大国の影響を色濃く受けているという点で共通性がある。そして、両国の音楽および上演芸術には明らかな類似性、またその反面、似て非なる相違点が見られる。本講義では、“大規模器楽合奏”と“音楽と演劇の結びつき”を２つのキーワードとして、両国の古典音楽、古典的上演芸術の諸相を対照させて論じる。加えて、両国の意外な接点を楽器と音楽の双方について紹介する。

【学習目標】
音楽は、それを生み出す人間が属する文化の脈絡内で理解しなければならない。したがって、「音楽は世界共通の言語ではない」ということをしっかり認識できるようにする。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション～インドネシアと日本の文化的背景
第２回：音楽から見た日本文化と「インドネシア文化」
第３回：日本初の外来音楽（雅楽）
第４回：日本初の音楽と演劇の結合（能の謡と囃子）
第５回：江戸時代に発達した劇場音楽（長唄）
第６回：インドネシアの代表的な合奏形態（ガムラン）
第７回：ドレミファソラシドではない音階
第８回：ゴングの生成と発展
第９回：ゴング・チャイムと八丁鉦
第10回：日本とインドネシアの交差点～木琴
第11回：上演芸術という考え方
第12回：インドネシアの影絵人形劇（１）
第13回：インドネシアの影絵人形劇（２）
第14回：インドネシアの仮面舞踊劇
第15回：試験およびまとめ
第16回：上演芸術の中核としての舞踊
第17回：インドネシアの舞踊劇の今昔
第18回：演劇としての能
第19回：能における音楽の機能
第20回：大衆娯楽としての歌舞伎
第21回：歌舞伎の所作事
第22回：歌舞伎と能の関係
第23回：人形浄瑠璃の世話物と時代物
第24回：人形が泣けば人も泣く仕掛け
第25回：演者としての人形と人間の関係
第26回：上演芸術を育む環境
第27回：部外者の目がもたらした変容
第28回：型の組み合わせによる創作
第29回：インドネシアと日本の架け橋～「ブンガワン・ソロ」
第30回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
日本音楽史を概観するためには日本史の知識が必要となる。本講義では、古代･中世･近世の音楽を取り上げるので、各時代の社会･文化的背景をしっかりとらえておくこと。
また、『東南アジアを知る事典』（平凡社）を読むことで、インドネシアについての基礎知識を身につけておくこと。

【テキスト】

【参考文献】
柘植元一・植村幸生編『アジア音楽史』（音楽之友社）
櫻井哲男『アジア音楽の世界』（世界思想社）
皆川厚一編『インドネシア芸能への招待』（東京堂出版）
月渓恒子『日本音楽との出会い』（東京堂出版）
今岡謙太郎『日本古典芸能史』（武蔵野美術大学出版局）

【コメント】
You select a topic and perform a Power Point presentation. Active class participation is evaluated.（学生はトピックを選び、パワーポイントでプレゼンを行ないます。積極的な授業参加が評価されます。）

講　義　名　称	曜　時
Japanese Studies－日本の社会と言語［2］　<秋>	火4

【教員名称】　英語による
友沢　昭江

【講義概要】
日本語学習者の多様化に対応するためにさまざまな教授法や教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景などを考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教授法や教材を選択する眼をもたなければなりません。本講では教授法Ⅲで行う模擬授業などに必要な教授法の基本と教材の分析研究を中心に学びます。

【学習目標】
この授業の目標は日本語を教えるのに必要な基礎的な知識（日本語に関すること、教授法に関すること）を獲得すること、一般によく使用されている教科書をグループに分かれて詳細に分析し発表することです。

【講義計画】
第１回：日本語を教えるということ（1）：授業を組み立てるために必要な基礎知識
第２回：日本語を教えるということ（2）：
第３回：いろいろな外国語教授法（1）
第４回：いろいろな外国語教授法（2）
第５回：初級の教え方ー（発音／会話）（1）
第６回：初級の教え方（発音／会話）（2）
第７回：初級の教え方（文字／読解）（1）
第８回：初級の教え方（文字／読解）（2）
第９回：初級の教え方ービデオ視聴（1）
第10回：初級の教え方ービデオ視聴（2）
第11回：初級の教え方ー初級教科書の分析（1）
第12回：初級の教え方ー初級教科書の分析（2）
第13回：初級の教え方
第14回：中間試験
第15回：中間試験の講評
第16回：中上級の教え方ー初級との違いについて
第17回：中級教科書の分析（1）
第18回：中級教科書の分析（2）
第19回：上級教科書の分析
第20回：目的・技能別教科書の分析
第21回：インターネット利用の日本語学習
第22回：日本国内と海外で用いられる教授法と教科書
第23回：予備日
第24回：教科書分析のグループ発表（1）
第25回：教科書分析のグループ発表（2）
第26回：教科書分析のグループ発表（3）
第27回：教科書分析のグループ発表（4）
第28回：一年間の講義のまとめ
第29回：期末試験
第30回：期末試験の講評（テストを評価につなげるとはどういうことか。）

【事前および事後学習の指示】
講義期間中に教科書の内容をすべて扱うことができないので、早めに購入して読み進めてほしい。できれば講義が始まるまでに最後まで目を通して、扱われている項目についてある程度の知識をもっておいてください。履修要件ではないですが、この授業を履修する前または同時に、日本語教師資格に必要な科目群AおよびB群をできるだけ多く履修しておいてください。

【テキスト】
新・はじめての日本語教育２－日本語教授法入門 高見澤孟 9784-87217-515-8 アスク出版 2004年

【参考文献】
・『新・はじめての日本語教育１－日本語教育の基礎知識』（高見澤孟他、アスク）
・『ここから始まる日本語教育』（姫野昌子他、ひつじ書房）
・『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社）
・『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（庵功雄他、スリーエーネットワーク）
・『中上級を教える人のための文法ワークブック』（庵功雄他、スリーエーネットワーク）
・『ベーシック日本語教育』（佐々木泰子編、ひつじ書房）

【コメント】
Attendance and classroom participation are most highly evaluated (40%). Students are required to choose a topic of his/her interest on Japanese language and to give a presentation either individually or in a pair for about 15 minutes (40%).
Short essay on the topics dealt with in the lecture will be assigned (20%).
（出席と授業中の発言などの参加姿勢を評価します。関心のあるテーマを選び、一人ないし二名で学期末に15分程度の発表を行います。授業のテーマに沿った課題も数回提出します。）

講　義　名　称	曜　時
アジアの英語　<通期>	水3

【教員名称】
橋内　武

【講義概要】
アジア人である私たちにとって、英語とはいかなる存在なのか。また、アジア英語の変種には、どのような言語的特徴（発音・文法・語彙）があるのか。そして、アジアの国々と地域において、英語はどういう社会的役割を果たしているのだろうか。これらの問いに対して、発音・文法・語彙の側面のみならず、歴史的背景・言語事情・言語政策・言語教育などの観点から考える。それと同時に、各国ごとに多言語社会・脱植民地化・二言語教育・公用語問題・母子留学問題などのテーマを設けて、日本を含めた「アジアの英語」への理解を深める。英語やアジアに関心をもつ諸君には、基礎知識として学ぶべき分野である。

【学習目標】
増加しつつある英語による非母語間のコミュニケーションを円滑に行うために、アジアの国々と地域の言語・歴史・社会事情の基礎知識を得ると同時に、インド英語・シンガポール英語などのアジア諸英語の音声に慣れることを基本的な学習目標とする。合わせて、異文化間コミュニケーションで必要になる国際共通語としての英語への理解を深めることが、二次的な学習目標となる。これらの学習目標を達成するためには、教科書と関連図書を読み、日頃から多様な英語に接して、観察・学習したい。では、アジア英語発見の旅に出よう！

【講義計画】
第１回：オリエンテーション—授業計画・教科書・参考文献・評価法など序論ーなぜ「英米語」ではなく、「アジアの英語」なのか
第２回：基礎編（1）—英語の歴史（どのようにして英語はアジアを含む世界各地に広まったのか）
アングロサクソンの言語から世界の諸英語（World Englishes）・国際共通語（ELF）へ
第３回：基礎編（2）—英語帝国主義と言語権
大言語は言語の滅亡に関わるか
第４回：基礎編（3）—英語の公用語化と言語計画—近代主義と土着主義
シンガポールとマレーシアを例にして
第５回：基礎編（4）—バイリンガリズムとダイグロシア—言語使用の多重構造
英語と現地語、高位変種と定位変種
第６回：基礎編（5）—世界の英語圏—内圏の英語・外圏の英語・拡大圏の英語
本場の英語・第二言語としての英語・外国語としての英語（B.カチュル）
第７回：基礎編（6）ー植民地化と英語の普及ーシュナイダーのダイナミックモデル
第８回：内圏の英語（1）—「標準英語」と英米の地域方言・社会方言
第９回：内圏の英語（2）—オージー英語・ニュージーランド英語の成立と特徴
第10回：外圏の英語（1）—インドの三言語主義政策とインド英語の特徴—発音・文法・語彙
第11回：脱植民地化（1）—英領マラヤの独立と土地っ子政策
第12回：外圏の英語（2）—移民国家シンガポールの言語政策とシンガポール英語
第13回：外圏の英語（3）—旧米領フィリピンの言語事情とフィリピン英語の特徴
第14回：プレゼンテーションー世界の多様な英語
第15回：春学期の総復習と試験
第16回：公用語問題—国家の公用語・国際機構の公用語・社内公用語としての英語
第17回：二言語教育・多言語教育—その類型と問題点
第18回：脱植民地化（2）—ミャンマー（ビルマ）の独立と英語の外国語化
第19回：拡大圏の英語（1）タイの言語事情と英語教育政策
第20回：脱植民地化（3）—ヴェトナムの言語事情と外国語教育史（仏・露・中・英）
第21回：拡大圏の英語（2）—国際共通語としての英語（ＥＬＦ）の音韻（J.ジェンキンズ）
第22回：脱植民地化（4）—小国・東チモールの混迷する言語教育政策（ティトン語・ポルトガル語・英語、インドネシア語）
第23回：拡大圏の英語（3）—中国の外国語教育政策と中国英語
第24回：脱植民地化（3）—香港の中国返還と言語政策（広東語・普通話と英語）
第25回：拡大圏の英語（5）—台湾の言語事情（国語、郷土語、移民語）と英語教育
第26回：拡大圏の英語（6）—韓国の英語と英語教育熱（児童教育、英語塾、母子留学問題と英語村）
第27回：日本の英語（1）—国際化・グローバル化への対応（英語でビジネス、英語で授業、その批判的検討）
第28回：日本の英語（2）—ニホン英語の特徴（発音・文法・語彙・談話）
第29回：プレゼンテーションーアジアの英語教育（但し、既習の国以外の国または地域）
第30回：秋学期の総復習と試験

【事前および事後学習の指示】
シラバスに従い、指定教科書の該当個所を毎回事前に読んでくること。事後には当日配布した資料を改めて読んで理解を深めること。背景知識として、日本を含むアジアの地理と歴史についての基本的知識があることが望ましいので、もしなければ、この方面の教養を授業の合間に自ら身につけるよう努力することである。

【テキスト】
英語はアジアを結ぶ 本名　信行 978-4-47230-292-3 玉川大学出版部
アジアの英語（CD付き）柴田真一 978-4-86454-092-6 コスモピア

【参考文献】
（著者名五十音順）
榎木園鉄也『インド英語のリスニング』、研究社
河添恵子『アジア英語教育最前線』、三修社
橋内　武「国際語としての英語—民族英語から国際英語へ」、小池生夫編『英語の指導法　と関連科学』、ECOLA（英語科教育実践講座）第16巻、ニチブン、pp.150～164
Ho Wah Kam, English Language Teaching in East Asia Today, Singapore: Eastern Universities　Press.
Kachru, Yamuna, World Englishes in Asian Contexts, Hong Kong University Press.
Kirkpatrick, Robert, English Language Education Policy in Asia.
平田雅博『英語の帝国』、講談社
Honna, Nobuyuki, English as a Multicultural Language in Asian Contexts: Issues and Ideas, Kuroshio Publishers.
本名信行編『アジアの英語』、くろしお出版
本名信行編著『事典 アジアの最新英語事情』、大修館書店
本名信行編『アジア英語辞典』、三省堂
矢野安剛・本名信行・木村松雄・木下正義編『英語教育政策』、大修館書店
学術雑誌『アジア英語研究』（日本「アジア英語」学会）、Asian Englishes、World Englishes

【コメント】
期末試験（2回）＝80点、レポート1回（夏休みの課題）20点で計100点。但し、プレゼンをすれば、10点加点する。出席は取るが、成績評価には含めない。
レポートは、「アジアにおける日本の英語」について論じなさい。内容を絞り、副題を付けること。（日本語3,000字程度、Ａ４ワープロで3枚以内にまとめ、引用・参考文献を明記すること、コピペは厳禁。提出期限9月27日（水）担当者・橋内まで、締切日厳守。）

講　義　名　称	曜　時
アジア共同体論　＜秋＞	金3

【教員名称】　インテ
大島　一二

【講義概要】
ワンアジア財団による寄付講座である。
近年、東アジア・東南アジアを中心にアジア地域と日本との経済的な結びつきが急速に深まっている。また、文化や人の交流も活発化しており、グローバル化の中で、東・東南アジアの経済社会の「一体感」が感じられるようになってきている（例えば、K-POPやAKB48･SNH48･JKT48を見よ）。しかし一方で、ヨーロッパとは違いアジア諸国の間には、経済発展の程度や政治体制、使用言語などに大きな差がある。つまり、アジアは非常に多様な姿を持っている。ここにアジアを考える難しさがある。
本講義では、経済・政治・社会・文化などアジアのさまざまな分野について研究している講師をお招きし、「多様なアジア」「一体化するアジア」の現状や展望についてお話していただく。そこから、「アジア共同体」のアジア経済の発展における意義と課題について考えていきたい。

【学習目標】
アジアの経済・政治・社会・文化について学び、「多様なアジア」「一体化するアジア」と「アジア経済の発展」についての理解を深める。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
本講義は、毎回異なるゲスト講師（学内および学外）によるインテグレーション科目である。
以下には、予定されている講義テーマについて記す。
秋学期開始時までに、各回の講師と講義テーマについて確定したスケジュールを発表する。
なお、講師の都合によりスケジュールは変更されることがある。
第２回：日本の対外直接投資とアジアの経済発展
第３回：中国・アジアへの企業進出と課題
第４回：アジアにおける日本企業の現地化の課題
第５回：アジア地域からの技能研修生の受け入れと課題
第６回：アジアの金融システム安定のための課題と国際協力
第７回：アジアの経済協力の新展開
第８回：アジアにおける安全保障と協力
第９回：アジア共同体と安定的な食料供給システムの構築
第10回：アジアの環境問題と国際協力
第11回：中国・アジアの生態環境問題と日本
第12回：日本の大衆文化開放（韓国）と韓流ブーム（日本）
第13回：インドネシアにおける日本と韓国のポップ・カルチャーの人気
第14回：東アジア共同体構想の可能性と課題
第15回：アジア共同体の未来

【事前および事後学習の指示】
テレビやインターネット・新聞・雑誌などで、アジア諸国のニュースに関心を持ってほしい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
講義内容にもとづくレポートを1回課す予定である。

講　義　名　称	曜　時
アジア経済論Ⅰ　＜春＞	月２

【教員名称】
内山　怜和

【講義概要】
本講義では､東アジア（特にアジアNIES）を対象とする。「東アジアの奇跡」と賞賛された1970年代以降の経済発展を光と影の両面から分析する。東アジア経済の全体像を抑えたうえで、韓国、台湾、中国の各国経済の発展過程、経済の現状と課題、日本との経済関係について解説する。講義は坂田幹男・内山怜和著（2016）『アジア経済の変貌とグローバル化』晃洋書房に沿って進める。ASEAN（東南アジア諸国連合）については、秋学期の「アジア経済論Ⅱ」で主に扱う。

【学習目標】
東アジアの経済問題や周辺情勢に関心を持つこと。アジアNIESが奇跡と呼ばれる経済発展を遂げた諸要因、その歴史的背景について理解すること。A.O.ハーシュマンの不均衡成長論など開発理論の考え方を知ること。

【講義計画】
第１回：ガイダンス：講義の進め方と重点、アジア経済を分析する視点
第２回：序章：アジア経済の基礎知識
第３回：第１章：東アジアの成長をどう捉えるか（１）アジア的停滞から東アジアの奇跡へ
第４回：第１章：東アジアの成長をどう捉えるか（２）雁行形態の出現
第５回：第１章：東アジアの成長をどう捉えるか（３）東アジアの成長過程と局地経済圏
第６回：第１章：東アジアの成長をどう捉えるか（４）東アジアの成長と日本の役割
第７回：第２章：東アジア経済発展の光と影（１）東アジアの奇跡と開発主義体制
第８回：第２章：東アジア経済発展の光と影（２）東アジアの奇跡とアジア通貨危機
第９回：第２章：東アジア経済発展の光と影（３）構造改革とグローバル化
第10回：第３章：アジアNIESの経済発展（１）NIESの発展要因
第11回：第３章：アジアNIESの経済発展（２）韓国の経済発展
第12回：第３章：アジアNIESの経済発展（２）台湾の経済発展
第13回：第４章：中国の経済発展（１）改革・開放政策の始まり
第14回：第４章：中国の経済発展（２）市場経済化の新しい局面
第15回：総括

【事前および事後学習の指示】
東アジアに関するニュースを新聞、雑誌、書籍、インターネット等を利用し、随時フォローしておくこと。

【テキスト】
アジア経済の変貌とグローバル化 坂田幹男・内山怜和　晃洋書房

【参考文献】
日本の外務省や経済産業省、JICA（国際協力機構）、JETRO（日本貿易振興機構）、JBIC（国際協力銀行）、IMF（国際通貨基金）、日本アセアンセンター、現地政府の報告書等。

【コメント】
成績評価は期末試験を重視する。基本的に出欠はとらない。場合によっては、中間試験を行う。

講　義　名　称	曜　時
アジア経済論Ⅱ　＜秋＞	月２

【教員名称】
内山　怜和

【講義概要】
本講義ではASEAN（東南アジア諸国連合）加盟10カ国の経済とその地域協力、日本との経済関係について解説する。80年代から工業化や経済成長を遂げたASEAN4、後発国であるCLMV諸国の中からいくつかの国の経済を取り上げて概説する。
第1部：ASEANの地域協力（第3回～第4回）
第2部：ASEAN先発国の経済（第5回～第10回）
第3部：ASEAN後発国（CLMV諸国）の経済（第11回～第14回）

【学習目標】
東南アジア諸国の経済問題や周辺情勢に関心を持つこと。
B.バラッサの経済統合理論を抑えたうえで、ASEANの地域協力や市場統合の現段階を把握すること。
ASEAN諸国について、対象国の経済的な課題や日本との関係性、直接投資先としての優位性と劣位性をどうみるかなど、あらゆる角度から考える力を身につけること。

【講義計画】
第１回：ガイダンス：講義の進め方と重点、アジア経済を見る視点
第２回：東アジア経済発展の経緯
第３回：ASEAN（東南アジア諸国連合）の地域協力について、B・バラッサの経済統合理論
第４回：ASEAN経済統合への動きと課題－AFTAからAECへ－
第５回：ASEAN4：マレーシアの概況、大戦後の歩み（5・13事件、マハティール元首相の開発主義、ブミプトラ政策）
第６回：ASEAN4：マレーシア経済の概況（産業構造、貿易・直接投資）と経済成長の動向、日本との関係
第７回：ASEAN4：マレーシアの外資導入政策と投資環境
第８回：ASEAN4：タイ経済の概況と大戦後の歩み（5月事件、軍事政権と文民内閣の確執）
第９回：ASEAN4：タイ経済の概況（産業構造、貿易・直接投資）と経済成長の動向、日本との関係
第10回：ASEAN4：タイの外資導入政策と投資環境
第11回：ASEAN後発国（CLMV諸国）の経済、メコン圏の地域経済協力
第12回：CLMV諸国の概況と大戦後の歩み
第13回：CLMV諸国の経済概況（産業構造、貿易・直接投資）と経済成長の動向、日本との関係
第14回：CLMV諸国の外資導入政策と投資環境
第15回：総括

【事前および事後学習の指示】
ASEANに関するニュースを新聞、雑誌、書籍、インターネット等を利用し、随時フォローしておくこと。

【テキスト】
アジア経済の変貌とグローバル化 坂田幹男・内山怜和　晃洋書房

【参考文献】
日本の外務省や経済産業省、JICA（国際協力機構）、JETRO（日本貿易振興機構）、JBIC（国際協力銀行）、IMF（国際通貨基金）、日本アセアンセンター、現地政府の報告書等。

【コメント】
基本的に出欠はとらない。成績評価は期末試験を重視する。場合によっては、中間試験を行う。

講　義　名　称	曜　時
アジア産業論Ⅰ　＜春＞	火2

【教員名称】
江川　暁夫

【講義概要】
本講義は、日本のビジネスとの比較により、アジアのビジネスの特徴を紹介すること、そして、アジア（特にASEAN）の主要各国の産業構造の状況を概観し、その形成過程と、アジア各国自身が目指す今後の産業構造転換の方向性を学ぶことを主眼とする。
具体的には、ASEANという地域全体における産業の現状とその成り立ちを簡潔に俯瞰した後（第1～4回）、アジア各国の農業、製造業、サービス業の現状と課題について考えていく（第5～10回）。その上で、日系企業が多数進出しているタイを事例に、日系企業が現実に直面する制度上の問題や、認識しながらも対応がなかなかできていない「ビジネス・プロトコル」上の問題を把握する（第11～15回）。

【学習目標】
本講義の学習目標は、大きく分けて２つである。一つは、アジアでは日本の常識とは別の理屈や常識でビジネスが動いていること、アジアでの働き方は日本とは全く異なること、を理解することである。もう一つは、アジア各国の経済をけん引する産業とその状況は千差万別であり、成長に貢献する産業の姿も、過去・現在・未来で変わっていくということを、具体的かつ大局的に理解することである。

【講義計画】
第１回：講義概要の説明、アジアの各国経済の世界における位置付け
第２回：ASEAN各国の経済発展段階
第３回：ASEAN各国の産業構造の現状とその特徴
第４回：ペティ・クラーク法則（ASEAN主要国における産業発展の変遷と所得レベルとの関係）
第５回：農業部門：過去から現在までの動きと、将来の農業・農村の発展と衰退
第６回：ASEANの工業化の変遷：雁行形態型経済発展論
第７回：サプライチェーンとして位置づけられるASEANの製造業
第８回：アジアの製造業の今後：アジアは今後も「サプライチェーン」の一角なのか？
第９回：ASEAN主要国の第三次産業（特にサービス産業化）の状況と「日本ブーム」
第10回：これまでの小括：ASEANが産業高度化を実現する上でのチャンスと制約
第11回：アジアにおける「日系企業」とは
第12回：現地で行うビジネスの事例（機会と制約）
第13回：アジアでの企業経営の難しさ①従業員の労働倫理、情報伝達、コミュニケーション
第14回：アジアでの企業経営の難しさ②日本人「社長」が日本流に振舞うことの問題点
第15回：まとめ：現地を理解し、「現地化」を進める重要性

【事前および事後学習の指示】
事前学習：日頃、新聞の経済欄や経済関係の社説等を読み、経済の議論においてよく用いられている語句を理解するとともに、どのような日本企業がアジアのどの国に進出しようとしているかを把握し、傾向を掴むことが有益である。
事後学習：授業に出て講義資料に書き込んでいくだけでは理解できない点も多くなることが考えられる。そのため、授業の中で強調された用語や理論を、事後に十分に確認しておくことが望まれる。

【テキスト】

【参考文献】
『アジア経済読本』第４版　渡辺利夫編　東洋経済新報社
『キャッチアップ型工業化論—アジア経済の軌跡と展望』末廣昭著　名古屋大学出版会
『タイでのビジネスプロトコル』 今井宏著　バンコク日本人商工会議所発行
『新興アジア経済論－キャッチアップを超えて』 末廣昭著　岩波書店
その他、各回講義に関連する参考文献等は、その都度紹介する。

【コメント】
（１）試験やレポートの採点は、学部２年次の学生が最低限到達すべきレベルを基準とするため、粗点での評価ではない。
（２）レポートの５０点については、以下のとおり配分する。
①毎回、授業の途中ないし終了時に１０分程度の小テストに取り組んでもらう。１回あたり２～４点満点。その点数をレポート点として付加。全体で総合点の４０％を構成（レポート３０％と出席１０％を充当）。
②出席は毎回取るが、出席点は付加されない。ただし、公欠や医師の診断書等がある欠席、就職活動を理由とする欠席の場合は、当該回の小テストを受けたものとみなし、その理由に応じ、当該回の小テストの平均点を付加する。また、それ以外の場合でも相応の考慮がなされることがある。
③前半（第９回まで）の学習内容を用いて現実問題について議論する１，３００字程度のレポートが１本課される（２０点満点）。

講　義　名　称	曜　時
アジア産業論Ⅱ　<秋>	火2

【教員名称】
江川　暁夫

【講義概要】
本講義では、アジア（特にASEAN）各国の産業構造が、各国内の経済政策・産業政策によってどのように影響を受け、各国が産業発展上の問題点の克服に向け、どのような取組を行ってきた（また、行っていくべきか）を、理論と実例を交えながら考える。また、近い将来に目を向け、日本の政府･企業が、今後のアジア各国の産業発展においてどのような役割を担っていけるのかを考える。
具体的には、講義の前半は、アジアの主要国で産業構造転換に対して各国政策が果たした役割を考える（第1～8回）。後半は、日本がアジアの産業転換に果たしてきた役割を、最近の日系企業の対ASEAN進出戦略も踏まえて検討する（第9～15回）。
なお、本講義の中で必要となる理論やモデルは、「準備学習の指示」の項で述べられているものを除き、授業の中であわせて解説する。

【学習目標】
本講義を通じ、①アジアの産業発展は段階的に進んできたが、その時々でふさわしい経済成長戦略を策定し実施できた国が成長を速められたこと、②特にその産業転換において日本の企業の影響力が大きかったこと、そして③日本の企業の進出戦略は引き続き、かつ従前とは異なる形で、アジア諸国の産業構造を規定する可能性があること、について、様々な視点から基本的な事項を理解することを、本講義の学習目標とする。

【講義計画】
第１回：アジアのこれまでの産業構造転換と経済発展の概観（イントロダクション）
第２回：アジアの中所得国・低所得国が世界を魅了している産業とその理由
第３回：産業構造の転換と政策（１）低開発時代の輸入代替工業化と輸出指向工業化の実践
第４回：産業構造の転換と政策（２）アジア型の「産業革命」と高所得国化
第５回：産業構造の転換と政策（３）それぞれの所得段階に応じてどのような政策が必要か
第６回：産業発展と「開発体制」
第７回：ASEANの中所得国の経済成長戦略・経済社会開発計画の実例
第８回：最近の経済成長のキーワードと産業の在り方
第９回：日本企業の対アジア直接投資の歴史（１）：これまでの対象国・分野と投資規模の変遷
第10回：日本企業の対アジア直接投資の歴史（２）：アジアの投資奨励政策にどのように反応してきたか
第11回：チャイナ・プラス・ワンとタイ・プラス・ワン：対アジア戦略の変化
第12回：必ずしも歓迎されて続けてきたわけではない日本の直接投資
第13回：日本の対アジア直接投資の伸びとODAとの関係
第14回：日本の対アジア経済連携協定、アジア地域の連結性の高まりと国際的産業展開
第15回：まとめ：ASEANは日本のサプライチェーンから日本と共存するパートナーへ

【事前および事後学習の指示】
事前学習：日頃、新聞の経済欄や経済関係の社説等を読み、経済の議論においてよく用いられている語句についての理解を心がけるとともに、初歩的なミクロ・マクロ経済学は理解できるようにしておくこと。また、学生諸君が各自関心を持っている職種・分野における日本企業とアジアとの関わりについて、日頃、新聞等でチェックするとよい。
事後学習：授業に出て講義資料に書き込んでいくだけでは理解できない点も多くなることが考えられる。そのため、授業の中で強調された用語や理論を、事後に十分に確認しておくことが望まれる。

【テキスト】

【参考文献】
『アジア経済読本』第４版　渡辺利夫編　東洋経済新報社
『開発経済学入門』第３版　渡辺利夫著　東洋経済新報社
『国際政治経済学入門』第３版　野村健他著　有斐閣アルマ
『新興アジア経済論－キャッチアップを超えて』　末廣昭著　岩波書店
※いずれも、具体的な参照頁については、講義の中で紹介する。

【コメント】
（１）試験やレポートの採点は、学部２年次の学生が最低限到達すべきレベルを基準とするため、粗点での評価ではない。
（２）レポートの５０点については、以下のとおり配分する。
①毎回、授業の途中ないし終了時に１０分程度の小テストに取り組んでもらう。１回あたり２～４点満点。その点数をレポート点として付加。全体で総合点の４０％を構成（レポート３０％と出席１０％を充当）。
②出席は毎回取るが、出席点は付加されない。ただし、公欠や医師の診断書等がある欠席の場合は、当該回の小テストを受けたものとみなし、その理由に応じ、当該回の小テストの平均点を付加する。また、それ以外の場合（当日の突然の体調不良や就職活動を理由とする欠席）についても、教員に事前連絡をすることにより、相応の配慮がなされる。
③前半（第８回まで）の学習内容を用いて現実問題について議論する１，３００字程度のレポートが１本課される（２０点満点）。

講　義　名　称	曜　時
アジア文化研究－「文明の十字路」トルコの歴史　<秋集>	火1 ／金1

【教員名称】
今澤　浩二

【講義概要】
小アジア半島を中心とするトルコは、「鉄の民族」ヒッタイトをはじめ、古代ギリシア文明、ヘレニズム文明、ローマ帝国、ビザンツ帝国（東ローマ帝国）、オスマン帝国などさまざまな民族・文明が興亡し、まさに「文明の十字路」と呼ぶにふさわしい地域である。
この講義では、こうした重層的で多彩なトルコの歴史を、特に20世紀初頭まで600年にわたって君臨し続けたオスマン帝国を中心に概観する。

【学習目標】
①トルコの歴史を考えることを通じて、世界史における重要な諸文明について理解を深める。
②トルコの文化や社会を学び、日本と比較することを通じて、異文化理解力を育む。

【講義計画】
第１回：小アジア半島（アナトリア）とは
第２回：ヒッタイト①
第３回：ヒッタイト②
第４回：トロイ
第５回：ギリシア文明
第６回：ペルシア帝国
第７回：ヘレニズム時代
第８回：ローマ帝国①
第９回：ローマ帝国②
第10回：ローマ帝国③
第11回：ビザンツ帝国①
第12回：ビザンツ帝国②
第13回：イスラームの成立と発展①
第14回：イスラームの成立と発展②
第15回：トルコ民族の進出①
第16回：トルコ民族の進出②
第17回：オスマン帝国の成立
第18回：初期の発展と挫折
第19回：コンスタンティノープルの征服
第20回：オスマン帝国の最盛期①
第21回：オスマン帝国の最盛期②
第22回：オスマン帝国の社会
第23回：オスマン帝国の宮廷と「ハーレム」①
第24回：オスマン帝国の宮廷と「ハーレム」②
第25回：オスマン帝国の衰退①
第26回：オスマン帝国の衰退②
第27回：オスマン帝国の滅亡
第28回：トルコ共和国の成立
第29回：トルコと日本の関係
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
4000年にわたる長大な歴史を扱うことになるので、前回の復習を行なった上で、次回の授業に臨むこと。

【テキスト】

【参考文献】
大村幸弘『鉄を生みだした帝国―ヒッタイト発掘―』（日本放送出版協会、1981）
森谷公俊『アレクサンドロスの征服と神話』（講談社、2007）
本村凌二『地中海世界とローマ帝国』（講談社、2007）
井上浩一『生き残った帝国ビザンティン』（講談社現代新書、1990）
根津由喜夫『ビザンツの国家と社会』（山川出版社、2008）
永田雄三（編）『西アジア史Ⅱ　イラン・トルコ』（山川出版社、2002）
林佳世子『オスマン帝国500年の平和』（講談社、2008）
鈴木董・大村次郷『図説イスタンブル歴史散歩』（河出書房新社、1993）
新井政美『オスマン vs. ヨーロッパ―＜トルコの脅威＞とは何だったのか―』（講談社選書メチエ、2002）
新井政美『トルコ近現代史―イスラム国家から国民国家へ―』（みすず書房、2001）
野中恵子『史跡・都市を巡るトルコの歴史』（ベレ出版、2015）
吉村作治『トルコ東西文明交流の地』（平凡社、1999）
大村幸弘・永田雄三・内藤正典（編）『トルコを知るための53章』（明石書店、2012）

【コメント】
初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

講　義　名　称	曜　時
アジア文化研究－アジアの海域世界を歩く　＜通期＞	月2

【教員名称】
鈴木　隆史

【講義概要】
ドキュメンタリーとは何か？テレビと映画ではドキュメンタリーといってもどのように異なるのか？
ドキュメンタリーというと他の映画と比べてどこか難しいもの、退屈なもの、面白くないもの認識されている。しかし、動物の生態や自然の素晴らしさや温暖化による地球環境の変化をテーマにしたもの、戦争や紛争の現場とその背景に迫ったもの、原発事故やその後に人々の暮らしを捉えたもの、介護、いじめなどをテーマにしたものなど様々だ。私たちの日常生活もどのような視点で切り取るかによって面白いドキュメンタリー映像を作ることができる。
本講義では、様々なドキュメンタリー番組や映画を鑑賞し、企画、撮影、編集など、どのようにしてドキュメンタリーは作られるのか？また、何をテーマにしているのか？何を伝えようとしているのかなどを共に読み解き、ドキュメンタリー映画の魅力に迫る。
ただし上映する映画や作品は変更することもある。

【学習目標】
上映される映像が何をテーマにしており、何をどのように伝えようとしているのか映像を読み解く力を身につける。
より問題を深く理解するために、映画の内容、背景に関する情報を資料や参考図書から得ることができるようにする。
じっくりと映像に集中して観る習慣を身につける。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション：ドキュメンタリーとはなんだろう？
あなたが考えるドキュメンタリーってどういうもの？今までに観たことのあるドキュメンタリー番組や映画を振り返る。
世界初のドキュメンタリー映画を鑑賞しよう
ロバート・フラハティ監督『極北のナヌーク』
第２回：ドキュメンタリーは嘘をつく１）
森達也著『ドキュメンタリーは嘘をつく』を読む
『極北のナヌーク』を分析する
第３回：ドキュメンタリーを楽しむ　１）
まずは作品を観てみよう
関口祐加監督『毎日がアルツハイマー』
第４回：ドキュメンタリーの楽しむ　２）
作品についてみんなで語ってみよう
第５回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　１）
大島渚監督『忘れられた皇軍』が描いた戦後
何が描かれていて、何を訴えているのかを考える、映像の背景、監督の意図を読み解く
第６回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　２）
映像　１４「なぜ私は語り続けるのか～９４歳・ある日本兵の戦場～」
第７回：ドキュメンタリー作品の作り方・作られ方　１）
作品のテーマを選ぶ、企画、取材、ロケハン、撮影、編集、試写、放映（上映）
NHK「素晴らしき地球の旅～海と森と人との約束」を鑑賞
第８回：ドキュメンタリー作品の作り方・作られ方　２）
実際にどのように作品を作ったのか？番組を分解してみると
第９回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　３）
小川紳介監督『日本解放戦線　三里塚の夏』と亀井文夫監督『流血の記録　砂川』を観る
第10回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　４）
時代を映しだすドキュメンタリー。記録としてのドキュメンタリーを考える
第11回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　５）
記録映画作家土本典昭が描いた時代
土本典昭監督『水俣一患者さんとその世界』、『水俣一揆――生を問う人々』
第12回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　６）
土本典昭『ドキュメント一路上』、『原発切抜帖』、『ある機関助士』ほか
第13回：ドキュメンタリーを楽しむ　３）
マイケル・ムーア監督『ボウリング・フォー・コロンバイン』
第14回：ドキュメンタリーを楽しむ　４）
マイケル・ムーア監督の作品とその特徴
第15回：ドキュメンタリーを楽しむ　５）
ジャッキー・リーム・サッロール監督『自由と壁とヒップホップ』
音楽とドキュメンタリーを同時に楽しむ
第16回：ドキュメンタリーを楽しむ　６）
音楽ドキュメンタリーを楽しむ
マリク・ベンジェルール監督『シュガーマン　奇跡に愛された男』
第17回：ドキュメンタリーは嘘をつく　２）捏造かやらせか演出か？
NHKスペシャル『ネパールの秘境　ムスタン王国を行く』のやらせ映像をめぐって
第18回：やらせを見破れるか？
『発掘！あるある大事典』の捏造はなぜ起きたのか？
番組制作の裏側を考える
第19回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　７）
NHKスペシャル『戦争とプロパガンダ～アメリカの映像戦略～』
第20回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　８）
レニ・リーフェンシュタール監督『オリンピア民族の祭典』、『意志の勝利』とヒットラー
ファシズムと優生思想
第21回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　９）
戦争と戦争責任を問う
『従軍慰安婦』についての映像と報道をめぐって
NHKETV特集『戦争をどう裁くか－問われる戦時性暴力」２００１年1月30日放送
第22回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　１０）
池谷薫監督『蟻の兵隊』
第23回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　１１）
原発と事故
なぜ警告を続けるのか～京大原子炉実験所・”異端”の研究者たち（MBS映像’０８）
放射能汚染の時代を生きる～京大原子炉実験所・”異端”の研究者たち（MBS映像’１１）
第24回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　１２）
舩橋淳監督『ふたばから遠く離れて』
福島の事故が何をもたらしたのか
第25回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　１３）
纐纈あや監督『祝の島』
第26回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　１４）
神の海に暮らす～まだ見えぬ原発に揺れる島（テレ朝テレメンタリー 2016、2016年11月6日放映）
第27回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　１５）
沖縄基地問題を考える
三上智恵監督『標的の村』
第28回：ドキュメンタリーで時代を読み解く　１６）
編集でプロパガンダ映画を変える
ケヴィン・ラファティ、ジェーンローダーほか『アトミック・カフェ』を読み解く
第29回：ドキュメンタリーとは何か？
ジョシュア・オッペンハイマー監督『アクト・オブ・キリング』と『ルック・オブ・サイレンス』
第30回：ドキュメンタリーは面白い
まとめ

【事前および事後学習の指示】
上映する映画の内容をよりよく理解するために事前に提供する資料や図書を読むことを求める。これは映像をより批判的に深く理解するためにも必要である。
さらに最終レポートを書く上で資料からの引用を求めるので必ず読む事。
授業に出席できず観れなかった映画は場合によってはYou Tubeなどで見る事もできるので参考にすること

【テキスト】

【参考文献】
森達也著『ドキュメンタリーは嘘をつく』草思社、2005年、今野勉著『テレビの嘘を見破る』新潮社、2004年
鎌仲ひとみ、金聖雄、海南友子著『ドキュメンタリーの力』子どもの未来社、2005年、
佐藤真著『ドキュメンタリー映画の地平』凱風社、2009年、想田和弘著『なぜ僕はドキュメンタリーを撮るのか』講談社新書、2011年

【コメント】
基本的には出席するのは当然なため、成績評価の比重は少ない。
授業をしっかりと聞き、メモを取り、推薦した本を読んでまとめてレポートを書いて提出する

講　義　名　称	曜　時
アジア文化研究－タイ文化研究　＜通期＞	木3

【教員名称】
平松　秀樹

【講義概要】
東南アジア文化の一例として、タイ文化についての基本的な知識を習得する。主に日本語に訳されたタイ文学作品や、映画等の映像資料を通して、作品背景にある文化を多角的に読み解いていく。具体的に前半では、ジェンダーや仏教といった諸々のテーマから考察する。後半では、タイ文化と日本との関係を探っていく。

【学習目標】
小説・映画等を通してその背景にある文化的要素への造形を深めるとともに、タイ文化の独自性および他国との同質性に関して客観的に分析・考察する能力を養う。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
第２回：タイ文化の諸相:総説
第３回：仏教の観点からみたタイ文化（１）
第４回：仏教の観点からみたタイ文化（２）
第５回：ジェンダーの観点からみたタイ文化（１）
第６回：ジェンダーの観点からみたタイ文化（２）
第７回：タイ文化と環境（１）
第８回：タイ文化と環境（２）
第９回：文学に描かれたタイ社会（１）
第10回：文学に描かれたタイ社会（２）
第11回：文学に描かれたタイ社会（３）
第12回：映画に描かれたタイ社会（１）
第13回：映画に描かれたタイ社会（２）
第14回：映画に描かれたタイ社会（３）
第15回：試験およびまとめ（前半）
第16回：タイ文化における日本：総説
第17回：近年のタイにおける日本ポピュラー・カルチャー受容史
第18回：タイと日本との文化交流史（１）
第19回：タイと日本との文化交流史（２）
第20回：タイにおける山田長政：実像と虚像
第21回：ラーマ6世作『O-hanasan』と日本女性
第22回：オペラ『蝶々夫人』のタイ翻案作品について
第23回：映画『羅生門』のタイ翻案作品について
第24回：タイ文学にみる日本イメージ（１）
第25回：タイ文学にみる日本イメージ（２）
第26回：タイ文学にみる日本イメージ（３）
第27回：タイ映画・テレビドラマにおける日本イメージ（１）
第28回：タイ映画・テレビドラマにおける日本イメージ（２）
第29回：タイ映画・テレビドラマにおける日本イメージ（３）
第30回：試験およびまとめ（後半）

【事前および事後学習の指示】
自発的にタイに関する小説や映画の情報を事前に調査して各回の授業に臨むことが期待される。

【テキスト】

【参考文献】
参考図書等は、授業中にその都度指示する。

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
アジア文化研究－ベトナムの歴史と女性　＜通期＞	火3

【教員名称】
片山　須美子

【講義概要】
ベトナムは古くから中国の大きな影響を受けてきたが、東南アジア的な特徴も残してきた。近代にはフランスの植民地となり、独立戦争、南北分断、ベトナム戦争を経て統一したが、社会主義建設に失敗し、ドイモイによって経済発展に転じた。その激動の歴史にベトナムの女性たちが大きく関わってきたことを、映像資料も使って多面的に見ていく。

【学習目標】
ベトナムの歴史の概観を学習し、歴史を作ってきた女性たちについて学ぶことによって、ベトナムの歴史をより深く理解するとともに、女性問題・ジェンダー問題についても考える。

【講義計画】
第１回：ベトナムについての基礎知識（1）国の概観
第２回：ベトナムについての基礎知識（2）政治と経済
第３回：ベトナムについての基礎知識（3）自然と民族
第４回：ベトナム前近代の歴史（1）先史時代／神話と伝説の中の女性たち
第５回：ベトナム前近代の歴史（2）中国支配とハイバーチュンの反乱
第６回：ベトナム前近代の歴史（3）中国からの独立と女性（10世紀）
第７回：ベトナム前近代の歴史（4）最初の長期王朝と女性—李朝（11-13世紀）
第８回：ベトナム前近代の歴史（5）元寇と女性—陳朝（13-14世紀）
第９回：ベトナム前近代の歴史（6）儒教の国教化と女性—黎朝（15-18世紀）
第10回：ベトナム前近代の歴史（7）女性詩人と国民文学—阮朝（19世紀）
第11回：フランス植民地時代（1）ベトナムの植民地化
第12回：フランス植民地時代（2）植民地下の女性たち①
第13回：フランス植民地時代（3）植民地下の女性たち②
第14回：フランス植民地時代（4）反植民地運動と女性運動①
第15回：フランス植民地時代（5）反植民地運動と女性運動②
第16回：独立と抗戦の時代（1）八月革命・独立と女性（1945）
第17回：独立と抗戦の時代（2）抗仏戦争と女性（1946-54）
第18回：独立と抗戦の時代（3）南北分断と女性（1954-60）
第19回：ベトナム戦争（1）ベトナム戦争の経過（1960-75）
第20回：ベトナム戦争（2）北ベトナムの女性
第21回：ベトナム戦争（3）南ベトナムの女性
第22回：ベトナム戦争（4）戦争の終結とその影響
第23回：社会主義化時代—戦争・経済危機・難民（1975-86）
第24回：ドイモイから現代へ（1）ドイモイの開始と展開（1986-現在）
第25回：ドイモイから現代へ（2）経済改革と女性
第26回：ドイモイから現代へ（3）社会変容と女性
第27回：ドイモイから現代へ（4）女性運動の発展
第28回：現代ベトナム女性の諸問題（1）都市と農村
第29回：現代ベトナム女性の諸問題（2）海外出稼ぎと結婚移民
第30回：現代ベトナム女性の諸問題（3）ベトナムの女性の現在／まとめ

【事前および事後学習の指示】
ネット・テレビ・新聞などでベトナムに関するニュースや情報をチェックしておく。
毎回配布するレジメを復習して理解する。

【テキスト】

【参考文献】
桃木至朗『中世大越国家の成立と変容』大阪大学出版会. 2011年.
レ・ティ・ニャム・トゥエット『ベトナム女性史—フランス植民地時代からベトナム戦争まで』明石書店. 2010年.

【コメント】
出席はとらないが、映像資料の感想を日常点評価として加えることがある。

講　義　名　称	曜　時
アジア文化研究－韓国・朝鮮文化　＜春集＞	火4／金1

【教員名称】
青野　正明

【講義概要】
近年、日本と韓国との交流が様ざまな分野で盛んになってきた。そこでこの授業では現代韓国を理解するために、伝統的な文化から近現代の文化まで全般的に概説していく。
具体的には、歴史・地理・宗教・言語・社会制度などの諸項目について、パワーポイントを用いて、その他視聴覚資料も多用しながら学んでいく。
また、終盤では北朝鮮事情や在日コリアンについて講義して、日本社会におけるナショナリズム問題も考えてみたい。

【学習目標】
まずは知らないことが多い隣国の文化を知ることが大切。そして文化を知りながら、異文化の特質を見つけて理解するための視点や分析方法も学ぶ。その過程で、韓国・朝鮮文化の面白さを自分なりに見出すこと、そして多文化共生について自分の考えをもつことを目標としている。

【講義計画】
第１回：韓国・朝鮮文化入門、講義の流れや成績評価等の説明
第２回：歴史１（ナショナリズム教育の問題、渡来人と仏教文化の伝来）
第３回：歴史２（秀吉の侵略、家康以降の友好関係）
第４回：歴史３（日本による植民地支配、南北分断後の政権）
第５回：地理１（ソウル：王朝時代の面影）
第６回：地理２（ソウル：植民地の残影）
第７回：地理３（映画「共同警備区域ＪＳＡ」と南北分断）
第８回：宗教１（巫俗）
第９回：宗教２（仏教・儒教）
第10回：宗教３（キリスト教・新宗教）
第11回：言語１（言語のルーツと漢字文化圏）
第12回：言語２（ハングルの構造と特徴、外来語）
第13回：社会制度１（姓と本貫）
第14回：社会制度２（社会的な差別、伝統的な結婚）
第15回：風俗１（正月、村祭り、秋夕）
第16回：風俗２（葬法　陰暦行事の意義）
第17回：衣服（韓服と和服の起源、比較）
第18回：料理と酒１（焼肉：日韓の比較）
第19回：料理と酒２（キムチの特徴、焼酒とマッコリ）
第20回：集落と住居１（住居における儒教・風水の要素）
第21回：集落と住居２（集落における風水の要素）
第22回：美術１（黄金、白衣と白磁）
第23回：美術２（丹青、紋様、石仏、青磁）
第24回：舞踊・演劇１（農楽→サムルノリ→NANTA、仮面劇）
第25回：舞踊・演劇２（パンソリ、映画「風の丘を越えて—西便制」）
第26回：日韓での大衆文化受け入れ（韓流ブームまでの道のり）
第27回：音楽（「アリラン」いろいろ）
第28回：北朝鮮事情（支配体制など）
第29回：在日コリアン１（在日とは？：民族教育、映画「パッチギ！」）
第30回：在日コリアン２（日本人とは？:帰化行政、アイデンティティ問題）

【事前および事後学習の指示】
たとえば、歴史１・２・３のように連続する分野は、それぞれのつながりに留意して、その分野を総体的に理解していくこと。また長編小説のように、授業全体を通じて伝えたい思いやメッセージもあるので、30回の授業すべてを通じて何かを学び取るという姿勢を取ってもらいたい。

【テキスト】

【参考文献】
配布プリント
金両基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社
他にも必要に応じて授業中で紹介する。

【コメント】
期末試験は出席・受講状況が反映するような問題を予定している。欠席が多かったり、出席しても勉強しなければ、そのまま試験の点数に反映するということである。

講　義　名　称	曜　時
アジア文化研究－近現代アジアの文化と歴史を考える　<春集>	火2 ／水2

【教員名称】　英語による
Philip　Billingsley

【講義概要】
In easy-to-understand English, I'll try to give you an idea of the rich variety of cultures and peoples in Asia and of the historical background to present-day Asia. I will also talk about some of the things I have learned while living and working in Asia for more than 30 years.　「アジア」とはそもそもなんだろう？様々な文化や国の歴史と現状を取り上げながら30年以上にもわたる私の「アジア人生」から学べるものを紹介する。なじみやすい内容なので不慣れの英語が媒体とはいえすぐに乗り越えられるはずだ。聞き取りやすいようにありとあらゆる工夫をするから、恐れずに受講してみてください.

【学習目標】
Japanese people who want to survive the 21st century need to know more about Asia, and they also need to have a basic knowledge of English. Accordingly, the course has two purposes: to give students an idea of what modern Asia is like (and why) , and to give them an opportunity to get used to listening to lectures in English. International students: this course will introduce you to the present and historical circumstances that have affected Japan's trajectory. 21世紀を生き抜くためにはアジアに対する基礎知識と英語の基礎能力はどちらも日本人にとって必要不可欠である。否が応でも日本人も「アジア市民」なので、アジアという地域は避けて通れない存在である。そこで、このコースは『一石二鳥』を目指してアジア及び英語の知識向上を狙う。

【講義計画】
第１回：Introduction to the lectures: how to make them easier for yourselves, what you will have to do, how to download the lecture recordings, etc. コース内容の説明、授業の「賢い」受け方、講義録音のダウンロード方法、受講生の責任などの説明
第２回：Repeat of first lecture　第1回目の講義のリピート
第３回：Summary of Introductory class + What is "Asia" ？（1）イントロの要約、「アジア」とは何か（1）？
第４回：What is "Asia"（2）？ / Overview of the Course　アジアとは何か（2）？　コースの範囲の説明
第５回：続き Continued
第６回：続き Continued
第７回：Southeast Asia 東南アジア 1
第８回：Southeast Asia 東南アジア 2
第９回：Southeast Asia 東南アジア 3
第10回：Southeast Asia 東南アジア 4
第11回：China 中国 1
第12回：China 中国 2
第13回：China 中国 3
第14回：China 中国 4
第15回：The Other Chinas: Hong Kong, Macao 中国ならぬ中国：香港・マカオ 1
第16回：The Other Chinas: Hong Kong, Macao 中国ならぬ中国：香港・マカオ 2
第17回：The Other Chinas: Taiwan 中国ならぬ中国：台湾　1
第18回：The Other Chinas: Taiwan　中国ならぬ中国：台湾 2
第19回：The Unwilling Chinas: Tibet, Xinjiang 不本意の中国：チベット自治区、新疆ウイグル自治区 1
第20回：The Unwilling Chinas: Tibet, Xinjiang 不本意の中国：チベット、新疆ウイグル自治区 2
第21回：The Unwilling Chinas: Tibet, Xinjiang 不本意の中国：チベット、新疆ウイグル自治区 3
第22回：Non-Chinese Asia 1 Mongolia「非中華」のアジア（1）：モンゴル
第23回：Non-Chinese Asia 2 Central Asia「非中華」のアジア（2）：中央アジアとシルクロード
第24回：Non-Chinese Asia 3 Western Asia「非中華」のアジア（3）：西アジアの魅力
第25回：The Overseas Chinese 東南アジアなどに広がる華僑の世界 1
第26回：The Overseas Chinese 東南アジアなどに広がる華僑の世界 2
第27回：Japan & Korea　朝鮮半島、日本 1
第28回：Japan & Korea　朝鮮半島、日本 2
第29回：Course Summary コースの要約
第30回：Test＋Revision　テスト＋まとめ

【事前および事後学習の指示】
予備知識を持っていると講義中の英語が理解しやすくなる。世界地図などを利用して個々のトピック（国、地方、項目など）について基礎的なことを先に学んでおこう！（しないと損する。）

【テキスト】

【参考文献】
特になし。毎回配布資料あり。Materials will be handed out in class.

【コメント】
受講生の英語能力を配慮して講義部分は45分間、残りの時間は内容と関連あるビデオなどを観賞する。Each lecture will last only 45 minutes. In the second half of each class we will do related activities such as watching videos. 毎回しっかり聴かないと英語力は上達しないので出席を特に重視する。講義は全部録音されるから、リアルタイムで聞き取れなくても録音をダウンロードすれば何度でも聴きなおすことができる。まめに受講・ダウンロードすれば思うほど難しくないはずだ。All lectures will be recorded. My speaking speed will be geared to the English ability of the Japanese students. If your English is good, you may find the classes rather slow.

講　義　名　称	曜　時
アジア文化史　<春集>	月1 ／木3

【教員名称】
辻　高広

【講義概要】
本講義では中国を中心とした東アジア諸国にかかわる様々な文化的事象をとりあげ、その歴史的背景について学びながら、東アジア世界における歴史的なつながりについて理解する。
なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。高校時代の教科書を残している者はそれに目を通しておくこと。

【学習目標】
現代をとりまく様々な文化的事象が長期にわたる歴史的背景をもって形成され、東アジア世界に伝播していったことを理解することができる。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
第２回：中国史概説1
第３回：中国史概説2
第４回：中国史概説3
第５回：漢字の歴史1—漢字の誕生
第６回：漢字の歴史2—漢字の成立
第７回：漢字の歴史3—漢字の伝播
第８回：漢字の歴史4—漢字の変容
第９回：漢字の歴史5—漢字の現在
第10回：日中交流の歴史1—日中交流のはじまり
第11回：日中交流の歴史2—遣隋使
第12回：日中交流の歴史3—遣唐使
第13回：日中交流の歴史4—倭寇
第14回：日中交流の歴史5—居留地と雑居地
第15回：神になった人々 1—歴史のなかの関羽
第16回：神になった人々 2—世界に広がる関帝廟
第17回：神になった人々 3—歴史のなかの楊貴妃
第18回：神になった人々 4—楊貴妃渡来伝説
第19回：食の歴史1—主食の歴史
第20回：食の歴史2—ムギとコメ
第21回：食の歴史3—寿司の歴史
第22回：食の歴史4—食卓の歴史
第23回：食の歴史5—餐具の歴史
第24回：女性の歴史1—神話のなかの女性
第25回：女性の歴史2—漢代の女性
第26回：女性の歴史3—唐代の女性
第27回：女性の歴史4—宋代の女性
第28回：女性の歴史5—明清代の女性
第29回：女性の歴史6—チャイナドレスと近代女性
第30回：まとめ—東アジア世界のつながり

【事前および事後学習の指示】
授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。

【テキスト】

【参考文献】
尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史3 中国史』山川出版社、1998年
講談社『中国の歴史』シリーズ（全12巻）、2004年～ 2005年

【コメント】
期末に論述試験を課す。出席には授業参加度合いなど受講姿勢に対する評価も含む。

講　義　名　称	曜　時
アメリカ文化研究－映画で見るアメリカの家族　＜通期＞	水5

【教員名称】
中井　紀明

【講義概要】
アメリカ社会では「家」が劇的に変貌してきている。この変貌のもっとも大きな要因は第二次世界大戦後のアメリカ社会でのフェミニズムの展開と、奴隷制度の執拗な残滓である。「性」がセックス（生物学的性）ジェンダー（性役割）セクシャリティー（性嗜好）の三つに細分化され、フェミニストたちはこれら三つの観点から社会の様々な「制度」に徹底した見直しを提起してきた。結婚とか家なども本能に基づく生物学的な制度ではなくて、特定の社会において特定の文化によって作り上げられてきた制度であると主張した。ジェンダー（性役割）とセクシャリティー（性嗜好）の観点から同性婚に彼らは新たな社会的認知を求めてきている。この「性」以外に黒人の人たちの人種の問題などが絡み合ってアメリカの結婚、家の問題を激変させているのである。本年度は「同性婚の定着」（前期）「黒人差別で瓦解する黒人の家」（後期）という【問題】を設定して二つの問題を鋭く扱っている「問題映画」群を検証しながら我々のテーマ「アメリカの家の激変」を考えていく。

【学習目標】
本講義では激変するアメリカの家を映画作品で検証する。前期は同性婚による家、後期は黒人の人たちの家である。

【講義計画】
第１回：はじめに
Frank Capra, It’s a Wonderful Life, とWilliam Wyler, The Best Years of Our Lives（1946年）, 太平洋戦争直後のアメリカで「家」を護る人々を描く。この二作品を戦後の家の出発点とする。
It’s a Wonderful Life,（1）
第２回：It’s a Wonderful Life,（2）
作品の討議
第３回：The Best Years of Our Lives（1）
第４回：The Best Years of Our Lives（2）
作品の討議
第５回：Jonathan Demi, Philadelphia（1993年）, この作品は同性愛に対する偏見を描いていると思われているが、実は「同性愛からは子供ができないじゃないか」という同性愛に対する留保を提示した作品でもある。
第６回：Philadelphia（2）作品の討議
第７回：The Wachowski Brothers, Bound（1996）,「家父長制度」の象徴としてのマフィアに対して完全と戦いを挑むレズビアンカプルを鮮やかに描く。
第８回：Bound（2）作品の討議
第９回：Stanley Kubrick, Eyes Wide Shut（1999）性に取り付かれた社会の中で、「家」崩壊の危機にさらされる異性愛カップルを描く。
第10回：Eyes Wide Shut（2）
第11回：Ann Heche, Women Love Women（2000年）, 40年に亘る三組の同性愛カップルを描く。1961年、法的には結婚とは認められないレズビアンカップルが一方の死によって家、財産を甥に奪われる。1972年、家をシェアするレズビアンたち、レズビアンたちとは一線を画してあくまでも男女の同権のみを追及する一派、そして性同一性障害のマッチョな「男」とレズビアンの女子学生の恋が描かれる。2000年、育児にかかわろうとするゲイカップルからの申し出を断り、精子バンクからのあとくされのない精子での妊娠で大喜びするレズビアンカップルをコミカルに描く。
第12回：Women Love Women（2）作品の討議
第13回：Lisa Cholodenko, The Kids are All Right（2010）, Women Love Women の第三話とは違い、精子バンクから同一人物の精子をそれぞれ受け入れて子供を作ったレズビアンカップルの家に、18歳になった長女の調査で判明した精子提供者「父親」が入り込んできて「母親」と性的関係を持ってしまい､それが女医である「主夫」にばれてしまう。同性愛カップルの家で「子供」が「生まれる」だけではなく「きちんと」育つのかということを扱った映画である。
第14回：The Kids are All Right（2）作品の討議
第15回：おわりに
第16回：Alex HaleyのRootsを映画化したRoots『ルーツ』1,2,3,4、(1977) とRichard Fleischer監督のMandingo『マンディンゴ』(1975) で、アフリカの家での家庭生活、社会生活からアメリカでの奴隷としての家庭生活、社会生活を見ていく。
第17回：奴隷制度の中での家（2）
第18回：奴隷制度の中での家（3）
第19回：奴隷制度の中での家（4）
第20回：奴隷制度の中での家（5）
第21回：奴隷制度の中での家（6）
第22回：Stnley Kramer監督の『招かれざる客』Guess Who’s Coming to Dinner（1967）（1）
第23回：Stnley Kramer監督の『招かれざる客』Guess Who’s Coming to Dinner（1967）（2）討議
第24回：Spike Lee 監督の『ドウ・ザ・ライト・シング』Do the Right Thing（1989）、『ジャングル・フィーバー』Jungle Fever,（2011）、『ボーイズン・ザ・フッド』Boyz n The Hood,（1991）（1）
第25回：Spike Lee 監督の『ドウ・ザ・ライト・シング』Do the Right Thing（1989）、『ジャングル・フィーバー』Jungle Fever,（2011）、『ボーイズン・ザ・フッド』Boyz n The Hood,（1991）（2）討議
第26回：Spike Lee 監督の『ドウ・ザ・ライト・シング』Do the Right Thing（1989）、『ジャングル・フィーバー』Jungle Fever,（2011）、『ボーイズン・ザ・フッド』Boyz n The Hood,（1991）（3）
第27回：Spike Lee 監督の『ドウ・ザ・ライト・シング』Do the Right Thing（1989）、『ジャングル・フィーバー』Jungle Fever,（2011）、『ボーイズン・ザ・フッド』Boyz n The Hood,（1991）（4）討議
第28回：Spike Lee 監督の『ドウ・ザ・ライト・シング』Do the Right Thing（1989）、『ジャングル・フィーバー』Jungle Fever,（2011）、『ボーイズン・ザ・フッド』Boyz n The Hood,（1991）（5）
第29回：Spike Lee 監督の『ドウ・ザ・ライト・シング』Do the Right Thing（1989）、『ジャングル・フィーバー』Jungle Fever,（2011）、『ボーイズン・ザ・フッド』Boyz n The Hood,（1991）（6）討議
第30回：おわりに

【事前および事後学習の指示】
作品を見る前にインターネットで監督について調べておくこと。
作品を見た後でインターネットで作品論を調べてクラスの討議に提供すること。

【参考文献】

【コメント】
全ての講義の出席は当たり前。

講　義　名　称	曜　時
医学入門B　＜秋＞	木4

【教員名称】
郭　麗月

【講義概要】
①医学・医療の歴史的変遷と生命倫理
②医療制度の現状と課題
③公衆衛生の現状
④現代の疾病の問題点

【学習目標】
①高度化、複雑化している現在の医療が抱える問題と社会福祉の役割について理解する。
②健康問題を公衆衛生、医療施策、地域福祉などの関連する分野から広い視点で捉えて理解する。

【講義計画】
第１回：生命倫理とは何か①
第２回：生命倫理とは何か②
第３回：医学・医療の歴史的変遷
第４回：現代医療の問題点
第５回：保健医療対策の現状①
第６回：保健医療対策の現状②
第７回：保健医療対策の現状③
第８回：保健医療対策の現状④
第９回：保健医療対策の課題①
第10回：保健医療対策の課題②
第11回：保健医療対策の課題③
第12回：保健医療対策の課題④
第13回：公衆衛生の現状①
第14回：公衆衛生の現状②
第15回：現代医療の課題

【事前および事後学習の指示】
授業中に紹介した文献、資料等を直接参照すること。図書館の活用を勧める。

【テキスト】
「人体の構造と機能及び疾病」福祉臨床シリーズ委員会議 978-4-335-61071 弘文堂

【参考文献】

【コメント】
講義期間に提示したテーマから選択して、レポートを作成し、その内容で評価する
出席時に提出する、感想文、質問文は参考資料とする

講　義　名　称	曜　時
イギリス文化研究−ヴィクトリア朝ロンドンの世界　＜通期＞	火3

【教員名称】
日下　隆平

【講義概要】
この講義はヴィクトリア朝ロンドンの社会と文化を学ぶことを目的としています。この時期は、日本でいえば、幕末から明治の終わる頃にあたります。ヴィクトリア朝とは、世界に冠たる19世紀大英帝国の最盛期であり、現代イングランドの基礎形成がなされた重要な時期と言えます。講義では社会、文化、芸術等の分野を関連させて扱っていきます。この時代の特徴を簡単に言うなら,過去へのノスタルジーと近代化の力が正反対の方向に反撥しあう時代であったと言えます。講義では背景についての知識を学んだうえで、イーストエンドを含め「どのような人々が、どんな生活を送ったのか」を思い描けるようなトピックを取り上げてゆくつもりです。その方法として、時代背景とそれを特徴づける出来事を織り交ぜ、さまざまな分野から講義していきます。

【学習目標】
授業ではPPTを用いて説明してゆきます。具体的には、授業前半を説明にあて、後半は 英文資料を講読しながら解説していきます。以上のような方針ですが、授業は文化、芸術、社会等のさまざま分野から、この時期の典型的な時代思潮を芸術作品などで検討していきます。毎回資料を配付します。取り上げるトピックは以下の通りです。

【講義計画】
第１回：導入ー授業内容についての全般的説明
第２回：ヴィクトリア朝までのロンドン
　　18世紀までのイギリスの歴史の流れをみておく。
第３回：ヴィクトリア朝時代概観（1837-1901）
第４回：ヴィクトリア朝初期ーその１
第５回：ヴィクトリア朝初期ーその２
第６回：ヴィクトリア朝中期ー大英博覧会（1851）とロンドン
第７回：ヴィクトリア朝中期ー大英博覧会（1862）と文久使節団
　　イギリスの新聞などからイギリス人の印象をみる
第８回：ヴィクトリア朝中期ーメガロポリス・ロンドンの発展
第９回：ヴィクトリア朝末期期ー女性像
第10回：『ピター・ラビット』の作者Beatrix PotterとNational Trust
第11回：DVD「ミス・ポター」鑑賞
第12回：女性の職業
　　ガヴァネースについて
第13回：ブレイク（William Blake）から見た社会ーその１
第14回：ブレイク（William Blake）から見た社会ーその２
第15回：復習テスト
第16回：East Endの世界ー路地裏のロンドン
　　ドレの版画とメイヒューから
第17回：East Endの世界ー路地裏のロンドンと民族の流入
　　１　ユグノー、アイルランド人、ユダヤ系移民と文化
第18回：East Endの世界ー路地裏のロンドンにみる大衆文化
　　２　ユグノー、アイルランド人、ユダヤ系の移民と文化
第19回：ジェイムス・マクニール・ホイスラー（1834-1903）について
　　ジャポニスムとは？
第20回：中世復興（Medievalism）についてーウィリアム・モリスの場合
第21回：建築にみるゴシックリバイバル
第22回：１　イギリスの街並みージョージアンとビクトリアン建築
第23回：２　イギリスの街並み
　　Bedford Parkと中世イメージ
第24回：ウィリアム・ブレイク、I. M. ターナー、D. G. ロセッティの
　　DVDを鑑賞
第25回：ラファエル前派の芸術
第26回：19世紀末のジャポニスム
第27回：アイルランドとイギリス　その1　　併合されるまで
第28回：アイルランドとイギリス　その２　　独立の過程
第29回：ケルト復興ー芸術に見るアイルランド
第30回：まとめと試験

【事前および事後学習の指示】
英文によるプリントを事前に配布しておきますので、可能な限り読んでおいて下さい。

【テキスト】

【参考文献】
授業中に必要に応じて紹介します。

【コメント】
英文資料を全員で講読しながら学んでいきます。

講　義　名　称	曜　時
異文化間コミュニケーション論　01＜春集＞	火1 ／金2

【教員名称】
金本　伊津子

【講義概要】
『グローバル時代のコミュニケーション・スキルを学ぼう』
情報は瞬時にして世界を駆け巡り、物は国の境を越え、人は文化の壁を越えはじめた。地球規模で地域、組織、家族の多文化化が進み、日常生活の中でも異文化と出会う機会が増大した。このような国際社会の関係性の変化に伴い、文化的背景が異なる人々とコミュニケーションやネゴシエーション（交渉）する力が益々重要視されるようになってきた。ビジネスの分野においても、グローバルな視点を持つことが、今まで以上に求められるようになってきた。
この科目においては、言語･思考･価値観など文化的背景の異なる人々がコミュニケーションをする場合に生じる様々な現象や問題点を解明する。前半の15回は、異文化間コミュニケーション論における基本的な概念の説明を行う。後半の15回は、日本的コミュニケーションの特性を明らかにしながら、英語教員志望者にも配慮し、主に世界の憧れと反発の対象である英米人のコミュニケーション行動の分析を行う。
異文化間コミュニケーションの最大の問題は「我」にある。相手（異文化）のみならず自分（自文化）のコミュニケーションの特性を理解することは、文化を越える第一歩となる。

【学習目標】
（1）言語・思考・価値観など文化的背景の異なる人々がコミュニケーションをする場合に生じる様々な現象や問題点を理解し、その問題を解決できるコミュニケーション・スキルを身につける。
（2）自分自身のコミュニケーションの特性を理解し、自分についての理解を深める。

【講義計画】
第１回：コースの概要の説明
　　なぜ今、異文化間コミュニケーションか：ボーダーレス社会と日本の内なる国際化
　　ディスカッション：アフリカ系アメリカ人の経験（『Struggle and Success』（DVD））から考える
第２回：文化とは何か？：太陽は何色？赤色？黄色？
　　ディスカッション：文化とアイデンティティの関係を国際結婚の子供たちのインタビュー（『ダブルズ』（DVD））から考える
第３回：コミュニケーションのメカニズム：コンテキストと文化の関係
　　エクササイズ：自分について話すーー自己開示度チェック
第４回：異文化との出会い：カルチャーショックのプロセスと異文化適応能力
　　エクササイズ：異なる意見をどう扱うかーーコンフリクト・マネジメント（対立管理）のスタイルを知る
第５回：ことばと文化の関係：言語の構造を分析する / 虹色は７色とは限らない
　　エクササイズ:「ちゃうちゃうちゃうちゃうとちゃうんとちゃう」を解明する/「男」はどちらを向いて歩いている？
第６回：ゲーム：OUTSIDE EXPERT -- バルーンバ人の非言語メッセージを解読する
第７回：ことばのないメッセージ（1）：身体特徴・動作学・近接空間学
　　エクササイズ：あなたの空間の使い方チェック
第８回：ことばのないメッセージ（2）：接触学・準言語（パラ・ランゲージ）・時間学（PタイムとMタイム）
　　エクササイズ：あなたの時間の使い方チェック
第９回：コミュニケーションの文化比較：デズモンド・モリス作のDVDからコミュニケーションの多様性を学ぶ
第10回：異文化間コミュニケーション研究（1）：ビジネスにおける交渉
　　ディスカッション：ケーススタディ
第11回：エスニック・ジョーク：ステレオ・タイプと偏見
　　エクササイズ：無人島ジョーク
第12回：日本人のグローバル・マイグレーション：海外で活躍する日本人と「国民」の多様化
　　ディスカッション：『東京のムスリム』（DVD）　から日本の多文化化を考える
第13回：グロービッシュとは？：国際語としての英語（lingua franca）と様々な英語（Englishes）
　　エグササイズ:エボニックス・スパングリッシュ・シングリッシュを聞き分ける
第14回：復習テストのための復習
第15回：復習テストとまとめ
第16回：異文化間コミュニケーション研究（2）：日本的O型組織と欧米的M型組織
　　ディスカッション：ケーススタディ
第17回：文化の志向性とコミュニケーション・パターン：コミュニケーションのプロトタイプとしての「ディベート」と「寄り合い」
第18回：アメリカの文化とコミュニケーション（1）：アメリカ人はどのように作られるのか？　移民国家アメリカにおける国民形成の過程
　　ディスカッション：分断される移民社会
第19回：アメリカの文化とコミュニケーション（2）：アメリカ人はどのようにものを決めるのか？　大統領選挙における多数決原理と大陪審員制度における全員一致の原理
　　ディスカッション：『怒れる12人の男』（DVD）からアメリカにおける説得の方法を考える
第20回：アメリカの文化とコミュニケーション（3）：宗教国家・アメリカにおける対立型コミュニケーション
　　ディスカッション：アメリカにおける人種対立を考える
第21回：イギリスの文化とコミュニケーション(1):移民国家イギリスにおけるマイグレーションとエスニシティ
　　ディスカッション：EUとイギリスの関係を考える
第22回：イギリスの文化とコミュニケーション（2）：ヨーロッパのイギリス階層社会
　　ディスカッション：ヨーロッパの移民問題を考える
第23回：日本の文化とコミュニケーション（1）：　なぜ日本人は"NO"と言いにくいのか？
　　ディスカッション：「大阪都構想」論争をコミュニケーションから考える
第24回：日本の文化とコミュニケーション（2）：「寄り合い」型コミュニケーション
　　ディスカッション：日本企業における対立回避のメカニズム
第25回：欧米と日本のコミュニケーション比較:片立的コミュニケーションと両立的コミュニケーション
　　ディスカッション：喧嘩両成敗とAll or Nothing
第26回：異文化間コミュニケーション研究（3）：クジラ論争における日本の国際交渉力を分析する
　　ディスカッション：学期末テストの問題にチャレンジ
第27回：COOL JAPANと日本文化のグローバリゼーション（1）:ハイブリッド化する「キティちゃん」
　　ディスカッション：異文化接触理論を応用する
第28回：COOL JAPANと日本文化のグローバリゼーション（2）：寿司とＳＵＳＨＩ/柔道とＪＵＤＯ
　　ディスカッション：文化のオーセンティシティ
第29回：学期末テストにむけての総復習
第30回：学期末テストと全体講評

【事前および事後学習の指示】
・毎回の授業に関連する参考図書の箇所（章・節）を授業中に指示する。
・「今」まさに起きている国際関係を素材として授業を展開していくので、新聞記事を読むことを推奨する。

【テキスト】

【参考文献】
石井敏、久米昭元、遠山淳（編）『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣
石井敏、久米昭元（編）、金本伊津子（共著）（2005）『異文化コミュニケーション研究法』有斐閣
石井敏、久米昭元、遠山淳（編）（2001）『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣
遠山淳（編）金本伊津子（共著）『日本文化論のキーワード』有斐閣

【コメント】
（1）授業時間内に実施する「復習テスト」30%、そして試験期間内に実施する「学期末テスト」40%から評価する。
（2）出席（30%）は、授業中の提出物（クイズ）を参考にして総合的に評価する。
（3）シラバスの変更は授業中に通知する。

講　義　名　称	曜　時
異文化間コミュニケーション論　02＜秋集＞	火4／金3

【教員名称】
金本　伊津子

【講義概要】
『グローバル時代のコミュニケーション・スキルを学ぼう』
情報は瞬時にして世界を駆け巡り、物は国の境を越え、人は文化の壁を越えはじめた。地球規模で地域、組織、家族の多文化化が進み、日常生活の中でも異文化と出会う機会が増大した。このような国際社会の関係性の変化に伴い、文化的背景が異なる人々とコミュニケーションやネゴシエーション（交渉）する力が益々重要視されるようになってきた。ビジネスの分野においても、グローバルな視点を持つことが、今まで以上に求められるようになってきた。
この科目においては、言語･思考･価値観など文化的背景の異なる人々がコミュニケーションをする場合に生じる様々な現象や問題点を解明する。前半の15回は、異文化間コミュニケーション論における基本的な概念の説明を行う。後半の15回は、日本的コミュニケーションの特性を明らかにしながら、英語教員志望者にも配慮し、主に世界の憧れと反発の対象である英米人のコミュニケーション行動の分析を行う。
異文化間コミュニケーションの最大の問題は「我」にある。相手（異文化）のみならず自分（自文化）のコミュニケーションの特性を理解することは、文化を越える第一歩となる。

【学習目標】
（1）言語・思考・価値観など文化的背景の異なる人々がコミュニケーションをする場合に生じる様々な現象や問題点を理解し、その問題を解決できるコミュニケーション・スキルを身につける。
（2）自分自身のコミュニケーションの特性を理解し、自分についての理解を深める。

【講義計画】
第１回：コースの概要の説明
なぜ今、異文化間コミュニケーションか：ボーダーレス社会と日本の内なる国際化
ディスカッション：アフリカ系アメリカ人の経験（『Struggle and Success』（DVD））から考える
第２回：文化とは何か？：太陽は何色？赤色？黄色？
ディスカッション：文化とアイデンティティの関係を国際結婚の子供たちのインタビュー（『ダブルズ』（DVD））から考える
第３回：コミュニケーションのメカニズム：コンテキストと文化の関係
エクササイズ：自分について話す――自己開示度チェック
第４回：異文化との出会い：カルチャーショックのプロセスと異文化適応能力
エクササイズ：異なる意見をどう扱うか――コンフリクト・マネジメント（対立管理）のスタイルを知る
第５回：ことばと文化の関係：言語の構造を分析する / 虹色は７色とは限らない
エクササイズ:「ちゃうちゃうちゃうちゃうとちゃうんとちゃう」を解明する/「男」はどちらを向いて歩いている？
第６回：ゲーム：OUTSIDE EXPERT -- バルーンバ人の非言語メッセージを解読する
第７回：ことばのないメッセージ（1）：身体特徴・動作学・近接空間学
エクササイズ：あなたの空間の使い方チェック
第８回：ことばのないメッセージ（2）：接触学・準言語（パラ・ランゲージ）・時間学（PタイムとMタイム）
エクササイズ：あなたの時間の使い方チェック
第９回：コミュニケーションの文化比較：デズモンド・モリス作のDVDからコミュニケーションの多様性を学ぶ
第10回：異文化間コミュニケーション研究（1）：ビジネスにおける交渉
ディスカッション：ケーススタディ
第11回：エスニック・ジョーク：ステレオ・タイプと偏見
エクササイズ：無人島ジョーク
第12回：日本人のグローバル・マイグレーション：海外で活躍する日本人と「国民」の多様化
ディスカッション：『東京のムスリム』（DVD）　から日本の多文化化を考える
第13回：グロービッシュとは？：国際語としての英語（lingua franca）と様々な英語（Englishes）
エクササイズ:エボニックス・スパングリッシュ・シングリッシュと聞き分ける
第14回：復習テストのための復習
第15回：復習テストとまとめ
第16回：異文化間コミュニケーション研究（2）：日本的O型組織と欧米的M型組織
ディスカッション：ケーススタディ
第17回：文化の志向性とコミュニケーション・パターン：コミュニケーションのプロトタイプとしての「ディベート」と「寄り合い」
第18回：アメリカの文化とコミュニケーション（1）：アメリカ人はどのように作られるのか？　移民国家アメリカにおける国民形成の過程
ディスカッション：分断される移民社会
第19回：アメリカの文化とコミュニケーション（2）：アメリカ人はどのようにものを決めるのか？　大統領選挙における多数決原理と大陪審員制度における全員一致の原理
ディスカッション：『怒れる12人の男』（DVD）からアメリカにおける説得の方法を考える
第20回：アメリカの文化とコミュニケーション（3）：宗教国家・アメリカにおける対立型コミュニケーション
ディスカッション：アメリカにおける人種対立を考える
第21回：イギリスの文化とコミュニケーション(1):移民国家イギリスにおけるマイグレーションとエスニシティ
ディスカッション：EUとイギリスの関係を考える
第22回：イギリスの文化とコミュニケーション（2）：ヨーロッパのイギリス階層社会
ディスカッション：ヨーロッパの移民問題を考える
第23回：日本の文化とコミュニケーション（1）：　なぜ日本人は"NO"と言いにくいのか？
ディスカッション：「大阪都構想」論争をコミュニケーションから考える
第24回：日本の文化とコミュニケーション（2）：「寄り合い」型コミュニケーション
ディスカッション：日本企業における対立回避のメカニズム
第25回：欧米と日本のコミュニケーション比較:片立的コミュニケーションと両立的コミュニケーション
ディスカッション：喧嘩両成敗とAll or Nothing
第26回：異文化間コミュニケーション研究（3）：クジラ論争における日本の国際交渉力を分析する
ディスカッション：学期末テストの問題にチャレンジ
第27回：COOL JAPANと日本文化のグローバリゼーション（1）:ハイブリッド化する「キティちゃん」
ディスカッション：異文化接触理論を応用する
第28回：COOL JAPANと日本文化のグローバリゼーション（2）：寿司とＳＵＳＨＩ/柔道とＪＵＤＯ
ディスカッション：文化のオーセンティシティ
第29回：学期末テストにむけての総復習
第30回：学期末テストと全体講評

【事前および事後学習の指示】
・毎回の授業に関連する参考図書の箇所（章・節）を授業中に指示する。
・「今」まさに起きている国際関係を素材として授業を展開していくので、新聞記事を読むことを推奨する。

【テキスト】

【参考文献】
石井敏、久米昭元、遠山淳（編）『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣
石井敏、久米昭元（編）、金本伊津子（共著）（2005）『異文化コミュニケーション研究法』有斐閣
石井敏、久米昭元、遠山淳（編）（2001）『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣
遠山淳（編）金本伊津子（共著）『日本文化論のキーワード』有斐閣

【コメント】
（1）授業時間内に実施する「復習テスト」30%、そして試験期間内に実施する「学期末テスト」40%から評価する。
（2）出席（30%）は、授業中の提出物（クイズ）を参考にして総合的に評価する。
（3）シラバスの変更は授業中に通知する。

講　義　名　称	曜　時
一般経済史Ⅰ　＜春＞	金3

【教員名称】
富澤　修身

【講義概要】
まず、一般経済史で学ぶ内容を目次で確認し、講義全体の粗筋を理解する。次に、イギリス産業革命を論じて、現代に通じる大きな経済変化を論じる。あわせて産業の国際移転について米国のニューイングランドと南部を取り上げて論じる。以上を踏まえて、産業革命発生前の経済史を論じ、産業革命が生み出した19世紀の経済史（機械制大工業と鉄道業）を論じる。

【学習目標】
2008年9月に顕在化したアメリカ発の金融危機と実体経済の危機は、世界同時不況となって、前代未聞の事態に世界を陥れた。先進国経済は、一定回復しつつあるが、依然厳しい。他方、新興国経済も減速している。日本経済はどうなるのであろうか。今こそ、歴史から学び、現状を正しく理解し、その成果を未来に生かすことが求められている。一般経済史の講義では、現代を理解し、未来を構想するための経済学の基本的な考え方と知識を歴史から学ぶ。

【講義計画】
第１回：1.はじめに
第２回：2.産業革命 2.1.イギリス産業革命（1）
第３回：2.1.イギリス産業革命（2）
第４回：2.2.後発国・地域の工業化（1）
第５回：2.2.後発国・地域の工業化（2）
第６回：3.産業革命前の経済史 3.1.小商品生産
3.2.問屋制生産
第７回：3.3.協業
第８回：3.4.マニュファクチュア（1）
第９回：3.4.マニュファクチュア（2）
第10回：4.19世紀の経済史 4.1.機械制大工業（1）
第11回：4.1.機械制大工業（2）
第12回：4.1.機械制大工業（3）
第13回：4.2.鉄道経営（1）
第14回：4.2.鉄道経営（2）
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
毎回講義開始時に、次回の講義に関連するキーワードを指定して、図書あるいはインターネットを活用して準備学習させる。事後学習としては、講義ノートの点検整理を行わせる。

【テキスト】
講義資料として、コピーを配布する。

【参考文献】
授業中に紹介する。

【コメント】
小レポート（小作文）提出と出席確認は抜き打ちで行う。

講　義　名　称	曜　時
一般経済史Ⅱ　＜秋＞	金3

【教員名称】
富澤　修身

【講義概要】
まず、一般経済史で学ぶ内容を目次で確認し、粗筋を理解する。講義では20世紀と21世紀初めの経済史を論じる。本論では、まず、大企業の登場とその内部構造上の特徴、市場支配力について論じる。次いでこの時代の産業インフラである電力産業のシステムビルディングを論じ、1930年代の米国ニューディール政策へと講義内容を繋げる。第２次大戦後については、米国を中心に戦後経済史を論じたのち、脱垂直的統合と情報化・グローバル化時代のモノ作りを論じる。

【学習目標】
2008年9月に顕在化したアメリカ発の金融危機と実体経済の危機は、世界同時不況となって、前代未聞の事態に世界を陥れた。先進国経済は、一定回復しつつあるが、依然厳しい。他方、新興国経済も減速している。日本経済はこれからどうなるのであろうか。今こそ、歴史から学び、現状を正しく理解し、その成果を未来に生かすことが求められている。一般経済史の講義では、現代を理解し、未来を構想するための経済学の基本的な考え方と知識を歴史から学ぶ。

【講義計画】
第１回：1.はじめに
第２回：2.大企業の登場　2.1.大企業の誕生（1）
第３回：2.1.大企業の誕生（2）
第４回：2.2.生産管理（1）
第５回：2.2.生産管理（2）
第６回：2.3.労働力編成と労資関係
第７回：2.4.空間的配置
第８回：3.独占的企業（1）
第９回：3.独占的企業（2）
第10回：4.電力産業のシステムビルディング（1）
第11回：4.電力産業のシステムビルディング（2）
第12回：5.ニューディール政策（1）
第13回：5.ニューディール政策（2）
第14回：6.戦後経済史（1）
第15回：6.戦後経済史（2）

【事前および事後学習の指示】
毎回講義開始時に、次回の講義に関連するキーワードを指定して、図書あるいはインターネットを活用して準備学習させる。事後学習としては、講義ノートの点検・整理をさせる。

【テキスト】
講義資料として、コピーを配布する。

【参考文献】
授業中に紹介する。

【コメント】
小レポート（小作文）提出と出席確認は抜き打ちで行う。

講　義　名　称	曜　時
映像メディア論　＜秋集＞	火3／金4

【教員名称】
南出　和余

【講義概要】
私たちの日常は、映像メディアによる情報に溢れている。遠く離れた外国に住む人びとや異文化についても、映像を介して、あたかも行ったことがあるかの如く、知ることができる。しかし、映像がどれだけ詳細な情報を与えようとも、それは全体の一部を切り取った情報であり、ある一定の視点からの「真実」であることを私たちは意識しなければならない。この授業では、映像人類学を中心として、これまでに制作された映像作品（民族誌映画、ドキュメンタリー）をもとに、「映像を介した社会理解」について考える。

【学習目標】
映像を見るときに、撮る者（撮影者）／撮られる者（被写体）／観る者（視聴者）の関係を考慮することにより、その映像が「誰のために、何を、どう撮っているのか」がおのずと見えてくる。この授業では、この三者関係を意識しながら映像を「読み解く」ことを試みて、映像を意識的に捉える姿勢と、能動的に「考える」力を養う。そのことで「ワンランク上の視聴者」を目指す。

【講義計画】
第１回：イントロダクション
第２回：動く映像の誕生
第３回：シネマトグラフ
第４回：記録映像の歴史
第５回：映像人類学（1）「ドキュメンタリーの父」
第６回：事例映像
第７回：映像人類学（2）科学映像
第８回：事例映像
第９回：映像人類学（3）カメラの存在
第10回：事例映像
第11回：映像人類学（4）映像による民族誌
第12回：事例映像
第13回：映像人類学（5）子どもと映像
第14回：映像人類学（6）技術映像
第15回：映像人類学（7）フォーラムとしての映像
第16回：映像で見る日本文化―外国人が撮った日本―
第17回：映像と社会（1）プロパガンダ映像
第18回：事例映像
第19回：映像と社会（2）教育映像
第20回：事例映像
第21回：映像と社会（3）モンド映画
第22回：映像と社会（4）ドキュメントバラエティ
第23回：映像と社会（5）セルフドキュメンタリー
第24回：映像と社会（6）ヒューマンドキュメンタリー
第25回：映像と社会（7）社会派ドキュメンタリー
第26回：事例映像
第27回：映像と社会（8）ドキュメンタリーと劇映画の狭間
第28回：事例映像
第29回：総括
第30回：総括

【事前および事後学習の指示】
テキストの該当章を予習熟読したうえで授業に臨むこと。

【テキスト】
映像人類学（シネ・アンスロポロジー）―人類学の新たな実践へ 村尾静二・箭内匡・久保正敏（編）ISBN-13: 978-4796703338 せりか書房

【参考文献】
授業中に適宜紹介する。

【コメント】
学期末試験と中間レポートを課す。

講　義　名　称	曜　時
英語の意味　＜春集＞	月1 ／木2

【教員名称】
西岡　武彦

【講義概要】
モダリティや情報構造の点から英語の意味を探ります。授業ではもちろん英文の輪読も受講生にしてもらったり、日本語から英語、英語から日本語への転換を発表してもらったりしますから、英語に興味があるだけでなく、ある程度、自信のある人の参加が必須となります。

【学習目標】
授業では、英語の意味は単に単語の意味の足し算ではないことを理解することを目標にします。

【講義計画】
第１回：Orientation
第２回：モダリティ＆情報構造（1）
第３回：モダリティ＆情報構造（2）
第４回：モダリティ＆情報構造（3）
第５回：モダリティ＆情報構造（4）
第６回：モダリティ＆情報構造（5）
第７回：モダリティ＆情報構造（6）
第８回：モダリティ＆情報構造（7）
第９回：モダリティ＆情報構造（8）
第10回：モダリティ＆情報構造（9）
第11回：モダリティ＆情報構造（10）
第12回：モダリティ＆情報構造（11）
第13回：モダリティ＆情報構造（12）
第14回：モダリティ＆情報構造（13）
第15回：モダリティ＆情報構造（14）
第16回：モダリティ＆情報構造（15）
第17回：モダリティ＆情報構造（16）
第18回：モダリティ＆情報構造（17）
第19回：モダリティ＆情報構造（18）
第20回：モダリティ＆情報構造（19）
第21回：モダリティ＆情報構造（20）
第22回：モダリティ＆情報構造（21）
第23回：モダリティ＆情報構造（22）
第24回：モダリティ＆情報構造（23）
第25回：モダリティ＆情報構造（24）
第26回：モダリティ＆情報構造（25）
第27回：モダリティ＆情報構造（26）
第28回：モダリティ＆情報構造（27）
第29回：モダリティ＆情報構造（28）
第30回：モダリティ＆情報構造（29）

【事前および事後学習の指示】
英文を輪読するさいにはきちんとした予習が必要です。単語を調べることは言うまでもありませんが、内容を理解する点までの予習を行ってきてください。

【テキスト】
特になし

【参考文献】
授業中に適宜案内します。

【コメント】
4回以上欠席した場合は単位を与えません。試験は大きな項目を終えた段階で理解度を測るために行います。
テキストは使用しません。適宜参考文献を案内します。

講　義　名　称	曜　時
英語学概論　01＜春集＞	水４/金３

【教員名称】
Kevin　R.　Gregg

【講義概要】
「英語学」とは、英語を対象とする言語学、つまり言語の科学である。科学だからこそ、言語学の目的は、言語現象を記述するだけではなく、その現象を説明することにある。したがって、この授業の目的は、英語にかんする事実をたくさん覚えさせることでは決してない。むしろ、英語を人間言語の一例としてとりあげ、言語学という科学の研究対象、基礎概念、それに研究方法を（ある程度）把握してもらうことを目指す。

【学習目標】
受講生は、この授業で十分な成果をあげることできれば、次の目的を達成することになろう：
・人間言語とりわけ英語を科学研究の対象とする方法や特徴を（ある程度）理解する。
・英語学の下位分野（音声学、音韻論、形態論、統語論など）の基礎知識を得る。
・英語の特徴をもう少し理解する。

【講義計画】
第１回：概要
第２回：音声学１：概要
第３回：音声学２：発声器官
第４回：音声学３：子音
第５回：音声学４：母音
第６回：音声学５：表記
第７回：音韻論１：分布
第８回：音韻論２：基底表示
第９回：音韻論３：規則
第10回：形態論１：概要
第11回：形態論２：屈折・派生
第12回：形態論３：複合語
第13回：形態論４：階層構造
第14回：統語論１：概要
第15回：統語論２：範疇
第16回：統語論３：構成祖
第17回：統語論４：句構造規則
第18回：統語論５：繰り返し
第19回：統語論６：X’理論
第20回：統語論７：NP
第21回：統語論８：補部・付加部
第22回：統語論９：VP
第23回：統語論１０：AP,PP
第24回：統語論11：ｃ統御
第25回：統語論12：照応
第26回：語用論１：概要
第27回：語用論２：会話の規則
第28回：御用論３：含意
第29回：語用論４：丁寧表現
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
勉強すればいい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
英米文学概論　01＜春集＞	火3／金4

【教員名称】
谷山　智彦

【講義概要】
イギリスおよびアメリカの文学作品を取り上げて内容を概観し、そのテキストから発表された当時の歴史や社会問題に迫り、そこにある文化的特色や思想を読み解いていく。

【学習目標】
・英米文学の背景にある日本とは異なる世界観に触れ、比較してその理解を深める。
・作品の原典にも触れることで、英語の理解も深める。
・英米の歴史的な問題、社会問題を作品を通して見ることで、そうした問題に対する思考能力、批判能力を養成する。

【講義計画】
第１回：・講義の導入：授業の形式、及び評価方法等の説明
・英米文学の背景となる文化、世界観について
第２回：聖書、ユダヤ、キリスト教と文学
第３回：ジェイン・オースティン『高慢と偏見』
・小説の誕生
・小説と中産階級
第４回：ジェイン・オースティン『高慢と偏見』
第５回：ジェイン・オースティン『高慢と偏見』
・中産階級の女性と結婚問題
第６回：ジェイン・オースティン『高慢と偏見』
第７回：ジェイン・オースティン『高慢と偏見』
第８回：ジェイン・オースティン『高慢と偏見』
第９回：ジョージ・バーナード・ショー『ピグマリオン』
・英国の階級社会、階級間の差異について
・階級と英語
第10回：ジョージ・バーナード・ショー『ピグマリオン』
第11回：ジョージ・バーナード・ショー『ピグマリオン』
第12回：ジョージ・バーナード・ショー『ピグマリオン』
第13回：ジョージ・バーナード・ショー『ピグマリオン』
第14回：H.G.ウェルズ『タイムマシン』
・SF小説と社会批判
第15回：H.G.ウェルズ『タイムマシン』
第16回：H.G.ウェルズ『タイムマシン』
第17回：H.G.ウェルズ『タイムマシン』
第18回：ジョージ・オーウェル『動物農場』
・小説の中の政治風刺
第19回：ジョージ・オーウェル『動物農場』
第20回：ジョージ・オーウェル『動物農場』
第21回：ジョージ・オーウェル『動物農場』
第22回：ジョージ・オーウェル『動物農場』
第23回：ジョン・スタインベック『怒りの葡萄』
・米国の資本主義とフロンティア精神
第24回：ジョン・スタインベック『怒りの葡萄』
第25回：ジョン・スタインベック『怒りの葡萄』
第26回：ジョン・スタインベック『怒りの葡萄』
第27回：ジョン・スタインベック『怒りの葡萄』
第28回：ジョン・スタインベック『怒りの葡萄』
第29回：まとめ1.
これまでのまとめ（英国編）
第30回：まとめ2.
これまでのまとめ（米国編）

【事前および事後学習の指示】
事前にある程度の作品の概要、輪郭を予習しておくことが望ましい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
試験期間内に筆記試験を行う。
試験と併せて、授業内でショートレポートや簡単な英文購読を行う。これと試験を合わせての評価とする。
出席については10回以上の欠席は不可とする。

講　義　名　称	曜　時
英米文学概論　02＜秋集＞	水3／金1

【教員名称】
佐々木　英哲

【講義概要】
本講義では小説、詩、演劇の各分野で評価の定まった芸術家（Shakespeare, O’Neill, Hawthorne, Melville, Sylvia Plath）などの作品を順次取り上げ、解釈の一例を紹介する。この時、受講生は、背後にある文化、歴史、思想なども学習する。さらに文学テキストを読み解く方法論を紹介する。最終的に受講生は論文とプレゼンテーションの指導を受ける。

【学習目標】
本講義の目的は、以下の３点である。（1）英米文学を俯瞰的に捉えること、（2）文学研究をする際に必要な基礎知識の修得を図ること、（3）プレゼン及び論文作成の作法を学ぶこと。

【講義計画】
第１回：導入：講義の進め方について
第２回：聖書と英米文学①　聖書に係る基礎知識
第３回：聖書と英米文学②　聖書と英米文学に見る家族像
第４回：戯曲を読む：Eugene O’Neillの戯曲 Long Day’s Journey into Night
第５回：聖書的主題を読む：Eugene O’Neill の戯曲 Long Day’s Journey into Night
第６回：文学批評理論①－１　精神分析批評　（フロイト）
第７回：文学批評理論①－２　精神分析批評　（ラカン）
第８回：詩の読む：Sylvia Plath, “Daddy”
第９回：精神分析学批評の実践：Sylvia Plath, “Daddy”, “Lady Lazarus”
第10回：小説の読み方
第11回：小説を読む①：Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter
第12回：精神分析学批評の実践：Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter
第13回：文学批評理論②　ポスト・コロニアリズム　新歴史主義　カルチュラル・スタディーズ
第14回：文学批評理論③　（ポスト）構造主義　（ポスト）マルクス主義
第15回：文学批評理論④　フェミニズム クィア・スタディーズ
第16回：批評理論の総括
第17回：ポスト・コロニアリズム、クィア・スタディーズの実践：Shakespeareの戯曲 Othello
第18回：小説を読む②：Herman Melville の短編小説 "Benito Cereno"
第19回：ポスト・コロニアリズム、カルチュラル・スタディーズの実践：Herman Melville の短編小説 "Benito Cereno"
第20回：クィア・スタディーズの実践：Herman Melville の短編小説 Benito Cereno
第21回：英語論文の読み方　①　構成の説明、「序論」の読解
第22回：英語論文の読み方　②　「本論」前半部の読解
第23回：英語論文の読み方　③　「本論」後半部及び「結論」の読解
第24回：論文の書き方、プレゼンの作法
第25回：イン・クラスエッセイ指導　①　ブレイン・ストーミング、アウトライン作成
第26回：イン・クラスエッセイ指導　②　本論（序論）作成
第27回：イン・クラスエッセイ指導　③　本論（結論）作成
第28回：イン・クラスエッセイ指導　④　校正
第29回：プレゼンテーション
第30回：講評と総括

【事前および事後学習の指示】
事前学習：配布資料の下読みする。60時間
事後学習：授業で扱った作品の原典を読み見直す。課題をこなす。60時間

【テキスト】

【参考文献】
ピーター・バリー『文学理論講義』（ミネルヴァ書房）ISBN: 9784623070435

【コメント】
授業への積極的な参加が求められる。ほぼ毎回、課題提出が要求される。

講　義　名　称	曜　時
応用言語学概論　＜通期＞	水2

【教員名称】
橋内　武

【講義概要】
応用言語学は、1940年代後半から50年代前半にかけて言語学の諸言語教育への応用として成立したが、現在では学際的言語学として言語学と隣接科学の中間領域に位置づけられている。そこで、本年度は言語学の基礎を学習した上で、学際的言語学と諸言語教育学の手ほどきをすると同時にキャリア形成に向けて「ことばの職業」へのオリエンテーションを行う。この科目と合わせて、関連する言語学系科目を併行履修することが望ましい。「ことばの職業」については、履修学生によるプレゼンテーション（自由選択）を課す。

【学習目標】
履修者にあっては、ことばの多様性・多面性に気付き、将来英語科教諭・日本語教師・言語聴覚士や通訳者などのことばの職業に就くために必要なことばに対する見方を養うことが、主な学習目標となる。それゆえ、言語学と関連分野に対して、広く興味・関心をもち、意欲的に学習することが大切である。

【講義計画】
第１回：イントロダクション―授業計画・教科書・参考文献・評価法等
序論　言語学とは何か―目的・対象・方法、言語の諸相（ラング・パロール、統合構造・連合体系、共時態・通時態）、理論言語学対応用言語学
第２回：世界の言語―言語数、世界と日本の諸言語、母語・第2言語・外国語（配布資料）
第３回：音声学－音声器官、母音、子音、音節とモーラ、アクセント・音調
第４回：音韻論―音素の定義、音素分析、音韻体系、音素配列、音韻構造
第５回：形態論―語の定義、形態素と異形態、語構造（語幹と接辞）、語形成
第６回：統語論（その１）―文、品詞、文法範疇（数、性、格、人称、時制、相、法、態）
第７回：統語論（その２）―一致、対格と能格、語順の類型、形式主義と機能主義、認知文法
第８回：意味論―意味とは、語の意味、句・文の意味、意味の構造分析、認知意味論
第９回：語用論―発話行為論、会話の含意、関連性理論、ポライトネス、情報のなわ張り理論
第10回：文章・談話研究―文章と談話、テクスト性（結束性と一貫性）、会話分析
第11回：社会言語学―言語の多様性、言語の変異と変化、言語移行、言語政策
第12回：接触言語学―外来語、ピジン・クレオール、バイリンガリズム・マルチリンガリズム
第13回：歴史・比較言語学―言語変化（音変化・形態変化・統語変化）、祖語・語族、再建
第14回：言語地理学―方言学、隣接分布・周辺分布・固有変化、語の変化、方言地図
第15回：春学期のまとめと試験
第16回：生物・心理言語学―動物のコミュニケーション、言語と脳、母語の獲得、第二言語習得、言語の喪失（失語症）
第17回：第二言語の習得と学習―経験説・生得説・複合説
第18回：言語の対照―対照分析・誤用分析・中間言語・学習者コーパス
第19回：言語処理―言語の記憶、言語の処理
第20回：学習者特性Ｉ―年齢・適性・性格
第21回：学習者特性Ⅱ―学習スタイル・学習の方略・動機づけ
第22回：言語教授法―文法訳読法からオーディオリンガル･メソッド（オーラル・アプローチ）まで
第23回：現代の言語教授法―コミュニカティブ・アプローチと内容重視のアプローチ（CLIL）
第24回：L2言語能力観―諸学説とシラバスモデル
第25回：学習用辞典―種類・編集・使用法
第26回：言語能力のテストと評価―テスト理論と評価法
第27回：ことばの職業（１）コミュニケーション能力とことばの職業
第28回：ことばの職業（２）国家試験合格・資格を要することばの職業
第29回：ことばの職業（３）ことばの職業案内（プレゼンテーション）
第30回：秋学期のまとめと試験

【事前および事後学習の指示】
シラバスに従って、毎回テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。事後には配布資料を再読し、理解を一層深めること。「ことばの職業」については、プレゼンテーションに向けて準備すること。

【テキスト】
ベーシック応用言語学 石川慎一郎 978-4-89476-795-9 ひつじ書房 秋学期用
言語学入門 斎藤純男 978-4-385-36421-6 三省堂 春学期用

【参考文献】
大谷泰照、『日本人にとって英語とは何か』、大修館書店、2007.
岡本真一郎　『言語の社会心理学』、中公新書
白井恭弘『ことばの力―応用言語学への招待』、岩波書店
山内進編著　『言語教育学入門』、大修館書店
中野弘三ほか監修『英語学・言語学用語辞典』、開拓社
小池生夫編、『応用言語学事典』、研究社、2003.
白畑知彦ほか著　『英語教育用語辞典』、大修館書店、1999.
ジョンソン・ジョンソン編（岡秀夫監訳）、『外国語教育学大辞典』、大修館書店、1999.
鈴木貞次編、『言語科学の百科事典』、丸善、2006.

【コメント】
期末試験50点満点×２回＝100％。プレゼンテーション（自由選択）は1回10点加算する。出席は取るが、成績評価には含めない。

講　義　名　称	曜　時
家族社会学　＜通期＞	水4

【教員名称】
木下　衆

【講義概要】
「家族」は、多くの人にとって身近であり、同時に様ざまな「すれ違い」を生むテーマでもある。例えば、結婚しても自分は働き続けたいと思っているのに、パートナーは専業主婦（主夫）になることを期待している。あるいは、自分は子どもは欲しくないのに、親からは「孫の顔が見たい」などとプレッシャーをかけられる。――こうして、身近な人とのあいだで意見のすれ違いを経験した人も、少なくないはずだ。性別や世代によって、理想とする家族の姿は、ときに大きく異なる。
この講義では、「家族」が、長い歴史の中で大きく変化し、また現在様ざまな問題を抱えていることを、社会学の視点から学んでいく。先に挙げた、パートナー間での、あるいは親子間での家族像のすれ違いは、特に19世紀末から2017年現在に至るまで、歴史的に形成されてきたものだ。それを理解するために、この講義では「子育て」や「家事」といった身近なテーマから、「生殖医療」や「貧困」といった一見縁遠いテーマまで、幅広く扱う。
家族は、非常にプライベートな関係であると同時に、制度や人びとの意識（考え方）に大きく影響される、とても社会的な関係でもある。一年を通じ、そのことを学び、最終的には今後、自らがどのような家族をつくりたいか、それぞれに考察を深めてほしいと考えている。

【学習目標】
「家族」の歴史、そして現在の問題を知ることから、（家族）社会学の視点を身につけることを目指す。
そして、講義で得た知識をもとに、どんなポイントを重視して、どのような形で自分の家族を作りたいと思うか（もちろん、シングルという生き方も含めて）、考えられるようになることを目指す。

【講義計画】
第１回：イントロダクション――「家族」を知る
第２回：近代家族の誕生①――「家庭」と「子ども」がやって来た
第３回：近代家族の誕生②――どんな「子育て」がされていたのか？
第４回：近代家族の誕生③――誰が、子育てするのか？
第５回：「家族の戦後体制」の成立①――「理想」であり、「標準」であり
第６回：「家族の戦後体制」の成立②――三歳児神話の誕生と、不安に陥る母親たち
第７回：少子高齢化の社会学①――なぜ、「少子化」になったのか？
第８回：少子高齢化の社会学②――「高齢化」で、何が起きているのか？
第９回：主婦論争からみる家族①――「家事」って何だろう？
第10回：主婦論争からみる家族②――「仕事と子育ての両立」は欲張りですか？
第11回：主婦論争からみる家族③――「専業主婦」はぜいたくですか？
第12回：主婦論争からみる家族④――結婚しないと、ダメですか？
第13回：ワーク・ライフ・バランスから考える家族①――「生活」（ライフ）に注目して
第14回：ワーク・ライフ・バランスから考える家族②――「仕事」（ワーク）に注目して
第15回：春学期のまとめ――「自分で選んだ生活」と「誰かに強いられた生活」のあいだで
第16回：「家族」をつくる――前期の復習と後期のイントロダクション
第17回：子どもを持つことの社会学①――「不良な子孫」とされた人びと
第18回：子どもを持つことの社会学②――「産む産まない」は誰が決める？
第19回：子どもを持つことの社会学③――「母よ殺すな」と「わたしが決める」のあいだで
第20回：子どもを持つことの社会学④――「命の選別」と「素朴な願い」のあいだで
第21回：子どもを持つことの社会学⑤――「自己決定の場」を豊かにするために
第22回：貧しいことの社会学①――「貧困」になっている私たち
第23回：貧しいことの社会学②――若年層に拡大する貧困
第24回：貧しいことの社会学③――子どもを育てることと、貧困
第25回：貧しいことの社会学④――「貧困の連鎖」
第26回：貧しいことの社会学⑤――連鎖を断ち切るために
第27回：セクシュアル・マイノリティと家族①――「大切な人」が認められない辛さ
第28回：セクシュアル・マイノリティと家族②――「大切な人」と暮らすために
第29回：シェアの社会学――誰と暮らす？
第30回：「家族」を知る／つくる――春・秋学期をふりかえって

【事前および事後学習の指示】
特になし。
ただし、毎回8ページ平均のレジュメを配布する予定なので、講義の後にきちんと整理して下さい。

【テキスト】

【参考文献】
講義中に指示する（特に、毎回配布するレジュメ末の参考文献欄を参照して下さい）。

【コメント】
試験は、春学期末と秋学期末の2回実施する。
それとは別に、講義時間内に執筆するミニレポート課題を、複数回課す。

講　義　名　称	曜　時
科学技術史　＜通期＞	水3

【教員名称】
本間　栄男

【講義概要】
西洋科学技術史の流れを概観する。その際、西洋科学技術の出発点としての古代ギリシャ、近代科学の考え方が生まれたルネサンス近代初頭、現代の科学の直接の機嫌である１９世紀、及び現代科学の特徴を際立たせる２０世紀前半の科学を流れに沿って考察する。

【学習目標】
科学の発展の大筋を理解して、現代文明の基盤を理解する素養を持つことが基本的な目標である。そのためには、時代ごとの科学の特徴と、著名な科学者の事績を把握しておくことが必要である。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
第２回：エジプト・メソポタミアの科学
第３回：古代（1）前ソクラテス時代の科学
第４回：古代（2）プラトンとアリストテレス
第５回：古代（3）エウクレイデス、アルキメデスと古代ギリシャ数学と技術
第６回：古代（4）古代ギリシャ・ローマの医療
第７回：古代（5）古代原子論
第８回：中世（1）イスラム圏の科学技術
第９回：中世（2）ラテン中世の科学技術
第10回：ルネサンス（1）絵画芸術
第11回：ルネサンス（2）人文主義と活版印刷
第12回：ルネサンス（3）医学
第13回：近代初頭（1）天文学の革命
第14回：近代初頭（2）錬金術と占星術
第15回：近代初頭（3）ニュートン
第16回：啓蒙主義の時代（1）博物学
第17回：啓蒙主義の時代（2）産業革命
第18回：１９世紀（1）フランス革命と科学技術
第19回：１９世紀（2）デイヴィ、ファラディ
第20回：１９世紀（3）ラマルクと前ダーウィン時代の進化論
第21回：１９世紀（4）ダーウィン
第22回：１９世紀（5）熱学とエントロピー
第23回：１９世紀（6）電磁気学
第24回：１９世紀（7）江戸時代日本の科学技術
第25回：２０世紀（1）アインシュタイン
第26回：２０世紀（2）マリー・キュリー
第27回：２０世紀（3）ボーア、ハイゼンベルクと量子力学
第28回：２０世紀（4）戦争と科学技術
第29回：まとめ
第30回：テストと解説

【事前および事後学習の指示】
科学的な話題に敏感であるように、ネットニュースや新聞での科学記事に注目すること。
授業で用いるパワーポイント教材は情報センターのＳドライブにPDFファイルとして掲載するので、復習に利用すること。

【テキスト】

【参考文献】
講義の際に指示する。

【コメント】
合否判定は、学年末テストの成績のみによって決定する。

講　義　名　称	曜　時
科学思想史　＜秋集＞	月1 ／木2

【教員名称】
本間　栄男

【講義概要】
「科学という考え方の歴史」 主に西洋思想史における「科学的なものの考え方」の成立を時代順に追う。

【学習目標】
個々の科学に関する事実に注目するのではなく、「科学という考え方」を身につけることを目的とする。そのために、科学の発生から時間順に追っていくことは、理解を容易にするだろう。

【講義計画】
第１回：イントロダクション
第２回：科学と神話
第３回：文字と思想
第４回：日常的思考と技術的思考
第５回：ソクラテス以前の自然思想（1）原理の探求
第６回：ソクラテス以前の自然思想（2）原子論
第７回：ソクラテス
第８回：プラトン
第９回：アリストテレス（1）論理学
第10回：アリストテレス（2）世界観
第11回：古代ギリシャの数学
第12回：古代ギリシャの懐疑思想
第13回：ガリレオと自然学の数学化
第14回：デカルト
第15回：科学革命論（1）近代科学の由来
第16回：科学革命論（2）近代科学の目的
第17回：ニュートンと啓蒙主義
第18回：１９世紀科学論
第19回：電気と磁気
第20回：エネルギー
第21回：エントロピー
第22回：進化思想（1）ダーウィン以前
第23回：進化思想（2）ダーウィン
第24回：ノーベル賞
第25回：相対性理論
第26回：不確定性原理
第27回：セレンディピティ
第28回：２０世紀の科学論
第29回：疑似科学
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
科学的なものの考え方に鋭敏になるために、TVの科学番組などを積極的に視聴する。

【テキスト】

【参考文献】
伊東俊太郎他『思想史の中の科学』平凡社ライブラリー　2002年金森修・井山弘幸『現代科学論』新曜社　2000年

【コメント】
学期末の試験のみで成績を決めます。

講　義　名　称	曜　時
会計学総論　＜春＞	木3

【教員名称】
中村　恒彦

【講義概要】
「できるだけ数字を使わずに学ぶ会計学」
会計学総論では、教養として必要な会計の知識・知恵を学びます。主に会計理論の原理・原則、会計理論の歴史を中心に学習します。学習内容は初歩的で会計の面白いことばかりです。正確には「会計」というよりも「経営」の数字のことといったほうがよいでしょう。

【学習目標】
この講義を通じて、論理的な考え方がどういうものかについて理解が深まればよいと思います。論理的な考え方に固執することはいけませんが、自分の視野を広げるためにも論理的な考え方が必要となります。会計学者や会計士や企業の財務担当者が考える論理の世界について体感していただければよいと思います。

【講義計画】
第１回：アカデミックスキルについて
　　会計の世界とイメージ
第２回：会計の目的
第３回：会計基準と会計制度
第４回：収支の期間配分
第５回：利益の認識と測定
第６回：複式簿記
第７回：資産・負債の認識・測定
第８回：費用配分のバリエーション
第９回：資本会計
第10回：決算書の分析
第11回：会計単位
第12回：会計情報の役立ち
第13回：監査と粉飾
第14回：会計制度の歴史
第15回：総括と試験

【事前および事後学習の指示】
財務諸表論や簿記関連科目や監査論と重複する部分が多いので、関連科目を履修することを勧める。さらに、歴史を勉強する際には、世界史や地理の知識があると楽しく講義を受講できる。

【テキスト】
はじめて出会う会計学 新版 川本 淳, 野口 昌良, 勝尾 裕子, 山田 純平, 荒田 映子 978-4641220614 有斐閣アルマ
歴史にふれる会計学 友岡賛 4-641-12027-7 有斐閣アルマ

【参考文献】

【コメント】
成績評価は以下のとおりの方法で主に行う予定にしています。本講義では①および②で主に評価する。
①授業内小テストないしレポート試験（33%）
②授業内課題ないしはミニレポート（33%）
②期末試験（33%）
講義を欠席することのフォローは一切行いません。詳しい評価方法については、初回の講義で説明します。

講　義　名　称	曜　時
会社法　01＜春集＞	月2／水3

【教員名称】
吉見　研次

【講義概要】
本講義が対象とする会社法は、会社のすべての法律問題を扱うものと誤解されがちである。だが、実際には会社法の守備範囲は限定的なものである。しかも、その内容は学生諸君にとって、いかにも疎遠な話が多そうである。「会社勤め」をする人にとっても、あまり役に立ちそうにもない。会社法上、株式会社の「主役」は株主と取締役であって、サラリーマン、サラリーウーマンではないからである。さらに、他の法律と比較しても煩瑣で技術的な規定が極めて多いのが、会社法の特徴といえる。こうした会社法の特質をよく認識したうえで特に強い学習意欲を持つ諸君が受講することを期待したい。会社法は決して万人向きの科目ではないのである。講義は事前配布のレジュメに沿って、『六法』を参照しつつ進める予定である。毎回の授業に出席し（遅刻もしないで）内容の理解に努め（私語は厳禁）、かつ毎回数時間の予習・復習をこなさない限り、会社法の知識を修得することは困難である。

【学習目標】
①会社法の全体像を把握し、株式会社法の基本的な仕組みを理解する。
②株式会社法の主要条文の内容を理解し、正確な知識を修得する。
③株式会社法の特に重要な判例の概要を理解する。

【講義計画】
第１回：会社法の歴史と構成
第２回：会社の法的性質
第３回：会社の種類
第４回：会社の法人格
第５回：株式会社の設立とその手続
第６回：株式会社の定款
第７回：株式の仮装払込
第８回：株主の権利・義務
第９回：種類株式
第10回：株式の譲渡
第11回：自己株式
第12回：株式の併合・分割
第13回：株式会社の機関と株主総会
第14回：株主総会の招集・議事
第15回：株主総会の決議方法
第16回：株主総会決議の瑕疵
第17回：取締役
第18回：取締役会
第19回：取締役・会社間の関係
第20回：会計参与・監査役
第21回：監査役会・会計監査人・指名委員会等
第22回：監査等委員会、株式会社の機関構成の選択肢
第23回：役員等の責任
第24回：株主代表訴訟
第25回：新株の発行
第26回：新株発行の瑕疵
第27回：新株予約権と社債
第28回：株式会社の計算
第29回：資本金と剰余金の配当
第30回：会社の再編

【事前および事後学習の指示】
会社法の知識を正確に修得するには、相当の時間をかけた予習・復習が不可欠である。【予習】授業時に配布された次回用レジュメ等を精読する。引用されている条文はすべて『六法』で確認し、レジュメ空欄の用語を記入する。【復習】①授業中の説明を筆記した内容を含め、レジュメ等を再読する。引用条文を『六法』で再確認する。②授業中に配布された問題を、改めて自力で解いてみる。レジュメ、『六法』等を参照しつつ、問題の全文を精査する。③授業および復習の内容を確実に知識として体得したか、確認する。

【テキスト】
ポケット六法平成29年版 山下友信･山口厚（編） 有斐閣 他の出版社の『六法』（最初の授業時に紹介する）でも可

【参考文献】
神田秀樹『会社法［第18版］』（弘文堂）
江頭憲治郎『株式会社法［第６版］』（有斐閣）
岩原紳作他編『会社法判例百選［第３版］』（有斐閣）

【コメント】
正誤文選択による短答式の学期末試験を予定している。各問いずれも４肢選択方式の計20問（１問５点、計100点）を出題するつもりである。短答式の試験は簡単だと思われるかもしれないが、実際にはそうではない。近年、実受験者の４割前後が不合格となっている。履修者は真剣かつ着実に【事前および事後学習の指示】通り学習に励まない限り、単位修得は無理であろう。

講　義　名　称	曜　時
会社法　02＜秋集＞	火2／金1

【教員名称】
瀬谷　ゆり子

【講義概要】
株式会社法を中心に、必要に応じて上場会社に適用される金融商品取引法も入れて解説する。体系的な理解ができるように、常に会社法のどの部分を論じているかを示しながら講義を進める。法制度の理解を深めるために、会社にかかわる事件が発生した場合は、可能な限り授業で紹介するので、受講者もつとめて新聞等を読む習慣をつけておいてほしい。毎回、その日の授業のアウトラインを記したＡ４サイズ紙1～2枚のレジュメを配布する。
正しく理解ができているかを確認するために、適宜「クイズ」を実施する。条文の確認は毎回行うので、自分の六法を必ず持参すること。

【学習目標】
会社法の理念に始まり、株式会社を中心とした設立から解散・組織再編を含む法制度の全体像を把握するとともに、現実の会社と経済活動と結びつけて理解できるようにすることを目指す。

【講義計画】
第１回：会社法の全体像　・どの分野を対象とする法か → 会社法（一部金融商品取引法を含む）
・商法典と会社法の関係　取引法（＝商法）と組織法（＝会社法）
・会社法の特徴的構造
・会社を巡る近時の諸問題
第２回：取引社会における会社の役割　会社概念と法人性
第３回：企業形態の選択　会社の種類
→１人か複数か、組合形態か法人形態か
第４回：理念型としての法人の特質
会社の能力　→　政治献金の可否
法人格否認
第５回：株式会社の歴史と会社法の変遷
第６回：株式会社設立　１　概要　資金調達方法
第７回：株式会社設立　２　機関　会社の区分と組織の構成
「公開会社」or「公開会社以外の会社」、「大会社」or「大会社以外」
第８回：株式会社設立　３　会社の創設　設立手続の瑕疵
第９回：株式の仕組みと株主の権利
第10回：株式譲渡　株式譲渡自由の原則
株式の取得方法　市場取引　TOB
第11回：自己の株式の取得
第12回：株式会社の機関構成
第13回：株主総会の権限　▼取締役会あり　▼取締役会なし
第14回：業務執行機関１　取締役・取締役会制度、
第15回：業務執行機関２　監査役（会）設置会社の場合
監査等委員会設置会社の場合
指名委員会等設置会社の場合
第16回：業務執行機関３　会社の代表権　代表取締役・代表執行役
第17回：取締役・執行役の行為規制　▼善管注意義務　▼忠実義務
競業規制、自己取引規制etc.
第18回：監査制度　▼大会社の監査　▼大会社以外の会社の監査
第19回：役員の責任１　対会社責任　株主代表訴訟制度
第20回：役員の責任２　対第三者責任
第21回：決算と利益配当
第22回：剰余金の分配規制
第23回：資金調達１　新株発行
第24回：資金調達２　新株予約権／新株予約権付き社債
第25回：資金調達３　社債発行
第26回：解散・清算、組織再編
第27回：企業結合１　合併　会社分割　事業譲渡
第28回：企業結合２　株式交換・株式移転
第29回：会社法の体系的理解
第30回：まとめ　会社法の全体像

【事前および事後学習の指示】
授業での話に親しみを持つために、会社に関係する事件について関心を払うことが必要です。東芝やシャープ、出光といった有名企業の話題について、新聞等の記事を注意してノートに記録しておいてください。
毎回配布するレジュメには、当日の講義に関係する部分について、テキストの該当ページが示してあります。テキストの該当部分を読み、その日のテーマと照らし合わせて、ノートを作っていってください。当日使った条文の確認は必ず行ってください。

【テキスト】
会社法概論 國友順一　編著 978-4-7823-0446-4 嵯峨野書院 この本を基本に使うが、すでに使用しているものがあればそれでもよい。ただし、新しい版であることが必要。

【参考文献】
江頭憲治郎「株式会社法（第6版）」（有斐閣、2015）
岩原紳作ほか編「会社法判例百選（第3版）」（有斐閣、2016）
なお、最新の六法（2017年版）を必ず用意すること。

【コメント】
授業中実施する「クイズ」は、法律の答案を書くための練習でもあります。受けなくてもマイナス評価とはしませんが、成績評価に際し、若干加算点として用います（ただし、解答内容に応じて、10％までの加算点とします）。一人で本を読んで理解するのは大変な分野です。出席はとりませんが、授業に出席せず試験で合格点をとるのは困難だと思ってください。

講　義　名　称	曜　時
外国史　02＜春集＞	火2／金2

【教員名称】
梅田　百合香

【講義概要】
本講義では、教職を目指し、中学・高校で歴史教育に従事することを想定している学生を前提に、世界史とりわけ西洋史について、現在の研究水準を踏まえたうえで古代から現代までの通史を解説するとともに、映像資料などを用いながら臨場感ある授業を進めていく。

【学習目標】
教育現場で児童・生徒に対し歴史をわかりやすく教えるためには、史実を熟知しているだけでなく、歴史の面白さを実感している必要がある。そこで本講義では、専門的な知識の習得を目指すことはもとより、歴史が実在した様々な人間のいわば生（せい）の帰結であり、生のプロセスにおける交渉と波及の結果であることを理解できるよう、歴史的事件のなかの人間の生き様にできるだけ注目し、過去の人類の経験から今日の問題状況を考える視点を養うことを目標とする。

【講義計画】
第１回：講義ガイダンス
第２回：ヘブライ世界とギリシア世界
第３回：ローマ世界Ⅰ—共和政ローマからローマ帝国
第４回：ローマ世界Ⅱ—専制ローマ帝国からビザンツ帝国
第５回：ヨーロッパ中世世界Ⅰ—ヨーロッパ世界の成立
第６回：ヨーロッパ中世世界Ⅱ—十字軍
第７回：大航海時代
第８回：宗教改革
第９回：ヨーロッパ主権国家体制の形成Ⅰ—スペイン、オランダ
第10回：ヨーロッパ主権国家体制の形成Ⅱ—イングランド、フランス
第11回：危機の時代の主権国家
第12回：イギリス立憲政治の発達
第13回：アメリカ独立革命Ⅰ—北アメリカ植民地
第14回：アメリカ独立革命Ⅱ—独立戦争
第15回：フランス革命とナポレオンⅠ—革命の勃発
第16回：フランス革命とナポレオンⅡ—第一共和政
第17回：フランス革命とナポレオンⅢ—第一帝政
第18回：ヨーロッパの再編Ⅰ—ウィーン体制
第19回：ヨーロッパの再編Ⅱ—革命および諸改革の運動
第20回：アメリカ合衆国の発展
第21回：第一次世界大戦
第22回：ヴェルサイユ体制下の欧米諸国
第23回：世界恐慌とファシズム諸国の侵略
第24回：第二次世界大戦Ⅰ—ヨーロッパの戦争
第25回：第二次世界大戦Ⅱ—世界戦争
第26回：戦後世界の出発と冷戦の始まりⅠ—戦後構想と国際連合
第27回：戦後世界の出発と冷戦の始まりⅠ—冷戦体制
第28回：社会主義圏の解体と地域の再編
第29回：日本の戦後史から見た世界史
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義中はノートをとり、テキストの前回の箇所や自分のノートを読んで復習しておくこと。

【テキスト】
改訂版　詳説世界史研究 木下 康彦・吉田 寅・木村 靖二　山川出版社 講義は基本的にテキストに沿って行われる。簡単な要点を記したプリントは配布されるが、復習する際にテキストは必ず必要となるので用意すること。

【参考文献】
講義内容（Word文書）は、講義後Ｓドライブ（アカウント eureka）より見ることができる。

【コメント】
成績の判定は、期末試験と中間レポートの取得点数から総合的に行う。
中間レポートの提出が期末試験を受けるための必須条件であり、
提出がなければ、期末試験を受けたとしてもD判定となるので注意すること。

講　義　名　称	曜　時
学科特殊講義－異文化見聞録－世界の文化思いつくままに　01<春>	火4

【教員名称】　英語による
Philip　Billingsley

【講義概要】
Whenever I get the chance, I like to hit the road（旅に出る）to visit somewhere new. I talk to people living there and find out about their lives, then I bring their stories home and tell them to my students. This course will be based on some of the stories I have heard in various countries and, most important, what I learned from those stories. 旅先で聴いた「異文化理解」にかかわるストーリーが講義の「ネタ」となる! 日本の学生へ: Although the lectures are in ENGLISH, I will speak very slowly and clearly so, even if you don't feel confident, please give this class a try! 英語とはいえ、易しい英語だから試してみてね！

【学習目標】
People usually think their own way of doing things is normal, so when they go abroad they may suffer from culture shock because everything is so different. But travel to other places is also a way of broadening your horizons, and a chance to learn about your own culture too. By the end of this course, I hope, you will understand the world (and yourself) much better, and the Japanese students' English listening ability will be much better too! 自分の文化のやり方しか知らない人はほかの国の習慣に接すると「カルチャーショック」にかかりやすくなる。しかし、旅は同時に、「視野を広めてくれる」からとても重要だ。ほかの文化に接することによって、自分の文化、または自分自身を見直すこともできる。このコースでは地球の文化を学びながら英語力も磨ける!

【講義計画】
第１回：Introduction to the course: how to make the lectures more interesting and easy, how to download the recordings, what you will have to do to pass the course, etc. コース内容のこと、講義の「賢い受け方」の説明、講義録音のダウンロード方法、受講生の責任などについての説明
第２回：Repeat of first lecture
第３回：Why Travel?　旅とは何か？
第４回：A Message from the Arizona Desert アリゾナ砂漠で学んだこと
第５回：The Masai people of Kenya: education vs. tradition ケニヤのマサイ族を訪ねて：義務教育の善し悪し
第６回：Continued
第７回：Islamic Egypt: from business to baksheesh エジプトのイスラム文化:　商売のルールと「バックシーシ」の再検討)
第８回：Continued
第９回：Egypt and China: tradition and the I.T. Revolution エジプトと中国：伝統社会対Ｉ.Ｔ.革命
第10回：Continued
第11回：Lessons from China's Loess Plateau: "of course" revisited 黄土高原で気づいたこと：「当たり前」を超えて
第12回：Continued
第13回：Continued
第14回：Summary of the main points コース　全体の要約
第15回：Revision and Test 試験＋まとめ

【事前および事後学習の指示】
Japanese students: 予備知識を持っていると講義中の英語が理解しやすくなる。世界地図などを利用して、個々のトピック（国、地方、項目など）について基礎的なことを先に学んでおこう！

【テキスト】

【参考文献】
特に無し

【コメント】
毎回しっかり聴かないと英語力は上達しないので出席を特に重視する。講義は全部録音されるので、リアルタイムで聞き取れなくても録音をダウンロードすれば何度でも聴きなおすことができる。
まめに受講・ダウンロードすれば思うほど難しくないはずだ。

講　義　名　称	曜　時
学科特殊講義－異文化見聞録－世界の文化思いつくままに　02<秋>	火3

【教員名称】　英語による
Philip　Billingsley

【講義概要】
Whenever I get the chance, I like to hit the road（旅に出る）to visit somewhere new. I talk to people living there and find out about their lives, then I bring their stories home and tell them to my students. This course will be based on some of the stories I have heard in various countries and, most important, what I learned from those stories. 旅先で聴いた「異文化理解」にかかわるストーリーが講義の「ネタ」となる! 日本の学生へ: Although the lectures are in ENGLISH, I will speak very slowly and clearly so, even if you don't feel confident, please give this class a try! 英語とはいえ、易しい英語だから試してみてね！

【学習目標】
People usually think their own way of doing things is normal, so when they go abroad they may suffer from culture shock because everything is so different. But travel to other places is also a way of broadening your horizons, and a chance to learn about your own culture too. By the end of this course, I hope, you will understand the world (and yourself) much better, and the Japanese students' English listening ability will be much better too! 自分の文化のやり方しか知らない人はほかの国の習慣に接すると「カルチャーショック」にかかりやすくなる。しかし、旅は同時に、「視野を広めてくれる」からとても重要だ。ほかの文化に接することによって、自分の文化、または自分自身を見直すこともできる。このコースでは地球の文化を学びながら英語力も磨ける!

【講義計画】
第１回：Introduction to the course: how to make the lectures more interesting and easy, how to download the recordings, what you will have to do to pass the course, etc. コース内容のこと、講義の「賢い受け方」の説明、講義録音のダウンロード方法、受講生の責任などについての説明
第２回：Repeat of first lecture
第３回：Why Travel?　旅とは何か？
第４回：A Message from the Arizona Desert アリゾナ砂漠で学んだこと
第５回：The Masai people of Kenya: education vs. tradition ケニヤのマサイ族を訪ねて：義務教育の善し悪し
第６回：Continued
第７回：Islamic Egypt: from business to baksheesh エジプトのイスラム文化:　商売のルールと「バックシーシ」の再検討)
第８回：Continued
第９回：Egypt and China: tradition and the I.T. Revolution エジプトと中国：伝統社会対Ｉ.Ｔ.革命
第10回：Continued
第11回：Lessons from China's Loess Plateau: "of course" revisited 黄土高原で気づいたこと：「当たり前」を超えて
第12回：Continued
第13回：Continued
第14回：Summary of the main points コース　全体の要約
第15回：Revision and Test 試験＋まとめ

【事前および事後学習の指示】
Japanese students: 予備知識を持っていると講義中の英語が理解しやすくなる。世界地図などを利用して、個々のトピック（国、地方、項目など）について基礎的なことを先に学んでおこう！

【テキスト】

【参考文献】
特に無し

【コメント】
毎回しっかり聴かないと英語力は上達しないので出席を特に重視する。講義は全部録音されるので、リアルタイムで聞き取れなくても録音をダウンロードすれば何度でも聴きなおすことができる。
まめに受講・ダウンロードすれば思うほど難しくないはずだ。

講　義　名　称	曜　時
学科特殊講義－音韻論入門　<秋集>	水4／金3

【教員名称】
Kevin　R.　Gregg

【講義概要】
音声学は言語の発音の物理学的かつ生理学的な面を調べる科学なら、音韻論は発音の心理学的な面を調べる。言語の母語話者は喋る際、身につけた規則に従う。本授業では、英語や日本語をはじめ世界のいろいろな言語を見て、言語の発音にかんする規則を見つけ出す。

【学習目標】
うまく行けば、受講者は音韻論の基礎知識を得るだけではなくて、音韻論とぴう自然科学の調べ方（データの分析や仮設形成・検証）を経験する。そのため出来る限り、担当やがただ講義を行なうばかりよりも、受講者諸君は「言語学をする」ワークショップ行ないたい。

【講義計画】
第１回：概要
第２回：自然科学としての言語学
第３回：心理学の下位分野としての言語学
第４回：言語学修得と刺激の貧困
第５回：発声器官
第６回：子音
第７回：母音
第８回：記号・表記
第９回：音・音素、分布
第10回：で一た分析・仮説検証
第11回：基底表示・表層形式
第12回：最善の説明への推論
第13回：規則と制約
第14回：弁別的組成：概要
第15回：母音の素性
第16回：主要類素性
第17回：調音点・調音様式素性
第18回：規則の形式化
第19回：α表記
第20回：語中音添加・削除
第21回：母音調和
第22回：規則の適用順序
第23回：証拠と推測
第24回：公式の種類
第25回：音節：概要
第26回：音節の構造
第27回：音節の制約」
第28回：きこえ度
第29回：最大頭子音の原理
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
Fay ce que vouldra.

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
小テストを毎週（多分12回）行ない、期末試験もある。宿題を毎回配る。宿題は採点しないが、提出しなければいけない。

講　義　名　称	曜　時
学科特殊講義－宮崎アニメの世界Ⅰ　01<春集>	水3／水4

【教員名称】　英語による
取屋　淳子

【講義概要】
“Anime”(Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works after his retirement.
This course will look at a number of Miyazaki’s movies including “My Neighbor Totoro” “Princess Mononoke” and “Spirited Away” from various angles. In addition to Miyazaki’s works other Japanese anime movies will also be taken up the history of Japanese animation will be surveyed and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company which are the most widely known.

【学習目標】
By focusing on a specific theme and work each time, the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime.
The course will not only examine the contents of the various works but will also take up such topics as the historical background to the movies the critical evaluation they received and the reaction of audiences worldwide.
Movies examined will include:
○ Miyazaki Works: “Nausicaa of the Valley of the Wind” “My Neighbor Totoro” “Princess Mononoke”
“Spirited Away” etc…
○ Other Anime Productions: “Haku-ja den” “Akira” “GHOST IN THE SHELL” etc.

【講義計画】
第１回：Introduction of the lectures
第２回：Introduction of the lectures
第３回：Starting point of Miyazaki Hayao①
第４回：Starting point of Miyazaki Hayao①
第５回：Starting point of Miyazaki Hayao②
第６回：Starting point of Miyazaki Hayao②
第７回：History of Japanese Anime①
第８回：History of Japanese Anime①
第９回：History of Japanese Anime②
第10回：History of Japanese Anime②
第11回：History of Japanese Anime③
第12回：History of Japanese Anime③
第13回：Miyazaki Hayao"s Location Scouting in Europe①
第14回：Miyazaki Hayao"s Location Scouting in Europe①
第15回：Miyazaki Hayao"s Location Scouting in Europe②
第16回：Miyazaki Hayao"s Location Scouting in Europe②
第17回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime①
第18回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime①
第19回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime②
第20回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime②
第21回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime③
第22回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime③
第23回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime④
第24回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime④
第25回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime⑤
第26回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime⑤
第27回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime⑥
第28回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime⑥
第29回：Review
第30回：Review

【事前および事後学習の指示】
詳細は講義中に指示するが、キーワードなど、自分なりの理解が深まるよう努力すること。

【テキスト】
There will be no textbook. Readings will be introduced during the course.

【参考文献】
Hayao Miyazaki：Starting Point 1979～1996　(2014)

【コメント】
Attendance＋Term paper and Final examination（in English）.

講　義　名　称	曜　時
学科特殊講義－宮崎アニメの世界Ⅰ　02<秋集>	水3／水4

【教員名称】　英語による
取屋　淳子

【講義概要】
“Anime”(Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works after his retire.
This course will look at a number of Miyazaki’s movies including “My Neighbor Totoro”
“Princess Mononoke” and “Spirited Away” from various angles. In addition to Miyazaki’s works other Japanese anime movies will also be taken up the history of Japanese animation will be surveyed and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company which are the most widely known.

【学習目標】
By focusing on a specific theme and work each time the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime.
The course will not only examine the contents of the various works but will also take up such topics as the historical background to the movies the critical evaluation they received and the reaction of audiences worldwide.
Movies examined will include:
○ Miyazaki Works: “Nausicaa of the Valley of the Wind” “My Neighbor Totoro” “Princess Mononoke”
“Spirited Away” etc…
○ Other Anime Productions: “Haku-ja den” “Akira” “GHOST IN THE SHELL” etc.

【講義計画】
第１回：Introduction of the lectures
第２回：Introduction of the lectures
第３回：Starting point of Miyazaki Hayao①
第４回：Starting point of Miyazaki Hayao①
第５回：Starting point of Miyazaki Hayao②
第６回：Starting point of Miyazaki Hayao②
第７回：History of Japanese Anime①
第８回：History of Japanese Anime①
第９回：History of Japanese Anime②
第10回：History of Japanese Anime②
第11回：History of Japanese Anime③
第12回：History of Japanese Anime③
第13回：Miyazaki Hayao"s Location Scouting in Europe①
第14回：Miyazaki Hayao"s Location Scouting in Europe①
第15回：Miyazaki Hayao"s Location Scouting in Europe②
第16回：Miyazaki Hayao"s Location Scouting in Europe②
第17回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime①
第18回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime①
第19回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime②
第20回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime②
第21回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime③
第22回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime③
第23回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime④
第24回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime④
第25回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime⑤
第26回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime⑤
第27回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime⑥
第28回：Japanese Culture in Miyazaki"s Anime⑥
第29回：Review
第30回：Review

【事前および事後学習の指示】
詳細は講義中に指示するが、キーワードなど、自分なりの理解が深まるよう努力すること。

【テキスト】
There will be no textbook. Readings will be introduced during the course.

【参考文献】
Hayao Miyazaki：Starting Point 1979～1996　(2014)

【コメント】
Attendance＋Term paper and Final examination（in English）.

講　義　名　称	曜　時
学科特殊講義－東南アジア近現代史　<春>	火2

【教員名称】
片山　須美子

【講義概要】
東南アジアはタイを除いて欧米の植民地となり、第二次世界大戦中は全域が日本の軍政下にあった。戦後の各国の独立、開発独裁やベトナム戦争の時代を経て、ASEANとして地域の統合と発展をめざすにいたった。しかし激動する世界の中で、ASEANも東南アジア各国も再び変動の時代を迎えている。日本にとってますます重要さを増している東南アジアの地域と各国の近現代史を概説する。

【学習目標】
11か国もの多くの国々から成り立ち、社会や文化も多様で複雑な地域である東南アジアについて、その近現代史から学習し、地域と各国についての基本的な知識を身につけて、現代東南アジアに対する理解を深める。

【講義計画】
第１回：東南アジアとは―地域と国々／自然と社会
第２回：近代以前の東南アジア
第３回：東南アジアの植民地化の過程（1）島嶼部
第４回：東南アジアの植民地化の過程（2）大陸部
第５回：植民地時代の東南アジア（1）政治・経済・都市
第６回：植民地時代の東南アジア（2）教育・文化
第７回：東南アジアの反植民地運動（1）初期の抵抗運動
第８回：東南アジアの反植民地運動（2）ナショナリズムの成立
第９回：アジア太平洋戦争と日本軍政（1）
第10回：アジア太平洋戦争と日本軍政（2）
第11回：冷戦と東南アジア（1）各国の独立
第12回：冷戦と東南アジア（2）ベトナム戦争と開発独裁
第13回：ポスト冷戦時代の東南アジアとASEAN（1）
第14回：ポスト冷戦時代の東南アジアとASEAN（2）
第15回：東南アジアの現在／まとめ

【事前および事後学習の指示】
東南アジアは複雑な地域なので、地図などで各国やその首都の名前や位置を把握しておく。
ネット、テレビ、新聞などで、東南アジアの最新の情報をチェックする。
毎回配布するレジメを復習して理解する。

【テキスト】

【参考文献】
『東南アジアを知る事典』（新版）平凡社. 2008年.
加納啓良『東大講義東南アジア近現代史』めこん. 2012年.

【コメント】
出席はとらないが、映像資料の感想などを日常点評価として加えることがある。

講　義　名　称	曜　時
株式会社会計　＜秋＞	水2

【教員名称】
河野　勉

【講義概要】
本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、中級程度の商業簿記（株式会社の簿記）を講義する。

【学習目標】
「経営に役に立つ簿記」という観点から実践的な話を交えわかりやすくをモットーに講義をしていく。
また、財務諸表論学習のための基礎知識や公認会計士・税理士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得を目標とするので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

【講義計画】
第１回：簿記一巡の取引と財務諸表
第２回：現金預金・有価証券取引
第３回：手形取引・債権債務取引
第４回：商品売買取引
第５回：特殊商品売買取引
第６回：固定資産取引（有形、無形、投資その他の資産）
第７回：引当金
第８回：収益と費用
第９回：純資産（剰余金、繰越利益剰余金）
株主資本等変動計算書
第10回：合併・社債の会計処理
第11回：繰延資産
税金の会計処理
第12回：決算整理・精算表
第13回：本支店会計
第14回：財務諸表（決算書）の作成
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
特になし。

【テキスト】
検定簿記ワークブック２級商業簿記　渡辺裕亘　片山　覚　北村敬子（編著）中央経済社
検定簿記講義2級 渡辺裕亘　片山　覚　北村敬子（編著）中央経済社

【参考文献】

【コメント】
定期考査の成績に、適宜ホームワークを課し、その提出物等を加味して、総合的に評価する。

講　義　名　称	曜　時
環境経済論Ⅰ　＜春＞	水1

【教員名称】
浦出　俊和

【講義概要】
環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものであり、人間の生活の豊かさを維持することと環境保全はトレード･オフの関係にある。本講義では、具体的な事例として、廃棄物問題を中心に取り上げ、その発生原因を経済学的な視点から捉え、各種の対策がもつ経済的含意について講義する。
なお、環境経済論Ⅰでは、ミクロ経済学を援用するが、講義の中で基礎的な理論も解説する予定である。

【学習目標】
本講義では、環境問題について、経済学的な視点から考察できるようになることが目標である。

【講義計画】
第１回：環境問題とは何か？－環境と経済の関係
第２回：環境問題への国際的取り組み
第３回：経済発展と環境問題（1）
第４回：経済発展と環境問題（2）
第５回：廃棄物の現状と環境問題
第６回：廃棄物の経済的特質
第７回：廃棄物の逆有償取引
第８回：ゴミ手数料有料化の実態
第９回：ゴミ手数料有料化の問題
第10回：リサイクル市場の成立条件
第11回：リサイクルのための社会システム
第12回：デポジット制度
第13回：環境政策・制度における主要概念－ＰＰＰの原則・排出者責任・拡大生産者責任
第14回：循環型社会の構築
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
新聞を毎日読むよう習慣付けること。

【テキスト】

【参考文献】
1）栗山浩一・馬奈木俊介（著）『環境経済学をつかむ』（有斐閣）
2）日引聡・有村俊秀（著）『入門環境経済学』（中公新書）

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
環境経済論Ⅱ　＜秋＞	水1

【教員名称】
浦出　俊和

【講義概要】
経済発展と環境保全の両立をするためには、まず第一に、環境財・サービスの経済的特質を理解することが必要不可欠である。本講義では、環境の特質や環境問題発生要因を経済学の理論を用いて解説するとともに、環境問題解決のための環境政策における経済的手段について取り上げる。
環境経済論では、ミクロ経済学や公共経済学を援用するが、講義の中で基礎的な理論も解説する予定である。

【学習目標】
本講義では、環境問題の特質を理解することによって、環境保全を行うことがコスト負担を伴うことであり、ゆえに、誰がそのコストを負担することが望ましいのかについて、各自が考察できるようになることが目標である。

【講義計画】
第１回：環境問題とは？－環境問題の経済学的意味
第２回：市場メカニズムとは？－需要と供給
第３回：市場均衡の経済学的意味－経済余剰について
第４回：環境問題と市場の失敗
第５回：環境問題と外部性（1）
第６回：環境問題と外部性（2）
第７回：環境問題と公共財（1）
第８回：環境問題と公共財（2）
第９回：環境政策の経済的手段と最適汚染水準
第10回：直接規制ー数量規制
第11回：間接規制－課徴金制度・補助金制度
第12回：数量規制と課徴金制度の比較
第13回：京都議定書と排出量取引制度
第14回：共有資源の利用と管理
第15回：試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】
新聞を毎日読むよう習慣付けること。

【テキスト】

【参考文献】
1）栗山浩一・馬奈木俊介（著）『環境経済学をつかむ』（有斐閣）
2）日引聡・有村俊秀（著）『入門環境経済学』（中公新書）

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
監査論［2］　＜秋＞	木4

【教員名称】
朴　大栄

【講義概要】
2008年9月のいわゆるリーマンショック後の経済停滞は世界的な経済活動の後退を生じさせ、日本においてもこれまで以上の企業倒産を引き起こしてきた。過去においても、長期の不況が多くの企業倒産を誘発してきた。倒産企業においては、経営者による不正や財務諸表の粉飾が判明することもある。最近では、倒産には至っていないものの、東芝やオリンパスの損失隠し事件に関連して会計・監査の信頼性が問題となっている。このような状況のもと、監査の中身に対する社会的関心も高まり、監査基準や公認会計士法などの大幅な改訂も実施された。
監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を図らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の情報公開制度ならびに監査制度の問題点などにも触れていくことにする。
本講義を受講する前に「ディスクロージャー制度論」を受講しておくことが望ましい。

【学習目標】
本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する金融商品取引法監査ないし会計監査を中心に、監査ならびに企業情報の公開に関する基礎知識の理解を目標とする。具体的には以下の学習目標をあげることができよう。
1．経済事件の背景を理解する。
2．企業の情報公開の内容・種類について理解する。
3．会社法、金融商品取引法、公認会計士法等、監査を取り巻く法律を理解する。
4．監査の必要性、監査の基礎理論を理解する。

【講義計画】
第１回：監査とは:
監査論の導入部分として、監査の概略を説明します。ビデオなども活用します。
第２回：財務諸表監査の歴史的変遷と監査目的の変化-イギリスからアメリカへ
第３回：財務諸表監査の歴史的変遷と監査目的の変化-貸借対照表監査から財務諸表監査へ
第４回：日本の財務諸表監査発展史
第５回：監査基準と監査環境の変化
第６回：監査の必要性
第７回：監査を要請する法律-金融商品取引法
第８回：監査を要請する法律-会社法
第９回：監査を担当する専門家-公認会計士と法律
第10回：監査を担当する専門家-公認会計士法
第11回：監査を担当する専門家-監査法人と独立性
第12回：監査人の義務と責任
第13回：監査を取り巻く組織
第14回：監査結果の報告
第15回：健全な社会と新たな課題-社会を揺るがす経済事件

【事前および事後学習の指示】
監査論の基礎として、企業情報の開示制度を勉強しておく必要がある。
受講生は日本経済新聞の経済欄および証券欄を読んでおくこと。企業の情報公開、証券取引所における株価変動、株主総会等の記事に特に注意しておくこと。
また、各自が就職希望など関心のある企業、業種について、企業情報を新聞やホームページで見ておくこと。

【テキスト】
『はじめてまなぶ監査論』盛田良久、百合野正博、朴大栄編　中央経済社

【参考文献】
講義中に適宜指示する。

【コメント】
講義中の態度も含めて、総合的に評価します。

講　義　名　称	曜　時
管理会計基礎　＜春＞	火2

【教員名称】
山田　伊知郎

【講義概要】
会計学を用いる目的によって分類すると、組織外部への報告を目的とする財務会計と、組織内部での利用を目的とする管理会計に分けることができる。組織内部で会計を利用しようとする管理会計は、経営戦略や業務計画の立案・実行に関する意思決定に深く関係するシステムである。さらに、組織構成員に組織の目標などを何がどの程度求められるのかを明らかにすることによって、人を動かす影響システムとして働く。
授業では、管理会計に関する基本的な考え方と基礎知識を提供する。その後、いくつかのテーマに沿ってケースを取り上げ、より具体的なイメージがわくような工夫をする。

【学習目標】
組織の中に存在する仕組み・システムがどのように成り立っているのかを具体的に理解する。また、仕組み・システムが作られた時の状況に依存し、環境の変化に応じて再構築を必要とされることを理解することを目的とする。管理会計の基礎知識を獲得すると同時に、受講生自身が興味を持ったいくつかのトピックスについて、深く理解し、自分の言葉で人に説明できるようになることを達成目標とする。

【講義計画】
第１回：管理会計とは（イントロダクション）
第２回：組織の管理会計（1）組織図と機能
第３回：組織の管理会計（2）コストセンターとプロフィットセンター
第４回：予算管理（1）予算の編成
第５回：予算管理（2）予算の弊害
第６回：伝統的コストマネジメント
第７回：伝統的コストマネジメントの問題点の整理
第８回：直接原価計算
第９回：CVP分析
第10回：設備投資の意思決定（1）経済性分析
第11回：設備投資の意思決定（2）差額原価収益性分析
第12回：マネジメントコントロールシステム（1）
第13回：マネジメントコントロールシステム（2）
第14回：業績管理
第15回：戦略利益の評価、まとめ

【事前および事後学習の指示】
授業の開始前に、テキストを一読しておくことをお勧めします。

【テキスト】

【参考文献】
谷武幸著（2011）『エッセンシャル管理会計　第2版』、中央経済社.
加登豊著（1999）『管理会計入門』日本経済新聞社.

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
観光英語　＜通期＞	金2

【教員名称】
平田　和彦

【講義概要】
2020年に東京オリンピックが開催させることは周知の通りである。また日本政府観光局（JNTO）によると、日本を訪れる外国人旅行者の数は年1000万人を超えている。このような社会情勢をふまえ、私たちは自国の文化・歴史などを習得し、それらを英語で紹介できるようにならなければならない。この授業では専門のテキストを使用し、これらに対しての造詣を深めていく。

【学習目標】
英語の学習を通し、日本の文化・歴史を国際社会にアピールできるようなることを目指す。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：Chapter 1 Japan's Top Three Castles（1）
第３回：Chapter 1 Japan's Top Three Castles（2）
第４回：Chapter 2 Japan's Top Three Festivals（1）
第５回：Chapter 2 Japan's Top Three Festivals（2）
第６回：Chapter 3 Japan's Top Three Mountains（1）
第７回：Chapter 3 Japan's Top Three Mountains（2）
第８回：Chapter 4 Japan's Top Three Oldest Hot Springs（1）
第９回：Chapter 4 Japan's Top Three Oldest Hot Springs（2）
第10回：Chapter 5 Japan's Top Three Gardens（1）
第11回：Chapter 5 Japan's Top Three Gardens（2）
第12回：Chapter 6 Japan's Top Three Pottery Styles（1）
第13回：Chapter 6 Japan's Top Three Pottery Styles（2）
第14回：Chapter 7 Japan's Top Three Night Views（1）
第15回：試験とまとめ
第16回：Chapter 7 Japan's Top Three Night Views（2）
第17回：Chapter 8 Japan's Top Three Famous Foods（1）
第18回：Chapter 8 Japan's Top Three Famous Foods（2）
第19回：Chapter 9 Japan's Top Three Limestone Caves（1）
第20回：Chapter 9 Japan's Top Three Limestone Caves（2）
第21回：Chapter 10 Japan's Top Three Scenic Spots（1）
第22回：Chapter 10 Japan's Top Three Scenic Spots（2）
第23回：Chapter 11 Japan's Top Three Waterfalls（1）
第24回：Chapter 11 Japan's Top Three Waterfalls（2）
第25回：Chapter 12 Japan's Top Three Disappointing Places（1）
第26回：Chapter 12 Japan's Top Three Disappointing Places（2）
第27回：Chapter 13 Japan's Top Three Ekiben（1）
第28回：Chapter 13 Japan's Top Three Ekiben（2）
第29回：Chapter 14 Japan's Top Three Udon Varieties
第30回：試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】
必ず予習し、設問に答えておくこと。

【テキスト】
Touring Japan in English Toshiyuki Sakabe 978-4-523-17788-3 NAN'UN-DO

【参考文献】
授業時に適宜紹介する。

【コメント】
欠席は6回までとする（病欠も含む）。7回以上の欠席は、いかなる理由であってもD評価とする（ただし、公認欠席は除く）。なお、授業の欠席を他の課題によって代替することはできない。

講　義　名　称	曜　時
企業倫理論　＜秋＞	金4

【教員名称】
谷口　照三

【講義概要】
＜職場での倫理的ジレンマを模擬体験してみよう＞
「企業が事業を経営する」と言われる。企業の目的は「利益追求」と言わるが、その実現には「事業を効果的に経営すること」が必要である。「事業」とは「提供すべき財やサービス」であり、「効果的に経営する」とは、「その事業を社会や人間生活のニーズ（必要性・欠乏感）に応答するように構想し、実行すること」、さらにそのために「働く人々や他の関係者・関係集団および環境との健全な諸関係を構築すること」の二点に集約できる。この二点の間の上向きの循環過程を形成することは、経営の理想であり、経営の卓越性を漸進的に探求することである。さらに、その道を進むためには、多くの人を構成メンバーとする役割分担のシステムである組織を形成し、それが有効的に機能するのみでなく、生き生きとした状態とならなければならない。そのためには、組織の内外に生じる人々の間での、また集団や団体間の利害関係が調整されていなければならない。このような利害調整は、企業のあらゆる構成メンバーがそれぞれの仕事とのかかわりの中で、なされる必要がある。今日、このような利害関係の調整は、とりわけ倫理的な視点からなられることが要請されている。「倫理的」とは、根本的には「他者への配慮」と言ってよい。今日においては、「他者」の範囲は人間に止まらない。そこには、他の生命や種々の環境が含まれる。企業という組織で働くということは、今日においては、それぞれの仕事をこのような意味での「他者への配慮」を伴った意思決定の中で遂行していくことを意味しており、その重みはますます増している。
　しかしながら、このことに関して自覚的であればあるほど、自己の中で「仕事と『他者への配慮』に関してジレンマに陥る可能性が多い。だが、この問題への適切な応答がない限り、人々が「生き生きとした状態」にはならない。いかにして、企業や職場において「倫理にかなった意思決定」が可能か。この問題は、企業という組織と共に個人の課題でもある。本講義では、意思決定に係る倫理的なジレンマの性質と「企業が事業を経営する」ことに係る倫理的意思決定の基盤をよく理解し、その上で、現実に起きた問題を題材に、「難しい選択」に悩み、「倫理に適った意思決定」を行いうる「倫理的フィットネス」を習性化するスタート台に立てるような疑似体験を用意する。

【学習目標】
　この講義を受講する学生諸君は、以下の三つの目標を設定しなければならない。①組織社会と言われる現代社会における代表的な企業を巡ってなぜ倫理が問われるのかを理解し、説明できること。②意思決定上の倫理的ジレンマの性質と倫理的四肢決定の基盤を理解すること。③疑似体験を通し、「倫理に適った意思決定」のプロセスを試行錯誤的に漸進的に身につけること。

【講義計画】
第１回：「企業と倫理」（原稿を用意し配布）、テキスト「まえがき」
第２回：テキスト第 1章「『あれも正しい』『これも正しい』—誰もが直面する『難しい選択』」
第３回：ケースメソッド（事例を用いた意思決定訓練）
第４回：テキスト第 2章「『正』対『悪』の選択—カギとなる倫理とモラルバロメーター」
第５回：テキスト第 3章「『正しい』選択を導く倫理的（エシカル）フィットネス」
第６回：ケースメソッド（事例を用いた意思決定訓練）
第７回：テキスト第 4章「核となる価値観（コア・バリュー）」（1）
第８回：テキスト第 4章「核となる価値観（コア・バリュー）」（2）
第９回：テキスト第 5章「『あれも正しい』『これも正しい』—ジレンマパラダイムの本質」
第10回：テキスト第 6章「その他の三つのジレンマパラダイム
第11回：ケースメソッド（事例を用いた意思決定訓練）
第12回：テキスト第 7章「『難しい選択』の問題を解決するための原理」
第13回：テキスト第 8章「そして『倫理』が残った」
第14回：ケースメソッド（事例を用いた意思決定訓練）
第15回：テキスト「エピローグ　健全で誠実な文化を持つ組織を構築する—経済危機時代における倫理（エシックス）」

【事前および事後学習の指示】
　学習目標を実現するためには、講義に出席するのは当然とし、講義計画に従いテキストなどを用い、予習および復習を確実に実行しなければならない。特に、テキストに出てくる事例などを自らの問題と捉え、意思決定分析（「何が問題なのか（問題の所在）」、「いくつかの考えられる意思決定案の策定（代替案の案出）」、「自分ならどのような決定を行うか（最終案の決定とその理由）」を簡素にまとめて置くこと）を実行することが肝要である。

【テキスト】
『意思決定のジレンマ』ラッシュワース・M・キダー 978-4-532-16956-5 日本経済新聞出版社

【参考文献】
適宜指示する。

【コメント】
　毎回「記名式で数分程度の時間で質問やコメントなどを書いてもらうペーパー」を配布・回収するが、これは主体的に勉強して猛ことを希望し行うものであり、出席点ではない。成績の評価は、学期末試験（50%）、課題リポート（50%）によって行うが、いずれも三つの達成目標に対応している。

講　義　名　称	曜　時
行政法各論　＜通期＞	木2

【教員名称】
寺田　友子

【講義概要】
　多様な内容を持つ行政法中、地方自治法及び公務員法を中心に講義する。両法の解釈を通じて、行政法がいかなるものであるかについて、日本国憲法との関連等をも含めて理解を深めるとともに、地方自治体の組織、人的側面について理解する。行政処分に対する争訟が行政法の体系的基礎になっているので、公務員の不利益処分の争訟方法を例に行政法とは何かについて理解を深める。

【学習目標】
　地方自治体の組織法を中心に講義する理由は、地方分権化の動きの中で、地方自治体はその機能を拡大し、その重要性を増しつつある。民主主義の学校と言われる地方自治体の根本規範である「地方自治法」について理解を深めることは、行政法の修得というだけでなく、主権者である国民、住民の人格形成にとっても不可欠と考える。
　行政法総論を履修した学生は、「地方自治法」及び「公務員法」を受講することによって、「行政法総論」の受講では十分に理解できなかった地方自治体における行政組織及び行政立法について理解を深めることが可能となる。行政法を初めて学ぶ学生は、地方自治法又は公務員法と関連する「行政処分」の争訟手続について理解することによって、行政法を全般的に理解することが可能となる。また、「行政法総論」で不十分にしか講義されない客観訴訟の1つである住民訴訟の判例を素材に地方公務員の地位についても理解を深めたい。3回生においては、「行政法総論」を履修したうえで、2回生においては、行政法総論を平行して履修することが望ましい。

【講義計画】
第１回：受講の注意、成績評価について説明する。
　　講義対象である地方自治法及び（地方）公務員法の講義をする目的及び両方の行政法体系上の位置付けを行う。
　　日本国憲法の最高法規性、法の適用過程、法源について講義を行う。
　　その上で、日本国憲法第八章の内容、特に92条が規定する「地方自治の本旨」について講義する
第２回：地方公共団体の種類と地域（1）
　　（普通地方公共団体と特別地方公共団体）
　　（法人格の意義）
第３回：地方公共団体の種類と地域（2）
　　（特別区は憲法上の地方公共団体であるか）
第４回：地方公共団体の事務
第５回：地方公共団体の執行機関である首長
　　（執行機関概念と行政機関概念について）
　　（行政機関概念と公務員概念）
第６回：（地方）公務員法
　　（特別職と一般職）
　　（特例公務員［警察官・消防職員・教員］）
　　（公務員を採用等を行う人事機関）
第７回：公務員の権利
　　（給与等請求権）
第８回：公務員の義務
　　（法令等の遵守義務）（信用失墜行為の禁止）
　　（秘密遵守義務）（職務専念義務）
　　（政治的行為の制限）（営利企業等の従事制限）
第９回：一般職公務員の労働基本権に対する制約（1）
　　（労働基本権の意義）
　　（民事責任・刑事責任・行政責任）
第10回：分限処分と懲戒処分
　　（行政処分概念について）
　　（被利益処分）
　　（裁量行為と羈束行為）
第11回：不利益処分の争訟手続
　　（審査請求と取消訴訟）
第12回：審査請求の審査機関としての人事委員会又は公平委員会
第13回：審査手続
第14回：取消訴訟の訴訟要件（1）
　　（処分性・原告適格）
第15回：取消訴訟の訴訟要件（2）
　　（訴えの利益・被告適格・出訴期間・管轄裁判所）
第16回：行政訴訟一般について
　　（主観訴訟と客観訴訟）
　　（抗告訴訟の種類）
第17回：普通地方公共団体の議会（1）
第18回：普通地方公共団体の議会（2）
　　（議会の権限）
第19回：普通地方公共団体の議会（3）
　　（議会の運営）
第20回：普通地方公共団体の執行機関（1）
　　（首長の権限）
第21回：普通地方公共団体の執行機関（2）
　　（行政委員会と委員）
第22回：普通地方公共団体の議会と首長の関係
第23回：条例、規則及び予算
第24回：普通地方公共団体の住民（1）
　　（住民の権利と義務）
　　（直接請求の種類）
第25回：普通地方公共団体の住民（2）
第26回：住民監査請求と住民訴訟（1）
第27回：住民監査請求と住民訴訟（2）
第28回：住民監査請求と住民訴訟（3）
　　（公務員に関する判例紹介）
第29回：国と地方公共国体との関係（１）
　　（関与について）
　　（係争処理）
第30回：国と地方公共国体との関係（２）
　　（協力関係）

【事前および事後学習の指示】
　地方自治体制度は、日本国憲法９章に基礎をおいていますし、行政法は、３権分立についての憲法構造の行政に関わる法ですから、憲法についての理解を前提に講義するので、統治機構を特に学習しておいてほしい。
　また、明治憲法についても理解を深めておいてほしい。

【テキスト】
ポケット六法（平成28年版）（平成29年版）　有斐閣 毎回持参して受講すること。
なお、六法以外の講義のテキストは、こちらで用意する。
自治体職員研修講座（地方自治制度・地方公務員制度・地方財政制度）・第2版 河村毅 学陽書房

【参考文献】
講義中に適宜指示する。

【コメント】
毎回チェックペーパーによる出席を採る。その際の記述を平常点として評価する。

講　義　名　称	曜　時
行政法総論　＜春集＞	月4／水1

【教員名称】
天本　哲史

【講義概要】
行政法は、行政活動に対する法的な規律のあり方を研究する学問分野である。「警察行政」「社会保障行政」「環境行政」「消費者行政」などという言葉があることからわかるように、行政活動は我々の生活に深い関連性を有し、生活の様々な場面において身近に存在する。そして、社会情勢の変化や社会の多様化・複雑化する現代においては、行政に期待される役割も増大している。そこで、本講義では、難解とされがちな行政法について、理論だけではなく、実社会とのかかわりを意識しながら学習する。

【学習目標】
本講義は、行政法の基礎的な知識の習得を目標とする。具体的には、①行政法の全体構造についての知識、②行政行為や行政指導などの個別の行為形式に関わる法的問題についての知識、③違法な行政活動に対する救済に関わる法的問題についての知識、のそれぞれの習得である。

【講義計画】
第１回：はじめに
第２回：行政と行政法
第３回：行政法の法源
第４回：法律による行政の原理
第５回：行政組織
第６回：行政立法
第７回：行政行為①
第８回：行政行為②
第９回：行政行為③
第10回：行政行為④
第11回：行政行為⑤
第12回：行政行為⑥
第13回：義務履行強制
第14回：行政上の制裁
第15回：行政指導
第16回：行政計画
第17回：行政契約
第18回：行政手続①
第19回：行政手続②
第20回：行政不服審査①
第21回：行政不服審査②
第22回：行政事件訴訟①
第23回：行政事件訴訟②
第24回：行政事件訴訟③
第25回：行政事件訴訟④
第26回：行政事件訴訟⑤
第27回：国家賠償
第28回：損失補償
第29回：情報公開
第30回：個人情報保護

【事前および事後学習の指示】
授業に際しては予習と復習を行なうこと。指定されたテキストを読んでおくこと。講義では、行政法が関係する時事問題についても触れることから、新聞等を読んでおくこと。

【テキスト】
行政法入門 第7版 藤田宙靖 4641131953 有斐閣

【参考文献】
六法（最新ものであればよい）
行政判例百選Ⅰ・Ⅱ
これら以外の参考文献については、適宜に紹介する。

【コメント】
成績評価は試験の結果を重視する。但し、任意にレポートが提出された場合には、それも加点の対象とする。

講　義　名　称	曜　時
共通自由特別講義－イエスの笑い　＜秋＞	水4

【教員名称】
滝澤　武人

【講義概要】
福音書のテキストを読みながら、イエスの「笑い」を追求します。

【学習目標】
学問的研究をふまえながら、自分自身のイエス像を模索してください。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション（新約聖書・福音書・イエス）
第２回：序章　山上の説教（マタイ福音書５～７章）を読む
第３回：１章　新たな道～洗礼者ヨハネとの絶縁
第４回：２章　祈りとは？
第５回：３章　神の国とは？
第６回：４章　微笑みと一粒の涙
第７回：５章　上品とは申せませんが･･･
第８回：６章　ローマ帝国
第９回：７章　資産家
第10回：８章　ユダヤ教体制
第11回：９章　論争物語
第12回：10章　ブラック・ユーモア
第13回：11章　逃亡生活と受難予告
第14回：12章　最後のパフォーマンス
第15回：終章　復活（いないいない、バア！）

【事前および事後学習の指示】
予習・復習が絶対に必要です。
テキストをくり返し読みながら深く考えてください。

【テキスト】
新共同訳『新約聖書』（A6判・紙装）978-4-8202-3227-8 日本聖書協会
「新共同訳」ならばどれでも良い

【参考文献】
滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書、1997年）
〃　『イエスの現場～苦しみの共有』（世界思想社、2006年）

【コメント】
＊文字通りの「特別講義」であることを覚悟し、毎時間必ず出席してください。
＊「単位取得」にはマジメな学生のネバリ強い受講姿勢がどうしても必要です。
＊「教科書」を購入し、毎回必ず持参してください。
＊最初の授業には必ず出席してください。

講　義　名　称	曜　時
共通自由特別講義－マルコ福音書を読む　＜春＞	水4

【教員名称】
滝澤　武人

【講義概要】
『新約聖書』の「マルコ福音書」を、研究をふまえながらひたすら読みぬくことが、この講義の「概要」であり「目標」です。

【学習目標】
「マルコ福音書」を学問的に読みとおすことが目標です。そこからイエスの新しい姿が浮かびあがってくるかもしれません。

【講義計画】
第１回：『新約聖書』と「マルコ福音書」の概説
以下、「マルコ福音書」のテキストを最初から最後まで順番に読みながら説明を加えていきます。
第２回：（1）
第３回：（2）
第４回：（3）
第５回：（4）
第６回：（4）
第７回：（5）
第８回：（6）
第９回：（7）
第10回：（8）
第11回：（9）
第12回：（10）
第13回：（11）
第14回：（12）
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
予習・復習が絶対に必要です。
テキストをくり返し読みながら深く考えつづけてください。

【テキスト】
新共同訳『新約聖書』（A6判・紙装）　978-4-8202-3227-8 日本聖書協会
「新共同訳」ならばどれでも良い

【参考文献】

【コメント】
＊文字通りの「特別講義」であることを覚悟し、毎時間必ず出席してください。
＊「単位取得」にはマジメな学生のネバリ強い受講姿勢がどうしても必要です。
＊「教科書」を購入し、毎回必ず持参してください。
＊最初の授業には必ず出席してください。

講　義　名　称	曜　時
共通自由特別講義－家の変容と家族　＜春＞	木1

【教員名称】
大野　啓

【講義概要】
現在の日本社会では家が表面化することは少ないが、婚姻や財産相続などの場面では、突如として家が問題となることもある。これまで、日本の家に関する議論は数多く行われてきた。しかし、現在の日本社会では従来の家概念では捉えられない現象も顕在化している。そこで、本講義では民俗学・歴史学・社会学などで家とはどのようなもとして捉えられてきたのかについて検討した上で、現在の家のあり方について再検討する。

【学習目標】
従来、日本の家がどのようなものとして捉えられてきたのかについて理解した上で、どのように家が変容してきたのかについて考えられるようにして欲しい。さらに、家の変容に家族がどのような影響を与えたのかについても考えて欲しい。

【講義計画】
第１回：ガイダンス－現在の日本における家と家意識
第２回：家とはどのような存在なのか１－労働組織としてのオヤーコ
第３回：家とはどのような存在なのか２－家と家族との関係
第４回：日本の家の特色－家産・家名・成員について
第５回：日本の家の歴史的展開１－家の成立と広がり
第６回：日本の家の歴史的展開２－近世の家と近代の家制度
第７回：家制度の影響１－民俗慣行における家の変容
第８回：家制度の影響２－家の家族化
第９回：家の周縁を構成する人々
第10回：家の変容を規定するもの－家の地域性
第11回：家意識のゆらぎと家の変容
第12回：顕在化する家族と潜在化する家
第13回：近代家族と家
第14回：日本の社会構造の転換と家・家族
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義中に指示した参考文献に、できるだけ目を通すこと

【テキスト】

【参考文献】
講義中に指示する。

【コメント】
複数回のレポート提出を要求する

講　義　名　称	曜　時
金融論Ⅰ　＜春＞	月3

【教員名称】
木村　二郎

【講義概要】
金融論Ⅰでは、主に金融全般についての基礎的な理解のための講義が中心となります。この講義は、金融という複合的な事態の理解のために、三つの観点から区別して金融を考えます。顧客の観点、制度全体を見る鳥瞰的な観点、そして、金融機関の観点からの三つです

【学習目標】
複合的で、抽象的な金融現象を、解析し、理解するための、基礎的な観点を獲得することを目標とします。

【講義計画】
第１回：講義紹介。スケジュール。
第２回：お金と経済
第３回：現金と預金
第４回：通貨制度の歴史
第５回：金融の担い手たち１　：　市中銀行
第６回：金融の担い手たち２　：　証券会社など
第７回：金融市場の構造１　：　資金循環
第８回：金融市場の構造２　：　短期金融市場
第９回：金融市場の構造３　：　長期金融市場
第10回：中央銀行と市中銀行１　：　決済システム
第11回：中央銀行と市中銀行２　：　金融政策
第12回：金融庁と金融機関１　：　金融監督
第13回：金融庁と金融機関２　：　金融システムの安定性
第14回：金融と経済
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
・詳細は講義中に指示するが、理解を深めるための予習・復習に努めること。

【テキスト】
金融入門（第2班）（日経文庫）　日本経済新聞社

【参考文献】
関根猪一郎・木村二郎・大畠重衛・小西一雄『金融論』青木書店、2000年
川波洋一・上川孝夫『現代金融論』夕斐閣、2004年
池尾和人『現代の金融入門【新版】』ちくま新書、2010年

【コメント】
学期末試験を重視する（80%）。授業時間中に作成するレポートを評価に加える（20%）。

講　義　名　称	曜　時
金融論Ⅱ　＜秋＞	月3

【教員名称】
木村　二郎

【講義概要】
金融論Ⅱでは、金融政策や金融行政の仕組みや役割の理解につとめます。この講義では、とりわけ近年、世間の耳目を集めている金融政策や金融行政、そして、それらの変化を題材に、金融の現実への理解を促します。

【学習目標】
金融現象を理解するための基礎的な観点に立ち、現実の金融の動きを自身で理解する力を獲得し、向上させることを目標とします。

【講義計画】
第１回：講義紹介。スケジュール。
第２回：金融政策と金融行政
第３回：金融行政の歴史（経済の変化と規制の変化）
第４回：金融行政の内容１（日本の金融ビッグバン）
第５回：金融行政の内容２（バーゼルⅠからバーゼルⅡへ）
第６回：金融行政の内容３（バーゼルⅢの問題点）
第７回：金融政策とは何か
第８回：金融政策の戦後史Ⅰ
第９回：金融政策の戦後史Ⅱ
第10回：金融政策の内容１（金融政策手段）
第11回：金融政策の内容２（金融調節の構造）
第12回：金融政策の内容３（新しい金融政策手段）
第13回：金融政策の内容４（金融政策の限界）
第14回：資本主義経済と金融
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
・詳細は講義中に指示するが、理解を深めるための予習・復習に努めること。

【テキスト】
金融入門（第2版）〈日経文庫〉日本経済新聞社編　日本経済新聞社

【参考文献】
関根猪一郎・木村二郎・大畠重衛・小西一雄『金融論』青木書店、2000年
川波洋一・上川孝夫『現代金融論』夕斐閣、2004年
池尾和人『現代の金融入門【新版】』ちくま新書、2010年

【コメント】
学期末試験を重視する（80%）。授業時間中に作成するレポートを評価に加える（20%）。

講　義　名　称	曜　時
経営学　01＜通期＞	水2

【教員名称】
今木　秀和

【講義概要】
この講義は、初めて経営学を学ぶ者を主な対象とするが、しかしすでにある程度経営学の知識があるが、再度経営学を学び直したいと希望する者をも意識して講義する。共通教育の経営学という基本的な性格を考えてでできるだけ幅広いテーマについてわかりやすく講義したいと考えている。経営学の基礎知識を習得してもらうことを目的とする。できるだけ質問を投げかけ、双方向の講義を心がけたいと思っている。

【学習目標】
経営学の基礎知識の習得を目標とする。各学期の途中で知識を整理し、理解を深めるために各章の知識整理的な課題を出し、数回レポートとして纏めたものの提出を求める予定である。毎回の講義において「コメント・カード」にその授業で学んだことを整理し、要点を纏めて提出してもらう。その際併せて質問・意見・要望などがあれば記入してもらう。さらに授業中に質問を投げかけ、その質問に応える形で「コメント・カード」に記入してもらうことも行いたい。「コメント・カード」で出た質問については、次回の講義で説明・解説し、要望に対しては対応策として考えていることを述べる。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション：経営学とその位置づけ
第２回：企業の特徴
第３回：企業の分類
第４回：株式会社の特徴とは何か（1）
第５回：株式会社の特徴とは何か（2）
第６回：経営学の発生
第７回：テイラーと科学的管理法
第８回：ヘンリー・フォードとフォーディズム
第９回：ファヨールと管理過程論
第10回：メイヨーと人間関係論
第11回：行動科学と統合理論（1）
第12回：行動科学と統合理論（2）
第13回：近代管理論からコンティンジェンシー理論へ（1）
第14回：近代管理論からコンティンジェンシー理論へ（2）
第15回：近代管理論からコンティンジェンシー理論へ（3）
第16回：組織とは何か（1）
第17回：組織とは何か（2）
第18回：基本的な組織形態
第19回：さまざまな組織形態（1）
第20回：さまざまな組織形態（2）
第21回：さまざまな組織形態（3）
第22回：経営戦略論（1）
第23回：経営戦略論（2）
第24回：人事管理とリーダーシップ論
第25回：マーケティング論
第26回：生産管理論
第27回：財務官理論
第28回：日本的経営論
第29回：現代社会と企業（1）
第30回：現代社会と企業（2）

【事前および事後学習の指示】
基本的には講義計画に従って進めるので、事前にテキストの該当箇所を事前学習としてよく読んでおくことを義務付ける。またテキストの各章の内容を纏める課題を出すので繰り返し取り組むことを事後学習として義務付ける。事後学習の結果は、毎学期数回レポートとして提出を求める。

【テキスト】
『テキスト経営学　第３版』　井原久光 978-4-623-05129--8　ミネルヴァ書房

【参考文献】
適宜指示する。

【コメント】
成績評価、春学期末に行う中間試験と年度末に行う試験を基本とする。経営学の基礎知識の習得がこの講義の目標であるので、知識の習得がどの程度できているかを試験によって判定する。各学期の途中で学習を整理し、理解を深め、知識を確実にするために数回のレポートの提出を求める。授業では、毎回「コメント・カード」の提出を求めるが、授業で学習してことを整理し、要点を纏めて記入するだけでなく、質問・意見・要望があれば、併せて記入してもらう。次回の授業で解説・説明・対応策を述べる。「コメント・カード」は、学習の効果を高めるためのものであるが、良いコメントに対しては評価する。上記「出席１０点」はそのような意味であり、単に出席すればよいと思わないこと！

講　義　名　称	曜　時
経営学　02＜春集＞	水1／金2

【教員名称】
信夫　千佳子

【講義概要】
経営学（マネジメント）を１から学ぼうとする学生のための授業です。現代社会において、マネジメントは誰にでも必要な教養の１つです。経営学の基礎的な知識を理解してもらうために、事例を活用しながら説明します。その事例は、パナソニック、キャノン、ホンダ、ソフトバンク、スターバックス、ドトールコーヒー、未来工業など、皆さんが知っている企業が多いですが、病院やなどのＮＰＯ（非営利）組織も加えています。さらに、ドラッガーのマネジメント理論についてアニメドラマ『もしドラ』の映像を見ながら解説し議論します。また、知識を深めてもらうために、毎回、ディスカション・テーマを提示し、学生と議論しながら進めていきます。

【学習目標】
企業の仕組みやマネジメントについて理解して、ビジネス・パーソンとして活躍するための基礎知識を修得する講義です。そのレベルは経営学の初学者を対象としたものです。また、教員とのディスカションを通じて、知識の活用力とコミュニケーション能力を向上させることも目標にしています。つきましては、単元やディスカッション・テーマに関する予習が求められます。講義予定の回は入れ替わることがあります。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション（授業の進め方）授業の方針や単位の認定について説明しますので、単位を修得したい学生には大切な情報です。
第２回：経営学とは何か－ブロードリーチ・ヘルスケア社－
第３回：企業と社会（株式会社の設立）－海援隊－
第４回：企業とインプット市場－パナソニック－
第５回：企業とアウトプット市場－富士ファイルホールディングズ－
第６回：インセンティブ・システム－未来工業－
第７回：モチベーション
第８回：リーダーシップ
第９回：キャリア・デザイン－現在の就職活動－
第10回：経営戦略とは何か－ソフトバンクモバイル－
第11回：コスト・リーダーシップ戦略－ドトールコーヒー－
第12回：差別化戦略－スターバックス－
第13回：多角化戦略－キャノン－
第14回：多角化戦略－Ｍ＆Ａと戦略的提携－
第15回：国際化のマネジメント－ホンダ－
第16回：組織構造（1）基本的な組織構造
第17回：組織構造（2）ユニークな組織－３Ｍ－
第18回：組織構造（3）組織構造の選択
第19回：経営と情報システム－事業の仕組みを変える－
第20回：ファミリービジネスのマネジメント－竹中工務店－
第21回：非営利組織の経営－医療法人の事例－
第22回：小括
第23回：マネジメントとは何か
第24回：ドラッカーのマネジメント理論を学ぶ－－マネジメントとは－
第25回：ドラッカーのマネジメント理論を学ぶ－事業とは何か－
第26回：ドラッカーのマネジメント理論を学ぶ－マーケティング－
第27回：ドラッカーのマネジメント理論を学ぶ－－イノベーション－
第28回：ドラッカーのマネジメント理論を学ぶ－リーダーの条件－
第29回：総括（1）まとめ
第30回：総括（2）質疑応答

【事前および事後学習の指示】
・授業予定の教科書の単元を読んで、授業中に提示するディスカッション・テーマや課題について考えておいてください。
・試験の時に解答できるよう復習もしておいてください。

【テキスト】
１からの経営学（第２版）加護野忠男・吉村典久 978-4-502-69610-7 中央経済社

【参考文献】
追って紹介します。

【コメント】
・試験とは別に、授業中の１回の発言に関して最大5％（１日）を最大30％まで加点します。
・授業中に発言していただくので、講義に集中できる快適な授業環境を維持するよう協力いただきたいです。

講　義　名　称	曜　時
経営学　04＜秋集＞	火4／金2

【教員名称】
正亀　芳造

【講義概要】
経営学は、企業（会社）を対象とする学問です。本講義では、企業（会社）の仕組みや行動を可能な限り具体的事例を交えながら講義します。
大学を卒業すれば、皆さんの多くが働く場として選ぶのは企業です。あるいは、起業したいと思っている人もいるでしょう。本講義の目的は、皆さんの将来にとってこのように深い関わりを持つ企業について、その基本的知識を身につけることにあります。

【学習目標】
本講義は、以下の４つを学習の到達目標としています。
目標１：会社の役割と仕組みを説明できる。
目標２：会社における社員の役割、モチベーション、育成について説明できる。
目標３：会社の基本職能について説明できる。
目標４：現代企業の新動向について説明できる。
補　足：毎回の授業で話す「重要キーワード」について説明できれば、目標1～4は達成することができます。

【講義計画】
第１回：授業の進め方
第２回：会社の経営とはどんなことか
第３回：会社はどのようにして社会に役立っているのか
第４回：会社は誰が動かしているのか（１）株式会社とその機関
第５回：会社は誰が動かしているのか（２）コーポレートガバナンス
第６回：会社はどのような方針で動いているのか（１）経営理念
第７回：会社はどのような方針で動いているのか（２）経営戦略
第８回：会社はどんな仕組みで動いているのか（１）経営組織の基本モデル
第９回：会社はどんな仕組みで動いているのか（２）日本の経営組織
第10回：第１回中間確認テストとこれまでの講義のまとめ
第11回：会社は他の会社とどのように協力しているのか（１）企業集団と系列・下請
第12回：会社は他の会社とどのように協力しているのか（２）ネットワーク組織、戦略的提携
第13回：会社はどのようにしてモノを造るのか（１）テイラー・システム
第14回：会社はどのようにしてモノを造るのか（２）フォード・システムとその後
第15回：社員は仕事をどのように分担しているのか
第16回：社員はなぜ働くのか（１）モチベーション
第17回：社員はなぜ働くのか（２）リーダーシップ
第18回：社員はなぜ組織にとどまろうとするのか（１）雇用システム
第19回：社員はなぜ組織にとどまろうとするのか（２）雇用管理の新動向
第20回：第２回中間確認テストとこれまでの講義のまとめ
第21回：社員はどのような報酬を求めるのか（１）報酬と賃金
第22回：社員はどのような報酬を求めるのか（２）賃金体系の変遷
第23回：社員はどのようにして育てられるのか（１）人材育成
第24回：社員はどのようにして育てられるのか（２）キャリア・デザイン
第25回：会社はどのようにしてモノを売るのか
第26回：会社は海外でどのようにして経営しているのか
第27回：会社は資金をどのように調達しているのか
第28回：会社は利益をどのようにして測定するのか
第29回：経営学とはどんな学問か
第30回：総括

【事前および事後学習の指示】
第２回目以降の講義を受講するには、その準備として、予め講義で指定したテキストの該当部分を事前に読み、要点をノートにまとめておくこと。また、講義の受講後は、重要キーワードを中心に復習するとともに、他の文献や資料を活用してさらに深く調べるように努力すること。

【テキスト】
『経験から学ぶ経営学入門』上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明　有斐閣

【参考文献】
吉田和夫・大橋昭一（監修）深山明・海道ノブチカ・廣瀬幹好（編）『最新　基本経営学用語辞典（改訂版）』同文舘出版、2015年。
その他、講義中に適宜指示します。

【コメント】
期末試験の成績をもとに評価を行います。
ただし、講義中の優れた質問ないし発表、レポートの成績の合計を期末試験の成績に加点します。（加点についての詳細は、第１回目の講義時に説明します。）

講　義　名　称	曜　時
経営学史Ａ　＜春＞	火4

【教員名称】
野田　俊範

【講義概要】
経営学は、ドイツとアメリカにおいて20世紀初頭に成立した若い学問であり、これら両国および日本において、今日までめざましい発展を遂げてきた。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響を受けてきたのである。
本講義では、そのドイツ経営学のなかでも特に経営社会学と呼ばれる学問の、生成・展開の歴史を概観する。あわせて、経営における人間過程に関する具体的現実としての経営社会政策についても取り上げる。
ドイツ経営社会学・経営社会政策の歴史を学ぶことを通じて、経営共同体の理念を中心概念とするドイツ的な経営思想の意義や可能性について考えてほしい。

【学習目標】
1. 経営社会学の歴史を学ぶ。
2. 経営社会政策の歴史を学ぶ。
3. ドイツ的経営思想・経営理念について考える。

【講義計画】
第１回：はじめに
第２回：経営社会学の生成
－経営社会学とは何か
第３回：古典派の経営社会学（1）
－ドイツ合理化運動の展開
第４回：古典派の経営社会学（2）
－経営社会学の萌芽
第５回：古典派の経営社会学（3）
－経営社会学と労働疎外･･･ブリーフスの労働疎外論
第６回：近代派の経営社会学（1）
－技術と人間労働の和解･･･ポピッツ・グループによる研究
第７回：近代派の経営社会学（2）
－技術の進歩と「労働の二極分化」･･･ケルン＝シューマンによる研究
第８回：ドイツ的経営政策と経営理念（1）
－ヘル・イム・ハウゼ的労資関係
第９回：ドイツ的経営政策と経営理念（2）
－企業自主化の構想／立憲的工場制度
第10回：ドイツ的経営政策と経営理念（3）
－経営共同体思考の展開
第11回：共同決定と経営社会学（1）
－ドイツにおける共同決定制度
第12回：共同決定と経営社会学（2）
－共同決定と経営社会学
第13回：労働の人間化と経営社会学（1）
－ドイツにおける労働の人間化
第14回：労働の人間化と経営社会学（2）
－労働の人間化と経営社会学
第15回：おわりに

【事前および事後学習の指示】
適宜指示します。

【テキスト】

【参考文献】
若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房、2005年。
面地豊『経営社会学の生成』千倉書房、1998年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

【コメント】
学期末試験により評価する。

講　義　名　称	曜　時
経営学史Ｂ　＜秋＞	火4

【教員名称】
野田　俊範

【講義概要】
テーマ：ミクロ経済学「この本だけをじっくり読めば必ず理解できる」と豪語する標準的教科書に挑戦
●事前知識は必要なく、重要な高２程度の数学は授業でもカバーしますから、ミクロ経済学の標準的なテキストを読み通し、体系的なモデル思考の習得を目指す意欲的な受講を期待します。最重要なのは、数学スキルの有無ではなく、論理的なテキストを読み通す根気と習慣づけという地味な要素です。

【学習目標】
第１に、論理的なテキストの通読による読解力の向上と、市場とゲームの標準モデルの理解、第２に、問題練習による理解度の自己診断能力とモデル思考力の自覚、第３に、これらのスキルと知見を他の応用科目や実生活に活用できるようになることです。

【講義計画】
第１回：履修・学習の便益と費用
●ミクロ経済学は、ほぼあらゆる人間・企業・産業に応用できるため、経営や法律・政治などにも非常に大きな学習便益を有する便利な道具です。しかし同時に、抽象的なテキストを読み数式にも慣れる自制心や忍耐力という費用もかさむため、経済学的な考え方のできる人もは少ないのが現状です。　そこで初回は、アナタの予算にあうか合理的な判断をして頂くための重要な履修情報を説明しますので、くれぐれも（行動経済学ないし経済基礎Aで言う）直感君ではなく、熟考様を呼び起こして判断しましょう。
第２回：ミクロ経済学の射程・威力・発展
第３回：経済学における微分の便利な役割
第４回：消費1：効用最大化モデル
第５回：消費2：スルツキー分解と需要曲線
第６回：ラグランジュ未定乗数法の活用
第７回：Review: 学習法と理解度の自己診断
第８回：生産1：利潤最大化モデル
第９回：生産2：複数の生産要素と長期モデル
第10回：市場1：部分均衡モデル
第11回：市場2：部分均衡モデルの使い方
第12回：市場3：一般均衡モデル
第13回：市場4：厚生経済学の基本定理
第14回：合理的主体と競争市場の均衡モデル【Exam-1】
第15回：総括1：競争市場の機能
第16回：市場の失敗・政府の失敗と戦略的思考
後半は、ゲーム理論を中心に、外部性・公共財・独占・寡占・情報の諸問題と対策について学習します。
第17回：外部性の内部化
第18回：公共財の最適供給
第19回：独占モデル
第20回：価格差別
第21回：静学（同時）ゲーム1：純粋戦略とナッシュ均衡
第22回：静学（同時）ゲーム2：寡占モデル<1>
第23回：静学（同時）ゲーム3：混合戦略
第24回：動学（逐次）ゲーム1：サブゲーム完全均衡
第25回：動学（逐次）ゲーム2：コミットメントと寡占モデル<2>
第26回：動学（逐次）ゲーム3：長期的関係と協調
第27回：保険とモラルハザード
第28回：逆選択とシグナリング
第29回：不完全競争・情報と戦略的行動【Exam-2】
第30回：総括2：戦略と情報の活用

【事前および事後学習の指示】
上記の指定テキストの事前読解と下記の教員サイトの授業スライドの問題練習が学習の基本です
●経済学部教員サイト：http://rio.andrew.ac.jp/~yane/

【テキスト】
『ミクロ経済学の力』神取道宏　日本評論社

【参考文献】
上記指定テキストの通読がメインですが、実証に興味が持てれば、石田基広（2015）『新米探偵、データ分析に挑む』SBクリエイト、ゲーム理論の概観には、鈴木豊（2016）『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房、が図書館にある読みやすいガイドです。

【コメント】
学期末試験により評価する。

講　義　名　称	曜　時
経営学総論　02＜秋集＞	水1／金2

【教員名称】
谷口　照三

【講義概要】
＜経営学を体系的に学び、将来に向けての構想力を基礎づけよう！＞
経営学は、産業革命が一段落を迎え、工場制機械生産と組織労働が一段と進展した19世紀末ごろから20世紀初期にかけ、誕生したと言われている。その契機は、そのような社会情勢の中で、「如何に企業が事業を効果的に経営するか」の探究であった。その後の経営学の発展は、その時々の歴史的社会的状況に対応し、その探究の幅を広げ、かつ深める歩みであった。
企業の目的は「利益を追求すること」と言われているが、その実現のためには、その時々の歴史的社会的状況に対応し、「事業を効果的に経営すること」が必要である。「事業」とは「提供すべき財やサービス」であり、「効果的に経営する」とは、「その事業を社会や人間生活のニーズ（必要性・欠乏感）に応答するように構想し、実行すること」、さらにそのために「働く人々や他の関係者・関係集団および環境との建設的な諸関係を構築すること」の二点に集約できる。近年、かかる二点に焦点を当て、それを視座として「経営の新しいあり方」が実践的にも、理論的にも探求されている。それは、「CSR（Corporate Social Responsibility）経営」と呼ばれている。私は、それを「責任経営」と呼んでいる。
本講義では、経営学の歴史を概観することを通し、経営学の全体像を体系的に解釈することを試みたいと思う。さらに、現代社会の問題状況を背景に経営学の将来への課題を確認するとともに、そこに市民であり、消費者であり、また働く者としての我々がどのようにかかわることが必要かを、つまり我々の課題は何かを展望してみたいと思っている。
テキストは使用しない。資料、レジュメ、原稿などを配布する。

【学習目標】
受講生は、経営学が探求してきた課題が歴史的社会的状況を文脈として形成されてきたことに注意を向けながら、「企業が事業を経営すること」の仕組みを理解し、その上で21世紀という「新しい社会における新しい経営のあり方」を自ら、一人の参加者として展望できなければならない。その為に理解すべき多くの用語がある。講義のなかで、重要な用語等を提示、解説する。受講生は、それらの用語を理解し、他者に説明できるようにならなければならない。

【講義計画】
第１回：経営学総論について
第２回：序論：現代社会と経営学（1）—人間生活と社会の発展—
第３回：序論：現代社会と経営学（2）—近代文明と工業化の進展—
第４回：序論：現代社会と経営学（3）—内省的近代化と経営学の課題—
第５回：第1部　経営学の生成と発展　第1章 各国の相関関係
第６回：第2章　経営学生成への論点の移行—事業、企業、経営概念の歴史的生成過程—
第７回：第3章　経営課題の論点移行と経営学の発展
第８回：第4章　マネジメント・サイクルにおける論点移行と経営学の深化
第９回：第5章　経営学における主要諸概念と理論的枠組み
第10回：第2部　事業論の展開　第6章　人間生活と事業の問題
第11回：第7章　工業化社会における事業と産業
第12回：第8章　科学技術と事業と産業構造の発展
第13回：第9章　事業と産業構造の発展と人間生活
第14回：第10章　内省的近代化と新たな事業展開の可能性
第15回：第3部　企業論の展開　第11章　事業の経済的基盤整備と企業制度
第16回：第12章　資本結合体と企業形態分類
第17回：第13章　工業化社会と株式会社形態の特徴
第18回：第14章　株式会社形態の発展と問題点
第19回：第15章　内省的近代化と資本結合体の新たな発展の可能性
第20回：第4部　経営論の展開　第16章「事業と企業の統合作用」としての経営—その構造面と機能面としての「組織と管理」—
第21回：第18章　「組織と管理」とその理論的探究のいくつかの例
第22回：第19章　「組織」の形態に焦点を当てた「組織発展論」—
第23回：第20章　「管理」を担う人の特性に焦点を当てた「リーダーシップ論」
第24回：第21章　「事業と企業の統合過程」としての経営の具体的過程（購買、生産、販売、財務、労務の典型的な五つの過程）と機能別（部門）管理論
第25回：第22章　購買管理論、生産管理論、マーケティング論、財務管理論、労務管理論及びサプライチェーン経営論に関する補論
第26回：第23章　「事業と企業の統合過程」と経営理念論および経営戦略論（事業戦略論、企業戦略論を含む）
第27回：第24章　内省的近代化と経営を巡る新たな動向：企業経営から事業経営への変革を要請するCSR論
第28回：第25章　経営学の広がりと深みに向けて—環境問題、倫理問題、ガバナンス問題を取り込んだCSR経営論としての再生—
第29回：第26章　「新しい社会における新しい経営のあり方」への展望—新たな基盤としての多元的利害関係と連帯の必要性—
第30回：第30回　結論—経営学の回顧と将来展望—

【事前および事後学習の指示】
学習目標を実現するためには、講義に出席するのは当然とし、シラバスないし開講時配布する講義計画に明示している該当部分、配布するレジュメ、資料等や指定する参考書を用い、予習および復習を確実に実行しなければならない。数回、切りのよいところで、小テストを実施したり、適宜、数回リポートを課す。これらに応答するための事前準備も肝要である。

【テキスト】

【参考文献】
経営学史学会編『経営学史事典（第２版）』文眞堂、2012年。コリン・メイヤー著、宮島英昭監訳、清水真人・葛西卓弥訳『ファーム・コミットメント—信頼できる株式会社をつくる—』NTT出版、2014年。Colin Mayer, Firm Commitment: Why the corporation is failing us and how to restore trust in it, Oxford University Press, 2013.）。それ以外は、適宜指示する。

【コメント】
毎回「記名式で数分程度の時間で質問やコメントなどを書いてもらうペーパー」を配布・回収するが、これは主体的に勉強してもうことを希望し行うものであり、出席点ではない。成績の評価は、区切りのよいところでの（理解度の確認のための）小テスト（20%）、適当な時期でのいくつかの課題リポート（30%）、および学期末試験（50%）によって行う。

講　義　名　称	曜　時
経営学特講－会計とグローバリゼーション　<秋>	木1

【教員名称】　英語による
柴　理梨亜

【講義概要】
この講義は英語と日本語を交えて、グローバルな視点で会計について考えることができるために、様々な視点から会計について学習する。それぞれの意見を交換して、様々な考え方や発想を学ぶ。
This class will be conducted in English and Japanese. We will learn about the role of accounting in the global economy. We will exchange opinions and learn about new concepts.

【学習目標】
会計や関連知識の学習とともに、様々なビジネスの専門英語学習や文化について理解する。
プレゼンテーション能力を高める。
The goal will be to learn about accounting in relation to other fields, as well as learn Japanese technical words on accounting and understand culture differences. Also to improve presentation skills.

【講義計画】
第１回：講義の流れやメインテーマや活動内容についての紹介。
Introduction and brief explanation of the class main theme and learning activities.
世界経済とグローバリゼーション。
World economy and globalization
第２回：国際的な事業の展開。
Doing business worldwide
第３回：ビジネスと会計。なぜ会計が必要なのか。
Business and accounting. Why accounting is necessary?
第４回：経済と会計．会計がどのように経済に影響しているのか。
Economy and accounting. How accounting influences economy?
第５回：会計と文化。どうして会計は各国で異なる発展をしてきたのか。
Accounting and culture. Why accounting had developed differently in each country?
第６回：会計と環境。環境会計とは何か？
Accounting and environment. What is environmental accounting?
第７回：会計の道具である簿記の発祥の歴史。
Brief history of bookkeeping, which is the tool of accounting.
第８回：簿記と会計
Bookkeeping and accounting
第９回：会計の目的
Objectives in accounting
第10回：会計原則と会計基準。世界共通の基準に向けた動き。
Accouting principles and accounting rules.
The movement towards having a uniform international accounting rules.
第11回：企業の財務報告
Financial reporting of enterprises
第12回：財務報告の事例プレゼンテーション
Presentations of financial reporting of listed companies
第13回：財務報告の事例プレゼンテーション
Presentations of financial reporting of listed companies
第14回：世界と国際財務報告基準（IFRS）
International Financial Reporting Standards（IFRS）worldwide
第15回：総括と討議
Final review and discussions

【事前および事後学習の指示】
講義の一部は英語で実施されるので、英語でコミュニケーションがとれるための学習をしておくこと。
Part of the class will be in Japanese, so try to study some Japanese imnportant phrases

【テキスト】

【参考文献】
必要に応じてプリントを廃部
Printed material will be distributed in class

【コメント】
テキストがないため、クラスでの説明、議論や発言がとても大切。
学生は最後にスライドを準備してプレゼンに挑戦してもらいます。
The discussions and work in class are very important.
Students will be required to make a presentation in class at the end.

講　義　名　称	曜　時
経営学特講－経営学部生のための基礎数学　<春>	土1

【教員名称】
山田　佳邦

【講義概要】
＜基礎数学の学習をすると、就職試験の学力がつく＞
小学校の算数から始まり、高校の基本的な数学と一般常識を含めた内容になります。今まで算数から数学を学ばれて色々な思いを持たれていると思います。計算は得意だけれど図形は苦手、その逆もあります。また文章題が苦手な人、特に応用問題、そして数学全般に苦手な人または得意な人がおられると思います。今回の講義を通して算数、数学への見直しと自分なりの勉強の仕方を見つけてほしいと思います。必ず新しい発見があると思います。

【学習目標】
算数・数学の基礎知識を実践的に修得するために教材「ＳＰＩ３」の非言語問題と数学の雑学知識やパズルを利用したいと考えています。最初はなかなか思うように解けないかもしれませんが、諦めずに自分なりのやり方を見つけてください。
答えは後で伝えますが、考えることが大切です。諦めずに挑戦してください。できるかどうかよりもその考える姿勢から自分の学力を知り、どのようにすると効果的に学力をつけられるかその工夫する力を身につけることが目標です。
きっと他の学問、ひいては進路を決定するときに大いに役立つものと信じております。

【講義計画】
第１回：基礎数学の概略・ＳＰＩ３の導入と基礎演習
第２回：推論・論証①
第３回：推論・論証②
第４回：割合
第５回：損益算
第６回：代金の問題
第７回：距離・速さ・時間、通過算
第８回：つるかめ算・年齢算・和差算
第９回：濃度算・水槽算・仕事算
第10回：集合・順列
第11回：組み合わせ・確率
第12回：資料問題
第13回：グラフの領域・実践演習１
第14回：ものの流れと比率・ブラックボックス・図形問題・実践演習２
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
テキストを事前に必ず購入しておいてください。できれば前もって読んでおくことが望ましいです。

【テキスト】
２０１８年度版就活生１０００人に聞いたこれが出る！ＳＰＩ 新星出版社編集部 ISBN978-4-405-01905-8 新星出版社 ２０１７年度版でも可

【参考文献】
「ＳＰＩ」と「数学の雑学とパズル」の関連の本

【コメント】
講義に出席することが大切です。それと課題を出しますので、その次の回に提出していただいたり、発表していただくこともあります。試験問題は講義の内容から出題されます。

講　義　名　称	曜　時
経営学特別講義－国際財務報告　＜春＞	木2

【教員名称】　英語による
柴　理梨亜

【講義概要】
The distributed material will be explained　and discussions will be held in each class so that all the students can share ideas about different topics on International Financial Reporting Standards and how they are settled, taught, applied, checked and revised.

【学習目標】
The objective of this course is to understand the role and importance of the International Financial Reporting Standards (IFRS) and the IASB for the diclosure of the financial situation by listed companies in the global context.

【講義計画】
第１回：International financial reporting.
The importance of accounting information.
International Accounting and Harmonization Process
第２回：How the internationalization movement started.
International Accounting Standards Committee (IASC) and International Accounting Standards
第３回：Process of restructuring IASC and reasons for the restructuring
第４回：International Accounting Standards Board (IASB) and International Financial Reporting Standards (IFRS)
第５回：IASB Constitution　and due process for standard setting.
第６回：Convergence between IFRS and US GAAP and influence on Japanese reporting standards
第７回：Efforts towards convergence between IASB and ASBJ
第８回：IFRS and accounting standards in Japan.
Comparison of financial statements of listed companies in Japan.
第９回：Examples of financial reports of listed companies in Japan.
第10回：Examples of financial reports of listed companies in Japan.
第11回：Understanding the structure of the rule base vs. principle base
第12回：Presentation of financial statements under IFRS
第13回：IFRS arround the world. Convergence or adoption?
第14回：students presentation
第15回：Students presentation

【事前および事後学習の指示】
・Try to participate actively in class discussions.
・Search always for the latest information on related topics.

【テキスト】

【参考文献】
-International Financial Reporting Standards (IFRSs) International Accounting Standards Board.
http://www.ifrs.org

【コメント】
Participation in discussions held in class will also be considered for final marks.
Students will make a presentation about a company's disclosure of financial and other information.

講　義　名　称	曜　時
経営学特別講義－日本企業のグローバル戦略　＜秋＞	月3

【教員名称】　インテ・英語による
櫻井　結花

【講義概要】
経済情報処理論Ⅰ」と「経済情報処理論Ⅱ」は同一年度に履修することをお勧めします。Ⅰで触れることができなかった部分はⅡで扱います。

この講義では、主に経済学部生が今後の学習/研究活動に応用できるように、情報処理の技術や背景などについて説明します。
経済学に限らず、今日では情報処理は私たちの生活に無くてはならないものとなっています。人々の様々な活動を記録し、大量のデータを素早く正確に処理し、そこから得られる知見を様々な分野で活用するにあたり、「なぜ動くのか？」「どういうことができるのか、（現状では）できないのか？」「現在はどのように活用されているか？」「将来の応用可能性は？」といった点を押さえながら概説します。

【学習目標】
情報技術の基礎知識について学習し正しく理解することで、経済学およびその他社会科学の学習において情報技術を活用するための土台をつくり上げることを目標としています。

【講義計画】
第１回：イントロダクション（講義内容詳細説明、アンケート等）
第２回：情報の歴史（人は情報とどう向き合ってきたか）
第３回：情報社会の現状（インターネット、スマートフォンの台頭）
第４回：情報の数値化（デジタル化とはどういうことか、その利便性について）
第５回：コンピュータの歴史（登場から高機能化、汎用化、小型化へ）
第６回：コンピュータの仕組み1（部品の構成と役割）
第７回：コンピュータの仕組み2（基本ソフトウェアについて）
第８回：コンピュータの仕組み3（アプリケーションの概念）
第９回：ソフトウェア詳説1（データとプログラム）
第10回：ソフトウェア詳説2（プログラム言語の種類と特徴）
第11回：アルゴリズム概論（各種アルゴリズムの紹介）
第12回：コンピュータの仕組み4（ネットワークの仕組み）
第13回：インターネットとWWW
第14回：経済学、その他社会科学とコンピュータの関係
第15回：これまでの講義まとめ、最終試験

【事前および事後学習の指示】
準備学習が必要な項目については、講義中に適宜指示します。
また、必ず講義ノートを取り、それを参考に講義中に話した項目について調べなおすことで復習してください。

【テキスト】

【参考文献】
講義内で適宜提示します。

【コメント】
Attendance means participation which include in-class discussions and mini-tests。

講　義　名　称	曜　時
経営管理論　01<春集>	月3／木4

【教員名称】
村上　伸一

【講義概要】
《マネジメントの本質を求めて》
経営管理（マネジメント）論はアメリカ経営学の中心に位置し、１世紀余りの歴史をもっています。支配から、価値を創造する協働の適応的調整としてのマネジメントへの人々の意識のシフトは、自由や機会平等といった基本的人権を基盤とする近代市民社会の成立に由来すると考えられます。
経営管理の場は組織ですから、経営管理論と組織論とは一体的に発展を遂げています。現代社会は企業、学校や病院など多様で膨大な数の組織から構成されていますが、本講義では、主に企業に焦点を絞ることにします。現代の日米中を中心にして、アジアや欧米のビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら、組織と管理に関する理論を学んでいきましょう。

【学習目標】
本講義では、既述のように，企業に焦点を絞り，３大経済大国の日米中を中心にビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら、組織と管理に関する理論を学習します。実態を分かりやすく捉えるために，映像資料を積極的に活用します。
21世紀将来を見据えて、主に基盤的理論を学習しますが、学習を通して、実践的有用性のみならず、知的な面白さも実感し、自ら学ぶ意思を固めていくこと、これが当面の目標となります。
皆様が社会で活躍する頃には古びた過去となる今の企業の経営管理の実態を知ったり、その諸理論を学ぶ意味はどこにあるのでしょうか。講義はここからスタートします。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：イントロダクション
第３回：現代の経営管理の諸相
第４回：経営管理とは何か
第５回：経営管理者の階層
第６回：経営管理者の職能
第７回：経営学と経営管理論
第８回：経営管理学説の今日における意味
第９回：テイラーの科学的管理法
第10回：人間関係論と人間資源論
第11回：管理過程論
第12回：近代経営管理論（1）
第13回：近代経営管理論（2）
第14回：基礎理論としてのバーナード理論
第15回：中間試験と中間のまとめ
第16回：現代組織の諸相
第17回：経営組織のミクロ理論
第18回：経営組織のマクロ理論
第19回：経営組織論の総括的展望
第20回：現代企業戦略の諸相
第21回：戦略的経営管理とは何か
第22回：経営戦略の内容とレベル
第23回：経営多角化と投資利益率
第24回：企業ポートフォリオ分析
第25回：競争戦略論
第26回：持続的競争優位の源泉としての独自能力
第27回：ダイナミック・ケイパビリティ
第28回：グローバル戦略経営管理論
第29回：価値創造の経営管理論の展望
第30回：コンクルージョン

【事前および事後学習の指示】
予習･復習をしましょう。予習として，毎回の講義内容の教科書該当ページを予め読んで出席すること。復習として，板書書き写しのノートに教科書などを利用して書き加えていき，その内容を充実させましょう。

【テキスト】
価値創造の経営管理論（改訂５版）村上伸一　創成社

【参考文献】
眞野　脩『組織経済の解明』文眞堂、1978年。
図書館で読むことができます。その他、適宜紹介します。

【コメント】
中間・期末試験成績により評価します。映像資料や教科書利用のミニ・レポートを講義中に書いていただき、それを評価に加えることがありますので、毎回教科書を持参下さい（試験点数に最大で５％プラス）。

講　義　名　称	曜　時
経営管理論　02<秋集>	月2／木4

【教員名称】
村上　伸一

【講義概要】
《マネジメントの本質を求めて》
経営管理（マネジメント）論はアメリカ経営学の中心に位置し、１世紀余りの歴史をもっています。支配から、価値を創造する協働の適応的調整としてのマネジメントへの人々の意識のシフトは、自由や機会平等といった基本的人権を基盤とする近代市民社会の成立に由来すると考えられます。
経営管理の場は組織ですから、経営管理論と組織論とは一体的に発展を遂げています。現代社会は企業、学校や病院など多様で膨大な数の組織から構成されていますが、本講義では、主に企業に焦点を絞ることにします。現代の日米中を中心にして、アジアや欧米のビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら、組織と管理に関する理論を学んでいきましょう。

【学習目標】
本講義では、既述のように，企業に焦点を絞り，３大経済大国の日米中を中心にビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら、組織と管理に関する理論を学習します。実態を分かりやすく捉えるために，映像資料を積極的に活用します。
21世紀将来を見据えて、主に基盤的理論を学習しますが、学習を通して、実践的有用性のみならず、知的な面白さも実感し、自ら学ぶ意思を固めていくこと、これが当面の目標となります。
皆様が社会で活躍する頃には古びた過去となる今の企業の経営管理の実態を知ったり、その諸理論を学ぶ意味はどこにあるのでしょうか。講義はここからスタートします。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：イントロダクション
第３回：現代の経営管理の諸相
第４回：経営管理とは何か
第５回：経営管理者の階層
第６回：経営管理者の職能
第７回：経営学と経営管理論
第８回：経営管理学説の今日における意味
第９回：テイラーの科学的管理法
第10回：人間関係論と人間資源論
第11回：管理過程論
第12回：近代経営管理論（1）
第13回：近代経営管理論（2）
第14回：基礎理論としてのバーナード理論
第15回：中間試験と中間のまとめ
第16回：現代組織の諸相
第17回：経営組織のミクロ理論
第18回：経営組織のマクロ理論
第19回：経営組織論の総括的展望
第20回：現代企業戦略の諸相
第21回：戦略的経営管理とは何か
第22回：経営戦略の内容とレベル
第23回：経営多角化と投資利益率
第24回：企業ポートフォリオ分析
第25回：競争戦略論
第26回：持続的競争優位の源泉としての独自能力
第27回：ダイナミック・ケイパビリティ
第28回：グローバル戦略経営管理論
第29回：価値創造の経営管理論の展望
第30回：コンクルージョン

【事前および事後学習の指示】
予習･復習をしましょう。予習として，毎回の講義内容の教科書該当ページを予め読んで出席すること。復習として，板書書き写しのノートに教科書などを利用して書き加えていき，その内容を充実させましょう。

【テキスト】
価値創造の経営管理論（改訂５版）村上伸一　創成社

【参考文献】
眞野　脩『組織経済の解明』文眞堂、1978年。
図書館で読むことができます。その他、適宜紹介します。

【コメント】
中間・期末試験成績により評価します。映像資料や教科書利用のミニ・レポートを講義中に書いていただき、それを評価に加えることがありますので、毎回教科書を持参下さい（試験点数に最大で５％プラス）。

講　義　名　称	曜　時
経営史　＜春集＞	水1 ／水2

【教員名称】
上村　雅洋

【講義概要】
経営史は、企業経営の歴史的な発展過程を研究します。経営史的なものの見方・考え方について理解を深めるため、まず経営史の学問的発展過程をたどり、経営史の方法論や課題を検討します。その上で、個別企業経営の発展を企業家の具体的な経営革新に焦点をあて、時代背景を踏まえて分析を進めます。ポイントを記したレジュメプリントを配布しながら、それに沿って授業を進めます。

【学習目標】
企業経営が有する経営上のさまざまな問題に関心をもち、それを歴史的に把握する。具体的には、経営史の学問的特徴を簡単に説明できること。企業の経営上の問題点をその時代背景とともに、説明できること。企業家活動の源泉を把握し、革新的側面を指摘し、その位置づけができること。

【講義計画】
第１回：　講義の内容・方法・特徴についての説明（ガイダンス）
講義の方針（身に付けてほしい点）
講義の内容（2区分、問題意識）
講義の方法（出席、試験、特徴）
講義の予定（割り振り）
参考文献
各回の内容は、おおよその目安を示しています。事情により、多少内容が変わったり、少し前後する場合があるかも知れません。ご了解願います。
第２回：　経営史の誕生（社会的要請、アメリカにおけるビジネス教育、日本におけるビジネス教育、日本における経営史学の形成）
第３回：　経営史と企業者史（経済史と経営史、経営史の2つの流れ、企業者史学の登場と問題点）
第４回：　チャンドラーの経営史（経歴と研究の発端、『経営戦略と組織』、『経営者の時代』、『スケール・アンド・スコープ』、チャンドラーに対する評価）
第５回：　企業家の成立要因（境域性、広域志向性、逸脱性、準拠集団）
第６回：　月桂冠と大倉恒吉Ⅰ（伏見酒造業と大倉家、明治初期の大倉酒造、大倉恒吉の財源）
第７回：　月桂冠と大倉恒吉Ⅱ（大倉恒吉の革新的経営Ⅰ、東京積、洋式簿記の採用、灘への進出、技術改良、防腐剤なし清酒）
第８回：　月桂冠と大倉恒吉Ⅲ（大倉恒吉の革新的経営Ⅱ、流通革新、広告活動、その後の展開）
第９回：　阪急電鉄と小林一三Ⅰ（生い立ち、三井銀行時代、有馬箕面電気軌道の創立）
第10回：　阪急電鉄と小林一三Ⅱ（宝塚少女歌劇、都市間連絡高速鉄道、ターミナルデパート）
第11回：　阪急電鉄と小林一三Ⅲ（東京経済界への進出、政界入り）
第12回：　トヨタと豊田喜一郎Ⅰ（トヨタ一族、豊田佐吉と織機生産）
第13回：　トヨタと豊田喜一郎Ⅱ（戦前の自動車産業、豊田の自動車産業への参入）
第14回：　トヨタと豊田喜一郎Ⅲ（参入の準備、車種の選定と試作車の製作）
第15回：　トヨタと豊田喜一郎Ⅳ（構想の変更、挙母工場の設立、戦後への継承）
第16回：　松下電器産業と松下幸之助Ⅰ（生い立ち、大阪への奉公、大阪電燈会社）
第17回：　松下電器産業と松下幸之助Ⅱ（独立創業へ、大開町の工場、自転車用ランプ、ラジオ生産、門真への移転）
第18回：　松下電器産業と松下幸之助Ⅲ（戦前期の事業展開、戦後のスタート、フィリップ社との提携）
第19回：　松下電器産業と松下幸之助Ⅳ（テレビ生産、販売体制、熱海会談、現場への復帰）
第20回：　松下電器産業と松下幸之助Ⅴ（経営理念、水道哲学、大衆消費市場、適正利潤と正価、分権制と人材育成）
第21回：　ホンダと本田宗一郎Ⅰ（生い立ち、アート商会、戦後の出発、藤沢武夫との出会い）
第22回：　ホンダと本田宗一郎Ⅱ（マン島レース、四輪車への進出、社長としての決断）
第23回：　ホンダと本田宗一郎Ⅲ（CVCCエンジンの開発、退き際）
第24回：　ダイエーと中内功Ⅰ（生い立ち、少年時代、高商から戦地へ、創業と模索）
第25回：　ダイエー斗中内功Ⅱ（ダイエー創業、日本型総合スーパー、わが安売り哲学）
第26回：　ダイエーと中内功Ⅲ（レインボー作戦、メーカーとの衝突、売上高至上主義）
第27回：　ダイエーと中内功Ⅳ（拡大戦略の修正、V字回復、拡大路線の継続と経営悪化、辞任）
第28回：　ヤマト運輸と小倉昌男Ⅰ（大和運輸の設立、路線定期便事業、戦時統制下の輸送）
第29回：　ヤマト運輸と小倉昌男Ⅱ（戦後の大和運輸、宅急便の誕生へ）
第30回：　ヤマト運輸と小倉昌男Ⅲ（宅急便の事業化、小倉昌男の引退）

【事前および事後学習の指示】
前回の授業内容尾受けて、次の授業を行いますので、継続性を保つためにも事前に復習をして置いてください。配布プリントレジュメは、次回分の一部も含まれていますので、予習をしてください。また、その都度指示した参考文献なども図書館で参照して、授業内容の理解を深めたり、補足してください。

【テキスト】

【参考文献】
最初の授業で文献リストを配布するとともに、進行に応じて授業中に適宜プリントで指示します。

【コメント】
試験の割合が高いです。試験は持ち込み不可です。試験は、内容をどれだけりかいしているのかを問う論述式の問題です。試験の範囲は、配布レジュメプリントと授業で話した内容です。授業には毎回出席し、内容を十分に理解するようにしてください。授業内容についての質問なども授業後に積極的にしてください。

講　義　名　称	曜　時
経営情報システムA　＜春＞	水2

【教員名称】
大村　鍾太

【講義概要】
「企業の情報システム活用法を知る」

本講義では、企業の情報システムの活用とそれを支える情報通信技術（ICT）の基礎について学ぶ。将来、自分の仕事にICTを積極的に活用できるようになることを目指す。
社会に出ると何らかの情報システムを利用することになる。なぜそのシステムが使われているのか、またそれがどんな仕組みで動いているのかを理解することで、情報システムを単に利用するだけでなく、自分の仕事の問題解決に活用することができる。本講義ではそのために必要な基礎知識について学ぶ。

【学習目標】
1．企業が情報システムをどう活用しているのか理解する。
2．情報通信技術の基礎知識を身に付ける。
3．将来、自分の仕事に情報通信技術を積極的に活用する姿勢を身に付ける。

【講義計画】
第１回：企業経営と情報システム
第２回：経営情報システムの変遷
第３回：意思決定と情報システム
第４回：基幹業務と情報システム
第５回：サプライチェーンと情報システム
第６回：顧客関係と情報システム
第７回：チームワークと情報システム
第８回：製品開発と情報システム
第９回：ナレッジマネジメントとゲーミフィケーション
第10回：データベースの構築と活用
第11回：情報システムの形態
第12回：セキュリティ対策
第13回：マルチメディアの活用とビジネスモデル
第14回：プログラミング言語とアルゴリズム
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
各授業トピックについてネットで検索して調べておくこと。

【テキスト】

【参考文献】
授業トピックごとに参考文献を紹介する。

【コメント】
授業への貢献を加味する。

講　義　名　称	曜　時
経営情報システムB　＜秋＞	水2

【教員名称】
大村　鍾太

【講義概要】
「経営情報システムを企画・運営する方法を知る」

本講義では、経営情報システムを企画し、開発し、運営するための知識について学ぶ。将来、自分の関わる業務をシステム化する、または情報産業で働くための基礎知識を備えることを目指す。
情報システムの企画・運営には、対象とするビジネスプロセスの理解と課題の把握が必要不可欠である。本講義では、前半にビジネスプロセスについて、後半に情報システムを企画、開発、運営について、基本的な手法や考え方を学ぶ。

【学習目標】
1．ビジネスプロセスの基本的な考え方を身に付ける。
2．情報システムを企画、開発、運営するため基本的な方法を理解する。
3．将来、自分の担当業務をシステム化する、または情報産業で働くための基礎知識を得る。

【講義計画】
第１回：ビジネスプロセスとＭＩＳ
第２回：プロセス分析の基礎
第３回：トヨタシステム
第４回：サプライチェーンのデザイン
第５回：アパレル産業のＱＲ
第６回：グローサリー産業のＥＣＲ
第７回：ＣＰＦＲによる企業連携
第８回：サービスのビジネスプロセス
第９回：情報システムの企画と開発
第10回：プロジェクト管理
第11回：情報システムの運営と管理
第12回：情報システムと戦略
第13回：情報システムと組織
第14回：情報システムと社会
第15回：試験及びまとめ

【事前および事後学習の指示】
各授業トピックについてネットで検索して調べておくこと。

【テキスト】

【参考文献】
授業トピックごとに参考文献を紹介する。

【コメント】
授業への貢献を加味する。

講　義　名　称	曜　時
経済開発論Ⅰ　＜春＞	木4

【教員名称】
望月　和彦

【講義概要】
現在の開発途上国はかつて「後進国」と呼ばれていた。これは先進国に対比する呼び名であったわけだが、失礼な名称であることから開発途上国と呼ばれるようになった。30～40年前は開発途上国とは言いながらほとんど発展していないような国がたくさんあった。ところが今日、経済発展は多くの国で見られるようになっており、開発途上諸国はまさに開発途上にある。本講では経済発展の要因、経済発展の現状、経済発展の将来について考える。今年度は国際政治経済に大きな波乱が起こることが予想されるため、前半の経済発展の要因よりも後半の世界経済の解説に重点が置かれることがあることをご承知願いたい。

【学習目標】
本学の教育の目標である「世界の市民の養成」に則り、世界の市民にふさわしい知識と判断力を涵養する。
単に教員が一方的に話しをするのではなく、受講生に質問を通して言葉のやりとりをすることにより講義を進めていく形式をとる。

【講義計画】
第１回：導入　本講の基本的な考え方　科学的思考とは何か
第２回：経済発展とは
第３回：経済発展の要因　その1　お金
第４回：経済発展の要因　その2　資本・技術
第５回：経済発展の要因　その3　制度
第６回：経済発展の要因　その4　政策
第７回：経済発展の要因　その5　文化・思想
第８回：経済発展の要因　その6　社会秩序
第９回：世界経済の歴史と現在　戦後世界経済体制の成立
第10回：日本の経済発展と停滞
第11回：アメリカ経済
第12回：ヨーロッパ経済
第13回：中国経済
第14回：アフリカ経済
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
毎回配布されるプリントと各自のノートにより復習を行うこと。

【テキスト】

【参考文献】
プリントに書かれている資料が参考文献となる。

【コメント】
2回の小テストとレポートにより成績評価を行う。ただし受講者数により小テストが実施できない場合にはレポートと期間内試験のみによって成績評価を行うことになる。

講　義　名　称	曜　時
経済開発論Ⅱ　<秋>	木4

【教員名称】
望月　和彦

【講義概要】
本講では、経済発展に密接に関係する資源問題、環境問題、人口問題を扱う。資源問題と環境問題においては、世間一般で主張されているものとは異なる考え方があることを紹介することにより、多面的なものの見方・考え方を理解する。

【学習目標】
本学の教育の目標である「世界の市民の養成」に則り、世界の市民にふさわしい知識と判断力を涵養する。単に教員が一方的に話しをするのではなく、受講生に質問を通して言葉のやりとりをすることにより講義を進めていく形式をとる。

【講義計画】
第１回：導入　本講の基本的な考え方　科学的思考とその対立物
第２回：資源問題の起源　産業革命以前の世界
第３回：エネルギー転換としての産業革命
第４回：資源問題
第５回：環境問題総論
第６回：環境問題各論　その1　オゾン層破壊
第７回：環境問題各論　その2　地球温暖化
第８回：環境問題各論　その3　種の多様性など
第９回：環境問題各論　その4　廃棄物
第10回：経済成長の制約はあるか
第11回：人口問題　人口の意義
第12回：歴史的な人口動態と人口の抑制因
第13回：経済発展と人口
第14回：人口減少社会の衝撃
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
毎回配布されるプリントと各自のノートで復習を行うこと。

【テキスト】

【参考文献】
プリントに書かれている資料が参考文献となる。

【コメント】
2回の小テストとレポートで成績評価を行う。ただし受講者数により小テストが実施できない場合には、レポートと期間内試験のみによって成績評価を行うことになる。

講　義　名　称	曜　時
経済学　02<春集>	火1／金2

【教員名称】
田代　昌孝

【講義概要】
経済のグローバル化が進むことで、財やサービスの流れが活発になり、市場が非常に複雑になってきました。それに伴う形で、経済不況による失業や物価の変動など様々な問題が家計や政府の行動に影響を与えています。財政健全化や社会保障財源の確保等、世の中にある様々な問題に対して、政府が対応しきれなくなってきました。この講義では今日議論されている様々な経済現象がなぜ生じているのかを学びます。

【学習目標】
ミクロ・マクロ経済学の初歩的な知識を身につける。
ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的なテキストを読みこなす能力を身につける。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
経済学とはどのような学問であるのか。
成績評価について。
レジュメやテキストについての説明。
講義を受けるうえでの注意事項。
第２回：日本経済の現状と課題
第３回：消費者行動①（無差別曲線の導出）
第４回：消費者行動②（予算線と最適消費）
第５回：消費者行動③（所得効果と代替効果―上級財のケース）
第６回：消費者行動④（所得効果と代替効果―中級財のケース）
第７回：消費者行動⑤（所得効果と代替効果―下級財のケース）
第８回：生産者行動①（生産関数について）
第９回：生産者行動②（総費用、平均費用、限界費用について）
第10回：生産者行動③（企業の利潤最大化―最適条件について）
第11回：生産者行動④（企業の利潤最大化―損益分岐点と操業中止点について）
第12回：市場メカニズム（市場均衡とその変化）
第13回：課税と超過負担①（超過負担の決定要因）
第14回：課税と超過負担②（需要の価格弾力性と超過負担）
第15回：課税と超過負担③（供給の価格弾力性と超過負担）
第16回：国民所得の決定①（三面等価の原則）
第17回：国民所得の決定②（ケインズ型消費関数）
第18回：国民所得の決定③（完全雇用について）
第19回：国民所得の決定④（乗数効果について）
第20回：家計の消費と貯蓄
第21回：投資と経済（IS曲線の導出）
第22回：貨幣の役割と中央銀行
第23回：金融の仕組み（LM曲線の導出）
第24回：財政・金融政策の効果
第25回：総需要曲線（AD曲線）の導出
第26回：総供給曲線（AS曲線）の導出
第27回：AD・AS分析
第28回：国際経済（為替レートの決定）
第29回：固定相場制下での財政・金融政策
第30回：変動相場制下での財政・金融政策

【事前および事後学習の指示】
前回講義の復習を必ず行ってから、講義を受けるようにして下さい。

【テキスト】
入門経済学 第4版 伊藤元重 9784535555853 日本評論社

【参考文献】
西村和雄著『ミクロ経済学　第2版』岩波書店、2001年（ISBN4000266942）
中谷　巌著『入門マクロ経済学　第5版』日本評論社、2007年（ISBN9784535555136）

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
経済学史Ⅰ［2］　01＜春＞	水3

【教員名称】
北田　了介

【講義概要】
授業は講義形式でおこない、毎回終了前に出席確認を行う。

【学習目標】
経済学説の歴史をとおして「経済」の基本的な考え方を学ぶと同時に、社会がいかなる知の形式から成立しているかをさぐっていく。

【講義計画】
第１回：イントロダクション
経済学および経済学史を学ぶことの意義
第２回：重商主義（1）
アジア貿易とヨーロッパの「重商主義」
第３回：重商主義（2）
重商主義の政策論争
第４回：ジョン・ロックの経済思想（1）
17世紀のイングランドと二つの革命
第５回：ジョン・ロックの経済思想（2）
社会の構成と私的所有権
第６回：17世紀イングランドの利子率引き下げ論争
第７回：ヒュームの経済思想（1）
経済発展論とインダストリ
第８回：ヒュームの経済思想（2）
貨幣・貿易論
第９回：スチュアートの経済思想（1）
人口論と「近代社会」
第10回：スチュアートの経済思想（2）
貨幣・価格論
第11回：ケネーの経済思想（1）
17-18世紀のフランスとフィジオクラシー（重農主義）の原理
第12回：ケネーの経済思想（2）
「経済表」で示される流通過程と剰余生産
第13回：重商主義・重農主義からアダム・スミスへ
限界とその後への影響
第14回：アダム・スミス思想の概略的説明
道徳哲学から経済学へ
第15回：春学期のまとめ

【事前および事後学習の指示】
教科書をつかった講義前の予習および講義後の復習が必要。とりわけ教科書内に示されている章末問題については定期試験に反映されるため、しっかりと調べておくことが望まれる。

【テキスト】
『経済思想史講義ノート』渡辺邦博・北田了介　萌書房

【参考文献】
講義時間内で随時紹介する。

【コメント】
授業では毎回、出席とともに簡単な問題に応答してもらいます。無回答の場合は減点の対象となります。

講　義　名　称	曜　時
経済学史Ⅱ［2］　01＜秋＞	水3

【教員名称】
北田　了介

【講義概要】
授業は講義形式でおこない、毎回終了前に出席確認を行う。

【学習目標】
経済学説の歴史をとおして「経済」の基本的な考え方を学ぶと同時に、社会がいかなる知の形式から成立しているかをさぐっていく。

【講義計画】
第１回：イントロダクション
経済学および経済学史を学ぶことの意義
第２回：重商主義から重農主義へ
第３回：アダム・スミスの経済思想（1）
道徳哲学と「同感」
第４回：アダム・スミスの経済思想（2）
分業論から価値・価格論
第５回：アダム・スミスの経済思想（3）
経済発展の歴史と「重商主義」批判
第６回：マルサスの経済思想（1）
人口をめぐる公準と人口抑制のための命題
第７回：マルサスの経済思想（2）
救貧法の歴史と救貧法批判
第８回：リカードの経済思想（1）
古典派経済学における価値論の方向付け
第９回：リカードの経済思想（2）
収穫逓減法則と利潤率の低下
第10回：リカードの経済思想（3）
比較生産費説と穀物論争
第11回：J.S.ミルの経済思想
定常状態論からアソシエーション論へ
第12回：マルクスの経済思想（1）
「初期マルクス」：ヘーゲル批判から『経済学・哲学草稿」へ
第13回：マルクスの経済思想（2）
商品論と剰余価値論
第14回：マルクスの経済思想（3）
資本蓄積論
第15回：その後の展開と秋学期のまとめ
限界革命からケインズの登場

【事前および事後学習の指示】
教科書をつかった講義前の予習および講義後の復習が必要。とりわけ教科書内に示されている章末問題については定期試験に反映されるため、しっかりと調べておくことが望まれる。

【テキスト】
『経済思想史講義ノート』渡辺邦博・北田了介　萌書房

【参考文献】
講義内で随時紹介する。

【コメント】
授業では毎回、出席とともに簡単な問題に応答してもらいます。無回答の場合は減点の対象となります。

講　義　名　称	曜　時
経済学特講－ファッション産業論　＜通期＞	金4

【教員名称】
富澤　修身

【講義概要】
まず、現代のファッションとファッション産業を概観する。第１部「資本主義社会とファッション」では消費生活サイドから論じる。第２部「ファッション産業論」では供給サイドから論じる。第２部では、ファッションビジネスのグローバル競争を論じた後、クリエーション、マーケットイン、情報技術の活用、広告、グローバル化、都市とファッション、地球環境配慮とユニバーサルファッションについて論じる。最後にクリエイティブライフを論じる。なお、最新の内容は、補足資料を用いて論じる。

【学習目標】
身近なファッションを題材にして、学問をする意味や楽しさを学ぶ。ファッションの奥深さを実感して欲しい。また、ファッションビジネスに関心のある学生は、１年間受講すれば、ファッションとファッション産業についての十分な知識を修得することができる。就職活動にも必ず役立つ。

【講義計画】
第１回：はじめに
第２回：１.社会、衣服、ファッションビジネス（1）
第３回：１.社会、衣服、ファッションビジネス（2）
第４回：２.資本主義社会における消費（1）
第５回：２.資本主義社会における消費（2）
第６回：３.衣服の変化とファッション現象（1）
第７回：３.衣服の変化とファッション現象（2）
第８回：３.衣服の変化とファッション現象（3）
第９回：４.20世紀後半日本の消費生活と衣生活の変化（1）
第10回：４.20世紀後半日本の消費生活と衣生活の変化（2）
第11回：５.世界繊維産業の見取り図（1）
第12回：５.世界繊維産業の見取り図（2）
第13回：６．３大繊維市場圏の形成とファッションビジネスの変容（1）
第14回：６．３大繊維市場圏の形成とファッションビジネスの変容（2）
第15回：７.日本のファッション産業システム（1）
第16回：７.日本のファッション産業システム（2）
第17回：７.日本のファッション産業システム（3）
第18回：８.ファッション産業システムの情報化（1）
第19回：８.ファッション産業システムの情報化（2）
第20回：９.ファッションコミュニケーションの構造と消費者行動（1）
第21回：９.ファッションコミュニケーションの構造と消費者行動（2）
第22回：10.縫製基地としての中国と消費市場としての中国都市部（1）
第23回：10.縫製基地としての中国と消費市場としての中国都市部（2）
第24回：11.ニューヨーク市のファッションビジネスとアパレル産業（1）
第25回：11.ニューヨーク市のファッションビジネスとアパレル産業（2）
第26回：12.都市生活のファッション化とファッションビジネス創造（1）
第27回：12.都市生活のファッション化とファッションビジネス創造（2）
第28回：13.繊維アパレル産業と社会的責任（1）
第29回：13.繊維アパレル産業と社会的責任（2）
第30回：14.終章

【事前および事後学習の指示】
毎回講義終了時に、次回の講義の範囲となる教科書のページを指定して、予習の指示を出す。事後学習としては、講義ノートの点検整理を行わせる。

【テキスト】
ファッション産業論 富澤修身 4-88352-072-2 創風社

【参考文献】

【コメント】
小レポート提出と出席確認は、抜き打ちで行う。

講　義　名　称	曜　時
経済学特講－英語で学ぶ世界の中の日本経済　＜秋＞	木2

【教員名称】　英語による
モグベル　ザファル

【講義概要】
This is an introductory course on the Japanese economy with a focus on the status of Japan in the global economy and its basic international economic strategies that supported its postwar economic growth. Lectures will focus on familiarizing economics and non-economics majors with Japan's basic policy framework for its international economic relations, and on examining the Japan's progress from postwar reconstruction to global economic superpower.

【学習目標】
The course will start with an review of the Japanese economy in the world economy today, and will move on from there to a presentation of one topic per session. Topics will be drawn from current issues of concern related primarily to the Japanese economy, but also to social and political developments in Japan. Lectures and class discussions will be conducted in English and require a high level of English proficiency. Students will be expected to actively contribute to the discussion portion of the lectures.
Note that the order and content of topics are subject to change.

【講義計画】
第１回：Overview of the Japanese economy in the world economy
第２回：Japan's geo-political environment and unresolved territorial issues
第３回：Facing the daunting challenges of globalization
第４回：Basic principles of international balance of payments
第５回：Japan's merchandise trade
第６回：Japan's trade in services
第７回：Japan's international investments
第８回：Japan in the Trans-Pacific Partnership
第９回：Japan and East Asian economic integration
第10回：Japan and its competitors in the world economy
第11回：Trade friction and its legacy
第12回：Policies and strategies in Japan's international economic assistance
第13回：Postwar history of the yen in the foreign exchange market: Part 1
第14回：Postwar history of the yen in the foreign exchange market: Part 2
第15回：Summarization and discussion
Alternative scenarios for Japan in the global economy

【事前および事後学習の指示】
Instructions for class preparation:
1. Read materials in advance and be prepared to participate in discussion.
2. Be prepared to ask questions on topics of study, and provide comparative information on the economy of your home country.

【テキスト】

【参考文献】
No textbook will be assigned. Handouts will accompany each lecture and will be used as a basis for instruction and discussion.

【コメント】
Attendance will be taken in class. Final grade will be based on attendance, contribution to class discussion and result of test given at the end of the semester.

講　義　名　称	曜　時
経済学特講－英語で学ぶ戦後日本経済　＜春＞	木1

【教員名称】　英語による
モグベル　ザファル

【講義概要】
This is an introductory course on the Japanese economy with a focus on the domestic aspects of its postwar development. (The related course offered in the fall semester focuses more on the international aspects of the Japanese economy.) The purpose of the course is to familiarize economics majors and non-majors with the basic framework of the present-day Japanese economy and seminal events and developments that have determined the course of the nation. The course will start with an overview of the contemporary Japanese economy, and will move from there to a presentation of one topic per session. Topics will be drawn from current issues of concern related primarily to the economy, but also to social and political developments in Japan. Note that the order and content of topics are subject to change.

【学習目標】
The purpose of this course is to gain a general knowledge of the postwar development path of the Japanese economy, the successes and failures of Japan's growth strategy, and current economic problems and challenges.
Lectures will be conducted in English and will require a high level of English proficiency. Students will be expected to actively contribute to the discussion portion of the lecture.

【講義計画】
第１回：Overview of the contemporary Japanese economy -- Searching for a vision for the future 25 Years after the collapse of the "Bubble Economy"
第２回：Statistical overview -- Macroeconomic Comparison of Japan and Other Countries
Is Japan a wealthy society?
第３回：Topic 1: Demographic trends in Japan -- Living with an Aging and Shrinking Population
第４回：Topic 2: Constitution of Japan -- Ideals and Strictures
第５回：Topic 3: Government and Politics in Japan -- Resurgence in Leadership?
第６回：Topic 4: Public Debt in Japan -- The Spectre of Fiscal Crisis and Bankruptcy
第７回：Topic 5: The 2011 Earthquake and its Long-Term Socio-Economic Impact -- Relief and Reconstruction
第８回：Topic 6: Sources of Japanese Malaise -- Social and Economic Origins of Malaise
第９回：Topic 7: Abenomics -- Overcoming a Decade of Deflation
第10回：Topic 8: Abenomics -- Viability of Fiscal Policies
第11回：Topic 9: Abenomics -- The Missing Third Arrow
第12回：Topic 10: Toward a Knowledge-Based Economy -- Innovation in Japan
第13回：Topic 11: Japan's Educational System -- New and Old Challenges
第14回：Topic 12: Future of the Japanese Economy -- Growth or Stagnation
第15回：Summarization and Discussion
Alternative scenarios for the future of Japan

【事前および事後学習の指示】
Instructions for class preparation:
1. Read materials in advance and be prepared to participate in discussion.
2. Be prepared to ask questions on topic of study, and provide comparative information on the economy of your home country.

【テキスト】

【参考文献】
No textbook will be assigned. Handouts will accompany each lecture and will be used as a basis for instruction and discussion.

【コメント】
Attendance will be taken in class. Final grade will be based on attendance, contribution to class discussion and result of test given at the end of the semester.

講　義　名　称	曜　時
経済学特講－英語と経済で学ぶ社会政策論　＜春＞	火1

【教員名称】　英語による
江川　暁夫

【講義概要】
This course is designed to introduce you to the basic understanding on how and how much economic theories can contribute to discussing and solving important social problems. The course structure is, (1) to overview the role of economics as social science (class sessions #1-3) , (2) to consider possible measures for alleviating poverty and income inequality from the perspectives of (welfare) economics (#4-10) , and (3) to critically discuss the topics which are publicly believed to be true (#11-14).

【学習目標】
The aims of this course are
(1) To enable students to get rid of any prejudice against a conventional thought that economics is always hampering social development or that economists are always ignoring people in society when establishing economic policies.
(2) To enable students to participate in debates or discussions on current economic and social affairs with some background knowledge in economics, regardless of their major
Student’s level of proficiency in English does not matter very much in attending the class sessions.

【講義計画】
第１回：The objective of economics as social science
第２回：Economic modelling: just for money game?
第３回：Notion of a welfare state and social welfare in economics
第４回：Poverty and income inequality: the differences
第５回：Poverty: definition and measurement
第６回：Measurement of income inequality and its interpretation
第７回：Economics of state intervention to the market with asymmetric information
第８回：Provision of education and health-care as basic needs and economic growth
第９回：Measures for low-income households (1) price control
第10回：Measures for low-income households (2) in-cash and in-kind benefits for grassroots
第11回：Have regulatory reforms changed society towards a wrong direction?
第12回：Does stronger international competition cause a spread of ‘black companies’?
第13回：Does liberalistic economic policy worsen inequality?
第14回：Can imposing very progressive direct taxes contribute to finance a welfare state?
第15回：Other important topics

【事前および事後学習の指示】
In order to develop a better essays, students are advised to make a tiny observation on the economic and social situation and policies in their country regarding the topics which are dealt in the course.

【テキスト】

【参考文献】
Indicated in each class session.

【コメント】
As a small number of participants are expected, this course is assessed by two essays and active participation in the class sessions. A term-end examination will not be taken.
Students should write two short essay (approx. 500 words) in English by the end of the whole course, each of which are related to the topics in the course.

講　義　名　称	曜　時
経済学特講－競争から連帯へ－資本主義社会を超えて　<秋>	水4

【教員名称】
津田　直則

【講義概要】
講義概要：
欧州を中心に世界に広がっている「社会的経済」について講義する。社会的経済の評価は2つに分かれており、資本主義経済と共に発展すると考える人と資本主義は崩壊しそれに代わる経済体制として発展していくという人がいるが、この講義は後者である。多くの人は気づいていないが、現代は文明の大転換期であり資本主義経済は崩壊の瀬戸際にある。社会的経済という経済体制は新たな文明の幼少期でありひな形である。
講義では、世界各地で発展しつつある社会的経済とその中心である協同組合の実態、それとは逆に衰退・孤立の道をたどりつつある日本の実態、過渡期の経済体制と第3次産業革命の流れ、社会的経済の革新と新たな文明の価値体系、それを実現する全国ネットワーク構想などについて述べる。

【学習目標】
学習目標：
次の点が理解できるようにする。
①世界は大きな危機に直面していること
②危機の原因は資本主義経済体制にあること
③危機の克服には新たな経済体制に転換する必要があること
④新たな経済体制の雛形は「社会的経済」としてすでに生まれていること

【講義計画】
第１回：1）オリエンテーション
講義概要
学習目標
テーマと日程
2）文明転換期としての現代－J.リフキンを中心に－
第２回：社会的経済とその中心の協同組合
第３回：モンドラゴン協同組合コミュニティその１
第４回：モンドラゴン協同組合コミュニティその２
第５回：イタリア協同組合その１
第６回：イタリア協同組合その２
第７回：オーストラリア・協同組合コミュニティの町マレーニ
小テスト（第1~7回対象）
第８回：資本主義経済の矛盾とパラダイム変革の方向
第９回：日本の非営利組織と衰退孤立の流れ
第10回：過渡期の経済体制
第11回：社会的経済の革新と新たな文明
第12回：第3次産業革命と水平的組織の時代
第13回：全国ネットワーク構想その１
第14回：全国ネットワーク構想その２
第15回：まとめとテスト

【事前および事後学習の指示】
毎回の授業でつぎの授業の配布資料を配ります。事前に読んでくること。

【テキスト】

【参考文献】
津田直則著『連帯と共生』2014年出版、ミネルヴァ書房

【コメント】
3-4回は出席をとるがこれは出席している割に試験結果が悪い人に配慮することが目的です。

講　義　名　称	曜　時
経済学特講－経済学部で必要な中高数学　01<春>	木4

【教員名称】
孟　哲男

【講義概要】
本講義では経済学を学ぶ上で、最低限理解しておく必要がある数学を基礎から復習しつつ身につけることを目的とします。毎回の授業は基本的に、「前回の演習問題の解説」→「公式や例題の解説」→「問題演習」という流れで進めていきます。なお、受講生のレベルに応じて講義の内容および演習問題の難易度を微調整していく予定です。

【学習目標】
高校レベルの数学が経済学においてどういう形で応用されるかを実感してもらい、また例題を十分理解し自分で演習問題が解けるようになることを目標とします。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
第２回：数学記号と演算
第３回：一次関数とグラフ
第４回：グラフ、連立方程式の応用（需要・供給分析、余剰分析）
第５回：グラフ、連立方程式の応用（45度線分析）
第６回：数列とその応用例
第７回：二次関数とグラフ
第８回：グラフの平行移動
第９回：指数、対数
第10回：導関数の概念
第11回：微分の法則
第12回：微分の応用例（利潤最大化問題）
第13回：微分の応用例（価格弾力性）
第14回：総復習（1）
第15回：総復習（2）

【事前および事後学習の指示】
授業中に配布した演習問題は、例題を参考にして最初から最後まで自分でやってみること。授業中に解き残された演習問題は、次回の授業開始前までに必ずやっておいてください。
配布したプリント（例題や演習問題）は、まとめて保管し、毎回持参してください。

【テキスト】

【参考文献】
E.ドウリング（1995）（大住栄治・川島康男訳）『例題で学ぶ入門・経済数学』シーエーピー出版。
石川秀樹（2009）『経済学と経済学に必要な数学がイッキにわかる！！』学習研究社。
木村哲三・浦田健二（2010）『経済学を学ぶための基礎数学』同文館出版。

【コメント】
「試験」の得点のみで評価します。

講　義　名　称	曜　時
経済学特講－経済学部で必要な中高数学　02<秋>	木4

【教員名称】
孟　哲男

【講義概要】
本講義では経済学を学ぶ上で、最低限理解しておく必要がある数学を基礎から復習しつつ身につけることを目的とします。毎回の授業は基本的に、「前回の演習問題の解説」→「公式や例題の解説」→「問題演習」という流れで進めていきます。なお、受講生のレベルに応じて講義の内容および演習問題の難易度を微調整していく予定です。

【学習目標】
高校レベルの数学が経済学においてどういう形で応用されるかを実感してもらい、また例題を十分理解し自分で演習問題が解けるようになることを目標とします。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
第２回：数学記号と演算
第３回：一次関数とグラフ
第４回：グラフ、連立方程式の応用（需要・供給分析、余剰分析）
第５回：グラフ、連立方程式の応用（45度線分析）
第６回：数列とその応用例
第７回：二次関数とグラフ
第８回：グラフの平行移動
第９回：指数、対数
第10回：導関数の概念
第11回：微分の法則
第12回：微分の応用例（利潤最大化問題）
第13回：微分の応用例（価格弾力性）
第14回：総復習（1）
第15回：総復習（2）

【事前および事後学習の指示】
授業中に配布した演習問題は、例題を参考にして最初から最後まで自分でやってみること。授業中に解き残された演習問題は、次回の授業開始前までに必ずやっておいてください。
配布したプリント（例題や演習問題）は、まとめて保管し、毎回持参してください。

【テキスト】

【参考文献】
E.ドウリング（1995）（大住栄治・川島康男訳）『例題で学ぶ入門・経済数学』シーエーピー出版。
石川秀樹（2009）『経済学と経済学に必要な数学がイッキにわかる！！』学習研究社。
木村哲三・浦田健二（2010）『経済学を学ぶための基礎数学』同文館出版。

【コメント】
「試験」の得点のみで評価します。

講　義　名　称	曜　時
経済学特講－中国語で読み語る看る中国事情　<春>	水2

【教員名称】
坂井田　夕起子

【講義概要】
現代中国の社会や文化、経済状況などに関する文章を用いながら講読を行う。また、現代中国に関する影像資料などを用いて、中国語のヒヤリング練習なども行う。

【学習目標】
現代中国の社会、文化、経済を学ぶ上で必要な中国語の語彙と文法を習得し、中国語レベルのステップアップをはかる。

【講義計画】
第１回：簡単な小テストを行い、受講生のレベルを確認する。
第２回：テキスト第一課。
第３回：テキスト第二課。
第４回：テキスト第三課。
第５回：テキスト第四課。
第６回：テキスト第五課。
第７回：テキスト第六課。
第８回：テキスト第七課。
第９回：テキスト第八課。
第10回：テキスト第九課。
第11回：テキスト第一〇課。
第12回：テキスト第一一課。
第13回：テキスト第一二課。
第14回：授業まとめ
第15回：期末テスト及びまとめ

【事前および事後学習の指示】
必ず予習復習することを心がけてください。

【テキスト】
知っておきたい中国事情 吉田泰謙・相原里美・葛婧 978-4-560-0633-2 白水社

【参考文献】

【コメント】
授業中の学習状況や小テスト、宿題、出席など総合的に評価する。

講　義　名　称	曜　時
経済学特講－日本経済入門　＜春＞	水2

【教員名称】　英語による
伊代田　光彦

【講義概要】
During the past half century the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress?
This lecture focuses on the following three points. First are the bright sides in the economy. Here we refer to the results of economic growth from various aspects: per capita income, spreading rate of durable goods, social security, etc. Second are harmful side effects of the economic change. We here deal with environmental disruption, inflation, income distribution, etc.
Finally we deal with an ideal economy through an assessment of bright and gloomy sides of economic change during the past half century.

【学習目標】
The purpose of this lecture is: (a) to understand the real meaning of economic growth through the study of the positive and negative effects of economic growth and (b) at the same time to grasp an overview of the development of the postwar Japanese economy.
I hope you will accept the challenge of a lecture conducted entirely in English. Do not hesitate to attend the lecture. The most important things are your spirit and regular attendance.

【講義計画】
第１回：１．Introduction
Introduction (lecture guide, plan, etc.)
第２回：２．Historical Changes of the Japanese Economy
Facts (economic growth and price increase)
第３回：Facts (changes of economic structure)
第４回：Reforms (major reforms)
第５回：Presentation by the studensts
*Education systems and problems in each country
第６回：The beginning of strong growth
第７回：３．Rapid Economic Growth
General background
第８回：Some reasons
第９回：Government policy
第10回：４．Results of Economic Growth
Positive effects
第11回：Negative effects
第12回：Towards a welfare-oriented society (market failures in the measurement of GDP)
第13回：NNW (Net National Welfare) and Happiness Research
第14回：５．Concluding Remarks
The quality of life
第15回：Summary

【事前および事後学習の指示】
Study guide: To review the handout is needed, which makes sure of your lecture-understanding. This is your minimum requirement for the next lecture. Studying Textbook is strongly recommended.

【テキスト】
Posrwar Japanese Economy: Lessons of Economic Growth and the Bubble Economy Iyoda, Mitsuhiko (2010) . 978-1-4419-6331-4 Springer Handouts will be provided. Use the library for the textbook.

【参考文献】
Ito, Takatoshi (1992) . The Japanese Economy, chap.3, Massachusetts Institute of Technology.
Nakamura, Takafusa (1995) . The Postwar Japanese Economy, 2nd ed., University of Tokyo Press.
Tsuru, Shigeto (1993) . Japan's Capitalism, chap.3, Cambridge University Press.
Itoh, Makoto (2000) . Japanese Economy Reconsidered, chap.4, Palgrave.

【コメント】
Evaluation will be based on attendance (30 %) and two papers (reports) (70%) .

講　義　名　称	曜　時
経済学特別講義－戦後日本経済の光と影　＜秋＞	水2

【教員名称】　英語による
伊代田　光彦

【講義概要】
During the past half century the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress?
The lecture shows historical changes of the Japanese economy by using tables and figures in the beginning. Then it focuses on the following three points: (a) rapid economic growth and its bright and gloomy sides, (b) the bubble economy and its consequences, and (c) some current topics. We show some lessons from the lecture above (a) and (b) .

【学習目標】
The purpose of this lecture is: (a) to learn some lessons from rapid economic growth and the bubble economy, and (b) at the same time to grasp an overview of the development of the postwar Japanese economy.

【講義計画】
第１回：１．Introduction
Introduction (lecture guide, plan, etc.)
第２回：２．Historical Changes of the Japanese Economy
Facts (economic growth, economic structure)
第３回：Reforms and the beginning of strong growth
第４回：＊Presentation by the students
Education system and the problems in his or her country
第５回：３．Rapid Economic Growth
General background
第６回：Positive effects
第７回：Negative effects
第８回：Towards a welfare-oriented society
第９回：４．Bubble Economy and its Consequences
Bubble age (burst, triggering role of policies)
第10回：The process of bursting the bubble
第11回：Its consequences (bad loan, outstanding government bonds)
第12回：５．Some Current Topics
Income and asset distribution
第13回：Typical household and pension scheme
第14回：６．Concluding Remarks
The quality of life in the mature society
第15回：Summary

【事前および事後学習の指示】
Study guide: To review the handout is needed, which makes sure of your lecture understanding. This is your minimum requirement for the next lecture. Studying textbook is strongly recommended.

【テキスト】
Postwar Japanese Economy: Lessons of Economic Growth and the Bubble Economy Iyoda, Mitsuhiko (2010) . 978-1-4419-6331-4 Springer Handouts will be provided. Use the library for the textbook.

【参考文献】
Ito, Takatoshi (1992) . The Japanese Economy, chap.3, Massachusetts Institute of Technology.
Nakamura, Takafusa (1995) . The Postwar Japanese Economy, 2nd ed., University of Tokyo Press.
Tsuru, Shigeto (1993) . Japan's Capitalism, chap.3, Cambridge University Press.
Itoh, Makoto (2000) . Japanese Economy Reconsidered, chap.4,Palgrave.

【コメント】
Evaluation will be based on attendance (30%) and two papers (reports) (70%) .

講　義　名　称	曜　時
経済学のための数学入門［2］　＜秋＞	火1

【教員名称】
藤間　真

【講義概要】
この講義は、経済学を勉強するのだが、数学が苦手で不安に思っている、あるいは、実際に困っている諸君を対象にしています。具体的には、次のような諸君です。
(1) 経済学を始める前に、不安な数学を必要な範囲で勉強しておきたいという諸君
(2) 経済学の勉強を始めたが、数学が苦手なのでよくわからないという諸君
(3) 経済学の大部分は理解できたのだが、計算の部分がわからないという諸君
(4) 面倒な計算練習抜きで経済数学を理解したいという諸君
講義は、指定した教科書（必要最低限のことを詳しく書いたものです）を毎回1章ずつ解説して進める予定です。その際、面倒な計算をできるだけPCにやらせるやり方も説明します。
きちんと予習し、きちんと出席し、きちんとノートを取り、きちんと練習問題に取り組めば、苦手な諸君も、必要最低限の数学的能力が身につくはずです。
ただし、高校までの数学とは違う切り口で進めますから、大学入試までの勉強法とは違う勉強法が必要になります。

【学習目標】
この講義では、経済学を本格的に学ぼうとすると必要となる数学の基礎知識を、マスターしてもらうことを目標としています。
また、そのために有用なPC用のソフトウェアになれることも目標としています。

【講義計画】
第１回：第一回はオリエンテーションを行います。履修する予定の人、履修するか迷っている人は、出席することを強く推薦します。
第２回：数学をパソコンでするとき、有用なソフトに付いて
数学の学び方について
第３回：数式アレルギーを癒すPart Ⅰ －経済学に必要なところだけざっくり復習－
第４回：数式アレルギーを癒すPart Ⅱ －経済学に必要なところだけざっくり復習+ちょっと新しいこと－
第５回：経済学はグラフが命－グラフの読み方－1次関数の式とグラフ－
第６回：売上げを式で表現してみよう－2次関数の式とグラフ－
第７回：生産量と費用の関係の式を考えよう－3次関数の式とグラフ－
第８回：利潤や効用の最大値を求めよう－微分の意味と計算方法（1）－
第９回：利潤や効用の最大値を求めよう－微分の意味と計算方法（2）－
第10回：変数が多いときの利潤や効用の最大値の求め方－偏微分の意味と計算方法（1）－
第11回：変数が多いときの利潤や効用の最大値の求め方－偏微分の意味と計算方法（2）－
第12回：利子のつき方の違いが将来の大きな違い－単利と複利の計算－
第13回：今の100万円と1年後の100万円は価値が違う!?－割引現在価値－
第14回：土地の値段を求めよう－等比数列の和（等比級数）の計算－
第15回：総まとめ

【事前および事後学習の指示】
次回の扱う章を、講義ごとに指示し、またM-Portで公表する予定です。
事前に教科書の該当する章に目を通し疑問点をまとめてください。
講義計画執筆時（2017年1月）の予定では、講義前日までに提出された質問については、講義中に扱うような形を取る予定です。

【テキスト】
経済学と経済学、ビジネスに必要な数学がイッキにわかる!! 石川秀樹 9784054062085 学習研究社

【参考文献】
適宜指示します。

【コメント】
問題演習（複数回で実施する予定です）の結果と、学期末試験の結果を総合的に評価します。
なお学期末試験のレベルは教科書の「確認テスト」と同レベルを予定しています。
詳細は第一回で示します。

講　義　名　称	曜　時
経済基礎A　12＜春＞	木1

【教員名称】
矢根　眞二

【講義概要】
この授業は外国人留学生を対象とするもので、彼らがもっとも関心をもつ現代日本社会のさまざまな領域についてテーマを決めて考察します。日本社会についての知識をえるというよりは、なぜそういう現象となるのかについてディスカッションを通じて学生自身が考え、自分の意見をまとめることをめざします。ディスカッションの幅を拡げるために、日本語教師をめざす学生にも参加を求める予定です。授業の中で「俳句と川柳」について学び、実際に作成し、学内外の日本人に評価とコメントをもらいます。また書道などの実技も行う予定です。

【学習目標】
その時々に応じたタイムリーなテーマを設定し、それに関する新聞記事を読んだりテレビ番組などを見ます。その後、それを土台にしてディスカッションを行い、お互いの意見交換をめざします。テーマごとに簡単な課題を提出します。新しい単語や表現がどんどん導入されるので、使い慣れた日本語辞書を持参してください。扱うテーマは現代日本の社会、文化、経済、政治、教育、娯楽などさまざまです。授業は基本的にすべて日本語で行うので、中級以上の日本語能力をもつ学生が対象となります。日本語による活発な意見交換を行うことで日本語能力も養うことをめざします。

【講義計画】
第１回：授業の目標説明と参加学生の自己紹介、および日本について関心のあるテーマを各自が考える
第２回：日本の伝統文化（1）
第３回：日本の伝統文化（2）
第４回：日本の近代（1）
第５回：日本の近代（2）
第６回：現代の世相（1）
第７回：現代の世相（2）
第８回：日本の教育問題（1）
第９回：日本の教育問題（2）
第10回：俳句と川柳（作品つくり）
第11回：日本の芸能（歌舞伎と宝塚歌劇）
第12回：俳句と川柳（書道に挑戦）
第13回：学生によるプレゼンテーション　*履修者数により模擬授業に充てる時間数は変動します。
第14回：学生によるプレゼンテーション
第15回：学生によるプレゼンテーション

【事前および事後学習の指示】
日本語のみで行う授業なので、内容が理解できるようなレベルまでしっかりと日本語能力を高めるようにしてください。テレビのニュースを聞いたり新聞などを読んで、現代の日本社会の抱える問題などにも目をむけておく姿勢を持って下さい。

【テキスト】

【参考文献】
授業の内容に関連する資料は適宜授業内で配ります。関連する映像（テレビ番組など）やインターネットへアクセスするなどして、視覚的な情報を多く使います。

【コメント】
初回に説明しますが、試験得点の６割以上が合格の原則です。ただし、授業中の質問やReview等の積極的参加を考慮する場合もあります。

講　義　名　称	曜　時
経済基礎B　01<秋>	金2

【教員名称】
岡野　光洋

【講義概要】
世界経済は、日々変化し続けている。 このことは、私たち一人一人の暮らしと無関係ではなく、密接に関わっている。 こうした問題意識から、本講義ではまず、今日の世界経済や日本経済に何が起こっているかを概観する。次に、経済を実物経済と金融経済とに分け、その両面から、経済活動の基本的な仕組みを学ぶ。 講義の後半では、いま世界で起きていることを私たち個人の問題と関連づけて考える。 これらを通じて、経済情勢の変化に適切に判断しうる基礎力を養うとともに、私たち自身のことを知る。

【学習目標】
経済情勢の変化に適切に判断しうる基礎力を養うとともに、私たち自身のことを知る。

【講義計画】
第１回：ガイダンス：経済の仕組みと私たちの暮らし
第２回：世界と日本の経済情勢
第３回：実物経済（1）経済と市場
第４回：実物経済（2）市場の均衡とGDP
第５回：実物経済（3）GDPの内訳と寄与度
第６回：貨幣の役割・金融の役割
第７回：複利計算と現在価値
第８回：日本銀行と金融政策（1）金融政策の目的
第９回：日本銀行と金融政策（2）金融政策の手段
第10回：株価と日本経済
第11回：債券価格・長期金利と日本経済
第12回：円高・円安と日本経済
第13回：資産運用と国際金融の関係（1）分散投資とアセットアロケーション
第14回：資産運用と国際金融の関係（2）金融資本と人的資本
第15回：まとめと復習

【事前および事後学習の指示】
事前学習に必要な参考書は適宜指示します。 過去の内容を理解したうえで次の講義に臨めるよう、事後の学習を重視して下さい。

【テキスト】

【参考文献】
参考文献については適宜指示する。

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
経済基礎B　02<秋>	金1

【教員名称】
江川　暁夫

【講義概要】
本講義では、経済学の入門として、現実のニュースや記事などを題材に、それらがどのような経済理論を用いると議論可能なのかを学ぶ。特に、世界経済の枠組みに関しては、経済学を無視した議論をするエコノミストや、古い経済学に基づき理論をこじつけながら現実を語る学者も存在することから、正しい経済学知識を持ちながら、そうした議論を批判的に見ていく必要がある。
それらのうち、１年次生を対象とすれば、経済理論についても、一般的には複雑なものは利用できないと思われるところ、中央省庁における官庁エコノミストとして実際に経済学を政策形成に活用し、必ずしも経済学に詳しくない人たちを納得・説得させてきた経験を踏まえ、特に世界経済とのかかわりに焦点を当てながら、現実の経済問題を分析する上で有用な経済学の様々な議論を紹介する。
講義では、まず、日本における経済学無用論への反論から始める。その上で、マクロ経済面でのニュースの読み方、グローバル化悪玉論に対する反論を通じ、日本経済における真の停滞要因を突き止めていく。

【学習目標】
経済学部に在籍する学生諸君は、各々の卒業後には、現実社会に経済知識を活用していくことが期待されることとなる。その観点では、ニュースや記事の主張等がどの程度説得的なものなのかを、関連する経済理論を用いて考えていくことの重要性・有用性を実感することは重要である。その上で、時として感情的かつ主観的な主張が展開されがちな現実の議論において、冷静かつ客観的な見方を投入することができるようになるための「土地勘」を養うことが、学習目標となる。また、そうした議論を行える若い者が増えていくことが、日本経済そのものを頑強にし、世界経済を発展させていく上で有益であると考えている。

【講義計画】
第１回：イントロダクション：経済理論はマネーゲームのためのツール？（社会科学としての経済学の位置付け）
第２回：日本経済の状況は「悪い」の？（様々な比べ方）
第３回：世界経済の状況は良いのか悪いのか？(足元の経済と構造的な問題)
第４回：世界経済の構造的な問題とは？（国連のSDGs）
第５回：「世界一大きな授業」の実践
第６回：どうして世界は世界に起こっている経済問題を解決できないの？（国際政治経済学序論①）
第７回：日本は世界に起こっている経済問題を手助けしないの？（政府開発援助と最近の経済協力）
第８回：日本は世界経済とどう関わっているの？（世界の中での日本のポジション）
第９回：世界の国々は経済でどうつながっているの？（貿易･投資の関係と、それを促進する制度）
第10回：日本経済はアメリカと中国の言いなり？（国際関係の基礎、アジア経済）
第11回：アジアなんかより欧米で活躍すべきでは？（日本企業の海外進出と米欧で日本人が活躍する余地）
第12回：グローバリゼーションは経済社会の悪者？（貿易の利益と配慮①）
第13回：貿易自由化から「国益」を守れ？（貿易の利益と配慮②）
第14回：外国人観光客の急増は「日本」という国が好かれているから？（日本ブーム）
第15回：経済学は世界を幸せにできるの？（まとめ）

【事前および事後学習の指示】
授業計画に記された各回の内容は、全て、関連する書籍や新聞記事等を探すことが可能である。それぞれについて、記事を一つ選び、その記事の中でどのような主張がなされているかを把握しておくこと。この作業は、レポートを書く上でも必須の作業となる。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献】
各回の講義内容の参考となる文検討については、その都度紹介する。

【コメント】
（1）試験の採点は、１年次の学生が最低限到達すべきレベルを基準とするため、粗点での評価ではない。
（2）レポートの６０点については、以下のとおり配分する。
①毎回、授業の途中ないし終了時に５分程度の小テストに取り組んでもらう。１回あたり２～４点満点。その点数をレポート点として付加（２５点満点）。
②レポートは２本。１本目は、10月前半を提出期限とするもので、本講義のトピックのうち一つを選び、報道を見つけ、それを解説し、自分なりの感想を述べるもの（１５点満点）。２本目は、1月前半を提出期限とするもので、前半（第１０回まで）の学習内容を用いて現実問題について議論するレポート（２０点満点）。レポートについては、各学年ごとに到達基準が異なる（当然ながら、学年があがるごとに厳しくなる）点に、留意すること。
（3）出席は毎回取るが、「１回の出席で何点」といった算出はしない。欠席については、公欠や医師の診断書等がある欠席の場合は、出席扱いの上、当該回の小テストを受けたものとみなし、当該回の小テストの平均点を付加する。それ以外の自由による欠席の場合（当日の突然の体調不良や就職活動を理由とする欠席）については、教員に事前に出席配慮をメールにて願い出ることにより、相応の配慮がなされる。当然ながら、配慮の程度は、当該メールの文面内容如何で個別に決まる。どのようなメールが望ましい／望ましくないのかは、不定期に授業内で話すので、それにそった連絡をすること。

講　義　名　称	曜　時
経済基礎B　05＜秋＞	火1

【教員名称】
吉弘　憲介

【講義概要】
この講義では、経済と社会に関係する諸現象について、漫画とアニメ、映画等のストーリーを題材として学んでいく。実際の社会や経済を取り上げた作品だけでなく、SFやファンタジー作品の背景に存在する経済・社会思想を読み取りつつ、現実の世界における経済現象の理解を進めていく。

【学習目標】
経済学や社会科学に関連する思想や出来事は、普段触れる様々なストーリーに隠れている。それらを読み取る、社会科学上のリテラシーを身につけるのがこの講義の目標となる。また、宿題、感想レポートの提出を通じて計画的に課題をこなす能力を養う。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
第２回：ジャパンアズナンバーワンと『課長島耕作』の時代
第３回：経済停滞とバブル崩壊による生活の破壊『ナニワ金融道』から見る金のえげつなさ
第４回：『闇金ウシジマ君』から見る安定雇用の崩壊、島耕作よさらば
第５回：資本主義はお好きですか、欲望の物語としての『千と千尋の神隠し＆ジブリ作品』(1)
第６回：資本主義はお好きですか、欲望の物語としての『千と千尋の神隠し＆ジブリ作品』(2)
第７回：巨人が攻めてくる！グローバル経済と国家『進撃の巨人』
第８回：合理的な強者というフィクション、ミギーに見るホモエコノミクス『寄生獣』
第９回：新自由主義を知ってますか？黄金の60年代へ『バックトウザフューチャー』(1)
第10回：レーガンをご存知ですか、そう映画俳優の『バックトウザフューチャー』(2)
第11回：億万長者になりたいな『ウォール街』(1)
第12回：金より大事なものはあるか『ウォール街』(2)
第13回：経営学で甲子園にいけるか「もしドラ」を読み解く
第14回：「もしドラ」が本当にあったら？「マネーボール」
第15回：まとめと試験について

【事前および事後学習の指示】
宿題提出物について、学習を義務付ける。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
経済原論　01＜通期＞	月2

【教員名称】
大澤　健

【講義概要】
私たちが暮しているのは「市場経済」あるいは「資本主義」と言われる社会です。経済学は、この社会の仕組みをを考える学問です。現在、「グローバリゼーション」という現象が進行する中で、「市場経済」、「資本主義社会」が世界を覆い尽くそうとしています。この講義では、世界に広がる「市場」や「資本」の基本的な性質を解説しながら、われわれの社会の基本的な仕組みをより深く学ぶことを目指しています。

【学習目標】
「市場」「貨幣」「資本」といったわれわれの社会の基本的なキーワードの意味を理解するとともに、資本主義社会がどのような性格をもち、どのように運動していくのかといった経済の基盤となる知識の習得を目標とする。また、こうした基本的な範疇を論理的に説明できるようになることを目指しています。

【講義計画】
第１回：ガイダンスと講義についてのアンケート
第２回：１．市場経済の仕組み　「市場経済」とは何か。
第３回：市場の特性①
第４回：市場の特性②
第５回：貨幣の諸機能と商品流通①
第６回：貨幣の諸機能と商品流通②
第７回：貨幣の諸機能と商品流通③
第８回：銀行信用と通貨制度①
第９回：銀行信用と通貨制度②資本の蓄積と過剰人口
第10回：銀行信用と通貨制度③３．資本の流通過程　　資本の循環
第11回：銀行信用と通貨制度④資本の循環と流通費
第12回：２．資本の生産過程　　資本の定義とその意味①
資本の回転
第13回：資本の定義とその意味②資本の回転とストック・フロー
第14回：資本主義的生産の諸特徴①　利潤追求とその意味　　資本主義的再生産過程
第15回：資本主義的生産の諸特徴②　生産の拡大
第16回：資本主義的生産の諸特徴③　資本主義的生産の基本的矛盾
第17回：資本主義的生産の諸特徴④　不況と資本主義　　平均利潤の形成過程
第18回：相対的剰余価値の生産①　概念と発生の仕組み　　イノベーション　商業資本とその意味
第19回：相対的剰余価値の生産②　相対的剰余価値に示される資本主義の特徴
第20回：相対的剰余価値の生産③　相対的剰余価値とイノベーション
第21回：相対的剰余価値の生産④　資本主義の黄金時代とNIESの成長
第22回：資本の蓄積①　資本主義的蓄積の一般的法則
第23回：資本の蓄積②　相対的過剰人口の生産
第24回：資本の蓄積③　相対的過剰人口の資本主義的意味
第25回：３．資本主義の全体像　資本循環の３局面
第26回：資本の運動と４つの市場
第27回：産業革命と帝国主義
第28回：戦後の世界と国家的資本主義
第29回：グローバリゼーションの進展①
第30回：グローバリゼーションの進展②

【事前および事後学習の指示】
経済学の基本的な部分を講義するので、話はかなり抽象的です。経済の具体的な動きを知っていると聞きやすくなるので、新聞やニュースなどで経済に関する知識をなるべく増やしておいてください。

【テキスト】
政治経済学の再生 柴田信也編著 9784883521838 創風社

【参考文献】

【コメント】
夏休み中にレポートを課す予定。それを加点要素として考慮する。
レポートを提出しない事による減点はない。

講　義　名　称	曜　時
経済原論　03＜秋集＞	水1 ／金2

【教員名称】
森本　壮亮

【講義概要】
現在、日本では大企業が史上最高益をあげる一方で、非正規雇用や格差の拡大、少子高齢化、国債の増大や増税などといった経済問題が山積している。少なくとも物質的には豊かであるはずの先進国日本において、このような経済問題がなぜ生じているのか？　企業の利益が増えているのに、なぜ賃金は上がらないのか？　株価が上がっているのに、なぜGDPは増えないのか？　これらの諸問題を解明するためには、分析用具としての理論が不可欠である。経済理論には大別して、マルクス経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学の3種があるが、このうち本講義では、マルクス経済学の理論体系を学ぶ。

【学習目標】
経済が動いているメカニズム（経済現象の裏事情）を理論的に分析していく術を学んでいくことにより、ただ感情的に世の風潮や権威に流されるのではなく、理論を武器として自らの頭で徹底的に考え、自分なりの意見が持てるようになることを目標とする。

【講義計画】
第１回：現代の経済問題
第２回：経済分析の方法と資本主義社会の歴史的位置
第３回：人間の生産活動と経済
第４回：商品
第５回：貨幣の発生（価値形態論）
第６回：貨幣の機能
第７回：現代の貨幣
第８回：金融政策
第９回：日本の金融政策の変遷および小テスト
第10回：企業の生産活動（価値増殖過程）
第11回：労働力商品の特殊性と剰余価値
第12回：絶対的剰余価値の生産と相対的剰余価値の生産
第13回：協業・分業・機械制大工業
第14回：労働力の価値と賃金
第15回：資本の蓄積過程
第16回：資本主義の生成（本源的蓄積）
第17回：資本の循環
第18回：資本の回転
第19回：これまでのまとめと小テスト
第20回：諸資本の部門内競争
第21回：諸資本の部門間競争（利潤率の均等化）
第22回：諸資本の競争と地代
第23回：利潤率の傾向的低下法則
第24回：利潤率の傾向的低下法則と過剰資本の堆積
第25回：商品流通と商業資本、サービス産業とサービス資本
第26回：利子生み資本とその発展
第27回：社会的総資本の再生産と再生産表式（単純再生産）
第28回：拡大再生産表式
第29回：これまでのまとめ
第30回：現代の経済問題再考

【事前および事後学習の指示】
・経済原論専用のノートとファイルを作り、授業の配布物とともに整理していくこと。
・毎回の授業後には、授業でとったノートの復習を必ずすること。単純に授業に出ているだけで単位が取れるほど試験は簡単ではない。
・初回の授業で今一番重要な経済問題は何だと思うか聞くので、考えておくこと。

【テキスト】
（改訂新版）現代社会経済学 北村洋基 978-4-905261-11-7 桜井書店
経済原論 平井規之・北川和彦・滝田和夫 978-4641059054 有斐閣 テキストは、上記二冊のうち、自分に合っていると思った方を選択すればよい。テキストの購入については、初回の授業で説明を行うので、初回までに用意する必要はない。

【参考文献】
著者：吉川洋
タイトル：高度成長
出版社：中公文庫
ＩＳＢＮ：4122056330
著者：橋本寿朗
タイトル：戦後の日本経済
出版社：岩波新書
ＩＳＢＮ：978-4-00-430398-2

【コメント】
・受講生の数によって、試験とレポートの比率を変える予定である。どうするかは、1回目もしくは2回目の授業でアナウンスする。（2016年度は、受講生が少なかったので、試験はやらずにレポート7回で成績評価を行った。）
・レポートは、最低でも5回は出す予定である。
・出席は取らないが、レポートは授業の内容に基づくので、欠席が多いと単位が取れない。
・4回生だから成績評価は甘くなる、ということは一切ない。
・完全に努力に比例した成績評価を行うので、努力した者にはSが、しなかった者にはDがつく。

講　義　名　称	曜　時
経済情報処理論Ⅰ　＜春＞	金1

【教員名称】
櫻井　雄大

【講義概要】
「経済情報処理論Ⅰ」と「経済情報処理論Ⅱ」は同一年度に履修することをお勧めします。ⅡではⅠで触れなかった内容を扱います。
この講義では、主に経済学部生が今後の学習/研究活動に応用できるように、情報処理の技術や背景などについて説明します。
経済学に限らず、今日では情報処理は私たちの生活に無くてはならないものとなっています。人々の様々な活動を記録し、大量のデータを素早く正確に処理し、そこから得られる知見を様々な分野で活用するにあたり、具体的な利用実例を示しながら説明するとともに、プログラミングの基本項目など技術的な項目も解説します。

【学習目標】
情報技術の基礎知識について学習し正しく理解することで、経済学およびその他社会科学の学習において情報技術を活用するための土台をつくり上げることを目標としています。

【講義計画】
第１回：復習―コンピュータの仕組み
第２回：論理演算の基本
第３回：学内の情報環境について
第４回：経済学におけるコンピュータの活用1（インターネット資源の調査と利用）
第５回：経済学におけるコンピュータの活用2（データの統計処理）
第６回：経済学におけるコンピュータの活用3（シミュレーション）
第７回：経済学におけるコンピュータの活用4（数値解析）
第８回：経済学におけるコンピュータの活用5（データマイニング）
第９回：経済学におけるコンピュータの活用6（複雑系）
第10回：プログラミング詳説1（プログラムが扱うデータの概念、型と構造）
第11回：プログラミング詳説2（流れの制御―条件分岐と反復処理）
第12回：プログラミング詳説3（処理の部品化―関数とライブラリ）
第13回：プログラミング詳説4（現実とプログラムのマップ―アルゴリズムの選択と設計）
第14回：プログラミング詳説4（制御と計測）
第15回：これまでの講義まとめ、最終試験

【事前および事後学習の指示】
準備学習が必要な項目については、講義中に適宜指示します。
また、必ずノートを取り、それを参考に講義中に話した項目について調べなおすことで復習してください。

【テキスト】

【参考文献】
講義内で適宜提示します。

【コメント】
備考
出席は、不定期に実施する小テストの点数で評価する予定です。

講　義　名　称	曜　時
経済情報処理論Ⅱ　＜秋＞	金1

【教員名称】
櫻井　雄大

【講義概要】
東アジア世界の中心であった中国において成立した王朝の変遷を中心に、日本を含む東アジア各国の動向と影響に意識を向けつつ概観する。なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。高校時代の教科書を残している者はそれに目を通しておくこと。

【学習目標】
中国を中心とする東アジアの歴史を概観することによって関連する各国への理解を深め、それぞれが歴史を学ぶ意義について考えることを目標とする。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
第２回：神話～夏殷周時代
第３回：春秋・戦国①—覇者と会盟
第４回：春秋・戦国②—諸子百家
第５回：秦漢時代①—始皇帝とその時代
第６回：秦漢時代②—武帝の外征と拡大
第７回：秦漢時代③—西域経営と外戚権力
第８回：魏晋南北朝①—三国鼎立
第９回：魏晋南北朝②—諸民族の勃興と混乱
第10回：魏晋南北朝④—南北の争いと再統一
第11回：隋唐時代①—煬帝の大規模事業と唐の成立
第12回：隋唐時代②—花の都長安とシルクロード
第13回：隋唐時代③—安史の乱と藩鎮の時代
第14回：隋唐時代④—「中華」に渡る人々
第15回：五代十国時代—粉々たる乱世
第16回：宋代①—文治国家の成立
第17回：宋代②—遼・金・西夏と宋の南遷
第18回：宋代③—朱子学の発展と諸外国への影響
第19回：モンゴル・元時代①—ユーラシア大帝国の誕生
第20回：モンゴル・元時代②—繋がる東洋と西洋
第21回：明代①—三つの顔を持つ皇帝
第22回：明代②—朝貢貿易と銀経済の発展
第23回：明代③—倭寇と「平秀吉」
第24回：清代①—「伝統中国」の成立
第25回：清代②—帝国の繁栄と動揺
第26回：清代③—清末の混乱と列強の進出
第27回：中華民国①—辛亥革命と孫文
第28回：中華民国②—国民党と共産党
第29回：中華人民共和国—成立から現在まで
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。

【テキスト】

【参考文献】
講談社『中国の歴史』シリーズ（全12巻）、2004年～ 2005年
ほか、授業中に適宜紹介する。

【コメント】
備考
出席は、不定期に実施する小テストの点数で評価する予定です。

講　義　名　称	曜　時
経済数学Ⅰ　＜春＞	水3

【教員名称】
二替　大輔

【講義概要】
本講義では、ミクロ経済学やマクロ経済学および応用科目における理論的分析でよく用いられる分野から、1変数関数の微分と最適化および線形代数の基礎について学んでいきます。講義では、毎回演習問題を解いてもらい、知識の習得を確実にします。

【学習目標】
経済分析を行うための数学の基本的な知識を習得する。
1変数関数の微分および最適化問題を解くことができるようになる。
線形代数の基礎的な問題を解くことができるようになる。

【講義計画】
第１回：ガイダンス・経済学における数学の使用
第２回：関数とそのグラフ
第３回：関数の極限
第４回：微分係数と導関数
第５回：微分の基本公式
第６回：合成関数の微分
第７回：1変数関数の最適化問題（1）
第８回：1変数関数の最適化問題（2）
第９回：前半のまとめと中間試験
第10回：行列とベクトル（1）
第11回：行列とベクトル（2）
第12回：行列式（1）
第13回：行列式（2）
第14回：行列とベクトルの応用
第15回：後半のまとめ

【事前および事後学習の指示】
講義内容の復習及び問題演習の復習を毎回必ず行ってください。

【テキスト】
経済数学入門 岡部恒治 9784915787904 新世社

【参考文献】
石村園子『やさしく学べる基礎数学』，共立出版株式会社，2001年
A. C. チャン・K. ウエインライト『現代経済学の数学基礎［第4版］（上）』，シーエーピー出版，2010

【コメント】
中間試験（40%）と期末試験（40%）および講義中におこなう課題（20%）で評価します。

講　義　名　称	曜　時
経済数学Ⅱ　＜秋＞	水3

【教員名称】
二替　大輔

【講義概要】
本講義では、経済数学Ⅰの知識を前提として、多変数関数（2変数関数）の微分と最適化について講義していきます。講義では、毎回演習問題を解くことにより、確実な知識の習得を目指します。

【学習目標】
経済分析を行うための数学の基本的な知識を習得する。
多変数関数の微分が解けるようになる。
多変数関数の最適化問題を解けるようになる。

【講義計画】
第１回：ガイダンス・経済数学Ⅰの復習
第２回：多変数関数とそのグラフ
第３回：偏微分（1）
第４回：偏微分（2）
第５回：接平面と全微分
第６回：多変数関数の合成関数の微分
第７回：陰関数定理
第８回：前半のまとめと中間試験
第９回：制約なし最適化問題（1）
第10回：制約なし最適化問題（2）
第11回：制約なし最適化問題の経済学への応用
第12回：制約付き最適化問題（1）
第13回：制約付き最適化問題（2）
第14回：制約付き最適化問題の経済学への応用
第15回：後半のまとめ

【事前および事後学習の指示】
講義内容の復習及び問題演習の復習を毎回必ず行ってください。

【テキスト】
経済数学入門 岡部恒治 9784915787904 新世社

【参考文献】
石村園子『やさしく学べる基礎数学』，共立出版株式会社，2001年
A. C. チャン・K. ウエインライト『現代経済学の数学基礎［第4版］（上），（下）』，シーエーピー出版，2010年

【コメント】
中間試験（40%）と期末試験（40%）および講義中に課す課題（20%）で評価します。

講　義　名　称	曜　時
経済政策Ⅰ　＜春＞	金1

【教員名称】
吉弘　憲介

【講義概要】
経済政策Ⅰでは、現代における政府構造、その歴史的な形成過程、主たる機能、各国の違いなどについて学ぶ。特に、多くの先進諸国が「福祉国家」という国家形態をとる中で、それがどのように形作られ、いかなる機能を持ち、我々が暮らすこの日本においてはそれがどんな姿をしているのか（していたのか）を学ぶ。また、近年、経済活動がグローバル化する中で「福祉国家」の在り方が揺らいでいることを映像資料なども用いながら学んでいく。

【学習目標】
各国における社会経済制度についての知識と、その背景にある経済学の思想・理論の習得を目指す。具体的には、関係するテーマを扱った新聞・雑誌記事などを理解することが可能なようにする。また、就職活動における時事問題、面接時の問題意識発表などに役立つ知識の習得を目指す。

【講義計画】
第１回：ガイダンス；講義内容のガイダンスを行う。
第２回：政府の機能（1）；なぜ、政府は経済に介入するのか？
第３回：政府の機能（2）；政府はどのように経済に介入するのか？
第４回：古典派経済学の時代の経済政策；小さな政府が望ましいとされたのはなぜか？
第５回：古典派からケインズへ;政府の経済介入はいかに正当化されたか？
第６回：戦争と福祉国家；国家はなぜ人々の生活を保障しようとしたのか？
第７回：転移効果と近代福祉国家の形成；福祉国家は何故残ったのか？
第８回：様々な福祉国家；福祉国家の類型論とは何か？
第９回：アメリカの経済社会；自由主義的福祉レジームの具体的姿とは？
第10回：欧州の経済社会；保守主義的福祉レジームの具体的姿とは？
第11回：北欧の経済社会；社会民主主義的福祉レジームの具体的姿とは？
第12回：日本の経済社会；公共事業分配型の社会統合の姿とは？
第13回：経済のグローバル化と福祉国家の危機；なぜ福祉国家は危機に陥るのか？
第14回：現代日本における福祉国家の危機；我々が暮らす社会はいかなる状態にあるのか？
第15回：講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】
宿題等を通じて、事前事後学習を義務付ける。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
講義内容を確認するための宿題を6回行う。その結果で評価する。宿題の実施はランダムとする。

講　義　名　称	曜　時
経済政策Ⅱ　＜秋＞	金1

【教員名称】
吉弘　憲介

【講義概要】
経済政策Ⅰでは、福祉国家という現代社会における国家と経済の関係について学んだ。Ⅱでは、これを前提に日本の経済社会の姿をより詳細に学んでいく。具体的には、日本が直面する種々の経済･社会的課題を幅広く学び、その根底にある持続可能性について検討と理解を深めていく。特に、少子高齢化が地方経済や日本経済全体へ与える影響について、様々な側面から見識を深めることが大きな目的の一つである。

【学習目標】
2000年代以降の日本で進行する経済･社会問題についての知識を得る。また、新聞などを取り入れ、就職活動や社会人となった時に必要とされる知識を貯え、それぞれの問題について自分の力で何らかの意見を出せる力を養うことを目標とする。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
第２回：人口減少と消滅自治体の衝撃
第３回：空き屋と経済の関係
第４回：劣化するインフラと財政問題
第５回：海外におけるアセットマネジメントという手法
第６回：限界集落問題とは何か
第７回：人口減少への対応策とその限界
第８回：里山資本主義は救世主となるか？地域活性化を巡る現状
第９回：高齢化のインパクトと衝撃
第10回：高齢化への対応策、柏市豊四季台団地の取り組み
第11回：少子化に立ち向かう、子育て支援をはじめる地方自治体、横浜市の事例から
第12回：雇用崩壊、ブラック企業の恐怖
第13回：財政は持続可能か、日本の累積債務問題
第14回：原発問題を考える
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
宿題を行うために事前事後学習を課す。

【テキスト】

【参考文献】
講義中指示する。

【コメント】
期末試験のほか、講義中にランダムで6回宿題を課す。これをレポートの点数としてカウントする。

講　義　名　称	曜　時
経済地理学Ⅰ　＜春＞	金3

【教員名称】
安倉　良二

【講義概要】
「産業立地に関する地理学的アプローチ－第１・２次産業を中心に－」
　経済事象を理解する場合，それが「どこで起こっているのか」，という空間と関連づけた考察が求められる。本講義では，第１～３次の各産業における立地に焦点を当て，その発生要因や背景にも踏み込んだ講義を行う。そのうち，前期は表題にある第１次産業，第２次産業に焦点を当てて講義する。なお，第３次産業に関するトピックは後期の「経済地理学Ⅱ」で取り上げるので並行履修を薦める。

【学習目標】
　本講義では，可能な限り，レジュメに地図や図表，写真を活用して経済事象に関する地理学的な見方を身につけてもらうことを目標とする。

【講義計画】
第１回：講義の進め方に関するガイダンス
第２回：農業（1）：日本の農政の変化と地域構造－米問題を中心に－
第３回：農業（2）：食料需給の問題－国内外の産地変容－
第４回：農業（3）：大規模化する農業
第５回：農山村の変容（1）：過疎化の進展と限界集落
第６回：農山村の変容（2）：地域振興（むらおこし）と農村空間の商品化
第７回：林業－林野資源の活用をめぐる問題－
第８回：漁業－水産資源の活用をめぐる諸問題－
第９回：自動車工業の立地再編
第10回：電気・電子機械工業の立地再編
第11回：ウェーバーの工業立地論
第12回：地場産業・伝統産業の産地再編－グローバル化をまじえて－
第13回：都市におけるアニメーション産業の集積
第14回：エネルギー問題（1）：石油・石炭
第15回：エネルギー問題（2）：電力

【事前および事後学習の指示】
この分野を取り巻く環境は著しく変化している。したがって，これらの問題に関するニュースを新聞やテレビ，インターネットで日常的に収集することが，講義で取り上げるテーマの背景となる知識として役立つはずである。

【テキスト】

【参考文献】
1．竹内淳彦・小田宏信編（2014）：『日本経済地理読本（第９版）』東洋経済新報社
2．松原　宏編（2013）：『現代の立地論』古今書院
3．中藤康俊・松原　宏編（2012）：『現代日本の資源問題』古今書院
4．松原　宏編（2017）：『知識と文化の経済地理学』古今書院
これらの文献のみならず，場合によっては高校地理の資料集もレジュメに積極的に引用するつもりである。

【コメント】
期末試験に加えて，講義終了10～15分前に書いてもらうコメントペーパーの内容（問題への関心）も評価する。

講　義　名　称	曜　時
経済地理学Ⅱ　＜秋＞	金3

【教員名称】
安倉　良二

【講義概要】
「産業立地に関する地理学的アプローチ－第３次産業を中心に－」
経済事象を理解する場合，それが「どこで起こっているのか」という空間と関連づけた考察が求められる。後期の講義では，第３次産業の中でも，日常生活に密接な関わりをもつサービス業と商業に焦点を当てる。なお，第１・２次産業のトピックについては，前期の「経済地理学Ⅰ」で取り上げるので並行履修を薦める。

【学習目標】
地図や図表，写真を活用して産業立地に関する地理学的な見方を身につけてもらうことを目標とする。

【講義計画】
第１回：オフィス（1）－都市階層とオフィス立地－
第２回：オフィス（2）－オフィスの立地と都市構造－
第３回：オフィス（3）－都市内部におけるオフィス街の変容－
第４回：オフィス（4）－情報化の進展とオフィスの立地再編－
第５回：サービス業の地理学（1）－サービス業の種類－
第６回：サービス業の地理学（2）－保育施設の立地－
第７回：日本の大型店立地政策（1）
－20世紀：大店法の運用と地域商業－
第８回：日本の大型店立地政策（2）
－21世紀：「まちづくり三法」と地域商業－
第９回：中心商店街の衰退と活性化（1）
－大型店の立地変化をまじえて－
第10回：中心商店街の衰退と活性化（2）－まちづくりの多様性－
第11回：コンビニの立地メカニズム－店舗網・物流システムを中心に－
第12回：買い物難民（フードデザート）問題（1）－アクセス問題－
第13回：買い物難民（フードデザート）問題（2）－高齢者の食をめぐる問題－
第14回：卸売業・物流施設の立地展開
第15回：書籍流通の空間特性

【事前および事後学習の指示】
「商店街の活性化（まちづくり）」や，流通業界における店舗や物流センターなどの立地，ならびに買い物難民問題など流通・商業に関するニュースに関心をもち，日常生活における問題意識と結びつける習慣をつけておくと，本講義の内容もより深く理解できるはずである。

【テキスト】

【参考文献】
毎回の講義で使うレジュメにおいて，地理学および隣接分野（都市計画学・商業学）の文献を積極的に引用する。

【コメント】
期末試験のほか，講義終了10～15分前に配布するコメントペーパーの内容（講義内容への関心）を評価する。

講　義　名　称	曜　時
経済統計Ⅰ　＜春＞	金2

【教員名称】
岡野　光洋

【講義概要】
日本を取り巻く経済情勢は日々変化している。 経済統計は、経済を知り経済情勢を読み解くための最も重要なツールである。 経済統計を正しく理解すれば、日々の暮らしの中では実感しにくい経済の変化を敏感に察知することができ、変化にどう対応すれば良いかについて判断を下すことができる。 また経済統計を使いこなすことで、自らが考察・分析した結果を客観的・説得的に対外発信することが可能になる。 以上のような問題意識から、本講義では様々な経済統計を具体的に紹介するとともに、統計上の諸概念や各種計算方法について学ぶ。

【学習目標】
経済統計を理解し、経済情勢の変化を実感する。
(1) 経済ニュースを深く理解し、自らの意見を述べることができる。
(2) 自らの関心領域に対応する経済統計を見つけることができる。
(3) 自らが入手した経済統計を元に、目的に沿った視覚化および分析、考察ができる。

【講義計画】
第１回：ガイダンス：経済統計を使いこなし、経済に明るくなろう
第２回：経済とは：市場と需要・供給
第３回：財市場の均衡とGDP
第４回：経済成長率と寄与度（1）国民経済計算
第５回：経済成長率と寄与度（2）その計算方法
第６回：成長率・変化率の意味と複利計算
第７回：経済統計と指数・対数：スケールを知る
第８回：経済統計の視覚化：グラフを読みとく・グラフをつくる
第９回：主な経済統計（1）人口・労働と景気循環
第10回：主な経済統計（2）企業・産業と生産、家計と消費
第11回：主な経済統計（3）公共投資・政府支出、貿易統計
第12回：金融統計：マネーストック、短期金利・長期金利、為替レート、株価
第13回：経済統計の考察（1）相関関係と因果関係
第14回：経済統計の考察（2）見せかけの相関
第15回：まとめと復習

【事前および事後学習の指示】
事前学習に必要な参考書は適宜指示します。 過去の内容を理解したうえで次の講義に臨めるよう、事後の学習を重視して下さい。

【テキスト】

【参考文献】
参考文献については適宜指示する。

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
健康・スポーツ学講義［2］－コーチング論　<春>	水1

【教員名称】
松本　直也

【講義概要】
本講義では、スポーツ現場におけるスポーツコーチに焦点を当てながら、日本的スポーツ環境の問題点、トップアスリートのトレーニング方法、生涯スポーツと健康などスポーツを取り巻く様々な環境について考察を深めます。

【学習目標】
本講義では、体育・スポーツ指導におけるコーチングの基本理論と実践について理解を深めることを目的とします。スポーツコーチの仕事について理解を深めコーチの哲学や責任について、文献だけでなく実際の現場の視点からアプローチしていきます。また、パワーポイントを中心に授業を展開し、VTR映像、新聞資料等からコーチングに関わる様々な問題を取り上げます。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
第２回：スポーツコーチングとは
第３回：日本的スポーツ観①
第４回：日本的スポーツ観②
第５回：日本的スポーツ観③
第６回：スポーツコーチの役割①
第７回：スポーツコーチの役割②
第８回：スポーツコーチの役割③
第９回：スポーツコーチの役割④
第10回：スポーツコーチの役割⑤
第11回：メンタルトレーニングの理論と実際①
第12回：メンタルトレーニングの理論と実際②
第13回：メンタルトレーニングの理論と実際③
第14回：コーチング理論と現状
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
授業の予習・復習の他、授業で配布するプリント、資料等に目を通してから受講すること。

【テキスト】

【参考文献】
必要に応じて紹介する。

【コメント】
出席はとらないが、授業中にレポートを書いて提出してもらうことがある。試験、レポート、授業中の態度により総合的に評価する。

講　義　名　称	曜　時
憲法　01<通期>	月1

【教員名称】
森口　佳樹

【講義概要】
憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。

【学習目標】
憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション、憲法総説
第２回：基本的人権の主体
第３回：人権と公共の福祉
第４回：憲法規定の効力
第５回：幸福追求権の意義
第６回：新しい人権の具体化
第７回：平等の意義
第８回：平等権をめぐる判例
第９回：思想・良心の自由
第10回：信教の自由
第11回：表現の自由
第12回：表現の自由をめぐる判例
第13回：学問の自由
第14回：経済的自由権
第15回：身体的自由権
第16回：生存権
第17回：生存権以外の社会権
第18回：参政権・国務請求権
第19回：国民主権
第20回：天皇
第21回：平和主義
第22回：国会の意義
第23回：国会の権限
第24回：内閣の意義
第25回：内閣の権限
第26回：裁判所の意義
第27回：裁判所の権限
第28回：財政
第29回：地方自治
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。

【テキスト】
ワンステップ憲法 森口佳樹他 978-4-7823-0546-1 嵯峨野書院

【参考文献】
別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ　第6版」（有斐閣）

【コメント】
受講生数によるが、基本的には定期試験を主たる評価の対象とする。補助的に小テストを行い、補充的な成績評価の対象とする。

講　義　名　称	曜　時
憲法　02＜通期＞	月2

【教員名称】
森口　佳樹

【講義概要】
憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。

【学習目標】
憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション、憲法総説
第２回：基本的人権の主体
第３回：人権と公共の福祉
第４回：憲法規定の効力
第５回：幸福追求権の意義
第６回：新しい人権の具体化
第７回：平等の意義
第８回：平等権をめぐる判例
第９回：思想・良心の自由
第10回：信教の自由
第11回：表現の自由
第12回：表現の自由をめぐる判例
第13回：学問の自由
第14回：経済的自由権
第15回：身体的自由権
第16回：生存権
第17回：生存権以外の社会権
第18回：参政権・国務請求権
第19回：国民主権
第20回：天皇
第21回：平和主義
第22回：国会の意義
第23回：国会の権限
第24回：内閣の意義
第25回：内閣の権限
第26回：裁判所の意義
第27回：裁判所の権限
第28回：財政
第29回：地方自治
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。

【テキスト】
ワンステップ憲法 森口佳樹他 978-4-7823-0546-1 嵯峨野書院

【参考文献】
別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ　第6版」（有斐閣）

【コメント】
受講生数によるが、基本的には定期試験を主たる評価の対象とする。補助的に小テストを行い、補充的な成績評価の対象とする。

講　義　名　称	曜　時
現代社会論　＜春集＞	火4／金4

【教員名称】
篠原　千佳

【講義概要】
この講義は社会学の基礎知識を提供し、さまざまな社会問題について社会学的に考察する。トピックとしては、孤立化社会、学校教育と就職問題、非行と犯罪、地域社会の崩壊と再生、グローバル化と社会の多様化、社会階層と格差、メディアと大衆文化、人権問題と雇用均等、福祉国家、安心社会から信頼社会への変化、幸福感と社会意識、グローバル化社会と日本の役割などを予定している。

【学習目標】
社会学の理論・研究方法など基礎知識を習得しながら、最近のグローバル化する社会で起こっている様々な問題を、社会学的に理解・分析する基礎力を育てることを目標とする。この学期の最終目標は、各受講生が、多様化する現代社会の現象や問題を多角的な視点で理解・分析できるようになり、解決方法を模索・提示できる能力を身につけることである。

【講義計画】
第１回：講義紹介
第２回：社会学とは、グローバル化社会とは
第３回：現代社会をキャッチする－社会学理論と調査方法
第４回：孤人化社会と親密性の罠１－氾濫する親密性
第５回：孤人化社会と親密性の罠２－近代化、個人主義、孤立化
第６回：学校から職業へ１－ライフコース、未来予想図は見える？
第７回：学校から職業へ２－自己実現と学歴社会のホント
第８回：図書館調査活動－現代社会リサーチプロジェクト
第９回：非行文化喪失と少年犯罪１－犯罪の現状と変化
第10回：非行文化喪失と少年犯罪２－ソーシャル・ネットワーク
第11回：地域社会の崩壊と再生１－地域社会、多様化、リスク
第12回：地域社会の崩壊と再生２－地域社会の社会学的分析
第13回：格差と不平等１－総中流社会から格差社会へ
第14回：格差と不平等２－少子高齢化社会と階層社会
第15回：これまでのまとめと復習
第16回：現代社会と宗教の役割
第17回：社会変動と大衆文化１－出版不況を考える
第18回：社会変動と大衆文化２－大衆社会と文化論的解釈
第19回：家族とジェンダー１－ジェンダー視点で見る近現代日本社会
第20回：家族とジェンダー２－性別役割と社会制度を考える
第21回：福祉国家１－福祉レジームと社会保障制度
第22回：福祉国家２－日本の出産、保険、年金、介護
第23回：安心社会から信頼社会へ１－リスク社会を生きる
第24回：安心社会から信頼社会へ２－市民社会とＮＧＯ・ＮＰＯ
第25回：グローバル化と社会意識１－グローバル化と幸福感
第26回：グローバル化と社会意識２－世界の中の日本を考える
第27回：グローバル社会と日本の役割１－日本とＵＮ国際機関の役割
第28回：グローバル社会と日本の役割２－日本に課せられた役割
第29回：今学期のまとめと復習
第30回：期末試験準備

【事前および事後学習の指示】
講義時の指示に従い、教科書と関係資料を毎回必ず予習・復習し授業に臨むこと。基本的には、教科書の該当する章（約 10 ～ 20ページ）を熟読し、その章の設問に答えられるよう準備をしておくこと。講義時間内外での提出課題は個人、ペア、グループ・ワークなど多様であり、自立心と積極性に加えて協調性が求められる。

【テキスト】
Do! ソシオロジー 改訂版 -- 現代日本を社会学で診る 友枝 敏雄・山田真茂留（編）ISBN-10: 4641124965 ISBN-13: 978-4641124967 有斐閣アルマ

【参考文献】
指定のテキスト以外の参考文献は講義中に指示する。

【コメント】
期末試験（基礎）３０％　　期末試験（論述）４０％　　授業参加・貢献３０％
基本的な理解を試験と自由選択テーマの論述で確認するほかに、授業への参加･貢献の総合的な判断で評価する。毎回講義時間内外の課題に取り組み、積極的に参加・貢献することに加えて、協調性を持って他の受講生とも課題に取り組むことが求められる。

講　義　名　称	曜　時
現代中国社会　＜秋＞	水2

【教員名称】
坂井田　夕起子

【講義概要】
めざましい経済発展を続けてきた中国は現在大きな社会の転換点に来ている。本講義では、２１世紀の中国社会・政治・経済の移り変わりと諸問題について講義を行う。授業で扱う内容については、できる限り時事問題をリアルタイムで扱いたいので適宜変更することもある。

【学習目標】
現代中国の政治、経済、民族、教育問題および台湾・香港との関係について理解するための基礎的な知識を身につけ、日本との関わりを考えていく。また毎回レポートを提出することにより、自分の考えをまとめ、同じ講義を受けている受講生（留学生含む）との対話をはかる。レポート評価は厳しいので、二年生以上の履修が望ましい。交換留学生のレベルであれば全く問題ない。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション：現代中国社会の授業全体について。改革開放政策とその後の格差社会形成について。
第２回：現代中国の教育問題
第３回：中国の格差社会
第４回：現代中国の労働問題とグローバリゼーション
第５回：中国に進出した日本企業の現在
第６回：日系企業と反日デモ
第７回：グローバリゼーションと海外の中国人
第８回：躍進する中国・台湾企業と日本の技術者
第９回：台湾の現代政治と中国１
第10回：台湾の現代政治と中国２
第11回：香港と中国
第12回：中国メディアの報道統制
第13回：中国の若者は日本をどう見ているか
第14回：中国の民族問題　チベット
第15回：期末試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
毎回、M-Portの「お知らせ」でレジュメとレポート用紙を配布します。各自、印刷して持参してください。できれば事前に読んで、自分なりの興味関心を高めておいてください。
過去のレジュメと欠席が多い人用の課題は、Ｓドライブのxiqiziフォルダに置きます。また、授業で興味関心を持ったテーマについては、参考文献を読んで見てほしいです。

【テキスト】

【参考文献】
安田峰俊『野心 郭台銘伝』プレジデント社。
安田峰俊『暗黒・中国からの脱出』文春新書。
ふるまいよしこ『中国メディア戦争』ＮＨＫ出版新書。
毛丹青ほか『知日 なぜ中国人は、日本が好きなのか!』潮出版社。
『在中日本人108人のそれでも私たちが中国に住む理由』ＣＣＣメディアハウス。
『在日中国人33人の それでも私たちが日本を好きな理由』ＣＣＣメディアハウス。
麻生晴一郎『変わる中国「草の根」の現場を訪ねて』潮出版。
水谷尚子『中国を追われたウイグル人』文春新書。
福島香織『中国のマスゴミ』扶桑社新書。
福島香織『中国絶望工場』PHP研究所。
福島香織『本当は日本が好きな中国人』朝日選書。
園田茂人『不平等国家　中国』中公新書。
津上俊哉『中国台頭の終焉』日経プレミアシリーズ。
安田峰俊『和僑　農民、やくざ、風俗嬢。中国の夕闇に住む日本人』角川書店。
安田峰俊『境界の民　難民、遺民、抵抗者。 国と国の境界線に立つ人々』角川書店。
山谷剛史『中国のインターネット史 ワールドワイドウェブからの独立』星海社新書。
梶谷懐『「壁と卵」の現代中国論』人文書院。
梶谷懐『日本と中国経済: 相互交流と衝突の100年』ちくま新書。
龍応台『台湾海峡一九四九』白水社。
東山彰良『流』講談社。
赤松・若松編『台湾を知るための６０章』明石書店。
坂井田夕起子『誰も知らない『西遊記』－玄奘三蔵の遺骨をめぐる東アジア戦後史』龍渓書舎。

【コメント】
授業は毎回レポートを書いてもらいます。このレポートと試験をあわせて評価しますので不正が発覚した場合、即単位不認定となります。注意してください。１５分以上の遅刻は認めません。就職活動でやむをえず欠席が多くなる学生には課題を出します。必ず12月までに教員に相談してください。１月に入ってからの相談は受け付けません。

講　義　名　称	曜　時
言語と社会　＜通期＞	水4

【教員名称】
橋内　武

【講義概要】
「言語と社会」は、社会言語学入門の科目である。社会言語学とは、社会の中での言語の構造と機能を考察する分野である。本講の前半では社会言語学概論の学習を行い、後半では法と言語に焦点を当てる。社会学や法学の知識は前提としないが、言語学の基礎知識があると理解が促進されるだろう。

【学習目標】
社会言語学の基礎を学んだ上で、法言語学の課題と方法を具体的事例に基づいて学習することが目標となる。

【講義計画】
第１回：イントロダクション―言語と社会へのいざない
　１．授業計画、指定テクスト、参考文献、成績評価の方法
　２．社会言語学の成立と展開
　３．ミクロ社会言語学とマクロ社会言語学
　４．通時的社会言語学と応用社会言語学
第２回：社会言語学の課題と方法
第３回：言語の多様性―地域・社会階層・民族・性差・年齢
第４回：多言語使用と言語の選択
第５回：言語の適切さ―スタイルとレジスター（言語使用域）
第６回：ポライトネスと敬語
第７回：会話分析―会話の始め方・終わり方、話題転換、重複とその解消、修復
第８回：コミュニケーションの民族誌
第９回：インターアクションの社会言語学
第10回：社会言語学と異文化間コミュニケーション
第11回：言語と思考と文化―言語人類学と認知言語学
第12回：言語とイデオロギー―批判的社会言語学
第13回：言語の維持と移行
第14回：言語政策と言語計画
第15回：春学期の総復習と試験
第16回：法と言語―法言語学へのいざない
　１．法言語学の成立と展開
　２．「法と言語」の研究領域
第17回：法律のことば
第18回：日本国憲法のことば
第19回：裁判のことば
第20回：裁判員裁判のことば
第21回：司法通訳―捜査通訳と法廷通訳
第22回：ことばの犯罪（１）振り込め詐欺のことば
第23回：ことばの犯罪（２）偽証・名誉毀損
第24回：ことばの証拠（１）筆跡鑑定・文書分析・話者同定・剽窃
第25回：ことばの証拠（２）商標の類否と識別性、商品の表示と注意書き
第26回：ことばの誤解―意味内容をめぐる争い
第27回：ことばが記憶を変える―目撃証言の問題点
第28回：言語権・言語法と言語政策
第29回：法言語教育
第30回：秋学期の総復習と試験

【事前および事後学習の指示】
授業計画に合わせて、指定テキストの該当章を予め読んで毎回の授業に出席すること。事後には、各章の末尾に挙げてある関連図書を読んでくると、なおよいだろう。法言語学の理解を深めるために、地方裁判所の公判を見学することを奨励したい。

【テキスト】
概説社会言語学 岩田祐子・重光友香・村田泰美 987-4-89476-637-2 ひつじ書房 春学期用
法と言語―法言語学へのいざない 橋内　武・掘田周吾 978-487-424-5514 くろしお出版

【参考文献】
岡本佐智子『日本語教育能力試験に合格するための社会言語学』、アルク
真田信治・庄司博史編『事典日本の多言語社会』、岩波書店
中野弘三ほか監修『最新英語学・言語学用語辞典』、開拓社

【コメント】
試験は復習を兼ねて各学期の期末に行う。プレゼンはオプショナル（自由選択）だが、すれば1回10点加点する。毎回の授業で配布するコミュニケーション・カードには受講学生の反応を書いてもらって、授業を進める上での参考にさせてもらうが、それを「出席点」という扱いで成績評価に含めることはしない。

講　義　名　称	曜　時
言語と心理　＜通期＞	金4

【教員名称】
Kevin　R.　Gregg

【講義概要】
昔から「言葉は心の鏡である」と言われているが、本授業ではこの諺を考察し、言語とこころとの関係を調べる。今日、このテーマは激しい議論の的になっているが、本授業では特に次の問題を考える。
・われわれの、言語にかんする知識はどのぐらい生得的（遺伝的）なのか。
・その知識は他の知識とは本質的に異なるのか。
・言語によって文化や思考が異なるのか。
・人間言語は動物の伝達体系とどう異なるのか。

【学習目標】
担当者は上の問題にかんする研究（特に実験研究）を招待し、運がよければ、学生は理解する。

【講義計画】
第１回：言語とこころ：概要
第２回：刺激の貧困
第３回：静特性：認知の例
第４回：学習：帰納法・演繹法・列挙・刷り込み
第５回：言語知識：構造依存
第６回：普遍文法
第７回：証拠：否定的・肯定的
第８回：刺激の貧困：盲人の子ども
第９回：モジュール性：概要
第10回：モジュールと中央系：二十乖離
第11回：ウイリアムス症候群・ダウン症
第12回：サヴァン
第13回：特異性言語障害
第14回：「オオカミ子女」
第15回：こころの理論と自閉症
第16回：連合主義
第17回：規則vs。連合
第18回：コネクショニズムと学習
第19回：the wug test
第20回：人間言語と動物：概要
第21回：ミツバチの踊り
第22回：チンパンジーとボノボ
第23回：オウム
第24回：言語相対論
第25回：認知における普遍性・多様性
第26回：色の知覚
第27回：物体・物質
第28回：空間・時間
第29回：数
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
勉強しなさい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
小テストも期末試験も行う

講　義　名　称	曜　時
言語学概論　＜通期＞	木1

【教員名称】
西岡　武彦

【講義概要】
毎年、著名な言語学者が言語学を学ぶきっかけとなった出来事を紹介した本にふれ、担当者がきっかとなった問題をテーマに一年間講義、演習を行います。今年は語用論を扱いますが、最初に語用論の基本問題を説明し、そのあとで個別の問題を扱います。英語を主に扱いますから、英語に自信のある受講生が望ましい。

【学習目標】
統語論、意味論、語用論、音韻論が言語学の主要なテーマとして語られることが多いのですが、そんななかで語用論がどのような役割を担っているのかを理解すること、これを目標にします。

【講義計画】
第１回：Orientation
第２回：Pragmatics（1）
第３回：Pragmatics（2）
第４回：Pragmatics（3）
第５回：Pragmatics（4）
第６回：Pragmatics（5）
第７回：Pragmatics（6）
第８回：Pragmatics（7）
第９回：Pragmatics（8）
第10回：Pragmatics（9）
第11回：Pragmatics（10）
第12回：Pragmatics（11）
第13回：Pragmatics（12）
第14回：Pragmatics（13）
第15回：Pragmatics（14）
第16回：Pragmatics（15）
第17回：Pragmatics（16）
第18回：Pragmatics（17）
第19回：Pragmatics（18）
第20回：Pragmatics（19）
第21回：Pragmatics（20）
第22回：Pragmatics（21）
第23回：Pragmatics（22）
第24回：Pragmatics（23）
第25回：Pragmatics（24）
第26回：Pragmatics（25）
第27回：Pragmatics（26）
第28回：Pragmatics（27）
第29回：Pragmatics（28）
第30回：Pragmatics（29）

【事前および事後学習の指示】
大きなテーマを終えた段階でテストを行います。それに備えて準備をしてください。

【テキスト】
特になし

【参考文献】
授業中に適宜案内します。

【コメント】
4回以上の欠席は単位を与えません。

講　義　名　称	曜　時
言語表現論　＜秋集＞	月1／木2

【教員名称】
西岡　武彦

【講義概要】
日英を比較した講義･演習を行います。「する」的言語､「なる」的言語といった言語観がありますが、このような言語観も含めて日本語と英語に対する言語観を探っていきます。語学に興味があるだけでなく、英語に自信がある人の参加が望ましい。

【学習目標】
日常無意識に話している言語を客観的に見て面白いと実感することを目標にします。

【講義計画】
第１回：Orientation
第２回：日英言語観（1）
第３回：日英言語観（2）
第４回：日英言語観（3）
第５回：日英言語観（4）
第６回：日英言語観（5）
第７回：日英言語観（6）
第８回：日英言語観（7）
第９回：日英言語観（8）
第10回：日英言語観（9）
第11回：日英言語観（10）
第12回：日英言語観（11）
第13回：日英言語観（12）
第14回：日英言語観（13）
第15回：日英言語観（14）
第16回：日英言語観（15）
第17回：日英言語観（16）
第18回：日英言語観（17）
第19回：日英言語観（18）
第20回：日英言語観（19）
第21回：日英言語観（20）
第22回：日英言語観（21）
第23回：日英言語観（22）
第24回：日英言語観（23）
第25回：日英言語観（24）
第26回：日英言語観（25）
第27回：日英言語観（26）
第28回：日英言語観（27）
第29回：日英言語観（28）
第30回：日英言語観（29）

【事前および事後学習の指示】
大きなテーマを終えた段階でテストを行いますから、それに備えて授業後は特に復習を行ってください。

【テキスト】
特になし

【参考文献】
授業中に適宜案内します。

【コメント】
4回以上の欠席は単位を与えません。

講　義　名　称	曜　時
公共経済論Ⅰ　＜秋＞	火2

【教員名称】
西﨑　勝彦

【講義概要】
市場経済では財・サービスは基本的に市場で取引され，市場を通じて財・サービスが消費・分配・生産される．市場経済では「見えざる手」によって財・サービスが適切に配分されると考えられてきたが，市場は万能ではなく，ときに「失敗」することもある（例．規模の利益による自然独占）．また，市場は「価格メカニズム」とも呼ばれるが，価格がうまく決まらない財・サービス（例．公共財）は市場での取引が難しい．こうした市場の失敗や市場での取引が困難な財・サービスの消費・分配・生産を分析するための学問が公共経済学である．この授業では公共経済学の基礎について説明し，それをもとに市場経済における公共部門の役割について考える．
この授業では，公共経済学における分析の基本となるミクロ経済学の復習も兼ねて，まずは市場の「成功」について説明する．それを踏まえて「公共財」と「外部効果」が存在する経済について説明する．説明はスライドを使った講義形式で行う（スライドは授業資料として出席者に配布する）．また，毎回の授業の残り20分ほどで課題（レポート）を提出してもらう（毎回の授業の最初に前回の課題を解説する）．

【学習目標】
(1) 市場の「成功」と「失敗」を理解する．
(2) 公共財の性質とその供給に関する問題を理解する．
(3) 消費・生産によって生じる外部効果とそれへの対応を理解する．

【講義計画】
第１回：公共経済学とは（ガイダンス）
第２回：消費者行動
第３回：生産者行動
第４回：市場と価格メカニズム
第５回：市場均衡とパレート効率性
第６回：厚生経済学の基本定理
第７回：市場の「失敗」
第８回：公共部門の役割
第９回：公共財の性質と「ただ乗り」問題
第10回：公共財の供給
第11回：外部効果と生産者行動
第12回：外部効果と消費者行動
第13回：共有地の悲劇
第14回：公共経済学の展開
第15回：試験および総括

【事前および事後学習の指示】
テキストに掲載されている練習問題に取り組むなどして，問題意識を持つことで公共経済学への理解を一層深めてもらいたい．

【テキスト】
公共経済学 奥野信宏 978-4000266970 岩波書店 本書に基づいてスライドを作成し，それを授業資料として出席者に配布する．本書で不足している部分については，参考文献をもとに適宜補足する．

【参考文献】
緒方隆，須賀晃一，三浦功［編］（2006）『公共経済学』勁草書房．
ジョセフ・E・スティグリッツ／藪下史郎［訳］（2003）『公共経済学』東洋経済新報社．
須賀晃一［編］（2014）『公共経済学講義－理論から政策へ－』有斐閣．
常木淳（2002）『公共経済学』新世社．
土居丈朗（2002）『入門公共経済学』日本評論社．

講　義　名　称	曜　時
公共経済論Ⅱ　＜秋＞	金1

【教員名称】
西﨑　勝彦

【講義概要】
市場経済では財・サービスは基本的に市場で取引され，市場を通じて財・サービスが消費・分配・生産される．市場経済では「見えざる手」によって財・サービスが適切に配分されると考えられてきたが，市場は万能ではなく，ときに「失敗」することもある（例．規模の利益による自然独占）．また，市場は「価格メカニズム」とも呼ばれるが，価格がうまく決まらない財・サービス（例．公共財）は市場での取引が難しい．こうした市場の失敗や市場での取引が困難な財・サービスの消費・分配・生産を分析するための学問が公共経済学である．この授業では公共経済学の基礎について説明し，それをもとに市場経済における公共部門の役割について考える．
この授業では，同じ学期に開講予定の「公共経済論Ⅰ」の内容は理解しているものとして，そこで扱わないテーマ（投票，費用・便益分析，課税・公債発行，自然独占，公共料金規制，公共投資，社会保障，地方分権）について説明する．説明はスライドを使った講義形式で行う（スライドは授業資料として出席者に配布する）．また，毎回の授業の残り20分ほどで課題（レポート）を提出してもらう（毎回の授業の最初に前回の課題を解説する）．

【学習目標】
(1) 公共部門の意思決定の仕組みを理解する．
(2) 公益事業の成立とそれへの規制を理解する．
(3) 公共投資が社会に与える影響を理解する．
(4) 高齢化社会における公共部門の役割を理解する．
(5) 地方分権の意義を理解する．

【講義計画】
第１回：公共経済学とは（ガイダンス）
第２回：社会的決定
第３回：社会的費用・便益分析
第４回：税と公債
第５回：規模の利益と自然独占
第６回：自然独占と競争
第７回：公的企業と料金規制
第８回：私的企業と料金規制
第９回：社会資本と公共投資
第10回：地域格差と公共投資
第11回：所得再分配政策と社会保障
第12回：高齢化と公共交通
第13回：地方分権
第14回：公共経済学の展開
第15回：試験および総括

【事前および事後学習の指示】
テキストに掲載されている練習問題に取り組むなどして，問題意識を持つことで公共経済学への理解を一層深めてもらいたい．

【テキスト】
公共経済学 奥野信宏 978-4000266970 岩波書店 本書に基づいてスライドを作成し，それを授業資料として出席者に配布する．本書で不足している部分については，参考文献をもとに適宜補足する．

【参考文献】
緒方隆，須賀晃一，三浦功［編］（2006）『公共経済学』勁草書房．
ジョセフ・E・スティグリッツ／藪下史郎［訳］（2003）『公共経済学』東洋経済新報社．
須賀晃一［編］（2014）『公共経済学講義－理論から政策へ－』有斐閣．
常木淳（2002）『公共経済学』新世社．
土居丈朗（2002）『入門公共経済学』日本評論社．

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
工業簿記　＜秋＞	水4

【教員名称】
河野　勉

【講義概要】
本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、製造業の簿記（初歩の原価計算を含む）を講義する。
製品の製造原価の計算方法（例えばパソコンの一台当たりの原価）をはじめ、原価管理、利益計画にまで及ぶ範囲は広い。その基礎知識を学ぶ。

【学習目標】
簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習を解く学習を中心につとめて実践的に授業を進めたい。
原価計算論学習のための基礎知識や公認会計士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得に役立つと思うので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：原価計算基準・工業簿記の構造（勘定連絡図）
第３回：材料費・労務費の計算
第４回：経費の計算・製造間接費の計算
第５回：部門別計算
第６回：個別原価計算
第７回：総合原価計算（その１）
仕掛品の評価
第８回：総合原価計算（その２）
単純、等級別、組別原価計算
第９回：級別総合原価計算（その３）
工程別総合原価計算（仕損、減損、副産物）
第10回：標準原価計算
第11回：直接原価計算
第12回：損益分岐点分析
利益計画
第13回：本社・工場間の取引
製品の受払い、営業費計算
第14回：製造業の財務諸表
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
特になし。

【テキスト】
最新工業簿記三訂版 小林哲夫・伊藤　博（共著）「 実教出版
新検定簿記ワークブック２級工業簿記 岡本　清・廣本敏朗（編著） 中央経済社

【参考文献】
検定簿記講義2級（岡本　清・廣本敏朗編著）中央経済社

【コメント】
定期考査の成績に、適宜ホームワークを課しその提出物等を加味して、総合的に評価する。

講　義　名　称	曜　時
考古学概論　＜通期＞	金１

【教員名称】
尾谷　雅彦

【講義概要】
講義は、考古学を理解するための入門編として進める。講義形式で進めるがわかりやすくするためにパワーポイントやビデオなどビジュアル資料をできるだけ使う。また講義２回分を振替えてフィールドワークにあて博物館あるいは遺跡の発掘調査を見学する。考古学はフィールドワークでもあるので学外講義についても積極的な参加を望む。

【学習目標】
考古学の基本的理論や学問としての歴史について学習し、人類の残した考古資料（遺跡・遺物）が現在社会あるいは地域社会を理解する資となることを習得する。

【講義計画】
第１回：ガイダンス　講義の進め方
考古学とはどういう学問か。
第２回：考古学史Ⅰ　徳川光圀の発掘。
第３回：考古学史Ⅱ　シュリーマンによるトロイの発掘。
第４回：考古学史Ⅲ　の登場。
第５回：考古学研究法入門　資料論　遺跡・遺物という言葉。
第６回：考古学研究法入門　年代論１
第７回：考古学研究法入門　年代論２
第８回：考古学研究法入門　発掘調査法
第９回：考古学研究法入門　考古学資料の保存と活用
第10回：考古学から歴史を見る　旧石器時代１
第11回：考古学から歴史を見る　旧石器時代２
第12回：考古学から歴史を見る　縄文時代１　縄文時代の生活。
第13回：考古学から歴史を見る　縄文時代２　土器の出現
第14回：考古学から歴史を見る　縄文時代３　送る、祈る、祀る
第15回：考古学から歴史を見る　弥生時代Ⅰ　水稲耕作の開始
第16回：考古学から歴史を見る　弥生時代２　弥生人
第17回：考古学から歴史を見る　弥生時代３　弥生土器
第18回：考古学から歴史を見る　弥生時代４　クニから国へ
第19回：考古学から歴史を見る　古墳時代１　古墳時代のはじまり
第20回：考古学から歴史を見る　古墳時代１　古墳の築造と畿内の巨大古墳
第21回：考古学から歴史を見る　古墳時代２　王権を支えた渡来人
第22回：考古学から歴史を見る　古墳時代３　横穴式石室と群集墳
第23回：考古学から歴史を見る　古墳時代４　終末期古墳
第24回：考古学から歴史を見る　歴史時代１　仏教伝来
第25回：考古学から歴史を見る　歴史時代２　宮と都
第26回：考古学から歴史を見る　歴史時代３　地方の官衙
第27回：考古学から歴史を見る　歴史時代３　山城
第28回：学外講義　遺跡・博物館を体験　（実施及び実施日は講義の状況により決める）。
第29回：学外講義　遺跡・博物館を体験　（実施及び実施日は講義の状況により決める）。
第30回：試験及びまとめ

【事前および事後学習の指示】
自分の住んでいる地域の遺跡（時代・種類）を調べておくこと。高校の日本史及び世界史の教科書を熟読し、時代区分と時代のおおまかな流れを学習しておくこと。

【テキスト】

【参考文献】
『佐原真の仕事１考古学への案内』金関　恕・春成秀彌編　岩波書店　2005
『考古学通論』近藤義郎　青木書店　2008

【コメント】
試験は定期試験ではなく講義内で実施する。
成績評価については、全出席回数の1/3以上を欠席した場合は評価対象としない。

講　義　名　称	曜　時
公的扶助論Ｂ　＜秋＞	火2

【教員名称】
砂田　貴彦

【講義概要】
公的扶助論Aを補完する形で、現行生活保護制度の意義や役割、課題について学びます。明治期以降現在に至るわが国公的扶助制度の変遷について、それぞれの時代の制度･政策の考え方や実態、問題点等を考察します。また、現行生活保護制度の原理、原則及び運用の実態などについて学びます。加えて2000年の社会福祉構造改革以降今日まで、生活保護制度の変革の内容について考察し、あわせて生活困窮者自立支援制度や現代社会における公的扶助制度の意義・役割、課題などについて考察します。公的扶助論Aの内容から、社会福祉士国家試験合格も目指し、更に踏み込んだ内容の講義です。そのため、公的扶助論Aの単位を修得した学生の受講が望ましい講義です。

【学習目標】
○最低生活やセーフティネットの概念について理解する。
○生活保護制度の歴史について理解する
○現行生活保護制度の理念について理解する。
○現行生活保護制度の内容について理解する
○生活保護制度と「自立」の関係について理解する。
○現行生活保護制度の課題・問題点について理解する。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション　公的扶助論Aの再確認
第２回：生活保護の歴史（恤救規則、救護法、旧生活保護法から新生活保護法へ）
第３回：生活保護制度の基本原理（１）（概要）
第４回：生活保護制度の基本原理（２）（補足性の原理）
第５回：生活保護制度の原則
第６回：生活保護の種類と体系
第７回：生活保護の実施体制（１）（行政組織の役割、権限）
第８回：生活保護の実施体制（２）（福祉事務所と社会福祉主事）
第９回：生活保護の運営（１）（申請から決定まで）
第10回：生活保護の運営（２）（調査、認定、開始・変更・低廃止）
第11回：生活保護の運営（３）（医療扶助と介護扶助）
第12回：被保護者の権利と義務、不服申立制度
第13回：生活保護の財政　生活保護の動向と課題
第14回：生活困窮者自立支援制度の意義と役割
第15回：課題と展望のまとめ　試験

【事前および事後学習の指示】
公的扶助論の中核である生活保護制度は歴史的にも古く、また現行制度はその上に成立していることから、複雑で精緻な制度です。
専門職として実践力を期待される重要な学習分野です。予習・復習を繰り返して、各回の講義を理解するよう努めてください。

【テキスト】
社会福祉士シリーズ16　公的扶助　低所得者に対する支援と生活保護制度　福祉臨床シリーズ編集委員会　伊藤秀一　編 978-4-335-61171-1 弘文堂 公的扶助論Aと同じテキストです
生活保護のてびき 生活保護制度研究会　編集 978-4-474-05584-1 第一法規 公的扶助論Aと同じテキストです

【参考文献】
生活保護手帳　中央法規出版
生活保護手帳　別冊問答集　中央法規出版

【コメント】
試験の結果に出席状況等を加味して単位認定する。
試験は100点満点中60点以上を合格点とする。

講　義　名　称	曜　時
国際会計論［2］　<春>	木4

【教員名称】
中村　恒彦

【講義概要】
「高高度の会計理論」

国際会計論では、IFRS（国際財務報告基準）会計の学習を通じて現代の会計理論を学習します。学習内容が高度であるため、ひとつひとつの理論をゆっくりと学習していく予定にしています。

【学習目標】
この講義を通じて、論理的な考え方がどういうものかについて理解が深まればよいと思います。論理的な考え方に固執することはいけませんが、自分の視野を広げるためにも論理的な考え方が必要となります。会計学者や会計士や企業の財務担当者が考える論理の世界について体感していただければよいと思います。

【講義計画】
第１回：アカデミックスキル
　　国際会計の世界
第２回：多国籍企業の出現と国際会計
第３回：会計基準の国際的調和と限界
第４回：会計基準の国際的収斂の動向
第５回：IFRSの基本的特徴～総論
第６回：資産負債アプローチと収益費用アプローチについて
第７回：原則主義と細則主義について
第８回：実質優先主義と法的形式主義について
　　時価主義と原価主義について
第９回：未実現利益と実現利益について
　　オンバランスとオフバランスについて
第10回：財務諸表の表示
第11回：収益認識の会計
第12回：金融商品の会計
第13回：リースの会計
第14回：企業結合・連結の会計
第15回：総括とまとめ

【事前および事後学習の指示】
財務諸表論や簿記関連科目や監査論と重複する部分が多いので、関連科目を履修することを勧める。

【テキスト】
ベーシック国際会計 向　伊知郎 978-4-502-18011-8 中央経済社
IFRS（国際会計基準）の基本 飯塚 隆, 有光 琢郎, 前川 南加子 978-4532119126 日本経済新聞出版社
国際会計基準を学ぶ 田中 弘, 戸田 龍介, 向 伊知郎, 篠原 淳, 藤田 晶子 978-4419056209 税務経理協会

【参考文献】
広瀬義州新版『IFRS財務会計入門』中央経済社

【コメント】
成績評価は、原則的に期末試験と平常評価によって行います。なお、平常評価は「出席」では行わず、講義中の「課題」や「宿題」によって評価を行います。
・期末試験（100点）+宿題・課題等（20点程度）　講義を欠席することのフォローは一切行いません。詳しい評価方法については、初回の講義で説明します。

講　義　名　称	曜　時
国際関係論　<通期>	月3

【教員名称】
松村　昌廣

【講義概要】
毎日、テレビや新聞の国際問題に関するニュースに触れていても、よく分からないことが多いでしょう。ニュースは断片的で、十分な説明もありません。ちゃんと理解するには体系的で理論的な準備が必要です。このため、この講義は国際関係の理解に必要な理論的な思考とは何か、主要な理論にはどのようなものがあるかを、国際安全保障や国際政治経済などの諸側面に焦点を絞って教授します。また、刻一刻と変化する時事問題に具体的に触れながら、考察を深めていきます。

【学習目標】
国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、激動する国際政治のダイナミズムを理論的に把握します。この講義では単に様々な理論を知るだけでなく、それを駆使して現実の国際問題を初歩的に考察する能力をつけることを目標とします。

【講義計画】
第１回：１　導入 1）国際関係論と国際関係における日本
第２回：１－２）国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システム的理解
第３回：１－３）社会科学における認識・方法論的論争と国際関係論　（1）現実主義　VS　理想主義
第４回：１－３）－（2）伝統主義　VS　科学主義
第５回：１－３）－（3）誇大理論主義　VS　個別理論主義
第６回：１－３）－（4）まとめ
第７回：２　総論　1）基本的捉え方　（1）現実主義
第８回：２－１）－（2）多元主義
第９回：２－１）－（3）グローバリズム
第10回：２－１）－（4）まとめ
第11回：２－２）分析のレベル　（1）政策決定システム
第12回：２－２）－（2）国家システム
第13回：２－２）－（3）国際システム
第14回：２－２）－（4）まとめ
第15回：前半の総括
第16回：３　各論　1）軍事的側面　（1）安全保障
第17回：３－１）－（2）紛争
第18回：３－１）－（3）まとめ
第19回：３－２）経済的側面（貿易・金融・投資・技術・開発）（1）市場機能中心主義
第20回：３－２）－（2）国家機能中心主義
第21回：３－２）－（3）資本形成中心主義
第22回：３－２）－（3）まとめ
第23回：３－３）秩序づけのための組織化側面　（1）国際法
第24回：３－３）－（2）国際機構
第25回：３－３）－（3）国際レジーム
第26回：３－３）－（4）まとめ
第27回：４－１）冷戦後の国際構造
第28回：４－２）日本の国際行動とその将来
第29回：全体の総括とレポート試験問題の解説
第30回：レポート試験の解答

【事前および事後学習の指示】
テキストを予習復習に使うこと。また、参考文献にあげた書籍を読むこと。

【テキスト】
国際関係論　－　現実主義・多元主義・グローバリズム ポール・R・ビオティ、マーク・V・ウェッセルズ 4-88202-251-6 彩流社

【参考文献】
Ｅ・Ｈ・カー『危機の20年』（岩波文庫）
モーゲンソー『国際政治』（福村出版）
シューマン『国際政治』（東大出版社）

【コメント】
レポート：50%　授業への積極的な参加：50%
1）出席・受講状態　　50%
2）前期レポート試験　　20%
3）後期レポート試験　　30%
4）冬休みレポート　　20%（希望者のみ）
＊冬休みレポート
参考文献3冊を読み、各著者の（1）国際政治観（2）国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、（3）現在の国際情勢では、どの著者の見方が妥当か論じなさい。
＊評価の目安
80～100%・・・A　70～79%・・・B　60～69%・・・C

講　義　名　称	曜　時
国際機構論　＜春集＞	火2／金1

【教員名称】
軽部　恵子

【講義概要】
この講義では国際機構の成り立ちとしくみについて、国連を中心に勉強します。武力紛争、大量破壊兵器、貧困、環境など世界共通の問題を解決するのに、国連を中心とした国際協力は不可欠です。
国際機構論では、大学生なら誰もが持つべき世界史の基礎知識を確認しながら講義を進めます。秋学期に国際法を履修する予定の人は、春学期の国際機構論をなるべく先に履修して下さい。
国際紛争の根源は民族と宗教に深く関係しています。国際紛争の歴史的背景を理解するため、学期冒頭に16世紀以降の世界史、とくに西洋近現代史を集中的に学びます。国際機構論の前半は国際法の導入部分と似ていますが、取り上げ方が大きく異なります。
授業では、絵画、写真、ドキュメンタリー番組、史実に基づいた映画などの視聴覚教材を積極的に利用します。また、国内外のメディア（新聞社、テレビ局、通信社等）のホームページを用いて、メディア・リテラシーを学びます。英国のＥＵ離脱など、国際機構に関する重要ニュースは、随時取り上げます。

【学習目標】
（1）16世紀以降の世界史の流れを国際機構の視点から理解する。
（2）国連の成り立ちと各組織の役割を把握する。
（3）国際問題の理解に必要な一般教養（歴史、文化、宗教など）を身につける。

【講義計画】
第１回：国際機構とは何か
第２回：国際機構の歴史（1）　ルネサンスと大航海時代
第３回：国際機構の歴史（2）　宗教改革から三十年戦争へ
第４回：国際機構の歴史（3）　ウェストファリア条約と主権国家体制の形成
第５回：国際機構の歴史（4）　アメリカ独立革命とフランス革命
第６回：国際機構の歴史（5）　ナポレオン戦争とウィーン体制
第７回：国際機構の歴史（6）　ハーグ平和会議
第８回：国際機構の歴史（7）　赤十字国際委員
第９回：第一次世界大戦（1）　サラエボ事件
第10回：第一次世界大戦（2）　近代兵器の登場
第11回：第一次世界大戦（3）　パリ講和会議と国際連盟の設立
第12回：国際連盟（1）　国際連盟の目的
第13回：国際連盟（2）　国際連盟の問題点①　大国の不参加
第14回：国際連盟（3）　国際連盟の問題点②　制裁の欠如
第15回：第二次世界大戦（1）　ファシズムの台頭
第16回：第二次世界大戦（2）　国際連盟の崩壊
第17回：第二次世界大戦（3）　国連の設立
第18回：国連のしくみ（1）　国連の目的
第19回：国連のしくみ（2）　国連の原則
第20回：国連のしくみ（3）　総会
第21回：国連のしくみ（4）　事務総長
第22回：国連のしくみ（5）　安保理①　任務と権限
第23回：国連のしくみ（6）　安保理②　朝鮮戦争
第24回：国連のしくみ（7）　安保理③　スエズ戦争とPKO
第25回：国連のしくみ（8）　安保理④　湾岸戦争
第26回：国連のしくみ（9）　安保理⑤　冷戦終結後の民族紛争
第27回：国連のしくみ（10）安保理⑥　アメリカ同時多発テロとイラク戦争
第28回：特別テーマ（1）　核軍縮
第29回：特別テーマ（2）　人権の保障
第30回：学期末試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】
教室で毎回配布される講義レジュメの指示に従って、教科書の関連部分および参考サイトで予習・復習してください。

【テキスト】
一冊でわかるイラストでわかる図解世界史 成美堂出版編集部編 978-4415103334 成美堂出版

【参考文献】
国際連合広報局『国際連合の基礎知識』2014年版　関西学院大学総合政策学部　2015年
横田洋三監修『入門　国際機構』法律文化社　2016年
篠原初枝『国際連盟』中央公論新社　2010年
国際地学協会『国旗と地図』国際地学協会　2004年
芝生瑞和編『図説フランス革命』河出書房新社　1989年
中村圭志『図解世界５大宗教全史』ディスカバー・トゥエンティワン　2016年

【コメント】
講義は通期で行われますが、成績は学期末試験のみで評価します。教室内で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問、要望等を書くためで、「出席点」にはなりません。講義時間内に行う小テストは、受講生が自身の理解度を確認するためで、成績評価にいっさい関係ありません。

講　義　名　称	曜　時
国際経営論B　＜秋＞	月4

【教員名称】
櫻井　結花

【講義概要】
This class is designed especially for exchange students who are interested in Japanese firms and their business strategies in the global economy. The aim of this course is to examine various issues that contemporary Japanese companies have been facing with the changing business environment in the rapidly globalized economy. Lectures are given by guest speakers who have extensive experience in renowned Japanese trading companies and/or manufacturing companies.

【学習目標】
The aim of this course is to help students to understand major issues that Japanese companies have been facing with in the changing business environment and the global economy.

【講義計画】
第１回：Overview: The current world economy and Japanese economy
第２回：Trade and investment relations between Japan and other countries
第３回：The European Union in a changing global environment
第４回：Japanese economic growth in the globalized economy
第５回：Business strategies of Japanese firms after rehman shock
第６回：Challenges and perspective of Japanese firms
第７回：Production system in the Japanese firms: Vertically integrated model
第８回：Production system in the Japanese firms: Horizontally divided model
第９回：Case study: Japanese electric appliance manufacturers
第10回：Case study: Sogo shosha（general trading companies）I
第11回：Case study: Sogo shosha（general trading companies）II
第12回：Understanding culture in international business
第13回：Thailand: the major destination of Japanese foreign direct investment
第14回：China: a burgeoning economic powerhouse
第15回：India: a fast growing market

【事前および事後学習の指示】
You are encouraged to read three newspaper articles in relation to Japanese firms every day.

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
評価の対象となりえる出席とは、教室に座っているだけのことを意味するのではありません。
授業内小テストを受ける、グループディスカッションに参加する、発言をするといった授業に主体的に参加し学びに貢献することです。

講　義　名　称	曜　時
国際経済論Ⅰ　＜春＞	木4

【教員名称】
モグベル　ザファル

【講義概要】
現在は「グローバル化の時代」と言われていますが、グローバルな環境では「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」が国境にほとんどさまたげられることなく双方向に移動しています。この講義では、グローバルな双方向の動きの中核をなす「モノの移動」（つまり、貿易）に焦点を置き、貿易の歴史、日本の貿易の現状分析、貿易実務、貿易理論の基礎などのテーマを扱います。

【学習目標】
国際経済論・Ⅰ　では主に下記のテーマについて学び、理解することを目指します：
（1）国際収支論、（2）日本の貿易構造の変遷、（3）経済グルーバル化と世界経済の未来像

【講義計画】
第１回：国際経済入門：　歴史に見る貿易のダイナミック効果と文明の歩み
第２回：国際経済入門：「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」の自由な移動とグローバル化
第３回：国際収支統計の基礎知識：　国際収支表の仕組み
第４回：国際収支と対外資産負債残高：　経常黒字・赤字の処理
第５回：対外純資産の国際比較とその意義：　世界最大の債権国としての日本
第６回：国際収支の発展段階説：　時空を超えた調整
第７回：貿易と経済発展：　自由貿易 vs 保護主義再考
第８回：変わりゆく日本の貿易構造：　1985年以降の輸出構造を検証する
第９回：変わりゆく日本の貿易構造：　1997年以降の輸入構造を検証する
第10回：日本の国際収支：　歴史的観点から見て
第11回：日本の国際収支の最近の動向：　半世紀ぶりの赤字の分析
第12回：国際収支の調整：　アブゾーブション・アプローチを中心に
第13回：国際収支の調整：　弾力性アプローチを中心に
第14回：マーシャル・ラーナー条件：　J-カーブ効果と貿易摩擦の負の遺産
第15回：世界経済の未来像：　地域統合と新ルールの展開

【事前および事後学習の指示】
ミクロ・マクロ経済学の基礎を学習しておくこと。配布資料を正しく管理すること（資料の再配布はしません）。

【テキスト】

【参考文献】
テキストの代わりに、ほとんど毎回資料を配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待する。

【コメント】
試験：90%　レポート：%　授業への積極的な参加：10%
授業への積極的な参加の評価については、授業中に行う数回の小テストの結果によってきまる。

講　義　名　称	曜　時
国際経済論Ⅱ　＜秋＞	火1

【教員名称】
江川　暁夫

【講義概要】
国際経済論Ⅰでは、モノ・カネ・ヒトの国境を越えた流れが生じる仕組みやそれによる国単位でのメリットを理論的に学ぶ。しかし、現実世界では、国際経済学理論が指し示す通りのことが起こっていないこともしばしばある。その要因の一つに、経済取引を左右する政治的な力学があるということが挙げられる。
国際経済論Ⅱにおいては、同Ⅰで得た知識を踏まえ、国際政治経済学の見地、すなわち理論が指し示すようになっていない理由を政治と経済の相互作用の観点から体系的に紐解いていくことが、主な内容となる。具体的には、
(1) 国際経済システムがどうして今のような形になっているのか、国際的な経済発展において考慮していくべき課題は何か、といったことについて、考察を深め（第1 ～ 4回）、
(2) その上で、経済が外交力を持つ世界において、各国政府は、経済的利益を最大化するため、あるいは経済的損失を最小化するため、どう行動するのかを考える（第5 ～ 10回）。
(3) それらの考察を踏まえ、実際の世界でも、国内政治のメリットと国際経済のメリットが生じるいくつかの場面を、学習した内容を基に解説していく（第11 ～ 15回）

【学習目標】
本講義の学習目標は、大きく分けて２つである。一つ目は、国際経済というトピックそのものについての関心を高めることであり、これにより、経済学を学ぶ国際人となっていく最低限の基礎を養うことである。もう一つは、国際経済の今の姿は、政治が大きく関与していること、政治にも国内政治と国際政治という２つの大きな流れがあり、この２つの使い方を間違えると、議論が迷走したり、かえって日本の国益にならないということを、講義を通じて理解することである。

【講義計画】
第１回：イントロダクション：なぜ、国と国との経済取引関係は単純ではないのか
第２回：国際政治経済学とは①：国際関係論における「経済」の位置付け
第３回：国際政治経済学とは②：国際政治経済学の独特の位置付け
第４回：グローバル化は不十分だが、リージョナル化が進む世界
第５回：経済のリージョナル化①：単一経済圏、単一通貨圏、単一の経済政策に関する理論
第６回：外交力としての経済、開放経済・変動相場制下での他国との経済政策協調の必要性
第７回：経済のリージョナル化②：実際にどのような力学でリージョンが作られているのか
第８回：市場開放への反対論がどこから出てくるのか～国際経済関係を国内政治問題化する傾向
第９回：自由貿易協定といたずらな反グローバル化運動がもたらす影響
第10回：経済のリージョナル化③：アジア広域の自由貿易圏構想の国際政治経済学的分析
第11回：国際政治経済学の現実への応用例①：移民の経済学的意味と政治対立
第12回：国際政治経済学の現実への応用例②：科学技術の国際政治経済学
第13回：国際政治経済学の現実への応用例③：情報通信技術と知的財産権の保護と国際経済
第14回：国際政治経済学の現実への応用例④：環境問題、排出権取引、気候変動への対応と国際経済
第15回：国際政治経済学の現実への応用例⑤：人権と経済

【事前および事後学習の指示】
事前学習：マクロ経済学あるいは国際関係論を学習することにより、本授業の理解度は飛躍的に高まると考えられる。
また、日頃、新聞の経済欄や経済関係の社説等を読み、経済の議論においてよく用いられている語句を理解するとともに、世界経済の動向に関心を持ち続けることが、授業の理解を促進すると考える。
事後学習：授業では理論を多用する。数式はなるべく使わないが、グラフを用いることは多いため、授業内で解説したグラフの読み方を、なるべく授業の直後に、自分なりに復習することが望まれる。

【テキスト】

【参考文献】
『国際政治経済学・入門』野村健ほか著、有斐閣アルマ、第３版。
その他、担当教員のこれまでの研究内容について適宜紹介とともに、各回講義に関連する参考文献等は、その都度紹介する。

【コメント】
（1）試験やレポートの採点は、学部２年次の学生が最低限到達すべきレベルを基準とするため、粗点での評価ではない。
（2）レポートの５０点については、以下のとおり配分する。
①毎回、授業の途中ないし終了時に１０分程度の小テストに取り組んでもらう。１回あたり２～４点満点。その点数をレポート点として付加（全体で総合点の３０％を構成）。
②出席は毎回取るが、「１回の出席で何点」といった算出はしない。欠席については、公欠や医師の診断書等がある欠席の場合は、出席扱いの上、当該回の小テストを受けたものとみなし、当該回の小テストの平均点を付加する。それ以外の自由による欠席の場合（当日の突然の体調不良や就職活動を理由とする欠席）については、教員に事前に出席配慮をメールにて願い出ることにより、相応の配慮がなされる。当然ながら、配慮の程度は、当該メールの文面内容如何で個別に決まる。どのようなメールが望ましい／望ましくないのかは、不定期に授業内で話すので、それにそった連絡をすること。
③前半（第１０回まで）の学習内容を用いて現実問題について議論する１，３００字程度のレポートが１本課される（２０点満点）。

講　義　名　称	曜　時
国際社会福祉論［2］　<秋>	火1

【教員名称】
齋藤　かおる

【講義概要】
一般にスポーツは、形態、体力、年齢、性別、技術等の違いを、用具やルールを工夫して行われている。 障害者のスポーツも、一見特殊に見えるスポーツであっても、障害という「ハンディ」を施設や用具、ルールを工夫すれば健常者と同じスポーツが可能であるという理念の基に、すべて「Adapted Sport＝適応性のスポーツ」であるということを学び、視聴覚教材（ビデオ）等も利用して、そうぞうりょく（想像力・創造力）を養えるような内容で、障害者に対する知識や理解、障害者のスポーツの果たす役割、意義や効果、歴史や現状、そして、指導法等について講義する。

【学習目標】
①障害についての知識と理解を含め、障害者のスポーツを通して生きる力を育む。
②障害者のスポーツの果たす役割、意義や効果、歴史について学ぶ。
③障害者のスポーツ指導法について学ぶ。
④障害者スポーツの現状と課題について学ぶ。

【講義計画】
第１回：授業概要説明・ガイダンス　障害者のスポーツビデオ観賞
第２回：パラリンピックの映像を通して障害者の可能性を理解する。
第３回：障害者の理解について
①障害をどう捉えるか
②障害者の現状　③障害者スポーツの理解　④障害者スポーツのビデオ観賞
第４回：障害者の理解について
①障害者とリハビリテーション
②リハビリテーションにおけるスポーツの活用
第５回：障害者のスポーツ振興
①障害者スポーツの現状
②障害者スポーツの意義・効果
第６回：障害者スポーツの歴史と現状
①医療スポーツとして
②生涯スポーツとして　③競技スポーツとして
第７回：障害者と生涯スポーツ
①障害者スポーツの動向
②障害者と生涯スポーツの動向
第８回：障害者と生涯スポーツの課題
①障害者スポーツ交流センターについて
②障害者スポーツセンターについて
第９回：全国障害者スポーツ大会
①全国障害者スポーツ大会の歩み
②全国障害者スポーツ大会の動機
第10回：障害者と競技スポーツ
①競技スポーツの現状
②代表的な国内・国際大会の現状
第11回：補装具
①義肢（義足や義手）について
②車椅子（競技用）について
第12回：障害者スポーツ指導者制度について
①指導者制度の歩み
②障害者スポーツ指導者の種類
第13回：障害者スポーツとボランティア活動
①ボランティア活動の意義と理念
第14回：障害者スポーツの概念と指導法
①スポーツ指導上の留意事項
第15回：障害者への運動処方
①運動処方に当たっての留意事項

【事前および事後学習の指示】
特になし

【テキスト】
授業用に自主制作したテキストの購入

【参考文献】
障害者とスポーツ（岩波新書）

【コメント】
出席状況が良好でない場合、試験答案は評価の対象外となります。

講　義　名　称	曜　時
国際政治史　<春集>	月2／木1

【教員名称】
塚田　鉄也

【講義概要】
国際社会はしばしば、国内社会と比べて変化に乏しいといわれます。実際、近代になってヨーロッパで形成された国際政治の基本的な枠組みは、現在もその特徴の多くを留めています。しかし他方では、特に20世紀半ば以降、そうした伝統的な国際政治の枠組みにはおさまらない様々な変化も生じています。本講義では、こうした国際社会の持続と変化に注目しながら、近代以降の国際政治の歴史を考察していきます。

【学習目標】
①国際政治がどのような基本的特徴を有しているのかを理解する
②そうした基本的特徴が、どのように形成され、どのように持続・変化してきたかを理解する

【講義計画】
第１回：国際政治史を学ぶ意義
第２回：国際政治の基本構造
第３回：国際政治の理論
第４回：16世紀のヨーロッパ
第５回：三十年戦争とウェストファリア体制
第６回：勢力均衡の時代①：同盟の論理
第７回：勢力均衡の時代②：小国の運命
第８回：革命の時代
第９回：ウィーン体制の形成と展開
第10回：パクス・ブリタニカ
第11回：新たな勢力の登場①：ドイツ
第12回：新たな勢力の登場②：アメリカ、イタリア、日本
第13回：帝国主義の時代①：帝国主義の諸相
第14回：帝国主義の時代②：大国間関係
第15回：第一次世界大戦
第16回：パリ講和会議
第17回：ロシア革命
第18回：1920年代の国際関係
第19回：1930年代の国際関係
第20回：第二次世界大戦
第21回：戦後秩序の模索
第22回：冷戦時代①：起源
第23回：冷戦時代②：展開
第24回：冷戦時代③：終結
第25回：パクス・アメリカーナ
第26回：ヨーロッパ統合の歴史
第27回：脱植民地化の展開
第28回：冷戦後の国際関係
第29回：21世紀の国際関係
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
国際政治史を理解するには、世界史の知識が不可欠です。高校で世界史を履修していない場合は、簡単な入門書等（初回の授業で紹介）を授業と並行して読み進めてください。

【テキスト】

【参考文献】
全体に関連するものは初回の授業で、個々のテーマに関連するものは各回の授業で紹介します。

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
国際政治事情研究　＜通期＞	水4

【教員名称】
捧　堅二

【講義概要】
今日の国際政治を考察する。現在進行中の国際政治の現実について講義する。中国、韓国についても、イスラム過激原理主義勢力についても、アメリカについても、日本の外交と安全保障についても、ロシアその他についても、触れるはずである。
しかし、歴史や文化に注意を払い、国際関係論（国際政治学）の理論の視点もまじえて講義する。

【学習目標】
国際政治の現実がよりよく理解できるように、自分で考える力をもてるようになることが目標である。

【講義計画】
第１回：はじめに（現在進行中の国際政治、その時点での重要な国際問題を取り上げることになるので、講義計画は臨機応変に変更されることがある）
第２回：国際政治を見る視点
第３回：日本――地政学的な位置とユニークな文化
第４回：大国と国際政治（1）
第５回：大国と国際政治（2）トランプ大統領のアメリカと世界
第６回：大国と国際政治（3）
第７回：大国と国際政治（4）
第８回：東アジア（1）東アジアと日本
第９回：東アジア（2）中国
第10回：東アジア（3）中国
第11回：東アジア（4）韓国と北朝鮮
第12回：東アジア（5）韓国と北朝鮮
第13回：東アジア（6）台湾
第14回：日本の対外政策と安全保障（1）
第15回：未定
第16回：世界の紛争地域・国家（1）中東、暴力の文化、イスラム教
第17回：世界の紛争地域・国家（2）中東の紛争、パレスチナ問題
第18回：世界の紛争地域・国家（3）エジプト
第19回：世界の紛争地域・国家（4）
第20回：世界の紛争地域・国家（5）
第21回：アメリカの動向（1）
第22回：アメリカの動向（2）
第23回：発展途上国の個別事例（1）東南アジア
第24回：発展途上国の個別事例（2）
第25回：ヨーロッパ諸国の動向（1）
第26回：ヨーロッパ諸国の動向（2）
第27回：ヨーロッパ諸国の動向（3）
第28回：ヨーロッパ諸国の動向（4）
第29回：日本の対外政策と安全保障（2）自主外交・自主防衛にむかって
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
国際問題に関心を持ってください。毎日テレビのニュース番組を見ること。できれば新聞やネット上のニュースを見ること。
配布されたプリントを次の講義の前に読んでおいてください。

【テキスト】
使用しない。プリントを配布。

【参考文献】
ジョン・J.ミアシャイマー『大国政治の悲劇』改訂版、五月書房、2014年
曽村 保信『地政学入門』中公新書 中央公論新社、1984年
サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社、1998年
高島俊男『中国の大盗賊・完全版』（講談社現代新書）2004年
池内恵『イスラム国の衝撃』文春新書、2015年
下斗米信夫『プーチンはアジアをめざす』NHK出版新書、2014年
エマニュエル・トッド『「ドイツ帝国」が世界を破滅させる』文春新書、2015年
詳しくは、講義の際に指示する。

【コメント】
少なくとも3分の２以上の出席が成績評価の条件。

講　義　名　称	曜　時
国際法　＜秋集＞	火2／金3

【教員名称】
軽部　恵子

【講義概要】
この講義では、国際法の基礎を学びます。国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがわかるようになります。それは、国際法が国家の行動を律する世界共通のルールだからです。
国際法の勉強には世界史の基礎知識が必要不可欠です。国際法を履修する予定の人は、春学期の国際機構論を履修するか、予め高校程度の世界史を自分で勉強して下さい。国際法の導入部分は国際機構論の前半と似ていますが、取り上げ方が大きく異なります。
授業では、絵画、写真、ドキュメンタリー番組、史実に基づいた映画などの視聴覚教材を積極的に利用します。また、ドキュメンタリー番組や国内外のメディア（新聞社、テレビ局、通信社等）のホームページを教材として用い、メディア･リテラシーを学びます。国際法に関する重要ニュースは、随時取り上げます。

【学習目標】
（1）国際法の基礎知識を習得する。
（2）国際法の視点から国際ニュースを考察する。
（3）国際問題の理解に必要な一般教養（歴史、文化、宗教など）を身につける。

【講義計画】
第１回：国際法とは何か
第２回：戦争と平和の法（1）　宗教改革から三十年戦争へ
第３回：戦争と平和の法（2）　アメリカ独立革命とフランス革命
第４回：戦争と平和の法（3）　ナポレオン戦争とウィーン体制
第５回：戦争と平和の法（4）　ハーグ平和会議
第６回：戦争と平和の法（5）　赤十字国際委員会の設立
第７回：国際法の重要原則（1）　合意は拘束する
第８回：国際法の重要原則（2）　国際法と国内法との関係
第９回：国家（1）　国際法上の国家
第10回：国家（2）　属地主義と国籍主義
第11回：国家（3）　犯罪人引渡
第12回：国家（4）　領域①　領域の得喪
第13回：国家（5）　領域②　領土紛争
第14回：国家（6）　領域③　無害通航権
第15回：国家（7）　領域④　通過通航権
第16回：国家（8）　領域⑤　持続可能な海洋資源の利用
第17回：国家（9）　領域⑥　領空
第18回：国家（10）領域⑦　宇宙空間と核開発競争
第19回：国家（11）国家責任
第20回：国家（12）外交的保護
第21回：国家（13）国籍
第22回：条約（1）　条約案の交渉
第23回：条約（2）　条約の署名と批准
第24回：条約（3）　条約の効力発生
第25回：条約（4）　条約の無効と終了
第26回：条約（5）　条約と国内法の関係
第27回：特別テーマ（1）　日本国憲法と日米安保条約
第28回：特別テーマ（2）　終戦と国際法
第29回：特別テーマ（3）　核軍縮の国際法
第30回：学期末試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】
教室で毎回配布される講義レジュメの指示に従って、教科書の関連部分および参考サイトで予習・復習してください。

【テキスト】
国際条約集2017 岩澤 雄司編集代表　有斐閣

【参考文献】
尾崎久仁子他『ブリッジブック国際法』第３版　信山社　2016年
国際法学会編『国際関係法辞典』第２版　三省堂　2005年
庄司真理子・宮脇昇編著『新グローバル公共政策』改訂第１版　晃洋書房　2016年
保坂俊司監修『決定版　よくわかる世界三大宗教』学研パブリッシング　2012年
中谷剛『アウシュヴィッツ博物館案内』新訂増補版　凱風社　2012年
バリー・パーカー『戦争の物理学：弓矢から水爆まで兵器はいかに生み出されたか』白揚社　2016年

【コメント】
成績は学期末試験のみで評価します。教室内で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問、要望等を書くためで、「出席点」にはなりません。講義時間内に行う小テストは、受講生が自身の理解度を確認するためで、成績評価にいっさい関係ありません。

講　義　名　称	曜　時
コミュニケーション論　＜春集＞	水1 ／金1

【教員名称】
長﨑　励朗

【講義概要】
一般に「コミュニケーション」と言えば、人間同士のパーソナルな会話が想起される。そのため、メディアを介した「マス・コミュニケーション」とは別に語られがちである。しかし、本来これらは別個のものではない。コミュニケーションとは、ある主体が別の主体に情報を伝達する行為の全てを含むものだ。そのため、コミュニケーション研究はメディア論のみならず、社会心理学や文化人類学など複数の分野にまたがって展開されている。本講義ではこれらの知見を分野横断的に論じることで、「コミュニケーション」を捉える多角的な視点を提供する。

【学習目標】
コミュニケーションに関する幅広い知識を身につけることを通じて、一般に言われる「コミュニケーション能力」などの言葉に流されない自分なりのコミュニケーション観を構築してほしい。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
第２回：コミュニケーションとマス・コミュニケーション
第３回：コミュニケーション研究の系譜
第４回：コミュニケーションのメディア史（1）—焚書が持つ意味
第５回：コミュニケーションのメディア史（2）—新聞は「権力の番犬」か？
第６回：コミュニケーションのメディア史（3）—写真と観光
第７回：コミュニケーションのメディア史（4）—無声映画のシンボル利用
第８回：コミュニケーションのメディア史（5）—トーキーと総力戦
第９回：コミュニケーションのメディア史（6）—「National」のラジオが誕生するとき
第10回：コミュニケーションのメディア史（7）—テレビは教育的か？
第11回：コミュニケーションのメディア史（8）—インターネットは社会を変えるか？
第12回：市民的公共圏は存立可能か？
第13回：市民的公共圏の是非
第14回：民主主義とコミュニケーション（1）右翼と左翼
第15回：民主主義とコミュニケーション（2）ヨロンとセロン
第16回：民主主義とコミュニケーション（3）デモのある社会は健全か？
第17回：文化がつなぐコミュニケーション（1）
第18回：文化がつなぐコミュニケーション（2）
第19回：文化が分断するコミュニケーション
第20回：機械とのコミュニケーション
第21回：機械に心はあるか？
第22回：信頼とコミュニケーション
第23回：イレギュラーな情報伝達—噂研究の系譜
第24回：ポスト・トゥルースの時代
第25回：パーソナル・スペースとコミュニケーション
第26回：コミュニケーションから見た若者論（1）—「族」から「系」へ
第27回：コミュニケーションから見た若者論（2）—「コミュ障」と「オタク」
第28回：国際関係とコミュニケーション
第29回：授業総括（1）
第30回：授業総括（2）

【事前および事後学習の指示】
試験前にはノートを見直すことをおすすめします。
また、日常的には、授業の内容を踏まえて自身の周囲にあるものを観察してみること。

【テキスト】
現代メディア史 佐藤卓己 4000260154 岩波書店

【参考文献】
・田崎 篤郎・児島 和人『マス・コミュニケーション効果研究の展開』、北樹出版、2003年
・浅野智彦『若者とは誰か　増補版』、河出書房新社、2015年

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
コンピュータ論Ⅰ　＜秋＞	水3

【教員名称】
藤間　真

【講義概要】
一昨年来「人工知能」という言葉がマスコミをにぎわしていることからもわかるように、今日のコンピュータは、「計算」を直接的に目的とはしない用途でますます利用されており、計算する道具からデータ処理の道具、そして情報を引き出し整理し分析した上でその結果を分かりやすく提示する道具、色々なモノにくみこまれて制御する道具になりつつある。
何故コンピュータは今日のような展開ができたのであろうか。このことを、人間とコンピュータとの違いや人間から見たコンピュータという存在という視座から俯瞰することで明らかにし、より社会生活に役立つコンピュータの将来をどのように展望すべきかを考える。
動画資料や一読しただけでは意味が掴みにくい配布資料を用いての講義が大きな部分を占めるので、継続的な出席は単位認定の前提となろう。また、必要に応じてグループ・ディスカッションによって議論を深めることもあることも、継続的な出席が必要となる要因である。
第1回で、講義の内容に関する重要なことを扱うので、欠席した場合の不利益はかなり大きなものとなる。受講を検討している諸君は必ず第1回に出席されたい。
なお、高校での教科『情報』の教育が多様化していることを受け、受講生の理解度を頻繁に測り、内容及び進度の調整を行う予定である。その結果、下記の予定に変更がある可能性は高い。詳細は、講義中にアナウンスする。

【学習目標】
本講の目的は、人間とコンピュータとの違いや人間から見たコンピュータという存在という視座から、コンピュータに関する幅広い知識を伝授すると共に、深い考察のきっかけを与えることである。

【講義計画】
第１回：第一回はオリエンテーションを行う。
受講希望者は出席のこと。
第２回：思考と機械—チューリング・テストと行動主義
第３回：思考と機械—チューリング・テストとサールの部屋
第４回：思考と機械—フレーム問題
第５回：思考と機械—ディープ・ラーニング
第６回：思考と機械—中間まとめ
第７回：コンピュータによる表現—音声と画像の表現
第８回：コンピュータによる表現—文字の表現
第９回：コンピュータによる表現—数の内部表現
第10回：ハードウエア装置の構成と仕組み
第11回：ソフトウェアの構成と仕組み
第12回：ネットワークの構成と仕組み
第13回：社会におけるコンピュータ利用の実例
第14回：障害者支援のためのコンピュータ
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
事後学習として求める復習のための労力が他の講義に比べて多いため、事前学習（予習）は特に要求しません。
言い換えると、きちんと復習することが単位取得の前提となります。

【テキスト】

【参考文献】
講義中に指示します。

【コメント】
レポート：80%　授業への積極的な参加：20%
いくつかの課題に関して、レポートを課します。
本講義の目的の一つが、自習するには難しいことを講義形式で伝えることにありますから、レポートの内容は、講義内容を踏まえたものとなります。その意味での「授業への積極的な参加」20%です。詳細は、オリエンテーション時に説明します。

講　義　名　称	曜　時
コンピュータ論Ⅱ　＜春＞	水3

【教員名称】
榎本　光世

【講義概要】
コンピュータは既に身近なツールとなって久しいが、その利用法や社会的影響に関してはビジネスでも研究でも今もなお発展段階である。その利用に際して、原理や仕組みそれに歴史を知っておけば研究のみならず日常生活にも有用である。本講義ではコンピュータや情報通信のテクノロジーやその利用法と、その社会的影響について考えながら学ぶ。
全ての講義内容は相互に関連性を持つので、欠席すれば、課題のレポートや試験に回答するための知識を得られない可能性が少なくない。また、教材として、ビデオやインターネットのサイトなども用いる。

【学習目標】
ICTとは何かを理解し、個人（従業員、経営者、消費者）の立場からのICT利用、それに組織体（企業、行政、非営利組織）の利用に関して認識を深め、様々な立場やレベルにおけるICTの利用が社会に与える影響について考察できるようになる。

【講義計画】
第１回：講義概要；講義内容の説明と諸注意
第２回：身近なコンピュータの利用に関して（マイコン、PC、スマホ）
第３回：コンピューターという装置の記号的解釈；その象徴されるモノやコト
「コンピューター化」対「情報化」
第４回：ICTの進展１；電子工学以前のコンピューター、情報通信
第５回：ICTの進展２；電子工学黎明期のコンピューター（コンピューターの発明）
日本でのコンピュータ開発
第６回：ICTの進展３；コンピューターとデータ通信（専用線、公衆網、インターネット、FTC）
第７回：ICTの進展４；PCの時代
第８回：コンピューター時代を理解する様々なキーワード（ネオダマ､ゲーム化、クラウド、ビッグ・データ、スマホ）
第９回：コンピューターのビジネス利用１；経営情報システム
第10回：コンピューターのビジネス利用２；ネット・ビジネス
第11回：コンピューターの娯楽への応用；ゲーム、ネット
第12回：コンピューター時代の暗黒面；システム・ダウン、ネット犯罪、監視社会
第13回：まとめ（情報社会の未来への展望）
第14回：予備時間
第15回：成績評価試験の予定
（※　第１回～第１５回までの内容は変更される場合もある）

【事前および事後学習の指示】
前回までの内容を簡単に復習してから講義にのぞむこと。

【テキスト】

【参考文献】
開講時に指示する。

【コメント】
第15回目に成績評価試験をする予定。試験期間中の試験は現在のところ予定していない。試験の結果、授業中の態度、その他で総合的に評価する。テキストに関しては開講時に指示する。私語厳禁。講義中にはスマホや携帯電話などの利用を一切認めない。

講　義　名　称	曜　時
財務諸表論　＜春集＞	水3 ／水4

【教員名称】
全　在　紋

【講義概要】
企業はその社会的性格のゆえに、自己の財政状態および経営成績を世間に公表する責任をもっています。貸借対照表や損益計算書をはじめとする財務諸表は、そのために作成される企業の「証言」と言えましょう。この講義を真剣に受講すれば、企業が作成するところの財務諸表の意味を「読み解く」力が養われます。同時に、作成される財務諸表が、権力奉仕装置としての役割を担っている点についても、理解できるようになるでしょう。

【学習目標】
(1) 1年次における「商業簿記」および「会計学基礎」の学習内容を前提にして、3年次以降に履修する経営学部専門諸科目の内容が理解できるよう、財務会計におけるキャッシュ・フロー計算書のポイントを学習します。
(2)「企業の言語」としての〈会計〉の特性を学習します。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：会計の意義と分類：その①
第３回：会計の意義と分類：その②
第４回：株式会社の決算法：その①
第５回：株式会社の決算法：その②
第６回：３種基本財務諸表：その①
第７回：３種基本財務諸表：その②
第８回：３種基本財務諸表：その③
第９回：３種基本財務諸表：その④
第10回：資金面の経営分析：その①
第11回：資金面の経営分析：その②
第12回：資金面の経営分析：その③
第13回：資金面の経営分析：その④
第14回：資金面の経営分析：その⑤
第15回：中間試験
第16回：安全性の経営分析：その①
第17回：安全性の経営分析：その②
第18回：安全性の経営分析：その③
第19回：中間試験
第20回：会計は企業の言語：その①
第21回：会計は企業の言語：その②
第22回：複式簿記と資本主義
第23回：国際会計論の解明：その①
第24回：国際会計論の解明：その②
第25回：国際会計論の解明：その③
第26回：国際会計論の解明：その④
第27回：権力と中世の会計学説
第28回：権力と近代の会計理論
第29回：権力と現代の会計理論
第30回：まとめと試験

【事前および事後学習の指示】
予習はともかく、復習は必要です。講義ノートの清書などを通じて、復習してください。一年生の時に履修した「商業簿記」教科書（『ＡＬＦＡ：３級課程・商業簿記』、大原簿記学校）や、「会計学基礎」教科書（『まなびの入門会計学』）の参照を心がければ、この講義の理解は格段に深まることでしょう。なお、この授業は、正当な理由（電車の延着その他）がない場合、開始10分以降の入室を禁じます。

【テキスト】
会計の力 全在紋 978-4-502-16081-3 中央経済社

【参考文献】
全在紋、『会計言語論の基礎』、中央経済社、2004年

【コメント】
ただし、下記の提出物を、加点評価の対象とする。
①ボーナス･カードの枚数（授業中の質問等に対する正答ごとに一枚支給）
②日本商工会議所簿記検定試験２級・１級合格証のＡ４サイズ・コピー

講　義　名　称	曜　時
産業構造論Ⅰ　＜春＞	金4

【教員名称】
義永　忠一

【講義概要】
現在の日本経済は、アベノミクス以降の為替変動（円安）でも、輸出が伸び悩んでいると指摘されます。産業構造が変化したとの指摘も、多くされます。産業構造論Ⅰでは、これまでの日本の産業構造に関する議論を丁寧に追いながら、現在に至る道筋を説明します。そして、受講者とともに今後の方向性を議論していきます。

【学習目標】
産業構造に関する議論を、歴史的な背景とともに理解できる事を学習目標とします。

【講義計画】
第１回：産業構造論Ⅰについて－講義概要と評価方法について－
第２回：産業構造とはなにか
第３回：経済自立期の構造と政策
第４回：高度成長と開放政策　その１
第５回：高度成長と開放政策　その２
第６回：1970年代の日本経済を捉える　その１
第７回：1970年代の日本経済を捉える　その２
石油危機下の経済変動　その１
第８回：石油危機下の経済変動　その２
日本的生産システムの確立を捉える
第９回：環境変化と産業構造　その１
日本的生産システムと情報化
第10回：環境変化と産業構造　その２
国際化・グローバル化
第11回：環境変化と産業構造　その３
プラザ合意・バブル経済
第12回：環境変化と産業構造　その４
バブル崩壊後～ 2001年頃
第13回：失われた20年
現在までとこれからの産業構造
第14回：産業構造の変化と日本経済
第15回：試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】
事前に、貿易収支等、新聞等で掲載される経済統計について目を通しておく事が、講義の理解に役立ちます。

【テキスト】

【参考文献】
鶴田俊正/伊藤元重（2001）『日本産業構造論』NTT出版を、本講義では中心に取り扱っています。しかし、最新のデータ及びこれまでの研究を補足しながら講義を展開しますので、参考文献として挙げます。

【コメント】
論述による試験を実施します。各講義で提示されるテーマについて、その都度、学習する事が試験において重要となります。

講　義　名　称	曜　時
産業構造論Ⅱ　＜秋＞	金4

【教員名称】　　インテ
義永　忠一

【講義概要】
現代日本の産業を各期のテーマに沿って、各産業分野の「現場」で活躍されている経営者やそれに近い方々、もしくは「現場」に関して造詣の深い方々から講義をしていただきます。 産業構造論Ⅱは、「現在の日本における産業構造の変化」というテーマで、各産業の視点より講義をしていただきます。また産業構造論Ⅱでは、講師への積極的な質問を推奨しています。

【学習目標】
講義を通して見えてくる各産業の現状と課題を理解し、受講生が解決の方向性を考え始めるきっかけとなることを、学習の目標とします。講義終了後の積極的な質疑応答を通して、発言する力の養成も学習目標とします。

【講義計画】
第１回：この講義のねらい
・2017年度講義予定内容紹介（講師の都合により変更の可能性あり）
・テーマ：現在の日本における産業構造の変化（サブテーマを設定する場合があります）
第２回：産業構造とは-現在の日本における産業構造の変化-
第３回：エネルギーの新たな流れ（ガス）
第４回：鉄鋼業から見たエネルギーの現状
第５回：日本における貿易の現状
第６回：知的財産権-中小企業の挑戦-
第７回：産業構造の変化と成長戦略
第８回：繊維産業の現状
第９回：自動車産業の現状
第10回：情報産業-起業者の視点-
第11回：シンクタンク・ビジネス
第12回：外食産業の現状と課題
第13回：観光業におけるホテルの役割
第14回：環境に対する視点
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
毎回講義に臨む際、あらかじめ当該産業分野についてWebや新聞などにより情報を調べておくことが望ましい。また講義における質疑応答の際は、どんな内容でも構わないので、積極的に質問をすることを期待します。その後、各自で調査・研究することを望みます。

【テキスト】

【参考文献】
その都度指示します。

【コメント】
第1回目に、講義に関する説明をします。講義参加者は、必ず出席すること。
第15回目は、まとめとして全講義を通しての理解を問います。

講義期間を数期に分け、各期１～３つ、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらいます。
講義内での提出物とレポートを総合して評価します。

講　義　名　称	曜　時
産業心理学　＜通期＞	火4

【教員名称】
木村　貴彦

【講義概要】
高齢化や高度の情報化など現代社会の劇的変化に伴って私たちの生活や労働も多様化･複雑化しています。産業心理学は現代社会における人間と労働･日常生活を考える心理学の応用的分野のひとつです。本講義では環境･組織･人間の各要因とそれらの相互作用を考え、産業心理学における諸問題を概観していきます。

【学習目標】
労働や日常生活における産業心理学的見地に基づく知見を理解し、問題の抽出とその解決手法を考えていく力を身につけることを目指します。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション①
第２回：産業心理学と現代社会
第３回：産業心理学の歴史と背景
第４回：動機づけとリーダーシップ①　モチベーション
第５回：動機づけとリーダーシップ②　職場における人間関係
第６回：産業組織①　組織と人間
第７回：産業組織②　組織と安全・健康
第８回：適性①　個人差と適性研究
第９回：適性②　適性検査
第10回：産業場面におけるストレス①　ストレスの基礎
第11回：産業場面におけるストレス②　疲労・過重労働
第12回：産業場面におけるストレス③　ストレスマネジメントとメンタルヘルス
第13回：産業心理学の現代的問題①　高齢化社会・加齢と労働
第14回：産業心理学の現代的問題②　障害と労働
第15回：試験およびまとめ
第16回：オリエンテーション②
第17回：作業と効率①　人間の動作
第18回：作業と効率②　心的負担
第19回：作業と効率③　反応時間
第20回：作業と効率④　VDT作業
第21回：ヒューマンエラー①　ヒューマンエラーとは何か
第22回：ヒューマンエラー②　ヒューマンエラーのメカニズム
第23回：ヒューマンエラー③　エラー研究と心理学
第24回：リスクと意思決定
第25回：消費者の心理
第26回：前半のまとめ
第27回：産業心理学の課題を考える①　問題の抽出
第28回：産業心理学の課題を考える②　問題の深化・議論
第29回：産業心理学の課題を考える③　プレゼンテーションの準備
第30回：産業心理学の課題を考える④　プレゼンテーションと議論

【事前および事後学習の指示】
産業心理学は労働や日常生活と密接に関わっています。
普段の生活から問題点に目を向け、授業に積極的に取り組んで下さい。
また，参考文献をあらかじめ読んでおくことを推奨します。

【テキスト】

【参考文献】
・篠原一光・中村隆宏（編）心理学から考えるヒューマンファクターズ
　－安全で快適な新時代へ－　有斐閣
・古川久敬（編）産業・組織心理学　朝倉書店
・西川一廉・三戸秀樹　他　21世紀の産業心理学　福村出版

【コメント】
前期・後期ともに試験を実施します。また、中間の時期で小テストを実施します。
レポートは適宜実施する課題や後期における発表への取り組みを含みます。
出席については､毎回実施する記述課題の内容を重要視します。したがって、出席しただけでは評価の対象としませんので留意して下さい。

講　義　名　称	曜　時
思想－西洋哲学史　＜通期＞	月3

【教員名称】
伊藤　潔志

【講義概要】
【人間は何を考えてきたのか？】
この講義では、古代から近代までの西洋哲学を概観する。その際、歴史的に理解することを重視し、当時の歴史的状況についても適宜言及していく。今年度は特に、近現代の思想を重点的に取り上げる。

【学習目標】
・過去の思想家たちの問題意識を理解する。
・西洋哲学の展開を歴史的に把握する。
・物事を批判的に捉えることができる。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション、哲学とは何か
第２回：ソクラテス以前①
第３回：ソクラテス以前②
第４回：ソクラテス
第５回：プラトン
第６回：アリストテレス
第７回：ヘレニズム思想、新プラトン主義
第８回：ユダヤ教、キリスト教の成立、教父哲学
第９回：スコラ哲学
第10回：中世ヨーロッパ世界の成立と崩壊
第11回：ルネサンス
第12回：宗教改革
第13回：イギリス経験論
第14回：大陸合理論
第15回：啓蒙主義
第16回：近世哲学のまとめ
第17回：功利主義
第18回：カントの認識論
第19回：カントの倫理学
第20回：フィヒテ、シェリング
第21回：ヘーゲルの歴史哲学
第22回：ヘーゲルの社会哲学
第23回：マルクス
第24回：フロイト
第25回：プラグマティズム
第26回：キルケゴール
第27回：ニーチェ
第28回：ハイデガー
第29回：ウィトゲンシュタイン
第30回：フーコー

【事前および事後学習の指示】
・授業の中で紹介された書籍を積極的に読むこと。
・授業のノートをよく確認すること。

【テキスト】

【参考文献】
・小田垣雅也『キリスト教の歴史』講談社学術文庫、1995年。
・リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社ライブラリー、2000年。
・量義治『西洋近世哲学史』講談社学術文庫、2005年。

【コメント】
・レポートの提出をもって、試験の受験資格とする。
・レポートの課題図書等については、最初の授業で指示する。

講　義　名　称	曜　時
思想－中国思想から今を読む　＜春集＞	火2／金3

【教員名称】
串田　久治

【講義概要】
中国古代の諸思想を通して、今を読み解く講義です。
中国の古代思想は広く東アジアに根を下ろし、人々の物の見方や考え方を形成する上で大きな影響を与えました。そして、その多くが書物となって今に伝えられています。
本講義は、中国の知的遺産を解きほぐしながら、今日の我々が抱えるさまざまな問題を見つめ、現実の世界に目を開いて考え直し、一人ひとりの思考を深化させる場とします。
したがって、本講義はただ聞いているだけの講義ではなく、学生諸君の積極的なアプローチと深い思索が要求されます。具体的には、数名ごとのグループに分かれ、グループで討議したことを発表し、全員でディスカッションし、その後に各自が自分の考えをまとめてレポートして提出することとなります。
なお、本講義を始めるに当たり、都合三回のオリエンテーションを行います。本講義を履修しようと思う人は、必ずいずれかのオリエンテーションに参加し、本講義の目的・講義の進め方などをしっかり理解し納得した方のみ履修することができます。オリエンテーションに参加せずに本講義に登録しても無効です。

【学習目標】
本講義は書物から学ぶものではなく、自分の頭で考え、人の意見に耳を傾け、議論し、考えを整理してそれを他者に言葉（文字）で伝える能力を身につける。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション（1）
第２回：オリエンテーション（2）
第３回：オリエンテーション（3）
第４回：第一部　発想の転換
1　無用の用
2　水の如く
3　足るを知る
4　多くを求めない幸せ
第二部　真実を見抜く
1　本当に大切なもの
2　本当に怖いもの
3　自己アピール
4　リーダーシップ
第四部　人と人との絆
1　家　書
2　ホスピタリティー
3　原心定罪
第四部　平和への希求
1　戦争請負業
2　正義の戦い
第五部　国家の責務
1　棄　民
2　民の口を防ぐ
3　五美四悪
4　国　益
第六部　人間の魅力
1　四　知
2　老いのよろこび
のいずれか
第５回：同上
第６回：同上
第７回：同上
第８回：同上
第９回：同上
第10回：同上
第11回：同上
第12回：同上
第13回：同上
第14回：同上
第15回：同上
第16回：同上
第17回：同上
第18回：同上
第19回：同上
第20回：同上
第21回：同上
第22回：同上
第23回：同上
第24回：同上
第25回：同上
第26回：同上
第27回：同上
第28回：同上
第29回：最終レポート作成
第30回：総括

【事前および事後学習の指示】
毎回M-portで指示する。

【テキスト】
無用の用 串田久治　研文出版

【参考文献】
林語堂著『支那のユーモア』（岩波新書）
林語堂著『中国＝文化と思想』（講談社学術文庫）
宮崎市定著『中国に学ぶ』（中公文庫）
串田久治著『漢詩酔談』（大修館）
串田久治著『王朝滅亡の予言歌－古代中国の童謡』（大修館）
串田久治著『儒教の知恵－矛盾の中に生きる』（中公新書）
串田久治著『中国古代の「謡」と「予言」』（創文社）
串田久治著『天安門落書』（講談社現代新書）
KUSHIDA’S WEB SITE
http://www1.odn.ne.jp/kushida

【コメント】
本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。また、本講義は班ごとに活動しますので、欠席・遅刻は認められません（欠席・遅刻は班の活動に支障をきたし、メンバーに多大な迷惑となります）。遅刻・欠席は講義の妨げとなりますので、講義を辞退していただく場合もあります。
毎回の小レポートと複数回の中間レポートが義務づけられ、小レポートおよび中間レポートの不良者は最終レポート作成・提出の資格を失います。
レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、出席するのが大前提なので出席点はありません。

講　義　名　称	曜　時
児童英語　＜通期＞	月1

【教員名称】
福智　佳代子

【講義概要】
「グローバル化に対応した英語教育改革」が実施され、2018年度から段階的に、2020年度小学校英語は教科化される。小学校中学年では学級担任が中心、高学年では、英語指導力を備えた学級担任+専科教員が指導する。日本の小学校外国語（英語）教育を担う教員養成が必要とされている。
本講義では、先ず、急速にグローバル化した世界の中での外国語教育の意義と目的、世界各国の言語政策、日本の「グローバル化に対応した英語教育改革」のあり方を理解する。次に、言語習得の観点から児童期の外国語教育のあり方と教授法、児童が楽しむ活動などを学び、実際の児童英語教育・小学校英語活動のフレームワークを創り上げる。秋学期には、自分たちが創り上げた授業案で小学校で実習授業を行う参加型・アクティブラーニング型の授業である。

【学習目標】
グローバル化の波は、大学が人材育成に重要な役割を果たすことを求めている。本講義では、小学校から中学校・高校英語に連携する一貫した「グローバル化に対応した英語教育改革」を担える教員の素地の育成を目指している。
春学期授業では、発達過程を考えた児童期の英語教育のあり方を踏まえ、「外国語コミュニケーション能力を養う」効果的な指導法とはいかなるものか、「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」を考えた授業創りについて総合的に学習し、プレゼンテーション、ディベートを行う。授業法については、ワークショップ形式で体験し、プレゼンテーション・討議を行う。
秋学期には、学生自身が小学校英語教育の授業案を作成し、模擬授業で練習を行った後、実際に小学校現場で英語活動の授業を体験、将来、小学校、英会話学校、児童英語教室などで指導できる実践力を身につけることを目指す。

【講義計画】
第１回：ガイダンス、
世界の外国語教育と異文化理解　(1)『世界の言語政策事情と日本の小学校英語活動の現状』
世界の言語政策と日本の「グローバル化に対応した英語教育改革」について討議する
第２回：世界の外国語教育と異文化理解　(2)　『小学校英語異文化理解教育－身近にある異文化共生－』(2)
プレゼンテーション
世界の国々の言語政策について調べ、パワーポイントにてプレゼンテーションを行う
第３回：児童期における第２言語教育（1）『ことばの習得VS.ことばの学習』
年齢と言語習得
第４回：児童期における第２言語教育（2）『イマージョン・プログラムとバイリンガル教育』（環境と言語習得）
ディベート準備　(協同学習)
第５回：児童期における第２言語教育（3）
ディベート　『これからの児童英語教育』
第６回：児童の特性を活かした授業法　ワークショップ（1）『歌、チャンツ、ライム』
第７回：児童の特性を活かした授業法　ワークショップ（2）『TPR：Total Physical Response』
第８回：児童の特性を活かした授業法　ワークショップ（2）『TPR：Total Physical Response』
第９回：児童の特性を活かした授業法　ワークショップ（4）　『フォニックス　音と文字を楽しむ授業法』
第10回：児童の特性を活かした授業法　ワークショップ（5）『まとめとプレゼンテーション』
第11回：児童が楽しむ英語活動　協同学習（1）　『絵本･物語が育むことばの力』
第12回：児童が楽しむ英語活動　協同学習（2）　『スキット、ロールプレイングで対話を楽しむ活動』
第13回：児童が楽しむ英語活動　協同学習（3）　『タスク・プロジェクト・クリル型英語活動』
第14回：児童が楽しむ英語活動　協同学習（4）『活動案作成のポイント、発表準備』
第15回：児童が楽しむ英語活動　協同学習 (5)『まとめとプレゼンテーション』
プレゼンテーション
第16回：ビデオによる小学校英語活動観察、　年間カリキュラム
第17回：発達段階にあった児童英語活動を創る（1）『教材研究　活動案作成（1)』
第18回：発達段階にあった児童英語活動を創る（2)『教材・教具作成（1)』
第19回：発達段階にあった児童英語活動を創る（3)『ワークシート・振り返りカード作成と評価の観点（1)』
第20回：発達段階にあった児童英語活動を創る（4)『活動案内容検討（1)』
第21回：発達段階にあった児童英語活動を創る（5)『小学校英語活動体験模擬授業（1)』
第22回：第1回実習　『小学校英語活動体験』
第23回：実習授業活動案作成（1)『教材研究　活動案作成（2)』、PDCA「第1回実習評価」
第24回：実習授業活動案作成（2)『教材・教具、ワークシート・振り返りカード作成（2)』
第25回：実習授業活動案作成（3)『ワークシート・振り返りカード作成と評価の観点（2)』
第26回：実習授業活動案作成（4)『活動案内容検討（2)』
第27回：実習授業活動案作成（5)『小学校英語活動体験模擬授業（2)』
第28回：第2回実習　『小学校英語活動体験』
第29回：評価の在り方「指導目標、年間カリキュラム、授業、評価目標と評価の一体化」
PDCA「第2回実習評価」
第30回：まとめ『児童英語教育のゴール を考える』　評価ポートフォリオ作成

【事前および事後学習の指示】
プレゼンテーション、ディベート、模擬授業、実習授業などを行う。評価に反映されるので、あらかじめ資料作成、教具作成、授業練習などをしておくこと。

【テキスト】
「小学校英語の教育法 理論と実践.」アレン玉井光江 9784469245486 大修館書店

【参考文献】
「小学校英語教育の進め方」岡秀夫・金森強　共著成美堂　ISBN：978-4-7919-7141-1

【コメント】
授業に出席し、興味・関心を持って、プレゼンテーション等積極的に活動に参加すること30%、小学校英語活動実習30%、レポート40%として評価する。
プレゼンテーション、小学校英語活動授業実習のための教材研究、教具作成、実習授業に意欲的に取り組む態度と内容の評価を重視する。

講　義　名　称	曜　時
自然科学－数理の目で世界を見る　＜秋集＞	火3 ／金4

【教員名称】
藤間　真

【講義概要】
多くの人に取っての数学のイメージは、「無味乾燥で現実とは遊離している学問」というものでしょう。また、色々な理由から、嫌いになった人も多いと思われます。
しかし、数学の源流をたどると、現実を描写するための学問、他者とコミュニケーションをとるための学問から出発したことがわかります。この講義の目的の一つは、そのような、「世界を見る視座としての数学」に触れてもらうことです。もっとも、その様な視点から見るにしても、数学の基礎的な技能が不要になるわけではありません。そこで、このような技能の復習も扱います。また、試験場でパソコンが使えるわけでもないので、あまりなじみが無いかもしれませんが、数学をする道具としてのパソコンも近年急速に進歩していますので、それについても扱います。
さらに、パソコンを用いた自習システムを援用する予定です。（自習システムについては説明する時間を設けます）
他の講義に比べて、自習に必要な時間は相当多くなると思われます。また、受講生の状況によっては、グループディスカッションを講義中に行う可能性があります。受講を検討する諸君はこれらの点も考慮に入れてください。
なお、頻繁に習熟度を確認して速度調整を行うことから下記に示した予定から変更がある可能性は大です。
詳細は第一回に示しますので、受講を検討する学生諸君は、必ず出席してください。

【学習目標】
この講義の目指す点は三つです。
その一つは、世界を見る視座としての数理科学に触れてもらうことです。
もう一つは、世界を見る視座としての数理科学に必要な中学高校レベルの数学を身につけることです。
最後の一つは、世界を見る視座としての数理科学の道具としてのパソコンについて知ることです。

【講義計画】
第１回：本講義は、実習室の配分が講義計画執筆時現在で確定していないため、下記の予定に変更があり得ます。
詳細は第一回で示します。
・オリエンテーション
受講を検討する学生諸君は、必ず出席してください。どうしても出席できなかった人は、早急に担当者にメールで相談してください。
第２回：数学へのコンピュータの応用
数学支援ソフトMicrosoft Mathematicsの紹介
自習システムについての説明
第３回：ざっくり把握するための道具―記述統計
統計のための数学ソフトRStudioの紹介
第４回：ざっくり把握するための道具―記述統計
・集団の表現としての代表値と図（1）
第５回：ざっくり把握するための道具―記述統計
・集団の表現としての代表値と図（2）
第６回：ざっくり把握するための道具―記述統計
・二つの関係の表現―相関係数と散布図
第７回：部分から全体を予測するための道具―推測統計
・仮説検定の考え方
第８回：部分から全体を予測するための道具―推測統計
・仮説検定の基本的な手法
第９回：部分から全体を予測するための道具―推測統計
・RStudioを用いたシミュレーション（1）
第10回：部分から全体を予測するための道具―推測統計
・仮説検定に関する最近の話題
第11回：統計まとめ
第12回：数の概念と量の概念―現象を見る目という視点から
・数えるものと測るもの
第13回：数の概念と量の概念―現象を見る目という視点から
・単位の意味と掛け算・割り算
第14回：数の概念と量の概念―現象を見る目という視点から
・自然数と整数の関係
・整数と有理数の関係
第15回：数の概念と量の概念―現象を見る目という視点から
・実数への拡張
・複素数への拡張
第16回：数の概念と量の概念―現象を見る目という視点から
・三角関数とMicrosoft Mathematics
第17回：数の概念と量の概念―現象を見る目という視点から
・指数関数・対数関数
第18回：数の概念と量の概念―現象を見る目という視点から
・行列による表現
第19回：数の概念と量の概念―現象を見る目という視点から
・まとめと演習（1）
第20回：数の概念と量の概念―現象を見る目という視点から
・まとめと演習（2）
第21回：数の概念と量の概念―現象を見る目という視点から
・まとめと演習（3）
第22回：数の概念と量の概念―現象を見る目という視点から
・まとめと演習（4）
第23回：定量的思考で意思決定する（1）
・決定木の紹介
第24回：定量的思考で意思決定する（2）
・決定木の練習
第25回：変化を表す関数と言う視点で世界を見る
・関数の意味と表現
第26回：変化を表す関数と言う視点で世界を見る
・導関数の意義
第27回：変化を表す関数と言う視点で世界を見る
・微分を使って現象を見る（1）
第28回：変化を表す関数と言う視点で世界を見る
・微分を使って現象を見る（2）
第29回：そうまとめ
第30回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
各回ごとに事後学習を指示します。
また、紹介する自習ソフトを使った自学自習も進めてもらいます。

【テキスト】

【参考文献】
適宜指示します。

【コメント】
講義で扱った各分野について、期末試験と期末レポートの総合して評価します。
なお、本講義の評価時に、出席点は加味することはありませんが、きちんと出席していれば、単位認定できるように講義運営する予定です。
詳細は、オリエンテーション時に示します。

講　義　名　称	曜　時
自然科学－生物学Ⅰ　＜秋集＞	火1 ／金1

【教員名称】
巌　圭介

【講義概要】
国際経営論Ｂでは、国境を超えた経営活動を展開している企業に相応しい組織デザインや経営資源の活用法、経営の標準化と現地適応化の問題など、事例を参照しながら多角的に考察する。

【学習目標】
国際経営に関する基礎的な理論を理解し、企業の国際化の現状と諸問題について、それらの理論を適用して解釈できるようになることを目的とする。

【講義計画】
第１回：ガイダンス 「国際経営とは何か」授業概要と評価方法などに関する説明
第２回：多国籍企業の組織デザイン
第３回：グローバル統合とローカル適応
第４回：国際マーケティングの理論と実践
第５回：国際マーケティングの事例研究
第６回：海外生産と研究開発
第７回：海外生産と研究開発の事例研究
第８回：国際人的資源管理の理論と実践
第９回：国際人的資源管理の事例研究
第10回：国際パートナーシップ
第11回：国際パートナーシップの事例研究
第12回：イノベーションとナレッジマネージメント
第13回：豪州における日系企業の経営戦略
第14回：豪州ワイン産業のグローバル戦略
第15回：総括と期末試験

【事前および事後学習の指示】
事前学習として、各回講義のテーマに沿った事例（企業）を新聞やニュースから探すこと。
事後学習として、小テスト実施後に解答に関する解説を行うので、各自振り返りを行うこと。

【テキスト】

【参考文献】
中川功一、林正、多田和美、大木清弘 （2015）「はじめての国際経営」有斐閣ストゥディア

【コメント】
イン・クラス・レポートとは、授業時間中に出題して、その場で書き上げて提出してもらうレポートで、その時点まで数回分の講義内容を振り返りまとめてもらうことを目的として４回実施する予定。レポートをすべて提出した上で、試験で６割程度得点すれば単位を与える。

講　義　名　称	曜　時
自然科学－定量分析入門　＜春集＞	火1／木4

【教員名称】
大村　鍾太

【講義概要】
定量分析は実社会（特にビジネス）で直面する問題解決のために、数量的な視点から意思決定するための手法である。意思決定には、KKD（勘・経験・度胸）や定性的分析（数値化できない要素の分析）も必要になるが、定量的分析を加えることで、より良い意思決定を行うことができる。
本講義では、実際に問題を解くことで効果的に習得することを目指す。問題はSPIレベル、高校数学（数1A）レベルの基礎的なものから、経営科学・ORの入門レベルのものまでを扱う。

【学習目標】
1．SPIレベルの問題（SPIの非言語分野の問題）は完全に解くことができる。
2．現実の経営上の問題などを定量的な視点から考えることができる。

【講義計画】
第１回：定量分析のガイダンス
第２回：実力テスト
第３回：定量分析の基礎 1
（速さ、損益算、濃度、仕事算、集合）
第４回：定量分析の基礎 2
（鶴亀算、年齢算、割合、分割払い、代金の割引、代金の清算、ブラックボックス）
第５回：定量分析の基礎 3
（資料の読み取り、推論（位置、順序、勝ち負け、論理）、図表の読み取り）
第６回：定量分析の基礎 4
（条件と領域、グラフと領域）
第７回：定量分析の基礎 5
（式の展開と因数分解、一次不等式）
第８回：最適化問題 1
（二次関数とそのグラフ、二次関数の最大・最小）
第９回：最適化問題 2
（二次方程式・二次不等式）
第10回：最適化問題 3
（最適化問題（線形計画法の定式化））
第11回：最適化問題 4
（線形計画法（2変数の図解法））
第12回：最適化問題 5
（線形計画法（ソルバーによる数値解法））
第13回：実力テスト
第14回：不確実性下の意思決定 1
（集合、命題と論理）
第15回：不確実性下の意思決定 2
（数え上げの原則）
第16回：不確実性下の意思決定 3
（順列・組み合わせ）
第17回：不確実性下の意思決定 4
（確率、確率とその基本的な法則）
第18回：不確実性下の意思決定 5
（独立な試行と確率、条件付確率）
第19回：不確実性下の意思決定 6
（データの分析（ヒストグラム、平均、分散など））
第20回：在庫管理 1
（新聞売り子モデル①）
第21回：在庫管理 2
（新聞売り子モデル②）
第22回：実力テスト
第23回：待ち行列理論 1
（リトルの法則）
第24回：待ち行列理論 2
（待ち行列理論（M/M/1（∞））
第25回：待ち行列理論 3
（待ち行列理論（M/M/1（N））
第26回：日程計画 1
（PERT法①）
第27回：日程計画 2
（PERT②）
第28回：定量分析の応用 1
第29回：定量分析の応用 2
第30回：試験及びまとめ

【事前および事後学習の指示】
各授業のテーマに対応するSPI及び数1Aの問題を解くこと。
授業で配布する定量分析に関する資料を事前に勉強しておくこと。

【テキスト】

【参考文献】
授業トピックごとに参考文献を紹介する。

【コメント】
授業への積極的な取り組み（難易度の高い問題への挑戦、他の学生に教えること、など）を評価する。
詳細は1回目の授業で説明する。

講　義　名　称	曜　時
社会ビジネスA　＜春＞	水3

【教員名称】
上野　美咲

【講義概要】
この講義では「経営の問題に取り組む力」を育てます。
目先の利益を追いかけるビジネスばかりだと、世の中は行き詰っていきます。ビジネスには利益追求だけでなく、社会に貢献することが求められているのです。では社会に対してどのような貢献をすればよいのでしょうか？社会に貢献するビジネスとはどのようなビジネスでしょうか？これらの問題に対して、事例をもとに考え、意見交換しながら、共に学びましょう。

【学習目標】
社会に貢献すること（社会性）と利益を追求すること（事業性）の二つともが成立するためにはどうすればよいか？この問題に対して、システム思考をもとに自分なりの答えを見つけ出すことが、この講義の学習目標です。そのために講義を聴くだけでなく、グループワークやグループディスカッションを毎時間取り入れます。また、宿題で調べたことを皆の前で発表してもらうこともあります。このように、参加型形式を取り入れながら、考えるトレーニングを行います。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
（座席やチーム分けなどの注意）
第２回：システム思考
第３回：システム思考
第４回：ＣＳＲ
第５回：ＣＳＲ/社会ビジネスのコンセプト
第６回：社会ビジネスのコンセプト
第７回：働く動機
第８回：社会性と事業性を両立させるための考え方（ＣＳＶ）
第９回：ＢＯＰビジネス
第10回：ソーシャルマーケティング
第11回：社会ビジネスの現場
第12回：ビジネスのフレームワーク
第13回：社会性と事業性の両立（企画）
第14回：社会性と事業性の両立（プレゼンテーション）
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
宿題が出ます。次の講義のときに、皆の前で発表してもらうときがあります。

【テキスト】

【参考文献】
その都度指示します。

【コメント】
①レポートと平常点をあわせて50％とします。レポートは複数回、提出してもらいます。
②学外の方をゲスト講師として迎えることがあります。そのため、上記の講義の順が入れ替わることがあります。

講　義　名　称	曜　時
社会ビジネスB　＜秋＞	水3

【教員名称】
上野　美咲

【講義概要】
この講義では「経営の問題に取り組む力」を育てます。
目先の利益を追いかけるビジネスばかりだと、世の中は行き詰っていきます。ビジネスには利益追求だけでなく、社会に貢献することが求められているのです。では社会に貢献するビジネスとはどのようなビジネスでしょうか？この講義では分析だけでなく、社会に貢献するビジネスの「企画」にチャレンジします。事例や理論を参考にしながら、社会性と事業性を両立させるビジネスの企画を仲間と共にやってみましょう。

【学習目標】
社会に貢献すること（社会性）と利益を追求すること（事業性）の二つともが成立するためにはどうすればよいか？この問題に対して、さまざまな理論をもとに自分なりの答えを見つけ出し、ビジネスモデルとしてあらわすことが、この講義の学習目標です。そのために講義を聴くだけでなく、グループワークやグループディスカッションを毎時間取り入れます。また、宿題で調べたことを皆の前で発表してもらうこともあります。このように、参加型形式を取り入れながら、考えるトレーニングを行います。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
（座席やチーム分けなどの注意）
第２回：社会ビジネスとは何か
第３回：社会ビジネスの事例
第４回：社会ビジネスの現場（インタビュー）
第５回：社会ビジネスを考えるときに役立つフレームワーク（その１）
第６回：社会ビジネスを考えるときに役立つフレームワーク（その２）
第７回：社会ビジネスを考えるときに役立つ経営戦略
第８回：社会ビジネスを考えるときに役立つ経営戦略/ホワイトスペース戦略
第９回：ホワイトスペース戦略/ビジネスモデル・キャンバス（誰に何を提供するか）
第10回：ビジネスモデル・キャンバス（何をどのようにしてつくるか）
第11回：社会ビジネスのビジネスモデル（事例）
第12回：社会ビジネスのビジネスモデル（企画）
第13回：社会ビジネスのビジネスモデル（調査）
第14回：社会ビジネスのビジネスモデル（プレゼンテーション）
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
宿題が出ます。次の講義のときに、皆の前で発表してもらうときがあります。

【テキスト】

【参考文献】
その都度指示します。

【コメント】
①レポートと平常点をあわせて50％とします。レポートは複数回、提出してもらいます。
②学外の方をゲスト講師として迎えることがあります。そのために上記の講義の順が入れ替わることがあります。

講　義　名　称	曜　時
社会運動論　＜秋集＞	月3／水1

【教員名称】
上野　淳子

【講義概要】
社会運動や市民活動は社会に何をもたらすのか？講義の前半では、社会運動やボランティア団体、NPO・NGOなど市民社会を支える様々な組織をとりあげ、組織の発生から展開、終焉までの過程を追いながら、それらの組織を社会学的に分析するための方法を学ぶ。後半では、NPO法の成立と市民参加・協働の制度の広がり、グローバル化や人口減少が市民社会に与えた影響を検証し、今後の市民社会を展望する。

【学習目標】
社会運動など市民社会を構成する組織を社会学的に理解・分析できるようになることを目指す。まず、基本的な分析概念とアプローチを理解した上で、現代社会において社会運動やNPOが果たす役割を考えていきたい。

【講義計画】
第１回：市民社会を支えるさまざまな組織
第２回：未来を予言する社会運動――反原発運動
第３回：社会問題を告発する社会運動――消費者運動
第４回：承認をめぐる闘争――水俣病患者たちの運動
第５回：市民社会論と社会運動論
第６回：事例――①原発立地をめぐって
第７回：人はなぜ運動／活動をするか――①不満と集合行動
第８回：人はなぜ運動／活動をするか――②合理的選択
第９回：社会運動の目標と組織形態
第10回：どのように組織を維持するか――①資源とネットワーク
第11回：どのように組織を維持するか――②参加とアイデンティティ
第12回：いつ、どこで活動するか―①政治的機会構造
第13回：いつ、どこで活動するか―②諸要因の比較
第14回：いつ、どこで活動するか―③運動が終わるとき
第15回：社会運動組織の変化――①変化の４類型
第16回：社会運動組織の変化――②社会運動から政党へ
第17回：事例――②被災地を支援する
第18回：1960年代の学生運動
第19回：マルクス主義的運動論
第20回：新しい社会運動論
第21回：社会運動の歴史――断絶と継承
第22回：他組織との関係――①行政に抗議する、提案する
第23回：他組織との関係――②議会や政党
第24回：他組織との関係――③市場
第25回：他組織との関係――④地縁組織
第26回：政治と宗教
第27回：グローバル化と社会運動
第28回：「市民社会」論
第29回：まとめ①社会運動を分析する
第30回：まとめ②市民社会の展望

【事前および事後学習の指示】
授業の配布プリントをもとに復習し、疑問点があれば次回の授業時に示してください。また、インターネット、新聞記事検索等を使って日本の市民社会組織を調べ、これまでに学んだ理論や概念を用いて説明してみましょう。

【テキスト】

【参考文献】
大畑裕嗣ほか編『社会運動の社会学』有斐閣、2004年.　その他、随時紹介します。

【コメント】
授業中に指示する課題への取り組み（レポート30％、コメント提出10％）と最終試験（60％）によって評価します。

講　義　名　称	曜　時
社会階層論　<秋集>	火2／金4

【教員名称】
阪口　祐介

【講義概要】
私たちが生きる社会では、豊かで、仕事も安定しており、様々なチャンスに恵まれた人々がいる一方で、貧しく、仕事も不安定で、チャンスに恵まれない人々がいる。社会階層論は、社会のどのような層の間に資源やチャンスの格差・不平等があり、そうした階層間の格差・不平等がどのようなメカニズムで維持されるのかについて考えてきた。講義では、社会階層論で主に扱われる親や本人の職業や学歴による格差・不平等に加えて、貧困、ジェンダー、結婚、若年非正規雇用、グローバル化といったトピックも取り上げながら、階層間の格差・不平等について学ぶ。

【学習目標】
講義では階層・格差・不平等に関する様々なトピックを取り上げ、理論の紹介とデータに基づく説明を行う。これらを通じて、現代日本にはどのような格差・不平等があり、そうした格差・不平等がどのようなメカニズムで維持されるのかについて、理解することを目標とする。そして、現代社会における様々な諸問題について社会階層論の視点から考えることができるようになることを目指す。

【講義計画】
第１回：イントロダクション：社会階層論とは何か？
第２回：結果の不平等と機会の不平等：近代社会の理想と現実
第３回：世代間移動の閉鎖性：出身家庭によって成功のチャンスは異なる？
第４回：教育機会の階層間格差：出身家庭によって教育機会は異なる？
第５回：戦後日本における階層構造の変容①―機会の不平等の趨勢―
第６回：なぜ教育機会の不平等が維持されるのか？
第７回：戦後日本における階層構造の変容②―高度経済成長期における豊かさの変化―
第８回：所得格差の趨勢：1970年以降における格差拡大とその原因
第９回：日本社会における貧困：絶対的貧困と相対的貧困
第10回：貧困に陥るメカニズム：五重の排除
第11回：日本における社会保障を考える：福祉レジーム論の視点から
第12回：富裕層：お金持ちってどんな人？
第13回：マルクス：なぜ貧富の格差が生じるのか？
第14回：なぜ賃金格差が生じるのか？
第15回：中間まとめ
第16回：ジェンダーと階層：男女の賃金格差とその原因
第17回：なぜ性役割分業が維持されるのか？
第18回：階層と結婚：同類婚と上昇婚
第19回：階層論からみる未婚化・少子化の原因
第20回：パラサイト・シングル論：ポスト青年期の国際比較
第21回：フリーター・ニートについて考える
第22回：若者の労働観はどのように変化したのか？
第23回：高卒フリーターの増加をもたらした構造的要因
第24回：大卒就職活動はどのように変化したか？
第25回：職業から学校への移行：国際比較からみる日本の特徴
第26回：日本的雇用システム：英米との比較からみる日本の特徴
第27回：グローバル化と階層：国家間の格差・不平等を考える
第28回：「思い込み」が階層構造を維持する？：予言の自己成就
第29回：「思い込み」が階層構造を維持する？：ラベリング論
第30回：さいごに：社会階層論のアプローチとその意義

【事前および事後学習の指示】
授業で配布するプリントをもとに予習・復習を行うこと。

【テキスト】

【参考文献】
講義中に適宜提示する。

【コメント】
試験、授業での課題から評価する。詳細は第一回の授業時に説明する。

講　義　名　称	曜　時
社会学　03<秋集>	火4／金5

【教員名称】
平野　孝典

【講義概要】
社会学とは、私たちの日常の行為やコミュニケーションを出発点として、世の中の仕組みを理解しようとする学問です。「世の中」を研究対象とするだけあって、社会学の研究領域は広く、研究方法も多様です。そこで、この講義では社会学の全領域をカバーするのではなく、社会学という学問に共通する「ものの見方」や「考え方」をみなさんに伝えることに重点をおきたいと思います。講義は大きくわけて、(1) 社会学の基礎的な考え方の理解（第2回～第5回）、(2) 社会学の古典の学習（第6回～第13回）、(3) 社会学のさまざまな研究領域の学習（第15回～第28回）の3つのパートからなります。

【学習目標】
みなさんが、自分自身を取り巻く人間関係や社会現象を新しい角度から見直すことができるようになれば、この講義を修得したといえるでしょう。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：社会学の基礎（1）社会学とは何か
第３回：社会学の基礎（2）社会のなかの人間
第４回：社会学の基礎（3）集団と個人
第５回：社会学の基礎（4）現代社会の捉え方
第６回：自殺と社会（1）自殺は個人的な問題か？
第７回：自殺と社会（2）自殺の社会学的分析
第８回：宗教と資本主義（1）なぜ資本主義が生まれたのか？
第９回：宗教と資本主義（2）経済現象の社会学的分析
第10回：潜在的機能の分析（1）犯罪が社会の役に立つ？
第11回：潜在的機能の分析（2）潜在的機能と顕在的機能
第12回：予言の自己成就（1）なぜ男女差別はなくならないのか？
第13回：予言の自己成就（2）マートンの社会学
第14回：小まとめ
第15回：家族（1）家族は変わったか？
第16回：家族（2）家族の社会学的分析
第17回：労働（1）なぜ非正規雇用は増えたのか？
第18回：労働（2）労働の社会学的分析
第19回：若者（1）若者は「まじめ」になったのか？
第20回：若者（2）若者の社会学的分析
第21回：犯罪・非行（1）犯罪や非行は増えているのか？
第22回：犯罪・非行（2）犯罪・非行の社会学的分析
第23回：都市・地域（1）都会人は孤独か？
第24回：都市・地域（2）都市・地域の社会学的分析
第25回：格差と不平等（1）日本は不平等な社会か？
第26回：格差と不平等（2）格差と不平等の社会学的分析
第27回：グローバリゼーション（1）社会はどのように変化するのか？
第28回：グローバリゼーション（2）社会変動の社会学的分析
第29回：小まとめ
第30回：社会学は何の役に立つのか？

【事前および事後学習の指示】
授業を聞いて「終わり」とするのではなく、配布した資料を使って、よく復習してください。また、授業内容をさらに深く理解するための文献も紹介しますので、積極的に読み進めていってください。

【テキスト】

【参考文献】
井上俊・大村英昭編，1993，『改訂版　社会学入門』放送大学教育振興会.
友枝敏雄・山田真茂留編，2013，『Do! ソシオロジー［改訂版］』有斐閣.
小林盾ほか編，2014，『社会学入門』朝倉書店.
＊このほかの文献については、授業中に適宜紹介します。

【コメント】
学期末のレポート課題（70%）と、毎回の講義で課すミニレポート（30%）で評価します。ミニレポートには、講義の感想や、講義テーマに対する自分の見解を書いてもらいます。提出されたミニレポートが、講義と無関係あるいは不適切な内容である場合は、得点を与えません。また、遅刻や私語が目立つなど、受講態度が著しく悪い場合は、大幅に減点します。

講　義　名　称	曜　時
社会学　04<秋集>	火3／金2

【教員名称】
宮本　孝二

【講義概要】
社会学は家族から世界社会までの多種多様な社会的な場と、そこに生じるあらゆる問題や現象を対象とする。すでに200年近い歴史を持つ社会学には、これまでの多量な知識が蓄積されており、さらには現在も日々新たな認識が生産され社会学的知識として流通している。それらの大量な情報の中から、この講義ではまず社会理論と社会システムという大きな枠組みを設定し、次に社会学史に登場する多様な社会理論を社会学者と関連付けつつ順次紹介し、その後に現代社会の諸相についての社会学的達成点を解説し、現代社会のシステムの全体像を明らかにする。

【学習目標】
この講義は共通教養としての社会学の基礎知識を習得していただくことを目的としているが、同時に社会福祉士･精神保健福祉士・介護福祉士資格の取得に必要な社会学科目としても提供される。社会学は家族から国際社会に至る種々の社会生活の場、そこに生じる諸問題、多様な文化現象などを対象としており、社会学を学ぶことによって、知識と視野を広げ多角的な視点を獲得しつつ、問題解決や意味解読の力を身につけることが可能となろう。講義は、社会福祉士･精神保健福祉士資格の国家試験の社会学および介護福祉士の人間と社会に関する選択科目の出題基準に対応して進める。
社会学を学ぶことによって知識と視野を広げ多角的な視点を獲得しつつ問題解決や意味解読の力を身につけることが可能になる。

【講義計画】
第１回：社会理論と社会システム
第２回：現代社会の理解（1）文化と規範・法
第３回：現代社会の理解（2）産業・職業・労働
第４回：現代社会の理解（3）階級と階層
第５回：現代社会の理解（4）近代化・産業化・民主化論
第６回：現代社会の理解（5）人口構造と人口変動
第７回：現代社会の理解（6）地域社会
第８回：現代社会の理解（7）集団・組織
第９回：現代社会の理解（8）現代社会の諸相
第10回：生活の理解（1）家族
第11回：生活の理解（2）生活（ライフ）の諸相
第12回：人と社会の関係（1）行為・相互行為・関係
第13回：人と社会の関係（2）地位と役割
第14回：人と社会の関係（3）社会関係資本
第15回：人と社会の関係（4）社会的ジレンマ
第16回：社会問題の理解（1）逸脱と病理
第17回：社会問題の理解（2）犯罪と非行
第18回：社会問題の理解（3）差別・貧困・失業
第19回：社会問題の理解（4）自殺と社会的排除
第20回：社会問題の理解（5）公害と環境破壊
第21回：社会理論の諸相（1）コントからマルクスまで
第22回：社会理論の諸相（2）テンニースとウェーバー
第23回：社会理論の諸相（3）デュルケムとジンメル
第24回：社会理論の諸相（4）ドイツ社会学の展開
第25回：社会理論の諸相（5）フランス社会学の展開
第26回：社会理論の諸相（6）アメリカ社会学の展開
第27回：社会理論の諸相（7）パーソンズの登場
第28回：社会理論の諸相（8）現代の社会理論
第29回：まとめと補足（1）
第30回：まとめと補足（2）

【事前および事後学習の指示】
当然ながら予習・復習が不可欠である。社会福祉実習室に完備されている社会福祉士試験の過去の問題集（市販のものもあるが、ネットにも掲載されている場合がある）を予習・復習に活用すれば一層効果的である。

【テキスト】
特に使用しない。配布資料によって講義を進める。

【参考文献】
各回の講義内容の要点を記載した資料集を配布する。また、その都度、必要な文献は紹介する。

【コメント】
学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論述問題）の結果によって評価する。

講　義　名　称	曜　時
社会学原論　<春集>	火4／金2

【教員名称】
宮本　孝二

【講義概要】
社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析、社会学史に登場する多様な社会理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。
また、社会を一般的な理論として解明することは、社会を全体的な視点から把握することに接続していかざるをえない。すなわち、マクロな変動論を媒介にして、社会学原論と現代社会論（近代化というマクロなトレンドのなかで各時点において社会を全体的に把握することをめざすという意味での）とが、統一的に把握されることになるのである。したがって、近代化に含まれる諸トレンドや現代社会の全体的構成についても解説する。

【学習目標】
社会学は専門分化が高度化し、個別の分野では大量の知識が生産されているが、それを学ぶだけでは、個別具体的な知識を超えた一般化する力や、部分的な特殊な知識を全体的な視野でまとめあげたり適切に位置づけたりする力は修得困難である。この講義の学習目標は、個別具体的な部分的な特殊な現象を超えて、あらゆる現象に見出せる一般的な概念とその体系、そしてあらゆる現象を包括している全体的な視点について学ぶことによって、まさに一般化する力と全体化する力を獲得するところにある。

【講義計画】
第１回：社会学原論とは何か：社会理論の全体像
第２回：人間の特性（1）意味づけ
第３回：人間の特性（2）資源動員
第４回：社会の形成（1）動物的群れから人間社会へ
第５回：社会の形成（2）国家の形成、伝統的国家、近代化
第６回：社会理論における相互行為論の位置
第７回：コミュニケーションの社会理論（1）ミード
第８回：コミュニケーションの社会理論（2）ゴフマン、ガーフィンケル、シュッツ
第９回：サンクションの社会理論（1）組織論
第10回：サンクションの社会理論（2）パーソンズ
第11回：エクスチェンジの社会理論（1）互酬性
第12回：エクスチェンジの社会理論（2）ブラウ、ホマンズ
第13回：コンフリクトの社会理論（1）ダーレンドルフ、コーザー
第14回：コンフリクトの社会理論（2）パワーと運動
第15回：構造という視点
第16回：構造主義とポスト構造主義
第17回：国民国家の構造とエリート論
第18回：階級・階層構造と変動
第19回：場と全体
第20回：近代化と現代社会論
第21回：戦後日本社会と現代社会論
第22回：1970年代以降の世界（1）民活民営化
第23回：1970年代以降の世界（2）第三の道
第24回：認識論・方法論としての社会理論
第25回：近代の社会理論家たち（1）コントからテンニースまで
第26回：近代の社会理論家たち（2）ウェーバー、デュルケム、ジンメル
第27回：現代の社会理論家たち（1）ブルデュー、ギデンズ
第28回：現代の社会理論家たち（2）ルーマン、ハーバーマス
第29回：まとめと補足（1）第1回から第14回まで
第30回：まとめと補足（2）第15回から第28回まで

【事前および事後学習の指示】
当然ながら予習・復習が不可欠。各回の講義内容を記載した資料集を配布するので、毎回の該当箇所を予習で一読、講義を聴講した後、復習で一読すれば一層効果的である。

【テキスト】
社会理論25講 宮本孝二 978-4-8429-1477-0 八千代出版

【参考文献】
各回の講義内容の要点を記載した資料集を配布する。また、必要な文献はその都度、紹介する。

【コメント】
学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論論述問題）の結果によって評価する。

講　義　名　称	曜　時
社会学特講－映画の中の日本文化　＜春＞	金3

【教員名称】　英語による
Raoul　Cervantes

【講義概要】
In this class we will view Japanese films, write reports on their cultural meanings, and discuss our understandings of these movies.

【学習目標】
The goal of this class is to understand patterns of Japanese behavior through film.

【講義計画】
第１回：Introduction to the class goals and objectives. I will explain my grading policy, and what I expect from the students. Homework, which is a very important part of this class will also be explained. Almost every week there will be a homework assignment. You must complete 8 assignments to get credit for the class.
第２回：Japanese group behavior, especially the soto (outside) and uchi (inside) concepts will be explored. We will begin viewing our first film. A writing assignment will be given.
第３回：We will continue examining Japanese group behavior. We will continue and maybe finish the film from week 2. A writing assignment will be given.
第４回：We will continue exploring Japanese group behavior. We will begin viewing a new film. A writing assignment will be given.
第５回：We will continue exploring Japanese group behavior. We will finish the film from week four.
A writing assignment will be given.
第６回：We will start with a new topic, tatemae (a front, often false) and honne (the inside, usually truthful) . We will begin a new film. A writing assignment will be given.
第７回：We will continue exploring tatemae and honne. We will finish the film we started in week 6.
A writing assignment will be given.
第８回：We will continue looking at tatemae and honne. We will begin a new film.A writing assignment will be given.
第９回：We will continue exploring tatemae and honne. We will finish the film started in week eight.A writing assignment will be given.
第10回：We will start to examine the concepts omote (politeness) and ura (the back side, less polite) . We will begin a new film.A writing assignment will be given.
第11回：We will continue exploring the concepts omote and ura. We will finish the film started in week eleven.A writing assignment will be given.
第12回：We will continue examining the concepts omote and ura. We will begin a new film.A writing assignment will be given.
第13回：We will continue looking at omote and ura. We will complete the film started in week 12.A writing assignment will be given.
第14回：We will examine the concepts of amae and empathy in Japanese culture. We will start with a new film. A writing assignment will be given.
第15回：We will continue exploring the concepts of amae and empathy. We will finish the film started in week 14. A writing assignment will be given.

【事前および事後学習の指示】
Become familiar with Japanese cultural concepts.

【テキスト】
The Japanese Self in Cultural Logic Takei Lebra 978-0824828400 Uni. of Hawaii Press

【参考文献】

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
社会学特講－格差社会を理論的に読み解く　＜春＞	水2

【教員名称】
藤田　悟

【講義概要】
近年、日本社会において格差と貧困が急速に拡大しつつある。雇用・社会保障・教育・「自己責任」論などなど、格差社会をめぐる論点は多岐に渡っている。この講義では、格差社会の実態と格差社会化を推し進めている論理を学ぶとともに、格差社会に対抗する思想・論理を皆さんと探っていきたい。

【学習目標】
「格差」とは何だろうか。「貧困」とは何だろうか。こうした基本的（根本的）な問いに正面から向き合い、答えられるようになってほしい。また、「格差社会」の構造と問題点について、その歴史的な背景も含めて「理論的に読み解く」視点を獲得してほしいと思う。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
　　イントロダクション—高等教育の費用と権利
第２回：イントロダクション—高等教育の費用と権利Ⅱ
第３回：格差とは何だろうかⅠ—格差は「問題」なのか
第４回：格差とは何だろうかⅡ—格差はなぜ「問題」なのか
第５回：貧困とは何だろうかⅠ—貧困の「発見」
第６回：貧困とは何だろうかⅡ—貧困の「境界」
第７回：生活保護の歴史と課題Ⅰ—歴史と制度解説
第８回：生活保護の歴史と課題Ⅱ—現状と課題
第９回：現代日本における貧困Ⅱ—ワーキングプアの増加とその要因
第10回：現代日本における貧困Ⅲ—ワーキングプアを生む構造
第11回：格差社会のイデオロギーⅠ—機会の平等と結果の平等
第12回：格差社会のイデオロギーⅡ—「自立」と「依存」
第13回：格差社会を克服する思想Ⅰ—＜自立－依存＞再考
第14回：格差社会を克服する思想Ⅱ—＜機会の平等＞再考
第15回：まとめ—格差社会の今後

【事前および事後学習の指示】
参考文献のいずれか一冊以上、事前に読んでおくこと。また講義では資料として新聞記事を多数使用するので、普段から新聞を読む習慣を身に付けておくことが望ましい。

【参考文献】
阿部彩『弱者の居場所がない社会—貧困・格差と社会的包摂』講談社現代新書、2011年。岩田正美『現代の貧困—ワーキングプア／ホームレス／生活保護』ちくま新書、2007年。後藤道夫他『格差社会とたたかう—〈努力･チャンス･自立〉論批判』青木書店、2007年。湯浅誠『反貧困—「すべり台社会」からの脱出』岩波新書、2008年。 その他の文献は講義中に適宜紹介する。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
期末試験により評価する。出席は取らないが、毎回提出してもらうコミュニケーションペーパーの内容を評価に加味する。

講　義　名　称	曜　時
社会学特講－釜ヶ崎と人権　＜春＞	木1

【教員名称】
綱島　洋之

【講義概要】
釜ヶ崎は、日本最大の「寄せ場」、すなわち日雇労働者の集住地域である。「あいりん」とも呼ばれ、「西成特区構想」でも取り沙汰されていることは周知のとおりである。日雇労働者は、建設業など日本の基幹産業に携わってきたが、経済情勢が悪化すればホームレス状態になりやすいなど、労働や生活のさまざまな面で差別されてきた。しかし、だからこそ、釜ヶ崎では人権が希求されてきた。本講義では、釜ヶ崎における人々の生き様や実践に学び、自分自身の人権の守り方や、周囲の他人の人権を尊重するためにはどうしたらよいかを議論する。

【学習目標】
本講義の目的は、受講者に客観的事実に基づく知識を授けることではなく、むしろ、おそらく客観的な正解は皆無であろう人権をめぐる諸問題について、自分自身が心から納得できるまで考え続けるための基礎を築くことである。開講期間中の目標は下記のとおりである。
（1）私たちの周囲にあふれる情報を批判的に検証する。
（2）私たちの生活と釜ヶ崎の間に、どのような関係があるのか、自分なりに考える。
（3）「私」を主語にして人権を語る。
（4）生きていくための希望を見出す。

【講義計画】
第１回：ガイダンス／釜ヶ崎とは？
第２回：釜ヶ崎と社会学／客観性とは？
第３回：「寄せ場」に立てば世界が見える
①日雇労働と非正規雇用
第４回：「寄せ場」に立てば世界が見える
②野宿生活
第５回：「寄せ場」に立てば世界が見える
③野宿者者襲撃と排除
第６回：人権と社会的排除
第７回：貧困と経済
第８回：社会的排除と包摂
第９回：貧困の自己責任論
第10回：究極のセーフティネット
第11回：労働は権利か義務か
第12回：働くことと稼ぐこと
第13回：貨幣と常識
第14回：自立の条件
第15回：まとめ／人権と希望

【事前および事後学習の指示】
まずは「講義・演習概要」「講義・演習計画」中に出てくる言葉についてインターネット検索などで調べてみること。また関心があれば、予め上記テキストを読んでみてもよい。

【テキスト】
釜ヶ崎から―貧困と野宿の日本 生田武志 978-4480433145 筑摩書房
ホームレス襲撃事件と子どもたち―いじめの連鎖を断つために 北村年子 978-4-8118-0728-7 太郎次郎社エディタス
釜ヶ崎のススメ 原口剛ほか 978-4-9031-2714-9 洛北出版

【参考文献】
最初は配布資料を利用する。受講生の関心に応じて、追加の必要があれば講義中に指示する。
※上記テキストは必須ではない。

【コメント】
（1）レポートの内容については講義中に別途指示する。
（2）各回の終了時に「出席カード」に感想等を任意で記入をお願いするが、あくまで講義の進行の参考にするためであり、成績評価には反映されないので、あまり無理しないこと。
（3）「講義計画」は「出席カード」の記入内容により逐次変更されることを了承されたい。

講　義　名　称	曜　時
社会学特講－日本映画にみる日本のアイデンティティー　＜秋＞	火1

【教員名称】　英語による
Raoul　Cervantes

【講義概要】
In this class we will view Japanese films and explore Japanese identities through these movies.

【学習目標】
The goal of this course is to understand the construction and understanding of Japanese identities through Japanese film.

【講義計画】
第１回：In the first week I will explain the goals of the class, what I expect from students including classroom behavior, grading, and homework. Since homework and reports is an important part of this course I will explain what is expected from the students. There will also be some discussion exploring our understanding of Japanese identities.
第２回：We will begin exploring how identities are constructed in the Japanese family. We will start viewing our first film. A writing assignment will be given.
第３回：We will continue exploring Japanese families and identities. We will finish the film started in week 2. A writing assignment will be given.
第４回：We will continue exploring Japanese families and identities. We will begin viewing a new film. A writing assignment will be given.
第５回：We will continue exploring Japanese families and identities. We will finish the film we started in week four. A writing assignment will be given.
第６回：We will examine the concepts of youth and Japanese identities. We will begin viewing a new film. A writing assignment will be given.
第７回：We will continue the concept of youth and identities. We will finish the film we started in week six. A writing assignment will be given.
第８回：We will continue the concept of youth and identities. We will start a new film. A writing assignment will be given.
第９回：We will continue the concept of youth and identities. We will finish the film from week eight. A writing assignment will be given.
第10回：We will explore how identities are constructed in middle age and the senior years in Japan. We will begin a new film. A writing assignment will be given.
第11回：We will continue exploring the concepts of age and identities. We will finish the film from week ten. A writing assignment will be given.
第12回：We will continue exploring the concepts of age and identities. We will start a new film. A writing assignment will be given.
第13回：We will continue exploring the concepts of age and identities. We will finish the film from week 12. A writing assignment will be given.
第14回：We will explore the concepts of sexual orientation and identity in Japan. We will start a new film. A writing assignment will be given.
第15回：We will continue to explore the concept of sexual orientation. We will finish the film we started in week 14. A writing assignment will be given.

【事前および事後学習の指示】
A basic understanding of Japanese culture.

【テキスト】
Contimpory Japanese Fiilm Mark Sshilling 978-0834804159 Weaherhill

【参考文献】

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
社会学特講－日本人の悩みの変遷　＜秋＞	水3

【教員名称】
池田　知加

【講義概要】
この講義は、社会学的な観点から新聞や雑誌に掲載された人生相談コラムを資料としながら、一般の人たちが日々の生活の中で、どのような問題に悩み、また、その問題に対してどのような解決や対処方法を考えてきたかについてみていきます。そうした個人が抱える悩みや問題は、裏返せば、一人ひとりにとって「幸せ」の内実を映し出すものでもあります。そのため、本講義では個人的な悩みとその向こうにある幸福の内実とそれらの変化を同時にみていくことになります。そして、その悩みの変化から、戦後日本社会の社会意識の動向や社会のあり方を考察していきます。

【学習目標】
「人生相談」といった質的資料を分析するための方法をまずは理解したうえで、社会学的な観点から分析することができる。人の悩みや、悩みへの解決策というのは、個別的なものでありながら、時代の価値観や社会のあり方を大いに反映していることを理解し、説明することができる。つまり、個別的な事柄から、普遍的な何かをとりだしてみること、そしてそれを各自がフィードバックして、自分にあてはめたりしながら、社会のあり方へと思考を広げて、「私」の問題を「社会」のあり方や問題とつなげていくような思考ができる。

【講義計画】
第１回：イントロダクション:講義内容の概要
第２回：資料への視点1:人生相談に悩みを打ち明ける
第３回：資料への視点2:社会意識の変化をみてとる
第４回：若者の悩み1:人生目標の変化
第５回：若者の悩み2:「個性尊重」の教育への転換
第６回：若者の悩み3:「個性尊重」の教育の問題
第７回：子どもの悩み:教室の中の対人関係
第８回：親子間の悩み1：結婚しない「子ども」について
第９回：親子間の悩み2：自立しない「子ども」について
第10回：男性の悩み1：悩みの言葉を奪われた男性
第11回：男性の悩み2：男性にとっての「仕事」
第12回：女性の悩みの変遷1：女性にとっての「家庭」
第13回：女性の悩みの変遷2：「家庭」と「愛情」の意味変容
第14回：重い男性の経済負担・女性の働き方
第15回：講義の総まとめ：自己決定主義の現在

【事前および事後学習の指示】
・毎回配布するレジメを読み直して、自分なりに理解を深めること
・講義で提示する課題（コメントペーパー）

【テキスト】

【参考文献】
池田知加『人生相談「ニッポン人の悩み」幸せはどこにある?』光文社新書
4334032968

【コメント】
成績は主に試験で評価します。試験は授業の内容を理解しているかを問います。また、授業中に提出するミニレポートを書くことが授業内容の理解につながります。

講　義　名　称	曜　時
社会学特講－福澤諭吉と夏目漱石　＜秋＞	木3

【教員名称】
竹内　真澄

【講義概要】
拙著『諭吉の愉快と漱石の憂鬱』をテキストに、日本近代化の問題を考える。対象は福沢諭吉と夏目漱石。漱石は諭吉より３２歳年下だ。君たちの年齢を仮に２０歳だとすれば、５０代の先輩とどういうふうに付き合えばいいかという問題になる。連帯する？戦う？無視する？生い立ち、個人とは何か、ものの見方、社会認識の４つの領域で二人がどういうふうに対照的か、考える。どちらに軍配をあげるにせよ、がっぷりよつの大相撲です。

【学習目標】
諭吉と漱石は、日本と西洋、市民と階級、近代化と天皇制、アジアと日本、利己と自己、戦争と革命といった主たるテーマを準備した人です。あとで出てくる人々は、二人がしつらえたまな板の上で、ものごとを考えているのです。ですから、二人がつくっている問題構造の岩盤がどんなものかをよく学んでください。

【講義計画】
第１回：はじめに
第２回：Ⅰ生い立ちゆえ--＜譜代下っ端侍＞と＜没落名主＞
第３回：Ⅰ生い立ちゆえ--＜一身にして二世を経る＞と＜私は強くなりました＞
第４回：Ⅱ個人とは何か--＜独立自尊＞と＜自己本位＞
第５回：Ⅱ個人とは何か--＜個人＞をめぐる分岐
第６回：Ⅱ個人とは何か--＜人間交際＞と＜彼も人なり我も人なり＞
第７回：Ⅲものの見方--＜社長＞と＜社員＞
第８回：Ⅲものの見方--上からと下から
第９回：Ⅲものの見方--漱石の文学の定式［F＋ｆ］
第10回：Ⅳ社会認識--諭吉『文明論之概略』と漱石『現代日本の開化』
第11回：『石田雄にきく　日本の社会科学と言葉』
第12回：Ⅳ社会認識--＜明治維新＞と＜第二フランス革命＞
第13回：Ⅳ社会認識--漱石の社会史的文学
第14回：おわりに
第15回：諭吉／漱石と私たち

【事前および事後学習の指示】
福沢諭吉と夏目漱石が書いた本は、大小さまざまに出ている。どれでもよいので、解説書ではなく、本人が書いたものをたとえ小品でも良いから、読んでおくことが講義の親近感を引き上げる。

【テキスト】
諭吉の愉快と漱石の憂鬱 竹内真澄 978-4-7634-0681-1 花伝社

【参考文献】
『石田雄にきく　日本の社会科学と言葉』
著者：竹内真澄
出版社：本の泉社

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
社会思想史Ⅰ　<秋>	火２

【教員名称】
梅田　百合香

【講義概要】
本講義では、西洋の古典古代から近代および現代の代表的な政治思想を分析することによって、人間性、市民的徳、共和主義などを中心に、民主主義が持つ根源的な問題と現代的課題を考察する。

【学習目標】
思想史研究を通じて、現代社会と現代世界を批判的に認識する視点と問題を克服するための独創的な構想力を養うことを目標とする。

【講義計画】
第１回：講義ガイダンス
　　ソクラテスの問い（１）ソクラテス裁判
第２回：ソクラテスの問い（２）無知の知
第３回：プラトンの哲人王（１）正義の追究
第４回：プラトンの哲人王（２）哲人王の構想
第５回：アリストテレスの倫理学（１）倫理学の方法と対象
第６回：アリストテレスの倫理学（２）徳の探究
第７回：アリストテレスの政治学（１）ポリスと人間
第８回：アリストテレスの政治学（２）国制論
第９回：キケロの共和主義（１）正義と慈善
第10回：キケロの共和主義（２）共和主義
第11回：マキァヴェッリの新しい国家観（１）統治術
第12回：マキァヴェッリの新しい国家観（２）共和主義
第13回：アレントの複数性の政治（１）全体主義
第14回：アレントの複数性の政治（２）人間の条件
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義内容（パワーポイント）は、各講義前よりＳドライブ（eureka）で見ることができるので、事前学習、事後学習をしておくこと。
各思想家が提起した問題と関わるような自分の身近な出来事や政治や社会の問題を、できるだけ意識し気にかけておくことが望ましい。

【テキスト】
参考文献欄を参照

【参考文献】
講義の大部分は、山岡龍一『西洋政治理論の伝統』（放送大学教育振興会、2009年）に沿って進められる。
宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年。
仲正昌樹編著『政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで』法律文化社、2013年。

【コメント】
基本的には期末試験の点数で評価されるが、レスポンスシートにより講義に積極的に参加した場合、平常点が加点される。
毎回、講義の最後に感想・質問をレスポンスシートに記入し提出することができる。提出は義務ではなく任意であるが、このレスポンスシートをもとに次回授業中に質疑応答が行われ、応答に積極的に参加した受講者は平常点として加点される。

講　義　名　称	曜　時
社会思想史Ⅱ　<秋>	金3

【教員名称】
梅田　百合香

【講義概要】
本講義では、西洋の近現代を代表する７人の思想家の主要なテクストに照準を合わせ、彼らの政治思想を分析することによって、現代世界が抱える問題の本質を歴史的な視点から考察する。

【学習目標】
思想史研究を通じて、現代社会と現代世界を批判的に認識する視点と問題を克服するための独創的な構想力を養うことを目標とする。

【講義計画】
第１回：講義ガイダンス
　　ホッブズ（１）時代背景と課題
第２回：ホッブズ（２）なぜ人々は国家を形成するのか
第３回：ロック（１）時代背景と課題
第４回：ロック（２）政府は何のために存在するのか
第５回：ルソー（１）時代背景と課題
第６回：ルソー（２）なぜ社会契約が必要なのか
第７回：スミス（１）時代背景と課題
第８回：スミス（２）経済的自由主義の定式化
第９回：ミル（１）時代背景と課題
第10回：ミル（２）個性と自由
第11回：マルクス（１）時代背景と課題
第12回：マルクス（２）資本主義社会批判
第13回：ロールズ（１）時代背景と課題
第14回：ロールズ（２）社会協働と正義の原理
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義内容（パワーポイント）は、各講義前よりＳドライブ（eureka）で見ることができるので、事前学習、事後学習をしておくこと。
各思想家が提起した問題と関わるような自分の身近な出来事や政治や社会の問題を、できるだけ意識し気にかけておくことが望ましい。

【テキスト】
参考文献欄を参照

【参考文献】
参考文献は各回ごとに提示される。主な参考文献は下記の通り。
坂本達哉『社会思想の歴史―マキアヴェリからロールズまで』名古屋大学出版会、2014年。
宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年。
仲正昌樹編著『政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで』法律文化社、2013年。
山岡龍一『西洋政治理論の伝統』放送大学教育振興会、2009年。

【コメント】
基本的には期末試験の点数で評価されるが、レスポンスシートにより講義に積極的に参加した場合、平常点が加点される。
毎回、講義の最後に感想・質問をレスポンスシートに記入し提出することができる。提出は義務ではなく任意であるが、このレスポンスシートをもとに次回授業中に質疑応答が行われ、応答に積極的に参加した受講者は平常点として加点される。

講　義　名　称	曜　時
社会心理学　＜秋集＞	月2／木4

【教員名称】
岩田　考

【講義概要】
社会心理学は、人間の行動を社会との関わりに着目しつつ研究する学問です。大別すると、「個人の心理的な過程」に焦点を当てる心理学的アプローチと「マクロな視点から個人と社会の関わり」を研究する社会学的なアプローチの二つがみられます。本講義は、社会学を学ぶ学生向けの講義であり、「社会学的な」社会心理学が中心となります。授業では、友人関係・恋愛・メディア・ファッションなどみなさんの身近な具体的な事例をあげつつ、社会学を学んでいくうえで重要となる社会心理学の研究を紹介します（授業を行う時期に注目されている現象なども取り上げるため、扱う現象を若干変更する可能性があります。）なお、出席はとりませんが、講義を聴いていないと試験をクリアするのは難しいため、何らかの事情で欠席が多くなることが予想される学生は注意して履修してください。

【学習目標】
「心理学的な」社会心理学や関連した心理学の成果について講義する場合もありますが、社会学的な研究への寄与を常に念頭においたものです。社会心理学を学ぶことによって、社会学と心理学の差違や共通性を把握し、社会学への理解を深めることを目的としています。社会学に固有の考え方を、社会心理学や心理学との関係において理解することが最終的な学習目標です。「純粋」な心理学の講義を期待される方には向きませんので、注意してください。

【講義計画】
第１回：講義の概要
第２回：社会心理学とは
第３回：友人関係（1）　友人関係をめぐる現代的〈問題〉
第４回：友人関係（2）　映像から友人関係について考える
※映像は数回の授業にわたって見ます。
第５回：友人関係（3）　心理学的アプローチからみた友人関係の現代的特質
第６回：友人関係（4）　社会学的アプローチからみた友人関係の現代的特質
第７回：恋愛（1）　恋愛めぐる現代的〈問題〉
第８回：恋愛（2）　心理学的アプローチからみた恋愛
第９回：恋愛（3）　社会学的アプローチからみた恋愛の現代的特質
第10回：情報化と対人関係（1）　社会関係資本論からみた現代の対人関係の特質
第11回：情報化と対人関係（2）　電子メディアと対人関係
第12回：自己（1）　自己をめぐる現代的〈問題〉
第13回：自己（2）　映像から自己について考える
※映像は数回の授業にわたって見ます。
第14回：自己（3）　心理学的アプローチからみた自己意識の現代的特質
第15回：自己（4）　社会学的アプローチからみた自己意識の現代的特質
第16回：自己（5）　自己と電子メディア
第17回：中間まとめ（自己と他者）
第18回：集団（1）　集団とは・集団における意志決定
第19回：集団（2）　映像から集団における意志決定について考える
※映像は数回の授業にわたって見ます。
第20回：集団（3）　集団における課題遂行と集団間差別
第21回：流行と集合行動（1）　集合とは・流行とは
第22回：流行と集合行動（2）　映像から現代のファッションの流行について考える
第23回：流行と集合行動（2）　映像から現代の集合行動（ネットとデモ）について考える
第24回：流行と集合行動（3）　流行と集合行動のゆくえ
第25回：マス・コミュニケーション（1）　マス・コミュニケーションとは
第26回：マス・コミュニケーション（2）　映像からマス・メディアの効果について考える
第27回：マス・コミュニケーション（3）　マス・メディアの効果
第28回：心理学化・心理主義化（1）　心理主義化する社会
第29回：心理学化・心理主義化（2）　心理学化と社会学化
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義は、できるだけ１回ごとに完結した内容になるようにしていますが、各回は相互に関連しています。準備学習として、配布したプリントで次回講義までに復習をしてください。また、講義中に紹介する参考文献等を読み理解を深めてください。

【テキスト】
必要な資料は各講義で配付する予定ですが、初回講義時に教科書（2011年に勁草書房から出版予定）を指定する可能性があります。

【参考文献】
浅野智彦編 2006『検証・若者の変貌－失われた十年の後に－』勁草書房
浅野智彦・岩田考ほか著 2010『考える力が身につく社会学入門』中経出版
安藤清志ほか著 1995『現代心理学入門４ 社会心理学』岩波書店
土橋臣吾ほか編 2011『デジタルメディアの社会学―問題を発見し、可能性を探る』北樹出版
橋元良明編 2008『メディア・コミュニケーション学』大修館書店
池田知子・遠藤由美 2009『グラフィック 社会心理学　第2版』サイエンス社
岩田考ほか編 2006『若者たちのコミュニケーション・サバイバル－親密さのゆくえ』恒星社厚生閣
松田美佐ほか編2014『ケータイの2000年代: 成熟するモバイル社会』東京大学出版会
松井豊・上瀬由美子 2007『社会と人間関係の心理学』岩波書店
末永俊郎・安藤清志編 1998『現代社会心理学』東京大学出版会
『シリーズ情報環境と社会心理１－８』北樹出版
『ニューセンチュリー社会心理学１－６巻』北樹出版
『対人社会心理学重要研究集１－７』誠信書房
※その他、講義中に適宜紹介します。

【コメント】
基本的には学期末試験（100％）で評価しますが、任意で提出してもらうレポート等も加味します。ただし、みなさんの出席状況や学習状況によっては、不定期に出席をとったり、小テストを行ったりして、学期末試験の評価全体における割合を低くする可能性があります。

講　義　名　称	曜　時
社会病理学　＜通期＞	金1

【教員名称】
畠中　宗一

【講義概要】
多様な準拠枠によって現代社会を問い直すことを積み重ねていくと、様々な疑問に遭遇する。同時に、社会科学においては、古典に属する文献のなかにインパクトを持つキーワードが存在することが多い。いわゆる社会病理現象として措定されているものから、新たに社会病理現象として析出されるものまでを概説し、社会病理学のまなざしについて理解を図る。

【学習目標】
社会病理現象をどのように理解するか、そして社会病理現象の解消・解決をどのように図るか。さらには、社会病理学を学ぶことで得られる視点とは何か。これらを習得することで、現代社会で生きる人々の生き辛さの現実を理解する。

【講義計画】
第１回：社会病理学ってどんな学問？　現代社会とはどんな社会？
第２回：社会病理現象とは？
第３回：現代社会の諸命題（1）
第４回：現代社会の諸命題（2）
第５回：現代社会のあり方が社会病理現象に与える影響
第６回：問題解決への道筋：客体としての環境調整　vs. 主体としてのあり方
第７回：これまでのまとめ
第８回：アルコール問題（1）
第９回：アルコール問題（2）
第10回：摂食障害（1）
第11回：摂食障害（2）
第12回：子ども虐待（1）
第13回：子ども虐待（2）
第14回：老人虐待（1）
第15回：老人虐待（2）
第16回：前期のまとめ
第17回：E.フロムに学ぶ（1）：自由・愛・平等
第18回：E.フロムに学ぶ（2）：ナルシズム的人間・悪・攻撃・服従
第19回：E.フロムに学ぶ（3）：精神の健康・正気の社会・正常の病理
第20回：親密性をめぐる家族病理
第21回：家族病理現象の多発家の背景
第22回：家族病理現象の社会的背景
第23回：IPR（対人関係）トレイニングという非日常の経験：日常との比較
第24回：多様な準拠枠のなかで現実の社会を問い直す（1）
第25回：多様な準拠枠のなかで現実の社会を問い直す（2）
第26回：関係性に気づき、関係性を生きる
第27回：社会病理現象を措定するもうひとつの視点：事実生の概念に依拠して（1）
第28回：社会病理現象を措定するもうひとつの視点：事実生の概念に依拠して（2）
第29回：現代社会における人間関係の諸特徴（1）
第30回：現代社会における人間関係の諸特徴（2）

【事前および事後学習の指示】
新聞やメディアを通して発信される多様な現象に関心を持ち、なぜそれが社会病理現象を構成するかを考える習慣を身に着けて欲しいと思います。身近な出来事や何気ない出来事に、人間や社会の問題が集約されていることに気づいて欲しいと思います。

【テキスト】

【参考文献】
畠中・清水・広瀬編『社会病理学講座第4巻　社会病理学と臨床社会学』学文社
畠中宗一『富裕化社会に、なぜ対人関係トレイニングか必要か』ぎょうせい

【コメント】
春学期・秋学期を通して小テストを数回実施する予定です。また春学期・秋学期にそれぞれレポート課題を出す予定です。

講　義　名　称	曜　時
社会福祉協議会論　＜秋＞	木1

【教員名称】
所　正文

【講義概要】
社会福祉において地域福祉が主流化する現在、社会福祉協議会（以下「社協」という。）の活動の歴史や、現在の活動を分析することを通して、地域福祉推進の方法を学ぶ

【学習目標】
・社協の組織・活動の本質を理解する
・社協活動を通して地域福祉の理念を理解する
・社協活動を通して地域福祉推進方法の知識を習得する

【講義計画】
第１回：「オリエンテーション」
授業概要の説明と受講生との波長あわせ
第２回：「社協活動の基本理解」
社協活動の基本性格及び、全社協、都道府県・政令指定都市社協、市町村社協の役割などを学ぶ
第３回：「社協の歩み（地域福祉の進展と社協活動の歴史）－①」
社協設立から1970年代までの地域福祉と社協活動の歴史を学ぶ
第４回：「社協の歩み（地域福祉の進展と社協活動の歴史）－②」
1980年代から1990年代までの地域福祉と社協活動の歴史を学ぶ
第５回：「社協の歩み（地域福祉の進展と社協活動の歴史）－③」
2000年以降現在までの地域福祉と社協活動の歴史を学ぶ
第６回：「社会福祉協議会の運営（組織・活動・財源・人材）-①」
社協組織、活動、財源、人材等の全国的な概要を学ぶ
第７回：「社会福祉協議会の運営（組織・活動・財源・人材）-②」
社協組織、活動、財源、人材等の全国的な概要を学ぶ
第８回：「社協が使う社会福祉援助技術-①」
社協が使う援助技術のうち、コミュニティソーシャルワークの概要と実際を学ぶ
第９回：「社協が使う社会福祉援助技術-②」
社協が使う援助技術のうち、コミュニティワークの概要と地域組織化活動の実際を学ぶ
第10回：「社協活動トピック－①（生活困窮者支援）」
社協が行う生活困窮者支援の実際を学ぶ
第11回：「社協活動トピック－②（権利擁護支援）」
社協が行う権利擁護支援と日常生活自立支援事業の実際を学ぶ
第12回：「社協活動トピック－③（ボランティア・災害支援）」
社協が行うボランティア活動や災害時のボランティア活動支援の実際を学ぶ
第13回：「社協の活動－④（地域福祉（活動）計画）」
社協が行う地域福祉（活動）計画の概要と実際を学ぶ
第14回：「まとめ」
これからのあるべき社協について受講生とともに考えます
第15回：小テスト（試験）

【事前および事後学習の指示】
全国社会福祉協議会、堺市社会福祉協議会、和泉市社会福祉協議会のホームページから、社会福祉協議会活動の事業内容を事前学習してください

【テキスト】

【参考文献】
概説　社会福祉協議会（全国社会福祉協議会）

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
社会福祉計画論Ａ　＜春＞	火5

【教員名称】
岡田　忠克

【講義概要】
社会福祉計画論Ａでは、社会福祉の実施体制における福祉行財政と福祉計画をとりあげる。まず、福祉行財政については、国・都道府県・市町村のそれぞれの役割や国と地方の関係を概観した上で、福祉行政の機関（福祉事務所・児童相談所・身体障害者更生相談所・知的障害者更生相談所）の役割をみていく。次に、福祉計画については、各分野ごとや地域福祉計画といった各種の福祉計画の意義と目的を概説した上で、福祉計画の主体と方法およびそれらの実際をみていく。とりわけ、住民参加の意義と留意点を説明する。

【学習目標】
〔授業修了時の達成課題　（到達目標）〕
・福祉行財政の実施体制（国と地方自治体の役割、関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。
・福祉行財政の実際について理解する。
・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。

【講義計画】
第１回：福祉行政の実施体制Ⅰ　・　国と都道府県の役割
第２回：福祉行政の実施体制Ⅱ　・　市町村の役割と国と地方の関係
第３回：福祉行政の実施体制Ⅲ　・　福祉の財源
第４回：福祉行政の実施体制Ⅳ　・　福祉行政の組織及び団体の役割
第５回：福祉行政の実施体制Ⅴ　・　福祉行政における専門職の役割
第６回：福祉行財政の動向　・　データでみる福祉行財政の実際
第７回：福祉計画の意義と目的Ⅰ　・　福祉計画の概要
第８回：福祉計画の意義と目的Ⅱ　・　福祉計画における住民参加の意義
第９回：福祉計画の意義と目的Ⅲ　・　福祉行財政と福祉計画の関係
第10回：福祉計画の主体と方法Ⅰ　・　福祉計画の主体と種類
第11回：福祉計画の主体と方法Ⅱ　・　福祉計画の策定過程
第12回：福祉計画の主体と方法Ⅲ　・　福祉計画の策定方法と留意点
第13回：福祉計画の主体と方法Ⅳ　・　福祉計画の評価方法
第14回：福祉計画の実際　・　福祉計画の種類ごとの実際
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
社会福祉の基礎的な知識は身につけておくこと。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
レポート提出は大学の指示する期日で提出してもらいます。

講　義　名　称	曜　時
社会福祉原論A　＜春＞	月1

【教員名称】
辻井　誠人

【講義概要】
「社会福祉」とは何かについて、福祉制度、福祉政策及びその課題、生活を支える関連政策、相談援助活動などを切り口に考える講義とする。
また、いくつかの実践場面や具体的事象を取り上げ、それらを一般化する思考過程を身につけてもらえるような講義を行う。
講義概要及び学習目標は社会福祉原論Bと共用する。

【学習目標】
① 現代社会における福祉制度と福祉政策を理解する。
② 福祉の原理をめぐる理論と哲学を理解する。
③ 福祉政策におけるニーズと資源を理解する。
④ 福祉政策の課題を理解する。
⑤ 福祉政策の構成要素を理解する。
⑥ 福祉政策と関連政策を理解する。
⑦ 福祉政策と相談援助活動を理解する。

【講義計画】
第１回：本科目についてのガイダンス
第２回：福祉の思想と哲学
第３回：福祉制度の発達過程１（近代化と戦後改革）
第４回：福祉制度の発達過程２（高度経済成長期から少子高齢化時代）
第５回：福祉政策の構成要素
第６回：福祉政策と関連政策
第７回：福祉政策と相談援助活動１（ソーシャルワーク）
第８回：福祉政策と相談援助活動２（集団活動等）
第９回：福祉政策の課題１（児童に関する課題）
第10回：福祉政策の課題２（障害者に関する課題）
第11回：福祉政策の課題３（高齢者に関する課題）
第12回：福祉政策の課題４（偏見・差別、社会的排除に関する課題）
第13回：福祉政策の課題５（地域生活支援の課題）
第14回：福祉政策の課題６（介護関連問題）
第15回：現代社会における福祉制度と福祉政策（本科目のまとめ）

【事前および事後学習の指示】
授業計画に示されている内容について教科書を読み、わからない事項について調べておくこと。
また、それらに関する話題を、図書、雑誌、新聞、インターネットなどを利用して情報を収集し、現状と課題を整理しておくこと。

【テキスト】
新・社会福祉士養成講座第4巻『現代社会と福祉』（第4版）社会福祉士養成講座編集委員会 978-4-8058-3931-7 中央法規出版 秋学期の「社会福祉原論B」と共用します。

【参考文献】
必要に応じて講義の中で紹介する。

【コメント】
・質問・意見・反論はその都度受けるが、私語をはじめとする他の受講生に迷惑となる行為、授業と関係の無い作業等は発見次第、退出願うので、注意すること。
・講義計画の順番は事前に伝えた上で入れ替えることがある。
・レポートを課した場合は、最大１～１０％とし、試験を９０～９９％とする。

講　義　名　称	曜　時
社会福祉原論B　＜秋＞	月1

【教員名称】
辻井　誠人

【講義概要】
「社会福祉」とは何かについて、福祉制度、福祉政策及びその課題、生活を支える関連政策、相談援助活動などを切り口に考える講義とする。
また、いくつかの実践場面や具体的事象を取り上げ、それらを一般化する思考過程を身につけてもらえるような講義を行う。
講義概要及び学習目標は社会福祉原論Aと共用する。

【学習目標】
① 現代社会における福祉制度と福祉政策を理解する。
② 福祉の原理をめぐる理論と哲学を理解する。
③ 福祉政策におけるニーズと資源を理解する。
④ 福祉政策の課題を理解する。
⑤ 福祉政策の構成要素を理解する。
⑥ 福祉政策と関連政策を理解する。
⑦ 福祉政策と相談援助活動を理解する。

【講義計画】
第１回：本科目についてのガイダンス
第２回：社会政策の体系
第３回：福祉政策の体系
第４回：福祉の原理をめぐる理論と哲学
第５回：福祉政策におけるニーズ
第６回：福祉政策における資源
第７回：福祉政策の理念
第８回：福祉政策の主体と手法
第９回：社会福祉制度の構造
第10回：社会福祉制度と福祉サービス
第11回：福祉サービスの提供
第12回：福祉サービスと援助活動
第13回：諸外国の福祉政策
第14回：福祉政策と社会福祉士
第15回：「社会福祉」とは何か（本科目のまとめ）

【事前および事後学習の指示】
授業計画に示されている内容について教科書を読み、わからない事項について調べておくこと。
また、それらに関する話題を、図書、雑誌、新聞、インターネットなどを利用して情報を収集し、現状と課題を整理しておくこと。

【テキスト】
新・社会福祉士養成講座第4巻『現代社会と福祉』（第4版）社会福祉士養成講座編集委員会 978-4-8058-3931-7 中央法規出版 春学期の「社会福祉原論A」と共用する。

【参考文献】
必要に応じて講義の中で紹介する。

【コメント】
・質問・意見・反論はその都度受けるが、私語をはじめとする他の受講生に迷惑となる行為、授業と関係の無い作業等は発見次第、退出願うので、注意すること。
・講義計画の順番は事前に伝えた上で入れ替えることがある。
・レポートを課した場合は、最大１～１０％とし、試験を９０～９９％とする。

講　義　名　称	曜　時
社会福祉発達史［2］　＜秋＞	金2

【教員名称】
木村　和世

【講義概要】
明治期の恤救規則から現代の福祉までを対象とする。また、福祉史を身近なものとして把握するために、南河内地方の農村や新聞記者の目を通した大阪の町の変遷や路地裏に生きる人々の生活をみていく。
戦時下ではいかに人々が戦争に組み込まれていったかを福祉の視点から考える。
戦後の混乱期では人々がどう生きていったか。福祉がそれにどう対応していったかを見る。現代の格差社会のなかで福祉はどのような力を私たちにもたらすのかをともに考えていく。

【学習目標】
福祉史は単に過去の出来事を勉強するだけでなく、現在を見る眼を養っていくことでもある。価値の多様化、国際社会の混乱、格差社会と呼ばれる現代に生きるあなたがたから見て、福祉とはどういうものとしてこれまで社会に取り入れられてきたのか、その原点はどこにあったのか、ということなどに留意して学習してもらいたい。

【講義計画】
第１回：※明治期の恤救規則
※南河内の村々と貧困の実相
※明治の貧困と比較して現在の貧困とはどのようなものか
第２回：※資本主義の成立と草創期の救済事業
※大正期における資本主義の発展と社会問題の深刻化
※明治の貧困と比較して、現在の貧困とはどのようなものか
第３回：※大正期の底辺の人々と救済事業
精神を病んだ人々・ハンセン病患者の人々
※大阪の近代化と社会問題の顕在化（1）
民衆の大正デモクラシーにたいする反応　ストリート・ミュージシャン・添田唖蝉坊
『大阪毎日』による底辺の人々の生活への報道
※現代の医療とは。
第４回：※『大阪阪の近代化と社会問題の顕在化（2）
貧民学校とその周辺
※新しい貧困
餓死した青年　行き場のない子どもたち
第５回：※大阪の近代化と社会問題の顕在化（3）
米騒動の余波一方面委員の設置
社会連帯主義の主張
第６回：※新聞と社会事業
※村嶋歸之の活躍
※大正期大阪を中心とする労働運動と救済事業
※戦後の労働運動
第７回：※関東大震災と暴走する民衆
※ボランティア活動の始まり
第８回：※社会事業から厚生事業へ
救護法の成立
ラジオ体操の広がり
第９回：※戦時下の厚生事業（1）
地域間の格差の拡大
結核対策
健民運動
※焼け跡に取り残された人々
第10回：※戦時下の厚生事業（2）
戦争に組み込まれていく人々の生活と悲惨
国民健康保険の役割
第11回：※1945年の大阪
戦後の混乱（1）
さまざまな戦後のはじまり
さまよう子どもたち
街角にたつ女たち
※戦後の混乱のなかで女たちは、どう、生きていったのか
第12回：※戦後の混乱（2）
占領政策、新生活保護法、
第13回：※高度経済成長期の福祉
繁栄の陰に広範囲の低所得者層
炭鉱の閉鎖
※国民皆保険の実施・国民年金制度の制定
第14回：※経済の失速と借金国家
路上生活者、そして路上でくらす子どもたち
第15回：※格差社会のなかで福祉はどのような希望となりえるのか
そのなかで私たちはどのような役割をはたすことができるのか

【事前および事後学習の指示】
日本近代史の知識を養うために歴史書を読んでおくこと。高校のときの教科書や参考文献などが講義の学習を深めていくと考える。

【テキスト】
・プリントを必要に応じて配布する

【参考文献】
・芝村篤樹『都市の近代・大阪の20世紀』
・藤原彰　粟屋憲太郎　吉田裕／編『昭和20年　1945年』
・杉原薫　玉井金五／編『大正／大阪／スラム』
・木村和世『路地裏の社会史』
・藤野豊　『ハンセン病　反省なき国家』

【コメント】
レポートについては講義時に指示する
このほか、平常点として30％を入れる。このなかには提出物・小テストも含まれる

講　義　名　称	曜　時
社会保障論Ａ　＜春＞	火4

【教員名称】
岡田　忠克

【講義概要】
わが国の社会保障制度は、日本国憲法第25条の生存権規定に基づき体系化されている。その具体的施策である年金・医療・福祉（介護）システムがどのように国民生活の安定に寄与しているのか、また、その政治経済システムへの影響はどのようなものなのか、実態をふまえ講義を行う。社会保障論Ａでは、わが国の社会保障制度の理念と歴史、社会保障制度と行財政システムの運営について講義を行う。また政治経済システムとの関連において社会保障制度を多角的に考察していきたい。

【学習目標】
・わが国の社会保障制度の体系について理解できる
・社会保障の行財政について理解できる。
・年金保険制度の概要について理解できる。

【講義計画】
第１回：ガイダンス　講義の進め方
第２回：社会保障の範囲　社会保障の考え方
第３回：社会保障の機能　社会保障の役割について
第４回：社会保障における社会保険と公的扶助 システムの違いについて
第５回：社会保障の歴史と理念1 福祉国家について
第６回：社会保障の歴史と理念2 福祉国家の危機について
第７回：社会保障の歴史と理念3　欧米と日本の歴史的展開について①
第８回：社会保障の歴史と理念4　欧米と日本の歴史的展開について②
第９回：わが国の社会保障の体系　法制度について
第10回：わが国の社会保障行政　行政システムについて
第11回：わが国の社会保障財政　財政システムについて
第12回：年金保険制度1 年金制度の概要について
第13回：年金保険制度2 年金制度の運営について
第14回：年金保険制度3 年金制度の実際について
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
社会福祉の基礎的な知識を身につけておくこと。

【テキスト】
よくわかる社会保障（第5版）坂口正之・岡田忠克　ミネルヴァ書房 3月に

【参考文献】

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
社会保障論Ｂ　＜秋＞	火4

【教員名称】
岡田　忠克

【講義概要】
わが国の社会保障制度は、日本国憲法第25条の生存権規定に基づき体系化されている。その具体的施策である年金・医療・福祉（介護）システムがどのように国民生活の安定に寄与しているのか、また、その政治経済システムへの影響はどのようなものなのか、実態をふまえ講義を行う。社会保障論Bでは、わが国の医療保険制度、介護保険制度、社会福祉制度、労働保険制度について講義を行う。また政治経済システムとの関連において社会保障制度を多角的に考察していきたい。

【学習目標】
・医療保険制度について理解できる。
・介護保険制度について理解できる。
・社会福祉制度について理解できる。
・労働保険制度について理解できる。

【講義計画】
第１回：医療保険制度1　医療保険制度の概要について
第２回：医療保険制度2　医療保険制度の運営について
第３回：医療保険制度3　医療保険制度の実際について
第４回：介護保険制度1　介護保険制度の概要について
第５回：介護保険制度2　介護保険制度の運営について
第６回：介護保険制度3　介護保険制度の実際について
第７回：社会福祉制度1　社会福祉制度の概要について
第８回：社会福祉制度2　社会福祉制度の運営について
第９回：社会福祉制度3　社会福祉制度の実際について
第10回：労働保険制度1　労働保険制度の概要について
第11回：労働保険制度2　労働保険制度の運営について
第12回：社会保障制度の今後の課題1　政策文書等の検討
第13回：社会保障制度の今後の課題2　時事問題
第14回：社会保障制度の今後の課題3　時事問題
第15回：まとめ　年間の講義全体の総括

【事前および事後学習の指示】
社会福祉の基礎的な知識を身につけておくこと。
社会保障論Ａを受講しておくこと。

【テキスト】
よくわかる社会保障（第5版）坂口正之・岡田忠克　ミネルヴァ書房 3月に発刊予定

【参考文献】

【コメント】
最終講義日に実施します。

講　義　名　称	曜　時
商取引法　＜春集＞	水1 ／金3

【教員名称】
瀬谷　ゆり子

【講義概要】
主に商法総則および商行為法を対象とする。商法総則は主に個人企業組織に関する通則的な規定として、また商行為法は法人を含む企業取引に関する通則的規定として位置づけられる。もっとも、本講義で対象とすべき範囲は広がっており、また直面する問題も多く、法規制の進展は著しい。民法との接点、金融商品取引法や保険法にかかる情報もできるだけ折り込んでいく予定である。そのため、条文の確認は毎回行うので、自分の六法を必ず持参すること。

【学習目標】
民法の基礎的な理解に立ち、そのうえで企業に特有のルールの必要性を認識する。商法典を中心に「実質的意義の商法」を学ぶことで、企業を中心とする取引の法制度について、その全体像を理解することを目標とする。

【講義計画】
第１回：商取引法の履修にあたって　ー商取引法の全体像ー
・本講義で対象とする分野
・法体系の理解
・実質的意義の商法
第２回：民事法の世界　ー取引法の世界ー
第３回：法改正と法体系　商法の法的特性と傾向
第４回：商法の法源
第５回：商人概念　その１　企業主体としての商人
第６回：商人概念　その２　商人の定義
第７回：商人概念　その３　商人適格と商人資格
第８回：企業の物的要素　その１　商号
＊商標とは
第９回：企業の物的要素　その２　商号の譲渡・廃止・変更
＊名板貸し主の責任
第10回：企業の物的要素　その３　商業帳簿
第11回：企業の人的要素　商業使用人（支配人等）
第12回：企業の公示　商業登記制度
商業登記の効力
第13回：営業譲渡　その１
第14回：営業譲渡　その２　営業の賃貸借、経営委任
第15回：商法総則まとめ
第16回：企業取引法総論　商行為概念について
第17回：商行為総則　契約の成立、契約の効力、担保
第18回：消費者取引　その１　消費者保護法制の歴史
第19回：消費者取引　その２　消費者契約法、特定商取引法
第20回：商人間売買　その１
第21回：商人間売買　その２
第22回：企業取引の補助者　仲立ち、問屋、代理商
第23回：運送取引
第24回：倉庫取引、場屋取引
第25回：金融取引１ 銀行取引
交互計算
第26回：金融取引２　匿名組合
ファイナンス・リース
第27回：金融商品取引１　市場システム
第28回：金融商品取引２　投資者保護法制ー金融商品取引法、金融商品販売法
第29回：保険取引ー保険法
損害保険・生命保険・傷害疾病定額保険
第30回：商取引法まとめ

【事前および事後学習の指示】
法適用にあたり民法との関係が必須となる分野であるため、民法履修済みであっても、使用したテキストを使って民法の復習をしておくこと。なお、民法を学習したことがない人は、以下のような民法の概説書を通読し、基礎的な知識を得ておいてください。［参考］山野目章夫他著「ひとりで学ぶ民法」（有斐閣、2008）、幾代通他編「民法入門［第6版］」（有斐閣、2012）など。
毎回配布するレジュメには、当日の講義に関係する部分について、テキストの該当ページが示してあります。テキストの該当部分を読み、併せて当日使った条文の確認をしておいてください。

【テキスト】
商法Ｉ ー総則・商行為［第5版］落合誠一・大塚龍児・山下友信 978-4-641-15932-7 有斐閣

【参考文献】
江頭憲治郎、山下友信編「商法（総則　商行為）判例百選［第5版］」（有斐閣、2008）
最新の六法を必ず用意すること。

【コメント】
授業中、理解度を確認するために複数回「クイズ」を行います。これは、成績評価に直接関係するものではありません（受けていなくてもマイナス評価とはしない）。ただし、解答内容に応じて、10％までの加算点とします。

講　義　名　称	曜　時
証券論　<春集>	水1 ／金1

【教員名称】
松尾　順介

【講義概要】
この講義は、有価証券の定義、株式の発行市場と流通市場、信用取引やデリバティブなど、専門的で高度な内容を講義します。また、金融危機以降、証券市場は急激に変化していますので、最近の変化についても講義します。したがって、かなり難易度の高い内容を含みますが、対話型・参加型形式を取り入れ、双方向型の授業を行い、全受講生が理解できるよう努力したいと思います。毎回の授業では質疑応答、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行います。

【学習目標】
本講義の学習目標は、第一に証券市場に関する専門的な知識を身につけることです。なぜなら上場企業に就職した場合、その会社は日々株式市場と直面し、敵対的買収に会うかもしれません。ベンチャー企業にとっても、資金調達手段です。また、銀行や証券会社に就職する学生は、証券外務員試験を受験しなければなりませんので、証券市場の知識が不可欠です。さらに、フィナンシャル・プランナーや税理士・会計士を目指す学生にとっても、証券市場の知識は必要です。第二に、証券市場の現状や課題を考えることによって、「考える」力を高めることです。証券市場には答えのない事象や問題が多々ありますので、これらについて考えることによって、受講生の「考える」力を高めたいと思います。

【講義計画】
第１回：はじめに
第２回：課題ポートフォリオ
第３回：有価証券1（有価証券の定義）
第４回：有価証券2（有価証券の種類）
第５回：株式会社1（様々な会社形態）
第６回：株式会社2（株式会社とコーポレートガバナンス）
第７回：株式1（配当請求権）
第８回：株式2（議決権）
第９回：株式3（その他の株主権）
第10回：株式4（株式と債権）
第11回：株式発行市場１（発行市場と流通市場）
第12回：株式発行市場２（新規設立）
第13回：株式発行市場３（ＩＰＯ）
第14回：株式発行市場４（上場会社の株式発行：エクイティ・ファイナンス）
第15回：株式発行市場５（転換社債と新株予約権）
第16回：株式流通市場１（流通市場の機能：価格発見機能と流動化機能）
第17回：株式流通市場２（流通市場の制度的条件１：ディスクロージャー）
第18回：株式流通市場３（流通市場の制度的条件２：不公正取引の禁止）
第19回：証券取引所１（上場制度と取引参加資格制度）
第20回：証券取引所２（売買制度）
第21回：証券取引所３（清算・決済制度、自主規制）
第22回：株価指数
第23回：信用取引
第24回：デリバティブ1（先物取引１）
第25回：デリバティブ2（先物取引２）
第26回：デリバティブ（オプション取引）
第27回：債券市場
第28回：社債市場
第29回：クラウドファンディング
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
この講義では、頻繁に指名されるので、緊張感を持って受講する必要がある。また、専門的かつ難易度の高い内容を含んでいるので、前回の講義内容をよく復習して講義に臨む必要がある。具体的な準備学習は以下である。①この講義では、キーワードとなる専門用語が頻出するので、まずこれらの専門用語の意味や内容をしっかり頭に入れておくこと、②配布資料は、講義をより深く理解するためのものが数多く含まれているので、それらを自分で読み解き、理解を深めておくこと、③普段から証券市場に関するニュースや新聞記事に目を通し、関連する知識・情報を集めておくこと、などである。

【テキスト】
証券市場論 二上季代司　有斐閣

【参考文献】
日本証券経済研究所編『図説　日本の証券市場』日本証券経済研究所

【コメント】
講義形式は対話型・参加型形式を取り入れますので、授業中に質疑応答、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行います。
期末テストで評価する。ただし、①毎回の質問状のうちよい質問状は期末評価に加点する。②課題提出も加点対象とする。③授業中に頻繁に指名回答を求め、良い回答には加点する。④プレゼンテーションやディスカッションも加点対象とする。なお、出席点は一切考慮しない。

講　義　名　称	曜　時
障害者スポーツ論A　01<春>	火1

【教員名称】
髙橋　明

【講義概要】
一般にスポーツは、形態、体力、年齢、性別、技術等の違いを、用具やルールを工夫して行われている。 障害者のスポーツも、一見特殊に見えるスポーツであっても、障害という「ハンディ」を施設や用具、ルールを工夫すれば健常者と同じスポーツが可能であるという理念の基に、すべて「Adapted Sport＝適応性のスポーツ」であるということを学び、視聴覚教材（ビデオ）等も利用して、そうぞうりょく（想像力・創造力）を養えるような内容で、障害者に対する知識や理解、障害者のスポーツの果たす役割、意義や効果、歴史や現状、そして、指導法等について講義する。

【学習目標】
①障害についての知識と理解を含め、障害者のスポーツを通して生きる力を育む。
②障害者のスポーツの果たす役割、意義や効果、歴史について学ぶ。
③障害者のスポーツ指導法について学ぶ。
④障害者スポーツの現状と課題について学ぶ。

【講義計画】
第１回：授業概要説明・ガイダンス　障害者のスポーツビデオ観賞
第２回：パラリンピックの映像を通して障害を理解する
第３回：障害者の理解について
①障害をどう捉えるか
②障害者の現状　③障害者スポーツの理解　④障害者スポーツのビデオ観賞
第４回：障害者の理解について
①障害者とリハビリテーション
②リハビリテーションにおけるスポーツの活用
第５回：障害者のスポーツ振興
①障害者スポーツの現状
②障害者スポーツの意義・効果
第６回：障害者スポーツの歴史と現状
①医療スポーツとして
②生涯スポーツとして　③競技スポーツとして
第７回：障害者と生涯スポーツ
①障害者スポーツの動向
②障害者と生涯スポーツの動向
第８回：障害者と生涯スポーツの課題
①障害者スポーツ交流センターについて
②障害者スポーツセンターについて
第９回：全国障害者スポーツ大会
①全国障害者スポーツ大会の歩み
②全国障害者スポーツ大会の動機
第10回：障害者と競技スポーツ
①競技スポーツの現状
②代表的な国内・国際大会の現状
第11回：補装具
①義肢（義足や義手）について
②車椅子（競技用）について
第12回：障害者スポーツ指導者制度について
①指導者制度の歩み
②障害者スポーツ指導者の種類
第13回：障害者スポーツとボランティア活動
①ボランティア活動の意義と理念
第14回：障害者スポーツの概念と指導法
①スポーツ指導上の留意事項
第15回：障害者への運動処方
①運動処方に当たっての留意事項

【事前および事後学習の指示】
特になし

【テキスト】
授業用に自主制作したテキストの購入
【参考文献】
タイトル「障害者とスポーツ」 出版社（岩波書店・岩波新書）著者（髙橋明）

【コメント】
試験の成績と平常点（出席率８０％・授業態度等を含む）を総合評価

講　義　名　称	曜　時
障害者スポーツ論A　02＜秋＞	火1

【教員名称】
高橋　明

【講義概要】
一般にスポーツは、形態、体力、年齢、性別、技術等の違いを、用具やルールを工夫して行われている。 障害者のスポーツも、一見特殊に見えるスポーツであっても、障害という「ハンディ」を施設や用具、ルールを工夫すれば健常者と同じスポーツが可能であるという理念の基に、すべて「Adapted Sport＝適応性のスポーツ」であるということを学び、視聴覚教材（ビデオ）等も利用して、そうぞうりょく（想像力・創造力）を養えるような内容で、障害者に対する知識や理解、障害者のスポーツの果たす役割、意義や効果、歴史や現状、そして、指導法等について講義する。

【学習目標】
①障害についての知識と理解を含め、障害者のスポーツを通して生きる力を育む。
②障害者のスポーツの果たす役割、意義や効果、歴史について学ぶ。
③障害者のスポーツ指導法について学ぶ。
④障害者スポーツの現状と課題について学ぶ。

【講義計画】
第１回：授業概要説明・ガイダンス　障害者のスポーツビデオ観賞
第２回：パラリンピックの映像を通して障害を理解する
第３回：障害者の理解について
①障害をどう捉えるか
②障害者の現状　③障害者スポーツの理解　④障害者スポーツのビデオ観賞
第４回：障害者の理解について
①障害者とリハビリテーション
②リハビリテーションにおけるスポーツの活用
第５回：障害者のスポーツ振興
①障害者スポーツの現状
②障害者スポーツの意義・効果
第６回：障害者スポーツの歴史と現状
①医療スポーツとして
②生涯スポーツとして　③競技スポーツとして
第７回：障害者と生涯スポーツ
①障害者スポーツの動向
②障害者と生涯スポーツの動向
第８回：害者と生涯スポーツの課題
①障害者スポーツ交流センターについて
②障害者スポーツセンターについて
第９回：全国障害者スポーツ大会
①全国障害者スポーツ大会の歩み
②全国障害者スポーツ大会の動機
第10回：障害者と競技スポーツ
①競技スポーツの現状
②代表的な国内・国際大会の現状
第11回：補装具
①義肢（義足や義手）について
②車椅子（競技用）について
第12回：障害者スポーツ指導者制度について
①指導者制度の歩み
②障害者スポーツ指導者の種類
第13回：障害者スポーツとボランティア活動
①ボランティア活動の意義と理念
第14回：障害者スポーツの概念と指導法
①スポーツ指導上の留意事項
第15回：障害者への運動処方
①運動処方に当たっての留意事項

【事前および事後学習の指示】
特になし

【テキスト】
授業用に自主制作したテキストの購入

【参考文献】
タイトル「障害者とスポーツ」 出版社（岩波書店・岩波新書）著者（髙橋明）

【コメント】
試験の成績と平常点（出席率８０％・授業態度等を含む）を総合評価

講　義　名　称	曜　時
心理学　01＜通期＞	火2

【教員名称】
中村　隆行

【講義概要】
わが国においては、社会福祉の実践分野に多くの心理学者が働いているにもかかわらず、これらの人たちを社会福祉の領域に積極的に包含していくことができずにいる。また、社会福祉学は、社会科学系統の人たちから学問構築が始められ、実践科学としての心理学の関与が停滞してきた。しかしながら、最近、利用者のニーズが多様化する福祉現場の状況から、心理学的援助技術の導入を求める機運が急速に高まってきている。優れたケアの理論的根拠としての心理学理論が求められてきている現状を踏まえ、実践に必要な心理学の基礎を学ぶことを目指す。

【学習目標】
①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。②人の成長・発達と心理との関係について理解する。③日常生活と心の健康との関係について理解する。④心理的支援の方法と実際について理解する。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション・心理学の歴史と領域
第２回：心理学の研究法
第３回：こころの働きと行動①　動機づけ
第４回：こころの働きと行動②　感情
第５回：認知と知能①　知覚
第６回：認知と知能②　古典的条件づけ
第７回：認知と知能③　オペラント条件づけ
第８回：認知と知能④　記憶
第９回：認知と知能⑤　知能
第10回：個人と社会①　人格・性格
第11回：個人と社会②　集団
第12回：人の成長・発達と心理①　遺伝と環境
第13回：人の成長・発達と心理②　ライフサイクル
第14回：現代の心をとりまく課題①　発達障害
第15回：春学期まとめ
第16回：現代の心をとりまく課題②　うつ病
第17回：現代の心をとりまく課題③　虐待・ＤＶ
第18回：日常生活とこころの健康①　ストレス理論
第19回：日常生活とこころの健康②　ストレスマネジメント
第20回：心理学的アセスメント①　知能検査
第21回：心理学的アセスメント②　性格検査
第22回：カウンセリングの概念と範囲①　カウンセリング理論
第23回：カウンセリングの概念と範囲②　カウンセリングとソーシャルワーク
第24回：心理療法の概要と実際①　精神分析
第25回：心理療法の概要と実際②　行動療法
第26回：心理療法の概要と実際③　パーソンセンタードアプローチ
第27回：心理療法の概要と実際④　ＳＳＴ
第28回：心理的支援にかかわる職場の現状と課題
第29回：心理的支援の課題と展望
第30回：秋学期まとめ

【事前および事後学習の指示】
本科目は、「社会福祉士」「精神保健福祉士」の養成における指定科目である「心理学」において学ぶべきことを前提としている。したがって使用する教科書も「新版社会福祉士養成講座」シリーズの「心理学」を使用している。しかし履修学生は、すべての学部・学年にわたって履修可能であるため、教科書に沿ってではあるが、一般心理学の概論分野をカバーし、精神発達や人間関係・人間性にかかわる実生活と結びついた内容で、なおかつ社会福祉実践援助のために必要な内容を重視している。 特に「社会福祉士」「精神保健福祉士」資格取得を目指す学生においては、毎回の授業以前にあらかじめ教科書に目を通し、重要と思われる「心理学用語」を拾い出してインターネット等で語句の意味するものを理解しておくことが望まれる。

【テキスト】
心理学理論と心理的支援（第２版）加藤伸司・山口利勝　編著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

【コメント】
主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。授業時には必要に応じてコメント・カードの提出を求める。春学期、秋学期それぞれ定期試験中に試験を行う。

講　義　名　称	曜　時
心理学　02＜通期＞	火3

【教員名称】
中村　隆行

【講義概要】
わが国においては、社会福祉の実践分野に多くの心理学者が働いているにもかかわらず、これらの人たちを社会福祉の領域に積極的に包含していくことができずにいる。また、社会福祉学は、社会科学系統の人たちから学問構築が始められ、実践科学としての心理学の関与が停滞してきた。しかしながら、最近、利用者のニーズが多様化する福祉現場の状況から、心理学的援助技術の導入を求める機運が急速に高まってきている。優れたケアの理論的根拠としての心理学理論が求められてきている現状を踏まえ、実践に必要な心理学の基礎を学ぶことを目指す。

【学習目標】
①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。②人の成長・発達と心理との関係について理解する。③日常生活と心の健康との関係について理解する。④心理的支援の方法と実際について理解する。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション・心理学の歴史と領域
第２回：心理学の研究法
第３回：こころの働きと行動①　動機づけ
第４回：こころの働きと行動②　感情
第５回：認知と知能①　知覚
第６回：認知と知能②　古典的条件づけ
第７回：認知と知能③　オペラント条件づけ
第８回：認知と知能④　記憶
第９回：認知と知能⑤　知能
第10回：個人と社会①　人格・性格
第11回：個人と社会②　集団
第12回：人の成長・発達と心理①　遺伝と環境
第13回：人の成長・発達と心理②　ライフサイクル
第14回：現代の心をとりまく課題①　発達障害
第15回：春学期まとめ
第16回：現代の心をとりまく課題②　うつ病
第17回：現代の心をとりまく課題③　虐待・ＤＶ
第18回：日常生活とこころの健康①　ストレス理論
第19回：日常生活とこころの健康②　ストレスマネジメント
第20回：心理学的アセスメント①　知能検査
第21回：心理学的アセスメント②　性格検査
第22回：カウンセリングの概念と範囲①　カウンセリング理論
第23回：カウンセリングの概念と範囲②　カウンセリングとソーシャルワーク
第24回：心理療法の概要と実際①　精神分析
第25回：心理療法の概要と実際②　行動療法
第26回：心理療法の概要と実際③　パーソンセンタードアプローチ
第27回：心理療法の概要と実際④　ＳＳＴ
第28回：心理的支援にかかわる職場の現状と課題
第29回：心理的支援の課題と展望
第30回：秋学期まとめ

【事前および事後学習の指示】
本科目は、「社会福祉士」「精神保健福祉士」の養成における指定科目である「心理学」において学ぶべきことを前提としている。したがって使用する教科書も「新版社会福祉士養成講座」シリーズの「心理学」を使用している。しかし履修学生は、すべての学部・学年にわたって履修可能であるため、教科書に沿ってではあるが、一般心理学の概論分野をカバーし、精神発達や人間関係・人間性にかかわる実生活と結びついた内容で、なおかつ社会福祉実践援助のために必要な内容を重視している。 特に「社会福祉士」「精神保健福祉士」資格取得を目指す学生においては、毎回の授業以前にあらかじめ教科書に目を通し、重要と思われる「心理学用語」を拾い出してインターネット等で語句の意味するものを理解しておくことが望まれる。

【テキスト】
心理学理論と心理的支援（第２版）加藤伸司・山口利勝　編著　ミネルヴァ書房

【参考文献】

【コメント】
主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。授業時には必要に応じてコメント・カードの提出を求める。春学期、秋学期それぞれ定期試験中に試験を行う。

講　義　名　称	曜　時
心理学　04＜通期＞	木1

【教員名称】
本多　隆司

【講義概要】
心理学による人間理解をすすめるため基礎的な理論の概要を理解する。心理学の歴史と方法、感覚・知覚、学習、記憶、発達、社会心理など心理学の基礎的な分野、パーソナリティ、アセスメント、心理療法など臨床的な分野、さらに今日のテーマである虐待や発達障害など多岐にわたるテーマについて論じていく。とりわけ、社会福祉士や精神保健福祉士など対人援助に関わる専門職に必要な心理学的な考え方、知識、スキルが活用できるようになることを目標とし、また各分野の理解を深めるため必要に応じて視覚教材を取り入れる。

【学習目標】
①心理学理論による人の理解とその技法について理解する。
②人の成長・発達と心理との関係について理解する。
③日常生活と心の健康との関係について理解する。
④心理的支援の方法と実際について理解する。

【講義計画】
第１回：１．日常生活と心の健康　その1：枠組み､ストレス､ストレスコーピング
第２回：２．　〃　その2：ストレスマネジメント
第３回：３．人の心理学的理解　その1：心理学研究法
第４回：４．　〃　その2：感覚･知覚･認知
第５回：５．　〃　その3：感覚･知覚･認知
第６回：６．　〃　その4：学習･記憶
第７回：７．　〃　その5：学習･記憶
第８回：８．　〃　その6：学習･記憶
第９回：９．人の成長・発達と心理　その1：アタッチメント
第10回：10．　〃　その2：アタッチメント
第11回：11．　〃　その3：アタッチメント
第12回：12．　〃　その4：発達
第13回：13．　〃　その5：発達
第14回：14．　〃　その6：発達段階、発達課題
第15回：15．　〃　その7：発達段階、発達課題
第16回：16．人の心理学的理解　その7：言語、コミュニケーション
第17回：17．　〃　その8：思考
第18回：18．　〃　その9：知能
第19回：19．　〃　その10：動機づけ
第20回：20．　〃　その11：情動、感情
第21回：21．　〃　その12：パーソナリティ
第22回：22．　〃　その13：社会行動
第23回：23．心理的支援の方法と実際　その1：基本的な理論（アセスメント）
第24回：24．　〃　その2：基本的な理論（フロイド）
第25回：25．　〃　その3：基本的な理論(ロジャーズ)
第26回：26．　〃　その4：心理療法の実際
第27回：27．　〃　その5：心理療法の実際
第28回：28．心理的支援と今日の課題　その1：知的・発達障害
第29回：29．　〃　その2：知的・発達障害
第30回：30．　〃　その3：発達障害

【事前および事後学習の指示】
資格取得を目指す学生においては、参考文献に挙げたテキスト等に目を通しておくことが望ましい。

【テキスト】
はじめて出会う心理学改訂版　有斐閣アルマ 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦 978-4-641-12345-8 有斐閣

【参考文献】
加藤伸司・山口利勝（編著）「 MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21　心理学理論と心理的支援」ミネルヴァ書房
福祉養成講座編集委員会（編）「新・社会福祉士養成講座　第２巻 心理学理論と心理的支援　第3版」 中央法規

【コメント】
レポート課題を実施することがある。

講　義　名　称	曜　時
心理学　05＜通期＞	火1

【教員名称】
冷水　啓子

【講義概要】
この講義では、科学的な心理学研究上のさまざまな知見・成果を概観し、体系的に心理学を学ぶことを目指す。

これから心理学を学ぼうとする人たちは、「心理学」という学問領域に対してどのようなイメージをいだいているであろうか。近年マスコミでよく取り上げられている「犯罪心理学」「深層心理学」「臨床心理学」「カウンセリング」といった類のものが、すなわち「心理学」である（それら以外は、たとえ人の「心」に関わりがあろうとも「心理学」とはみなさない）という固定観念にとらわれている人を多く見かける。もちろん、それらは「心理学」のなかで重要な分野として取り扱われているが、「心のしくみとはたらき」を研究する科学としての「心理学」の領域はそれだけではなく、きわめて幅広く学際的である。私たちは、周囲の世界からさまざまな情報を取り入れ処理しながら日常生活を円滑に営んでいる。しかし、普段何気なく行っている、見る、聞く、感じる、考える、覚える、理解する、判断する、表現する、伝達するといった活動も、実に複雑な心のはたらきによることがわかっている。そこでこの講義では、人の基本的な認知行動とその個人差に関わるさまざまな心理学的現象や理論を知り、自他の心のしくみとはたらきについて再確認することを目指す。

【学習目標】
・科学としての心理学理論を学び、心理学研究上の基礎的知見・成果を知る。
・人の心のしくみとはたらきについて体系的に理解する。
・客観的・批判的なものの見方や判断力を養う。

【講義計画】
第１回：春学期の授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
第２回：心理学とは何か
第３回：心理学研究法：客観的に人の心をとらえる方法
第４回：感覚と知覚（1）：そのしくみとはたらき
第５回：感覚と知覚（2）：現実の世界と錯覚
第６回：感覚と知覚（3）：見えの世界
第７回：記憶（1）：そのしくみとはたらき
第８回：記憶（2）：日常の記憶
第９回：記憶（3）：記憶の不思議
第10回：学習（1）：学習の成立と応用
第11回：学習（2）：日常生活と学習
第12回：イメージ（1）：そのしくみとはたらき
第13回：イメージ（2）：心的イメージの世界
第14回：イメージ（3）：イメージ能力とイメージ・トレーニング
第15回：春学期のまとめ
第16回：秋学期の授業を始める前に
第17回：注意と認知（1）：そのしくみとはたらき
第18回：注意と認知（2）：注意とヒューマンエラー
第19回：思考と言語（1）：そのしくみとはたらき
第20回：思考と言語（2）：問題を解くということ
第21回：思考と言語（3）：「ことば」とコミュニケーション
第22回：思考と言語（4）：言語の発達
第23回：動機づけと情動（1）：人はなぜ行動を起こすか
第24回：動機づけと情動（2）：情動のはたらきと脳
第25回：脳と心（1）：心の生物学的基礎
第26回：脳と心（2）：脳損傷と心のはたらき
第27回：人格・性格（1）：人格・性格とはなにか
第28回：人格・性格（2）：人格・性格の発達
第29回：人格・性格（3）：人格・性格の測定
第30回：全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】
授業で使用した教材スライド及び授業情報（資料，レポート課題，定期試験要領など）は、本学の共用ネットワークドライブ“Lesson（S:）”上にある“kshimizu”フォルダー内で公開する。授業の前後にそれらの情報を必ず確認し、課題提出や予習・復習・発展学習のために役立てること。

【テキスト】
テキストは使わないが、スライド（パワーポイント）、インターネット、DVD、印刷物などを通じて資料を提供する。

【参考文献】
・長谷川寿一・東條正城・丹野義彦（著）『はじめて出会う心理学（改訂版）』（有斐閣アルマ）
・金児曉嗣（編）『サイコロジー事始め』（有斐閣）
・加藤伸司・山口利勝（編著）『心理学理論と心理的支援』（ミネルヴァ書房）
・中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣）
・大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）
・梅本堯夫・大山 正・岡本浩一（編）『心理学 第2版 —心のはたらきを知る』（サイエンス社）

【コメント】
主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。春学期末にレポート課題の提出を求める（これは秋学期の授業を継続して受講するための前提条件となる）。秋学期末に定期試験を実施する。また、春・秋学期の期間中、必要に応じて簡単な実験・調査への参加やコメントカードの提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

講　義　名　称	曜　時
人間発達論B　＜秋＞	火1

【教員名称】
安原　佳子

【講義概要】
人は、誕生してから自分の周りの環境との相互作用によって育っていく。以前は「発達」というと、乳幼児期から青年期までに焦点があてられていたが、現在は生涯発達という観点から、人が生まれてから（胎児期から）なくなるまでの変化として捉えられている。
身体的成長や運動能力、言語、認知、社会性など精神活動など、一口に発達といっても幅広い領域にまたがり、また、家族、社会、文化、時代など、多くの環境要因によっても変わってくる。そのため、これまで様々な視点から発達理論が唱えられてきた。
本講義では、発達理論を概観し、特に児童期から老年期における課題を中心にみていき、人間理解を深める。さらに、福祉等の対人援助の仕事を視野にいれ、発達の支援について応用行動分析の立場から触れる。

【学習目標】
発達理論の概要を理解し、特に児童期から老年期における課題をみていき、人間理解を深める。さらに、福祉等の対人援助の仕事を視野にいれ、発達という視点からの支援について考える。

【講義計画】
第１回：授業のオリエンテーション
　　ソーシャルワークにおける人の発達の理解の重要性について
第２回：発達とは（生涯発達について）
第３回：児童期～老年期の発達のプロセスと理論（運動・感覚・認知・情緒）
第４回：　〃　（自己）
第５回：　〃　（コミュニケーション）
第６回：　〃　（対人関係）
第７回：　〃　（社会性）
第８回：　〃　（道徳性）
第９回：発達の支援と応用行動分析①
第10回：発達の支援と応用行動分析②
第11回：発達の支援と応用行動分析③
第12回：児童期以降の発達における課題
第13回：児童期以降の発達上の障がいと支援（発達障がい等）
第14回：児童期以降の発達上の障がいと支援（虐待等）
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
各回の授業の内容はそれぞれ関連しているので、復習をして次の授業に臨むこと

【テキスト】
授業時に提示する

【参考文献】
前原武子編「発達支援のための生涯発達心理学」ナカニシヤ出版
山内光哉編「発達心理学　上･下」ナカニシヤ出版
村田孝次「生涯発達」培風館
麻生武・浜田寿美男編「よくわかる臨床発達心理学」ミネルヴァ書房

【コメント】
出席状況･授業時の課題･レポート（５０％）､および学期末試験（５０％）により、総合的に評価する

講　義　名　称	曜　時
人権教育論　01＜通期＞	火3

【教員名称】
古本　義信

【講義概要】
学生自身が人権・同和教育の課題や内容を理解し、教職を目指す者としての人権感覚を高めることを講義の中心とする。
学習方法や学習過程において学習者の積極的な参加、なんらかの行動・体験を通しての参加体験学習を取りいれている。　参加型体験学習を中心にして、人権・同和教育の諸テーマを講話や視聴覚教材の鑑賞などで進めるが、講師の30数年の小学校教師としての人権・同和教育の実践を踏まえ、教育現場に繋がる人権教育「実践」論として本講義を展開していく。

【学習目標】
人権教育論では人権の大切さを十分に理解し、人権を尊重し大切にする態度や行動を身につける。そのため
①自分の生きる価値の実感（自尊感情の形成）　②いろいろな違いの自覚と尊重　③差別や人権侵害につながりやすい違いの認識　④差別の歴史的・社会的背景の学習　⑤差別を見抜くための共通概念に関する学習　⑥目の前で起こった差別的言動に対する行動力の育成　⑦社会に働きかけるための集団的・組織的な行動力の育成などについて学習する。

【講義計画】
第１回：講義ガイダンス授業の概要・授業計画・参加型学習・評価の方法について
第２回：ワークショップ　安心ルールを作る
第３回：ワークショップ　コミュニケーションのすれ違い
第４回：ワークショップ　ちがいと差別
第５回：ワークショップ　暴力の芽を考えよう
第６回：ワークショップ　DV セクハラ
第７回：ワークショップ　部落問題、これホント？
第８回：ワークショップ　部落問題、これホント？
第９回：人権教育　大阪の教育　いじめ
第10回：人権教育　心の病に新名称　障害者野球
第11回：人権教育　からすたろう　得意な分野をのばす
第12回：人権教育　公立小学校の支援学級での実践
第13回：人権教育　マララユズフザイ
第14回：人権学習　結婚差別と部落問題
第15回：被差別民衆史　もうひとつの日本の歴史
第16回：人権学習　カミングアウトの意味について
第17回：アイデンティティ　部落カミングアウト
第18回：アイデンティティ　在日カミングアウト
第19回：アイデンティティ　アイヌカミングアウト
第20回：被差別民衆史　部落史・身分制の見直し
テーマ設定の理由書式説明
第21回：被差別民衆史　東山文化を支えた人々
第22回：被差別民衆史　江戸時代の身分制
第23回：被差別民衆史　近代医学の基礎を築いた人々
第24回：被差別民衆史　明治維新と賤民廃止令
第25回：被差別民衆史　水平社創立
第26回：人権学習　小論のテーマ設定の理由原稿提出
０歳からの人権教育
第27回：人権学習　HEY和・アンゴラ地雷
第28回：人権学習　ハンセン病とジプリ
第29回：人権学習　筑豊炭田と山本作兵衛
第30回：小論提出とまとめ　岡林信康

【事前および事後学習の指示】
参加体験型の講義やプリント学習が主なので特に講義の準備学習は必要ない。テキストとして購入する小学校教科書「新しい社会６年上」「新しい社会６年下」を熟読し理解し覚えること。教科書販売指定書店で「上」は４月１６日以降「下」は９月１６日以降販売される。
さらに、人権問題が日常に自分の身の周りに生起していることに気づく人権感覚の醸成に努めたり、直面したその場で自分がどう行動するかを考えたりすることが求められる。そのために、毎日の新聞や週刊誌やマスコミやインターネットで情報を入手しておくこと。

【テキスト】
小学校教科書「新しい社会６年上」　東京書籍
小学校教科書「新しい社会６年下」　東京書籍

【参考文献】
上杉聡　「これでわかった部落の歴史」「これでなっとく部落の歴史」
外川正明　「部落史に学ぶ」「部落史に学ぶ２」
中尾健次　「絵本　もうひとつの日本の歴史」

【コメント】
出席し授業への積極的な参加で50 %評価される。試験は小論とし３０％評価する。　レポートは毎回のふりかえりカードを評価し平常点２０％ とする。
授業態度や授業への積極的な参加を重点的に評価する。特に授業妨害の私語の禁止、授業放棄の授業中の居眠りの禁止を守ること。複数回注意されているのに授業態度に改善が見られない場合に退室を命じられることがある。小論では自分の人権課題のまとめ、平常点は授業後の毎回のふりかえりカードの記述の量や論理性や内容を評価
する。成績評価は授業態度５０％、小論３０％や平常点２０％を含めて総合的におこなう。
なお、机上には学生証を置き氏名をすぐに確認できるようにしておくこと。

講　義　名　称	曜　時
人権教育論　02＜通期＞	月1

【教員名称】
本郷　浩二

【講義概要】
本授業では日本社会における差別と人権をめぐる諸問題を考察し、その教育における展開を考える。様々な差別や排除、抑圧を、道徳心や倫理観といった人間の内面や心のはたらきの問題に限定するのではなく、権利/人権とその侵害をめぐる課題として捉え、私たちが生きる「この社会」との関わりにおいて把握することで、道徳的/倫理的な建前や「きれいごと」とは異なる、差別の克服や権利/人権の保障に向けた具体的な社会的戦略を検討したい。

【学習目標】
人権問題/人権教育の基礎的な知識の獲得/応用を通じて、差別とその克服を権利/人権とその保障をめぐる問題として理解し、問題に主体的に対処できるようになることをめざす。

【講義計画】
第１回：開講にあたって　～授業の目的・目標と進め方
第２回：人権の成立と展開1　～「人権」とは何だろうか
第３回：人権の成立と展開2　～今日の「人権」理解
第４回：人権教育の視点と実践1　～日本における人権教育の現状と課題
第５回：人権教育の視点と実践2　～これからの人権教育に向けて
第６回：障害/障害者と人権1　～権利保障のプロセスと「障害」理解の転換
第７回：障害/障害者と人権2　～「合理的配慮」から考える
第８回：ジェンダー /セクシュアリティと人権1　～セクシュアル・マイノリティを中心に
第９回：ジェンダー /セクシュアリティと人権2　～権利としての「自己決定」
第10回：「社会的弱者」と人権1　～社会的に弱い立場/不利な立場とは
第11回：「社会的弱者」と人権2　～野宿/路上生活者を中心に
第12回：多民族/多国籍社会と人権1　～多民族/多国籍社会の現状
第13回：多民族/多国籍社会と人権2　～「多文化共生」に向けて
第14回：「差別的表現」と表現の自由　～「差別語/差別表現」を考える
第15回：前期の到達度・理解度の確認（試験）およびまとめ
第16回：部落問題から考える1　～基礎的理解のために
第17回：部落問題から考える2　～概況と基本的な考え方
第18回：部落問題から考える3　～歴史像をめぐって
第19回：部落問題から考える4　～部落問題の歴史1：古代・中世社会の身分と差別
第20回：部落問題から考える5　～部落問題の歴史2：近世社会における身分と差別
第21回：部落問題から考える6　～部落問題の歴史3：部落問題の成立と展開
第22回：部落問題から考える7　～部落問題の歴史4：「部落解放」の模索へ
第23回：部落問題から考える8　～現状と課題1：同和対策事業の実施と目的
第24回：部落問題から考える9　～現状と課題2：同和対策事業の成果と課題
第25回：部落問題から考える10　～現状と課題3：「特措法体制」終了後の現状
第26回：差別とアイデンティティ１　～差別とアイデンティティをめぐる諸問題
第27回：差別とアイデンティティ２　～アイデンティティの行方
第28回：差別とアイデンティティ３　～カムアウトをめぐって
第29回：課題と展望　～これからの人権教育に向けて
第30回：後期の到達度・理解度の確認（試験）およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
毎回の授業内容について理解を深め、次回授業に備えるため、復習には特に十分な時間をかけること。そのため、授業内で配布する資料や、提示する参考文献を可能な限り読んでおくこと。また、日常的に人権問題や社会問題に興味を持ち、関連図書をはじめ、新聞や論壇誌、ニュースやドキュメンタリー等を通じて、それらの情報や動向を把握しておくこと。

【テキスト】

【参考文献】
毎回の授業内で指示する。

【コメント】
第15回の授業において実施する前期の内容に関する試験（50%）と第30回の授業において実施する後期の内容に関する試験（50%）によって授業の趣旨や視点、内容に対する理解度/到達度を確認/評価する。いずれも論述式の筆記試験であるため、授業内容を十分に整理/理解した上で回答することが求められる。単に出席しているだけでは単位の取得が難しい授業をめざすので、安易な気持ちで授業に臨むことがないよう、学生諸君の主体的・積極的な学習を期待したい。

講　義　名　称	曜　時
人的資源管理論Ａ　＜春＞	火1

【教員名称】
正亀　芳造

【講義概要】
現代の日本企業は、厳しい経済環境のもとで様々な経営改革に取り組んでいる。中でも、人的資源管理に関わる諸制度の改革が盛んである。人的資源管理とは、経営を構成するヒト・モノ・カネの３要素のうち、ヒトに関わる管理をいう。企業経営を動かすのはヒトであり、その働き如何が経営を左右する。企業を取り巻く経済・社会環境に加え、ヒトの価値観も転換期にある今日、従来の終身雇用と年功序列を基礎とした人的資源管理もその転換が求められている。本講義では、まず人的資源管理の基本的な考え方を解説した上で、現代の日本企業が人的資源管理において直面している諸問題の中から雇用管理に焦点を当て、新しい勤労スタイルも含めて可能な限り多面的に考察し、その展望を試みたい。

【学習目標】
本講義では、人的資源管理の基本的な考え方を説明した上で、現代の日本企業が人的資源管理の中の主要領域である雇用管理において直面している諸問題を可能な限り多面的に解説します。人的資源管理の基本的な考え方と現代の日本企業が雇用管理領域において直面している主要な問題は何か、これらを理解することが当面の学習目標となります。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション：人的資源管理の現代的意義
第２回：企業経営と人的資源管理
第３回：モチベーション
第４回：リーダーシップとコミットメント
第５回：組織構造
第６回：職務設計
第７回：社員区分制度と社員格付制度
第８回：中間確認テストとこれまでの講義のまとめ
第９回：雇用管理（1）
第10回：雇用管理（2）
第11回：非正規労働者
第12回：女性労働者
第13回：高年齢労働者
第14回：海外派遣者
第15回：研究開発技術者

【事前および事後学習の指示】
第２回目以降の講義を受講するには、その準備として、予め講義で指示したテキストの章ないし該当部分を事前に読み、要点をノートにまとめておくこと。また、講義の受講後は、重要キーワードを中心に復習するとともに、他の文献や資料を活用してさらに深く調べるように努力すること。

【テキスト】
『入門　人的資源管理（第２版）』奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著 978-4-502-67360-3 中央経済社

【参考文献】
吉田和夫・大橋昭一（監修）深山明・海道ノブチカ・廣瀬幹好（編）『最新　基本経営学用語辞典（改訂版）』同文舘出版、2015年。
その他、講義中に適宜指示します。

【コメント】
期末試験の成績をもとに評価を行います。
ただし、講義中の優れた質問ないし発表、レポートの成績の合計を期末試験の成績に加点します。（加点についての詳細は、第１回目の講義時に説明します。）

講　義　名　称	曜　時
人的資源管理論Ｂ　＜春＞	火4

【教員名称】
正亀　芳造

【講義概要】
現代の日本企業は、厳しい経済環境のもとで様々な経営改革に取り組んでいる。中でも、人的資源管理に関わる諸制度の改革が盛んである。人的資源管理とは、経営を構成するヒト・モノ・カネの３要素のうち、ヒトに関わる管理をいう。企業経営を動かすのはヒトであり、その働き如何が経営を左右する。企業を取り巻く経済・社会環境に加え、ヒトの価値観も転換期にある今日、従来の終身雇用と年功序列を基礎とした人的資源管理もその転換が求められている。本講義では、現代の日本企業が人的資源管理において直面している諸問題の中から賃金や昇進などの「報酬管理」と「労使関係」の諸問題に焦点を当て、その解説と展望を試みたい。

【学習目標】
本講義では、現代の日本企業が人的資源管理を構成する３領域のうちの報酬管理と労使関係の２領域において直面している諸問題を可能な限り多面的に解説します。現代の日本企業が報酬管理および労使関係において直面している主要な問題は何か、これを理解することが当面の学習目標となります。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション：企業経営と人的資源管理の機能
第２回：人事等級制度（1．職能資格制度）
第３回：人事等級制度（2．職務等級制度）
第４回：キャリア開発
第５回：昇進制度
第６回：人事考課制度（1．年功主義と人事考課制度）
第７回：人事考課制度（2．成果主義と人事考課制度）
第８回：専門職制度
第９回：中間確認テストとこれまでの講義のまとめ
第10回：賃金制度（1．賃金とその設計原理）
第11回：賃金制度（2．賃金体系）
第12回：賃金制度（3．賃金制度の新動向）
第13回：福利厚生制度
第14回：労使関係（1．団体交渉と労使協議制）
第15回：労使関係（2．個別的労使関係）

【事前および事後学習の指示】
第２回目以降の講義を受講するには、その準備として、予め講義で指示したテキストの章ないし該当部分を事前に読み、要点をノートにまとめておくこと。また、講義の受講後は、重要キーワードを中心に復習するとともに、他の文献や資料を活用してさらに深く調べるように努力すること。

【テキスト】
『入門　人的資源管理（第２版）』奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著 978-4-502-67360-3 中央経済社

【参考文献】
吉田和夫・大橋昭一（監修）深山明・海道ノブチカ・廣瀬幹好（編）『最新　基本経営学用語辞典（改訂版）』同文舘出版、2015年。
その他、講義中に適宜指示します。

【コメント】
期末試験の成績をもとに評価を行います。
ただし、講義中の優れた質問ないし発表、レポートの成績の合計を期末試験の成績に加点します。（加点についての詳細は、第１回目の講義時に説明します。）

講　義　名　称	曜　時
世界のメディア　＜秋集＞	月2／木4

【教員名称】
小池　誠

【講義概要】
この講義では、世界の多様なメディアを取り上げ、ふだん身近に接している日本のメディアとの比較を通して、メディアとそれを創り出す社会・文化との関係を考えます。第一に、メディア・リテラシーの観点から異文化の描き方を検討し、第二に、マンガ・アニメや音楽を対象に、現代世界におけるメディアのグローバル化の問題を考え、第三に、インドとインドネシアの映画を取り上げ、映画と社会・文化との関係を考えていきます。授業のなかで、身近な日本のマンガから、ふだんあまり目にすることがないアジアの映画まで幅広く取り上げ、世界のメディアにアプローチしたいと思います。この講義は、世界のメディアを通して、幅広く現代世界のさまざまな文化とグローバリゼーションの動向に対する理解と関心を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」と「現代の諸問題への対応」につながることを目的としています。

【学習目標】
講義をとおして、以下の４つの目標を達成できるようにします。
1　現代世界におけるメディアのグローバル化について理解し、授業で取り上げたテーマについて自分の考えを的確に述べることができる。
2　アジアの映画と社会・文化との関係について、授業で取り上げた題材を使って論じることができる。
3　外国映画に描かれた日本人または日本文化・社会について、自分の意見をまとめることができる。
4　毎回の授業で学んだことをまとめ、それについて自分の意見を述べることができる。

【講義計画】
第１回：授業ガイダンス：世界のメディアへのアプローチ
第２回：メディア・リテラシー：海外取材番組における異文化の描き方
第３回：「世界ウルルン滞在記」とNHKドキュメント
第４回：アメリカ映画に描かれた日本（1）
第５回：アメリカ映画に描かれた日本（2）
第６回：メディアのグローバル化：日本製マンガの海外進出（1）
第７回：メディアのグローバル化：日本製マンガの海外進出（2）
第８回：日本製アニメの海外における人気（1）
第９回：日本製アニメの海外における人気（2）
第10回：「花より男子」のドラマ化
第11回：アジアをかけめぐる「花より男子」
第12回：K-POPの海外進出戦略（1）
第13回：K-POPの海外進出戦略（2）
第14回：ハロウィンのグローバル化とローカル化
第15回：インドネシアのポピュラー音楽ダンドゥット
第16回：インドネシアの特撮物
第17回：インドネシアの多様なポップス
第18回：インドネシアにおけるJKT48の人気
第19回：ヨーロッパにおけるkawaii人気
第20回：パリのJapan Expo
第21回：政府によるクールジャパン戦略
第22回：韓国映画のグローバル化
第23回：現代の多様なインド映画（1）
第24回：現代の多様なインド映画（2）
第25回：世界のクリスマスとサンタクロース
第26回：サンタクロースのグローバル化とメディア
第27回：現代の多様なインドネシア映画
第28回：インドネシア映画に描かれた宗教
第29回：インドネシア映画のなかの日本人
第30回：講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】
授業で取り上げたテーマに関連するテレビ番組や映画などを積極的に観るようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】
講義のなかで必要に応じて紹介します。

【コメント】
期末試験の成績と、課題レポート、毎回の講義で実施する小テスト（出席チェックを兼ねる）の内容を総合的に評価して成績を決めます。

講　義　名　称	曜　時
世界経済事情Ⅰ　＜春＞	月3

【教員名称】
モグベル　ザファル

【講義概要】
この講義の主なテーマは経済発展と貧困です。世界経済でいま何が起こっているのか。また、経済の現状を見つめるとき、世界の国々とその国民は何に期待を掛け、何を脅威と受け止めているのか。「世界経済事情Ⅱ」では、このような視点に立って経済発展と貧困の問題に焦点を当てた「世界経済入門」の講義を行い、これらの分野に関連するトピックスを取り上げて分かりやすく説明します。できるだけタイムリーな、そして受講生が関心を持てるようなトピックスを選ぶことを目指します。なお、トピックスの内容や順序は、世界情勢の展開により変わることがあります。

【学習目標】
世界経済の仕組と今日的トッピックスについて分かりやすく解説することがこの講義の趣旨です。受講生が新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの理解と意見を持てるようになればこの講義の目的は果たされたと考えます。

【講義計画】
第１回：世界経済展望
第２回：「ヒト・モノ・カネ」の国際移動とその分類
第３回：先進国・中進国・途上国とその他の分類
第４回：世界銀行の「所得番付」に見る各国経済のランキング
第５回：様々な視点から見た世界の中の日本のランキング
第６回：世界経済の中の日本の位置
第７回：開発途上国と貧困の問題
第８回：国連「ミレニアム開発目標（2000－2015年）」の評価
第９回：国連「持続可能な開発目標　（2015－2030年）」の目指すもの
第10回：国連「持続可能な開発目標　（2015－2030年）」：
持続可能な開発のための2030年アジェンダの17の目標
第11回：貧困撲滅を目指して：グラミン運動
第12回：経済援助の歴史と現状：途上国の視点
第13回：経済援助の歴史と現状：先進国の視点
第14回：日本のＯＤＡ（政府開発援助）の現状と課題
第15回：まとめ：貧困と世界経済の未来象

【事前および事後学習の指示】
1．経済学の基礎を復習しておくこと。
2．配布資料を正しく管理し、その内容について予習・復習を行うこと。
3．新聞の、国際経済関連の記事を継続的に読み、世界経済の現状をできるだけリアルタイムで追うこと。

【テキスト】

【参考文献】
テキストの代わりに、ほとんど毎回資料を配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待する。

【コメント】
出席点は、授業中に行う数回の小テストの結果による。

講　義　名　称	曜　時
世界経済事情Ⅱ　＜秋＞	月2

【教員名称】
モグベル　ザファル

【講義概要】
この授業の主なテーマは国際貿易、国際金融、外国為替市場に係る諸制度です。世界経済でいま何が起こっているのか。また、経済の現状を見つめるとき、世界の国々とその国民は何に期待を掛け、何を脅威と受け止めているのか。「世界経済事情 II」では、このような視点に立って「世界経済入門」の講義を行い、これらの分野に関連するトピックスを取り上げて分かりやすく説明します。できるだけタイムリーな、そして受講生が関心を持てるようなトピックスを選ぶことを目指します。なお、トピックスの内容や順序は、世界情勢の展開により変わることがあります。

【学習目標】
世界経済の仕組と今日的トッピックスについて分かりやすく解説することがこの講義の趣旨です。受講生が新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの理解と意見を持てるようになればこの講義の目的は果たされたと考えます。

【講義計画】
第１回：戦後世界経済のルールとその起源：　「近隣窮乏政策」の負の遺産とその封じ込め
第２回：ＧＡＴＴ／ＷＴＯ体制と国際貿易
第３回：ＧＡＴＴ／ＷＴＯ体制の３大原則
第４回：自由貿易に向けて：　数量規制・関税・非関税障壁の軽減
第５回：ＧＡＴＴ／ＷＴＯ体制におけるさまざまな例外措置：特恵関税と地域統合を中心に
第６回：多角的貿易交渉の過去と現在
第７回：日本のＦＴＡ戦略：　TPP交渉と加盟をめぐって
第８回：東アジア地域統合と日本の対応
第９回：ＩＭＦの組織と仕組み
第10回：金融危機とＩＭＦのコンディショナリティー
第11回：外国為替事情の仕組み
第12回：変動相場制のもとで日本円が歩んできた道・前半
第13回：変動相場制のもとで日本円が歩んできた道・後半
第14回：経済グローバル化の光と影
第15回：経済グローバル化と日本の対応

【事前および事後学習の指示】
1．経済学の基礎を復習しておくこと。
2．配布資料を正しく管理し、その内容について予習・復習を行うこと。
3．新聞の、国際経済関連の記事を継続的に読み、世界経済の現状をできるだけリアルタイムで追うこと。

【テキスト】

【参考文献】
テキストの代わりに、資料をほとんど毎回配布するので、配布資料の責任ある管理を期待する。

【コメント】
出席点は、授業中に行う数回の小テストの結果による

講　義　名　称	曜　時
世界市民－アジアにおける移民と多文化社会　＜秋＞	木3

【教員名称】
小池　誠

【講義概要】
桃山学院大学の建学の理念は、「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民の養成」です。この講義では、本学の目指す「世界の市民」とは何か、また、どうしたら「世界の市民」になれるのかをともに学び考えていきたいと思います。考えるための題材として、日本を中心にしてアジアの移民の問題を取り上げます。偏見と差別なく多様な人々の存在を受け入れる「多文化社会」の理念は、まさに「世界の市民」が目指すものです。どのようにしたら「多文化社会」を実現できるか、ともに考えましょう。なお授業の理解を深めるために可能な限り映像資料を使います。

【学習目標】
講義をとおして、以下の３つの目標を達成できるようにします。
1　現代社会における移民の問題について正しい知識を得る。
2　日本で暮らす多様なルーツをもつ人々の存在を理解し、自分の言葉で説明できる。
3　「世界の市民」の理念にもとづいて「多文化社会」について自分の意見を述べることができる。

【講義計画】
第１回：世界市民の学び方：移民とは、多文化社会とは何か？
第２回：日本に住む「外国人」：国籍とは、日本人とは何か？
第３回：在日韓国・朝鮮人の歴史
第４回：日本で「難民」として暮らす人々
第５回：南米に移民した日本人
第６回：日本で働く「日系人」
第７回：台湾で働くインドネシア人介護労働者
第８回：台湾のインドネシア人コミュニティ
第９回：結婚移民：日本男性と結婚したフィリピン女性
第10回：海外にルーツをもつ子どもたち
第11回：日本で働く「研修生」
第12回：介護の現場で働く東南アジアの女性
第13回：日本で暮らすイスラム教徒
第14回：移民が暮らす街
第15回：まとめ：多文化社会の実現に向けて

【事前および事後学習の指示】
毎回の講義のなかで紹介する図書を読むようにしてください。必要に応じて、次回の講義までに読んでおくべき資料を配布します。

【テキスト】

【参考文献】
吉原和男ほか編集、2013、『人の移動事典――日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版

【コメント】
出席（10%）については、単なる出席ではなく、授業中の質問とコメントカードの内容によって「授業への積極的な参加」を評価する。

講　義　名　称	曜　時
世界市民－リトル東京とチャイナタウン　＜春＞	金1

【教員名称】
串田　久治

【講義概要】
「世界市民（コスモポリテース）」とは、国家や民族などの枠をこえて、普遍的な理性をもつ人間という意味で、今から二千数百年前のヘレニズム時代に生まれた人間観である。「今、なぜ世界市民を考えるのか」、この問いを解く鍵がチャイナタウンにあると考える。本講義では世界中に根を張る中国人のコミュニティー（チャイナタウン）を調べて、その功罪を考えながら、21世紀の「世界市民」を考える。
　なお、本講義を始めるに当たり、都合二回のオリエンテーションを行います。本講義を履修しようと思う人は、必ずいずれかのオリエンテーションに参加し、本講義の目的・講義の進め方などをしっかり理解し納得した方のみ履修することができます。オリエンテーションに参加せずに本講義に登録しても無効です。

【学習目標】
本講義は書物から学ぶものではない。問題意識を持って自分で調べ、調べたことを発表し、それについて議論し、人の意見に耳を傾け、そして自分の頭で考え、その考えを整理することが目的である。具体的には、最初に班分けをし、班で相談して対象国（地域）を決める。しばらくは個々人で調べて発表するが、班でパワーポイントにまとめて発表するので、思考能力・分析力・文章力・プレゼンテーション能力を高めることができる。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
　・今、なぜ世界市民なのか？
　・チャイナタウンとは？
　・なぜ「リトル東京」なのか？
第２回：オリエンテーション
　・今、なぜ世界市民なのか？
　・チャイナタウンとは？
　・なぜ「リトル東京」なのか？
第３回：世界のチャイナタウン（Ⅰ）
第４回：調査研究・発表とディスカッション。
　ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
第５回：調査研究・発表とディスカッション。
　ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
第６回：調査研究・発表とディスカッション。
　ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
第７回：調査研究・発表とディスカッション。
　ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
第８回：調査研究・発表とディスカッション。
　ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
第９回：調査研究・発表とディスカッション。
　ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
第10回：調査研究・発表とディスカッション。
　ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
第11回：調査研究・発表とディスカッション。
　ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
第12回：プレゼンテーション（Ⅰ）
　ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
第13回：プレゼンテーション（Ⅱ）
　ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
第14回：プレゼンテーション（Ⅲ）
　ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
第15回：総括

【事前および事後学習の指示】
毎回M-portで指示する。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
本講義は書物から学ぶものではありません。自分で調べて問題点を発見し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。また、本講義は班ごとに活動しますので、欠席・遅刻は認められません（欠席・遅刻は班の活動に支障をきたし、メンバーに多大な迷惑となります）。遅刻・欠席は講義の妨げとなりますので、講義を辞退していただく場合もあります。
毎回の小レポートと数回の中間レポートが義務づけられ、小レポートおよび中間レポートの不良者は最終レポート提出の資格を失います。
レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますしますが、出席するのが大前提なので出席点はありません。

講　義　名　称	曜　時
世界市民－医と倫理と人権　＜春＞	月1

【教員名称】
永水　裕子

【講義概要】
科学技術･医療技術の発展により、今までは不可能だったことが可能となり、例えば、自然の状態では子どものできないカップルが、生殖補助医療技術により子をもうけることも可能となった。しかし、技術的には可能なことであっても、当事者の人権や尊厳を侵害していないか、かりに侵害していないとしても、本当にそのような技術を利用することが倫理的に適切なのかというジレンマが生ずることがある。この講義では、このような問題について取り上げ、受講生自らに考えてもらうことにより、様々な問題に対して、皆さんが、マスコミが作り出すイメージや感情論から独立して自らの意見を形成できるように材料を提供していく。

【学習目標】
この講義で扱うテーマには、絶対的な正解はない。従って、答えを覚えようという作業は全く意味を成さない。生命倫理の観点から対立のある問題については、とにかく自らの頭で考え続けて自分なりの結論を導き出すしかない。感情論ではなく、受講生が、自分の頭で色々な観点から考えた上で自分の意見を形成できるようになるのが目標である。また、医療事故や薬害が発生する構造的問題についても考えてほしい。ただし、優しい気持ちを失わずに・・・ということも目標の一つである。

【講義計画】
第１回：イントロダクション－患者の権利
第２回：医療訴訟・医療安全管理
第３回：医療情報とプライバシー
第４回：生殖補助医療をめぐる諸問題
第５回：生命誕生の場面における選択（出生前診断、着床前診断等）
第６回：重症新生児の治療をめぐる問題
第７回：終末期医療をめぐる問題（1）
第８回：終末期医療をめぐる問題（2）
第９回：再生医療をめぐる問題
第10回：臓器移植に関する問題
第11回：薬をめぐる規制ー薬害を中心に
第12回：医学研究に関する問題
第13回：遺伝子をめぐる問題
第14回：人体および死因究明に関する問題
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義で得た知識をさらに発展させるために、講義の際に示した当該項目に関する参考文献を読むこと。家族や友人との議論も行うとなおよい。また、講義についていくために、上記参考文献のいずれか、あるいは自分で選んだ本の中の該当箇所を事前に読んで予習すること。

【テキスト】

【参考文献】
宇都木伸･塚本泰司編『現代医療のスペクトル』（尚学社）
手嶋豊『医事法入門第4版』（有斐閣）
甲斐克則編『レクチャー生命倫理と法』（法律文化社）
久々湊晴夫＝旗手俊彦編『はじめての医事法　第２版』（成文堂）
甲斐克則編『ブリッジブック医事法』（信山社）

【コメント】
期末試験のほか、講義の最後に意見を書いてもらうことがあり、加点事由として考慮している。

講　義　名　称	曜　時
世界市民－近代日本の戦争と社会　＜秋＞	木1

【教員名称】
島田　克彦

【講義概要】
この授業では、近代日本社会が経験した戦争の歴史を講義します。第二次世界大戦の基本的な性格として、戦争による一般市民の犠牲者数が軍人を大きく上回ることが挙げられます。この授業では、大戦末期の大阪大空襲と沖縄戦を取り上げ、その実態、歴史的背景、および戦後社会へのつながりについて、具体的に考察していきます。かつて戦争を経験した日本社会について学ぶことで、歴史を生きた人々の生のあり方にも触れてほしいと思います。その学びが、本学の養成する「世界の市民」に近づくための糧となるでしょう。

【学習目標】
1．大阪大空襲と沖縄戦に関する基礎知識を身につけること。
2．戦争体験者の証言に触れて、人々の生のあり方を理解すること。
3．戦争の経験を基礎として成り立つ日本社会のあり方について、自分なりの意見を持つこと。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション　授業の進め方や期待する学びについて伝達します。
第２回：授業の導入
第３回：大阪大空襲（1）　第二次世界大戦末期の本土空襲
第４回：大阪大空襲（2）　どのように行われ、どのような被害が生まれたか
第５回：大阪大空襲（3）　都市無差別爆撃の歴史的位置
第６回：大阪大空襲（4）　空襲体験者たちの戦後
第７回：中間まとめ
第８回：沖縄戦（1）　民衆を巻き込んだ地上戦
第９回：沖縄戦（2）　生きのびる人々
第10回：沖縄戦（3）「銃剣とブルドーザー」―戦後の沖縄
第11回：沖縄戦（4）　沖縄の大地と米軍基地―戦後の沖縄
第12回：中間まとめ
第13回：戦後社会の出発（1）
第14回：戦後社会の出発（2）
第15回：試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】
配布資料をもとに次回の授業について予習すること。その達成度を授業開始時の課題で自己チェックしていきます。

【テキスト】

【参考文献】
小山仁示『(改訂）大阪大空襲―大阪が壊滅した日』東方出版、1985年
江口圭一『大系日本の歴史14　二つの大戦』小学館（ライブラリー版）、1993年
荒井信一『空爆の歴史―終わらない大量虐殺』岩波書店（新書）、2008年
東京大空襲・戦災資料センター編『東京・ゲルニカ・重慶』岩波書店、2009年
新崎盛暉『現代日本と沖縄』山川出版社（日本史リブレット）、2001年
林博文『沖縄戦と民衆』大月書店、2001年
木畑洋一『第二次世界大戦―現代世界への転換点』吉川弘文館（歴史文化ライブラリー）、2001年
木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波書店（新書）、2014年
その他、適宜紹介します。

【コメント】
試験は、授業内容に関する論述とします。
レポート課題を２回予定しています。２回とも提出することが単位修得の条件です。
「出席」は「平常点」と理解すること。毎回の課題を提出し、相応の結果を出すことで平常点が蓄積されます。
着実に、粘り強く、学習を積み重ねていきましょう。

講　義　名　称	曜　時
世界市民－現代アメリカ論　＜春＞	月1

【教員名称】
山本　順一

【講義概要】
現代国際社会の中心に位置づけられるアメリカにおいて、ドナルド・トランプが大統領になり、アメリカ国内、同盟国とされるこの国だけでなく、世界の全体が大きく変わろうとしています。この講義では、大きく変貌しようとするアメリカ社会について、政治、経済、教育、文化、市民社会など、多様な側面をとりあげます。難しい話はせず、全米レベルのニュースだけでなく、個人的にもなじみのあるメキシコ国境にあるアリゾナ州の最近のニュースなど、具体的な事件やイベント等を素材として、アメリカ社会の現状を一緒に考えようと思っています。

【学習目標】
最近発生した具体的な事件や事実をお話しし、今日のアメリカ社会について関心を深め、またその一端についての知識をえていただくことがこの科目の目標です。ひとりでも多くの学生にアメリカ留学を考えてもらえればと思います。

【講義計画】
第１回：そのときどきの最新のニュースを交えてお話しするつもりでいます。このシラバスはおおむねの講義の内容と順序を示すもので、臨機応変に順序・内容を組み替えますので、そのつもりでいてください。
はじめに：トランプのアメリカ
第２回：アメリカという国の概要
第３回：自由と差別の国、アメリカ
第４回：いたるところにガンマンとマリファナが存在するアメリカ
第５回：デパートやスーパーマーケットが閉店してゆくアメリカ
第６回：１パーセントの大金持ちと最低賃金で働く労働者
第７回：エリートを育てる私立学校と多くのドロップアウトが生まれる公立学校
第８回：困難な財政に立ち向かう研究大学、パートタイム学生が学ぶコミュニティカレッジ、そして営利大学
第９回：赤い州と青い州、そして連邦政府
第10回：透明度の高い政治、情報公開と会議公開、公務員が受発信するeメールは公文書
第11回：オバマケアの悲劇、貧乏人が病気や大怪我をすると大変
第12回：戦争を続ける平和希求国家アメリカ、そして日本の軍事基地と自衛隊
第13回：プライバシーを尊重するアメリカとプライバシーを軽視するアメリカ、愛国者法から米国自由法へ
第14回：バーチャルリアリティのアメリカと自然豊かなアメリカのリアリティ
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
ときどきはアメリカに関する日本語で書かれたウェブページや英語で書かれたアメリカのニュースサイトを見てください。

【テキスト】

【参考文献】
授業中におりにふれアメリカ社会を考えるうえで、役に立つ啓蒙書、新刊書を紹介します。

【コメント】
パワーポイントを用い、できるだけ多くの画像を見ていただき、一緒に希望と矛盾に満ちたアメリカ社会について一緒に考えましょう。ひるがえって日本社会の特質についても考えてほしいと思います。
テキストは使用しません。

講　義　名　称	曜　時
世界市民－人権、平和、環境　＜春＞	金3

【教員名称】
伊藤　カンナ

【講義概要】
桃山学院大学の建学の理念は、「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民の養成」です。この講義では、「世界の市民」として必要な知識や姿勢をともに学び考えていきます。講義では、キリスト教精神と本学の歩んできた歴史、世界事情、人権、平和、環境をテーマに、日本語・外国語での情報収集やディスカッション、プレゼンテーションを通して、知識の習得に加え、自分で考え、協働して課題に取り組む姿勢を学びます。

【学習目標】
国際社会において絶対的な「善」や「悪」は存在しません。相手が大切だと思っている価値観を少しでも理解し、それを尊重する気持ちや姿勢を示すことが「世界の市民」として良好な人間関係を築くことにつながるはずです。この講義では、基礎的な教養を身につけるとともに、頭の中の「当たり前（常識）」に疑問を投げかけ、自ら興味を持って調べ、積極的に考え、話し合っていく姿勢やスキルの修得を目標とします。

【講義計画】
第１回：イントロダクション
第２回：キリスト教①
第３回：キリスト教②
第４回：キリスト教③
第５回：国際事情①
第６回：国際事情②
第７回：国際事情③
第８回：人権①
第９回：人権②
第10回：戦争と平和①
第11回：戦争と平和②
第12回：戦争と平和③
第13回：環境問題①
第14回：環境問題②
第15回：総まとめ

【事前および事後学習の指示】
本講義は、自分で調べて問題点を発見し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。班ごとの活動が多いので、欠席・遅刻・授業外活動への不参加等で班活動に支障を与える場合には単位を認めません。
レポート作成の宿題や小テストを毎回課します。授業外の活動ができない場合、単位取得は困難です。
テーマについての事前学習、情報収集、授業後すぐの復習を徹底して行うこと。レポートや宿題には、英語を用いた情報収集・インタビューを課しますので、英語を使う努力は怠らないでください。

【テキスト】

【参考文献】
ポメランツ、トピック『グローバル経済の誕生』筑摩書房、2013年、A.ディートン『大脱出　健康、お金、格差の起源』みすず書房、2014年、松岡正剛『17歳のための世界と日本の見方』春秋社、2006年、B.ミラノヴィッチ『不平等について』みすず書房、2012年など。

【コメント】
※但し、受講者数等によって変更となる可能性があります。
レポート作成の宿題や小テストを毎回課します。授業外の活動ができない場合、単位取得は困難です。
初回の講義に、授業内容の説明と宿題テストを配布するので必ず参加すること。

講　義　名　称	曜　時
世界市民－世界の街から考える　＜秋＞	金４

【教員名称】
中野　瑞彦

【講義概要】
この講義では、世界の様々な人や街が抱える問題を見つめることで、世界は今どのような方向に向かっているのかを考えます。

【学習目標】
世界の人々や社会が持つ多様性とともに、共生することの大切さを理解することを学習目標とします。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション/ロンドンで考える
第２回：パリで考える
第３回：リスボンで考える
第４回：マルタで考える
第５回：オークニー島で考える
第６回：バルセロナで考える
第７回：カンタベリーで考える
第８回：ワシントンで考える
第９回：ブタガヤで考える
第10回：カイロで考える
第11回：ドバイで考える
第12回：エルサレムで考える
第13回：ウィーンで考える
第14回：ベルリンで考える
第15回：まとめ／ロンドンで再び考える

【事前および事後学習の指示】
次回学習する街やその住民について各種文献により事前学習をしてください。講義後は、講義内容を振り返りながら、採りあげた課題に対する理解が深まるよう各種文献により事後学習をしてください。

【テキスト】

【参考文献】
特になし

【コメント】
期末テスト60点、レポート各20点×2回

講　義　名　称	曜　時
世界市民－世界経済入門　＜春＞	火4

【教員名称】
梅本　哲世

【講義概要】
この講義は、世界経済の現状について基礎的な知識を提供することを目標とする。そのさい、グローバル化の現在、多国籍企業と海外投資、国際通貨体制、食料問題、エネルギーと資源、環境問題、南北問題、軍事化と国際紛争、などについて解説する。
この講義により、日本を取り巻く世界の状況について学んでほしい。これを基礎にして、世界経済および日本経済の現在と今後について一層深く理解してほしい。

【学習目標】
世界経済に現在生じている新しい問題や事象について正確に理解することを目標とする。

【講義計画】
第１回：はじめに
第２回：世界経済の二重の危機-金融危機と国家債務危機
第３回：グローバル化と地域化
第４回：貿易とTPP
第５回：多国籍企業と海外投資
第６回：国際通貨危機と円
第７回：食料と人口問題
第８回：エネルギーと資源　その１
第９回：エネルギーと資源　その２
第10回：環境問題　その１
第11回：環境問題　その２
第12回：南北問題　その１
第13回：南北問題　その２
第14回：軍事化の進行と市民社会の現状
第15回：おわりに

【事前および事後学習の指示】
授業前にテキストの該当部分を予習してくること。

【テキスト】
新・世界経済入門 西川潤　岩波書店 岩波新書1482

【参考文献】
授業中に指示する。

【コメント】
試験の内訳：期末テスト　80%　小テスト（3～4回程度）20%

講　義　名　称	曜　時
世界市民－政治と宗教の思想史　＜春＞	火4

【教員名称】
梅田　百合香

【講義概要】
本講義では、政治権力と教会権力の対立を軸に、古代から18世紀にかけての西洋の主要な思想家または思想の分析を通じて、現代においても再び重要な問題となっている政治と宗教の対立問題の本質を歴史的な視点から考察する。

【学習目標】
思想史研究を通じて、現代社会と現代世界を批判的に認識する視点と問題を克服するための独創的な構想力を養うことを目標とする。

【講義計画】
第１回：講義ガイダンス
キリスト教の誕生
第２回：アウグスティヌス
第３回：ヨーロッパ世界の成立
第４回：12世紀ルネサンスとスコラ哲学
第５回：普遍戦争と中世世界の解体
第６回：マキアヴェッリ
第７回：宗教改革
第８回：宗教内乱期の政治思想
第９回：イングランド内乱
第10回：ホッブズ
第11回：ハリントン
第12回：ロック
第13回：モンテスキュー
第14回：啓蒙思想
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義内容（パワーポイント）は、講義終了後Ｓドライブ（eureka）より見ることができる。
各思想家が提起した問題と関わるような自分の身近な出来事や政治や社会の問題を、できるだけ意識し気にかけておくことが望ましい。

【テキスト】
西洋政治思想史 宇野重規　有斐閣、2013年

【参考文献】

【コメント】
基本的には期末試験の点数で評価されるが、レスポンスシートにより講義に積極的に参加した場合、平常点が加点される。
毎回、講義の最後に感想・質問をレスポンスシートに記入し提出することができる。提出は義務ではなく任意であるが、このレスポンスシートをもとに次回授業中に質疑応答が行われ、応答に積極的に参加した受講者は平常点として加点される。

講　義　名　称	曜　時
世界市民－戦争と正義－日本を巡る国際法上の諸問題　<秋>	木3

【教員名称】
松村　昌廣

【講義概要】
世界市民になるには、世界情勢に対する深い理解とともに、道徳的な判断力も必要である。とりわけ、多大な人命が犠牲になり、甚大な物理的破壊をともなう戦争と正義の問題は重要である。実際、第二次世界大戦・大東亜戦争・太平洋戦争（立場により、呼称が異なる）の敗戦国あった日本はドイツやイタリアとともに「侵略国」と位置付けられ、国際的な非難にさらされてきた一方、そうした位置付けを巡って、わが国の国内外でも賛否が激しく議論されてきた。そこで、本講義では、こうした議論を行う際の「始まり」であり且つ往々にして「終わり」である国際法上確定した事実などを詳しく解説することで、学生諸君の一助たらんとの思いで話しを進める。

【学習目標】
戦争は始まりから終わりまで国際法に従って行われます。そうしなければ、国際法に違反することとなり、国家やその軍隊、場合によっては、個人の政治指導者や軍人は責任を負わねばなりません。国際法上、戦争はいつ、どのように始まり、終わるのでしょうか。また、戦争中は何が許され、何が許されないのでしょうか。本講義では、日本のケースに焦点を絞って、こうした論点を具体的に考えていきます。学生諸君の中には高校の世界史や日本史の授業で近現代史に関する知識を十分身につけていない者も散見されますが、こうした学生は本講義をとることによって、基本的な知識を習得するきっかけとなるでしょう。また、本講義の内容を十分習得すれば、わが国の戦争と正義の問題に関する論争をより深く理解し、自分なりの意見を持つことが可能になるでしょう。

【講義計画】
第１回：正義と戦争　－　国際法の観点
第２回：日米開戦
第３回：原爆投下・空襲
第４回：「無条件降伏」と占領（1）
第５回：「無条件降伏」と占領（2）
第６回：東京裁判
第７回：サンフランシスコ講和条約
第８回：台湾（1）
第９回：台湾（2）
第10回：千島列島・北方領土（1）
第11回：千島列島・北方領土（2）
第12回：南樺太（南サハリン）
第13回：竹島
第14回：尖閣列島
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義の進度に合わせて、参考文献に挙げた書籍を読んでください。

【テキスト】

【参考文献】
・色摩力男『日本人はなぜ終戦の日付をまちがえたのか』黙出版、2000年。
・芹田健太郎『日本の領土』中公文庫、2010年。
・各自必ず、インターネットから関連の条約等をダウンロードして、ファイルの形で自分の「条約集」を
作ってください。

【コメント】
なお、登録者が少ない場合は出席確認を毎回行い、その場合、試験７０％、出席３０％の配点とする。

講　義　名　称	曜　時
世界市民－紛争解決の知識とスキル　<秋>	木1

【教員名称】
山本　順一

【講義概要】
わたしたちは好むと好まないとにかかわらず、身の回りにもめごと、紛争が発生し、それにいやおうなく巻き込まれてしまいます。そのような日常的紛争にどのように対応するのかについて、アメリカの考え方、自力紛争解決法（pro se litigation）などの考え方を参考にしながら、これからの身の処し方について思いを巡らせてみましょう。

【学習目標】
ひとの世にもめごと、紛争と事件、事故は不可避です。一生のうち必ず何度かは遭遇する身の回りのもめごと、紛争に関して、主体的に解決するための基本的知識とスキルを身につけることを目標とします。

【講義計画】
＊以下に予定している15回の講義内容を示しますが、おおむねの目安です。タイムリーな時事的トピックが発生したときなどは、臨機応変に講義内容に反映させようと思っています。内容と順序についても、履修者の理解の程度を確かめながら、臨機応変に対応します。
第１回：はじめに：もめごと学ことはじめ
第２回：まさかわたしに：私自身にふりかかった余計な事件
第３回：紛争事実の調べ方
第４回：もめごと・紛争ノートの作成法
第５回：事件、紛争と人間
第６回：調停（mediation）や仲裁（arbitration）
第７回：ディスカバリー（証拠開示）の哲学
第８回：日本のもめごと、民事訴訟の実態：日本の裁判は国民に信頼されているか？
第９回：最近のアメリカの事件を参考に
第10回：日本の紛争裁断に関する諸制度：もめると原状回復、もとに戻ることはできない⇒新しい秩序の形成
第11回：フォーラム・ショッピング
第12回：日本とアメリカの少額訴訟
第13回：アメリカの家庭裁判所（family court）
第14回：アメリカ人の破産と倒産裁判所（bankruptcy court）
第15回：まとめ：リーガル・リテラシー

【事前および事後学習の指示】
時間の余裕のあるときに、近くの大阪地方裁判所堺支部や岸和田支部、堺簡易裁判所や岸和田簡易裁判所などに出かけてみてください。

【テキスト】

【参考文献】
Paul Bergman and Sara Berman, Represent Yourself in Court: How to Prepare and Try a Winning Case. 8th ed., Nolo, 2013.
橘 玲『臆病者のための裁判入門』文春文庫，2012.
河野順一『身の回りの法律トラブル対処法』自由国民社，2007.

【コメント】
まじめに出席し、一緒に考えていただければ、一定程度の交渉能力、紛争回避能力、紛争処理能力が修得できます。授業中にみなさんに対してしばしば質問をなげかけます。上手に応えられれば加点措置をとらせていただきます。楽しみながら一緒に考えましょう。

講　義　名　称	曜　時
政治学　＜通期＞	木1

【教員名称】
松村　昌廣

【講義概要】
現代日本政治の課題と展望を総合的に考察できるように、近代国家の憲法体制と国際政治の相互作用に焦点を置いて講義を進める。講義前半は近代国家の誕生・発展の歴史的背景、そして憲法体制の政治思想的根拠について説明する。講義後半は先ず主権国家システムを歴史的背景と構造を理解した上で、国際政治の主要問題を概観し、そうした諸問題に対する現代日本政治の対応を実証的に分析する。

【学習目標】
近代西洋政治史・政治思想における主要な概念を習得し、国際政治の構造を理解する。その上で、現在の国際政治と現代日本政治の主要な諸課題について、初歩的な実証的分析を行う能力を養う。

【講義計画】
第１回：政治学とは何か
第２回：近代国家と憲法
第３回：憲法と議会
第４回：宗教改革と民主主義
第５回：民主主義と資本主義
第６回：社会契約論
第７回：民主主義のルール
第８回：民主主義と共和制
第９回：平和主義と戦争　―　ファシズムの台頭
第10回：民主主義憲法体制と経済 ―　ケインズとヒトラー
第11回：日本における憲法の歴史的分析　―　江戸時代末期まで
第12回：日本における憲法の歴史的分析　―　大日本帝国憲法
第13回：日本国憲法と政治体制
第14回：国際政治の現状と日本国憲法
第15回：前半のまとめ
第16回：主権国家システム　―　その誕生、構造、政治過程
第17回：主権国家システムの変容①　―　二つの大戦と冷戦
第18回：主権国家システムの変容②　―　欧州統合
第19回：主権国家システムの変容③　―　相互依存とグローバル化
第20回：主権国家システムの諸問題①　―　南北問題
第21回：主権国家システムの諸問題②　―　地域紛争・民族問題
第22回：主権国家システムの諸問題③　―　テロリズム
第23回：主権国家システムの諸問題④　―　環境問題
第24回：主権国家システムの変容④　―　米国覇権の動揺と中国の台頭
第25回：現代日本政治の動揺　―　55年体制の誕生から崩壊まで
第26回：現代日本政治の諸問題①　―　選挙制度とマスメディア
第27回：現代日本政治の諸問題②　―　議院内閣制と官僚内閣制
第28回：現代日本政治の諸問題③　―　外交・安全保障政策
第29回：現代日本政治の課題と展望
第30回：総括と試験

【事前および事後学習の指示】
予習・復習のため、指定参考書の関連部分や講義で紹介する文献を読んでください。

【テキスト】
痛快!　憲法学 小室直樹　集英社インターナショナル

【参考文献】

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
政治学原論　＜通期＞	水3

【教員名称】
捧　堅二

【講義概要】
政治学原論とは、政治学の原理的な理論である。現代の政治学者、社会科学者、主要な政治思想家の理論について学ぶ。講師自身の独自の観点が講義に入ることもあるが、基本的にはできるだけ一般的な政治学の内容を講義するつもりである（講義内容の３分の1は、公務員試験の出題分野と重なるので、一定の配慮をして講義するつもりである）。

【学習目標】
政治学の基本理論を習得することが目標である。

【講義計画】
第１回：はじめに
第２回：政治とは何か1
第３回：政治とは何か2
第４回：権力とは何か
第５回：国家論1（社会契約論）
第６回：国家論2（マルクスとバクーニン）
第７回：国家論3（征服国家論と国家3要素説）
第８回：国家論4（ヴェーバー、多元的国家論）
第９回：エリートと権力構造1（古典的エリート論）
第10回：エリートと権力構造2（ミルズと先進国の権力構造）
第11回：民主制（概念と歴史）
第12回：民主制2（現代民主制――代表民主制、自由民主制）
第13回：民主制3（世界の民主化）
第14回：予備
第15回：テスト（予定）
第16回：正統性1
第17回：正統性2
第18回：政治家の条件（職業としての政治と責任倫理）
第19回：民主制4（大衆社会と大衆民主制1）
第20回：民主制5（大衆社会と大衆民主制2）
第21回：政党1
第22回：政党2
第23回：非民主制（1）
第24回：非民主制（2）
第25回：非民主制（3）
第26回：国家と官僚制
第27回：未定
第28回：未定
第29回：未定
第30回：試験及びまとめ（予定）

【事前および事後学習の指示】
毎回、Ａ３サイズのプリントを数枚配布するので、前の回の授業で配布されたプリントをあらかじめ読んだうえで、次回の授業にのぞむこと。

【テキスト】
使用しない

【参考文献】
猪木正道『政治学新講』有信堂高文社、1962年
牧野 雅彦『共存のための技術 新版―政治学入門』大学教育出版2008年
マックス・ヴェーバー『職業としての政治』岩波文庫、1980年
武田好『NHK「100分de名著」ブックス マキャベリ 君主論』NHK出版、2012年
マキアヴェリ『新訳 君主論』中公文庫BIBLIO2002年
田畑稔ほか『二一世紀入門』青木書店、1999年

【コメント】
３分の２以上の授業に出席した者が成績評価の対象になる。それ以下の者は評価の対象外となるので注意してほしい。

講　義　名　称	曜　時
精神保健学A　＜春＞	月3

【教員名称】
辻井　誠人

【講義概要】
精神保健に関する様々な課題とそれへの取組みについて、受講生の身近なものとして考察できるように具体的な事例や状況を取り上げながら解説する。また、精神保健の課題について、ソーシャルワーカーとしての視点で捉え、その役割を探求する契機を提供できるよう講義する。
講義概要と学習目標は精神保健学Bと共用する。

【学習目標】
① 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割を理解する。
② 現代の精神保健の諸課題と精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割を理解する。
③ 精神保健の保持及び増進を担う専門機関や関係職種の役割と連携を理解する。
④ 国際機関の精神保健活動や他の国々の活動を理解する。

【講義計画】
第１回：本科目に関するガイダンス
第２回：学校教育の課題と精神保健からのアプローチ①
ー不登校
第３回：学校教育の課題と精神保健からのアプローチ②
ーいじめ
第４回：学校教育の課題と精神保健からのアプローチ③
ー自殺
第５回：学校教育の課題と精神保健からのアプローチ④
ー教員の精神保健
第６回：学校教育の課題と精神保健からのアプローチ⑤
ー関係専門職と関係法規
第７回：勤労者の課題と精神保健からのアプローチ①
ー労働環境の変遷
第８回：勤労者の課題と精神保健からのアプローチ②
ーストレス、心身症、生活習慣病
第９回：勤労者の課題と精神保健からのアプローチ③
ーうつ病と過労死自殺
第10回：勤労者の課題と精神保健からのアプローチ④
ー飲酒、ギャンブルなどの依存
第11回：勤労者の課題と精神保健からのアプローチ⑤
ー課題に対応する関係法規
第12回：勤労者の課題と精神保健からのアプローチ⑥
ー課題に対応する機関と精神保健福祉士の役割
第13回：社会的ひきこもり対策
第14回：ニート・若年無業者対策
第15回：まとめ
精神保健の概要ー国際機関の精神保健活動や他の国々の活動から

【事前および事後学習の指示】
授業計画に示されている内容について教科書を読み、わからない事項について調べておくこと。

【テキスト】
新・精神保健福祉士養成講座　第２巻『精神保健の課題と支援』（第２版）
日本精神保健福祉士養成校協会 978-4-8058-5117-3 中央法規出版 精神保健学Bと共用する。

【参考文献】
必要に応じて授業の中で紹介する。

【コメント】
・質問・意見・反論はその都度受けるが、私語をはじめとする他の受講生に迷惑となる行為、授業と関係の無い作業等は発見次第、退出願うので、注意すること。
・講義計画の順番は事前に伝えた上で入れ替えることがある。
・評価は、レポートを課した場合は、最大１～１０％とし、試験を９０～９９％とする。

講　義　名　称	曜　時
精神保健学B　＜秋＞	月3

【教員名称】
辻井　誠人

【講義概要】
精神保健に関する様々な課題とそれへの取組みについて、受講生の身近なものとして考察できるように具体的な事例や状況を取り上げながら解説する。また、精神保健の課題について、ソーシャルワーカーとしての視点で捉え、その役割を探求する契機を提供できるよう講義する。
講義概要と学習目標は精神保健学Aと共用する。

【学習目標】
① 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割を理解する。
② 現代の精神保健の諸課題と精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割を理解する。
③ 精神保健の保持及び増進を担う専門機関や関係職種の役割と連携を理解する。
④ 国際機関の精神保健活動や他の国々の活動を理解する。

【講義計画】
第１回：本科目に関するガイダンス
第２回：精神保健の歴史ー世界及び日本の精神保健活動の展開
第３回：ライフサイクルと精神の健康１（ライフサイクルと発達課題）
第４回：ライフサイクルと精神の健康２（出生前～青年期）
第５回：ライフサイクルと精神の健康３（成人期～老年期）
第６回：ストレスと精神の健康
第７回：精神の健康、疾患、障害の概念
第８回：精神保健に関する予防の概念と対象
第９回：精神保健に関する行政機関や団体の役割及び連携
第10回：精神保健に関する専門職種とその連携
第11回：家族の課題と精神保健からのアプローチ１（現代日本の家族特徴）
第12回：家族の課題と精神保健からのアプローチ２（育児をめぐる精神保健）
第13回：家族の課題と精神保健からのアプローチ３（家族の問題と相談機関）
第14回：家族の課題と精神保健からのアプローチ４（家族の問題にかかわる精神保健福祉士の役割）
第15回：精神保健の概要（全体のまとめ）

【事前および事後学習の指示】
授業計画に示されている内容について教科書を読み、わからない事項について調べておくこと。

【テキスト】
新・精神保健福祉士養成講座　第２巻『精神保健の課題と支援』（第２版）
日本精神保健福祉士養成校協会 978-4-8058-5117-3 中央法規出版 精神保健学Aと共用する。

【参考文献】
必要に応じて授業の中で紹介する。

【コメント】
・質問・意見・反論はその都度受けるが、私語をはじめとする他の受講生に迷惑となる行為、授業と関係の無い作業等は発見次第、退出願うので、注意すること。
・講義計画の順番は事前に伝えた上で入れ替えることがある。
・評価は、レポートを課した場合は、最大１～１０％とし、試験を９０～９９％とする。

講　義　名　称	曜　時
精神保健福祉援助技術総論A　＜春＞	木3

【教員名称】
辻井　誠人

【講義概要】
精神保健福祉士が行う相談援助の理念と概要について理解する。
① 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。
② 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。
③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

【学習目標】
精神保健福祉士が行う相談援助の理念と概念及び理念を習得する。

【講義計画】
第１回：本講義の概要、構成、進め方、及び評価についてのガイダンス
第２回：精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方①
第３回：精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方②
第４回：精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方③
第５回：相談援助に係わる専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲①
第６回：相談援助に係わる専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲②
第７回：相談援助に係わる専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲③
第８回：相談援助に係わる専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲④
第９回：相談援助に係わる専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲⑤
第10回：精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲①
第11回：精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲②
第12回：精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲③
第13回：精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容①
第14回：精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容②
第15回：試験と解説

【事前および事後学習の指示】
・「精神障害」とは何であるのか、また「精神障害者」とはどのような人のことをいうのかについて調べておくこと。
・「精神障害者」にかかわる専門職について調べておくこと。
・精神保健福祉士の行う相談援助について調べておくこと。

【テキスト】

【参考文献】
必要に応じて講義の中で紹介する。

【コメント】
・質問・意見・反論はその都度受けるが、私語をはじめとする他の受講生に迷惑となる行為、授業と関係の無い作業等は発見次第、退出願うので、注意すること。
・講義計画の順番は事前に伝えた上で入れ替えることがある。
・レポートを課した場合は、最大１～１０％とし、試験を９０～９９％とする。

講　義　名　称	曜　時
精神保健福祉論A　＜春＞	月4

【教員名称】
栄　セツコ

【講義概要】
精神保健福祉士が相談援助活動を行ううえで必要とされる精神保健福祉法をはじめとする精神保健福祉に関する制度やサービス等について学習する。精神保健福祉法の意義と内容、精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス、精神障害者に関連する社会保障制度の概要、相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働、精神保健福祉士の相談援助の事例について学習する。

【学習目標】
1.精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法との関わりについて理解する。
2.精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。
3.精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション　精神保健福祉に関する制度とサービス
第２回：精神保健福祉法の意義と内容①　法律の目的と法に規定された制度等
第３回：精神保健福祉法の意義と内容②　精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割
第４回：精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス①
障害者基本法と精神障害者施策との関わり
第５回：精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス②　障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際
第６回：精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス③　精神障害者を対象とした福祉施設・事業の実際
第７回：精神障害者に関連する社会保障制度の概要①　医療保険制度の意義と内容
第８回：精神障害者に関連する社会保障制度の概要②　介護保険制度の意義と内容
第９回：精神障害者に関連する社会保障制度の概要③　経済的支援に関する制度の意義と内容
第10回：相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働①
行政組織と民間組織の役割と実際
第11回：相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働②
福祉サービス提供施設・機関の役割と実際
第12回：相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働③
インフォーマルな社会資源の役割と実際
第13回：相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働④
専門職や地域住民の役割と実際
第14回：精神保健福祉士の相談援助　事例
第15回：試験と解説

【事前および事後学習の指示】
精神保健福祉論Aは、精神保健福祉士の国家試験受験資格取得に必要な科目である。
精神保健福祉論Aを履修の上、精神保健福祉論B、精神保健福祉論Cを履修することが望まれる。

【テキスト】
新・精神保健福祉士養成講座　第6巻『精神保健福祉に関する制度とサービス』（第４版）青木聖久、大塚淳子、金子 努、長崎和則編集　中央法規出版

【参考文献】

【コメント】
成績評価の方法は、試験が重視されるが、レポート・出席も加味して総合的に評価する。

講　義　名　称	曜　時
精神保健福祉論C　＜秋＞	月4

【教員名称】
栄　セツコ

【講義概要】
精神障害者の概念、精神障害者の生活の実際、精神障害者の生活と人権、精神障害者の居住支援・就労支援・生活支援システム、市町村における相談援助、その他の行政機関における相談援助について学習する。

【学習目標】
1.精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。
2.精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。
3.職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む）について理解する。
4.行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション　本授業の概要と精神保健福祉士の養成における本授業の位置づけ
第２回：精神障害者の概念①　「精神障害者」に関する法的定義
第３回：精神障害者の概念②　精神障害の特性と生活者の視点
第４回：精神障害者の生活の実際①　精神障害者の生活実態
第５回：精神障害者の生活の実際②　精神障害者の家族・社会の実態
第６回：精神障害者の生活と人権①　医療機関等における精神障害者の人権
第７回：精神障害者の生活と人権②　地域生活における精神障害者の人権
第８回：精神障害者の居住支援①　居住支援制度の概要とそれに係わる専門職の役割と連携
第９回：精神障害者の居住支援②　居住支援の実際
第10回：精神障害者の就労支援①　就労支援制度の概要とそれに係わる専門職の役割と連携
第11回：精神障害者の就労支援②　就労支援の実際（福祉的就労と一般就労の実際）
第12回：精神障害者の生活支援システム　精神障害者の自立と社会参加
第13回：市町村における相談援助　精神保健福祉相談員の役割と実践
第14回：その他の行政機関（都道府県・保健所・精神保健福祉センター等）における相談援助
精神保健福祉士の役割と実践
第15回：試験と解説

【事前および事後学習の指示】
・配布される講義レジェメの指示にしたがってあらかじめ予習・復習すること。
精神保健福祉論Cは、精神保健福祉士の国家試験受験資格取得に必要な科目である。
精神保健福祉論Aを履修の上、精神保健福祉論B、精神保健福祉論Cを履修することが望まれる。

【テキスト】
適宜、資料を配布する。

【参考文献】
適宜、資料を配布する。

【コメント】
成績評価の方法は試験が重視されるが、レポート・出席も加味して総合的に評価する。

講　義　名　称	曜　時
西洋経済史Ⅰ　＜春＞	金2

【教員名称】
伊藤　カンナ

【講義概要】
この講義では、今日私たちが慣れ親しんでいる資本主義経済システムの発展と、世界市場が形成されていく過程を学ぶ。(I) では、古代から中世のヨーロッパの社会・経済の発展をひもとき、大航海時代にヨーロッパが世界に進出し、北米・西インド諸島・南米・アジア・アフリカとの間で「世界が一体化」していく「グローバル化」の歴史的過程を学ぶ。

【学習目標】
現代の資本主義社会が、どのような歴史的変遷を経て成立してきたのかを、グローバルな視点から理解する。歴史（経済史）をツールとして柔軟な思考を養う。(I) では、中世・近世のヨーロッパ地域における市場経済の発達や経済政策の展開を検討しながら、今日私たちが慣れ親しんでいる資本主義経済システムの発展と、世界市場が形成されていく過程を学ぶ。授業ではたくさんの板書や話をします。授業を聞いて書き取る力を養うことも学習目標としています。

【講義計画】
第１回：イントロダクション
第２回：古典古代の経済社会
第３回：中世ヨーロッパの農村社会
第４回：中世ヨーロッパの都市社会
第５回：イタリア都市国家の繁栄
第６回：経済発展とルネサンス
第７回：映像で見るヨーロッパ史
第８回：封建制の解体（1）
第９回：封建制の解体（2）
第10回：宗教改革と資本主義の倫理感
第11回：地理上の発見のインパクト
第12回：商業革命と「資本主義世界経済システム」（1）
第13回：商業革命と「資本主義世界経済システム」（2）
第14回：国民国家の形成と市場経済
第15回：総まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義では経済活動の歴史を学ぶため、内容を理解するには歴史だけでなく経済学の知識も必要となる。それらの予備知識が十分でなくても理解できるような説明を心がけるが、内容は多岐にわたるため、予習・復習を毎回行わないと単位修得は困難である。また、英語論文を読む宿題や確認テストも行うので、英語の学習には力を入れること。
現代社会と、それが抱える問題が、歴史的にどのような背景をもって生み出されてきたのかに興味・関心を持って授業に参加してください。

【テキスト】
エレメンタル欧米経済史 馬場 哲、山本 通、廣田 功、須藤 功　晃洋書房

【参考文献】
藤瀬浩司『新訂　欧米経済史　―資本主義と世界経済の発展―』放送大学出版会、2000年。各回のテーマに合わせて、講義の際に適宜紹介します。

【コメント】
不定期の小テストやレポート課題を課す予定である。
初回の講義時に、講義内容の説明と、テストおよび宿題配布を実施するので、必ず参加すること。

講　義　名　称	曜　時
西洋経済史Ⅱ　＜春＞	火3

【教員名称】
伊藤　カンナ

【講義概要】
この講義では、今日私たちが慣れ親しんでいる資本主義経済システムの発展と、世界市場が形成されていく過程を学ぶ。(II) では、大航海時代にヨーロッパで国民国家が形成される過程と、諸国がとった経済政策を検証する。さらに、18世紀半ば以降のイギリスにおける産業革命の展開と、それが人々の生活や世界経済に与えた影響を検討する。

【学習目標】
現代の資本主義社会が、どのような歴史的変遷を経て成立してきたのかを、グローバルな視点から理解する。歴史（経済史）をツールとして柔軟な思考を養う。(II) では、産業革命（工業化）を通して、技術革新が実現し、世界的な分業体制が構築され、私たちの暮らしは便利で豊かになった一方で、経済格差や、恐慌、失業、公害など問題も発生した過程を学ぶ。授業ではたくさんの板書や話をします。授業を聞いて書き取る力を養うことも学習目標としています。

【講義計画】
第１回：イントロダクション
第２回：共同体社会と現代経済社会
第３回：国民国家の形成
第４回：スペインの重商主義
第５回：オランダの経済発展
第６回：イングランドの発展（1）
第７回：イングランドの発展（2）
第８回：英国の産業革命（1）産業革命への途
第９回：英国の産業革命（2）農業革命
第10回：英国の産業革命（3）プロト工業化
第11回：英国の産業革命（4）技術革新と工場制
第12回：英国の産業革命（5）工業化と社会問題
第13回：世界に広がる工業化
第14回：パックス・ブリタニカ
第15回：総まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義では経済活動の歴史を学ぶため、内容を理解するには歴史だけでなく経済学の知識も必要となる。それらの予備知識が十分でなくても理解できるような説明を心がけるが、内容は多岐にわたるため、予習・復習を毎回行わないと単位修得は困難である。（復習テストを不定期に行い、成績に反映させる。）また、英語論文を読む宿題や確認テストも行うので、英語の学習には力を入れること。
現代社会と、それが抱える問題が、歴史的にどのような背景をもって生み出されてきたのかに興味・関心を持って授業に参加してください。

【テキスト】
エレメンタル欧米経済史 馬場 哲、山本 通、廣田 功、須藤 功　晃洋書房

【参考文献】
藤瀬浩司『新訂　欧米経済史　―資本主義と世界経済の発展―』放送大学出版会、2000年など。各回のテーマに合わせて、講義の際に適宜紹介します。

【コメント】
不定期な小テスト・レポート課題を課す予定です。
初回の講義時に、講義内容の説明と、テストおよび宿題配布を実施するので必ず参加すること。

講　義　名　称	曜　時
西洋法制史　＜通期＞	木3

【教員名称】
的場　かおり

【講義概要】
平等権に表現の自由、罪刑法定主義、契約自由の原則・・。みなさんが普段学んでいる現行法の講義では「当たり前」のものばかりですが、これらの基礎をなすのが「明治」生まれの「近代法」なのです。ちょんまげが切り落とされ、ガス燈が街を照らし、工場が煙を吐くようになった「明治」は法の世界にも大転換をもたらしました。
講義では、明治日本が継受した「西洋法」、とりわけドイツ法の歴史を学習します。「法の近代化」をテーマに、各種の法律や国家制度が中・近世から近代、現代へと至る中でどのように変化してきたのかを解明します。

【学習目標】
第一に、「歴史から法を読み解く力」を身につけます。「法」を軸に高校まで学んだ歴史を再編することで、現行法の「当たり前」の意味をより深く理解できるようになります。第二に、「比較・考察する力」を養います。時代や国・地域などを比較することで、物事を多面的・相対的に観察し問題を解決する力を磨きます。
「歴史」と「比較」という２つの力を武器に、法の歴史を辿りながら、現行法がいま直面する問題を解決するヒント、現行法の将来像を展望してみましょう。

【講義計画】
第１回：法制史とは何か
第２回：封建社会における法
第３回：中世都市における法
第４回：大学の成立とその機能
第５回：教会権力と法
第６回：近世の国制①神聖ローマ帝国
第７回：近世の国制②領邦国家体制
第８回：ローマ法の継受から「現代的慣用」へ
第９回：コモン・ローの法文化
第10回：近世刑事司法と魔女裁判
第11回：啓蒙主義と法①法典編纂の流行
第12回：啓蒙主義と法②刑事司法の変革
第13回：フランス革命と近代法の誕生
第14回：法典編纂論争とドイツ歴史法学派
第15回：中間試験
第16回：ドイツの近代化改革①
第17回：ドイツの近代化改革②
第18回：ドイツ同盟体制とその特色
第19回：三月前期の自由主義と立憲主義
第20回：三月革命と２つの憲法①フランクフルト憲法
第21回：三月革命と２つの憲法②プロイセン憲法
第22回：ドイツ帝国の成立とその国制
第23回：ドイツ刑法典と２つの学派
第24回：ドイツ民法典とパンデクテン法学
第25回：ヴァイマル期の法とその国制①
第26回：ヴァイマル期の法とその国制②
第27回：ナチズム期の法とその国制①
第28回：ナチズム期の法とその国制②
第29回：戦後ドイツと基本法体制
第30回：後期のまとめ

【事前および事後学習の指示】
【事前学習】
①関連する歴史的出来事や人物について調べる
②関連する現行法を復習する
【事後学習】
①配布したレジュメ・資料、スライド（Ｓドライブで公開）を用いて復習する
②参考文献を用いてより知識を深める

【テキスト】

【参考文献】
・岩村等・三成賢次・三成美保『法制史入門』（ナカニシヤ出版、2002年）
・勝田有恒・山内進・森征一編著『概説　西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004年）
・木畑洋一・秋田茂編著『近代イギリスの歴史』（ミネルヴァ書房、2011年）
・谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史』（ミネルヴァ書房、2006年）
・若尾祐司・井上茂子編著『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房、2005年）
・高田敏・初宿正典編訳『ドイツ憲法集（第7版）』（信山社、2016年）
など

【コメント】
①試験：中間試験と期末試験を実施
２つとも受験しなければ「不可」とします。
②レポート
宿題として課す「レポート」も評価の対象とします。
③出席
３分の２以上の出席がない場合は、試験の受験資格を喪失します。

講　義　名　称	曜　時
税法Ａ　＜春＞	火1

【教員名称】
浦東　久男

【講義概要】
税法の基本的な原則を理解するために、相続税法、消費税法、所得税法などを素材にして、講義する。

【学習目標】
・憲法が規定する租税法律主義について学ぶ、その内容と意義を理解する。
・相続税法を学び、税法の適用において私法（民法）が基礎となることを理解する。
・消費税法を学び、間接税についてその基本的な問題を知る。
・所得税法の基本的な仕組みを知る。
・「税制改正」がもたらす意味を知る。

【講義計画】
第１回：導入　授業計画の説明　わが国の税制を概観する
・税財政の状況
・税法と他の科目（法分野）との関係
・各税目の特徴
第２回：租税法の体系と構造（税法の法源）・基本原則（租税法律主義）
憲法と法律の関係、法律と政令の関係
個別税法の例　地方税条例の例を知る
法律の遡及適用について
第３回：租税法の解釈と適用:「疑わしきは納税者の利益に」、「借用概念」とは
租税回避と「事実認定による否認」
第４回：相続税法（１）納税義務者（居住と国籍）と課税対象財産：民法と税法の関係を考える
第５回：相続税法（２）課税の対象：遺産取得税とはどんなものか　課税対象となる財産の範囲
第６回：相続税法（３）納税額の計算：基礎控除額、累進税率、税額軽減
第７回：相続税法（４）土地などの財産の評価（路線価方式と倍率方式）
通達の意味
（地方税の代表例として）固定資産税について知る
第８回：消費税法（１）直接税と間接税、間接税の分類、多段階課税の間接税と累積課税
第９回：消費税法（２）累積課税の排除
仕入税額控除
課税対象取引と非課税取引
第10回：所得税法（１）所得課税の基礎、所得概念、法人税と所得税
第11回：所得税法（２）所得区分と各種所得の金額（その１）事業所得と給与所得
第12回：所得税法（３）各種所得の金額（その２）譲渡所得、利子所得、配当所得
第13回：所得税法（４）所得控除と確定申告
第14回：租税手続法　租税債務の成立と確定　源泉徴収　強制徴収との関係
第15回：まとめ　わが国の税制改正

【事前および事後学習の指示】
教科書によって、前回までの講義内容の復習をすること。授業中に出題された質問をノートに記す、そしてその答えを考えること。授業中に小テストを実施するが、成績評価には含めない。

【テキスト】
税法（新装版）清永敬次 9784623065738 ミネルヴァ書房 第１編序論、第２編租税実体法のうち、おもに第２章、第３章第３節、同章第４節、同章第１節、第４章、第３編のうち第２章第１節、同章第２節を取り上げる予定。

【参考文献】
1　岡村忠生・渡辺徹也・_橋祐介著『ベーシック税法（最新版）』（有斐閣）
2　田原芳幸編著『図説日本の税制平成２８年度版』（財経詳報社）
3　中里実・佐藤英明・増井良啓編『租税判例百選［第6版］』（有斐閣）
4　三木義一『日本の税金（新版）』（岩波書店）

【コメント】
（1）試験：定期試験として実施
（2）レポート：次の課題について、1000字程度で説明しなさい。
課題「相続税法の課税対象財産」
提出期限：６月の第２回目の授業日

講　義　名　称	曜　時
税法Ｂ　＜秋＞	火1

【教員名称】
浦東　久男

【講義概要】
企業課税についての基本原則を理解する。国際税法の基礎的概念を理解する。法人税法の概要を講義により学んだ後、国際税法を学ぶ。

【学習目標】
・租税法律主義の内容と意義を理解する。
・法人税法を学び、会社法を中心とする企業法と税法の関係を理解する。
・国際税法の基礎的概念、考え方を学ぶことにより、国家の課税権のあり方を考える。
・会計学、財政学、公共経済学を学んでいる学生は、税法・国際税法とそれらの科目の関連性を考える。

【講義計画】
第１回：導入　授業計画の説明　わが国の税制を概観する
・税財政の状況
・税法と他の科目（法分野）との関係
・法人税の特徴
・所得税との相違点
・租税法の法源（法律・政令などの国内税法と租税条約）
・租税法の基本原則（租税法律主義）
第２回：租税法の解釈適用の基礎
企業課税の特徴
・国税としての法人税と地方税としての法人事業税
第３回：法人税と所得税との関係　～法人段階の課税と株主段階の課税、二重課税論～
第４回：法人税法における法人の種類　～同族会社に対する課税～
第５回：法人税法と企業会計　～法人税法22条と企業会計原則～
法人税法における益金　～受取配当、資産の評価益～
第６回：法人税法における損金（１）　～売上原価、減価償却など～
第７回：法人税法における損金（２）　～役員給与、交際費、寄付金～
第８回：国際課税（１）国家の課税管轄権について
・無制限納税義務者と制限納税義務者　～居住者と非居住者、内国法人と外国法人～
・国内源泉所得に対する課税（その１）
第９回：国際課税（２）国外の納税者に対する課税
・国内源泉所得に対する課税（その２）
・恒久的施設と課税所得の範囲
第10回：国際課税（３）国内の納税者に対する課税
・国際的二重課税と外国税額控除
第11回：国際課税（４）外国の子会社に関する課税
・受取配当益金不算入
・外国子会社合算課税（タックスヘイブン税制）
第12回：国際課税（５）国内租税法と租税条約の関係
・国内法と条約の関係
・ＯＥＣＤモデル租税条約
・日本が締結した租税条約について
第13回：国際課税（６）租税条約が定める課税
・ＯＥＣＤモデル条約が定める各所得の課税
第14回：国際課税（７）移転価格税制と国際的租税回避
・移転価格税制と独立企業間価格
・タックスヘイブンと情報交換
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
教科書によって、前回までの講義内容の復習をすること。授業中に出題される質問に対する解答を自分で考えて、自分のノートに記録すること。授業中に小テストを例題として実施するが、成績評価には含めない。

【テキスト】
税法（新装版）清永敬次 9784623065738 ミネルヴァ書房 第１編序論、第２編租税実体法のうち第３章第２項法人税などを取り上げる予定
入門国際租税法（新版）村井正編著 9784433538330 清文社

【参考文献】
1　岡村忠生・渡辺徹也・_橋祐介著『ベーシック税法（第８版）』（有斐閣）
2　田原芳幸編著『図説日本の税制平成28年度版』（財経詳報社）
3　三木義一・前田謙二著『よくわかる国際税務入門（第３版）』（有斐閣）
4　中里実・佐藤英明・増井良啓編『租税判例百選［第6版］』（有斐閣）

【コメント】
（1）試験：定期試験として実施
（2）レポート（その１）：次の課題について、1000字程度で説明しなさい。
課題「法人税法と企業会計原則との関係」
提出期限：１１月の第１回目の授業日
（3）レポート（その２）：次の課題について、1000字程度で説明しなさい。
課題「居住者と非居住者の納税義務の相違について」
提出期限：１２月の第２回目の授業日
定期試験とレポート（２回分）をあわせて成績評価を行う。

講　義　名　称	曜　時
税務会計論入門　＜春＞	金4

【教員名称】
金光　明雄

【講義概要】
税務会計は、企業の経済活動を認識・測定し、法人所得課税の基礎となる課税所得金額と税額を計算して、その結果を報告する過程です。税務会計によって生み出された情報は、申告納税制度のもとでは、まず税務当局に対して報告されます。さらに、合理的な租税負担を可能にする有効なタックス・プラニングのための情報として、企業の経営者に対しても報告されます。最近では特に後者の側面に関して、できるだけ納税額を節約して税引後キャッシュフローを増やすことが、企業価値最大化の観点から注目されており、税務会計の果たす役割はますます重要なものとなってきています。
本講義では、主に法人企業を対象にして、税務当局や経営者に対して報告される課税所得金額や税額の計算の仕組みとその背後にあるルール（税法計算規定）を、財務会計との相違点にも触れながら解説します。

【学習目標】
企業会計における利益計算と税務会計における課税所得計算の異同について理解を深め、税務会計の基本構造を体系的に説明できるようになることを学習の到達目標とします。

【講義計画】
第１回：税務会計とは
第２回：法人所得課税制度の概要
第３回：課税所得計算の構造
第４回：益金計算の原則と特例
第５回：損金計算の原則と特例
第６回：税務収益の会計（1）：販売収益、譲渡収益、請負収益、受贈益、その他収益の税務処理
第７回：税務収益の会計（2）：受取配当等の益金不算入
第８回：税務費用の会計：給与等、寄附金、交際費等、貸倒損失、その他費用の税務処理
第９回：税務資産の会計（1）：棚卸資産の税務処理
第10回：税務資産の会計（2）：固定資産の税務処理
第11回：税務資産の会計（3）：金融資産の税務処理
第12回：税務負債の会計：引当金、準備金の税務処理
第13回：税務資本の会計：欠損金の税務処理
第14回：法人税額の計算
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
前回までの学習内容を復習し、授業に出席してください。

【テキスト】
テキストは使用しません。

【参考文献】
必要に応じて授業中に指示します。

【コメント】
学期末試験（５０点）と小テスト（５０点）で評価します。

講　義　名　称	曜　時
税務戦略論　＜秋＞	金2

【教員名称】
金光　明雄

【講義概要】
企業では、納税額を節約して税引後キャッシュフローを増やすことが企業価値最大化のための重要な課題として認識されており、経営戦略におけるタックス・マネジメントの重要性が高まっています。
本講義では、合理的な租税負担を可能にするタックス・マネジメントにおける税務会計実務について学習します。

【学習目標】
企業の経営戦略における税務問題を分析できるようになることを学習の到達目標とします。

【講義計画】
第１回：税務会計の仕組み（1）：課税所得計算
第２回：税務会計の仕組み（2）：税額計算
第３回：税務会計の重要性と特殊性
第４回：税務会計実務の変容
第５回：税務会計における企業観
第６回：税務会計の機能
第７回：税務計画（1）：税務計画の意義、税務計画における税引後キャッシュフローの予測
第８回：税務計画（2）：有効な税務計画の立案
第９回：法人の組織形態の多様化と税務会計（1）：企業の法的組織形態と税率
第10回：法人の組織形態の多様化と税務会計（2）：連結納税制度
第11回：法人の組織形態の多様化と税務会計（3）：グループ法人単体課税制度
第12回：経済活動のグローバル化と税務会計（1）：国際的な課税問題
第13回：経済活動のグローバル化と税務会計（2）：外国税額控除制度
第14回：経済活動のグローバル化と税務会計（3）：移転価格税制、外国子会社合算税制
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
前回までの学習内容を復習し、授業に出席してください。

【テキスト】
テキストは使用しません。

【参考文献】
必要に応じて授業中に指示します。

【コメント】
学期末試験（５０点）と演習課題（５０点）で評価します。

講　義　名　称	曜　時
戦略管理会計　＜秋＞	金2

【教員名称】
山田　伊知郎

【講義概要】
この講義では、管理会計分野の中でも特に組織の目標や方向性に向かって変革していくときに有効な考え方やツールについて扱う。具体的には、予算管理、コスト・マネジメント、バランスト・スコアカード、ライフサイクルコスティング、マテリアルフロー会計である。戦略管理会計の根底にある考え方は、制度や仕組みというものは、作り出された時の状況にもっとも適したものを目指して創造されるが、社会や環境の変化はそれが作り出された状況を変化させていく。一方、制度や仕組みは自動的には変化しない。そこで組織において仕組みを見直して不断に状況に適合したものに造り替えていく努力が必要だと考えられる。戦略管理会計の分野は、今ある仕組みに仕事を従属させるのではなく、仕事の目的に沿った仕組みを作り出すことに役立つ科目として活用していただきたい。

【学習目標】
組織の中に存在する仕組み・システムがどのように成り立っているのかを具体的に理解する。また、仕組み・システムが作られた時の状況に依存し、環境の変化に応じて再構築を必要とされることを理解することを目的とする。管理会計の基礎知識を獲得すると同時に、受講生自身が興味を持ったいくつかのトピックスについて、深く理解し、自分の言葉で人に説明できるようになることを達成目標とする。

【講義計画】
第１回：戦略とは・管理会計とは（イントロダクション）
第２回：予算管理と脱予算管理
第３回：伝統的コストマネジメントの現代的問題点とその克服方法
第４回：戦略的コストマネジメント（活動基準原価計算）
第５回：戦略的コストマネジメント（直接原価計算）
第６回：戦略的コストマネジメント（制約の理論）
第７回：戦略的コストマネジメント（原価企画）
第８回：知的資産管理（1）知的資産とは
第９回：知的資産管理（1）知的資産の管理
第10回：BSC（1）BSCとは
第11回：BSC（2）戦略マップ
第12回：BSC（3）戦略マップの作成
第13回：BSC（4）BSCの作成と活用
第14回：環境管理会計（1）ライフサイクルコスティング
第15回：環境管理会計（2）マテリアルフロー会計、まとめ

【事前および事後学習の指示】
授業の開始前に、参考文献を一読しておくことをお勧めします。

【テキスト】
管理会計入門 加登豊 978-4532107949 日本経済新聞社

【参考文献】
谷武幸著（2011）『エッセンシャル管理会計　第2版』、中央経済社.
加登豊著（1999）『管理会計入門』日本経済新聞社

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
組織倫理論　＜春＞	金3

【教員名称】
谷口　照三

【講義概要】
＜個人のみならず、組織の責任も考えよう＞
現代社会は、組織社会と言われている。人々は、大小を問わず多くの複数の組織との関連のなかで生きている。そこでは、組織は、例えば企業や政府、行政および学校など、とりわけ企業に注目しなければならないが、強力なパワーを持つ。それは､組織がその構成員や関係者に遵守を期待する､「固有のルールや倫理的価値」を創り出すことに由来する。それは、一方では個人ではなし得ない大きなプラスを、他方では公害等に見られるようなマイナスももたらした。この状況にあって、人々は、プラスとマイナスの効果に自覚的であればあるほど、自己の組織への関わりに関してジレンマに陥る。逆に、それらに対して無自覚であれば、「良心的な人々が組織の一員として活動する場合、なぜあれほど非倫理的になれるのか」という問題状況をもたらす。いずれにせよ、これらは克服していかねばならぬ、重い課題である。
かかる課題への挑戦は、まず、組織が持つプラスとマイナス効果を事実として認識しなければならない。その上で、組織「固有のルールや倫理的価値」とそれに関わる人々の「良心」との折り合いを、個人の問題というより、むしろ「組織の責任」の問題として受け止め、その問題への応答可能性を拓く諸条件を探求していくことが、必要となる。「組織の責任」を語ることは、組織を倫理主体として捉えることでもある。倫理的な生活を生きようとする人々の能力は、その「組織の倫理」に深く影響されている。この「能力」を拓く「組織の倫理」はいかにして可能か。本講義の中心的な論点は、ここにある。それは、講義計画の第三部で展開される。その前に、第一部で、「問題の背景」として「現代社会と組織」に関して学ぶ。そして、第二部において、現代社会における組織社会を代表する企業という組織についての倫理学的考察と実践についての特徴と問題点を取り上げ、第三部への橋渡しにしたいと思っている。
テキストは使用しない。レジュメないし原稿および資料を配布する。

【学習目標】
この講義を受講する学生諸君は、以下の三つの目標を設定しなければならない。①現代社会における倫理的問題状況を、特に「組織の光と影」に焦点を当て、自から解釈し、説明できること。②組織に係っている人々が自己の良心に従って責任的な行動をとれるような「組織の責任」とは何か、について説明できること。③倫理的な問題状況にある組織事例を取り上げ（身近な組織、たとえばクラブやサークルでもよい）、①と②の成果を活用し、診断書（どのような問題がなぜ起きたのか）と処方箋（問題の解決の方向性）を作成すること。

【講義計画】
第１回：序論「人間生活と社会の発展（1）―人間生活の向上と環境への働きかけ―」
第２回：序論「人間生活と社会の発展（2）―人間生活の向上のための補完関係としての社会形成―」
第３回：第1部「現代社会と組織」
第 1章「組織社会としての現代社会」
第４回：第2章「組織の概念」
第５回：第3章「組織を巡る問題状況」
第６回：第2部「倫理学と現代社会を代表する企業の倫理学的考察と実践に関する特徴と問題点」
第4章「倫理学と応用倫理学」
第７回：第5章「道徳と倫理概念の区別と関連」
第８回：第6章「企業倫理のUSA的視座とEU的視座」
第９回：第7章「企業倫理の一面的な見方からバランスのある見方への発展」
第10回：第8章「組織倫理を語る視座」
第11回：第3部「企業倫理の組織論的転回の試み」
第9章「その基礎としての責任概念の再検討」
第12回：第10章「組織倫理の創造と創造的リーダーシップ」
第13回：第11章「応答可能性を拓く場としての組織」
第14回：結論「未来社会への組織倫理的課題（1）―組織社会における補完関係の再考―」
第15回：結論「未来社会への組織倫理的課題（2）―『目指すべき価値ある社会』への洞察―」

【事前および事後学習の指示】
学習目標を実現するためには、講義に出席するのは当然とし、配布する原稿、レジュメ、資料等や指示する参考書を用い、予習および復習を確実に実行しなければならない。講義が終了するまでに課題リポートを提出してもらうが、早い段階から問題関心を持ち、取り上げる特定の組織や倫理問題を想定し、応答し得るように事前準備をしておくことが肝要である。

【テキスト】

【参考文献】
山本安次郎・田杉　競・飯野春樹訳『新訳　経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年（Chester I. Barnard, The Functions of the Executive, Harvard University Press, 1938.）。　ラッシュワース・M・キダー著、中島　茂監訳、高瀬恵美訳『意思決定のジレンマ』日本経済新聞出版社、2015年（Rushworth M. Kidder, How Good People Make Tough Choices: Resolving the Dilemmas of Ethical Living, Harper, 1995, 2003, 2009.）。それ以外は適宜指示する。

【コメント】
毎回「記名式で数分程度の時間で質問やコメントなどを書いてもらうペーパー」を配布・回収するが、これは主体的に勉強してもうことを希望し行うものであり、出席点ではない。成績の評価は、学期末試験（50%）と課題リポート（50%）によって行うが、いずれも三つの達成目標に対応している。

講　義　名　称	曜　時
ソーシャルワーク論ⅠA　＜春＞	火5

【教員名称】
梅谷　進康

【講義概要】
〔授業の目的・ねらい〕
制度としての社会福祉を具体的に実現するための実践方法であるソーシャルワークについて、その基礎的な理解と実践活動にとって重要と思われる様々な知識の獲得を目的としている。
〔授業全体の内容の概要〕
ソーシャルワーク実践論の入門と位置づけ、ソーシャルワークの視点、実践概念、実践の構成要素、実践方法、実践の過程とその展開、各論的方法の特性などの解説と考察を通して、総合的な視野から理解を深める。

【学習目標】
①社会福祉概念を明確にすること
②ソーシャルワーク概念を明確にすること
③ソーシャルワーク実践の構成要素への考察を深めること
④ソーシャルワーク実践研究としての過程研究への考察を深めること
⑤ソーシャルワークの実践方法への考察を深めること
⑥ソーシャルワーク実践への専門的・科学的視点を明確にすること
⑦ソーシャルワーク・インターベンション（intervention）の意義・方法・体系について理解を深めること

【講義計画】
第１回：オリエンテーション　ソーシャルワーク論ⅠAの目的・展開・方法について
第２回：社会福祉の概念と特色
第３回：ソーシャルワーク実践と社会福祉（社会福祉士と精神保健福祉士の役割と意義含む）
第４回：ソーシャルワーク概念（Ⅰ）
第５回：ソーシャルワーク概念（Ⅱ）
第６回：ソーシャルワークの歴史（Ⅰ）
第７回：ソーシャルワークの歴史（Ⅱ）
第８回：ソーシャルワーク実践方法の枠組み
第９回：ソーシャルワーク実践の構成要素
第10回：ソーシャルワーク実践の価値と倫理
第11回：ソーシャルワーク実践の思考方法と視座
第12回：エコシステム視座の特徴（Ⅰ）
第13回：エコシステム視座の特徴（Ⅱ）
第14回：エコマップを用いた事例研究
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習：社会福祉やソーシャルワークと関連する新聞記事を毎日読み、理解する。
事後学習：テキスト、ノート、配布プリントを読み込み理解を深める。

【テキスト】
相談援助の基盤と専門職（第３版）社会福祉士養成講座編集委員会 9784805851029 中央法規出版

【参考文献】
授業中に適宜提示する。

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
ソーシャルワーク論ⅠB　＜秋＞	火5

【教員名称】
梅谷　進康

【講義概要】
〔授業の目的・ねらい〕
制度としての社会福祉を具体的に実現するための実践方法であるソーシャルワークについて、その基礎的な理解と実践活動にとって重要と思われる様々な知識の獲得を目的としている。
〔授業全体の内容の概要〕
ソーシャルワーク実践論の入門と位置づけ、ソーシャルワークの視点、実践概念、実践の構成要素、実践方法、実践の過程とその展開、各論的方法の特性などの解説と考察を通して、総合的な視野から理解を深める。基本的な内容はⅠAと同様だが、ⅠBでは、ソーシャルワーカーの価値と倫理や実践活動に必要とされる知識や技術について、より具体的な実践場面との関連性の中で体系的に理解することを目的とする。

【学習目標】
①社会福祉概念を明確にすること
②ソーシャルワーク概念を明確にすること
③ソーシャルワーク実践の構成要素への考察を深めること
④ソーシャルワーク実践研究としての過程研究への考察を深めること
⑤ソーシャルワークの実践方法への考察を深めること
⑥ソーシャルワーク実践への専門的・科学的視点を明確にすること
⑦ソーシャルワーク・インターベンション（intervention）の意義・方法・体系について理解を深めること

【講義計画】
第１回：オリエンテーション　ソーシャルワーク論ⅠBの目的・展開・方法について
第２回：ソーシャルワーク実践における過程の意義
第３回：ソーシャルワーク実践過程の枠組みと問題
第４回：局面過程の展開（Ⅰ）
第５回：局面過程の展開（Ⅱ）
第６回：局面過程の展開（Ⅲ）
第７回：ソーシャルワーク実践のフィールドとソーシャルワーカーの役割
第８回：実践者の記録から学ぶソーシャルワークの原則（Ⅰ）
第９回：実践者の記録から学ぶソーシャルワークの原則（Ⅱ）
第10回：実践者の記録から学ぶソーシャルワーク支援に必要な知識と技術（Ⅰ）
第11回：実践者の記録から学ぶソーシャルワーク支援に必要な知識と技術（Ⅱ）
第12回：実践者の記録から学ぶソーシャルワーク支援に必要な知識と技術（Ⅲ）
第13回：ソーシャルワーク実践における最近の動向（Ⅰ）
第14回：ソーシャルワーク実践における最近の動向（Ⅱ）
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
事前学習：社会福祉やソーシャルワークと関連する新聞記事を毎日読み、理解する。
事後学習：テキスト、ノート、配布プリントを読み込み理解を深める。

【テキスト】
相談援助の理論と方法Ⅰ 川延宗之／藏野ともみ 978-4-86189-107-6 久美出版

【参考文献】
授業中に適宜提示する。

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
ソーシャルワーク論ⅡA　＜春＞	金3

【教員名称】
石田　易司

【講義概要】
制度としての社会福祉を具体的に実現するための実践方法であるソーシャルワークについて理解を深める。
社会福祉研究は、その実践過程を研究する以外に方法はない。本講義では直接的に利用者と面と向かって活動する、いわゆるミクロ過程から、メゾ、エクソ、さらには、制度・政策や社会の改善を目標としたマクロ過程及びミクロからマクロ、マクロからミクロへのフィードバック過程を含めたその過程全体を多角的にとらえて考察を加えていきたい。
1970年代におこったソーシャルワーク実践理論のパラダイム転換以降のソーシャルワーク理論に関する基礎部分については、概略理解していることを前提に講義を展開したいと考えている。したがって、場合によっては、学部の該当授業（ソーシャルワーク論Ⅰ）の受講（並行可）を条件とする可能性もありうる。

【学習目標】
①これまでの学習の積みあげを統合した上で、自らの社会福祉概念とソーシャルワーク概念を言語化する。
②ソーシャルワーク実践の展開過程について具体的場面を想定し、多面的に課題解決に向けた考察を行う。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：社会福祉とソーシャルワーク（Ⅰ）- 社会福祉の概念と特色 -
第３回：社会福祉とソーシャルワーク（Ⅱ）- 社会福祉とソーシャルワークの概念と関係の整理 -
第４回：ソーシャルワークの基礎概念（Ⅰ）- ソーシャルワーク概念 -
第５回：ソーシャルワークの基礎概念（Ⅱ）- 実践活動としてのソーシャルワーク概念 -
第６回：ソーシャルワークの実践概念と構成要素（Ⅰ）- ソーシャルワークの端緒 -
第７回：ソーシャルワークの実践概念と構成要素（Ⅱ）- パラダイム転換と新たなソーシャルワーク概念の模索 -
第８回：ソーシャルワークの実践概念と構成要素（Ⅲ）- 共通基盤と価値・知識・方策・方法
第９回：ソーシャルワーク実践の原理（Ⅰ）- 利用者原理 -
第10回：ソーシャルワーク実践の原理（Ⅱ）- ソーシャルワーカー原理 -
第11回：ソーシャルワーク実践の原理（Ⅲ）- 支援関係原理 -
第12回：ソーシャルワークの倫理
第13回：ソーシャルワーク実践のフィールド（Ⅰ）- 伝統的な活動の場における役割と機能 -
第14回：ソーシャルワーク実践のフィールド（Ⅱ）- 期待される役割と機能 -
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
ソーシャルワーク実践理論の概略を理解していることを前提に進めるので、ソーシャルワーク論Ⅰにおける学習の復習をしたうえで授業に臨むこと。

【テキスト】
体験するグループワーク 石田易司　エルピス社　ソーシャルワーク実践理論に関するテキストをディスカッションの素材として使用する予定。具体的には受講希望者と相談の上、決めたい。

【参考文献】
その都度、必要に応じて紹介する。

【コメント】
通常の授業における報告やディスカッションなどへの取り組み、参加の姿勢、研究レポートなどを中心とし、総合的に評価する。

講　義　名　称	曜　時
ソーシャルワーク論ⅡB　＜秋＞	金3

【教員名称】
石田　易司

【講義概要】
グループの視点からソーシャルワークとソーシャルワーカーについて学びます。個別援助、地域援助も取り入れながら、特に集団援助の過程を深く学びます。体験を多く取り入れた実践形式の授業をするので、出席を重視します。

【学習目標】
1．個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術について最新の情報を入れながら、具体的方法論を学ぶ。
2．社会福祉調査法、社会福祉計画、施設運営管理、社会活動法、スーパービジョン、ケアマネジメントなどの技術論、方法論について学習し、実践に役立つ知識、技術を身に着ける。
3．具体的な支援事例を多く体験することにより、実践感覚を身に着ける。

【講義計画】
第１回：グループワークの過程
第２回：準備期のポイント①アセスメント
第３回：準備期のポイント②マネジメント
第４回：開始期のポイント…アイスブレーク
第５回：作業期前期のポイント①プログラム
第６回：作業期前期のポイント②問題行動とその支援
第７回：作業期前期のポイント③チームビルディング
第８回：作業期後期のポイント
第９回：スーパービジョン①
第10回：スーパービジョン②
第11回：グループワークの組織と役割
第12回：記録の取り方
第13回：振り返り
第14回：評価と効果測定①
第15回：評価と効果測定②

【事前および事後学習の指示】
教科書の該当する箇所を事前に読んでくること。
自身のグループ体験を常に振り返ること。
福祉、教育の現場でグループ活動支援をすること

【テキスト】
体験するグループワーク 石田易司　エルピス社

【参考文献】
トム・ダグラス「ベーシックグループワーク」（晃洋書房）
野村武夫「はじめてのグループワーク」（ミネルヴァ書房）

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
知的財産法　＜春集＞	月3／木1

【教員名称】
馬場　巌

【講義概要】
知的財産権の目的、および知的財産権に共通の内容と、特許法・著作権法等の各法律の概要および権利の成立要件等を見ていきます。

【学習目標】
知的財産権は、いたって私達にとって身近な権利です。講義で詳しく話しますが、例をあげればカップヌードルや携帯電話などに関係しています。
　知的財産権とは、特許法（発明）・実用新案法（考案）・意匠法（意匠）・商標法（商標）といった産業財産権と著作権法（著作物）、不正競争防止法・商号、種苗法などの無体物で財産的価値のあるものを対象にしています。
　本授業では、これら知的財産権の基礎知識の習得を目指します。

【講義計画】
第１回：ガイダンス・民法と知的財産権の関係について。
第２回：知的財産権はなぜ法律で保護する必要があるのか。
第３回：知的財産権の概略について。
　　特許・実用新案・意匠・商標・著作権・不正競争防止法・種苗法・商号について。
第４回：知的財産権の分類について。
第５回：1回から4回のまとめ。
第６回：知的財産権の客体について。
　　無体物について。
第７回：知的財産権の主体
　　自然人・法人について。
第８回：知的財産権の主体
　　共有について
第９回：知的財産権の主体
　　代理について
第10回：6回から9回のまとめ
第11回：知的所有権の主体
　　職務発明・法人著作について
第12回：知的財産権の権利のおよぶ範囲・条約について。
第13回：知的財産権の存続期間について。
第14回：11回から13回のまとめ。
第15回：特許法
　　特許を受ける権利・出願・出願公開・明細書について。
第16回：特許法
　　登録要件　発明とは。
第17回：特許法
　　登録要件　新規性・進歩性について。
第18回：特許法
　　登録要件　特許障害（消極的特許要件）について。
第19回：特許法のまとめ。
第20回：著作権法
　　著作権法上の著作物について。
第21回：著作権法
　　著作権の制限について。
第22回：著作権法
　　著作者人格権・著作隣接権について。
第23回：著作権のまとめ。
第24回：パブリシティの権利について。
第25回：意匠法概説・種苗法概説
第26回：商標法　不登録事由について　第一回
第27回：商標法　不登録事由について　第二回
第28回：不正競争防止法概説・商号権について。
第29回：22回から28回のまとめ。
第30回：知的財産権の総括。

【事前および事後学習の指示】
授業の最後に次回の内容を言いますので、それに基づいて予習をして下さい。
授業終了後自宅で当該時間の内容を確認しておいて下さい。

【テキスト】

【参考文献】
知的財産権法概説（紋谷暢男）・知的財産管理技能試験2級完全マスターⅠ・Ⅱ・Ⅲ

【コメント】
授業中に私語はしないでください。

講　義　名　称	曜　時
地域ビジネス論　＜春＞	木3

【教員名称】
室屋　有宏

【講義概要】
人口減少・高齢化が進行するなかで地域活性化への関心や必要性が高まっている。地域の農林水産物、自然・景観、伝統芸能、人びとのつながり等の地域資源を積極的に活用した地域ビジネスを興し、地域の社会的課題や生活の質を高める取組みが各地で試みられている。
本講義では、こうした地域が主体的、内発的に取り組む地域ビジネスについて、実践例の紹介や検討、また学生参加型の討議形式を両輪にして進めたい。したがって、参加を希望する学生は積極的に議論、プレゼンテーション、グループワークに意欲的に参加することが前提になる。
また授業では実際の地域ビジネスの事例や支援の仕組み等について、できるだけ映像、ゲストスピーカーの方の話を直接聞くなど、現場の実態や課題をリアルに学ぶ工夫をしたい。

【学習目標】
①地域の実情を地域の視点で捉える
②地域が持つ価値と多様性とへの理解
③地域の問題解決への知恵や発想力を鍛える
④地域ビジネスを具体的に構築してみる

【講義計画】
第１回：イントロダクション～地域と地域資源
　　地域と地域資源とは何か
第２回：自分の地域や地域資源を知る（1）
第３回：自分の地域や地域資源を知る（2）
第４回：観光ビジネス
第５回：福祉ビジネス
第６回：人口減少社会と地域ビジネス
第７回：地域再生の現場～地方版総合戦略を考える
第８回：中心市街地活性化
第９回：食ビジネス～６次産業化・農商工連携
第10回：直売所
第11回：ゲストスピーカー
第12回：地域ビジネス・プランを作ってみる（1）
第13回：地域ビジネス・プランを作ってみる（2）
第14回：まとめ～地域を興すアントレプレナー像
第15回：授業内試験

【事前および事後学習の指示】
地域再生・活性化に関する新聞・ニュースに目を通し、時事問題にも興味を持ってフォローしておくこと。
事前の課題学習がある場合がある。

【テキスト】

【参考文献】
室屋有宏『地域からの六次産業化』（創森社）

【コメント】
出席点の中に授業での積極的発言などの平常点を加味する。
レポートでは各人が地域ビジネスプランを作成提出。

講　義　名　称	曜　時
地域研究Ⅰ　＜通期＞	火3

【教員名称】
軽部　恵子

【講義概要】
この講義では、アメリカの地理、気候、歴史、文化、宗教、経済、産業など、幅広く学びます。「アメリカ」は南北アメリカ大陸を指す場合、アメリカ合衆国を指す場合などがあります。メキシコは北アメリカ大陸にありますが、ラテンアメリカに含まれます。このような使い分けはなぜ生まれたのでしょうか。
春学期は「アメリカ」の歴史を学びます。秋学期は事例研究として、南アメリカ、中央アメリカと西インド諸島、北アメリカの地域から代表的な国を取り上げ、それぞれに対する理解を深めます。
毎回の講義では、絵画、写真、ドキュメンタリー番組、史実に基づいた映画など、各種の視聴覚教材を積極的に利用します。国内外のメディア（新聞社、テレビ局、通信社等）のホームページを教材として用い、メディア・リテラシーを学びます。「アメリカ」に関する重要ニュースは随時取り上げます。

【学習目標】
(1) 地域としてのアメリカ史を概観し、アメリカ研究に必要な基礎知識を習得する。
(2) アメリカ合衆国を中心に、南北アメリカ大陸にある国の基礎知識を習得する。
(3) 地域研究の視点から国際ニュースに関心を持ち、メディア・リテラシーを学ぶ。

【講義計画】
第１回：「アメリカ」とは何か
第２回：大航海時代とアメリカ植民地の建設
第３回：アメリカ独立革命からフランス革命へ
第４回：ナポレオン戦争とラテンアメリカ諸国の独立
第５回：西部開拓、南北戦争、工業化の進展
第６回：アメリカ合衆国のカリブ海政策
第７回：第一次世界大戦と「アメリカ」
第８回：禁酒法、世界恐慌、ファシズム
第９回：第二次世界大戦と「アメリカ」
第10回：冷戦の開始とキューバミサイル危機
第11回：ベトナム戦争と米中国交正常化
第12回：ラテンアメリカ諸国の軍事政権と民主化
第13回：冷戦の終結と湾岸戦争
第14回：アメリカ同時多発テロからイラク戦争へ
第15回：グローバリズムと「アメリカ」
第16回：南アメリカ（1）　ペルー
第17回：南アメリカ（2）　ブラジル
第18回：南アメリカ（3）　アルゼンチン
第19回：中央アメリカと西インド諸島
第20回：北アメリカ（1）　メキシコ
第21回：北アメリカ（2）　カナダ
第22回：北アメリカ（3）　アメリカ合衆国①　地形、気候、産業
第23回：北アメリカ（4）　アメリカ合衆国②　大統領選挙のしくみ
第24回：北アメリカ（5）　アメリカ合衆国③　大統領の任務と権限
第25回：北アメリカ（6）　アメリカ合衆国④　連邦議会のしくみ
第26回：北アメリカ（7）　アメリカ合衆国⑤　人種、移民、宗教
第27回：北アメリカ（8）　アメリカ合衆国⑥　女性、ジェンダー
第28回：北アメリカ（9）　アメリカ合衆国⑦　メディア
第29回：北アメリカ（10）アメリカ合衆国⑧　日本との関係
第30回：学期末試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】
教室で毎回配布される講義レジュメの指示に従って、教科書の関連部分および参考サイトで予習・復習してください。

【テキスト】
一冊でわかるイラストでわかる図解世界史 成美堂出版編集部編 978-4415103334 成美堂出版

【参考文献】
※アメリカ合衆国以外の国・地域に関する参考文献は、講義の中で紹介します。
明石和康『大統領でたどるアメリカの歴史』岩波書店　2012年
有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史：テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣　2002年
佐々木卓也『戦後アメリカ外交史』有斐閣　2009年
渡辺将人『アメリカ政治の壁：利益と理念の狭間で』岩波書店　2016年
西山隆行『移民大国アメリカ』筑摩書房　2016年
上杉忍『アメリカ黒人の歴史：奴隷貿易からオバマ大統領まで』中央公論新社　2013年

【コメント】
講義は通期で行われますが、成績は秋学期末試験（2018年1月末実施）のみで評価します。教室内で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問、要望等を書くためで、「出席点」にはなりません。講義時間内に行う小テストは、受講生が自身の理解度を確認するためで、成績評価にいっさい関係ありません。

講　義　名　称	曜　時
地域研究Ⅱ　＜秋集＞	月1／木3

【教員名称】
塚田　鉄也

【講義概要】
大航海時代以降、積極的な対外進出を進め、世界各地の政治や社会に大きな影響を与えてきたヨーロッパ諸国は、「世界の中心」とはいえなくなった現在においてもなお、日本をはじめとする多くの国にとって重要な参照点であり続けています。本講義では、そうしたヨーロッパ諸国の政治や社会の有り様を、各国間の違いにも注意しながら、歴史的背景、政治の基本構造、現代の争点、という三点にわたって検討していきます。

【学習目標】
①ヨーロッパ各国の政治と社会の特徴を、歴史的背景を含めて理解する
②ヨーロッパ統合が各国の政治や社会に与えた影響を理解する。

【講義計画】
第１回：ヨーロッパ研究の意義
第２回：政治の基礎知識
第３回：歴史の中のヨーロッパ
第４回：世界の中のヨーロッパ
第５回：イギリス①：歴史的背景
第６回：イギリス②：政治の基本構造
第７回：イギリス③：現代の争点
第８回：フランス①：歴史的背景
第９回：フランス②：政治の基本構造
第10回：フランス③：現代の争点
第11回：ドイツ①：歴史的背景
第12回：ドイツ②：政治の基本構造
第13回：ドイツ③：現代の争点
第14回：イタリア①：歴史的背景
第15回：イタリア②：基本構造と争点
第16回：ベネルクス三国①：歴史的背景
第17回：ベネルクス三国②：基本構造と争点
第18回：北欧諸国①：歴史的背景
第19回：北欧諸国②：基本構造と争点
第20回：南欧諸国①：歴史的背景
第21回：南欧諸国②：基本構造と争点
第22回：中東欧諸国①：歴史的背景
第23回：中東欧諸国②：基本構造と争点
第24回：ロシア①：歴史的背景
第25回：ロシア②：政治の基本構造
第26回：ロシア③：現代の争点
第27回：ＥＵ①：歴史的背景
第28回：ＥＵ②：政治の基本構造
第29回：ＥＵ③：現代の争点
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
ヨーロッパ各国に関する予備知識がほとんどない場合は、初回の授業で紹介する参考文献を使って、各国に関する大まかなイメージをつかんでおくようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】
全体に関連するものは初回の授業で、各国に関連するものは各回の授業で紹介します。

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
地域福祉論Ａ　＜春＞	金2

【教員名称】
松端　克文

【講義概要】
2000年の社会福祉法の改正により、同法第1条において社会福祉の目的として地域福祉を推進することが明記されるなど、地域福祉は今日の社会福祉を理解し、実践していくうえで、最も重要な領域として位置づけられている。しかし「地域福祉」という考え方はイギリスやアメリカなどの影響を受けつつも、極めて日本的な概念である。
本講では、こうした地域福祉の理念や理論、歴史や実践状況、あるいは推進方法（地域福祉の方法論）などについて、マクロ的には国際的な状況や日本の社会福祉制度改革の動向をおさえつつ、メゾ・ミクロ的には各自治体・地域における実践をふまえて概観することで、地域福祉の全体像や特徴、さらには今日的意義や役割に関する理解を深めることを目標に講義をすすめる。
この講義では、特に地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法を中心に講義をすすめる。

【学習目標】
①地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。
②地域福祉の主体と対象について理解する。
③地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。
④地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。
⑤地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。

【講義計画】
第１回：地域福祉とは―地域福祉の基本的な考え方
　　地域福祉の主体と対象
第２回：地域福祉理念、概念と範囲、役割と意義
第３回：地域福祉理論の分類①　構造的概念と機能的概念
第４回：地域福祉理論の分類②　4つの志向軸による分類
　　（1）コミュニティ重視志向の地域福祉論
第５回：（2）在宅福祉志向の地域福祉論
第６回：（3）政策制度志向の地域福祉論および自治型地域福祉論
　　（4）住民の主体形成と参加志向の地域福祉論
第７回：地域福祉の構成要素
第８回：現代社会におけるコミュニティの変容とコミュニティの分析枠組み
第９回：地域福祉調査法
第10回：地域福祉推進の方法　①コミュニティワーク、コミュニティオーガニゼーション
第11回：地域福祉推進の方法　②コミュニティソーシャルワーク
第12回：コミュニティづくりと福祉コミュニティ
第13回：地域福祉の人材の構成およびその動員方法・財源の構成とその調達方法
第14回：地域福祉のサービス提供組織とその運営方法・連携・協働・ネットワーキング
　　地域福祉推進の組織、団体、専門職
第15回：試験およびまとめ
　　－地域福祉をめぐる政策状況と課題および地域福祉実践の可能性－

【事前および事後学習の指示】
シラバスを確認の上、予習しておいてください。

【テキスト】
よくわかる地域福祉（第5版）上野谷加代子・松端克文・山縣文治編 978-4-623-06302-4 ミネルヴァ書房

【参考文献】
随時、紹介します。

【コメント】
毎回、出席をとります。
リアクション・ペーパーにはしっかり記入すること。
試験レポート出席
コメント

講　義　名　称	曜　時
地域福祉論Ｂ　＜秋＞	金2

【教員名称】
松端　克文

【講義概要】
地域福祉の理論と多様な実践内容をふまえて，主として地域福祉の推進方法を中心に、
1.コミュニティワークの理論と特徴
2.コミュニティワークの展開過程.
3.コミュニティワークの実践モデル
4.コミュニティワーカーの役割
5.社会福祉調査法（地域診断の方法）
6.地域福祉計画の策定方法
などについて学ぶとともに，最新の技術や動向についても学ぶ。
その際，可能な限り，具体的な実践事例を素材として，学習する。
将来，学生がコミュニティワーカーとして活用できることを目標にした実践的学習ができるよう進めていく。

【学習目標】
①地域福祉の概念および特徴について理解する。
②地域福祉の推進方法について、そのアプローチの種類や内容、方法について理解する。
③ソーシャルワークと地域福祉との関係について理解する。
④ローカル・ガバナンスや自治と地域福祉との関係について理解する。

【講義計画】
第１回：地域福祉論Aの復習
　　社会福祉・ソーシャルワークと地域福祉・コミュニティワーク
第２回：地域福祉の考え方と地域福祉の歴史（イギリス・アメリカ・日本）
第３回：地域を基盤としたソーシャルワーク
　　個別支援（相談援助）と地域支援（コミュニティワーク）
第４回：コミュニティワークの理論と方法①
第５回：コミュニティワークの理論と方法②
第６回：地域診断の方法と実際①　地域踏査、既存データの活用、地域プロフィールづくりなど
第７回：地域診断の方法と実際②　量的調査、質的調査、住民座談会など
第８回：域組織化の方法と実際
第９回：小地域福祉活動の実際とコミュニティワーカーの役割
第10回：当事者組織の組織化の方法と実際
第11回：地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定方法と実際①
第12回：地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定方法と実際②
第13回：福祉教育の推進方法と実際①
第14回：福祉教育の推進方法と実際②
第15回：自治の構築とコミュニティワーク自治治の構築
　　ローカル・ガバナンスとコミュニティワーク

【事前および事後学習の指示】
シラバスを確認の上、予習しておくこと。

【テキスト】
よくわかる地域福祉（第5版）上野谷加代子・松端克文・山縣文治編 978-4-623-06302-4 ミネルヴァ書房

【参考文献】
随時、紹介します。

【コメント】
毎回、出席をとります。
リアクション・ペーパーにはしっかり記入すること。

講　義　名　称	曜　時
地誌［4］　01＜通期＞	金1

【教員名称】
安倉　良二

【講義概要】
本講義では，中学・高校で「地理」を教えるに際して求められる世界各地の地誌的な見方を紹介する。地誌学は，特定の地域における自然・人文の各現象を総合的に示す地理学の一分野である。本講義では，中学・高校の教科としての「地理」に留まらず，大学レベルの地理学研究の成果も盛り込みながら，世界各地でみられる事象の地理学的なトピックを提示する。グローバル化が進む中，世界各地の地誌的な見方は歴史（世界史）と並んで欠かすことができないだけに，地理学概論と併せて教職に必要な知識を身につけてもらいたい。なお，前期はアジア，後期はアジア以外の世界各地を取り上げる。

【学習目標】
1．地図や図表の読み取りを通じて，世界各地で起きる様々な現象の因果関係を「空間」から読み取る力を養う
2．身近なニュースや何気ない話題から地理的な見方を再認識してもらう

【講義計画】
第１回：ガイダンス-講義の進め方・「地誌学」とは？ -
第２回：東アジア（1）－韓国－
第３回：東アジア（2）－中国１：自然環境と農業・漁業－
第４回：東アジア（3）－中国２：人口・都市問題と民族・文化－
第５回：東アジア（4）－中国３：鉱工業－
第６回：東南アジア（1）－自然環境と農林漁業－
第７回：東南アジア（2）－民族・文化－
第８回：東南アジア（3）－鉱工業－
第９回：東南アジア（4）－都市問題－
第10回：南アジア（1）－自然環境と農業－
第11回：南アジア（2）－民族・文化－
第12回：南アジア（3）－鉱工業－
第13回：南アジア（4）－都市問題－
第14回：西アジア・北アフリカ（1）－自然環境と鉱工業－
第15回：西アジア・北アフリカ（2）－民族・文化と都市問題－
第16回：サハラ以南のアフリカ（1）－自然環境と農業－
第17回：サハラ以南のアフリカ（2）－鉱工業と民族・文化－
第18回：ヨーロッパ（1）－自然環境と農業－
第19回：ヨーロッパ（2）－民族・文化と都市問題－
第20回：ヨーロッパ（3）－鉱工業－
第21回：ロシア
第22回：北アメリカ（1）－アメリカ合衆国の自然環境と農林業－
第23回：北アメリカ（2）－アメリカ合衆国の鉱工業と都市問題－
第24回：北アメリカ（3）－アメリカ合衆国の民族・文化と都市問題－
第25回：北アメリカ（4）－カナダ－
第26回：南アメリカ（1）－自然環境と農林漁業－
第27回：南アメリカ（2）－民族・文化と都市問題－
第28回：オセアニア（1）－オーストラリアの自然環境と農業－
第29回：オセアニア（2）－オーストラリアの鉱工業と民族・文化－
第30回：オセアニア（3）－環太平洋の国々－

【事前および事後学習の指示】
中学や高校の「地理」教科書や地図帳があれば，それらをみておくことが望ましい。

【テキスト】

【参考文献】
1．辰己　勝・辰己眞知子（2012）：『図説・世界の地誌』古今書院
2．辰己　勝（2013）：『図説・世界の自然環境』古今書院
3．寺阪昭信・伊東　理編（2013）：『図説アジア・オセアニアの都市と観光』古今書院
このほか，大学レベルの地誌テキストとして，『世界地誌シリーズ』（朝倉書店）もレジュメで引用する予定である。

【コメント】
試験は前期・後期の２回に分けて実施する。講義で取り上げたテーマを論述してもらうが，１問は全員解答，そして他の問題（４～５問を予定）から２問を選択解答してもらう方式を予定している。また，出席については毎回講義終了時にコメントペーパーを配布し，感想を書いてもらう。これにより，講義内容にどれだけ関心があるのかをみる。

講　義　名　称	曜　時
地方財政論Ⅰ　＜春＞	火4

【教員名称】
田代　昌孝

【講義概要】
経済のグローバル化と少子高齢化が進む中で、政府に求められる役割が大きくなってきた。国も地方も膨大な借金を抱えており、今日において財政の再編が求められている。とりわけ、地方財政は厳しい財政状況に直面しており、何らかの改革が必要となっている。地方分権や地域の活性化、あるいは官業の民間委託はその典型的な例と言えよう。本講義では地方財政の制度や課題、そして、わが国の地方財政の実態について説明する。

【学習目標】
本講義の目的は、地方財政の基礎知識を習得することにある。具体的な地方自治体の財政データを示しながら、新聞報道の地方財政関連記事に興味を持たせ、わが国における地方財政問題について語る能力を身につけることにこの授業の狙いがある。

【講義計画】
第１回：ガイダンス。
地方財政とは何か。
成績評価についての説明。
講義を受けるうえでの注意事項。
第２回：地方財政の現状
第３回：財政の役割（財政の三機能）
第４回：国と地方の役割分担
第５回：地方財政計画
第６回：地方の歳出構造
第７回：地方の歳入構造
第８回：地方税の原則
第９回：地方税の制度
第10回：地方税の課題
第11回：地方交付税の制度
第12回：地方交付税の課題
第13回：国庫支出金の制度と課題
第14回：地方債の制度
第15回：地方債の課題

【事前および事後学習の指示】
事前にレジュメを熟読しておいて下さい。

【テキスト】
地方財政　新版 林　宜嗣 9784641183643 有斐閣ブックス

【参考文献】
林　宏昭・橋本恭之著『入門地方財政　第3版』中央経済社、2013年。(ISBN978450265)
佐藤主光著『地方財政入門』新世社、2009年。(ISBN9784883841332)
和田八束・星野泉・青木宗明編『現代の地方財政　第3版』有斐閣ブックス、2004年。(ISBN4641183074)

【コメント】
試験は70点満点とします。出席を何回取るかは第1回のガイダンス講義で決めたいと思います。

講　義　名　称	曜　時
地方財政論Ⅱ　＜秋＞	火4

【教員名称】
田代　昌孝

【講義概要】
経済のグローバル化と少子高齢化が進む中で、政府に求められる役割が大きくなってきた。国も地方も膨大な借金を抱えており、今日において財政の再編が求められている。とりわけ、地方財政は厳しい財政状況に直面しており、何らかの改革が必要となっている。地方分権や地域の活性化、あるいは官業の民間委託はその典型的な例と言えよう。本講義では地方分権の基礎的な議論を踏まえたうえで、わが国の地方財政の実態について説明する。

【学習目標】
新聞報道で伝えられた地方分権に関する記事、たとえば市町村合併や大阪都構想のみならず、東日本大震災と地方財政のあり方について私見が述べられることを目標とします。

【講義計画】
第１回：ガイダンス。
地方分権とは何か。
成績評価についての説明。
講義を受けるうえでの注意事項。
第２回：地方分権改革
第３回：政府間競争
第４回：地方分権と三位一体改革
第５回：市町村合併と広域行政
第６回：大阪都構想について
第７回：道州制の議論
第８回：地方財政と福祉
第９回：地域経済の発展と地方財政
第10回：地方財政の効率化と自治体行政
第11回：新しい地方公共サービスの供給（PFI事業）
第12回：地方公営企業のあり方
第13回：第三セクター問題
第14回：夕張市の財政破綻問題
第15回：東日本大震災と地方財政

【事前および事後学習の指示】
事前にレジュメを熟読しておいて下さい。

【テキスト】
地方財政　新版 林宜嗣 9784641183643 有斐閣ブックス

【参考文献】
林　宏昭・橋本恭之著『入門地方財政　第3版』中央経済社、2013年。(ISBN978450265)
佐藤主光著『地方財政入門』新世社、2009年。(ISBN9784883841332)
和田八束・星野泉・青木宗明編『現代の地方財政　第3版』有斐閣ブックス、2004年。(ISBN4641183074)

【コメント】
試験は70点満点とします。出席を何回取るかは第1回のガイダンス講義で決めたいと思います。

講　義　名　称	曜　時
地理学概論　01＜春集＞	水3／金4

【教員名称】
安倉　良二

【講義概要】
本講義の目的は，自然地理学・人文地理学双方のトピックを紹介しながら，中学・高校の教科として「地理」を教えるに必要な考え方を身につけてもらうことにある。近年，高校で「地理」を履修していない学生が多いものの，地理学あるいは「地理」として語られている内容の多くは，日常生活やニュースでも取り上げられる身近な内容が含まれる。本講義では可能な限り，身近なトピックを素材に，地理学的な見方とその面白さを紹介したい。なお，トピックの主な内容は国内とする。海外のトピックを学びたい場合は，同じく教職科目として担当者が通年講義で行っている「地誌」の並行履修を薦める。

【学習目標】
1．地域で起きているあらゆる現象について，図表や地図を用いて説明することができる
2．地図・統計の読み取りを通じた「地理的技能」の初歩的な内容を理解することができる

【講義計画】
第１回：ガイダンス－系統地理学と地誌学の違い－
第２回：地図の活用（1）－世界地図の見方：地球儀・図法・時差－
第３回：地図の活用（2）－主題図の見方：種類と表現技法－
第４回：地図の活用（3）－地形図の見方：紙地図・デジタル地図－
第５回：地図の活用（4）－地形図からみた自然環境と土地利用（1）：沖積平野－
第６回：地図の活用（5）－地形図からみた自然環境と土地利用（2）：洪積台地－
第７回：地図の活用（6）－地形図からみた自然環境と土地利用（3）：海岸地形－
第８回：地図の活用（7）－自然災害を読む：火山・地震－
第９回：地図の活用（8）－集落の立地（1）：農山漁村の歴史－
第10回：地図の活用（9）－集落の立地（2）：城下町・宿場町・門前町－
第11回：地図の活用（10）－メンタルマップ－
第12回：気候（1）－世界の気候区分－
第13回：気候（2）－日本の気候区分－
第14回：人口（1）－世界レベルでみた人口問題－
第15回：人口（2）－人口ピラミッドからみた日本の地域変容－
第16回：人口（3）－人口移動の諸相－
第17回：人口（4）・農山村（1）－過疎化の進展と限界集落－
第18回：農山村（2）－むらおこしの特徴－
第19回：農業（1）－ホイットルセイの農業地域区分－
第20回：農業（2）－日本の農業地域－
第21回：農業（3）－食料自給と国内外における産地変容－
第22回：林業－林野資源の活用と日本の林業－
第23回：漁業（1）－資源管理型漁業の導入と日本の漁業－
第24回：漁業（2）－魚食文化の地理学－
第25回：工業－ウェーバーの工業立地論－
第26回：都市（1）－都市の内部構造－
第27回：都市（2）－住宅の立地：郊外住宅地の盛衰を中心に－
第28回：都市（3）－都市の再開発・スラム問題－
第29回：都市（4）－商店街と大型店－
第30回：都市（5）－コンビニの立地－

【事前および事後学習の指示】
日頃から防災，環境問題，まちづくりなどの時事的なトピックについて，テレビ・新聞・インターネットで情報を収集し，それが「どこで」「どうして」「どのように」起こっているのかに関心を寄せておくとよい。また，内容によっては，各学部の専門あるいは基本科目でも紹介されている場合もある。したがって，「地理」にこだわらず幅広い視野で物事を考えておくと良い。

【テキスト】

【参考文献】
1．稲垣　稜（2014）：『現代社会の人文地理学』古今書院
2．竹中克行ほか編（2015）：『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房）
講義では上記の参考文献以外にも，地理学の文献ならびに高校地理の資料集を積極的に引用したレジュメを提供する。地形図についても担当者で用意する。

【コメント】
定期試験ならびにコメントペーパー（講義終了時に配布）から評価する。定期試験については，テーマに関する基本的な論述問題を出題する。コメントペーパーは，講義内容への理解度をみるための評価材料とする。

講　義　名　称	曜　時
中国経済論Ⅰ　＜春＞	金2

【教員名称】
大島　一二

【講義概要】
改革・開放政策実施以降の30余年で中国の経済は大きく発展した。国内総生産の実質成長年率は年率10％に達し、1950年代～ 70年代までの日本経済の高度経済成長期に匹敵する水準である。これにより2010年には世界第２位のＧＤＰ大国となった。また外貨準備高はすでに世界第１位の水準にある。この結果、多くの日本企業が中国に参入している。
しかし、国内には解決しなければならない課題も山積している。例えば、三農問題といわれる農業・農村の停滞、1.5億人ともいわれる大規模な労働力流動と都市・農村社会の急激な変容、国際的問題ともなった食品安全問題、深刻な環境問題など数多い。
本講義では、中国経済の成長過程を明らかにし、高度成長が実現した背景、直面している主な問題、今後の課題について解説する。また、台湾、香港、マカオ等の地域の経済についても解説する。テキストのほかに、中国経済の動きに関する新聞報道なども紹介し、NHKなどが制作したドキュメンタリーを放映するなどして、わかりやすい授業に心掛ける。
この中国経済論Ⅰでは、1949年の新中国建国から現在に至る中国経済の展開と、香港、台湾の経済について取り扱う。

【学習目標】
日本と中国の経済的な繋がりはますます深まっているが、現代の中国経済はどのように形成されてきたのか、またその課題は何かについて体系的、客観的に理解する。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション。授業の進め方、講義内容の概要などについて説明する。
第２回：近現代から現在に至る中国、台湾、香港、マカオの展開
第３回：社会主義計画経済体制の形成と課題。
第４回：計画経済期の中国経済。
第５回：人民公社、国営企業、戸籍制度。
第６回：改革開放期の高度成長。
第７回：農業改革、企業改革の進展。
第８回：所有制改革と社会主義市場経済。
第９回：ＷＴＯ加盟と国際化。
第10回：世界の工場から世界の市場へ。
第11回：台湾の経済（１）
第12回：台湾の経済（２）
第13回：香港の経済
第14回：マカオの経済
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
テキストは特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。また、できるだけ参考文献を読んでおくこと。

【テキスト】

【参考文献】
大島一二編著（2007）『中国野菜と日本の食卓　－産地、流通、食の安全・安心』芦書房。
大島一二（2015）『日系食品産業における中国内販戦略の転換（日本農業市場学会研究叢書）』筑波書房。

【コメント】
原則として、学年度末試験の成績（70％）を中心に評価するが、レポート（20％）と出席（10％）の結果も成績評価に加味する。

講　義　名　称	曜　時
中国経済論Ⅱ　＜秋＞	金2

【教員名称】
大島　一二

【講義概要】
改革・開放政策実施以降の30余年で中国の経済は大きく発展した。国内総生産の実質成長年率は年率10％に達し、1950年代～ 70年代までの日本経済の高度経済成長期に匹敵する水準である。これにより2010年には世界第２位のＧＤＰ大国となった。また外貨準備高はすでに世界第１位の水準にある。この結果、多くの日本企業が中国に参入している。
しかし、国内には解決しなければならない課題も山積している。例えば、三農問題といわれる農業・農村の停滞、1.5億人ともいわれる大規模な労働力流動と都市・農村社会の急激な変容、国際的問題ともなった食品安全問題、深刻な環境問題など数多い。　本講義では、中国経済の成長過程を明らかにし、高度成長が実現した背景、直面している主な問題、今後の課題について解説する。また、台湾、香港、マカオ等の地域の経済についても解説する。テキストのほかに、中国経済の動きに関する新聞報道なども紹介し、NHKなどが制作したドキュメンタリーを放映するなどして、わかりやすい授業に心掛ける。
この中国経済論Ⅱでは、現在の中国経済が直面する問題点、日本経済と中国経済の関係、日本企業の中国投資等について取り扱う。

【学習目標】
日本と中国の経済的な繋がりはますます深まっているが、現代の中国経済はどのように形成されてきたのか、またその課題は何かについて体系的、客観的に理解する。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション。授業の進め方、講義内容の概要などについて説明する。
第２回：人口政策と人口問題
第３回：経済格差と貧困
第４回：地域間労働移動と労働市場（１）
第５回：地域間労働移動と労働市場（２）
第６回：農業と食料問題
第７回：食品安全問題
第８回：三農問題といわれる農業・農村問題
第９回：生態環境問題と環境政策
第10回：環境問題とエネルギー
第11回：社会保障制度の課題
第12回：日本経済と中国経済
第13回：日中貿易の実態
第14回：日本企業の中国投資
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
この講義の履修には中国経済論Ⅰの履修が前提となる。テキストは特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。できるだけ参考文献を読んでおくこと。

【テキスト】

【参考文献】
大島一二編著（2007）『中国野菜と日本の食卓　－産地、流通、食の安全・安心』芦書房。
大島一二（2015）『日系食品産業における中国内販戦略の転換（日本農業市場学会研究叢書）』筑波書房。

【コメント】
原則として、学年度末試験の成績（70％）を中心に評価するが、レポート（20％）と出席（10％）の結果も成績評価に加味する。

講　義　名　称	曜　時
中国史Ⅰ　＜春＞	木4

【教員名称】
石黒　亜維

【講義概要】
経済的にも政治的にも国際的影響力を強めつつある隣国中国。日本はその中国にどのように向き合うべきか、様々に議論がなされているが、歴史を繙けば、両国関係のはじまりは古代にまで遡り、また相互認識・交流のあり方も時に応じて変化してきたことがわかる。すなわち、現代中国および昨今の日中関係に対する理解を深めるためには、中国そのものの長大な歴史をまず理解する必要があるといえる。本講義では古代中国から明末清初までの中国史を概観し、各王朝の特徴と歴史の連続性について考えていきたい。講義内容の理解を深めるため、映像資料等も適宜活用していく。

【学習目標】
（1）通史としての基本的な事象を把握すること。
（2）具体的なトピックスを通して各時代の特徴を考察すること。
（3）歴史的な視点を通して日中関係を理解すること。

【講義計画】
第１回：「中国」とは何か
第２回：古代文明と初期王朝①
第３回：古代文明と初期王朝②
第４回：春秋戦国から秦の統一へ①
第５回：春秋戦国から秦の統一へ②
第６回：漢帝国と周辺地域①
第７回：漢帝国と周辺地域②
第８回：帝国の分裂と再統合①
第９回：帝国の分裂と再統合②
第10回：隋・唐帝国の形成①
第11回：隋・唐帝国の形成②
第12回：宋と北方諸民族①
第13回：宋と北方諸民族②
第14回：元から明へ①
第15回：元から明へ②

【事前および事後学習の指示】
テキストを十分に活用し、予習・復習に努めてください。また歴史的視点から現代中国に関する時事問題等も適宜とりあげますので、日頃から新聞・雑誌等のメディアを通じて関連事項の情報収集を心がけてください。

【テキスト】
中国社会の歴史的展開 岸本美緒　放送大学教育振興会
中国の歴史（ちくま学芸文庫）岸本美緒　筑摩書房

【参考文献】
尾形勇、岸本美緒編『中国史』山川出版、1998年
山根幸夫『中国史研究入門』上下、山川出版社、1986年
吉澤誠一郎『歴史からみる中国 』放送大学教育振興会、2013年

【コメント】
レポートは授業中に行う「ミニレポート」とする。

講　義　名　称	曜　時
中国史Ⅱ　＜秋＞	木4

【教員名称】
石黒　亜維

【講義概要】
19世紀半ば以降、中国は列強諸国によって主権を脅かされ、その後、隣国日本との戦争によって甚大なる被害を被り、中華人民共和国の成立後は国際的・国内的諸矛盾のなかにおかれるなど、中国にとって20世紀はまさに激動の世紀であった。本講義では中国の近現代史を東アジア諸国との関係を視野に入れつつ多角的にとりあげ、現代中国との歴史的連続性や日中関係の歴史についても考察する。

【学習目標】
（1）20世紀の中国社会はどのようなパラダイムで把握されてきたのかを理解する。
（2）グローバル化の流れのなかにおける中国社会の変容を歴史的に検討する。
（3）日中関係はどのような変遷をたどったのか考察する。

【講義計画】
第１回：プロローグ―中国史とは何か
第２回：清朝の成立とその治世①
第３回：清朝の成立とその治世②
第４回：「西洋の衝撃」と中国の反応①
第５回：「西洋の衝撃」と中国の反応②
第６回：辛亥革命と中華民国の成立①
第７回：辛亥革命と中華民国の成立②
第８回：中国ナショナリズムの高揚①
第９回：中国ナショナリズムの高揚②
第10回：第二次世界大戦と中国①
第11回：第二次世界大戦と中国②
第12回：内戦から新中国誕生へ
第13回：中華人民共和国―社会主義建設の時代①
第14回：中華人民共和国―社会主義建設の時代②
第15回：エピローグ―現代中国の新たな展開

【事前および事後学習の指示】
テキストを十分に活用し、予習・復習に努めてください。また歴史的視点から現代中国に関する時事問題等も適宜とりあげますので、日頃から新聞・雑誌等のメディアを通じて、関連事項の情報収集を心がけてください。

【テキスト】
中国社会の歴史的展開 岸本美緒　放送大学教育振興会
中国の歴史（ちくま文庫）岸本美緒　筑摩書房

【参考文献】
池田誠、副島昭一、西村成雄、安井三吉『図説中国近現代史（第3版）』法律文化社、2009年
田中仁、加藤弘之、日野みどり、岡本隆司、菊池一隆『新・図説 中国近現代史』法律文化社、2012年
吉澤誠一郎『歴史からみる中国』放送大学教育振興会、2013年

【コメント】
レポートは「ミニレポート」として授業中に行うものとする。

講　義　名　称	曜　時
中小企業論Ⅰ　<春>	金2

【教員名称】
義永　忠一

【講義概要】
リーマンショック、東日本大震災など、世界経済、日本経済、中小企業をめぐる環境は大きく変化した。急速に進むグローバル経済化とその下で大きく揺れ動いている地域経済の動向とともに、中小企業・ベンチャー企業について本講義では講義していく。

【学習目標】
地域に根を張り地域との関係をさまざまに強く持つことの多い中小企業が直面している大きな変化が、どのようなものかを理解・把握することを学習目標とする。

【講義計画】
第１回：中小企業・ベンチャー企業を学ぶ―講義概要と評価の方法―
第２回：日本経済と中小企業～明治期から1970年代まで
第３回：日本経済と中小企業～ 1970年代から2010年代まで
第４回：大企業と中小企業
第５回：地域経済と中小企業
第６回：海外の中小企業
第７回：下請システムとものづくり中小企業
第８回：国際化と中小企業
第９回：事業承継と中小企業
第10回：集積・ネットワークを活かす中小企業
第11回：地域と共に生きる中小企業
第12回：中小企業金融
第13回：国による中小企業政策・自治体による中小企業政策
第14回：イノベーションを展開する中小企業
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
教科書にあらかじめ目を通し、講義を受けて質問が出来るようにすること。

【テキスト】
中小企業・ベンチャー企業論　新版　グローバルと地域のはざまで 植田浩史編著 有斐閣

【参考文献】

【コメント】
講義中にディスカッションを行います。事前準備を行った発言者へは、加点します。
レポートの提出方法や、レポートに関する評価基準についての詳細な説明を第1回講義に行います。

なお受講者多数の場合は、試験による評価（100%）に変更する場合があります。この決定は、受講者数確定時に行います。

講　義　名　称	曜　時
中小企業論Ⅱ　<秋>	金2

【教員名称】
義永　忠一

【講義概要】
我が国経済は、戦後最長となる景気拡大期間を経験した後、2008年から経済環境が激変し大きな変革の中にありました。さらに2011年には、大震災やその後の事故等を経て、さらにその変化は加速しつつあります。中小企業論Ⅱでは、現状における中小企業に関する様々な問題、特にグローバル化について注目し、その変化に対する対応策について講義参加者と一緒に考えていきます。そして、一つの対応策として中小企業論が注目してきた「産業集積」に関する講義を展開します。

【学習目標】
毎回実施する新聞チェックにより、現実に起こるグローバル化の影響を的確に把握できるようになることを第一の目標とします。次に、中小企業論が注目してきた「産業集積」の理解を深め、グローバル化の影響下の、中小企業が抱える課題を如何に解決するかについて、考え始める基礎を築くことを学習の目標とします。

【講義計画】
第１回：中小企業論とは何か～中小企業研究の課題～
以下の講義計画において、教科書以外に、ビデオ、独自資料を使った講義も行います。また、小テスト実施の関係から、講義計画の進展が変更される場合があります。
小テストに関する説明～新聞チェック：あなた自身の分析軸を作る～
第２回：中小企業をめぐる環境の変化－グローバル化（１－１）1980年代の映像
第３回：中小企業をめぐる環境の変化－グローバル化（１－２）1980年代の理解
第４回：中小企業をめぐる環境の変化－グローバル化（２）2000年以降の変化
第５回：環境変化をいかに捉えるのか（小括１）グループディスカッション
第６回：環境変化をいかに捉えるのか（小括２）グループディスカッション　予備日
第７回：産業集積における理論的背景（１）
第８回：産業集積における理論的背景（２）
第９回：産業集積に関する事例（１）東大阪
第10回：産業集積に関する事例（２）東京都大田区・墨田区
第11回：技能と技術と承継の課題―産業集積の視点―
第12回：起業と経済活性化
第13回：ベンチャー企業の創造・経営と支援
第14回：産業集積の役割の変化と可能性
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
毎講義開始15分間、当日の日本経済新聞のチェックを行います。当日の日本経済新聞朝刊を購入して講義に臨んでください。 詳細は、成績評価の欄を参照してください

【テキスト】
中小企業・ベンチャー企業論　新版　グローバルと地域のはざまで 4-641-16431-4 有斐閣

【参考文献】
その都度指示します。

【コメント】
毎講義開始15分間、当日の日本経済新聞のチェックを行います。当日の日本経済新聞朝刊を購入して講義に臨んでください。不定期に、この新聞チェックに関する小テストを実施します。小テスト（40%）と学期末試験（60%）で評価します。小テスト実施の関係から、上記の授業計画の進展が変更される場合があります。 また中小企業論Ⅱでは、新聞チェックを、受講者によるグループディスカッションにて実施し、発表することも行います。

講　義　名　称	曜　時
哲学　＜通期＞	金3

【教員名称】
木下　昌巳

【講義概要】
哲学とは、世界と人間について、常識を突き抜け、その究極的なあり方を根源的・包括的に認識しようとする学問である。この講義では、古代から現代に至るまでの西洋の主要な哲学者たちを取り上げ、彼らの思想を学び、哲学という学問が取り組もうとした問題と彼らのそれらの問題に対する解答を概要を理解することを目指す。哲学という学問は、日常生活の常識を疑うことから始まるものであり、本質的に難解である。学ぶ側に哲学的な問題意識がなければ、理解は困難であり、人によっては無意味な言葉遊びにしか見えないかもしれない。しかし、だがわれわれが真に世界と対峙するとき、必然的に対峙しなければならないもっとも人間らしい営みである。世界と人間について深く考え、その本質を知ることに憧れる人の受講を希望する。
なお、この授業では、哲学的問題のなかでも、存在論（世界は究極的にいかなる存在から成り立っているのかという問題）と認識論（人間は何をどこまで知ることができるのかという問題）を中心に講義をおこなう。「ひとはいかに生きるべきか？」という問題を取り扱った哲学思想に関心のある人は、この授業とは別に開講される倫理学の受講を勧める。（もちろん両方の選択も可能である。）

【学習目標】
春学期は、「哲学」という学問が成立した古代ギリシアの哲学者たちを年代順に取り上げ、「哲学」という学問がどのように成立し、発展していったのかを概観することによって、哲学という学問の根本的な問題意識を理解することを目指す。秋学期は哲学の黄金期とも言うべきヨーロッパの近世・近代の哲学思想をテーマとして、１７世紀から２０世紀に至るまでの主要な哲学者の思想を解説する。

【講義計画】
第１回：「哲学」とはいかなる学問か。
　　西洋哲学の流れとその時代区分（古代・中世・近代）
第２回：ソクラテス以前の哲学者たち①
　　ミレトス学派と万物の始原
第３回：ソクラテス以前の哲学者たち②
　　エレア派の哲学１――「アキレウスは亀を追い抜けない？」
第４回：ソクラテス以前の哲学者たち②
　　エレア派の哲学２――「矢は止まっている？」
第５回：ソクラテスの生き方①
　　哲学と弁論術
第６回：ソクラテス②
　　「よく生きる」とはどういういうことか？
第７回：プラトン①
　　ソクラテスとプラトン
第８回：プラトン②
　　プラトンのイデア論
第９回：プラトン③
　　「洞窟の比喩」
第10回：プラトン④
　　哲人王と民主制批判
第11回：アリストテレス①
　　「万学の祖アリストテレス」
第12回：アリストテレス②
　　プラトンのイデア論批判
第13回：アリストテレス③
　　アリストテレスの目的論的世界観
第14回：ヘレニズム期の哲学
　　エピクロス派とストア派
第15回：古代ギリシア哲学全体の回顧とその意義
第16回：西洋近世・近代哲学の概観
　　16世紀から19世紀における哲学思想の展開
第17回：大陸合理論とイギリス経験論
第18回：デカルト①
　　方法的懐疑とは何か？
第19回：デカルト②
　　「われ思う、ゆえに、われあり」
第20回：イギリス経験論①
　　ロックの「タブラ・ラサ」
第21回：イギリス経験論
　　モリヌークス問題をめぐって
第22回：イギリス経験論③
　　ヒュームによる経験論的懐疑の徹底
第23回：カント①
　　カントのコペルニクス的転回
第24回：カント②
　　感性の形式としての「時間と空間」
第25回：カント③
　　「悟性」と「カテゴリー」
第26回：ニーチェ①
　　道徳の系譜学
第27回：ニーチェ②
　　奴隷道徳と貴族道徳
第28回：ニーチェ③
　　力への意志
第29回：現代哲学の諸相①
　　２０世紀の思想１
第30回：現代哲学の諸相②
　　２０世紀の思想２

【事前および事後学習の指示】
授業前に特別な予習は、とくに指示をしない限り必要はない。むしろ、授業後や休暇中に授業で取り上げた思想家の著作や授業で紹介した解説書を自らすすんで手に取って読むことを望む。

【テキスト】
『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』伊藤邦武 978-4121021878 中央公論新社

【参考文献】
『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008）
現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史。内容は細かいが、講義で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識を得ることができる。

【コメント】
テストは、春学期と秋学期ののテスト期間にそれぞれ１回ずつ、計２回実施する。出席は毎回取らないが、不定期に授業の内容に関する小作文を授業中に書いてもらい、それを平常店として成績に加味する。

講　義　名　称	曜　時
ディスクロージャー制度論　＜春＞	木4

【教員名称】
朴　大栄

【講義概要】
ディスクロージャー、情報公開とも訳されるこの言葉は近年ますます重要かつ身近な言葉となっている。文字通り、隠すことなく公に広く情報を開示することを意味する。我々は、正確な情報を得てこそ、適格な意思決定を行うことが可能となる。情報が不足する場合、誤った情報を得た場合、我々の意思決定も誤った方向へ導かれることとなろう。履修すべき授業の選択、大学の選択、就職先の選択、居住地の選択、我々は人生のあらゆる場面で意思決定を行わねばならない。そのために必要とされるのが情報である。特に、経済社会において様々な局面で関係を持つ企業の情報は重要である。
企業情報の公開、ディスクロージャーは、法律で強制されることもあれば、企業自らが自発的に公開することもある。社会における企業情報の公開はどのように制度化されているのか、情報の効率的な入手、効果的な活用のために学ぶべきディスクロージャー制度を取り上げる。
正しいディスクロージャーを普及させるためには、情報の適正性を確認することも必要である。そのために要請される監査制度についても一部取り上げる。

【学習目標】
本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に広がるディスクロージャー制度にどのようなものがあるか、規制する法律や規則を含めて企業情報公開制度に関する基礎知識の理解を目標とする。具体的には以下の学習目標をあげることができよう。
1．企業情報に関わる経済事件を理解する。
2．企業の情報公開の内容・種類について理解する。
3．会社法、金融商品取引法、証券取引所規則等、企業ディスクロージャー制度に関わる法律・制度の中身を理解する。
4．公開情報の入手方法ならびに活用方法を理解する。

【講義計画】
第１回：ディスクロージャー制度とは:
　　授業の導入部分として、ディスクロージャーの意味ならびにディスクロージャー制度の概略を説明します。ビデオなども活用します。
第２回：身近に見る企業情報のディスクロージャー１
第３回：身近に見る企業情報のディスクロージャー２
第４回：社会を揺るがす経済事件１
第５回：社会を揺るがす経済事件２
第６回：コーポレートガバナンス１
第７回：コーポレートガバナンス２
第８回：コーポレートガバナンス３
第９回：経済社会を支える財務情報１
第10回：経済社会を支える財務情報２
第11回：経済社会を支える財務情報３
第12回：経済社会を支える財務情報４
第13回：財務情報と監査の必要性１
第14回：財務情報と監査の必要性２
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
企業情報の開示制度を身近に感じておく必要がある。
受講生は日本経済新聞の経済欄および証券欄を読んでおくこと。企業の情報公開、証券取引所における株価変動、株主総会等の記事に特に注意しておくこと。
また、各自が就職希望など関心のある企業、業種について、企業情報を新聞やホームページで見ておくこと。

【テキスト】
『はじめてまなぶ監査論』盛田良久、百合野正博、朴大栄編　中央経済社

【参考文献】
講義中に適宜指示する。

【コメント】
講義中の態度も含めて、総合的に評価します。

講　義　名　称	曜　時
ドイツ文化論　＜秋集＞	月3 ／木2

【教員名称】
高田　里惠子

【講義概要】
「ドイツを知ると日本が見えてくる！」＝異文化を理解する力をつけよう！
この講義では、近代ドイツと近代日本の高等教育制度や軍隊制度を取りあげながら、ドイツと日本とのかかわりを見ていく。日本は教育制度や徴兵制度を主にドイツ帝国から学びとったが、そこには微妙なズレや違いも生じた。それはなぜなのか、という問題を中心に考察していく。その際、１９世紀後半からヨーロッパ以上に大きな力をもちはじめるアメリカ合衆国との比較も重要になってくる。また、敗戦後のドイツと日本の比較も一つの課題となるだろう。

【学習目標】
文学作品や映像作品など具体的な事例に触れながら近代ドイツに特徴的な歴史状況を見ていくことによって、考察力と分析力を身につけることを目標とする。ドイツとアメリカの相違点、ドイツと他のヨーロッパの国との相違点、近現代日本と欧米諸国の相違点に注目しながら、ドイツおよび日本の近代史を知ることも目指す。
この講義では、授業の内容を自分でうまくノートにまとめる練習、人の話の要点を的確につかむ訓練をしていただきたい。したがって、レジュメは配布しないので、そのつもりで授業に臨むこと。小テストなどを通して、わかりやすく簡潔な文章を書く練習をする。また、グループディスカッションにおいて自分の意見を言う、そして他の人の意見を理解する訓練も行なう。
この講義の目標は、何かを暗記することや歴史事項を確認することではない。さらなる勉学や就職活動のために、聞く力・書く力・話す力を身につけることが目標となる。

【講義計画】
第１回：この講義のテーマ、全体の計画、試験のやり方、出席点のつけ方などを説明する。
１８世紀後半からの１９００年前後の歴史事項を確認する。
第２回：学歴社会の成立をめぐって――日本、ヨーロッパ、アメリカを比較して
第３回：ナショナル・エリートとは何か――近代ドイツと近代日本を比較して
第４回：１９００年前後の社会変動について①――グローバル化を考える
第５回：１９００年前後の社会変動について②――二つの世界大戦をめぐって
第６回：高等教育と男性性①――階級社会としてのヨーロッパ
第７回：高等教育と男性性②――ブルジョアと職業
第８回：ドイツと日本、敗戦後の教育改革をめぐって
第９回：ドイツと日本の戦後の大学改革
第10回：寄宿舎教育礼賛の歴史
第11回：寄宿舎教育と支配①――教室の支配者は誰か
第12回：寄宿舎教育と支配②――教師と生徒の関係
第13回：パブリックスクールの歴史
第14回：パブリックスクールの構造
第15回：パブリックスクールがドイツの教育政策に与えた影響
第16回：ドイツにおける１９００年前後の教育改革について
第17回：ナチズムと平等について
第18回：ナチスの教育政策
第19回：ナチスとエリート教育
第20回：徴兵制とは何か
第21回：日本の軍隊の特徴について
第22回：徴兵制改革をめぐって
第23回：ドイツの軍隊と高等教育の関係
第24回：日本の軍隊と高等教育の関係
第25回：第一次大戦における高学歴兵士について
第26回：第一次大戦と戦死者について
第27回：第二次大戦における高学歴兵士について
第28回：「戦争」はどのように語られているか
第29回：「戦死者」はどのように語られているか
第30回：全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】
授業で扱う文学作品のうち、文庫などで入手しやすいものを自分で読んでみることをすすめる。直接には試験にはつながらなくとも、学生時代にさまざまな文学作品に触れることは重要である。
また、「学習目標」の箇所に書いたように、授業後にノートの内容をパソコンで整理し、不明な部分は自分で調べたり、教員に質問したりして補っておくことをすすめる。

【テキスト】
教科書は使わない。講義の内容をうまくノートにまとめることが重要である。

【参考文献】
野田宣雄『ドイツ教養市民層の歴史』（講談社学術文庫版）
ウォルター・ラカー『ドイツ青年運動――ワンダー・フォーゲルからナチズムへ』（人文書院）
加藤陽子『それでも、日本人は戦争を選んだ』（新潮文庫版）

【コメント】
７０点満点の試験を行なう。試験では、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。試験の問題はすべて記述式である。
出席点は、小テスト、グループディスカッション（発表を含む）、文殊シート、挙手（質疑応答）など、授業への積極的な参加を総合的に判断してつける。詳細は初回の授業の際に説明する。

講　義　名　称	曜　時
都市社会学　＜春集＞	火3 ／金2

【教員名称】
竹中　英紀

【講義概要】
都市社会学は、都市の近代化や人口の増大といった状況のもと、ヨーロッパの近代社会学に端を発し、20世紀アメリカの「シカゴ学派」において確立をみた学問分野である。この授業では、都市社会学の学問的な系譜と、その後の展開（マルクス主義陣営からの批判、コミュニティ論・ネットワーク論との相互滲透など）について解説する。また、現代および歴史上の世界と日本の都市を取り上げ、そこで生起している問題が、社会学的にはどのようにとらえられるかを考えていく。講義は教科書に沿って行い、適宜、小テストを実施して理解度を確認する。スライドなどの教材は、学内ネットワークドライブの教材用フォルダ（S:/bamboo）を用いて公開する。

【学習目標】
都市社会学の学説史に関する基本的な知識の習得と、都市問題に対する社会学的な分析力・表現力の獲得。

【講義計画】
第１回：都市社会学の問い［序章］
第２回：都市社会学の始まり（1）［第1章］
第３回：都市社会学の始まり（2）［〃］
第４回：アーバニズム（1）［第2章］
第５回：アーバニズム（2）［〃］
第６回：都市生態学と居住分化（1）［第3章］
第７回：都市生態学と居住分化（2）［〃］
第８回：補足・まとめと小テスト
第９回：地域コミュニティ（1）［第4章］
第10回：地域コミュニティ（2）［〃］
第11回：都市と社会的ネットワーク（1）［第5章］
第12回：都市と社会的ネットワーク（2）［〃］
第13回：都市圏の発展段階（1）［第6章］
第14回：都市圏の発展段階（2）［〃］
第15回：補足・まとめと小テスト
第16回：情報化・グローバル化と都市再編（1）［第7章］
第17回：情報化・グローバル化と都市再編（2）［〃］
第18回：インナーシティの危機と再生（1）［第8章］
第19回：インナーシティの危機と再生（2）［〃］
第20回：郊外のゆくえ（1）［第9章］
第21回：郊外のゆくえ（2）［〃］
第22回：補足・まとめと小テスト
第23回：都市再生と創造都市（1）［第10章］
第24回：都市再生と創造都市（2）［〃］
第25回：文化生産とまちづくり（1）［第11章］
第26回：文化生産とまちづくり（2）［〃］
第27回：アジアの都市再編と市民（1）［第12章］
第28回：アジアの都市再編と市民（2）［〃］
第29回：補足・まとめと小テスト
第30回：授業の総まとめ

【事前および事後学習の指示】
授業計画を参照して、教科書の該当箇所をあらかじめ熟読しておくこと。また授業中にとったノートをこまめに整理し、自己の理解を確認すること。

【テキスト】
都市社会学・入門 松本康編 978-4-641-22015-7 有斐閣

【参考文献】
松本康編（2011）『都市社会学セレクション1 近代アーバニズム』日本評論社。
井上俊・伊藤公雄編（2008）『社会学ベーシックス4 都市的世界』世界思想社。
野沢慎司編訳（2006）『リーディングス ネットワーク論』勁草書房。

【コメント】
期末テスト（70%）と、授業時間内に実施する小テスト（複数回、30%）の結果を総合して成績を評価する。

講　義　名　称	曜　時
東洋史　02＜秋集＞	月4／木3

【教員名称】
辻　高広

【講義概要】
東アジアの国々は、時代によってその密度に濃淡はあるものの、中国を中心とした一定の関わりをもって、ひとつの「東アジア世界」を形成してきた。本講義では、中国歴代王朝の変遷を縦軸にしながら、周辺地域との文化的・経済的・政治的交流を中心に東アジア世界の歴史的展開を概括する。
　なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。授業の最初に適宜小テストを行なうので知識に自信のない者は事前に高校の教科書などを読んで学んでおくこと。

【学習目標】
東アジア世界を形成してきた有機的なつながりについて学びながら、歴史が断絶のなかに形成されてきたのではなく、連続性をもって現代につながっていることを理解する。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
第２回：先秦時代1—「中華」世界の萌芽
第３回：先秦時代2—今に残る「古代中国」
第４回：秦漢時代1—統一帝国の形成と内実
第５回：秦漢時代2—徐福と渡来伝説
第６回：三国時代1—後漢の滅亡と三国鼎立
第７回：三国時代2—邪馬台国と東アジア国際情勢
第８回：南北朝時代1—晋による統一と異民族国家の乱立
第９回：南北朝時代2—南北朝の対立と古代日朝関係
第10回：隋唐時代1—隋唐世界帝国
第11回：隋唐時代2—世界帝国唐の繁栄と衰退
第12回：隋唐時代3—遣唐使の時代
第13回：五代十国—唐末の混乱と軍閥割拠
第14回：宋代1—文人国家宋
第15回：宋代2—ゆらぐ「中華」
第16回：宋代3—商業の発達と海を渡る貨幣
第17回：元代1—遊牧民族国家としてのモンゴル
第18回：元代2—国際商業国家としてのモンゴル
第19回：明代1—征服王朝の崩壊と漢民族王朝の復活
第20回：明代2—永楽帝の対外政策と朝貢貿易体制の成立
第21回：明代3—北虜南倭と銀の時代
第22回：清代1—「中華」王朝の完成
第23回：清代2—清とモンゴル・チベット・ウイグル
第24回：清代3—清とヨーロッパ
第25回：中華民国時代1—革命から近代国家へ
第26回：中華民国時代2—軍閥割拠
第27回：中華民国時代3—抵抗の時代
第28回：中華人民共和国時代1—共産主義革命と東西対立
第29回：中華人民共和国時代2—新たな東アジア世界の模索
第30回：総括とまとめ

【事前および事後学習の指示】
授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。

【テキスト】

【参考文献】
尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史3 中国史』山川出版社、1998年
講談社『中国の歴史』シリーズ（全12巻）、2004年～ 2005年
木村靖二ほか著『詳説世界史』山川出版社、2017年改訂

【コメント】
期末に論述試験を課す。また授業中に適宜行なわれる小テストを出席点（平常点）として評価の材料とする。

講　義　名　称	曜　時
統計学総論Ⅰ　＜春＞	月3

【教員名称】
井田　憲計

【講義概要】
　記述統計（＝統計データの整理と記述の方法）について概説し、推測統計（＝確率の考えをもとに、標本から母集団の特性を推論する方法）の基礎的な考え方について、講義を進めていく。
　「統計学総論Ⅰ」と「統計学総論Ⅱ」では、大きな流れはどちらも共通しており、Ⅰで充分に扱えないトピックスをⅡで扱う。

【学習目標】
　記述統計の知識と推測統計の考え方、これらについての理解を深めることを目標とする。このためには、各自の自習時間にパソコンも活用して教科書の例題などの課題にも挑戦していただく予定だが、決して難しい作業ではない。「統計的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できっと役に立つものであろう。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
　　（各回の順序は理解度に応じて入れ替えることがある）
第２回：記述統計と推測統計
第３回：代表値（平均値、中央値、最頻値）
第４回：ちらばりの指標（分散、標準偏差）
第５回：偏差値
第６回：度数分布とヒストグラム
第７回：確率
第８回：正規分布
第９回：母集団と標本
第10回：推定と検定
第11回：平均の区間推定
第12回：比率の区間推定
第13回：平均に関する検定
第14回：相関係数
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
教科書の練習問題での復習を中心に、空き時間等を利用して積極的に課題に取り組むことが求められる。

【テキスト】
よくわかる統計学－Ⅰ基礎編－（第2版）金子治平・上藤一郎編 978-4-623-06111-2 ミネルヴァ書房（￥2600+税）

【参考文献】
郡山彬+和泉澤正隆=著『統計・確率のしくみ（入門ビジュアルサイエンス）』日本実業出版社（税込￥1365）　ISBN:978-4534026620

【コメント】
［中間レポート］（配分30％）は学期途中に一回実施、［出席・講義時間中の小テスト］（配分30％）は不定期に実施する予定。

講　義　名　称	曜　時
日中ビジネス論　＜春＞	金3

【教員名称】　インテ
大島　一二

【講義概要】
この講義は、日本を代表する企業の担当者がゲスト講師となるインテグレーション講座です。「日中ビジネスの最前線」をテーマとし、日本と中国のビジネス事情について解説していただきます。
講義は、大きく以下の内容からなっています。
（1）中国への企業進出や中国での事業展開について
（2）日本と中国それぞれの経済状況と両国間の経済関係について
（3）中国ビジネスの実際について
本講義の講師陣は、中国ビジネスに活発に関わっている現役実務家の方々です。実務家の視点から生きた経済を語っていただくことにより、中国の経済やビジネスに関心のある学生はもちろん、広く日本経済・業界に関心のある学生にも興味が持てる内容となるでしょう。

【学習目標】
講義は、毎回異なるテーマについて、第一線で活躍中ないし経験豊富な実務家をゲスト講師として進められます。本講義の目的は、日本経済と中国経済との関わりを理解し、日本の対中国ビジネスへの関心を深めていくことです。また、各回の講義で述べられる事例から、ビジネスへの理解力を高め、業界研究を進めていくこともできると考えられます。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
講師日程と各回のテーマは確定次第あらためて連絡します。ただし、講師都合による日程変更時は別のテーマで行うこともあります。以下の日程は2016年度のものです。
第２回：口野直隆氏（営業本部パートナーズ）「中国への企業進出」
第３回：高村幸典氏（諏訪大連会）「中国の製造業Ⅰ」
第４回：和田芳明氏（ＮＴＴデータ）「中国のITビジネス」
第５回：草田哲也氏（アサヒビール）「中国の食品事業」
第６回：桃井昭氏（サントリー）「上海ビール事情」
第７回：林千野氏（双日株式会社）「中国事情」
第８回：高村幸典氏（諏訪大連会）「中国の製造業Ⅱ」
第９回：中村英明氏（東洋紡）「中国事業体験」
第10回：竹内健氏（丸一鋼管）「中国の銀行業」
第11回：齋藤幸則氏（テイジン）「中国での事業展開」
第12回：浜口夏帆氏（香港貿易発展局）「香港ビジネス事情」
第13回：辻維周氏（首都大学東京）「中国・台湾からの訪日観光」
第14回：大島一二「中国からの食品輸入と課題」
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
日々の中国経済関係の報道に関心を持って下さい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
講義内容に基づいたレポート（テーマは適宜発表）を、1回程度提出してもらいます。

講　義　名　称	曜　時
日本近代史Ⅱ　＜秋＞	木4

【教員名称】
島田　克彦

【講義概要】
「世界史の中の近代日本」というテーマの下、第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る時期の歴史について講義を行います。
　ヨーロッパでの第一次大戦勃発は世界史上の画期となりました。「国家総力戦」の思想が広まる時代にあって、人類の英知は「戦争違法化」の潮流を生み出していきます。しかし、帝国主義諸国がみずからの植民地支配を温存したことが世界史に矛盾をもたらし、新しい戦争につながっていきます。
このような世界史の中で、東アジアの一角を占める日本はどのように行動していったのでしょうか。授業では、矛盾を深めていく世界史の中で日本が果たした役割を考えていきます。

【学習目標】
二つの大戦を生み出した世界史の中で、日本が果たした役割を理解すること。

【講義計画】
第１回：近代日本の歩みと戦争　―開講にあたって―
第１回目に授業の進め方、課題、評価の方法等について説明をするので、必ず出席すること。
第２回：第一次世界大戦と「２１カ条要求」
第３回：第一次世界大戦期の東アジアにとシベリア干渉戦争
第４回：第一次世界大戦の集結と東アジアの民族運動
第５回：国際連盟とワシントン体制　―第一次大戦後の世界―
第６回：「戦争違法化体制」の構築
第７回：中間まとめ
第８回：関東大震災　―大日本帝国の大災害―
第９回：近代工業都市大阪の成立と社会変動
第10回：1930年代のヨーロッパとアジアにおける侵略戦争（１）　―満州事変―
第11回：1930年代のヨーロッパとアジアにおける侵略戦争（２）　―枢軸国陣営の形成―
第12回：日中戦争の勃発
第13回：第二次世界大戦からアジア太平洋戦争へ
第14回：第二次世界大戦の終結と戦後世界
第15回：全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】
各自作成する講義ノートと、配布される講義レジュメにしたがって復習すること。

【テキスト】
使用しない。講義ごとにレジュメと参考資料を配布する。

【参考文献】
江口圭一『体系日本の歴史14　二つの大戦』小学館、1993年（ライブラリー版）
木畑洋一『第二次世界大戦　―現代世界への転換点』吉川弘文館、2001年（歴史文化ライブラリー）
小林啓治『戦争の日本史21　総力戦とデモクラシー』吉川弘文館、2008年
伊香俊哉『戦争の日本史22　満州事変から日中前面戦争へ』吉川弘文館、2007年
吉田裕・森茂樹『戦争の日本史23　アジア・太平洋戦争』吉川弘文館、2007年
荒井信一『空爆の歴史　―終わらない大量虐殺』岩波書店、2008年（新書）
宮地正人監修『日本近現代史を読む』新日本出版社、2010年
山室信一『複合戦争と総力戦の断層―日本にとっての第一次世界大戦』人文書院、2011年

【コメント】
学期末試験40%、レポート（2回程度）30%、出席・平常点30%。
講義の最後に、その日の講義内容をまとめた小レポートを提出していただきます。この蓄積が平常の成績となります。
試験では、受講生のみなさんが授業を通じて身につけた力を確認します。

講　義　名　称	曜　時
日本経済史Ⅰ　＜春＞	金1

【教員名称】
梅本　哲世

【講義概要】
この講義では、幕末から第２次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第１に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第２に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。
歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。
なお、この講義は日本経済史Ⅱと内容が連続しているので、日本経済史Ⅰと日本経済史Ⅱをあわせて受講することが望ましい。

【学習目標】
この講義では以下の内容について学習し、理解を深めることを目標とする。
第１に、幕末から明治初めにかけての資本主義経済の芽生えと成長について、商品経済・貨幣経済の展開過程と関連させて学習する。
第２に、明治政府の「殖産興業政策」と、それを基礎にして展開した日本の産業革命について学習し、その日本的特徴について学ぶ。

【講義計画】
第１回：経済史の基本概念（1）
第２回：経済史の基本概念（2）
第３回：幕末の経済と開港（1）
第４回：幕末の経済と開港（2）
第５回：明治維新
第６回：殖産興業と松方財政（1）
第７回：殖産興業と松方財政（2）
第８回：近代産業の発達－軽工業（1）
第９回：近代産業の発達－軽工業（2）
第10回：近代産業の発達－重工業（1）
第11回：近代産業の発達－重工業（2）
第12回：日清・日露戦争と日本経済
第13回：財閥と日本経済
第14回：日本資本主義と寄生地主制
第15回：確立期日本資本主義の特質

【事前および事後学習の指示】
授業前に教科書の該当章を読んできてほしい。

【テキスト】
日本資本主義百年の歩み 大石嘉一郎 4-13-042121-2 東京大学出版会

【参考文献】
石井寛治『日本経済史』（東京大学出版会）
三和良一『概説日本経済史　近現代』（東京大学出版会）
三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧』（東京大学出版会）

【コメント】
1. 講義中の小テスト（2～3回程度の予定）（10%）
2. 期末試験（90%）
以上を総合して成績評価をする。なお、受講者数が多い場合、厳正な試験ができないので、小テストを成績評価に含めない場合もある。

講　義　名　称	曜　時
日本経済史Ⅱ　＜秋＞	火2

【教員名称】
梅本　哲世

【講義概要】
この講義では、幕末から第２次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第１に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第２に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。
歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。
なお、この日本経済史Ⅱは日本経済史Ⅰと内容が連続しているので、日本経済史Ⅰと日本経済史Ⅱをあわせて受講することが望ましい。

【学習目標】
この講義では以下の内容について学習し、理解を深めることを目標とする。
第１に、第１次世界大戦を経過して、日本経済がどのような変容を遂げたかを、アメリカを中心とした世界経済の展開と関わらせて学習する。
第２に、1929年に始まった世界恐慌が日本経済に与えた影響について学習する。そのさい、世界経済のブロック化と経済の軍事化について注目したい。
第３に、戦争と日本経済について学習する。アジア・太平洋戦争が日本経済に与えた影響とその帰結について今日的視点から検討したい。

【講義計画】
第１回：第1次世界大戦と日本経済
第２回：1920年代の日本経済
第３回：金融恐慌
第４回：金解禁（1）
第５回：金解禁（2）
第６回：昭和恐慌と金輸出再禁止
第７回：高橋財政（1）
第８回：高橋財政（2）
第９回：統制経済の展開（1）
第10回：統制経済の展開（2）
第11回：戦時下の日本経済（1）
第12回：戦時下の日本経済（2）
第13回：敗戦と日本経済
第14回：戦後復興
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
授業前に教科書の該当章を読んでおいてください。

【テキスト】
日本資本主義百年の歩み 大石嘉一郎 4-13-042121-2 東京大学出版会

【参考文献】
石井寛治『日本経済史』（東京大学出版会）
三和良一『概説日本経済史　近現代』（東京大学出版会）
三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧』（東京大学出版会）

【コメント】
1. 講義中の小テスト（2～3回程度の予定）（10%）
2. 期末試験（90%）
以上を総合して成績評価をする。なお、受講生が多人数で厳正な小テストの実施が不可能な場合、小テストを成績に含めないこともある。

講　義　名　称	曜　時
日本語の音声　＜秋集＞	月1 ／木2

【教員名称】
村中　淑子

【講義概要】
文字にすれば全く同じ文であっても、発音を聞くと、外国人学習者である、あるいは自分と異なる地域の出身者である、とわかる場合が多い。語彙や文法ではなく、音声の特徴だけでも、違いがわかるわけである。音声のどこがどう違っているのだろうか。「なんとなく違う」というのではなく、「音声を分析的にとらえる」ための知識を身につけることを目的とする。日本語の具体的な音声について、口の中のどの部分がどう使われているのか、あるいは長さ・高さ・強さがどうなっているのか、などをひとつひとつ自分の口と耳で確認しながら学ぶ。音声教育のための教材を、グループで分析し発表する時間も設ける。また、身の回りの人々やテレビ・ラジオ等から聞く音声についても、音声学的に捉える練習を行ないたい。

【学習目標】
日本語の母音・子音・アクセント・イントネーション・リズム等について、分析的に理解すること。
日本語学習者が日本語を習得する上で難しいと感じる音声上の特徴について理解すること。
音声教育についての知識を得ること。

【講義計画】
第１回：音声学とは（何を明らかにするのか）
第２回：日本語の母音
第３回：日本語の子音１
第４回：日本語の子音２
第５回：日本語の子音３
第６回：特殊拍１
第７回：特殊拍２
第８回：音声と音韻
第９回：拍と音節とリズム
第10回：母音の無声化
第11回：まとめ（１）
第12回：日本語のアクセント１
第13回：日本語のアクセント２
第14回：日本語のアクセント３
第15回：日本語のアクセント４
第16回：日本語のアクセント５
第17回：イントネーションとプロミネンス
第18回：ポーズとリズム
第19回：まとめ（２）
第20回：日本語教育における音声教育１（グループ発表）
第21回：日本語教育における音声教育２（グループ発表）
第22回：日本語教育における音声教育３（グループ発表）
第23回：日本語教育における音声教育４（グループ発表）
第24回：身の回りの音声に注目して１（グループ発表）
第25回：身の回りの音声に注目して２（グループ発表）
第26回：身の回りの音声に注目して３（グループ発表）
第27回：日本語教育能力検定試験における音声問題１
第28回：日本語教育能力検定試験における音声問題２
第29回：復習・総まとめ
第30回：復習・総まとめ

【事前および事後学習の指示】
授業の前半には、2回に1回くらいの頻度で、小テストを課す。小テストは最終的なテストの内容とも重なるので、授業内容をよく復習して臨むこと。グループ発表に際しては、授業外の時間を使って十分に準備を行うことが必須となる。

【テキスト】

【参考文献】
国際交流基金日本語国際センター『教師用日本語教育ハンドブック⑥発音改訂版』（凡人社）1990年、文化庁『日本語教育指導参考書１　音声と音声教育』（大蔵省印刷局）1971年、天沼寧・大坪一夫・水谷修『日本語音声学』（くろしお出版）1978年、松崎寛・河野俊之『よくわかる音声』（アルク）1998年、斉藤純男『日本語音声学入門　改訂版』（三省堂）2006年、福盛 貴弘『基礎からの日本語音声学』（東京堂出版）2010年

【コメント】
出席点の中にはグループごとの口頭発表への評価も含まれる。

講　義　名　称	曜　時
日本語学概論　＜春集＞	火2 ／金3

【教員名称】
有川　康二

【講義概要】
Mother Nature created the human brain. The human brain produces a natural language as your mother language. Grammar rules are natural laws. Studying the laws and mechanisms of the human natural language computation is studying natural laws. This class studies the information processing system（the human natural language computation system）that is created by Mother Nature. The class will mainly be held in Englsh. The examples that we use in this class are your mother languages.（母なる自然はヒト脳を創りました。ヒト脳はあなたの母語のような自然言語を生み出します。文法規則は自然法則です。ヒトの自然言語計 算について調べることは、自然法則を調べることです。このクラスでは、母なる自然が創った情報処理システム（ヒト自然言語計算シ ステム）について勉強します。授業は基本的に英語で行われます。このクラスで使用する例はみなさんの母語です。）

【学習目標】
The goal is to understand why human language study is a search for natural laws. We also challenge various commonsense dogmas about language.（なぜヒト語の研究が自然法則の探求となるのかを理解することが目標です。言葉に関する様々な常識的なドグマを疑っていきます。）

【講義計画】
第１回：Introduction（はじめに）
Grammar study as empirical science（経験科学としての文法研究）
第２回：Questioning commonsense view on language（ことばについての常識を疑う）（1）
第３回：Questioning commonsense view on human language（2）
第４回：Questioning commonsense view on human language（3）
第５回：Questioning commonsense view on human language（4）
第６回：Review and Q & A
第７回：Human language grammar as natural law（自然法則としての文法）（1）
第８回：Human language grammar as natural law（自然法則としての文法）（2）
第９回：Human language grammar as natural law（自然法則としての文法）（3）
第10回：Human language grammar as natural law（自然法則としての文法）（4）
第11回：Human language grammar as natural law（自然法則としての文法）（5）
第12回：Review and Q & A
第13回：Student presentation（1）
第14回：Student presentation（2）
第15回：Student presentation（3）

【事前および事後学習の指示】
Please review the materials that we cover in each class. This will help you understand the content of the next class more effectively.（毎回、授業の復習をしてください。次回の授業内容をより効果的に理解できるようになります。）

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
毎回の出席は前提です。筆記試験は、自筆ノートやプリントは持ち込み可です。丸暗記は不要です。何故そういう風に考えるのかというロジックに集中してください。毎回、配付する質問コメント用紙（出席カードではありません）にいい質問やいいコメントをした人は、ボーナス点として加算されます。

講　義　名　称	曜　時
日本語教授法Ⅰ　＜通期＞	金5

【教員名称】
有川　康二

【講義概要】
消化の法則とメカニズムを理解するために胃腸という臓器（食物（情報）を分解、吸収する消化システム）を調べます。免疫の法則とメカニズムを理解するために血液やリンパ系細胞等の免疫システム（情報を守る器官）を調べます。この授業では、ヒト自然言語の情報処理の法則とメカニズムを理解するためにヒト脳という臓器（情報を処理するシステム）を調べます。といっても、脳を解剖したり（簡単にどこでもできません）、1台何億円もするMRIを使って脳を調べるわけではありません。実際、解剖やCTでは言語システムで働く文法の詳しい法則や仕組みは全然分かりません。私達各々が自分の母語（韓国語、中国語、日本語など）を使って、つまり、各々が自分の脳の働きを徹底的に観察して、実験（思考実験）を行い、言語現象の論理的な説明をしていきます。母なる自然の創造したヒト脳（1300gのタンパク質の塊）という情報処理システムで働く法則とメカニズムの説明を行います。紙と鉛筆があればできます。

【学習目標】
人間の脳の言語システムは、母なる自然が創った複雑な情報処理システムです。言語システムの意味と構造の情報処理の法則とメカニズムを調べます。例えば、「太郎は毎日料理と掃除をする」とか「John cooks and cleans everyday」はOK、「太郎は毎日料理をすると掃除をする」は変。「John knows Mary」はOK、「太郎は花子を知る」は変。「象は鼻が長い」の主語は？「花子が太郎が好きなこと」では主語は二個？「あ、雨だ！」では主語はない？「昨日は寒かった」はOK、「It colded yesterday」は変。「もうご飯食べた？」と聞かれて、「うん、食べた」はOK、「いや、まだ食べなかった」は変。「猫は金魚を食べた」「猫が金魚を食べた」「猫が金魚は食べた」「金魚は猫が食べた」「金魚が猫に食べられた」「金魚を猫に食べられた」はどう違う？「は」「が」「を」の意味はあるのか、ないのか？「猫を金魚を食べた」は変だが、このような変な例は、なぜ、変なのか？頭の中ではどんな言語情報の計算が行われているのか？このような問題を考えながら、母なる自然の創造したヒト脳の自然言語情報処理システムの法則とメカニズムを炙り出していきます。

【講義計画】
第１回：イントロ。 ヒト脳の自然言語システムの法則とメカニズムを調べるには、どうしたらいいのか。ヒト脳の文に対する容認性反応（OKか、変か、どの程度、変か）を調べることは、私たち一人一人が自分の脳を使って行う実験だ。
第２回：日本語学習者のミスから日本語の法則を探る（1）
第３回：日本語学習者のミスから日本語の法則を探る（2）
第４回：品詞分類テスト（言語情報検出のリトマス試験紙）（1）
第５回：品詞分類テスト（2）
第６回：品詞分類テスト（3）
第７回：主語とは何か？（「～は」「～が」が主語という定義は間違い）（1）
第８回：主語とは何か？（2）
第９回：主語とは何か？（3）
第10回：活用とは何か？（国語で習った活用表は矛盾だらけ）（1）
第11回：活用とは何か？（2）
第12回：活用とは何か？（3）
第13回：二種類の「た」（「もう食べた？」「いや、まだ食べなかった。」が変なわけ）（1）
第14回：二種類の「た」（2）
第15回：二種類の「た」（3）
第16回：格助詞の「格」とは何か？（言語情報処理におけるウィルスチェックのメカニズム）（1）
第17回：「格」とは何か？（2）
第18回：「格」とは何か？（3）
第19回：「格」とは何か？（4）
第20回：言語システムの自己組織化（「食べれる」のような「ら」抜き言葉はちゃんと法則に従っているし、計算／伝達効率もよい。むしろ、「ら」入りの「食べられる」のほうが法則を無視しており、計算／伝達効率も悪い。）（1）
第21回：言語システムの自己組織化（2）
第22回：言語システムの自己組織化（3）
第23回：言語システムの自己組織化（4）
第24回：言語情報計算における経済性原理（言語システムで物理法則が働いている）（1）
第25回：言語情報計算における経済性原理（2）
第26回：言語情報計算における経済性原理（3）
第27回：言語情報計算における経済性原理（4）
第28回：復習とＱ＆Ａ
第29回：復習とＱ＆Ａ
第30回：復習とＱ＆Ａと試験

【事前および事後学習の指示】
前にやったことを順次理解していかないと、だんだん、珍糞漢糞（ちんぷんかんぷん）になります。予習、復習をしてください。

【テキスト】

【参考文献】
寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
宮本陽一（2009）『生成文法の展開ー「移動現象」を通して』大阪大学出版会

【コメント】
毎回の出席は前提です。筆記試験は、自筆ノートやプリントは持ち込み可です。丸暗記は不要です。何故そういう風に考えるのかというロジックに集中してください。毎回、配付する質問コメント用紙（出席カードではありません）にいい質問やいいコメントをした人は、ボーナス点として加算されます。

講　義　名　称	曜　時
日本語教授法Ⅱ［４］　＜通期＞	水1

【教員名称】
友沢　昭江

【講義概要】
どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所があります。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することです。 そのためには、何が長所で、何が短所になるのかを理解しておかなければなりません。例えば、語学学習の命であるドリル（稽古）に関していえば、機械的な形の練習だけでなく、より現実に近い状況や会話の十分な練習があれば長所と言えます。日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師のための）実践的な文法整理と、（学習者のための）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行います。

【学習目標】
一定の制限された状況（教室）や時間内（初級の集中コースとして例えば週15時間で約６か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習（ドリル）を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別の知識と技術が必要となります。何語でもそうですが、ある言葉が母語としてぺらぺら話せることと、その言葉を外国語として学習する人に体系的、説得的に教えることのできる能力とは別物です。日本語の母語話者は日本語学習者と適当に世間話はできますが、初級の学習者に日本語の文法や文パターンを効果的、説得的に教えることはできません。初級レベルで学習者が興味を失ってしまったら、それまでです。ある意味では初級レベルが最も難しいと言えます。文法の質問から逃げる日本語教師は学習者には信頼されません。また同時に、「何故、私は外国語を学ぶのか？何故、私は日本語を外国語として教えるのか？日本語を教えるという仕事を通して私には何ができるのか？」という問いを問い続けなくてはならないと思います。

【講義計画】
第１回：イントロ
外国語教授法のイロハとは何か？ どんな授業がよいのか？ どんな教材が必要なのか？ どんな仕事に就ける可能性があるのか？ 本学の先輩達は日本語教員資格を取得してどんな所で仕事をしているのか？
第２回：指示表現（コソアド）（1）
第３回：指示表現（2）
第４回：形容詞（イ形容詞／ナ形容詞）（1）
第５回：形容詞（2）
第６回：存在表現（アル／イル）（1）
第７回：存在表現（2）
第８回：時制（テンス）と相（アスペクト）（1）
第９回：時制（テンス）と相（アスペクト）（2）
第10回：保留形（テ形）（1）
第11回：保留形（テ形）（2）
第12回：願望の助動詞（ta ／ gar）（1）
第13回：願望の助動詞（2）
第14回：可能の助動詞（e ／（ra）re）（1）
第15回：可能の助動詞（2）
第16回：様態・伝聞・推量の助動詞（アノぱんハオイシソウダ／オイシイソウダ／オイシイヨウダ／オイシイラシイ）（1）
第17回：様態・伝聞・推量の助動詞（2）
第18回：テイル・テアル・テオク（窓ガ開イテイル／窓ガ（ヲ）開ケテアル／窓ヲ開ケテオク）（1）
第19回：テイル・テアル・テオク（2）
第20回：授受表現（（テ）モラウ／イタダク,（テ）クレル／クダサル,（テ）ヤル／アゲル／サシアゲル）（1）
第21回：授受表現（2）
第22回：態（受身（イジメラレル）・使役（イジメサセル）・使役受身（イジメサセラレル））（1）
第23回：態（2）
第24回：条件表現（離婚シタラ～／離婚スルナラ～／離婚スレバ～／離婚スルト～）（1）
第25回：条件表現（2）
第26回：敬語（オ話シニナル／オ話シスル／オッシャル／申ス／ナサル／イタス等）（1）
第27回：敬語（2）
第28回：復習とＱ＆Ａ
第29回：復習とＱ＆Ａ
第30回：復習とＱ＆Ａと試験

【事前および事後学習の指示】
本学には世界の様々な国から留学生が来て日本語や日本文化について勉強しています。留学生の人たちと話をしてみてください。

【テキスト】
入門日本語教授法 東京YMCA日本語学校 4-87138-138-2 創拓社

【参考文献】
三浦昭（1983）『初級ドリルの作り方』凡人社
岡崎敏雄（1989）『日本語教育の教材-分析・使用・作成』アルク
Makino, S. and Tsutsui, M.（1986）A dictionary of basic Japanese grammar-日本語基本文法辞典 . The Japan Times.

【コメント】
春学期末と秋学期末に試験を行います（合計２回、50%）。それ以外にも授業での発言、課題、グループ発表（30%）、および出席状況（20%）を総合的に考慮して評価を行います。資格関連の科目なので、出席は重要視されますが、それだけではなくすべての課題をしあげることがより重要です。

講　義　名　称	曜　時
日本語文法論　＜秋集＞	火2 ／金1

【教員名称】
有川　康二

【講義概要】
ONE PIECEのルフィが涙や鼻水を流しながら「仲間がいる゛よ！」って叫んでるけど、「る゛」ってちょっと変。なぜ？でも、なんとなくわかる。なぜ？「ゴミ箱」は［gomibako］だけど、［gomihako］は変。なぜ？「やせたロバの飼い主」と「やせたロバと飼い主」では意味が違う。なぜ？「猫が金魚を食べた」はOK。でも、「猫が金魚が食べた」は変。なぜ？「が」とか「を」って何？「が」と「を」について４ヶ月間徹底的に考えます。「が」とか「を」は母なる自然がつくったウイルスです。ヒト脳内の言語システムは母なる自然がつくったウイルスチェックシステムなんです。意味不明でしょうが、授業を受けると分かります（微笑）。「が」と「を」について徹底的に考えるのは、みなさんの人生で最初で最後の経験となります。日本語のネイティブスピーカーは日本語を文法など意識せずに自由に使えます。日本語はアホほど当たり前のことです。アホほど当たり前のことなので、日本語母語話者は、自分は日本語のことは何でも知っていると思い込みます。しかし、日本語母語話者には意識できない日本語の音や文法の法則やメカニズム、それがヒト脳内で如何に生成されるかは説明できません（まず、この文の重要性が理解できません）。誰でも脳味噌は使えますが、その法則やメカニズムは説明できません。経験科学の手法を用いてヒト脳の言語システムの法則とメカニズムを探ります。科学は、誰もが当たり前すぎて考えるのもアホらしいと思う事柄に驚嘆することから始まります（驚）。子どもはアホなことに驚嘆できるというすばらしい能力の持ち主です。長年の学校教育で失いかけたこのすばらしい能力を、この授業で取り戻してみませんか？「自然言語（ことばをしゃべる）」というアホらしい現象は、物理学の最重要問題である「重力（ものが落ちる）」や「光（明るい・暗い）」というような一見アホらしい現象と同じように、科学の格好の対象となります。鳥は空を飛びまくります。魚は水の中を泳ぎまくります。植物は花を咲かせまくります。犬は臭いを嗅ぎまくります。私たちヒトはしゃべりまくります。しゃべりまくる生物であるヒトとは、一体、如何なる生き物であるのか？一緒に考えてみませんか？

【学習目標】
日本語を三つの視点から概論します。（1）生物言語学の視点＝ヒト自然言語システムは、母なる自然が創造したヒト脳に突然変異と創発的自己組織化が生じて出現した。その一般的性質とはどのようなものか？（2）日本語教育学の視点＝日本語を外国語として学ぶ人々にとって、日本語の客観的な説明、よりよい説明とはどのようなものか？（3）哲学的視点＝今この瞬間も時速10万8千km（弾丸速度の約19倍）で太陽のまわりを公転している地球の表面に重力でへばりつけられて、自分は今ここで何をしているのか？約138億年前にできた宇宙の中で、46億年前にできた地球の上で、38億年前に生まれた生命のナレノハテとして、何をして、老いて、死んでいくのか？このようなことを日本語でうだうだと考えている自分にとって、日本語とは何なのか？こんなことは大学とお寺でしか言われません（細かいことや最後のことは大学でだけ）。落ち着いて一緒に徹底的に考えてみましょう。

【講義計画】
第１回：イントロ 。「もの」とは何か。「こころ」とは何か。（1）
第２回：「もの」とは何か。「こころ」とは何か。（2）
第３回：「もの」とは何か。「こころ」とは何か。（3）
第４回：「もの」とは何か。「こころ」とは何か。（4）
第５回：「もの」とは何か。「こころ」とは何か。（5）
第６回：「よい説明」とは何か。(1)
第７回：「よい説明」とは何か。(2)
第８回：「よい説明」とは何か。(3)
第９回：「よい説明」とは何か。(4)
第10回：「よい説明」とは何か。(5)
第11回：言語の構造（1）
第12回：言語の構造（2）
第13回：言語の構造（3）
第14回：言語の構造（4）
第15回：言語の構造（5）
第16回：脳とコンピュータ（1）
第17回：脳とコンピュータ（2）
第18回：脳とコンピュータ（3）
第19回：脳とコンピュータ（4）
第20回：脳とコンピュータ（5）
第21回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（1）
第22回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（2）
第23回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（3）
第24回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（4）
第25回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム（5）
第26回：復習とＱ＆Ａ
第27回：復習とＱ＆Ａ
第28回：復習とＱ＆Ａ
第29回：復習とＱ＆Ａ
第30回：復習とＱ＆Ａと試験

【事前および事後学習の指示】
前にやったことを順次理解していかないと、だんだん、珍糞漢糞（ちんぷんかんぷん）になります。予習、復習をしてください。

【テキスト】

【参考文献】
Jenkins, L.（2000）Biolinguistics - Exploring Biology of Language. Cambridge University Press.
酒井邦嘉（2002）『言語の脳科学-脳はどのようにことばを生みだすか』中公新書
寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版
寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版

【コメント】
毎回の出席は前提です。筆記試験は、自筆ノートやプリントは持ち込み可です。丸暗記は不要です。何故そういう風に考えるのかというロジックに集中してください。毎回、配付する質問コメント用紙（出席カードではありません）にいい質問やいいコメントをした人は、ボーナス点として加算されます。

講　義　名　称	曜　時
日本史　02＜通期＞	水4

【教員名称】
吉村　智博

【講義概要】
日本史研究の今日的成果と課題を反映させた内容とし、研究入門と前近代史および近現代史について概観できるような内容とする。また、問題横断的な「特論」を用意し、時間軸のみならず、テーマ別の切り口で日本史を理解できる内容とする。その際、用語や年表の暗記とならないよう、原史料をできるだけ読み合わせて進めていく。春期・秋期ともにおこなう授業内レポートでは、受講生自身の独自の意見・見解・論理などを問う内容となる。なお、授業内レポートをもって「試験」に替えることとする。

【学習目標】
義務教育段階あるいは高等学校段階までの暗記を主とする日本史理解ではなく、個別テーマについて掘り下げて考察することで、日本史における多様な側面を深く理解することを目標とする。ゆえに、受講生自身の関心や考究の態度など学習の到達度がわかるような授業内レポートを実施する。

【講義計画】
第１回：日本史入門①－日本史学の現在
通期の授業計画およびガイダンスを含め、日本史研究の現段階について概説する。
第２回：日本史入門②－民衆思想論
1970年代以降に注目されるようになった民衆思想史について
第３回：日本史入門③－社会史
1980年代にヨーロッパ社会論の影響を受けて導入された社会史について
第４回：日本史入門④－国民国家論
1990年代に従来の社会主義国の崩壊以降に問題となった国民国家について
第５回：日本史入門⑤－植民地帝国論
コロニアリズムを必然的に内包する帝国主義の歴史と現段階について
第６回：神話的世界と古代社会
記紀神話に代表される古代における歴史観と社会観について
第７回：古代律令国家の形成
古代律令国家の社会構成および身分制度について
第８回：中世社会の展開
荘園制度を基本として展開される中世の政治的・経済的社会について
第９回：中世身分制の構造
古代国家の解体以後、権門体制に収斂される諸身分の役割について
第10回：近世社会と都市・農村
近世的特徴である大名知行制における都市と農村の生活誌の諸相について
第11回：近代身分制の構造
士族・平民・賤民に大きく分割される身分制の社会的意味と役割について
第12回：日本前近代史特論①－絵図の世界と被差別民
古地図（絵図）に描かれた被差別民の記録とその意味について
第13回：日本前近代史特論②－前近代社会と食文化
日常的におこなわれている食肉の生産・流通の歴史について
第14回：春期のまとめとレポートについて
春期13回の内容を再度確認し、論点を整理するとともに、次回の授業内レポートについての注意事項
第15回：まとめと試験
春期の学習到達度を確認するため、授業内でレポートを実施（注意事項は第14回に明示）
第16回：明治維新と地方自治
日本近代化の転換点となった明治維新期の外交と政治、および国内自治の内実について
第17回：近代日本の国家認識
福沢諭吉、加藤弘之など明六社に参集した知識人の国家観について
第18回：自由民権と帝国憲法
民選議員設立建白に端を発する国会開設、憲法制定運動の内実と帝国憲法について
第19回：日清戦争と日露戦争
近代化路線を邁進する日本が東アジアにおいておこなった戦争とその意味について
第20回：第１次世界大戦と民力涵養
ヨーロッパにおける戦争にアジアを舞台に参戦した日本の意図とその新たな分析視角について
第21回：米騒動と社会政策
富山に端を発した米騒動の通説的理解の見直しと、その後の都市型社会政策について
第22回：大正デモクラシーと民本主義
「大正」期に隆盛したデモクラシー的状況とその思潮・文化の内容について
第23回：昭和恐慌と経済更生
世界恐慌と金融恐慌に代表される経済不況とその後展開された農山漁村経済更生運動について
第24回：アジア・太平洋戦争
１５年におよぶ対中国戦争（アジア）と、対米・英・蘭戦争（太平洋）の意味と現在性について
第25回：日本近現代史特論①－ジェンダーと女性史
近代の女性解放運動の主張と「性売買」をめぐる日本社会の対応について
第26回：日本近現代史特論②－家族制度と民法
近代化の過程で創出された家族国家観と現存する戸籍・民法の陥穽について
第27回：日本近現代史特論③－植民地・内国植民地
近代日本が帝国主義化していく過程でおこなってきた、朝鮮、沖縄、アイヌに対する植民地政策について
第28回：日本近現代史特論④－日本国憲法
現在、改憲、護憲など議論されている日本国憲法の制定過程について
第29回：秋期のまとめとレポートについて
秋期13回の内容を再度確認し、論点を整理するとともに、次回の授業内レポートについての注意事項
第30回：まとめと試験
本講義の通年にわたる学習到達度を最終確認するため、授業内でレポートを実施（注意事項は第29回に明示）

【事前および事後学習の指示】
事前・事後とも30分程度

【テキスト】

【参考文献】
各回の授業の中で適宜指示する。

【コメント】
基本的には講義形式として毎回作成するレジュメ（基本的に学内のＰＣよりダウンロード）をもとに授業を進める。出席をとる予定はしていないが、講義を聴いているかどうか問われる論述中心の授業内レポート（試験に相当）となる。なお、甚だしし私語、著しい欠席など授業態度が悪い場合については単位を認定することは難しい。

講　義　名　称	曜　時
日本事情A［外国人留学生用］　＜春＞	金3

【教員名称】
友沢　昭江

【講義概要】
この授業は外国人留学生を対象とするもので、彼らがもっとも関心をもつ現代日本社会のさまざまな領域についてテーマを決めて考察します。日本社会についての知識をえるというよりは、なぜそういう現象となるのかについてディスカッションを通じて学生自身が考え、自分の意見をまとめることをめざします。ディスカッションの幅を拡げるために、日本語教師をめざす学生にも参加を求める予定です。春学期に引き続き開講しますが、大きなテーマはほとんど同じですが、具体的な内容は春学期とは異なるものを扱うので､春､秋と続けての履修も可能です。春に続けて授業の中で｢俳句と川柳」について学び、実際に作成し、学内外の日本人に評価とコメントをもらいます。書道など実技も行います。

【学習目標】
その時々に応じたタイムリーなテーマを設定し、それに関する新聞記事を読んだりテレビ番組などを見ます。その後、それを土台にしてディスカッションを行い、お互いの意見交換をめざします。テーマごとに簡単な課題を提出します。新しい単語や表現がどんどん導入されるので、使い慣れた日本語辞書を持参してください。扱うテーマは現代日本の社会、文化、経済、政治、教育、娯楽などさまざまです。授業は基本的にすべて日本語で行うので、中級以上の日本語能力をもつ学生が対象となります。日本語による活発な意見交換を行うこどで日本語能力も養うことをめざします。

【講義計画】
第１回：授業の目標説明と参加学生の自己紹介、および日本について関心のあるテーマを各自が考える
第２回：日本の伝統文化（１）
第３回：日本の伝統文化（２）
第４回：日本の近代（１）
第５回：日本の近代（２）
第６回：現代の世相（１）東京と大阪
第７回：現代の世相（２）若者、高齢化、少子化
第８回：現代の世相（３）日本とアジアの関係
第９回：俳句と川柳（作品に挑戦）
第10回：日本の教育問題（１）
第11回：日本の教育問題（２）
第12回：俳句と川柳（書道に挑戦）
第13回：学生によるプレゼンテーション（１）
第14回：学生によるプレゼンテーション（２）
第15回：学生によるプレゼンテーション（３）

【事前および事後学習の指示】
日本語のみで行う授業なので、内容が理解できるようなレベルまでしっかりと日本語能力を高めるようにしてください。テレビのニュースを聞いたり新聞などを読んで、現代の日本社会の抱える問題などにも目をむけておく姿勢を持って下さい。

【テキスト】

【参考文献】
授業の内容に関連する資料は適宜授業内で配ります。関連する映像（テレビ番組など）やインターネットへアクセスするなどして、視覚的な情報を多く使います。

【コメント】
出席を第一に重視します。また新聞記事やテレビ番組を見て討論をした後、学んだ語彙や表現についての小テストのほか、まとめの課題や各自が選んだ「日本」についての発表（一人15分程度）、授業への参加姿勢などを総合的に判断します。出席（30%）、小テストと課題（30%）、発表（40%）の割合で成績を判断します3

講　義　名　称	曜　時
日本事情B［外国人留学生用］　＜秋＞	金3

【教員名称】
友沢　昭江

【講義概要】
The lecture deals with the characteristics of Japanese language focusing on sociolinguistic aspects (standard Japanese and dialects,gender difference,multilingualism etc) .Students are expected to attend other lecture focusing on linguistic aspects at the same time. The lecture is given in English but it is required that students have some knowledge of Japanese language. Japanese students are expected to expand their perspectives on Japanese through the discussion with foreign students.（この授業は標準語と方言、女ことば、多言語状況などの日本語の社会言語学的側面を中心に扱います。日本語の言語学的特徴を中心に扱う他の授業と合わせて受講することを薦めます。英語による授業ですが、扱う材料が日本語なので理解しやすいですし、留学生とのディスカッションを通じて日本語に対する意識を拡げると同時に英語力の向上が期待できます。）

【学習目標】
The lecture aims to provide with the basic and broad knowledge on Japanese language and to foster a comparative perspective with other major languages such as English,Chinese and Korean etc.

【講義計画】
第１回：Guidance to the course description
第２回：Lexicon and style
第３回：Writing system and literacy（1）
第４回：Writing system and literacy（2）
第５回：Standard Japanese and dialects（1）
第６回：Standard Japanese and dialects（2）
第７回：Gender in Japanese language（1）
第８回：Gender in Japanese language（2）
第９回：Honorifics and Human relations（1）
第10回：Honorifics and Human relations（2）
第11回：Japanese as a foreign/second language-Japanese in the world
第12回：Multilingual Japan
第13回：Presentation（1）
第14回：Presentation（2）
第15回：Presentation（3）

【事前および事後学習の指示】
Students are expected to have a sufficient language competence both of English and Japanese to understand the lecture. Japanese students who want to raise their English ability are strongly recommended to participate in this class and to engage in discussion with foreign students and to play a roll as an informant of a Japanese native speaker.日本語を題材とするので、英語に自信がない学生も少し努力をすれば参加できます。英語の実力を向上させたい人は積極的に履修することを薦めます。日本人学生は日本語の情報提供者としての役割も期待されています。

【テキスト】
Handout will be provided in each lecture.

【参考文献】
・Shibatani Masayoshi (1990) The Languages of Japan (Cambridge University Press)
・Noguchi M. G. and Fotos、S.（eds）（2001）Studies in Japanese Bilingualism（Multilingual Matters）
・Gottlieb, Nanette（2006）Linguistic Stereotyping and Minority Groups in Japan, Routledge.
・Gottlieb,N.（2011）Language in Public Spaces in Japan Routledge

【コメント】
出席を第一に重視します。また新聞記事やテレビ番組を見て討論をした後、学んだ語彙や表現についての小テストのほか、まとめの課題や各自が選んだ「日本」についての発表（一人15分程度）、授業への参加姿勢などを総合的に判断します。出席（30%）、小テスト（30%）、発表（40%）の割合で成績を判断します。

講　義　名　称	曜　時
ネットビジネス技術A　＜春＞	月3

【教員名称】
村山　博

【講義概要】
多機能なスマホやオンラインゲームや情報家電のように、インターネットの進歩は目覚ましく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。現代の高度情報社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、ビジネスマンまたはビジネスウーマンが必要な情報技術の基礎を習得することを目的とする。

【学習目標】
インターネットビジネスの技術を習得し、その技術を応用した具体的なビジネスの特徴を理解し、ネットビジネスの未来を考える力を養います。

【講義計画】
第１回：ネットビジネス技術の概要
第２回：インターネット、マルチメディアの活用
第３回：情報社会の特徴とネットビジネス技術の進歩
第４回：アナログとデジタルの特徴とコンピュータの進歩
第５回：スマートフォン、オンラインゲームなどの情報端末の進歩
第６回：コンピュータ技術の進歩
第７回：企業活動における知的財産情報の管理
第８回：企業活動における著作権情報の管理
第９回：企業活動における技術情報の管理
第10回：企業活動における情報セキュリティ
第11回：２進数の基礎と計算
第12回：１６進数などのN進数の基礎と計算
第13回：ネットビジネス技術と次世代自動車
第14回：ネットビジネス技術の未来
第15回：試験と講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】
高校で学習した「情報」を復習しておいてください。

【テキスト】
進化するネットビジネス技術 村山博　ブイツーソリューション

【参考文献】

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
ネットビジネス技術B　＜秋＞	月3

【教員名称】
村山　博

【講義概要】
多機能なスマホやオンラインゲームや情報家電のように、インターネットの進歩は目覚ましく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。現代の高度情報社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、ビジネスマンまたはビジネスウーマンが必要な情報技術の基礎を習得することを目的とする。

【学習目標】
インターネットビジネスの技術を習得し、その技術を応用した具体的なビジネスの特徴を理解し、ネットビジネスの未来を考える力を養います。

【講義計画】
第１回：講義概要と、さまざまなコンピュータ
第２回：最先端コンピュータ（スーパーコンピュータ、人工知能、ロボット）、ナノテクノロジー、
第３回：さまざまな情報とその活用
第４回：コンピュータの歴史
第５回：コンピュータの５大機能
第６回：入力装置、出力装置
第７回：記憶装置、制御装置、演算装置
第８回：主記憶の高速化（メモリインターリーブ、キャッシュメモリ、命令パイプライン）
第９回：クライアント・サーバー方式、分散システム
第10回：オペレーティング・システム
第11回：インターネット、通信技術（変調、復調、多重化など）
第12回：通信プロトコル、TCP/IP、OSI参照モデル
第13回：ネット社会の光と影
第14回：ネットビジネス技術の未来
第15回：試験と講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】
高校で学習した「情報」を復習しておいてください。

【テキスト】
進化するネットビジネス技術 村山博　ブイツーソリューション

【参考文献】

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
ネットワーク論　01<春>	木1

【教員名称】
中崎　修一

【講義概要】
ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。さらにセキュリティの観点から、ネットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に現在および今後のネットワークシステムに関して解説する。

【学習目標】
現代社会と情報ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。また、ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、更には新しいサービス提供やビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション、現代社会と情報通信
第２回：情報通信ネットワーク
第３回：通信の基礎
第４回：伝送媒体
第５回：通信制御
第６回：IP（Internet Protocol）
第７回：TCP、UDP
第８回：通信サービス（1）　WWW
第９回：通信サービス（2）　電子メール、その他
第10回：ブロードバンド通信
第11回：インターネット
第12回：情報通信ネットワークのセキュリティ
第13回：LANの構築
第14回：様々な問題点
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
パソコンやインターネット関連の基本的な用語理解、利用方法の習得を前提として授業を進行するため、再確認しておくこと。

【テキスト】
改訂3版 TCP/IPネットワーク　ステップアップラーニング 三輪賢一 978-4-7741-5471-8 技術評論社

【参考文献】
適宜資料を配布する予定。
参考文献についても、学習内容にあわせて適宜紹介する予定。

【コメント】
レポート課題の提出と、試験の受験は必須とする。
レポート課題は3回を予定。そこれ加えて、授業中に課題を出す。（レポートの評価割合に含む）
第8回と第14回に小テストを実施予定。（試験の評価割合に含む）

講　義　名　称	曜　時
ネットワーク論　02<春>	火2

【教員名称】
初瀬　慎一

【講義概要】
本講義では、ネットワークリテラシーに関する適応力を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用と基盤技術を習得して、ネットワークの活用技術、現状や問題点の発見･検討、ネットワーク技術の理解を目指す。

【学習目標】
　ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴って、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識はさまざまな分野で求められるようになった。
　本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に、現在及び今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、さらに新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】
第１回：はじめに
　　ネットワークとは
第２回：コンピュータの識別１
第３回：コンピュータの識別２
第４回：インターネットの仕組みとＬＡＮ間接続１
第５回：インターネットの仕組みとＬＡＮ間接続２
第６回：インターネットアプリケーションとサーバ
第７回：通信ソフトウェアとプロトコル
第８回：ＴＣＰ／ＩＰプロトコル
第９回：ＴＣＰ／ＩＰとＥｔｈｅｒｎｅｔ
第10回：伝送速度と通信サービス１
第11回：伝送速度と通信サービス２
第12回：インターネットのセキュリティ
第13回：ダダ漏れオフィスへの正しい対処
第14回：まとめ１
第15回：まとめ２

【事前および事後学習の指示】
Ｗｅｂなどの情報で、ネットワークとは何かを事前学習するとともに、ネットワークについての国家試験出題内容に目を通しておくこと。

【テキスト】
資料は適宜配布する

【参考文献】
戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

【コメント】
期間内試験を中心に、小テストの評価との総合評価を行う。
受講態度が良好であり、出席は３分の２以上であること。
なお、試験内容は情報処理技術者国家試験のネットワーク出題範囲より出題する。

講　義　名　称	曜　時
ネットワーク論　03<春>	月4

【教員名称】
初瀬　慎一

【講義概要】
本講義では、ネットワークリテラシーに関する適応力を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用と基盤技術を習得して、ネットワークの活用技術、現状や問題点の発見･検討、ネットワーク技術の理解を目指す。

【学習目標】
ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴って、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識はさまざまな分野で求められるようになった。
本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に、現在及び今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、さらに新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】
第１回：はじめに
　　ネットワークとは
第２回：コンピュータの識別１
第３回：コンピュータの識別２
第４回：インターネットの仕組みとＬＡＮ間接続１
第５回：インターネットの仕組みとＬＡＮ間接続２
第６回：インターネットアプリケーションとサーバ
第７回：通信ソフトウェアとプロトコル
第８回：ＴＣＰ／ＩＰプロトコル
第９回：ＴＣＰ／ＩＰとＥｔｈｅｒｎｅｔ
第10回：伝送速度と通信サービス１
第11回：伝送速度と通信サービス２
第12回：インターネットのセキュリティ
第13回：ダダ漏れオフィスへの正しい対処
第14回：まとめ１
第15回：まとめ２

【事前および事後学習の指示】
Ｗｅｂなどの情報で、ネットワークとは何かを事前学習するとともに、ネットワークについての国家試験出題内容に目を通しておくこと。

【テキスト】
資料は適宜配布する

【参考文献】
戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

【コメント】
期間内試験を中心に、小テストの評価との総合評価を行う。
受講態度が良好であり、出席は３分の２以上であること。
なお、試験内容は情報処理技術者国家試験のネットワーク出題範囲より出題する。

講　義　名　称	曜　時
農業経済論Ⅰ　<春>	水2

【教員名称】
浦出　俊和

【講義概要】
近年特に、国の内外でわが国の農業と農業政策をめぐって各種の議論が高まっているが、わが国の農業・食料政策はどうあるべきかということは、非常に重要な課題である。
本講義では、農業生産の特質を踏まえた上で、わが国の農業生産と食料消費の現状と問題点、さらにこれらのあり方を考えるために、最低限必要な基礎的知識・考え方について講義する。
農業経済論では、若干ミクロ経済学の理論を援用するが、ミクロ経済学の基礎については、講義の中で解説しながら進める予定であるので、ミクロ経済学を履修していなくても歓迎する。

【学習目標】
本講義が目標とすることは、各自が日本の農業問題および食料問題を正しく認識し、その政策の方向性について、自分の考えを述べることが出来るようになることである。

【講義計画】
第１回：農業生産の特質
第２回：日本農業の現状－食料自給率と食糧自給力
第３回：経済発展と農業
第４回：市場メカニズムと市場均衡
第５回：農産物の需要と供給
第６回：食料（農産物）需要のシフト要因（1）
第７回：食料（農産物）需要のシフト要因（2）
第８回：食料（農産物）供給のシフト要因（1）
第９回：食料（農産物）供給のシフト要因（2）
第10回：農産物需要の経済的特質－需要の価格弾力性
第11回：農産物供給の経済的特質－供給の価格弾力性
第12回：農産物流通の特徴
第13回：農産物流通の変化
第14回：新たな日本農業の動き－地産地消と六次産業化－
第15回：試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】
新聞を毎日読むよう習慣付けること。

【テキスト】

【参考文献】
1）速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』（岩波書店）
2）荏開津典生著『農業経済学』（岩波書店）

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
農業経済論Ⅱ　＜秋＞	水2

【教員名称】
浦出　俊和

【講義概要】
近年、輸入食料の安全問題、食品偽装問題等、食の安全問題が社会問題化しており、消費者の食の安全に対する関心も高まっている。一方で、WTO体制下での農産物貿易の自由化が進展してきている。このような状況下で、わが国の農業・食料政策はどうあるべきかということは、非常に重要な課題である。
本講義では、まず世界の食料問題を取り上げ、次に、農産物貿易の特徴について取り上げる。さらに、先進国における農業保護政策とその問題について講義するとともに、農産物輸入大国である日本における食に関わる問題の背景と要因についても取り上げる。
農業経済論では、若干ミクロ経済学の理論を援用するが、ミクロ経済学の基礎については、講義の中で解説しながら進める予定であるので、ミクロ経済学を履修していなくても歓迎する。

【学習目標】
本講義が目標とすることは、各自が日本の農業政策について、正しく認識し、そのあり方について、自分の考えを述べることが出来るようになることである。

【講義計画】
第１回：食料と食糧
第２回：食糧問題とは？
第３回：世界の食糧需給と食糧問題
第４回：途上国の農業政策と農産物市場
第５回：先進国の農業政策と農産物市場
第６回：市場メカニズムと経済余剰
第７回：農業保護政策－政府の市場介入
第８回：農産物貿易の基礎理論－比較生産費説
第９回：自由貿易と保護貿易
第10回：農業保護－国境措置の比較
第11回：農業保護－国内農業保護政策
第12回：農産物自由化の過程と意義と問題点
第13回：日本における農業政策の変遷
第14回：農業と環境の関わり－これからの日本の農業のあり方－
第15回：試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】
新聞を毎日読むよう習慣付けること。

【テキスト】

【参考文献】
1）速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』（岩波書店）
2）荏開津典生著『農業経済学』（岩波書店）
3）矢口芳生著『WTO体制下の日本農業』（日本経済評論社）

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
比較文化研究－インドネシアと日本の音楽文化　＜通期＞	金3

【教員名称】
由比　邦子

【講義概要】
この講義では、科学的な心理学研究上のさまざまな知見・成果を概観し、体系的に心理学を学ぶことを目指す。

これから心理学を学ぼうとする人たちは、「心理学」という学問領域に対してどのようなイメージをいだいているであろうか。近年マスコミでよく取り上げられている「犯罪心理学」「深層心理学」「臨床心理学」「カウンセリング」といった類のものが、すなわち「心理学」である（それら以外は、たとえ人の「心」に関わりがあろうとも「心理学」とはみなさない）という固定観念にとらわれている人を多く見かける。もちろん、それらは「心理学」のなかで重要な分野として取り扱われているが、「心のしくみとはたらき」を研究する科学としての「心理学」の領域はそれだけではなく、きわめて幅広く学際的である。私たちは、周囲の世界からさまざまな情報を取り入れ処理しながら日常生活を円滑に営んでいる。しかし、普段何気なく行っている、見る、聞く、感じる、考える、覚える、理解する、判断する、表現する、伝達するといった活動も、実に複雑な心のはたらきによることがわかっている。そこでこの講義では、人の基本的な認知行動とその個人差に関わるさまざまな心理学的現象や理論を知り、自他の心のしくみとはたらきについて再確認することを目指す。

【学習目標】
・科学としての心理学理論を学び、心理学研究上の基礎的知見・成果を知る。
・人の心のしくみとはたらきについて体系的に理解する。
・客観的・批判的なものの見方や判断力を養う。

【講義計画】
第１回：春学期の授業を始める前に（授業のテーマ、到達目標、概要、履修上の注意事項などについて）
第２回：心理学とは何か
第３回：心理学研究法：客観的に人の心をとらえる方法
第４回：感覚と知覚（1）：そのしくみとはたらき
第５回：感覚と知覚（2）：現実の世界と錯覚
第６回：感覚と知覚（3）：見えの世界
第７回：記憶（1）：そのしくみとはたらき
第８回：記憶（2）：日常の記憶
第９回：記憶（3）：記憶の不思議
第10回：学習（1）：学習の成立と応用
第11回：学習（2）：日常生活と学習
第12回：イメージ（1）：そのしくみとはたらき
第13回：イメージ（2）：心的イメージの世界
第14回：イメージ（3）：イメージ能力とイメージ・トレーニング
第15回：春学期のまとめ
第16回：秋学期の授業を始める前に
第17回：注意と認知（1）：そのしくみとはたらき
第18回：注意と認知（2）：注意とヒューマンエラー
第19回：思考と言語（1）：そのしくみとはたらき
第20回：思考と言語（2）：問題を解くということ
第21回：思考と言語（3）：「ことば」とコミュニケーション
第22回：思考と言語（4）：言語の発達
第23回：動機づけと情動（1）：人はなぜ行動を起こすか
第24回：動機づけと情動（2）：情動のはたらきと脳
第25回：脳と心（1）：心の生物学的基礎
第26回：脳と心（2）：脳損傷と心のはたらき
第27回：人格・性格（1）：人格・性格とはなにか
第28回：人格・性格（2）：人格・性格の発達
第29回：人格・性格（3）：人格・性格の測定
第30回：全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】
授業で使用した教材スライド及び授業情報（資料，レポート課題，定期試験要領など）は、本学の共用ネットワークドライブ“Lesson（S:）”上にある“kshimizu”フォルダー内で公開する。授業の前後にそれらの情報を必ず確認し、課題提出や予習・復習・発展学習のために役立てること。

【テキスト】
テキストは使わないが、スライド（パワーポイント）、インターネット、DVD、印刷物などを通じて資料を提供する。

【参考文献】
・長谷川寿一・東條正城・丹野義彦（著）『はじめて出会う心理学（改訂版）』（有斐閣アルマ）
・金児曉嗣（編）『サイコロジー事始め』（有斐閣）
・加藤伸司・山口利勝（編著）『心理学理論と心理的支援』（ミネルヴァ書房）
・中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣）
・大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』（東京大学出版会）
・梅本堯夫・大山 正・岡本浩一（編）『心理学 第2版 ―心のはたらきを知る』（サイエンス社）

【コメント】
春学期試験４０％、秋学期試験４０％、不定期に実施するミニッツペーパー２０％

講　義　名　称	曜　時
比較文化研究－猿鬼合戦・日米戦争漫画考　＜秋集＞	火２　／水2

【教員名称】　英語による
Philip　Billingsley

【講義概要】
In December 2016, Mr. Abe Shinzo became the first sitting prime minister of Japan to visit Pearl Harbour in Hawaii. In recognition of that historic event, the topic of this course will be a comparison of Japanese and American propaganda cartoons of the Pacific War period. These cartoons, while enjoyable, also reveal a lot about the culture of the opposing sides. For example, while they each portrayed the enemy in non-human form, American cartoons generally represented the Japanese as monkeys, and Japan's cartoons usually portrayed the Americans as demons. Hence the title of this class: The Monkey-Demon War. 安部首相の真珠湾訪問を機に、今回のテーマは太平洋戦争時の日米宣伝マンガの比較にしました. 両側のマンガを楽しみながら、それぞれの対戦国の文化について考える。アメリカも日本も相手国の国民を人間以下の存在として容赦なく風刺したが、アメリカの反日漫画の主な主人公は「猿」、日本の反米マンガでは「鬼」が主役であった。つまり、戦争マンガで考える限りでは太平洋戦争は『猿蟹合戦』ならず、『猿鬼合戦』であった。 Japanese students: the lectures will all be in ENGLISH, but I will speak very slowly and clearly so, even if you don't feel confident, why not give this class a try? 英語とはいえ、易しいから試してみてね！

【学習目標】
The course has two aims. One is to give both Japanese and international students a chance to rethink the significance of the World War II conflict in an enjoyable way. The other is to help Japanese students overcome their fear of English by approaching a familiar but difficult topic through the lens of manga. 目標はマンガを通して日本の近現代史（特に太平洋戦争）の意味を考えるとついでに、日本の学生に「英語恐怖症」を乗り越えるチャンスを与えることである。

【講義計画】
第１回：About this course: how to make the lectures more interesting, how to copy the lecture recording, etc. コース内容の説明、講義の「賢い受け方」、講義の録音方法についてなど
第２回：Repeat of first lecture
第３回：Introductory lecture: about the course topic（1）　授業のテーマについて
第４回：Continued（2）
第５回：Introduction to the history of political manga in Japan（1）　日本のマンガ（特に政治的な風刺を含んだマンガ）の簡単な紹介。
第６回：Continued（2）
第７回：Continued（3）
第８回：Continued（4）
第９回：Socio-historical background to the Pacific War in America and Japan（1）　太平洋戦争当時のアメリカ・日本それぞれの歴史的背景について
第10回：Continued（2）
第11回：Continued（3）
第12回：Continued（4）
第13回："Japan" in American Wartime Cartoons アメリカの戦争マンガの中の「日本」(1)
第14回：Continued（2）
第15回：Continued（3）
第16回：Continued（4）
第17回：Continued（5）
第18回：Continued（6）
第19回："America" in Japanese Wartime Cartoons 日本の戦争マンガの中の「アメリカ」(1)
第20回：Continued（2）
第21回：Continued（3）
第22回：Continued（4）
第23回：Continued（5）
第24回：Continued（6）
第25回：Continued（7）
第26回：Continued（8）
第27回：Continued（9）
第28回：Summary of the Course（1）　コースの要約
第29回：Continued（2）
第30回：試験及びまとめ　How much did you learn from this course?

【事前および事後学習の指示】
予備知識を持っていると講義の英語が理解しやすくなるので参考文献やWikipediaで事前に調べて、基礎知識を身につけておくこと！ Knowing something about the historical background beforehand will make the class easier for you to follow.

【テキスト】

【参考文献】
John W. Dower: War Without Mercy（和訳：『容赦なき戦争』、平凡社ペーパーバック）

【コメント】
（For Japanese students）：講義を毎回しっかり聴かないと英語力は上達しないので、講義とはいえ出席を特に重視する。I expect students to be present at every class.
すべての講義は録音されるので、リアルタイムで理解できなくても録音をダウンロードすれば何度でも聴き直すことができる。（最初の授業で詳しく説明する。）
英語による講義とはいえ、まめに受講・ダウンロードすれば思うほど難しくないはずだ。

講　義　名　称	曜　時
比較文化研究－日韓の暮らしと文化　＜通期＞	火1

【教員名称】
崔　杉昌

【講義概要】
バイオテクノロジーの台頭と環境問題への注目により、生物学は21世紀の社会でよくも悪くも中心的な位置を占めることになる。遺伝子や生態系に関する正しい理解がなければ、さまざまな社会問題に正しく対応し判断をくだすことは難しい。この時代に対応するためにも、生物というものの基本を正しく理解しておいてほしい。
生物の基本、それはすべての生物が37億年にわたる生命の進化の産物であるということ。進化という現象を抜きにして生物のいかなる側面も語ることはできない。にもかかわらず、進化を正しく理解している者はきわめて少ない。 この授業では、進化を軸にして生命現象のいくつかの重要な側面について概説する。

【学習目標】
①この地球に生息する多種多様な生物たちの命の不思議、生き方の不思議、生物同士の関わりの不思議に興味を持つ。②生物が進化するそのメカニズムについて人に説明できる。③講義で取り上げるいくつかのトピックについて、人にわかるように説明できる。

【講義計画】
第１回：イントロダクション
第２回：生命の起源
第３回：生命の分化と共生
第４回：爆発的多様化と絶滅
第５回：多様化の仕組み
第６回：第１回イン・クラス・レポート：生命の歴史
第７回：イン・クラス・レポートふりかえり
ＤＮＡ１
第８回：ＤＮＡ２
第９回：進化のメカニズム
第10回：自然選択
第11回：自然選択と中立説
第12回：第２回イン・クラス・レポート：進化のメカニズム
第13回：イン・クラス・レポートふりかえり
性の進化１
第14回：性の進化２
第15回：性差の進化
第16回：性比の進化
第17回：第３回イン・クラス・レポート：性の進化
第18回：イン・クラス・レポートふりかえり
利他性の進化
第19回：真社会性の進化
第20回：血縁選択と近親交配
第21回：ヒトの協力行動
第22回：生物多様性保全１
第23回：生物多様性保全２
第24回：生物多様性保全３
第25回：生物多様性保全４
第26回：第４回イン・クラス・レポート：生物多様性保全
第27回：イン・クラス・レポートふりかえり
人類の進化１
第28回：人類の進化２
第29回：共進化
第30回：総復習

【事前および事後学習の指示】
日常目にする生物関係のニュースなどをチェックし、常に情報をとりいれておくこと。授業では板書の負担を軽減するため穴埋めプリントを配付するが、その穴を埋めるだけで済むわけではない。ノートをとり、配付資料の内容と授業後に統合して整理することで、はじめて十分な理解ができるはずなので、次の授業までにきちんと復習をすること。

【テキスト】

【参考文献】
酒井、高田、近「生き物の進化ゲーム　大改訂版」共立出版 2012、桑村哲生『生命の意味』裳華房 2001年、長谷川眞理子『進化とはなんだろうか』岩波ジュニア新書　1999年、ワイナー『フィンチの嘴』早川書房　2001年、長谷川眞理子『クジャクの雄はなぜ美しい？』紀伊國屋書店　1992年、ドーキンス『利己的な遺伝子』紀伊國屋書店　1991年 他、適宜紹介する。

【コメント】
・初日のオリエンテーションには必ず出席すること。
・就活などを理由に持続的な授業参加が見込めない学生は受講を遠慮していただきたい。
・学外授業として国立民族学博物館（吹田）の見学およびコリアタウン（桃谷）へのフィールドワークを行う予定である（代替授業として土曜日に実施予定）。
・祇園祭の見学

講　義　名　称	曜　時
比較文学　＜通期＞	水4

【教員名称】
岩男　久仁子

【講義概要】
西洋古典期の早くから「イソップ寓話」は流布していた。様々な形態で文字化され保存されてきている。現在では全世界に広まっている「イソップ寓話」をその初期の形態を中心に他の時代の物（特に日本のイソップ寓話）との比較を行い、イソップ寓話の特質を見ていく。

【学習目標】
イソップ伝（イソップの生涯の物語）」を中心に、講義を進めていく。
2000年以上も前から伝わる伝承から現在まで脈々とつながる思想を読み解くとともに、当時の社会背景なども、日本と比較していく。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
　　どういう視点で行う講義なのか、評価の方法など解説。
第２回：イソップ寓話・伝記　伝承系統図　解説①
第３回：イソップ寓話・伝記　伝承系統図　解説②
第４回：①原典イソップ伝の紹介　（第１部）
第５回：②原典イソップ伝の紹介　（第１部）
第６回：③原典イソップ伝の紹介　（第２部）
第７回：④原典イソップ伝の紹介　（第２部）
第８回：⑤原典イソップ伝の紹介　（第３部）
第９回：⑥原典イソップ伝の紹介　（第４部）
第10回：⑦原典イソップ伝の紹介　（第５部）
第11回：⑧原典イソップ伝の紹介　（第５部）
第12回：日本に伝播したイソップ寓話（明治期以後）
第13回：難題解決譚　蟻通明神縁起
第14回：難題解決譚　賢者アヒカル物語
第15回：まとめ
第16回：①イソップ寓話の挿絵
第17回：②イソップ寓話の挿絵
第18回：③イソップ寓話の挿絵
第19回：①喜劇作家アリストファネスとイソップ寓話
第20回：②喜劇作家アリストファネスとイソップ寓話
第21回：①古代ギリシアの女性像
第22回：②古代ギリシアの女性像
第23回：③古代ギリシアの女性像
第24回：①自由の問題
第25回：②自由の問題
第26回：③自由の問題
第27回：④自由の問題
第28回：⑤自由の問題
第29回：⑥自由の問題
第30回：まとめ　Quiz

【事前および事後学習の指示】
詳細は講義中に指示するが、理解を深めるために、「イソップ寓話集」を読む。
「イソップ寓話集」は数多くあるが、手に入るもので良い。

【テキスト】

【参考文献】
『イソップ寓話の世界』　中務哲郎著　ちくま新書　600円
『イソップ寓話集』　中務哲郎訳　岩波文庫　700円

【コメント】
夏休みの宿題として→レポート
講義の総まとめとして秋学期の終わりに→試験
年間通しての出席率+コメント→出席
どれか1つでも欠けていれば、評価しません。

講　義　名　称	曜　時
ビジネス英語　＜通期＞	月3

【教員名称】
森岡　裕一

【講義概要】
ビジネスに特化したテキストを精読する。

【学習目標】
ビジネス特有の語彙に慣れ、その意味するところを理解できるようにする。
また、理解した内容を説得的に説明するプレゼンテ―ション能力も合わせて涵養する。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：Chpater 1
第３回：Chapter 1
第４回：Chapter 2
第５回：Chapter 2
第６回：Chapter 3
第７回：Chapter 3
第８回：Chapter 4
第９回：Chapter 4
第10回：Chapter 5
第11回：Chapter 5
第12回：Chapter 6
第13回：Chapter 6
第14回：Chapter 7
第15回：Chapter 7
第16回：Chapter 8
第17回：Chapter 8
第18回：Chapter 9
第19回：Chapter 9
第20回：Chapter 10
第21回：Chapter 10
第22回：Chapter 11
第23回：Chapter 11
第24回：Chapter 12
第25回：Chapter 12
第26回：Chapter 13
第27回：Chapter 13
第28回：Chapter 14
第29回：Chapter 14
第30回：Chapter 15

【事前および事後学習の指示】
事前学習に120時間は最低さいてもらいたい。

【テキスト】
Business Sense Andrew E. Bennett 978-4-523-17742-5 南雲堂

【参考文献】
授業中に適宜指示する。

【コメント】
主として予習テストと授業中の受け答えで評価するので、やる気があり努力を惜しまない学生以外は受講が難しいだろう。英語力を高めビジネスの世界に近づきたい学生を歓迎する。

講　義　名　称	曜　時
福祉NPO論　＜秋＞	木4

【教員名称】
隅田　耕史

【講義概要】
「福祉NPO」の具体的な活動を、実践者から聴き、多様な人々の暮らしや課題、活動について理解を深める。従来の福祉を超えた活動をどのように運営し、継続していくかを学び、自分自身に関連した課題として考える。

【学習目標】
多様な人々の暮らしについて理解を深める。現状の課題を理解したうえで、どのように課題解決に取り組む活動を継続、活性化していくか、既存の枠にとらわれず、自分自身に引き寄せて考えていくことができるようになる。

【講義計画】
第１回：「福祉NPO」の概要　…NPO法人の特徴、経緯。従来の福祉との違い、など。
第２回：「福祉NPO」の活動紹介①　…コミュニティ喫茶･居酒屋（世代間･地域交流）
第３回：「福祉NPO」の活動紹介②　…子育て支援（地域子育て支援拠点事業、認可外保育）
第４回：「福祉NPO」の活動紹介③　…高齢者グループハウス
第５回：「福祉NPO」の活動紹介④　…子ども食堂
第６回：「福祉NPO」の活動紹介⑤　…配食サービス（生活支援型食事サービス）
第７回：「福祉NPO」の活動紹介⑥　…就労支援
第８回：「福祉NPO」の活動紹介⑦　…ニート・ひきこもり支援
第９回：「福祉NPO」の活動紹介⑧　…地域共生ケア
第10回：「福祉NPO」の運営①　…行政との協働
第11回：「福祉NPO」の運営②　…事務局のはたらき、組織マネジメント
第12回：「福祉NPO」の運営③　…役員のはたらき、経営
第13回：「福祉NPO」の個別支援①　…ケアマネジメント・相談援助
第14回：「福祉NPO」の個別支援②　…ホームヘルプ、認知症ケア
第15回：「福祉NPO」の可能性と課題

【事前および事後学習の指示】
事前学習：近所や通り道、新聞やTV、ネットなどを通じて、「福祉NPO」に関するものごとについて情報を収集する。
事後学習：講義で学んだことについて、「福祉」という枠ではなく、自分自身の暮らしに引き寄せ、自分なりに考える。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
毎回の感想用紙の提出により、講義の内容をふまえた上で、一般的なコメントではなく、自分なりに感じたこと、考えたことをしっかりと書くことができているかどうかを評価します。

講　義　名　称	曜　時
福祉レクリエーション援助論　＜春＞	金2

【教員名称】
水流　寛二

【講義概要】
年齢、障害に関わりなくすべての人々がいきいきと生きる権利を有しています。 レクリエーションは、人がその人らしく生きていく上で不可欠であり、その本質を理解することが重要です。生活とレクリエーションの結びつきを理解した上で、レクリエーションを福祉現場で展開していくための考え方や方法論を学びます。福祉レクリエーションの理念やサービスの目的を理解し、具体的に援助計画に反映させる過程を学びます。

【学習目標】
①医療・保健・福祉領域におけるレクリエーションの考え方と意義を理解する
②福祉レクリエーション援助方法、援助過程（援助プロセス）を理解する

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
・レクリエーションのイメージ
・授業のねらい、すすめ方、評価について
第２回：レクリエーションの基本的理解
第３回：福祉レクリエーションの基礎的理解
第４回：福祉レクリエーションの理解～事例から学ぶ
第５回：福祉レクリエーション支援とは
第６回：福祉レクリエーション援助の方法①～福祉レク情報の収集
第７回：福祉レクリエーション援助の方法②～ TRモデルのプロセス
第８回：個別レクリエーション援助の計画①～個別援助とアセスメント
第９回：個別レクリエーション援助の計画②～目標設定と援助計画
第10回：コミュニケーションワークの実際
第11回：グループレクリエーション援助の意義と方法
第12回：グループレクリエーション援助の実際①～地域高齢者のレク支援
第13回：グループレクリエーション援助の実際②～地域高齢者へのレク支援
第14回：グループレクリエーションの展開
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
レクリエーション援助において大切なことは、援助者自らが「楽しさ」や「楽しみ」の活動を実践することです。普段の生活で楽しみの活動を意識し、実践することを期待します。

【テキスト】

【参考文献】
・日本レクリエーション協会編
楽しさを追求を支える理論と支援の方法（公益財団法人　日本レクリエーション協会）
・日本レクリエーション協会編
楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施（公益財団法人　日本レクリエーション協会）
・日本レクリエーション協会編
楽しさの追求を支えるための介入技術（公益財団法人　日本レクリエーション協会）

【コメント】
本授業では授業中に実施する課題の提出および課題に取組む姿勢や態度から総合的に評価を行います。授業内でのディスカッション､グループワークに積極的に取り組む態度を望んでいます。

講　義　名　称	曜　時
文化社会学　＜秋集＞	月1 ／木3

【教員名称】
名部　圭一

【講義概要】
1980年代から1990年代にかけての日本における知と文化の移り変わりを、それぞれの時代を代表する論者を取り上げながら解説する。80年代に席巻したポストモダンの思想と文化は、90年代以降どのようなかたちで受け継がれ、またどのような点で変容したのか？　当時の社会状況と関連づけながら、これらふたつの時代の連続性と断絶を探る。

【学習目標】
・戦後日本社会における文化変容を社会学的観点から理解すること。
・少し前の時代との比較を通して、現代とそうした時代の連続性と差異を把握すること。

【講義計画】
第１回：イントロダクション
第２回：戦後日本社会を振り返る①
第３回：戦後日本社会を振り返る②
第４回：ポストモダンと脱構築①
第５回：ポストモダンと脱構築②
第６回：ポストモダンと脱構築③
第７回：スキゾ・キッズの逃走論（浅田彰）①
第８回：スキゾ・キッズの逃走論（浅田彰）②
第９回：スキゾ・キッズの逃走論（浅田彰）③
第10回：消費社会の美学（山崎正和）
第11回：差別化と〈私〉探しゲーム（上野千鶴子）①
第12回：差別化と〈私〉探しゲーム（上野千鶴子）②
第13回：《他者》と単独性（柄谷行人）①
第14回：《他者》と単独性（柄谷行人）②
第15回：インターミッション①：「大きな物語」の解体をどう評価するか？
第16回：新人類／オタク分析と島宇宙化する社会（宮台真司）①
第17回：新人類／オタク分析と島宇宙化する社会（宮台真司）②
第18回：成熟社会とまったり革命（宮台真司）①
第19回：成熟社会とまったり革命（宮台真司）②
第20回：成熟社会とまったり革命（宮台真司）③
第21回：インターミッション②：まったり革命は起こったか？
第22回：虚構の時代の果て（大澤真幸）①
第23回：虚構の時代の果て（大澤真幸）②
第24回：動物化するポストモダン（東浩紀）①
第25回：動物化するポストモダン（東浩紀）②
第26回：インターミッション③：融解するサブカルチャーとポスト真実の時代
第27回：前期ポストモダンから後期ポストモダンへ
第28回：試験概要発表
第29回：試験対策①
第30回：試験対策②

【事前および事後学習の指示】
日ごろから新聞の文化欄を読むよう心がけてください。また、本を読んだり音楽を聴いたり映画を見たりする際、それらの作品が何年に発表されたものなのかを意識するようにしてください。

【テキスト】
教科書の代わりにレジュメと資料を配布する。

【参考文献】
・佐々木敦『ニッポンの思想』講談社現代新書
・仲正昌樹『集中講義！日本の現代思想』NHKブックス
・大塚英志『「おたく」の精神史―1980年代論』講談社現代新書

【コメント】
試験（70%）と授業中もしくは課題として提出するミニレポート（30%）により総合的に評価。ミニレポートには、その日の授業の感想やテーマに即した自身の考えなどを書いてもらう。なお、提出されたレポートが無内容もしくは不適切と判断した場合、得点を与えないので注意。

講　義　名　称	曜　時
文化人類学　＜春集＞	月2 ／木4

【教員名称】
小池　誠

【講義概要】
文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査・研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきました。この講義では家族と親族を中心テーマに選び、人の誕生から死まで、人生にそって人類学上の重要な問題を取り上げます。南米アマゾンの家族から日本の葬式まで、世界中の多様な文化を取り上げ、具体的な事例をとおして文化人類学の考え方を講義します。この講義は異文化理解を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」につながることを目的としています。文化の多様性だけでなく、人類としての普遍性も見ていきたいと思います。私たちの常識とまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化人類学の視点を身につけてください。

【学習目標】
講義をとおして、以下の３つの目標を達成できるようにします。
1　文化人類学の基本的な用語を正しく理解し、それを正しく使うことができる。
2　系譜関係を図で示す方法を理解し、それを正しく使いこなすことができる。
3　文化人類学の考え方を理解し、それにもとづいて授業で取り上げたテーマについて自分の考えを述べることができる。

【講義計画】
第１回：授業ガイダンス：文化人類学とは何か
第２回：文化とは何か
第３回：異文化との出会い：ブラジル先住民（1）
第４回：異文化との出会い：ブラジル先住民（2）
第５回：家族とは何か、親子とは何か
第６回：家族の多様性（1）：イエと家族
第７回：家族の多様性（2）：現代日本の家族
第８回：現代の生殖医療技術と親子関係
第９回：人類学者のフィールドワーク
第10回：北欧の国際養子
第11回：親族と出自：祖先との系譜のたどり方
第12回：東アジアの父系社会
第13回：母系社会：インドネシア・ミナンカバウ
第14回：名前とアイデンティティ
第15回：結婚の多様性：誰が誰と結婚するか
第16回：ネパールの一妻多夫婚
第17回：国際結婚と「ハーフ」
第18回：新しい結婚のかたち：同性婚
第19回：複数の愛を生きるアメリカ人
第20回：交換と家族
第21回：高齢者介護と外国人労働者
第22回：イスラム教徒の人生儀礼
第23回：死者の霊の行方：霊魂観の人類学
第24回：鳥取県大山山麓の両墓制の村
第25回：現代日本の葬送と墓
第26回：シャーマニズム：亡くなった家族との交流
第27回：インドネシア・スンバ（1）：家屋
第28回：インドネシア・スンバ（2）：結婚と交換
第29回：インドネシア・スンバ（3）：死者儀礼
第30回：講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】
毎回の講義のなかで紹介する図書を読むようにしてください。必要に応じて、次回の講義までに読んでおくべき資料を配布します。

【テキスト】

【参考文献】
山下晋司・船曳建夫編、1997、『文化人類学キーワード』有斐閣
山下晋司編、2005、『文化人類学入門』弘文堂

【コメント】
試験は期末試験だけでなく、授業期間中に小テストを実施する。また授業中の質問とコメントカードの内容によって「授業への積極的な参加」を評価する。

講　義　名　称	曜　時
文学－西洋Ⅰ　＜秋集＞	月1 ／木3

【教員名称】
国松　夏紀

【講義概要】
ヨーロッパの文学を交流史的な観点から概観します。担当者の専門はロシア文学ですが、ロシア文学は他のヨーロッパ諸国文学の影響下に成立し、そしてまた影響を与え返していますし、そういった事情はロシアに限らないからです。

【学習目標】
ロシア文学にかたよることなく、様々な具体的作品に言及し、豊穣なヨーロッパ文学への読書案内を目指します。

【講義計画】
第１回：便宜的にオーソドックスな時代的枠組みに従って講義を進めます。
　　Ⅰ．ヨーロッパ文学の源泉
　　講義概要オリエンテーション／文学とは何か？
第２回：文学のジャンル／ヨーロッパの特徴
第３回：ヨーロッパ文学のアウトライン
第４回：ヨーロッパ文学の諸源泉
第５回：Ⅱ．ルネッサンス（14、15、16世紀）
　　中世からルネサンスへ／ダンテとボッカチオ
第６回：ルネサンスとは何か？／イタリアル・ネサンスの精華
第７回：イタリア･ルネサンスの波及
第８回：シェイクスピアとセルバンテス／『ハムレット』と『ドン･キホーテ』
第９回：Ⅲ．古典主義（17～18世紀）
　　古典主義の定義と時代区分
第10回：フランス古典主義演劇／コルネイユ『ル･シッド』
第11回：ラシーヌ『アンドロマック』、『フェードル』
第12回：モリエール『タルチュフ』、『ミザントロープ』
第13回：イギリスの古典主義／反シェイクスピア
第14回：ドイツ、ロシアの古典主義
第15回：Ⅳ．啓蒙主義（18世紀）
　　英仏関係を中心に／モンテスキュー、ヴォルテール
第16回：ディドロと『百科全書』及びリチャードソンの書簡体小説
第17回：ジャン･ジャック･ルソーの仕事
第18回：Ⅴ．ロマン主義（18～19世紀）
　　ロマン主義の源泉／イギリスの詩･散文･『オシアン』
第19回：イギリスからドイツへ／ハーマン･ヘルダー ･ゲーテ･シラー／ノヴァーリスと『青い花』
第20回：ドイツからフランスへ／スタール夫人『ドイツ論』
第21回：独仏からロシアへ／プーシキン『スペードの女王』
第22回：Ⅵ．リアリズム（19～20世紀）
　　小説の時代　フランス／バルザック、スタンダール、フローベール
第23回：イギリス／オースティン、ディケンズ、ブロンテ姉妹
第24回：ロシア／ゴーゴリ、ツルゲーネフ、ドストエフスキー、トルストイ
第25回：Ⅶ．象徴主義と《世紀末》
新ロマン主義／散文リアリズムから詩の時代へ
第26回：「後進」ロシア文化（文学）の「逆襲」／ラテンアメリカ文学の「逆襲」
第27回：Ⅷ.《両大戦間》・20世紀
　　散文リアリズムの最終実験／プルースト、ジョイス、ムジールその他
第28回：＜駆け足で＞ロマン主義から20世紀へ
第29回：21世紀文学の可能性へ向けて
第30回：全体のまとめと補足

【事前および事後学習の指示】
１冊で良いから、ヨーロッパ文学の「名作」を読んでおくこと。それが受講の「手掛かり」になります。
事後その１冊を再読してみること。新たな展望が開けるかもしれないので。

【テキスト】
特に定めない。講義資料は、授業時間中配布します。

【参考文献】
ヨーロッパ文学に関する参考文献は、枚挙に暇がありません。教室でその都度掲げることにします。

【コメント】
秋学期末レポートにより評価します（上記の試験50％とは、この課題レポートのことを指します）。１回きりですので、力作を期待。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり「課題文」を提出（上記のレポート50％は、この教場ミニ・レポートのことです）。これも評価の対象とします。出席は当然のこととして点数化しません。遅刻（授業開始30分後入室禁止）・私語（即退室）厳禁。

講　義　名　称	曜　時
文学－西洋Ⅲ　＜春集＞	月4 ／木2

【教員名称】
高田　里恵子

【講義概要】
ドイツ文学の作品を中心として、文学を分析するさまざまな切り口や方法を紹介する。
講義は３部構成となり、第１部では、おもにドイツの文豪ゲーテの作品を取りあげながらロマン主義について考察する。第２部ではトーマス・マンの作品を取りあげてブルジョア文化の終焉を考察する。第３部では、第一次大戦・第二次大戦が文学や映像のなかでどのように表象されているかを見ていく。文学作品の背景となる歴史についても学んでいく。

【学習目標】
①文学作品を鑑賞するための基礎知識を身につけ、これからの読書生活を豊かなものにしていくことを目指す。
②また、この講義では、授業の内容を自分でノートにまとめる練習、人の話の要点を的確につかむ訓練をしていただきたい。したがって、レジュメは配布しないので、そのつもりで授業に臨んでほしい。
③最後に強調したいのは文章を書く訓練である。小テストなどをとおして、わかりやすい文章を書く練習をしていく予定である。また、グループディスカッションでは、自分の意見を話す・他の人の意見を聞く訓練もしていく。
この授業は、何かを暗記することを目標とはしていない。さらなる勉学や就職活動のために聞く力・書く力・話す力を身につけることが、最大の目標である。

【講義計画】
第１回：この講義のテーマ、扱う時代や地域、全体の計画、試験のやり方、出席点のつけ方などを説明する。
　　近代ドイツの歴史を俯瞰する。
第２回：「文学」は自明なものではなかった①
第３回：「文学」は自明なものではなかった②
第４回：ロマン主義以前の文学①
第５回：ロマン主義以前の文学②
第６回：ロマン主義以前の文学③
第７回：ロマン主義以前の文学④
第８回：第１部　ゲーテとその時代
　　シトルムウントドラングとは何か
第９回：恋愛と青春①
第10回：恋愛と青春②
第11回：恋愛と青春③
第12回：『ファウスト』①
第13回：『ファウスト』②
第14回：第２部　文学とアウトサイダー
　　１９００年前後のドイツ帝国①
第15回：１９００年前後のドイツ帝国②
第16回：１９００年前後のドイツ帝国③
第17回：１９００年前後のドイツ帝国④
第18回：第３部　戦争とドイツ文学
　　第一次大戦とドイツ帝国①
第19回：第一次大戦とドイツ帝国②
第20回：第一次大戦とドイツ帝国③
第21回：ナチズムとは何か①
第22回：ナチズムとは何か②
第23回：戦争という過去との対決①
第24回：戦争という過去との対決②
第25回：戦争という過去との対決③
第26回：ユダヤ人とヨーロッパ
第27回：ユダヤ人を描くということ①
第28回：ユダヤ人を描くということ②
第29回：ユダヤ人を描くということ③
第30回：全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】
授業で扱う文学作品のうち、文庫などで入手しやすいものを自分で読んでみることをすすめる。直接には試験にはつながらなくとも、学生時代にさまざまな文学作品に触れることは重要である。
また、授業の後、ノートをパソコンで整理し、不明な点は自分で調べたり教師に質問したりして補っておくことが重要である。

【テキスト】
教科書は使わない。講義の内容をうまくノートにまとめることが重要である。

【参考文献】
保坂一夫編『ドイツ文学：名作と主人公』（自由国民社）

【コメント】
７０点満点の試験を行なう。試験では、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。
出席点は小テスト、グループディスカッション、質疑応答など、授業への積極的参加によって評価する。詳細については、初回の授業の際に説明する。

講　義　名　称	曜　時
簿記　01＜通期＞	水3

【教員名称】
河野　勉

【講義概要】
「経営に役立つ簿記」という観点からできる限り実務に密着した講義をする。
また、日本商工会議所の簿記検定３級程度の簿記の基礎知識を習得することを目指す。
日常の経済取引からどのようにして個人、法人の通信簿である決算書を作成するのか、簿記一巡の手続きを学習する。

【学習目標】
決算書は、企業の通信簿であり健康診断書でもあるといわれ経営に不可欠なものです。
複式簿記という極めて技術的手法によって決算書が作成される。この複式簿記の原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。
企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。
更に、電子商取引時代を迎えて、電子帳簿保存法が施行された今日のペーパレス化と帳簿との関連についても言及したい。

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
第２回：簿記の基礎概念（その１）貸借対照表
第３回：簿記の基礎概念（その２）損益計算書
第４回：会計取引と仕訳・勘定記入
第５回：仕訳帳と元帳（その１）
第６回：仕訳帳と元帳（その２）
第７回：試算表の構造と作成（その１）
第８回：試算表の構造と作成（その２）
第９回：精算表の構造と作成（その１）
第10回：精算表の構造と作成（その２）
第11回：決算と財務諸表の作成（その１）
第12回：決算と財務諸表の作成（その２）
第13回：簿記一巡の手続
第14回：総復習
第15回：試験およびまとめ
第16回：現金・預金取引
　　小口現金、当座預金
第17回：商品売買取引
　　３分法
第18回：商品有高帳の作成
　　実地棚卸・帳簿棚卸
第19回：売掛金・買掛金の処理
第20回：手形取引
第21回：有価証券　その他債権債務取引
第22回：固定資産取引
第23回：貸倒損失・貸倒引当金
　　資本金、引出金
　　税金の処理
第24回：決算整理（その１）費用・収益の繰延べと見越し・消耗品の処理
第25回：決算整理（その２）期末棚卸商品と売上原価の算定
第26回：決算整理（その３）貸倒引当金・減価償却費
第27回：精算表の作成
第28回：決算整理後試算表の作成
第29回：財務諸表の作成
第30回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
特に必要なし。

【テキスト】
検定簿記　ワークブック３級 渡部　裕亘　片山覚　北村敬子（編著）中央経済社
検定簿記講義３級 渡部　裕亘　片山覚　北村敬子（編著）中央経済社

【参考文献】

【コメント】
簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを実施し、総合的に評価する。

講　義　名　称	曜　時
簿記　02＜秋集＞	水2／金2

【教員名称】
中村　勝之

【講義概要】
ある意味、企業は数字のカタマリである。それを統一的に記録・整理・公開する手続きが簿記である。この講義では、日商簿記検定3級レベルの内容を中心にしつつ、簿記の基本構造について概略していく。そして、簿記の手続きを経て完成する「財務諸表」がどういう利用のされ方をするのか、この点についても押さえていくことにする。

【学習目標】
・「簿記はパズルである」という感覚をつかむこと。
・完成した簿記というパズルは、読む人によってさまざまな理解の仕方があることを理解すること。

【講義計画】
第１回：ガイダンス（成績評価基準等の提示）
第２回：簿記の基本構造①（複式簿記）
第３回：簿記の基本構造②（財務諸表の基本）
第４回：仕訳の基本
第５回：転記の基本
第６回：決算の基本①（試算表）
第７回：決算の基本③（精算表）
第８回：現金預金取引
第９回：商品売買①（三分法による理解）
第10回：商品売買②（商品有高帳）
第11回：売掛金・買掛金
第12回：手形①（振出・取立）
第13回：手形②（裏書譲渡・割引）
第14回：有価証券
第15回：その他の債権債務
第16回：固定資産の処理①（取得・売却）
第17回：固定資産の処理②（減価償却）
第18回：貸倒引当金、資本金＆引出金
第19回：収益と費用
第20回：伝票による処理
第21回：決算①（試算表）
第22回：決算②（決算整理）
第23回：決算③（精算表）
第24回：第1回実践演習
第25回：第2回実践演習
第26回：第3回実践演習
第27回：第4回実践演習
第28回：経営分析①（安全性指標）
第29回：経営分析②（収益性指標）
第30回：期末試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】
・事前学習に関して特段の指示はしない。
・私がどんな講義を担当しても、受講生に求めるレベルの高さは変わらない。そのあたりを重々覚悟して事後学習に励むこと。

【テキスト】
検定簿記講義3級（平成26年版）渡部裕亘・片山覚・北村敬子（編著）中央経済社
検定簿記ワークブック3級 渡部裕亘・片山覚・北村敬子（編著）中央経済社

【参考文献】
適宜指示する。

【コメント】
・コースワーク〔小レポート〕（100点満点）
・実践演習（100点満点）
・期末試験（100点満点）
① 上記3つの指標から評点を計算。
② 上記3つの指標と各指標の平均点から、加点措置を決定。
③ 評点と加点措置の合計が60点以上の受講生に単位を認定する。

講　義　名　称	曜　時
法学　02＜春集＞	水1 ／金1

【教員名称】
松田　聰子

【講義概要】
法は近代以降、為政者でなく、主権者である国民が作り、用い、変えていくものである。国民のそのような意識のなかで、民主主義は成熟していく。この講義では、憲法を頂点にしたわが国の法体系を概観し、「法の支配」および「立憲主義」の意義を確認していく。

【学習目標】
①わが国の法体系を理解する。
②「立憲主義」「法の支配」の概念を理解し、法の基礎知識を習得する。
③人権体系を理解し、公法と私法が交差する場面をどう解決するか習得する。

【講義計画】
第１回：はじめに：近代立憲主義および「法の支配」の考え方
第２回：わが国の法体系と国際法
第３回：人権思想史
第４回：人権の種類・人権保障のグローバル化・国際人権法
第５回：新しい人権①プライバシー権、情報プライバシー権とその国際基準
第６回：新しい人権②自己決定権
第７回：身体の自由
第８回：平等権①合憲性の判断基準
第９回：平等権②女性に関わる判例
第10回：平等権③子どもに関わる判例
第11回：平等権④相続に関わる判例
第12回：人権の限界：「公共の福祉」と二重の基準
第13回：精神的自由①信教の自由
第14回：精神的自由②政教分離原則
第15回：精神的自由③表現の自由
第16回：精神的自由④知る権利
第17回：社会権①生存権
第18回：社会権②労働基本権
第19回：人権の私人間効力
第20回：平和主義・自衛権・国際法
第21回：国民主権と選挙権
第22回：国民主権と天皇制
第23回：権力分立制
第24回：国会の地位と権限
第25回：議院内閣制
第26回：内閣の権限
第27回：違憲立法審査制と諸外国の憲法保障制度
第28回：地方自治
第29回：憲法改正論
第30回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
テキストは特に用いないが、準備学習ができるような形式のレジュメを配布するので、該当箇所について、参考文献をあらかじめ読んで学習しておくことが望ましい。また、ノートを読み返して復習し、わからない事項があれば書き出して調べておくことが望ましい。

【テキスト】
用いない

【参考文献】
芦部信義・高橋和之「憲法」（有斐閣）、安藤高行『エッセンス憲法』（法律文化社）、澁谷秀樹他「憲法１人権」（有斐閣）、同「憲法２統治」（有斐閣）

【コメント】
成績評価は、学期末に実施する記述式試験による結果にもとづいて行う。

講　義　名　称	曜　時
法学特講－実践憲法　＜春＞	木4

【教員名称】
寺田　友子

【講義概要】
憲法とは日本国憲法を含めて、国家権力を制限して国民の権利・自由を守ることを目的とする法である。
日本国憲法は、具体的にいかなる国民の権利・自由を保障しているか、それらの権利・自由を保障するために国家の統治構造は、どのようになっているか、日本国憲法の諸規定について理解を深める。そして、国民の権利・自由が国家権力により侵害された場合に、その救済手段として日本国憲法は、違憲法令審査制度を存置している。それは、言い換えれば、憲法の保障する1つの制度でもある。違憲法令審査制度に基づく権利・自由に関わる最高裁判所の判例についても必要な限度で、その内容に触れる。一方的に講義する講義形式でなくて、学生の予習復習を前提にして、過去問等を学生が解答することにより、実践的に諸試験対策を行っていきたい。

【学習目標】
憲法を理解するに必要な基礎的概念を理解し、憲法が課されている試験（法学検定・公務員試験・行政書士等）に対応できる能力を修得することを目的とする。

【講義計画】
第１回：　憲法を学ぶにあたっての基礎的概念・知識についてと象徴天皇制（テキスト安西･巻･宍戸『憲法学』（以下「テキスト」という。）３から34頁）
第２回：　平和主義（テキスト35から50頁）と違憲法令審査（テキスト321から124頁）
第３回：　人権総論（テキスト53から82頁）
第４回：　包括的基本権と平等原則（テキスト83から111頁）
第５回：　精神的自由権（思想良心の自由及び信教の自由）（テキスト112か133頁）
第６回：　表現の自由（テキスト134から150頁）
第７回：　表現の自由（テキスト150から170頁）
第８回：　経済的自由（テキスト171から194頁）
第９回：　刑事手続き上権利と国務請求権と参政権（テキスト196から216頁）
第10回：　社会権（テキスト219から239頁）
第11回：　統治の基本原理（テキスト243から265頁）
第12回：　国会（テキスト266から286頁）
第13回：　内閣（テキスト287から304頁）
第14回：　裁判所（テキスト芦部『憲法』326から348頁）･憲法訴訟（326から327頁）
第15回：　財政・地方自治･国法の諸形式（テキスト338から352頁）

【事前および事後学習の指示】
事前に、テキストの当該箇所を熟読して、授業に臨んでほしい。

【テキスト】
憲法学読本・第2版 安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿　有斐閣・2014年
ポケット六法平成29年版　有斐閣

【参考文献】
長谷部ほか2名編『憲法判例百選１（第6版）』『憲法判例百選Ⅱ（第6版）』（有斐閣・2013年）

【コメント】
この単位の修得を含めて、諸試験に合格するには、出席することを前提として、講義前・講義後に予習復習等を行うことが必要である。受け身的学習では､合格することはおぼつかないことを肝に銘じてほしい。そのため、毎回チェックペーパー等を提出してもらうが、それは出席点でなく平常点として加味する。

講　義　名　称	曜　時
法学特講－実践行政法　＜秋＞	木4

【教員名称】
寺田　友子

【講義概要】
日本の国内法の80％は、行政に関わる法律等、行政法であると言われている。その理由は、日本国憲法によって拡大された国民の権利・利益を保障するために、行政活動領域も当然に拡大されたからである。ところが、日本国憲法制定前から、国民の自由を守るために、具体的な行政権力の行使は、法律（国民の間接的合意）に従って行われなければならない（法律による行政の原理）。法律に違反した行政活動によって、国民の権利利益が侵害されれば救済されなければならない。民法等のように法典がなく多数の法律等からなる行政法を、総体的に認識し、行政法学の対象を画するために、行政法学は救済の対象である行政行為という学問的概念を作り出した。この行政行為（許可・下命・禁止・認可等）は、行政作用法の多くに規定されているので、それを中心に行政法の体系を構築した。すなわち、それを発する主体を行政庁、それを発する前の手続（行政調査・事前手続）、発した後の行政上の不服申立、最終的には行政と分離している裁判所による救済制度である取消訴訟である。この体系に即して本講義を行う。
一方的に講義する授業形式でなくて、学生の予習復習を前提にして、過去問等を学生が解答することにより、実践的に諸試験対策を行っていきたい。

【学習目標】
行政法を理解するに必要な基礎的概念を理解し、行政法が課されている試験（法学検定・公務員試験・行政書士等）に対応できる能力を修得することを目的とする。

【講義計画】
第１回：行政法を学ぶにあたって基礎的概念･知識について（テキスト稲葉･人見・村上･前田『行政法･第3版』（以下テキストという。）第１章第１節１から23頁）
テキストの各項目の範囲に長短があるため、若干講義内容を変更する場合もありうる。
第２回：行政法の基本原理（テキスト24から48頁）
第３回：行政作用序説と行政基準（テキスト49から63頁）
第４回：行政行為の定義・効力・種類・効力発生と消滅（テキスト63から81頁）と
第５回：行政行為の手続的統制・瑕疵・裁量（テキスト86から116頁）
第６回：行政契約（テキスト116から123頁）、行政指導（123から143頁）及び行政計画（132から143頁）
第７回：行政調査･情報収集制度（144から152頁）及び情報の管理･公開･保護制度（テキスト153から172頁）
第８回：義務履行確保制度（173から187頁）及び即時強制（テキスト187から192頁）
第９回：行政過程における行政争訟（テキスト193から206頁）と行政訴訟の概説（206から213頁）
第10回：取消訴訟の訴訟要件①（テキスト213から234頁）（1）処分性と（2）原告適格
第11回：取消訴訟の訴訟要件②（235から243頁）、取消訴訟の審理（テキスト243から250頁）及び取消訴訟の判決（テキスト250から256頁）
第12回：その他の行政事件訴訟（テキスト256から279頁）及び仮の権利保護（テキスト279から288頁）
第13回：国家補償（289頁）、国家賠償法概説及び国家賠償法1条（テキスト290から321頁）
第14回：国家賠償法2条（テキスト321から330頁）及び賠償責任主体等（331から334頁）
第15回：及び損失補償（テキスト335から352頁）

【事前および事後学習の指示】
春学期に実践憲法を履修した上で、行政法を履修してほしい
事前に、テキストの当該箇所を熟読して、授業に臨んでほしい。ただし、テキストの各項目の範囲には、長短があるので、変更する場合があるが、事前にその旨を指示する。

【テキスト】
行政法・第3版 稲葉馨・人見剛・村上裕章・前田雅子　有斐閣・2015年
ポケット六法・平成30年版　有斐閣

【参考文献】
宇賀克也ほか2名編『行政判例百選１（第6版）』『行政判例百選Ⅱ（第6版）』（有斐閣・2012年）

【コメント】
この単位の修得を含めて、諸試験に合格するには、出席することを前提として、講義前・講義後に予習復習等を行うことが必要である。受け身的学習では、合格することはおぼつかないことを肝に銘じてほしい。そのため、毎回チェックペーパー等を提出してもらうが、それは出席点でなく平常点として加味する。

講　義　名　称	曜　時
法学特講－消費者と消費者法　＜秋＞	木1

【教員名称】
田中　志津子

【講義概要】
この世から、消費者を食い物にする悪質な事業者がいなくなることはないだろう。法規制の不備もあるかもしれないが、規制を待っている間にあなたが被害者となるかもしれない。また、遵法精神に則り商売をしている事業者であっても、事業者として利益を追求している以上、消費者の利益とぶつかることもある。そのような場合に、私達は1人の消費者としてまた社会の一員として、どのように行動すべきなのだろうか。具体例を挙げながら、賢い消費者としての行動を学ぶ。

【学習目標】
各自が「消費者市民社会」の中の消費者の1人であることを自覚し、賢い消費者となるために身につけておくべき知識と、問題を見分けて適切に対処できるようにする。

【講義計画】
第１回：「消費者市民社会」の歩き方
第２回：消費者と消費者法①　消費者契約法
第３回：消費者と消費者法②　特定商取引法
第４回：消費者と表示①　家庭用品品質表示法
第５回：消費者と表示②　景品表示法
第６回：消費者と旅行①　民泊
第７回：消費者と旅行②　標準旅行約款
第８回：消費者と健康①　医薬品と医薬部外品
第９回：消費者と健康②　健康被害
第10回：消費者と保険　告知と免責
第11回：消費者と投資　適合性原則
第12回：消費者と借金　過払金問題と総量規制
第13回：消費者と仕事のあっせん　業務提供誘引販売
第14回：消費者と住まい　欠陥住宅
第15回：消費者と裁判　消費者裁判手続特例法

【事前および事後学習の指示】
・各項目について新聞等に目を通し、社会問題となっている事象について、消費者・事業者・監督官庁等行政の各目線から問題の解決策を考えること。
・各自でダウンロードが必要なもの（小テスト用の用紙等）については、初回講義時に説明する。

【テキスト】

【参考文献】
必ず毎時限最新の六法を持参すること。

【コメント】
上記比率は参考。小テストをすることがある。

講　義　名　称	曜　時
法学特講－消費者法入門　＜春＞	月4

【教員名称】
田中　志津子

【講義概要】
私達は「消費者」。しかし、消費者だけでは社会は成り立たず、消費者等に物やサービスを提供する事業者と、消費者や事業者を保護し又は規制する行政が存在する。私達消費者は法に囲まれて生活をしているが、自ら身を守る道具として、また、積極的に事業者等に働きかける道具として法を活用するためには、必要な知識を身に付ける必要がある。この講義では、消費者が問題遭遇した場合に適切な判断ができるよう具体例を通じて学ぶ。

【学習目標】
各自が「消費者市民社会」の中の消費者の1人であることを自覚し、よりよい消費者となるために必要な知識を身につけて消費者を害する行為を見分け、それらを合理的に回避できるようにする。

【講義計画】
第１回：消費者とは
第２回：SNSと著作権
第３回：個人情報保護
第４回：訪問販売
第５回：通信販売
第６回：送付商法・電話勧誘販売
第７回：押し買い
第８回：特定継続的役務提供契約
第９回：連鎖販売取引
第10回：製造物責任
第11回：食品表示
第12回：クレジット契約
第13回：金融取引
第14回：電子書籍と権利
第15回：現代社会と消費者

【事前および事後学習の指示】
・まず、各自が「消費者」としての行動を意識すること。また、各項目について新聞等に目を通し、社会問題となっている事象について、消費者の目線から問題の解決策を考えること。
・各自でダウンロードが必要なもの（小テスト用の用紙等）については、初回講義時に説明する。

【テキスト】

【参考文献】
・くらしの豆知識（2017年版）、国民生活センター編、国民生活センター（購入は任意。詳細は初回講義時に説明する。）
・最新版の六法を毎時限持参すること。

【コメント】
比率は参考。小テストをすることがある。

講　義　名　称	曜　時
法女性学　＜秋集＞	水1 ／金1

【教員名称】
松田　聰子

【講義概要】
男女共同参画社会基本法が制定されて以来、男女共同参画社会を目指すさまざまな取り組みが国や自治体で実施されている。本講義では、民法や刑法、労働法などを素材にして、わが国における女性・男性・性を取り巻く法環境を概観し、男女平等の視点から法制度の問題点やこれからの展望を探っていく。国際法および諸外国との比較検討も欠かせない視点である。

【学習目標】
次の三点を学習の目標にする。
① ジェンダー概念を理解しさまざまな事象を分析できる応用力をつけること。
② 憲法の平等規定や男女共同参画社会基本法が目指す「多様性を認め合う社会」について理解すること。
③ 女性に対する暴力がなぜ問題か理解すること。

【講義計画】
第１回：ガイダンス－法女性学が目指すもの
第２回：堕胎罪と中絶規制
第３回：中絶規制と産む権利
第４回：優生保護法から母体保護法へ
第５回：人口政策と「リプロ」
第６回：家族法の概観
第７回：婚姻制度（１）婚姻の成立条件
第８回：婚姻制度（２）婚姻の法的効果
第９回：婚姻制度の課題
第10回：戸籍制度と国際結婚
第11回：離婚制度の概要
第12回：離婚制度の課題
第13回：同性愛と法
第14回：性のグラデーション、ジェンダーそして法
第15回：親子関係と法①法の概要
第16回：親子関係と法②法の課題
第17回：生殖補助技術の現状
第18回：生殖補助技術の法的課題
第19回：生殖補助技術とジェンダー
第20回：性暴力と法
第21回：ストーカー行為と法
第22回：ドメスティックバイオレンスと法
第23回：恋人間の暴力と法
第24回：人身売買・売買春と法
第25回：働く権利と法
第26回：男女雇用機会均等法の課題
第27回：養育・介護・年金とジェンダー
第28回：政治過程とジェンダー
第29回：男女共同参画社会が目指す社会
第30回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
シラバスに沿って、配布プリントや参考文献の該当箇所などをあらかじめ読んでおくことが望ましい。また、ノートを整理することも次の講義の準備になるので、丁寧なノート整理を心がけてほしい。復習してわからない用語があれば書きだして調べておくこと。なお、コメントペーパーを求めることがある。

【テキスト】
用いない

【参考文献】
三成美保『ジェンダー法学入門』（法律文化社）、辻村みよ子『憲法とジェンダー』（有斐閣）、辻村みよ子『概説ジェンダーと法』（不磨書房）、浅倉むつ子他『ジェンダー法学』（不磨書房）、金城清子『ジェンダーの法律学』（有斐閣）、山下泰子他『法女性学への招待』（有斐閣）、吉岡睦子他『ジェンダー法講義』（民事法研究会）

【コメント】
論述方式の試験を実施し、その結果のみで評価する。

講　義　名　称	曜　時
法情報学　＜通期＞	火2

【教員名称】
関堂　幸輔

【講義概要】
法は元来私たちの社会生活に身近なものですが，今日の高度情報化社会にあっては，人々が法に関する情報に触れる機会がより一層増加しています。また一方で，情報化によって現在は法の在り方やその解釈・運用も変わりつつあります。この講義では，「法に関する情報」と「情報に関する法」という二つの面からさまざまな問題を取り上げて，それらを考察します。

【学習目標】
上記「講義概要」に掲げた問題を各自において認識し，それぞれに考察することが目標です。すなわち，一概に何を覚えればよいというものでもなく，画一的な答えを求められるものでもありません（もし「学習目標」としてそのようなものが求められているのだとすれば，この講義では無意味なことです）。そもそも最先端の技術やサービスが次々に提供される高度情報化社会にあって絶対的に「正しい」ことなどなく，現在常識として行われていることが数年後に覆される可能性さえあるのです。それを理解することこそ，この講義の学習目標であると言えます。受講生に最低限要求されることは，「法を学ぶ」ことが法令や制度がどうなっているかを単に「知る」のではなく，法の趣旨・解釈・運用等について「考察」し，時に「疑う」ことなのだと認識することです。

【講義計画】
第１回：法とその情報（法律以外の「法」）
第２回：法情報に関するリテラシー
第３回：法における「情報」の意義
第４回：情報の性質と法
第５回：情報の独占と知的財産（1）
第６回：情報の独占と知的財産（2）
第７回：情報の独占と知的財産（3）
第８回：情報のデジタル化による影響
第９回：情報流通による不法行為（1）
第10回：情報流通による不法行為（2）
第11回：情報に関する法規制（1）
第12回：情報に関する法規制（2）
第13回：情報に関する法規制（3）
第14回：表現の自由とメディア（1）
第15回：表現の自由とメディア（2）
第16回：情報公開制度（1）
第17回：情報公開制度（2）
第18回：情報公開制度（3）
第19回：情報公開制度（4）
第20回：個人情報保護制度（1）
第21回：個人情報保護制度（2）
第22回：個人情報保護制度（3）
第23回：個人情報保護制度（4）
第24回：放送と通信の融合（1）
第25回：放送と通信の融合（2）
第26回：放送と通信の融合（3）
第27回：情報モラルとサイバー犯罪（1）
第28回：情報モラルとサイバー犯罪（2）
第29回：最新の事例等
第30回：期末試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
本科目のような社会科学系にあっては，特定時期に特定の準備をすればよいというものでもありません。したがって，事前学習および事後学習に要する時間は各受講生によって異なります。日々社会ないし経済で起こる出来事に注視し，そこに内在する問題を認識することが肝要ですから，そうした感覚をもってさまざまな事象を観察するよう心がけて下さい。

【テキスト】

【参考文献】
必要に応じて授業内にて指示します。適宜担当者のウェブ（http://www.sekidou.com/）を参照してください。

【コメント】
試験によって判定。試験の方法等については講義の中で適宜告知をします。試験によって合格点に達しない場合のみ，平常点を加味します。（上記「学習目標」にある「最低限の要求」をクリアした場合が合格となります。）

講　義　名　称	曜　時
ボランティアコーディネート論　＜秋＞	月5

【教員名称】
脇坂　博史

【講義概要】
民俗学および文化人類学の手法を用いて、日韓の現代社会における多様な文化事象を取り上げ、一般庶民の暮らしや生活文化を正しく理解し合うことを目的とする。春学期には生活文化を理解するための民俗学や文化人類学の学問的性質を理解したうえ、日本の民俗文化の事例を中心に自文化に対する理解を深めていく。秋学期には韓国や近隣諸国と関連する文化事象を取り上げることにする。場合によっては日本文化と照合しながら文化の普遍性と特異性について議論していきたい。本講義ではいっそうの理解を深めるためDVDや動画、記事などの関連資料も教材として取り扱う。

【学習目標】
・比較文化研究方法論として、民俗学・文化人類学の手法を身につける。
・自文化・異文化についての理解度を深める。
・家・家族・近隣社会（地域）を柱とする比較文化研究の視座を培う。

【講義計画】
第１回：授業のオリエンテーション
　　講義内容の案内と周知事項の説明
第２回：民俗学の生い立ちと現在
　　ー現代学としての民俗学ー
第３回：柳田国男と民俗学
第４回：民俗学の誕生（映像）
第５回：民俗学とフィールドワーク
第６回：村社会の今
第７回：地域社会の再生と活性化
第８回：通過儀礼ー出産の民俗
第９回：若者の民俗－寝屋子制度
第10回：若者の民俗－恋愛・結婚
第11回：巡礼－四国遍歴
第12回：葬式－両墓制の民俗
第13回：村祭祀ー宮座とはなにか
第14回：都市の民俗ー祇園祭①
第15回：都市の民俗ー祇園祭②
第16回：異文化へのまなざし
第17回：名前からみた韓国社会と儒教の文化
第18回：両班の村－河回タルチュム（仮面劇）
第19回：日韓の食文化と作法
第20回：食文化－キムチと焼肉
第21回：食文化－儀礼食
第22回：韓国の伝統遊び
第23回：韓国の若者文化
第24回：通貨儀礼としての兵役
第25回：現代韓国の結婚事情
第26回：在日社会と多文化共生
第27回：大阪ラブ＆ソウル（映像）
第28回：韓国の村と村祭り
第29回：変わりゆく葬礼文化
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
テキストを持参すること。
指示に従い事前にテキストを読んでくること。
自文化・異文化理解への積極的な姿勢が求められる。

【テキスト】
こんなに面白い民俗学 八木透編　ナツメ社

【参考文献】
八木透編『新・民俗学を学ぶ』昭和堂
福田アジオ　ほか　『図説日本民俗学』吉川弘文間
長迫英倫『それでも不思議な韓国　やさしい日韓比較文化考』文芸社
金栄勲『韓国人の作法』集英社新書

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
ボランティア論　＜春＞	月5

【教員名称】
脇坂　博史

【講義概要】
ボランティア活動は、ボランティアを求める側と、支援する側によって成り立ちます。そのためにコーディネーションは不可欠です。
ボランティアコーディネーションの実際と、ボランティアグループとコーディネーターの関係を中心に考えます。

【学習目標】
ボランティア活動を有効に進めるため、コーディネーターの役割、さまざまな圏域の活動、最近のボランティア、ＮＰＯの活動実際等を学習し、自身の活動にどのように活かせるかを学習します。

【講義計画】
第１回：授業と評価のガイダンス（必ず出席のこと）
第２回：ボランティア活動支援室から
第３回：ボランティア活動の原則
第４回：ボランティアコーディネーターの役割①
第５回：ボランティアコーディネーターの役割②
第６回：コーディネーターの関わり方①
第７回：コーディネーターの関わり方②
第８回：コーディネーターの関わり方③
第９回：ワークショップ①
第10回：ワークショップ②
第11回：訪問報告①
第12回：訪問報告②
第13回：ワークショップ③
第14回：活動発表①
第15回：活動発表②

【事前および事後学習の指示】
ボランティアコーディネーションを学ぶにあたって、①自身がボランティア活動を体験しておくこと、②ボランティア関連書籍を読んでおくこと。

【テキスト】

【参考文献】
「市民社会の創造とボランティアコーディネーション」（筒井書房）日本ボランティアコーディネーター協会編
「グループワーク　理論とその導き方」（勁草書房）大利一雄著

【コメント】
実際の活動やレポート、および出席を重視します。報告や発表への姿勢も重視します。ボランティア活動への真摯な取り組みの評価は厳しく行います。

講　義　名　称	曜　時
マーケティング論Ａ　01＜春＞	火1

【教員名称】
辻本　法子

【講義概要】
【マーケティングはビジネスパーソンのマストスキルです！企業の戦略的視点から考える】
マーケティング論Aでは、マーケティングを企業の戦略的視点から学習します。
マーケティングとは、市場における「価値」を創造する活動のことです。企業のみならず非営利組織においてもマーケティング視点からの活動がおこなわれています。そのため、みなさんが就職し、企業や組織で働く場合に、マーケティングは必要不可欠なスキルです。本講義では、戦略的マーケティングを構築するプロセスとマーケティングの構成要素について具体的な事例を交えながら学習します。本講義は、みなさんが就職した際に、自分に与えられた職務が企業の戦略のどの部分を担っているのかを正確に理解し、自らが主体的に行動できるようになることを目指します。

【学習目標】
本講義の目標は、企業のマーケティング戦略を理解することです。
①戦略的マーケティング構築のプロセスを理解すること
②マーケティングの構成要素を理解すること
③マーケティング戦略の具体的な事例についての説明ができること

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
講義の進め方、予習方法、成績評価の方法、受講の際のルールについての説明をおこなう
第２回：マーケティングとは何か
マーケティングの基本構造と研究の歴史を解説する
第３回：事業機会の選択と市場需要の探索
事業機会・市場需要の探索のためのポイントと事業の成長を方向付けるためのフレームワークについて解説する
第４回：事業領域の選択
企業のアイデンティティを形成する方法として、企業ドメイン（コンセプト）について解説する
第５回：標的市場の選択
市場におけるターゲット（標的）を明確にするための市場細分化戦略について解説する
第６回：競争戦略
市場環境の分析と競争地位別のマーケティング戦略について解説する
第７回：消費者行動
消費者行動を理解するための主要モデルと、消費者の分類手法について解説する
第８回：製品（Product）戦略
製品開発、および製品ライフサイクルの考え方とステージごとのマーケティング戦略について解説する
第９回：価格（Price）戦略
価格設定の基本方針と価格戦略について解説する
第10回：流通チャネル（Place）戦略
日本型流通システムの概要、チャネル政策の種類と選択における意思決定課題について解説する
第11回：マーケティング・コミュニケーション（Promotion）戦略
消費者への効果的な情報伝達手段としてのコミュニケーション・ミックスについて解説する
第12回：サービスマーケティング
サービス業におけるマーケティングについて解説する
第13回：ソーシャルマーケティング
非営利組織のマーケティング、社会志向のマーケティングについて解説する
第14回：T時代のマーケティング戦略
インターネットの普及によるマーケティング戦略の変化について議論する
第15回：まとめ
講義の内容全体を振り返り、本試験に向けてのまとめをおこなう

【事前および事後学習の指示】
次回の講義に対応する教科書の章を事前に読んでおくこと。

【テキスト】
マーケティング戦略 和田充夫，恩蔵直人，三浦俊彦著 9784641124578 有斐閣

【参考文献】
講義のなかで紹介します。

【コメント】
講義の理解度を確認するためのレポートの作成を数回、講義中に実施します。
期末試験の成績に、レポートの成績を加味して合否を判定します。

講　義　名　称	曜　時
マーケティング論Ａ　02<春>	火4

【教員名称】
辻本　法子

【講義概要】
【マーケティングはビジネスパーソンのマストスキルです！企業の戦略的視点から考える】
マーケティング論Aでは、マーケティングを企業の戦略的視点から学習します。
マーケティングとは、市場における「価値」を創造する活動のことです。企業のみならず非営利組織においてもマーケティング視点からの活動がおこなわれています。そのため、みなさんが就職し、企業や組織で働く場合に、マーケティングは必要不可欠なスキルです。本講義では、戦略的マーケティングを構築するプロセスとマーケティングの構成要素について具体的な事例を交えながら学習します。本講義は、みなさんが就職した際に、自分に与えられた職務が企業の戦略のどの部分を担っているのかを正確に理解し、自らが主体的に行動できるようになることを目指します。

【学習目標】
本講義の目標は、企業のマーケティング戦略を理解することです。
①戦略的マーケティング構築のプロセスを理解すること
②マーケティングの構成要素を理解すること
③マーケティング戦略の具体的な事例についての説明ができること

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
講義の進め方、予習方法、成績評価の方法、受講の際のルールについての説明をおこなう
第２回：マーケティングとは何か
マーケティングの基本構造と研究の歴史を解説する
第３回：事業機会の選択と市場需要の探索
事業機会・市場需要の探索のためのポイントと事業の成長を方向付けるためのフレームワークについて解説する
第４回：事業領域の選択
企業のアイデンティティを形成する方法として、企業ドメイン（コンセプト）について解説する
第５回：標的市場の選択
市場におけるターゲット（標的）を明確にするための市場細分化戦略について解説する
第６回：競争戦略
市場環境の分析と競争地位別のマーケティング戦略について解説する
第７回：消費者行動
消費者行動を理解するための主要モデルと、消費者の分類手法について解説する
第８回：製品（Product）戦略
製品開発、および製品ライフサイクルの考え方とステージごとのマーケティング戦略について解説する
第９回：価格（Price）戦略
価格設定の基本方針と価格戦略について解説する
第10回：流通チャネル（Place）戦略
日本型流通システムの概要、チャネル政策の種類と選択における意思決定課題について解説する
第11回：マーケティング・コミュニケーション（Promotion）戦略
消費者への効果的な情報伝達手段としてのコミュニケーション・ミックスについて解説する
第12回：サービスマーケティング
サービス業におけるマーケティングについて解説する
第13回：ソーシャルマーケティング
非営利組織のマーケティング、社会志向のマーケティングについて解説する
第14回：T時代のマーケティング戦略
インターネットの普及によるマーケティング戦略の変化について議論する
第15回：まとめ
講義の内容全体を振り返り、本試験に向けてのまとめをおこなう

【事前および事後学習の指示】
次回の講義に対応する教科書の章を事前に読んでおくこと。

【テキスト】
マーケティング戦略 和田充夫, 恩蔵直人, 三浦俊彦著 9784641124578 有斐閣

【参考文献】
講義のなかで紹介します。

【コメント】
講義の理解度を確認するためのレポートの作成を数回、講義中に実施します。
期末試験の成績に、レポートの成績を加味して合否を判定します。

講　義　名　称	曜　時
マーケティング論Ｂ　01<秋>	火1

【教員名称】
辻本　法子

【講義概要】
【マーケティングはビジネスパーソンのマストスキルです！消費者心理の視点から次世代のマーケティングを考える】
マーケティング論Ｂでは、マーケティングを消費者へのコミュニケーション視点から学習します。
現代において企業がマーケティング戦略を構築するためには、ITの進展などの社会環境の変化がもたらす消費者の行動を的確に把握することが不可欠となっています。本講義では、消費者に向けたマーケティング・コミュニケーション戦略を提案するために必要な消費者行動についての理論や、調査手法、コミュニケーション手法について具体的事例を交えて学習し、新たな時代のマーケティングについて議論します。本講義は、みなさんが就職した際に、自分の職務においてマーケティング・コミュニケーションを企画することができる基礎的なスキルを身につけることを目指します。

【学習目標】
本講義の目標は、新たな時代のマーケティングについて自ら考える力を養成することです。
①消費者の購買行動についての基本的な理論と分析手法を理解すること
②マーケティングにおけるコミュニケーションについて理解すること
③新たな時代のマーケティングについての事例を説明できること

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
講義の進め方、予習方法、成績評価の方法、受講の際のルールについての説明をおこなう
第２回：消費者の購買行動Ⅰ
消費者の意思決定プロセスと消費者行動モデル
第３回：消費者の購買行動Ⅱ
消費者の情報探索と関与
第４回：マーケティング・リサーチⅠ
マーケティング・リサーチの手法を解説する
第５回：マーケティング・リサーチⅡ
マーケティングリサーチの具体的事例を紹介する
第６回：マーケティング・コミュニケーションⅠ
セールス・プロモーションの手法を解説する
第７回：マーケティング・コミュニケーションⅡ
セールス・プロモーションの具体的事例を紹介する
第８回：ブランド・コミュニケーションⅠ
ブランド・コミュニケーションについての手法を解説する
第９回：ブランド・コミュニケーションⅡ
ブランド・コミュニケーションの具体的事例を紹介する
第10回：新たな時代のマーケティングⅠ
地域とマーケティング　地域の特産品のマーケティング戦略について考える
第11回：新たな時代のマーケティングⅡ
地域とマーケティング　神戸のスイーツ店を事例に取りあげ地域ブランド戦略について考える
第12回：新たな時代のマーケティングⅢ
ビッグデータとマーケティング　ビッグデータを活用したマーケティング戦略について考える
第13回：新たな時代のマーケティングⅣ
コンテンツとマーケティング　電子書籍や音楽産業のマーケティング戦略について考える
第14回：新たな時代のマーケティングⅤ
文化的影響とマーケティングについて具体的な事例を紹介し議論する
第15回：まとめ
講義の内容全体を振り返り、本試験に向けてのまとめをおこなう

【事前および事後学習の指示】
次回の講義に対応する教科書の章、または事前の配布資料を読んでおくこと。
消費者の購買行動やライフスタイルに関する新聞、雑誌、ネットの記事について関心をもつこと。
マーケティング論Aを受講していることが望ましい。

【テキスト】
先を読むマーケティング：新しいビジネスモデルの構築に向けて 中田善啓・西村順二 978-4-495-64801-5 同文館

【参考文献】
講義のなかで紹介します。

【コメント】
講義の理解度を確認するためのレポートの作成を数回、講義中に実施します。
期末試験の成績に、レポートの成績を加味して合否を判定します。

講　義　名　称	曜　時
マーケティング論Ｂ　02<秋>	火4

【教員名称】
辻本　法子

【講義概要】
【マーケティングはビジネスパーソンのマストスキルです！消費者心理の視点から次世代のマーケティングを考える】
マーケティング論Ｂでは、マーケティングを消費者へのコミュニケーション視点から学習します。
現代において企業がマーケティング戦略を構築するためには、ITの進展などの社会環境の変化がもたらす消費者の行動を的確に把握することが不可欠となっています。本講義では、消費者に向けたマーケティング・コミュニケーション戦略を提案するために必要な消費者行動についての理論や、調査手法、コミュニケーション手法について具体的事例を交えて学習し、新たな時代のマーケティングについて議論します。本講義は、みなさんが就職した際に、自分の職務においてマーケティング・コミュニケーションを企画することができる基礎的なスキルを身につけることを目指します。

【学習目標】
本講義の目標は、新たな時代のマーケティングについて自ら考える力を養成することです。
①消費者の購買行動についての基本的な理論と分析手法を理解すること
②マーケティングにおけるコミュニケーションについて理解すること
③新たな時代のマーケティングについての事例を説明できること

【講義計画】
第１回：オリエンテーション
講義の進め方、予習方法、成績評価の方法、受講の際のルールについての説明をおこなう
第２回：消費者の購買行動Ⅰ
消費者の意思決定プロセスと消費者行動モデル
第３回：消費者の購買行動Ⅱ
消費者の情報探索と関与
第４回：マーケティング・リサーチⅠ
マーケティング・リサーチの手法を解説する
第５回：マーケティング・リサーチⅡ
マーケティングリサーチの具体的事例を紹介する
第６回：マーケティング・コミュニケーションⅠ
セールス・プロモーションの手法を解説する
第７回：マーケティング・コミュニケーションⅡ
セールス・プロモーションの具体的事例を紹介する
第８回：ブランド・コミュニケーションⅠ
ブランド・コミュニケーションについての手法を解説する
第９回：ブランド・コミュニケーションⅡ
ブランド・コミュニケーションの具体的事例を紹介する
第10回：新たな時代のマーケティングⅠ
地域とマーケティング　地域の特産品のマーケティング戦略について考える
第11回：新たな時代のマーケティングⅡ
地域とマーケティング　神戸のスイーツ店を事例に取りあげ地域ブランド戦略について考える
第12回：新たな時代のマーケティングⅢ
ビッグデータとマーケティング　ビッグデータを活用したマーケティング戦略について考える
第13回：新たな時代のマーケティングⅣ
コンテンツとマーケティング　電子書籍や音楽産業のマーケティング戦略について考える
第14回：新たな時代のマーケティングⅤ
文化的影響とマーケティングについて具体的な事例を紹介し議論する
第15回：まとめ
講義の内容全体を振り返り、本試験に向けてのまとめをおこなう

【事前および事後学習の指示】
次回の講義に対応する教科書の章、または事前の配布資料を読んでおくこと。
消費者の購買行動やライフスタイルに関する新聞、雑誌、ネットの記事について関心をもつこと。
マーケティング論Aを受講していることが望ましい。

【テキスト】
先を読むマーケティング：新しいビジネスモデルの構築に向けて 中田善啓・西村順二 978-4-495-64801-5 同文館 2016年春刊行

【参考文献】
講義のなかで紹介します。

【コメント】
講義の理解度を確認するためのレポートの作成を数回、講義中に実施します。
期末試験の成績に、レポートの成績を加味して合否を判定します。

講　義　名　称	曜　時
マクロ経済学　02<春集>	火1 ／金4

【教員名称】
中村　勝之

【講義概要】
マクロ経済学の主要な課題は、一国経済の動向を規定するGDP（国内総生産）の決定メカニズム、およびそこから派生する経済成長、失業、インフレーションといった諸変数の決定メカニズムを探り、その上で、政府によるマクロ経済政策（景気対策とほぼ同義）の効果を理論的に検証することにある。だが入門書で語られていることと今の日本経済の現状を素朴に観察したとき、かなりの食い違いに気づく。そこにはいくつかの理由があるのだが、その1つとして確実に言えそうなのは、入門書では経済の「グローバル化」、すなわち対外経済取引をほとんど捨象していることが問題を見えにくくしているのである。
そこでこの講義ではマクロ経済学の基礎知識の1つのゴールであるIS-LM分析を、対外経済取引が行われる状況に拡張した議論（マンデル＝フレミング・モデル）を最終到達点として、マクロ経済学の基礎知識を解説していく。
なおこの講義では数学をより積極的に使用する予定にしているが、初学者で対応可能な操作を行うので、恐れずに受講していただければ幸いである。

【学習目標】
学部初級レベルのマクロ経済学は「連立方程式体系」で構成され、数多くの式と記号で記述される。これを数多く触れながら、
① 背後にある前提
② 論理を追求した際の整合性
③ 政策上の帰結と含意
これらを理解していただきたい。

【講義計画】
第１回：ガイダンス
（このときに成績評価基準の詳細を通知する。）
第２回：文法としての経済数学Ⅰ（関数と方程式）
第３回：文法としての経済数学Ⅱ（微分法）
第４回：GDPⅠ（三面等価の原則）
第５回：GDPⅡ（さまざまな指標）
第６回：GDPⅢ（名目と実質）
第７回：第1回小テスト
第８回：主要関数一覧Ⅰ
第９回：主要関数一覧Ⅱ
第10回：乗数理論Ⅰ
第11回：乗数理論Ⅱ
第12回：第2回小テスト
第13回：IS－LM分析Ⅰ
第14回：IS－LM分析Ⅱ
第15回：IS-LM分析Ⅲ
第16回：第3回小テスト
第17回：これまでのまとめ
第18回：中間試験
第19回：AD-AS分析Ⅰ（ノーマルケース）
第20回：AD-AS分析Ⅱ（ケインズ派ケース）
第21回：AD-AS分析Ⅲ（新古典派ケース）
第22回：第4回小テスト
第23回：乗数理論の拡張Ⅰ（ノーマルケース）
第24回：乗数理論の拡張Ⅱ（2国間貿易）
第25回：第5回小テスト
第26回：マンデル＝フレミング・モデルⅠ（3つの曲線の導出）
第27回：マンデル＝フレミング・モデルⅡ（固定相場制でのマクロ経済政策の効果）
第28回：マンデル＝フレミング・モデルⅢ（変動相場制でのマクロ経済政策の効果）
第29回：マンデル＝フレミング・モデルⅣ（閉鎖経済との比較考察）
第30回：期末試験および総まとめ

【事前および事後学習の指示】
・特段の事前学習の指示はない。
・桃山トップレベルの難易度を誇っているので、やりきるだけの覚悟を持って事後学習に励むこと。

【テキスト】
使用しない。適宜資料（レジュメ）を配付する。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

【コメント】
①講義時間中に行われる「小テスト」（5回実施（1回につき10点満点）。獲得合計を100点満点に換算）
②講義期間中頃に行われる「中間試験」
③「期末試験」
※上記①～③の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算する。
※（必要であれば）各試験の獲得点にもとづく加点措置を行い、60点以上であれば合格。
※上記措置で59点以下の者は「出席点」による加点措置も行う。

講　義　名　称	曜　時
マクロ経済学　03＜秋集＞	月4／木1

【教員名称】
井田　大輔

【講義概要】
この講義では、マクロ経済学の基礎理論を勉強します。マクロ経済学では以下のような問題を考えます。経済はどのような要因で成長するのだろうか。失業はどうして発生するのか。好況・不況を生みだすメカニズムはなんだろうか。経済が安定的に成長する経済政策はどのようなものなのか。これらの問題に解答を与えていくことがマクロ経済学です。現実の経済問題を考えるうえで、マクロ経済学は有用な分析ツールの１つになります。

【学習目標】
この講義は、上述のように、マクロ経済学の基礎理論を勉強します。講義を通じてマクロ経済学の内容を理解し、現実の経済問題を考える上での一つの分析ツールとして学生の皆さんに使ってもらえるような講義にしたいと思います。

【講義計画】
第１回：ガイダンス（講義計画、成績評価方法など）
第２回：GDPと物価（1）
第３回：GDPと物価（2）
第４回：経済主体と市場
第５回：経済数学の復習：基礎的な数学の復習（1）
第６回：経済数学の復習：基礎的な数学の復習（2）
第７回：経済モデル
第８回：国民所得の決定（1）
第９回：国民所得の決定（2）
第10回：国民所得の決定（3）
第11回：乗数理論（1）
第12回：乗数理論（2）
第13回：乗数理論（3）
第14回：貨幣市場（1）
第15回：貨幣市場（2）
第16回：まとめと中間テスト
第17回：ＩＳ－ＬＭ分析（1）
第18回：ＩＳ－ＬＭ分析（2）
第19回：ＩＳ－ＬＭ分析（3）
第20回：ＩＳ－ＬＭ分析（4）
第21回：ＡＤ－ＡＳ分析（1）
第22回：ＡＤ－ＡＳ分析（2）
第23回：ＡＤ－ＡＳ分析（3）
第24回：物価変動とマクロ経済学（1）
第25回：物価変動とマクロ経済学（2）
第26回：物価変動とマクロ経済学（3）
第27回：日本経済とマクロ経済学（1）
第28回：日本経済とマクロ経済学（2）
第29回：日本経済とマクロ経済学（3）
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
板書量がそれなりに多い講義ですので、履修する際はこれを覚悟して挑んでください。なお、授業では数学を積極的に使用しますが、必要な数学についてはしっかりと準備をしますので、数学の予備知識は特に必要ありません。コツコツと前向きに粘り強く取り組んでくれる受講生を歓迎します。

【テキスト】

【参考文献】
北坂真一「マクロ経済学・ベーシック」（有斐閣、2003年）

【コメント】
授業評価に関するアナウンスは１回目の授業の際に説明しますので、必ず１回目の授業に参加するようにしてください。

講　義　名　称	曜　時
マス・コミュニケーション論Ⅰ　01＜通期＞	木1

【教員名称】
熊倉　一紗

【講義概要】
本講義では、私たちの行動や思考に大きな影響を及ぼし、現代の生活に欠かすことができないマス・コミュニケーションについて、欧米と日本における個別のメディア装置をとりあげながら以下の3つのポイントに留意しながら考察していく。すなわち（1）近代のマス・メディアが生起していく歴史的経緯をたどること、（2）マス・コミュニケーション理論の成立を具体的な事例と関連づけて理解すること、（3）現代のメディアがどのように実践されているのかを知ることである。それぞれの時代における歴史的・社会的・文化的背景を盛り込みながら、メディアの様相について幅広く理解することが本講義の目的である。

【学習目標】
本講義では次のような知識や能力を受講生のみなさんが身につけることを目標とする。
・欧米および日本における近代のマス・メディアがいかなる歴史的な変遷をたどったのかを理解する。
・戦後から現代における日本の様々なメディア状況について把握する。
・マス・メディアをとりまく技術や文化を幅広く知り、デジタル化やグローバル化に即したマス・コミュニケーションの様相を考察する。

【講義計画】
第１回：イントロダクション
第２回：プレ・グーテンベルク時代の写本
第３回：印刷技術の発明
第４回：新聞ジャーナリズムの勃興
第５回：電信・電話・ラジオ
第６回：写真術の登場
第７回：幻燈とオカルト
第８回：映画の発明
第９回：初期映画の様相
第10回：出版文化の興隆
第11回：広告の誕生
第12回：広告の展開
第13回：戦争とプロパガンダ
第14回：トーキー映画と総力戦体制
第15回：まとめと中間試験
第16回：戦後のマス・コミュニケーション
第17回：戦後社会とテレビ
第18回：現代の新聞
第19回：映画の発展
第20回：消費社会と広告
第21回：日本のカワイイ文化
第22回：ジャパニメーションの時代
第23回：テーマパークというメディア
第24回：マンガ雑誌の流行
第25回：インターネットの登場
第26回：携帯電話とソーシャル・ネットワーク
第27回：現代のキャラクター文化①
第28回：現代のキャラクター文化②
第29回：まとめと学期末試験
第30回：まとめとレポート提出

【事前および事後学習の指示】
参考文献などを読み予習しておくこと。配布した資料を用いて復習すること。

【テキスト】

【参考文献】
伊藤明己『メディアとコミュニケーションの文化史』世界思想社、2014年
伊藤守編著『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房、2009年
吉見俊哉『メディア文化論』有斐閣、2004年

【コメント】
講義内ではその回に関連する意見や感想などを小レポートとして提出してもらう。また、試験は二度行ない（中間試験、学期末試験）、講義に関連したレポートを学期末に求める。2度の試験とレポートの内容を総合的に判断して評価する。

講　義　名　称	曜　時
マス・コミュニケーション論Ⅱ　＜通期＞	木2

【教員名称】
熊倉　一紗

【講義概要】
本講義では、印刷技術により複製・量産される視覚的造形要素の大きいメディア、とりわけ19世紀から今世紀までの欧米と日本における印刷媒体の表現（＝デザイン）について、以下の3つのポイントに留意しながら考察していく。すなわち（1）近代の視覚的メディアが成立していく歴史的経緯をたどること、（2）近代のグラフィックスにおける表現がいかなるメディアや視覚言語で構成されているのかを知ること、（3）近代の視覚的メディアにいかなる技術や要素が盛り込まれているのかを理解することである。それぞれの時代における歴史的・社会的背景も盛り込みながら、視覚的メディアについて幅広く理解することが本講義の目的である。

【学習目標】
本講義では次のような知識や能力を受講生のみなさんが身につけることを目標とする。
・西欧と日本における近代の視覚的メディアがいかなる歴史的な変遷をたどったのかを理解する。
・代表的な制作者の造形的な特徴や視覚的な内容などを把握し指摘する。
・印刷技術によって複製される媒体の技術・歴史・文化を幅広く知り、私たちにとってヴィジュアル・コミュニケーションとは何かを考察する。

【講義計画】
第１回：イントロダクション：近代ヴィジュアル・コミュニケーションの誕生
第２回：アーツアンドクラフツ運動：ブックデザインのルネサンス
第３回：ベル・エポックのポスター
第４回：イギリスのアール・ヌーヴォー
第５回：ユーゲントシュティール
第６回：ウィーン分離派
第７回：明治ハイカラ・大正ロマン①：アール・ヌーヴォーの影響
第８回：明治ハイカラ・大正ロマン②：雑誌・ポスターのデザイン
第９回：明治ハイカラ・大正ロマン③：グラフィックデザイナー・竹久夢二
第10回：フランスにおけるアール・デコ
第11回：アメリカ・ドイツにおけるアール・デコ
第12回：タイポグラフィ・写真・イラストレーション
第13回：デ・ステイル
第14回：ロシア構成主義
第15回：まとめと中間試験
第16回：バウハウス①
第17回：バウハウス②
第18回：都市化と大衆：日本のモダン・グラフィックス①
第19回：都市化と大衆：日本のモダン・グラフィックス②
第20回：撃ちてし止まむ：戦中の宣伝・広告①
第21回：撃ちてし止まむ：戦中の宣伝・広告②
第22回：国際タイポグラフィック様式：欧米の視覚言語
第23回：消費社会とグラフィズム：戦後のデザイン動向
第24回：高度成長期の日本の広告：日宣美の時代
第25回：五輪・万博のヴィジュアル・コミュニケーション
第26回：1970年代のグラフィックス
第27回：1980-90年代のグラフィックス
第28回：現代ヴィジュアル・コミュニケーションの諸相
第29回：まとめと学期末試験
第30回：まとめとレポート提出

【事前および事後学習の指示】
参考文献などを読み予習しておくこと。配布した資料を用いて復習すること。

【テキスト】

【参考文献】
阿部公正監修『カラー版　世界デザイン史』美術出版社、1995年
フィリップ・B・メッグズ『グラフィック・デザイン全史』藤田治彦監修、淡交社、1996年
竹原あき子・森山明子監修『カラー版　日本デザイン史』美術出版社、2003年
新島実『新版graphic design』武蔵野美術大学出版局、2004年
アラン・ヴェイユ『グラフィック・デザインの歴史』柏木博監修、遠藤ゆかり訳、創元社、2005年

【コメント】
講義内でその回に関連する作品などを提示し、意見や感想などを小レポートとして提出してもらう。また、試験は2度行ない（中間試験、学期末試験）、講義に関連したレポートを学期末に求める。2度の試験とレポートの内容を総合的に判断して評価する。

講　義　名　称	曜　時
マルチメディア論　01＜春＞	水1

【教員名称】
永田　淳次

【講義概要】
数値や文字を扱っていたコンピュータシステムは、ディジタル化技術の進展により、音声や音楽、画像や写真、動画映像と多種多様で多くの情報を扱えるようになってきた。パーソナルコンピュータやモバイル機器の普及と高性能化は、コンテンツ情報の扱いを簡単化し社会に浸透している。またインターネットの大衆化はコンテンツ情報の共有化を加速し、マルチメディアの存在が当たり前となっている。
本講義では、基本的なマルチメディア処理技術を学び、それが活用された場合の社会的影響について学ぶ。

【学習目標】
マルチメディア処理技術の知識を身につけ、最新技術動向を捉える。そして、それら技術の普及が社会に与える影響、特に日常生活の変化や新たな社会制度に必要性に関する知見を獲得することを目標とする。

【講義計画】
第１回：マルチメディア概要、デジタル化
第２回：テキスト、テキスト処理
第３回：情報リテラシ
第４回：音声・オーディオ
第５回：音声認識、音声合成
第６回：図形・画像処理
第７回：動画処理（圧縮、伸長、編集）ソフトウエア（1）
第８回：動画処理（圧縮、伸長、編集）ソフトウエア（2）
第９回：パーソナルコンピュータ、マルチメディア端末
第10回：コンピュータネットワーク
第11回：WWW
第12回：セキュリティ、知的所有権
第13回：利活用事例（デジタルサイネージ、電子出版、地図情報）
第14回：反転授業
第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
テキストの事前学習、事後学習

【テキスト】
入門マルチメディア　ITで変わるライフスタイル 財団法人　画像情報教育振興協会 978-4-8443-7094-9 インプレスコミュニケーションズ

【参考文献】

【コメント】
授業内で示す課題のレポート内容と試験結果による総合評価

講　義　名　称	曜　時
民俗学　＜通期＞	木2

【教員名称】
大野　啓

【講義概要】
本講義は民俗学とはどのような学問であるのかについて、その成り立ちや学問としての特徴について講義する。その際、民俗学がどのような「知」を構築してきたのか、そして、それがどのような問題を内包し、どのような可能性を持ちうるのかなどについて検討していく。

【学習目標】
民俗学を理解するうえで、最低限必要な知識と講義の内容を理解すること

【講義計画】
第１回：ガイダンス
第２回：近代国家の形成と「文化」
第３回：ナショナリズムと国民１
第４回：ナショナリズムと国民２
第５回：国家が規定する「民俗」
第６回：前近代における「日本」へのまなざし
第７回：民俗学前史 -「伝統」を対象化すること
第８回：民俗学の形成
第９回：民俗学の成立
第10回：柳田以降の民俗学１
第11回：柳田以降の民俗学２
第12回：「常民」概念の可能性について
第13回：「伝統」を対象化する意味について
第14回：民俗学の限界と可能性
第15回：小括
第16回：通過儀礼について
第17回：葬送儀礼の形式の変化
第18回：儀礼の意味 - 共同体からみた意味と家族からみた意味
第19回：葬送の簡略化と社会の変容
第20回：伝統的な家 - 多様な家の形態
第21回：近代の家制度と家
第22回：近代家族の生成と家
第23回：家の変容と社会・文化
第24回：民俗学における家研究の可能性
第25回：年中行事と社会
第26回：正月儀礼について
第27回：旧暦の正月から新暦の正月へ１
第28回：旧暦の正月から新暦の正月へ２
第29回：生活文化としての正月
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義中に提示した書籍や論文に目を通してほしい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
試験での評価を基本とする。夏休みの間にレポート課題を出します。
また、講義時間の最後に小レポートを課したり、リアクションペーパーを書いてもらいます。

講　義　名　称	曜　時
民法Ａ　＜通期＞	月1

【教員名称】
下田　由紀

【講義概要】
もし、家族の誰かが突然亡くなった場合、その人の残した財産はどうなると思いますか？
多くの場合、亡くなった人の家族がその財産を受け継ぐこととなります。この財産の継承を『相続』といいます。
『相続』と聞くと、「一般家庭には関係ない」とか「資産家の問題」と考えがちですが、それらは大間違いです。人は亡くなることで何らかの財産、つまり遺産を残します。この財産＝お金（または換金可能な物）を巡って、今まで仲の良かった家族が骨肉の争いをする場合もあるのです。
このような不幸な事態を招かないために、本講義ではおそらく日本で最も有名な家族であり、かつみなさんにも馴染みが深い「サザエさん」一家を題材に、法律（主に民法）を用いて解決する方法を学びます。本講義を通じて、相続問題とは何か、相続問題をどのように法律（民法等）で解決するのか等、トラブルを解決する能力を身につけることを目的とします。
また、死後の財産を巡る紛争を未然に避けるため、生前に作成する『遺言』についても学びます。
なお、初学者を念頭に置いて講義を行う予定です。
※講義の進捗状況および受講生の希望等に応じて、講義・演習計画を変更する場合があります。

【学習目標】
（1）相続に関する基礎的知識の修得。
（2）（1）を前提とした上で、現代社会で問題となっている相続問題を意識し、自分自身のこととして考え、解釈する力の修得。
（3）相続問題に関して法律（民法等）で解決する力の修得。

【講義計画】
第１回：・講義ガイダンス（本講義の進め方・成績評価方法・民法についてのガイダンス等）
・相続ってよくわからない。マスオ、関連本を読んで猛勉強（教科書P24 ～ P25）
第２回：真実は六法全書のなかに。波平の遺産を受け継ぐ者は誰だ？（教科書P26 ～ P29）
第３回：孫のタラオに「代襲相続」を！今は亡き娘･サザエへの想いを託す（教科書P30 ～ P33）
第４回：カツオ、不安で夜も眠れず！受け継ぐ相続を割合はいかほど？（教科書P34 ～ P45）
第５回：相続財産には借金も含まれる！？亡夫の”秘め事”に……フネ絶句（教科書P46 ～ P51）
第６回：無二の親友・中島のアドバイスでカツオ、「遺留分」の権利を主張（教科書P52 ～ P57）
第７回：「まったくもってけしからん！！」波平、不肖の息子の相続権をはく奪（教科書P58 ～ P59）
第８回：未娘･ワカメの結婚資金に生前贈与「相続分が減る」……ホント？（教科書P60 ～ P63）
第９回：父親の療養看護に努めたワカメ「寄与分」は認められる？（教科書P64 ～ P67）
第10回：相続人が誰もいない！？波平の大往生が思わぬ波紋を呼ぶ（教科書P68 ～ P70）
第11回：マスオ感激！サザエが妊娠　生まれていない赤ちゃんも相続人？（教科書P164 ～ P167）
第12回：哀れ、ワカメ！非情な現実に落涙「事実婚」では相続人になれず（教科書P168 ～ P171）
第13回：カツオが金髪美女と国際結婚！相手は外国人……どうなる？相続（P172 ～ P175）
第14回：波平！今流行りの「年の差婚」。新たな命の誕生に嵐の磯野家！！（教科書P176 ～ P179）
第15回：試験およびまとめ
第16回：父の訃報をどこで聞いた？磯野家に突如現れた麗しき淑女（教科書P180 ～ P183）
第17回：猫の小判！ペットに財産分与！波平の遺言内容に､タマもたまげた（教科書P184 ～ P187）
第18回：波平の遺産をいかに分割するか？モメる！こじれる！磯野家（教科書P222 ～ P227）
第19回：うっかり者のサザエは要注意！分割協議前に必ずおこなう約束事（教科書P228 ～ P231）
第20回：ワカメの胸もドッキドキ！？最適な分割方法を選んで円満解決（教科書P232 ～ P235）
第21回：こんな場合はどうなる？未成年のカツオとワカメが相続人（教科書P236 ～ P241）
第22回：全員合意で遺産分割協議終了！のはずが……まさかの事態は発生（教科書P242 ～ P245）
第23回：今すぐ「遺言」の作成を！相続トラブル回避に欠かせません（教科書P112 ～ P117）
第24回：博識の波平さえも知らなかった！？一般的な遺言書の種類は３つ（教科書P118 ～ P125）
第25回：波平､いよいよ遺言作成の準備に！まずは「財産目録」を手掛ける（教科書P126 ～ P129）
第26回：「遺言執行者」とは､何者か？謎多き存在にワカメの鼓動も高鳴る（P130 ～ P133）
第27回：・遺言作成も、ついに大詰め！波平、文例片手に手書きに入る（教科書P134 ～ P137）
・フネ、茫然自失し涙ポロリ……。「自筆証書遺言」はトラブル遺言書（教科書P138 ～ P143）
第28回：抜群の安全性と確実性がウリ！「公正証書遺言」で､波平リベンジ（教科書P144 ～ P151）
第29回：迷える波平、遺言を書き直したい「撤回」&「変更」のルール（教科書P152 ～ P161）
第30回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
（予習）前もって、教科書に目を通しておいて下さい。
（復習）講義終了後に、教科書等の再読および条文の確認を行って下さい。復習をすることで相続問題への理解が深まります。

【テキスト】
磯野家の相続リターンず 長谷川裕雅　すばる舎
法学六法'17 石川明　他２名　信山社

【参考文献】
受講時に最新の六法を持参して下さい。六法については第１回の講義で指示します。
必要に応じて、参考資料を配布する予定です。

【コメント】
第15回の試験（35%）､第30回の試験（35%）および毎回の出席点（30%）で評価します。出席点については、講義毎のアンケートの提出（講義開始10分後に配布。遅刻者には配布しません）によって評価します。
なお、受講態度が悪いと判断した場合、全体的な成績評価より算出した点数から減点します（1回の判断につきマイナス10点）。

講　義　名　称	曜　時
民法Ｂ　＜通期＞	月2

【教員名称】
下田　由紀

【講義概要】
私たちは意識していませんが、日々契約をしています。例えば、友達からお菓子を貰えば友達との間で贈与契約、コンビニエンスストアで昼食を購入すれば店との間で売買契約、下宿をしている場合は大家さんとの間で賃貸借契約を締結しています。
そこで、本講義では、これら契約について規定がおかれている民法「債権法」の分野に焦点を絞り、債権法に関する基礎的な知識の修得を目的とします。
なお、初学者を念頭に置いて講義を行う予定です。
※講義の進捗状況および受講生の希望等に応じて、講義・演習計画を変更する場合があります。

【学習目標】
(1) 私たちの生活を規律する民法に関する基礎知識の修得。
(2) (1) を前提とする民法「債権法」の理解。
(3) 現代社会で問題となっている法律問題を意識し、自分自身のこととして考え、解釈する力の修得。

【講義計画】
第１回：講義ガイダンス（本講義の進め方・成績評価方法・民法（債権法）についてのガイダンス等）
第２回：契約総論序説・契約の成立
第３回：契約の効力
第４回：契約の解除（特定商取引法等に規定されている「クーリングオフ」制度についても学習します）
第５回：契約各論序説・贈与
第６回：売買（1）
第７回：売買（2）
第８回：交換・消費貸借・使用貸借
第９回：賃貸借
第10回：雇用・請負・委任・その他の典型契約
第11回：事務管理・不当利得
第12回：不法行為（1）
第13回：不法行為（2）
第14回：これまでの講義内容の総括
第15回：試験およびまとめ
第16回：債権総論序説・債権の目的
第17回：強制履行・債務不履行（1）
第18回：強制履行・債務不履行（2）
第19回：損害賠償・受領遅滞
第20回：債権者代位権
第21回：詐害行為取消権
第22回：分割債務・不可分債務ほか
第23回：連帯債務
第24回：保証債務
第25回：債権譲渡
第26回：債務引受・契約譲渡
第27回：弁済
第28回：代物弁済・供託・相殺ほか
第29回：これまでの講義内容の総括
第30回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】
（予習）前もって、教科書に目を通しておいて下さい。
（復習）講義終了後に、教科書等の再読および条文の確認を行って下さい。復習することで民法の理解が深まります。

【テキスト】
スタートライン債権法 池田真朗　日本評論社
法学六法'17 石川明　他２名　信山社

【参考文献】
受講時に最新の六法を持参して下さい。六法については第１回の講義で指示します。
必要に応じて、参考資料を配布する予定です。

【コメント】
第15回の試験（35%）、第30回の試験（35%）および毎回の出席点（30%）で評価します。出席点については、講義毎のアンケートの提出（講義開始10分後に配布。遅刻者には配布しません）によって評価します。
なお、受講態度が悪いと判断した場合、全体的な成績評価より算出した点数から減点します（1回の判断につきマイナス10点）。

講　義　名　称	曜　時
ミクロ経済学　02＜春集＞	水3／金1

【教員名称】
西﨑　勝彦

【講義概要】
市場経済では財・サービスは市場で取引され，市場を通じて財・サービスが消費・分配・生産される．こうした消費・分配・生産の過程を分析するための学問がミクロ経済学である．ミクロ経済学は公共経済論や財政論，労働経済論，国際経済論，産業組織論といった経済学の応用分野の基礎となっている．この授業ではミクロ経済学の基礎について説明し，それに基づいて市場経済の仕組みについて考える．
この授業では，ミクロ経済学を構成する「均衡理論」と「ゲーム理論」による基本的な分析方法を説明する．説明はスライドを使った講義形式で行う（スライドは授業資料として出席者に配布する）．また，毎回の授業の残り20分ほどで課題（レポート）を提出してもらう（毎回の授業の最初に前回の課題を解説する）．

【学習目標】
(1) ミクロ経済学で使われている分析手法を習得する．
(2) 部分均衡理論・一般均衡理論がどのような環境で何を分析しようとしているのかを理解する．
(3) ゲーム理論がどのような環境で何を分析しようとしているのかを理解する．

【講義計画】
第１回：ミクロ経済学とは（ガイダンス）
第２回：需要と供給
第３回：需要曲線の構造
第４回：消費者行動と需要曲線
第５回：供給曲線の構造
第６回：短期費用曲線と長期費用曲線
第７回：生産者行動と供給曲線
第８回：市場と価格メカニズム
第９回：無差別曲線と効用
第10回：予算制約と消費者行動
第11回：所得の変化と需要
第12回：価格の変化と需要
第13回：生産関数と企業
第14回：費用最小化行動と費用曲線
第15回：利潤最大化行動
第16回：交換の利益
第17回：生産活動における資源配分
第18回：試験1および総括1
第19回：ミクロ経済学の展開
第20回：標準型ゲーム
第21回：最適反応とナッシュ均衡
第22回：囚人のジレンマ
第23回：クールノー競争
第24回：展開型ゲーム
第25回：後ろ向き帰納法と部分ゲーム完全均衡
第26回：部分ゲーム完全均衡とナッシュ均衡
第27回：空脅しとコミットメント
第28回：シュタッケルベルク競争
第29回：ゲーム理論の展開
第30回：試験2および総括2

【事前および事後学習の指示】
テキストに掲載されている演習問題に取り組むなどして，問題意識を持つことでミクロ経済学への理解を一層深めてもらいたい．

【テキスト】
ミクロ経済学 伊藤元重 978-4535552616 日本評論社 本書に基づいてスライドを作成し，それを授業資料として出席者に配布する．本書で不足している部分については，参考文献をもとに適宜補足する．

【参考文献】
伊藤元重，下井直毅（2007）『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社.
奥野正寛（2008）『ミクロ経済学』東京大学出版会.
梶井厚志，松井彰彦（2000）『ミクロ経済学－戦略的アプローチ－』日本評論社.

【コメント】
試験1を40%，試験2を40%として評価する．

講　義　名　称	曜　時
ミクロ経済学　03<秋集>	月1／木2

【教員名称】
矢根　眞二

【講義概要】
テーマ：入門 行動経済学：日常の現実と経済モデル
●２年生で学ぶミクロ経済学やマクロ経済学のモデルの核心は「合理的経済人」ですが、私たちの日常はいたって非合理で怠惰なうえ、失敗してもすぐに忘れて自信過剰な気がしませんか。このギャップと謎を解くために、ノーベル経済学賞受賞者による心理学的な文庫本を読み通し、行動経済学の基礎を学びます。

【学習目標】
第１に、大学での学習力の基礎として、科学的な仮説や実験に関する読みやすい文庫本を通読することで、自分の読解力と要約力に自信を持つこと、第２に、これまでの日常生活で無意識のうちに犯してきた不合理な判断ミスを自覚すること、第３に、これらのスキルや知見を今後の日常生活や経済学学習に活用することです。

【講義計画】
第１回：何を、なぜ、どう、学ぶ？　行動経済学と判断力
●ついつい私たちは物事を直感的に判断し、熟慮が必要な重大事でもその手間や努力を惜しんで失敗しがちです。さらに、本人が自分の判断ミスにも気づかず自信過剰のままであれば、同様の失敗を今後も繰り返すことになります。毎学期繰り返される「履修判断」も、就職や結婚と同じく重要な判断ですから、その重要な情報提供を初回に提供します。「我 事において 後悔せず」を目指して、将来を見据えたうえで「合理的に」判断・評価する練習を始めましょう。
第２回：「現実の自分」を知る？
第３回：２人の自分に気づくには？
第４回：熟慮様の機能とバイアスの原因
第５回：上機嫌な直感君には要注意
第６回：直感君が結論ありきの理由は？
第７回：ヒューリスティックの仕組は？
第８回：Review 学習法と理解度の自己診断
第９回：偶然が引き起こす愚かなバイアスとは？
第10回：利用可能性ヒューリスティックとは？
第11回：代表性ヒューリスティックとは？
第12回：統計は苦手？
第13回：バイアスを修正するには？
第14回：井戸端会議の改善と授業内試験（100点）予定日
第15回：総括：行動経済学から経済学へ

【事前および事後学習の指示】
上記の指定テキストの事前読解と、下記の教員サイトの授業スライドの問題練習が学習の基本です。
●経済学部教員サイト：http://rio.andrew.ac.jp/~yane/

【テキスト】
『ファスト ＆ スロー 』上巻 D.カーネマン　ハヤカワ文庫 Kindle版（アマゾン）も利用可能です

【参考文献】
経済学がそもそも幸福感の心理や倫理に根ざしていた点については、ロバーツ（2016）『スミス先生の道徳の授業』日本経済新聞社、行動経済学の史的展開については、セイラー（2016）『行動経済学の逆襲』早川、が図書館にある面白い読み物です。

【コメント】
初回に説明しますが、２回の試験の合計得点の６割以上が合格の原則ですから、テキストの事前読解やスライドの問題練習といった自己管理力を欠く方は注意して下さい。ただし、授業中の質問やQuiz等への積極的な参加を考慮する場合もあります。

講　義　名　称	曜　時
メディアと芸術表現－アメリカ映画　<通期>	火5

【教員名称】
中井　紀明

【講義概要】
アメリカ社会では「家」が劇的に変貌してきている。この変貌のもっとも大きな要因は第二次世界大戦後のアメリカ社会でのフェミニズムの展開と、奴隷制度の執拗な残滓である。「性」がセックス（生物学的性）ジェンダー（性役割）セクシャリティー（性嗜好）の三つに細分化され、フェミニストたちはこれら三つの観点から社会の様々な「制度」に徹底した見直しを提起してきた。結婚とか家なども本能に基づく生物学的な制度ではなくて、特定の社会において特定の文化によって作り上げられてきた制度であると主張した。ジェンダー（性役割）とセクシャリティー（性嗜好）の観点から同性婚に彼らは新たな社会的認知を求めてきている。この「性」以外に黒人の人たちの人種の問題などが絡み合ってアメリカの結婚、家の問題を激変させているのである。本年度は「同性婚の定着」（前期）「黒人差別で瓦解する黒人の家」（後期）という【問題】を設定して二つの問題を鋭く扱っている「問題映画」群を検証しながら我々のテーマ「アメリカの家の激変」を考えていく。

【学習目標】
本講義では激変するアメリカの家を映画作品で検証する。前期は同性婚による家、後期は黒人の人たちの家である。

【講義計画】
第１回：はじめに
Frank Capra, It’s a Wonderful Life, とWilliam Wyler, The Best Years of Our Lives（1946年）, 太平洋戦争直後のアメリカで「家」を護る人々を描く。この二作品を戦後の家の出発点とする。
It’s a Wonderful Life,（1）
第２回：It’s a Wonderful Life,（2）
作品の討議
第３回：The Best Years of Our Lives（1）
第４回：The Best Years of Our Lives（2）
作品の討議
第５回：Jonathan Demi, Philadelphia（1993年）, この作品は同性愛に対する偏見を描いていると思われているが、実は「同性愛からは子供ができないじゃないか」という同性愛に対する留保を提示した作品でもある。
第６回：Philadelphia（2）作品の討議
第７回：The Wachowski Brothers, Bound（1996）, 「家父長制度」の象徴としてのマフィアに対して完全と戦いを挑むレズビアンカプルを鮮やかに描く。
第８回：Bound（2）作品の討議
第９回：Stanley Kubrick, Eyes Wide Shut（1999）性に取り付かれた社会の中で、「家」崩壊の危機にさらされる異性愛カップルを描く。
第10回：Eyes Wide Shut（2）
第11回：Ann Heche, Women Love Women（2000年）, 40年に亘る三組の同性愛カップルを描く。1961年、法的には結婚とは認められないレズビアンカップルが一方の死によって家、財産を甥に奪われる。1972年、家をシェアするレズビアンたち、レズビアンたちとは一線を画してあくまでも男女の同権のみを追及する一派、そして性同一性障害のマッチョな「男」とレズビアンの女子学生の恋が描かれる。2000年、育児にかかわろうとするゲイカップルからの申し出を断り、精子バンクからのあとくされのない精子での妊娠で大喜びするレズビアンカップルをコミカルに描く。
第12回：Women Love Women（2）作品の討議
第13回：Lisa Cholodenko, The Kids are All Right（2010）, Women Love Women の第三話とは違い、精子バンクから同一人物の精子をそれぞれ受け入れて子供を作ったレズビアンカップルの家に、18歳になった長女の調査で判明した精子提供者「父親」が入り込んできて「母親」と性的関係を持ってしまい、それが女医である「主夫」にばれてしまう。同性愛カップルの家で「子供」が「生まれる」だけではなく「きちんと」育つのかということを扱った映画である。
第14回：The Kids are All Right（2）作品の討議
第15回：おわりに
第16回：Alex HaleyのRootsを映画化したRoots『ルーツ』1,2,3,4、（1977）とRichard Fleischer監督のMandingo『マンディンゴ』（1975）で、アフリカの家での家庭生活、社会生活からアメリカでの奴隷としての家庭生活、社会生活を見ていく。
第17回：奴隷制度の中での家（2）
第18回：奴隷制度の中での家（3）
第19回：奴隷制度の中での家（4）
第20回：奴隷制度の中での家（5）
第21回：奴隷制度の中での家（6）
第22回：Stnley Kramer監督の『招かれざる客』Guess Who’s Coming to Dinner（1967）（1）
第23回：Stnley Kramer監督の『招かれざる客』Guess Who’s Coming to Dinner（1967）（2）討議
第24回：Spike Lee 監督の『ドウ・ザ・ライト・シング』Do the Right Thing（1989）、『ジャングル・フィーバー』Jungle Fever,（2011）、『ボーイズン・ザ・フッド』Boyz n The Hood,（1991）（1）
第25回：Spike Lee 監督の『ドウ・ザ・ライト・シング』Do the Right Thing（1989）、『ジャングル・フィーバー』Jungle Fever,（2011）、『ボーイズン・ザ・フッド』Boyz n The Hood,（1991）（2）討議
第26回：Spike Lee 監督の『ドウ・ザ・ライト・シング』Do the Right Thing（1989）、『ジャングル・フィーバー』Jungle Fever,（2011）、『ボーイズン・ザ・フッド』Boyz n The Hood,（1991）（3）
第27回：Spike Lee 監督の『ドウ・ザ・ライト・シング』Do the Right Thing（1989）、『ジャングル・フィーバー』Jungle Fever,（2011）、『ボーイズン・ザ・フッド』Boyz n The Hood,（1991）（4）討議
第28回：Spike Lee 監督の『ドウ・ザ・ライト・シング』Do the Right Thing（1989）、『ジャングル・フィーバー』Jungle Fever,（2011）、『ボーイズン・ザ・フッド』Boyz n The Hood,（1991）（5）
第29回：Spike Lee 監督の『ドウ・ザ・ライト・シング』Do the Right Thing（1989）、『ジャングル・フィーバー』Jungle Fever,（2011）、『ボーイズン・ザ・フッド』Boyz n The Hood,（1991）（6）討議
第30回：おわりに

【事前および事後学習の指示】
作品を見る前にインターネットで監督について調べておくこと。
作品を見た後でインターネットで作品論を調べてクラスの討議に提供すること。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】
全ての講義の出席は当たり前。

講　義　名　称	曜　時
メディア文化特論－ドキュメンタリーを作る・観る・読む　<春集>	月３／月４

【教員名称】
鈴木　隆史

【講義概要】
阪神･淡路大震災から２２年を数えます。１９９５年は｢ボランティア元年｣ともいわれています。その後、１９９８年には、ＮＰＯ法（特定非営利活動促進法）も施行されました。ボランティア活動の内容も多様化しています。さまざまなプログラムや考え方を通し、市民主体の活動とはどのようなものかを考えます。

【学習目標】
ボランティア活動は、ある時期に行うということや、ある活動が正しいというようなことではありません。生活に根ざした活動、さまざまな活動を通しての価値観を自身のものにしていくことの大切さや姿勢が共有できるよう、進めていきたいと考えます。

【講義計画】
第１回：授業と評価のガイダンス（必ず出席してください）
第２回：ボランティア活動支援室から
第３回：ボランティア活動の原則①
第４回：ボランティア活動の原則②
第５回：これまでの大災害とボランティア活動
第６回：ワークショップ①
第７回：ボランティア活動と障がい者理解
第８回：ワークショップ②
第９回：ボランティア活動と高齢者理解
第10回：ワークショップ③
第11回：ボランティア活動と家族関係
第12回：国際ボランティア活動
第13回：企業の社会貢献、社会的責任
第14回：活動発表①
第15回：活動発表②

【事前および事後学習の指示】
ボランティア活動の内容や活動先の探索を心がけておきましょう。
自身の近隣のボランティアセンターを押さえておきましょう。
ボランティアに関する著書を調べておきましょう。

【テキスト】

【参考文献】
「福祉ボランティア」（朱鷺書房）
「ボランティア論」（みらい出版）

【コメント】
本授業は映像作品を観るため、基本的には2時間続けて行うことが多い。
遅刻は15分以上認めない。私語は注意をしてもやめない場合は強制退室をもとめる。その時は出席としてカウントしないのでそのつもりで。
映画を上映が始まった後の入室も不可。
毎回授業についてのレポートを提出すること。これが出席点としてカウントする。代筆は発見次第評価はしないの。
最終評価は最後に課題として出すレポートの提出による。また、授業期間中で上映中のドキュメンタリー映画を映画館で一本以上見ることを勧める。レポートへの記述のため。

講　義　名　称	曜　時
リハビリテーション論　<春>	金4

【教員名称】
福井　信佳

【講義概要】
WHO（世界保健機関）では健康の定義に霊的健康（スピリチュアルヘルス）を加えるべきか検討している。健康は単に病気や障がいがないことではなく、その人がどう考え、どう生きているか？が重要視されている。この世界的な潮流は我が国の医療・保健・福祉の分野において徐々に広がりつつある。さらに、高度な医療技術に伴う障がいの重度化および多様化、少子高齢社会や都市部への人口集中など、我が国特有の社会的背景も重なり、リハビリテーションの分野は大きな転換期を迎えている。本講義ではまず、「リハビリテーション」「健康」「障がい」などの基本的な考え方を確認した上で、身体障がい、精神障がい、発達障がいなどの各分野の現状を紹介し、リハビリテーションの今後のあり方について考察を深めていく。

【学習目標】
・リハビリテーションの概念、理念、定義及びその変遷を学ぶ
・リハビリテーションに携わる職種について理解する
・各分野のリハビリテーションの考え方がわかる
・各分野のリハビリテーションの現状と課題を整理する

【講義計画】
第１回：1，リハビリテーションの概念・理念・定義　－リハビリテーションとは何か－
第２回：2，健康と障害の概念と分類
第３回：3，リハビリテーションの過程
第４回：4，リハビリテーションの専門職
第５回：5，－チームアプローチ－
第６回：6，ＡＤＬ・ＩＡＤＬ・ＱＯＬの概念と評価
第７回：7，リハビリテーション医療の流れ（身体障がいを中心に）
1）急性期のリハビリテーション
第８回：2）回復期のリハビリテーション
第９回：3）維持期のリハビリテーション
第10回：4）終末期のリハビリテーション
第11回：8，各分野のリハビリテーション
1）精神障がいのリハビリテーション
第12回：2）現状と課題
第13回：3）知的障がいのリハビリテーション
第14回：4）現状と課題
第15回：9，まとめ

【事前および事後学習の指示】
・詳細は講義中に指示するが、積極的に参加してほしい。

【テキスト】

【参考文献】
入門　リハビリテーション概論　第6版　中村隆一編集　医歯薬出版株式会社
地域リハビリテーション原論　Vol.4　大田仁史著　医歯薬出版株式会社
図説　精神障害リハビリテーション　野中猛著　中央法規出版
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野　小児科学（第4版）　冨田豊編　医学書院

【コメント】

講　義　名　称	曜　時
倫理学　＜通期＞	金4

【教員名称】
木下　昌巳

【講義概要】
われわれは毎日生きていくなかで、誰もがさまざまな事柄に関して、「これは善いことだ」、「あれは悪いことだ」というような価値的判断を積み重ねながら生きてきる。しかし、その「善い・悪い」といった判断は、そもそもどのような根拠に基づいてなされているのだろうか。倫理学は、「善い・悪い」とは、そもそもどういうことなのか、さらに「幸福」とは何か、「正義」とは何か、というような問題を哲学的に探究する学問である。この講義では、倫理学における基本的な問題とその問題に対する代表的な考え方や立場を、いくつかの現代的なテーマを参照しながら解説する。

【学習目標】
この授業では、代表的な倫理思想を解説するとともに、安楽死、フェミニズム、動物実験というような現代盛んに論じられているトピックをも取り上げながら、それらの問題の背後にある根本的な価値のあり方を探り出し、倫理学の根本問題である「善と悪」、「正義と不正」というものの内容を考察して、人間の価値的判断の根本にあるさまざまな考え方を理解する。そのうえで、具体的な倫理的問題について、他者の言うことを鵜呑みにするのではなく、何が問題になっているのかを個々人が自らの力で理解して、各人が客観的で自立的な判断をする見識を養うことを目指す。

【講義計画】
第１回：「倫理学とはいかなる学問か」ということをあきらかにしながら、倫理学という学問の対象領域と問題意識を概説する。
第２回：道徳とはどういうことか①
倫理学への導入
第３回：道徳とはどういうことか②
医療における三つの現代的事例を巡って
第４回：文化相対主義の挑戦①
第５回：文化相対主義の挑戦②
第６回：倫理学における主観主義①
第７回：倫理学における主観主義②
第８回：道徳は宗教にもとづくか①
第９回：道徳は宗教にもとづくか②
第10回：社会契約説①
第11回：社会契約説②
第12回：倫理的利己主義
第13回：功利主義のアプローチ①
第14回：功利主義のアプローチ②
第15回：功利主義者をめぐる論争
第16回：絶対的規則はあるのか①
第17回：絶対的規則はあるのか②
第18回：カントの人格の尊重①
第19回：カントの人格の尊重②
第20回：フェミニズムとケアの倫理①
第21回：フェミニズムとケアの倫理②
第22回：フェミニズムとケアの倫理③
第23回：徳倫理①
第24回：徳倫理②
第25回：人権とは何か①
第26回：人権とは何か②
第27回：ニーチェの倫理思想①
「貴族道徳」と「奴隷道徳」
第28回：ニーチェの倫理思想②
「ルサンチマン」とは何か
第29回：現代の倫理学的問題
第30回：秋学期の講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】
授業前に授業回のテーマに対応するテキストの箇所を読んでおくこと。また授業後や休暇中に授業で取り上げた思想家の著作や授業で紹介した書物、インターネットの記事などのを自らすすんで読むことを強く望む。

【テキスト】
『新版・現実を見つめる道徳哲学』ジェームズ・レイチェルズ、スチュアート・レイチェルズ 9784771027619 晃洋書房 補助的にプリントを随時授業中に配布する。

【参考文献】
授業中に指示する。また、授業のテーマに関わりのある現代的なトピックを随時紹介していくので、インターネットなどを参照して各自その問題の内容を掘り下げて考えを深めていくようにしてほしい。

【コメント】
テストは、春学期と秋学期のテスト期間ににそれぞれ１回ずつ、計２回実施して、その成績を総合的に評価する。出席は毎回取らないが、不定期に授業の内容に関する小作文を授業中に書いてもらい、それを出席点として成績に加味する。

講　義　名　称	曜　時
臨床心理学A　＜春＞	月2

【教員名称】
岡井　哲明

【講義概要】
「臨床心理学」とは、心の健康を失いバランスを崩している人（精神的疾患を含む）に対する心理学的な治療実践から生まれた体系であり学問である。元々、人間の行動を科学する学問としての「心理学」から派生した分野であり、生涯にわたり人間を対象にしている。
現代は、落ち着きのない複雑な社会であり、どこに社会が向かおうとしているかが見えにくい。私たちを取り巻く環境は変転目まぐるしく、人々の心はそれに十分ついていけていない。心の病は誰でもが罹るのではないかと不安になるぐらい、もはやボーダレスに広がっており、心の置き場をどこに求めれば良いのかは現代に生きる人々の大きな課題となっている。
本講義では、無意識の概念を導入し、人間を無意識を含めた自律的な機能の総体としてとらえるフロイドの「精神分析療法」を中心に据えて展開する。
必要に応じて具体的な事例や社会現象を紹介する。

【学習目標】
臨床心理学の概要と各理論を学ぶことを通じて、人間の心に対する一層の理解を深め、悩める人への援助について関心を抱き、受講者自身が、今まで以上に人間に対する関心を深め、自分自身についてもしっかり考えるようになり、対人援助に向かおうとする今後の人生に役立てる契機となること。

【講義計画】
第１回：臨床心理学とは何か
臨床心理学の歴史
第２回：アセスメント（心理査定）
第３回：臨床心理学的地域援助
第４回：精神分析療法～フロイド①　フロイドの生涯
第５回：精神分析療法～フロイド②　精神分析の誕生
第６回：精神分析療法～フロイド③　無意識の意味
第７回：精神分析療法～フロイド④　局所論
第８回：精神分析療法～フロイド⑤　構造論
第９回：精神分析療法～フロイド⑥　夢判断
第10回：精神分析療法～フロイド⑦　性欲論と発達
第11回：精神分析療法～フロイド⑧　自我防衛機制
第12回：精神分析療法～フロイド⑨　フロイドの果たした思想・文化的役割
第13回：精神分析療法～治療方法の発達
第14回：精神分析療法～抵抗分析と転移分析
第15回：精神分析療法～フロイド以後（対象関係論など）

【事前および事後学習の指示】
詳細については、講義の中でその都度指示する。

【テキスト】

【参考文献】
講義の中でその都度指示する。

【コメント】
レポート：50%　授業への積極的な参加：50%

講　義　名　称	曜　時
臨床心理学B　＜秋＞	月2

【教員名称】
岡井　哲明

【講義概要】
「臨床心理学」とは、心の健康を失いバランスを崩している人（精神的疾患を含む）に対する心理学的な治療実践から生まれた体系であり学問である。元々、人間の行動を科学する学問としての「心理学」から派生した分野であり、生涯にわたり人間を対象にしている。
現代は、落ち着きのない複雑な社会であり、どこに社会が向かおうとしているかが見えにくい。私たちを取り巻く環境は変転目まぐるしく、人々の心はそれに十分ついていけていない。心の病は誰でもが罹るのではないかと不安になるぐらい、もはやボーダレスに広がっており、心の置き場をどこに求めれば良いのかは現代に生きる人々の大きな課題となっている。
本講義では、フロイドと並び無意識の概念を早くから臨床に導入し、人間の自律的かつ力動的な個性化の過程について、臨床経験と自身の内なる探求を通じて明らかにしたユングの「分析心理学」を中心に据えて展開する。
必要に応じて具体的な事例や社会現象を紹介する。

【学習目標】
臨床心理学の主要な理論や事例を通じて、人間の心に対する一層の理解を深め、悩める人への援助について関心を抱き、受講者自身が、今まで以上に人間に対する関心を深め、自分自身についてもしっかり考えるようになり、対人援助に向かおうとする今後の人生に役立てる契機となること。

【講義計画】
第１回：分析心理学～ユング①　ユングの生涯
第２回：分析心理学～ユング②　連想実験とコンプレックス
第３回：分析心理学～ユング③　影
第４回：分析心理学～ユング③　影
第５回：分析心理学～ユング④　イメージ、象徴、元型
第６回：分析心理学～ユング⑤　個人的無意識と普遍的無意識
第７回：分析心理学～ユング⑥　夢分析（夢の機能と構造）
第８回：分析心理学～ユング⑦　能動的想像
第９回：分析心理学～ユング⑧　ペルソナ
第10回：分析心理学～ユング⑨　アニマ
第11回：分析心理学～ユング⑨　アニマ
第12回：分析心理学～ユング⑩　アニムス
第13回：分析心理学～ユング⑪　自己（セルフ）と個性化の過程
第14回：分析心理学～ユング⑫　人間のタイプ
第15回：分析心理学～ユング⑬　共時性

【事前および事後学習の指示】
詳細については、講義の中でその都度指示する。

【テキスト】

【参考文献】
その都度配布する。

【コメント】
レポート：50%　授業への積極的な参加：50%

講　義　名　称	曜　時
歴史学－ヨーロッパ統合史　＜春集＞	火5 ／金5

【教員名称】
伊藤　カンナ

【講義概要】
ヨーロッパの主要な国々の政治・経済の現状と、それが成り立ってきた歴史をひも解くことで、ヨーロッパという地域について理解を深める。中心となるテーマは以下の通りです。①ヨーロッパにおける経済統合について、統一市場の形成や欧州連合（EU）の形成と拡大のプロセス、通貨統合（共通通貨ユーロの誕生）の過程と現状を知り、その意義を考える。②ヨーロッパ諸国の政治と経済について、広く基礎的な知識を習得する。③地域間経済協力、環境対策、労働問題、経済再生策などについて、ヨーロッパ諸国の基本的な考え方と、取り組みを理解する。

【学習目標】
今日我々が経済活動・社会生活を営んでいる市場経済システムや資本主義経済システムは、ヨーロッパを起源に形成されてきました。また、ヨーロッパ諸国は、第二次世界大戦後本格的に経済統合を推し進め、現在は「持続可能な社会」を目指した取り組みを模索しています。この講義では、ヨーロッパの歴史や文化、現代社会について知るとともに、EUの経験や取り組みから、今日、世界規模で進行する環境問題や格差拡大の問題や、地域間経済協力について考える有益な手掛かりを得ることを目標としています。

【講義計画】
第１回：イントロダクション
第２回：19世紀の世界経済：自由貿易体制
第３回：大恐慌と保護主義の台頭
第４回：世界大戦のインパクト（1）
第５回：世界大戦のインパクト（2）
第６回：ヨーロッパ統合はなぜ始まったのか
第７回：歴史から現代を考える①　領土問題
第８回：ヨーロッパ共同市場の形成
第９回：貿易自由化とは何か
第10回：歴史から現代を考える②　貿易自由化交渉
第11回：ヨーロッパ共通政策の形成
第12回：EUの農業保護
第13回：歴史から現代を考える③　EU統合とヨーロッパの農業国
第14回：歴史から現代を考える④　世界の食糧事情
第15回：総まとめ
第16回：イントロダクション
第17回：EUの制度と組織
第18回：歴史から現代を考える⑤　「欧州の首都」の悩み
第19回：EU統合への賛否
第20回：英国の選択
第21回：「福祉国家」と石油危機
第22回：スタグフレーションの克服
第23回：EU統合か、保護主義か
第24回：北欧諸国：持続可能な発展への挑戦
第25回：EU統合の深化（1）東方拡大
第26回：EU統合の深化（2）通貨統合
第27回：EU統合の深化（3）民族問題
第28回：ユーロのメリット・デメリット
第29回：イタリアに見るEU統合と経済構造の変化
第30回：総まとめ

【事前および事後学習の指示】
講義ではEUの経済統合の歴史を学ぶため、内容は経済学や経済史、世界史について多岐にわたる。それらの予備知識が十分でなくても理解できるような内容を心がけるが、予習･復習を毎回行わないと単位修得は困難である。また、英字新聞の記事も利用し確認テストも行うので、英語の学習には力を入れること。
現代社会と、それが抱える問題が、歴史的にどのような背景をもって生み出されてきたのかに興味・関心を持って授業に参加してください。

【テキスト】

【参考文献】
田中素香他『３版　現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ、2011年。遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会、2008年など。講義のテーマに合わせて、講義中に適宜紹介します。

【コメント】
初回の授業で講義の内容の説明、テスト・宿題の提示を行うので、授業開始時刻から必ず出席すること。（初回不参加もしくは遅刻の場合、再配布はしない）
授業では膨大な内容を学ぶので、毎回しっかり復習すること。不定期に小テスト・中間テストを実施する。
英語による情報収集力を養うために、英語ニュースを読む宿題や確認テストを行う予定である。

講　義　名　称	曜　時
歴史学－近代日本の歴史と戦争　＜秋集＞	火1 ／金3

【教員名称】
梅本　哲世

【講義概要】
この講義では、明治維新以後の近代日本における戦争の歴史について概観する。戦前の日本は、台湾出兵以来、日清戦争、日露戦争、第１次世界大戦、日中戦争、太平洋戦争など、多くの戦争を経験してきた。これらの戦争は、日本人のみならず、アジアの国々の多くの人びとに大きな苦難を与えた。アジア諸国との相互理解・友好の発展のために、私たちは過去のこのような戦争について深く学ぶ必要があるだろう。この講義がそのための一助となれば幸いである。テキストは使用せず、毎回レジュメを配布し、ビデオ教材もテーマに応じて利用する。

【学習目標】
戦前日本の戦争について、歴史学の現時点での到達点を踏まえて紹介し、これらの戦争について正確な理解をもつことをめざす。さらに、アジアの近隣各国としばしば問題となる「歴史認識」の違いについても、考える糸口を提供したい。歴史に興味を持つ多くの学生諸君の参加を歓迎する。

【講義計画】
第１回：はじめに－近代日本の「戦争」を学ぶ意味
第２回：「征韓論」と台湾出兵
第３回：日清戦争　その１
第４回：日清戦争　その２
第５回：日露戦争　その１
第６回：日露戦争　その２
第７回：日露戦争　その３
第８回：韓国併合
第９回：第1次世界大戦
第10回：ワシントン体制と軍縮、パリ不戦条約
第11回：満州事変　その１
第12回：満州事変　その２
第13回：日中戦争　その１
第14回：日中戦争　その２
第15回：日中戦争　その３
第16回：日独伊三国同盟
第17回：太平洋戦争　その１
第18回：太平洋戦争　その２
第19回：太平洋戦争　その３
第20回：太平洋戦争　その４
第21回：太平洋戦争　その５
第22回：大東亜共栄圏と大東亜会議
第23回：終戦工作とポツダム宣言
第24回：降伏と敗戦
第25回：極東国際軍事裁判
第26回：日本国憲法の制定
第27回：「歴史認識」について　その１
第28回：「歴史認識」について　その２
第29回：「歴史認識」について　その３
第30回：まとめ－戦争と平和について

【事前および事後学習の指示】
前回のレジュメを復習するとともに、講義予定のテーマについて指示する関連文献を読んでおくこと。

【テキスト】
テキストは使わない。レジュメを配布する。

【参考文献】
藤岡信勝他『日本人の歴史教科書』、自由社、2009年。
日中韓３国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史［第2版］』、高文研、2006年。
加藤陽子『それでも日本人は戦争を選んだ』、朝日出版社、2009年。
その他の関連文献については、講義のなかで紹介する。

【コメント】
学期末試験の成績を主とし、小テスト（2～3回程度）も判断の材料とする。学期末試験（90%）、小テスト（10%）の予定。ただし、受講生が多数で厳正な小テストができない場合、小テストを成績に含めない場合もある。

講　義　名　称	曜　時
歴史学－村と環境から考える地域史　＜秋集＞	月1 ／木2

【教員名称】
島田　克彦

【講義概要】
本学が立地する和泉市域と、隣接する堺や泉大津・高石を合わせ、泉州の北部＝泉北地域ととらえることができます。この授業ではこの泉北地域を素材に、前近代から近現代に至る地域史の展開を講義します。泉北地域は和泉山脈の山々に囲まれた谷あいの南部地域、丘陵とゆるやかな谷が織りなす中部地域、そして大阪湾に面した平野が広がる北部地域に至るまで、多様な地理的条件を持った諸地域を含んでいます。この授業では、こうした特徴ある諸地域において、歴史上の人々が自らの生存と生活をいかにして成り立たせてきたのかを考察します。その際の視点が、「村と環境」です。人々は自然環境や地形を所与のものとして受け止め、それに制約されて存立してきただけではなく、一方で環境に対して積極的に働きかけ、自らの生存や生活に適するように環境を作りかえてきました。そして人々の生活構築や支配、共同性の単位となったのが村なのです。授業では、このような人々の営みの全体を、泉北地域に豊かに残されてきた地域歴史資料や景観を手がかりに、歴史的・具体的に捉えていきます。なお現代日本における地域社会をめぐる動向についても適宜紹介し、地域を捉える視点を養っていきます。

【学習目標】
1．泉北地域が多様な自然・地理的環境を持つ諸地域から成り立つことを理解する。
2．泉北地域を構成する諸地域における、村の歴史的な形成過程を理解する。
3．泉北地域に生きた人々が、歴史の中で自然環境と密接な関係を形成していたことを理解する。
4．地域に残されてきた歴史資料や景観が、地域史を解明する手がかりとなることを理解する。
5．以上を総合して、地域史を解明するという知的営みの持つ意義を説明できるようになる。

【講義計画】
第１回：「村と環境から考える地域史」の開講にあたって
第１回目に授業の進め方、課題、評価の方法等について説明をするので、必ず出席すること。
第２回：泉北地域の地形と自然環境
第３回：泉北地域における人々の生活のはじまり（1）
第４回：泉北地域における人々の生活のはじまり（2）
第５回：古代の地域開発　―泉北地域における須恵器生産・古墳・条里制―（1）
第６回：古代の地域開発　―泉北地域における須恵器生産・古墳・条里制―（2）
第７回：古代から中世への展開
第８回：中世における地域開発（1）
第９回：中世における地域開発（2）
第10回：中世における槙尾寺・松尾寺の展開と地域社会（1）
第11回：中世における槙尾寺・松尾寺の展開と地域社会（2）
第12回：土地に刻まれた歴史（1）
第13回：土地に刻まれた歴史（2）
第14回：予備日
第15回：中間まとめ
第16回：泉北地域における中世社会の終焉（しゅうえん）
第17回：泉北地域における近世社会のはじまり（1）―近世における村の成立―
第18回：泉北地域における近世社会のはじまり（2）
第19回：近世村落の構造を考える（1）
第20回：近世村落の構造を考える（2）
第21回：中間まとめ
第22回：泉北地域と明治維新（1）
第23回：泉北地域と明治維新（2）
第24回：近代の泉北地域における綿織物業の展開
第25回：近代における農業生産基盤の開発（1）
第26回：近代における農業生産基盤の開発（2）
第27回：近代日本の軍隊・戦争と地域社会（1）
第28回：近代日本の軍隊・戦争と地域社会（2）
第29回：泉北地域における戦後社会の出発
第30回：全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】
初回の授業で進め方や評価方法について詳しく説明します。
配布される講義レジュメにしたがって復習することが大切です。
なお、授業の進行状況等により、内容を変更することがあります。

【テキスト】
使用しない。講義ごとにレジュメと参考資料を配布する。

【参考文献】
小葉田淳編集代表『堺市史続編』各巻、1971～1976年／泉大津市史編さん委員会編『泉大津市史』各巻、1981年／高石市史編纂会編『高石市史』各巻、1984～1989年／和泉市史編さん委員会編『和泉市の歴史１　横山と槙尾山の歴史』2005年／和泉市史編さん委員会編『和泉市の歴史２　松尾谷の歴史と松尾寺』2008年／和泉市史編さん委員会編『和泉市の歴史３　池田谷の歴史と開発』2011年／和泉市史編さん委員会編『和泉市の歴史４　信太山地域の歴史と生活』2015年

【コメント】
学期末試験40%、レポート（2回程度）30%、出席・平常点30%。
講義の最後に、その日の講義内容をまとめた小レポートを提出していただきます。この蓄積が平常の成績となります。試験では、受講生のみなさんが授業を通じて身につけた力を確認します。

講　義　名　称	曜　時
歴史学－大日本帝國の興亡　＜通期＞	月2

【教員名称】
望月　和彦

【講義概要】
本講では原敬の政党内閣成立から講和条約発効によるわが国の再独立までの40年間の歴史を論じる。この40年の間にわが国は「大正デモクラシー」と呼ばれる民主主義的な体制からいつの間にか軍国主義体制へ変貌し、戦争への道を突き進んでいった。しかしアメリカを初めとする連合国との戦争に敗れ、約7年間にわたって連合軍に占領されるという屈辱を味わった。昭和27年に再独立を獲得するが、果たしてこれでわが国が本当に独立国となったのかどうか議論のあるところである。この波瀾万丈ともいえる40年間の歴史を語るのは容易ではない。さまざまな政治的要因が歴史解釈に入り込んで統一的な歴史の説明を困難にしているからである。本講ではそのような政治的要因を明示しながらこの40年の歴史を説明する。私自身の立場については最初の講義で説明する。

【学習目標】
歴史を勉強するのは単なる懐古趣味からではない。複雑な状況の中で人はいかなる行動をすべきなのかについて、過去の行動を分析することを通じて学ぶこと、これが歴史を勉強する目的の一つである。また現在の私たちの置かれている状況を理解するためにはこれまでのいきさつ、すなわち歴史を知っておかねばならない。本講を受講すれば、歴史とは「過去に対する現在の政治である」ということがよく分かるであろう。

【講義計画】
第１回：導入　歴史の見方・考え方について
第２回：明治憲法体制（その1）
第３回：明治憲法体制（その2）
第４回：第1次世界大戦と原敬内閣の成立
第５回：ワシントン体制と原敬暗殺後の政治
第６回：関東大震災と護憲内閣の成立
第７回：護憲内閣の崩壊と昭和金融恐慌
第８回：田中内閣の内政と外交
第９回：浜口内閣の内政と外交
第10回：テロとクーデターの時代の幕開け
第11回：満州事変と十月事件
第12回：5・15事件と政党内閣の終焉
第13回：斎藤内閣の内政と外交
第14回：岡田内閣と天皇機関説事件
第15回：2・26事件
第16回：広田内閣と軍部の横暴
第17回：昭和前期における日本の安全保障政策
第18回：近衛内閣と中国との紛争
第19回：第2次世界大戦の勃発と日本の安全保障政策の変化
第20回：日米関係悪化
第21回：日米開戦への道
第22回：戦争の推移と戦時体制
第23回：戦争末期における講和の動き
第24回：ポツダム宣言、原爆投下、ソ連参戦
第25回：敗戦時の状況
第26回：対日占領の目的
第27回：憲法制定過程
第28回：いわゆる占領改革
第29回：朝鮮戦争の勃発と日本の再独立問題
第30回：まとめ　なぜ私たちはこのような状況に置かれているのか

【事前および事後学習の指示】
高校日本史の教科書または参考書で大正時代から講和条約までの歴史を復習しておくこと。

【参考文献】
プリントに示されている文献が参考文献となる。

【コメント】
本講の成績評価は2回の小テストとレポートで行う予定である。しかし受講者数により小テストが実施できない場合にはレポートと期間内試験のみで成績評価を行うことになる。

講　義　名　称	曜　時
連結会計論　＜春＞	木1

【教員名称】
柴　理梨亜

【講義概要】
企業投資に関する意思決定に不可欠な情報を提供するのが連結財務諸表である。その目的や利用、作成方法の基本を学ぶためにスライドを利用し、練習問題を実施しますが、教科書はその内容をしっかり理解するための予習と復習に利用することが不可欠。

【学習目標】
日本を代表する企業グループの情報は連結財務諸表によって開示される。その連結財務諸表を正しく読み取る力を身につけることが学習目標である。本講義を受講するにあたって、簿記、会計および財務諸表の基礎知識があることと同時に会計に興味があることが不可欠である。

【講義計画】
第１回：連結会計の概要
　　連結会計を理解するための前提となる簿記と会計の基礎知識
　　質問等による学生の基礎知識確認等
第２回：連結財務諸表を作成する理由、必要性等全般的な知識を取得
第３回：連結決算制度について。連結の範囲。
第４回：連結貸借対照表①　資本連結
第５回：連結貸借対照表②　再評価、税効果会計
第６回：連結財務諸表練習問題
　　２年度以降、子会社株式の追加購入等
第７回：連結損益計算書①
　　グループ内取引高と債権債務、未実現利益
第８回：連結損益計算書②　練習問題
第９回：連結株主資本等変動計算書
第10回：持分法
第11回：連結キャッシュ・フロー計算書①
第12回：連結キャッシュ・フロー計算書②
第13回：連結財務諸表の注記事項①
第14回：連結財務諸表の注記事項②　表示事例等
第15回：全体のまとめと復習

【事前および事後学習の指示】
・興味を持って取り組むこと。
・会計の専門分野であるため、基礎知識が不足している人は基礎を自分で復習すること。
・テキストを事前に読んでおくこと。
・テキストを暗記するのではなく、しっかり理解するまで繰り返し読むこと。
・必ず毎回授業の学習内容を復習すること。

【テキスト】
一番わかりやすい連結会計の教科書 TAC簿記検定講座（著）4-8132-6110-8 TAC出版

【参考文献】
連結会計基準

【コメント】
出席とともにクラスでの議論や質問に積極的に参加して答えることで最終の試験の成績につながるので、出席することはもちろんのこと、授業中の説明をしっかり理解することが不可欠。